

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-18265

(P2017-18265A)

(43) 公開日 平成29年1月26日(2017.1.26)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 6 3 F 7/02 (2006.01)	A 6 3 F 7/02 3 3 4	2 C 0 8 8
	A 6 3 F 7/02 3 0 4 D	

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 266 頁)

(21) 出願番号	特願2015-137893 (P2015-137893)	(71) 出願人	000148922
(22) 出願日	平成27年7月9日 (2015.7.9)		株式会社大一商会
		(72) 発明者	市原 高明
			愛知県北名古屋市沖村西ノ川1番地 株式
		(72) 発明者	附柴 亜弥
			愛知県北名古屋市沖村西ノ川1番地 株式
		(72) 発明者	山本 祥大
			愛知県北名古屋市沖村西ノ川1番地 株式
		(72) 発明者	後藤 聡
			愛知県北名古屋市沖村西ノ川1番地 株式
			株式会社大一商会内
		Fターム(参考)	2C088 AA51 BC12 BC54 EB78

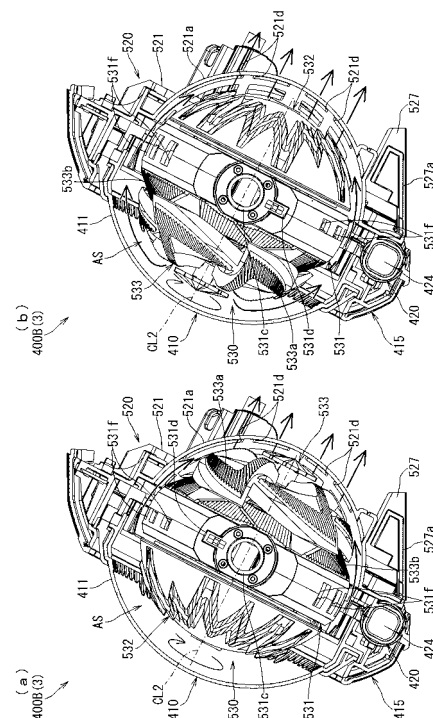
(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 駆動源からの熱による不具合を防止しつつ装飾を楽しませて遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供する。

【解決手段】 パチンコ機に、回転することで風を発生させ、所定の装飾が形成されている第二装飾面部533と、第二装飾面部533を回転させる演出操作ユニット第二駆動モータと、透明なボタンレンズ411を通して第二装飾面部533を前方から視認可能に覆っており、第二装飾面部533の回転により発生した風を誘導して演出操作ユニット第二駆動モータからの熱を逃す操作ボタン410と、を具備させる。

【選択図】 図92



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

可動することで風を発生させ、所定の装飾が形成されている送風装飾部と、
該送風装飾部を可動させる駆動源と、
透明な部位を通して前記送風装飾部を前方から視認可能に覆っており、該送風装飾部の可動により発生した風を誘導して前記駆動源からの熱を逃す誘導カバー部とを具備していることを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

10

【0001】

本発明は、ぱちんこ遊技機（一般的に「パチンコ機」とも称する）や回胴式遊技機（一般的に「パチスロ機」とも称する）等の遊技機に関するものである。

【背景技術】

【0002】

パチンコ機等の遊技機は、遊技者の操作によって遊技媒体が打込まれる遊技領域と、遊技領域内に植設されている複数の障害釘と、遊技領域内において遊技媒体を受入可能とされている受入口（一般入賞口、始動口、可変入賞口（可変始動口、大入賞口、役物入賞口）、V入賞口、等）と、を備えており、受入口に遊技媒体が受入れられると、遊技者に対して特典（遊技媒体の払出し、可変入賞口の開閉動作等の遊技者が有利となる有利遊技状態の発生、等）を付与し、遊技者を楽しませることができる。

20

【0003】

この種の遊技機として、所定の可動演出や発光演出が可能な装飾体を備え、遊技媒体の動きとは別に、装飾体による可動演出や発光演出によっても遊技者を楽しませられるようにしたものが知られている。ところで、装飾体は、所定の装飾が形成されている装飾部の他に、可動演出したり発光演出したりするための駆動源や光源が備えていることから、装飾体を用いた可動演出や発光演出を実行させると、駆動源や光源から熱が発生することとなるため、駆動源や光源から発生した熱により不具合が発生する虞があった。

【0004】

そこで、装飾体の装飾部として、回転する装飾部（装飾部）に複数のフィンを設け、装飾部が回転することでフィンが空気を攪乱させて、駆動源や光源（発光手段）からの熱を冷却させるようにした技術が提案されている（例えば、特許文献1）。

30

【0005】

しかしながら、特許文献1の技術では、駆動源や光源等に近い位置に装飾部（複数のフィン）を配置しているため、駆動源や光源が邪魔になることで装飾部の大きさや形状に制約が課せられてしまい、似たようなデザインとなることで替り映えのしない装飾部となり、装飾部の装飾により遊技者を十分に楽しませることができなくなることで、遊技者の興趣を低下させてしまう問題があった。

【先行技術文献】

【特許文献】

40

【0006】

【特許文献1】特開2011-115355号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

そこで、本発明は、上記の実情に鑑み、駆動源からの熱による不具合を防止しつつ装飾を楽しませて遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機の提供を課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0008】

手段1：遊技機において、

50

「可動することで風を発生させ、所定の装飾が形成されている送風装飾部と、
該送風装飾部を可動させる駆動源と、

透明な部位を通して前記送風装飾部を前方から視認可能に覆っており、該送風装飾部の
可動により発生した風を誘導して前記駆動源からの熱を逃す誘導カバー部と
を具備している」ものであることを特徴とする。

【0009】

ここで、所定の「装飾」としては、「遊技機のコンセプトに沿ったアイテムを模した装飾」、「遊技機のコンセプトに沿った絵柄や模様を模した装飾」、「遊技機のコンセプトに沿ったロゴを模した装飾」、「遊技機のコンセプトに沿ったキャラクタを模した装飾」、等が挙げられる。また、「送風装飾部」の形状としては、「遊技者側を向いた面が半球面形状」、「遊技者側を向いた面が多面体形状」、「遊技者側を向いた面が不定形の立体形状」、「遊技者側を向いた面が円筒面形状」、「遊技者側を向いた面が多角筒形状」、「遊技者側を向いた面が平面形状」、等が挙げられる。

【0010】

また、送風装飾部の「可動」としては、「遊技者側を向いた面に対して垂直に延びた軸線周りに回転するもの」、「遊技者側を向いた面に対して平行に延びた軸線周りに回転するもの」、「所定方向に延びた軸周りに回転するもの」、「所定方向に進退するもの」、「直線に沿ってスライドするもの」、「曲線に沿ってスライドするもの」、「上記の動きを適宜組合せたもの」、等が挙げられる。また、送風装飾部は、送風装飾部として形成されている装飾の一部が可動するものであっても良いし、装飾の全体が可動するものであっても良い。

【0011】

更に、「送風装飾部」としては、「駆動源により回転させられることで風を発生させる羽根状の部位を備えたもの」、「駆動源により揺動させられることで風を発生される団扇状の部位を備えたもの」、「駆動源により進退させられることで風を発生させるピストン状の部位を備えたもの」、「駆動源により膨張収縮させられることで風を発生させるふいご状の部位を備えたもの」、等が挙げられる。また、「送風装飾部」としては、「送風装飾部の面に対して垂直な方向へ風を発生させるもの」、「送風装飾部の面に対して平行な方向へ風を発生させるもの」、等が挙げられる。

【0012】

また、「駆動源」としては、「回転駆動させるもの（例えば、モータ、ロータリーソレノイド）、など」、「直線駆動させるもの（例えば、リニアモータ、ソレノイド、ピストン、等）」、等が挙げられる。

【0013】

更に、「誘導カバー部」としては、「遊技者が操作可能とされているもの」、「遊技媒体や遊技者の当接を防止するためのもの」、「所定の装飾が形成されているもの」、等が挙げられる。また、「誘導カバー部」の形状（表面形状）としては、「外方へ膨出した立体形状のもの」、「少なくとも外周縁付近が後方へ屈曲しているもの」、「平面形状のもの」、等が挙げられ、外周形状としては、「円形状」、「楕円形状」、「多角形状」、「ハート形やクローバ形のような不定形状のもの」、等が挙げられる。

【0014】

手段1の構成によると、遊技機に、可動することで風を発生させ、所定の装飾が形成されている送風装飾部と、送風装飾部を可動させる駆動源と、透明な部位を通して送風装飾部を前方から視認可能に覆っており、送風装飾部の可動により発生した風を誘導して駆動源からの熱を逃す誘導カバー部と、を備えるようにしたものである。

【0015】

これにより、誘導カバー部の透明な部位を通して見ることができる送風装飾部を、駆動源により可動させると、送風装飾部が所定の演出動作をすることとなり、送風装飾部の可動演出によって遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。この際に、送風装飾部を可動演出させるために駆動源を駆動させる

と、駆動源から熱が発生することとなる。そして、送風装飾部は、前方が誘導カバー部により覆われているため、駆動源からの熱が送風装飾部の前方へ逃げることはなく、誘導カバー部の後側に熱がこもり易くなるが、駆動源による送風装飾部の可動によって発生した風を、誘導カバー部の後面により後方へ誘導することで、その風に乗せて駆動源からの熱を誘導カバー部の後側から逃すことができ、外部に排出させることが可能となる。従って、駆動源やその付近（例えば、送風装飾部、誘導カバー部、他の部材、等）の温度の上昇を抑制させることができ、熱による不具合の発生を防止することができると共に、不具合の発生による遊技の中断により、遊技者に対して不快感を与えてしまうのを防止することができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【0016】

10

また、誘導カバー部によって送風装飾部の可動により発生した風を誘導して駆動源からの熱を逃がして排出させることができることから、送風装飾部から離れた位置に駆動源を配置することが可能となるため、駆動源を送風装飾部の邪魔になり難くすることができ、送風装飾部の装飾（形状）の設計自由度を高めることができる。従って、所望の装飾効果を発揮する見栄えの良い送風装飾部とすることができ、遊技者に送風装飾部の装飾や可動演出をより楽しませて、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【0017】

また、駆動源により可動する送風装飾部を、誘導カバー部で覆っているため、可動している送風装飾部に、遊技媒体や他の部材、或いは、遊技者等が、前側から接触することで不具合が発生するのを防止することができ、不具合の発生による遊技の中断により遊技者に不快感を与えて興趣を低下させてしまうのを回避させることができる。

20

【0018】

なお、送風装飾部を駆動源により回転させるようにすることが望ましい。これにより、送風装飾部の回転により発生する風が一定の流れとなり易く、誘導カバー部によって誘導し易くなるため、駆動源からの熱を効果的に逃して外部に排出させられる位置へ、風を連続的に誘導させることが可能となり、熱の排出効率をより高めることができ、熱による不具合の発生を確実に防止することができる。また、この場合、送風装飾部の大きさに対して、誘導カバー部を含む送風装飾部の可動にかかるスペースの増加を可及的に小さくすることが可能となるため、相対的に、他の装飾部を大きくしたり、送風装飾部の配置自由度を高めたりすることができる。従って、送風装飾部に加えて、他の装飾部や演出部材等をバランス良く配置できるようになるため、遊技機全体の見栄えを良くすることができ、遊技者に対する訴求力を高めることができる。また、装飾効果や演出効果を十分に発揮させられる位置に送風装飾部を配置できるようになるため、送風装飾部の装飾や可動演出を遊技者に楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

30

【0019】

また、誘導カバー部の少なくとも外周縁付近を、後方へ屈曲させるようにすることが望ましい。これにより、駆動源により送風装飾部を回転させた時に、例えば、送風装飾部から前方へ向かう風が発生する場合、その風が、送風装飾部の前方を覆っている誘導カバー部の後面に当接し、誘導カバー部の面に沿って外周縁側へ流れる（誘導される）こととなる。そして、誘導カバー部の外周縁側へ誘導された風は、外周縁付近の後方へ屈曲している部位により、その流れが後方へと誘導され、送風装飾部の外周外側を通して送風装飾部よりも後側へ流れる（誘導される）こととなる。或いは、送風装飾部から後方へ向かう風が発生する場合、送風装飾部の前方、詳しくは、送風装飾部と誘導カバー部との間の空間が、負圧となるため、送風装飾部よりも後側の空気が、送風装飾部の外周外側を通った上で、誘導カバー部の外周縁付近の後方へ屈曲している部位により、誘導カバー部の中央側へと誘導され、送風装飾部と誘導カバー部との間の空間へ流れる（誘導される）こととなる。このように、送風装飾部の可動により発生する風をスムーズに誘導することができ、駆動源からの熱を逃して外部へ排出させ易くすることができる。

40

【0020】

50

更に、誘導カバー部を、遊技者が操作可能とするようにしても良く、本遊技機を前方から見ると、遊技者が操作可能な誘導カバー部の透明な部位を通して送風装飾部が見えるため、送風装飾部によって誘導カバー部内の見栄えを良くすることができる。そして、駆動源により送風装飾部を可動させると、誘導カバー部の透明な部位を通して遊技者に可動演出を見せることができるため、遊技者の関心を送風装飾部に強く引付けさせることができる。遊技者に送風装飾部による可動演出を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。この際に、駆動源による送風装飾部の可動により発生した風を、誘導カバー部によって誘導することで、駆動源からの熱を逃して外部へ排出させることができるため、誘導カバー部の後側において熱のこもりを抑制して温度の上昇を低減させることができ、熱による不具合の発生を良好に防止することができると共に、不具合の発生による遊技の中断により、遊技者に対して不快感を与えてしまうのを防止することができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。また、誘導カバー部を、遊技者が操作可能とした場合、上述したように、遊技者の関心を送風装飾部に引付けさせることができることから、透明な部位を通して送風装飾部が見える誘導カバー部に対しても遊技者の関心を強く引付けさせることができる。そして、遊技者が操作可能な誘導カバー部を通して見える送風装飾部が可動していることで、遊技者に対して誘導カバー部を操作すると、何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技者に対して誘導カバー部の操作を促すことができる。従って、遊技者参加型演出を実行した時に、駆動源により送風装飾部を可動させることで、遊技者に対して誘導カバー部の操作を促すことができるため、遊技者に対して誘導カバー部を操作させることができ、遊技者参加型演出に遊技者を確実に参加させることができると共に、遊技者参加型演出を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

10

20

【0021】

また、送風装飾部を発光装飾させる送風装飾部発光手段を備えるようにしても良く、これにより、送風装飾部を発光装飾させることができるため、送風装飾部の発光装飾により、遊技者の関心を送風装飾部に強く引付けさせて注目させることができ、駆動源による送風装飾部の可動演出を確実に見せて楽しませることができる。この際に、送風装飾部の可動により発生した風を、誘導カバー部により誘導して駆動源からの熱を逃して外部に排出させるようにしているため、送風装飾部発光手段からの熱も排出させることが可能となり、誘導カバー部の後側で熱がこもることによる温度の上昇を抑制させることができ、熱による不具合の発生を防止することができる。

30

【0022】

また、送風装飾部及び駆動源が取付けられている駆動源ベースと、駆動源ベースを誘導カバー部が向いている方向と直交する方向に延びた回転軸線周りに回転可能に取付けていると共に、誘導カバー部が取付けられているユニットベースと、ユニットベースに取付けられ、駆動源ベースを回転軸線周りに回転させる回転手段と、回転軸線を中心として送風装飾部と周方向に離間して駆動源ベースに取付けられ、所定の装飾が形成されている装飾面部と、を更に備えるようにしても良い。これにより、回転手段によりユニットベースに取付けられている駆動源ベースを回転軸線周りに回転させると、遊技者側へ装飾面部を向けたり送風装飾部を向けたりすることができ、遊技者側から見える装飾を切替えることができる。そして、送風装飾部は、駆動源により可動させることができるため、駆動源による送風装飾部の可動と、回転手段による駆動源ベースの回転（送風装飾部と装飾面部との切替え）とを適宜組合せることで、多彩な可動演出を遊技者に見せることができ、遊技者を飽きさせ難くすることができると共に、楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。この場合、装飾面部が、駆動源により可動させられるようにすることが望ましく、送風装飾部を可動させるために駆動源を駆動させると、装飾面部が所定の動きで可動するため、装飾面部を可動させるための駆動源を別に備える必要がない。また、駆動源により装飾面部を可動させることができることから、遊技者に対して装飾面部の可動演出も楽しませることができるため、より多彩な演出を遊技者に見せることができ、遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。また、この場

40

50

合、送風装飾部、駆動源、及び装飾面部の回転範囲の後側を覆うようにユニットベースに取付けられ、複数の換気口が貫通している後カバー部を、更に備えるようにしても良い。これにより、送風装飾部、駆動源、及び装飾面部の回転範囲の後側を後カバー部で覆っているため、駆動源により可動させられている送風装飾部や、回転手段により駆動源ベースを介して回転軸線周りに回転している送風装飾部及び装飾面部に、他の部材が接触するのを回避させることができ、送風装飾部や装飾面部、及び他部材等の破損を防止することができる。また、この場合、後カバー部には、複数の換気口が形成されているため、送風装飾部により発生し、誘導カバー部によって後側へ誘導された風を、複数の換気口を通して後カバー部の後方へ排出させることができるため、駆動源からの熱を誘導カバー部と後カバー部とで囲まれた空間から逃して良好に外部へ排出させることができ、駆動源の温度上昇による不具合の発生を防止することができる。

10

【0023】

手段2：手段1の構成において、

「前記送風装飾部は、

前記駆動源により回転させられる」ものであることを特徴とする。

【0024】

ここで、回転させられる「送風装飾部」としては、「誘導カバー部の面に対して垂直に延びた軸線周りに回転させられるもの」、「誘導カバー部の面に対し平行に延びた軸線周りに回転させられるもの」、等が挙げられる。なお、誘導カバー部の「面」としては、「誘導カバー部が向いている方向に対して垂直に延びている面」、「誘導カバー部の外周縁により形成される面」、等が挙げられる。

20

【0025】

また、駆動源と送風装飾部との関係としては、「駆動源からの回転駆動を、複数のギアを介して回転させるもの」、「駆動源からの回転駆動を、プーリ及びベルトを介して回転させるもの」、「駆動源からの直線駆動を、ラックギア及びピニオンギアを介して回転させるもの」、「駆動源からの直線駆動を、クランクを介して回転させるもの」、等が挙げられる。

【0026】

ところで、送風装飾部として、揺動により風を発生させる団扇状の部材としたり、進退により風を発生させるピストン状の部材としたりした場合、送風装飾部が揺動したり進退したりするためのスペースを確保する必要があることから、誘導カバー部を含む送風装飾部にかかるスペースが広がる。そのため、他の装飾部や演出部材等を配置するためのスペースが相対的に狭くなることで、遊技機全体の見栄え（バランス）が悪くなり、遊技者に対する訴求力が低下してしまう虞がある。また、送風装飾部にかかるスペースが広がることで、遊技機における送風装飾部の配置自由度が低下してしまい、送風装飾部の効果的な位置への配置が困難となることで、送風装飾部による装飾効果や演出効果を十分に発揮させることができなくなる虞がある。

30

【0027】

手段2の構成によると、送風装飾部を、駆動源により回転させられるようにしたものである。

40

【0028】

これにより、送風装飾部を駆動源により回転させるようにしているため、送風装飾部の大きさに対して、誘導カバー部を含む送風装飾部の可動にかかるスペースの増加を可及的に小さくすることができる。相対的に、他の装飾部を大きくしたり、送風装飾部の配置自由度を高めたりすることができる。従って、送風装飾部に加えて、他の装飾部や演出部材等をバランス良く配置できるようになるため、遊技機全体の見栄えを良くすることができ、遊技者に対する訴求力を高めることができる。また、装飾効果や演出効果を十分に発揮させられる位置に送風装飾部を配置できるようになるため、送風装飾部の装飾や可動演出を遊技者に楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

50

【0029】

また、送風装飾部を回転させるようにしていることから、送風装飾部の回転により発生する風が一定の流れとなり易く、誘導カバー部によって誘導し易くなるため、駆動源からの熱を効果的に逃して外部に排出させられる位置へ、風を連続的に誘導させることが可能となり、熱の排出効率をより高めることができ、熱による不具合の発生を確実に防止することができる。

【0030】

更に、駆動源を駆動させると、送風装飾部が回転する可動演出を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。詳述すると、送風装飾部を、誘導カバー部の面に対して垂直に延びた軸線周りに回転させるようにした場合は、遊技者側を向いた面の全体が見えているままの状態、送風装飾部がその中央付近を中心としてグルグル回転するような可動演出を遊技者に見せることができるため、目が回るような可動演出により遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技者の遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。また、送風装飾部を、誘導カバー部の面に対して平行に延びた軸線周りに回転させるようにした場合は、送風装飾部の回転により、遊技者側を向いている面が回転方向へ移動して見えなくなると共に、遊技者側を向いていなかった面が回転方向へ移動してきて見えるようになるため、遊技者側から見える装飾（送風装飾部の部位）を変化させることができ、多彩な装飾を見せることで遊技者を飽きさせ難くすることができると共に、送風装飾部の回転を停止させた時にどの装飾の部位を遊技者側に向けて停止するのかで、遊技者をワクワク・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【0031】

なお、送風装飾部の回転中心を、送風装飾部の中心（中央）と一致させることが望ましく、上述した作用効果を確実に発揮させることができる。

【0032】

手段3：手段1又は手段2の構成において、

「前記誘導カバー部は、

少なくとも外周縁付近が後方へ屈曲している」ものであることを特徴とする。

【0033】

手段3の構成によると、誘導カバー部の少なくとも外周縁付近を、後方へ屈曲させるようにしたものである。

【0034】

これにより、駆動源により送風装飾部を回転させた時に、例えば、送風装飾部から前方へ向かう風が発生する場合、その風が、送風装飾部の前方を覆っている誘導カバー部の後面に当接し、誘導カバー部の面に沿って外周縁側へ流れる（誘導される）こととなる。そして、誘導カバー部の外周縁側へ誘導された風は、外周縁付近の後方へ屈曲している部位により、その流れが後方へと誘導され、送風装飾部の外周外側を通して送風装飾部よりも後側へ流れる（誘導される）こととなる。或いは、送風装飾部から後方へ向かう風が発生する場合、送風装飾部の前方、詳しくは、送風装飾部と誘導カバー部との間の空間が、負圧となるため、送風装飾部よりも後側の空気が、送風装飾部の外周外側を通った上で、誘導カバー部の外周縁付近の後方へ屈曲している部位により、誘導カバー部の中央側へと誘導され、送風装飾部と誘導カバー部との間の空間へ流れる（誘導される）こととなる。このように、送風装飾部の可動により発生する風をスムーズに誘導することができ、駆動源からの熱を逃して外部へ排出させ易くすることができる。

【0035】

手段4：手段1から手段3までの何れか一つの構成において、

「前記誘導カバー部は、

遊技者が操作可能とされている」ものであることを特徴とする。

【0036】

ここで、「操作可能」としては、「遊技者が押圧操作するもの」、「遊技者がタッチ操作するもの」、「遊技者が回転操作するもの」、等が挙げられる。

【0037】

ところで、遊技機に、遊技者が操作可能な操作ボタンを備え、遊技者参加型演出が実行された時に、遊技者に操作ボタンを操作させることで、その演出に参加させて楽しませられるようにしたものが提案されている（例えば、特開2013-169251号公報）。しかしながら、この従来の遊技機では、操作ボタンが、内部に備えられているLEDにより発光するだけであるため、装飾性に乏しく、遊技者によっては早期に操作受部の装飾に飽きて操作ボタンに対する関心が薄れてしまい、操作ボタンを操作する遊技者参加型演出を十分に楽しむことができず、遊技者の遊技に対する興味が低下してしまう問題があった。

10

【0038】

手段4の構成によると、誘導カバー部を、遊技者が操作可能とするようにしたものである。

【0039】

これにより、本遊技機を前方から見ると、遊技者が操作可能な誘導カバー部の透明な部位を通して送風装飾部が見えるため、送風装飾部によって誘導カバー部内の見栄えを良くすることができる。そして、駆動源により送風装飾部を可動させると、誘導カバー部の透明な部位を通して遊技者に可動演出を見せることができるため、遊技者の関心を送風装飾部に強く引付けさせることができ、遊技者に送風装飾部による可動演出を楽しませて興味の低下を抑制させることができる。この際に、駆動源による送風装飾部の可動により発生した風を、誘導カバー部によって誘導することで、駆動源からの熱を排出させることができるため、誘導カバー部の後側において熱のこもりを抑制して温度の上昇を低減させることができ、熱による不具合の発生を良好に防止することができると共に、不具合の発生による遊技の中断により、遊技者に対して不快感を与えてしまうのを防止することができ、遊技者を楽しませて興味の低下を抑制させることができる。

20

【0040】

また、上述したように、遊技者の関心を送風装飾部に引付けさせることができることから、透明な部位を通して送風装飾部が見える誘導カバー部に対しても遊技者の関心を強く引付けさせることができる。そして、遊技者が操作可能な誘導カバー部を通して見える送風装飾部が可動していることで、遊技者に対して誘導カバー部を操作すると、何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技者に対して誘導カバー部の操作を促すことができる。従って、遊技者参加型演出を実行した時に、駆動源により送風装飾部を可動させることで、遊技者に対して誘導カバー部の操作を促すことができるため、遊技者に対して誘導カバー部を操作させることができ、遊技者参加型演出に遊技者を確実に参加させることができると共に、遊技者参加型演出を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興味の低下を抑制させることができる。

30

【0041】

なお、遊技者が操作可能な誘導カバー部として、遊技者が押圧操作するもの（操作ボタン）を採用した場合、誘導カバー部の押圧移動により、誘導カバー部の後側の空間が換気されるようにすることが望ましく、これによっても、誘導カバー部の後側において熱のこもりを抑制させることができ、温度上昇による不具合の発生を防止することができる。

40

【0042】

手段5：手段1から手段4までの何れか一つの構成において、

「前記送風装飾部を発光装飾させる送風装飾部発光手段を更に具備している」ものであることを特徴とする。

【0043】

ここで、「送風装飾部発光手段」としては、「LED（単色LED、フルカラーLED、高輝度LED、等）」、「有機EL」、「白熱灯」、「ネオン灯」、「冷陰極管」、等が挙げられる。

50

【0044】

手段5の構成によると、遊技機に、送風装飾部を発光装飾させる送風装飾部発光手段を更に備えるようにしたものである。

【0045】

これにより、送風装飾部を発光装飾させることができるため、送風装飾部の発光装飾により、遊技者の関心を送風装飾部に強く引付けさせて注目させることができ、駆動源による送風装飾部の可動演出を確実に見せて楽しませることができる。この際に、送風装飾部の可動により発生した風を、誘導カバー部により誘導して駆動源からの熱を逃して外部に排出させるようにしているため、送風装飾部発光手段からの熱も一緒に逃して外部に排出させることが可能となり、誘導カバー部の後側で熱がこもることによる温度の上昇を抑制させることができ、熱による不具合の発生を防止することができる。

10

【0046】

手段6：手段1から手段5までの何れか一つの構成において、

「前記送風装飾部及び前記駆動源が取付けられている駆動源ベースと、

該駆動源ベースを前記誘導カバー部が向いている方向と直交する方向に延びた回転軸線周りに回転可能に取付けていると共に、前記誘導カバー部が取付けられているユニットベースと、

該ユニットベースに取付けられており、前記駆動源ベースを前記回転軸線周りに回転させる回転手段と、

前記回転軸線を中心として前記送風装飾部と周方向に離間して前記駆動源ベースに取付けられており、所定の装飾が形成されている装飾面部とを更に具備している」ものであることを特徴とする。

20

【0047】

ここで、「駆動源ベース」としては、「駆動源が内部に取付けられる箱状のもの」、「駆動源が一方の面に取付けられる平板状のもの」、「駆動源が外部に取付けられる箱状のもの」、等が挙げられる。

【0048】

また、「回転手段」としては、「モータの回転を複数のギアにより伝達させて駆動源ベースを回転させるもの」、「ソレノイドやピストンの進退をクランク又はラックギアにより伝達させて駆動源ベースを回転させるもの」、等が挙げられる。また、「回転手段」としては、「所定の角度範囲内でのみ回転させもの」、「グルグルと無限に回転させるもの」、等が挙げられる。

30

【0049】

更に、装飾面部の所定の「装飾」としては、「遊技機のコセプトに沿ったアイテムを模した装飾」、「遊技機のコセプトに沿った絵柄や模様を模した装飾」、「遊技機のコセプトに沿ったロゴを模した装飾」、「遊技機のコセプトに沿ったキャラクタを模した装飾」、等が挙げられる。また、「装飾面部」の形状としては、「遊技者側を向いた面が半球面形状」、「遊技者側を向いた面が多面体形状」、「遊技者側を向いた面が不定形の立体形状」、「遊技者側を向いた面が円筒面形状」、「遊技者側を向いた面が多角筒形状」、「遊技者側を向いた面が平面形状」、等が挙げられる。更に、「装飾面部」は、可動させられるものであっても良いし、可動させられないものであっても良い。

40

【0050】

手段6の構成によると、遊技機に、送風装飾部及び駆動源が取付けられている駆動源ベースと、駆動源ベースを誘導カバー部が向いている方向と直交する方向に延びた回転軸線周りに回転可能に取付けていると共に、誘導カバー部が取付けられているユニットベースと、ユニットベースに取付けられており、駆動源ベースを回転軸線周りに回転させる回転手段と、回転軸線を中心として送風装飾部と周方向に離間して駆動源ベースに取付けられており、所定の装飾が形成されている装飾面部と、を更に備えるようにしたものである。

【0051】

これにより、回転手段によりユニットベースに取付けられている駆動源ベースを回転軸

50

線周りに回転させると、遊技者側へ装飾面部を向けたり送風装飾部を向けたりすることができ、遊技者側から見える装飾を切替えることができる。そして、送風装飾部は、駆動源により可動させることができるため、駆動源による送風装飾部の可動と、回転手段による駆動源ベースの回転（送風装飾部と装飾面部との切替え）とを適宜組合せることで、多彩な可動演出を遊技者に見せることができ、遊技者を飽きさせ難くすることができると共に、楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【0052】

多彩な可動演出の具体例としては、例えば、回転手段により駆動源ベースを回転軸線周りに回転させた状態で、送風装飾部及び装飾面部の何れか一方を遊技者側へ向けて回転停止させた後に、送風装飾部を遊技者側へ向けた時には駆動源により送風装飾部を可動させる。これにより、駆動源ベースが回転軸線周りに回転することで、遊技者側から送風装飾部と装飾面部とが交互に見える状態となるため、遊技者に対して何れが遊技者側へ向けて停止するか否かで、ワクワク・ドキドキさせることができ、そして、回転手段による回転が停止した後に、遊技者側を向いている送風装飾部が駆動源により可動すると、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。

【0053】

或いは、駆動源により送風装飾部を可動させたまま、回転手段により駆動源ベースを回転軸線周りに回転させた状態で、送風装飾部及び装飾面部の何れか一方を遊技者側へ向けて回転停止させた上で、送風装飾部が遊技者側へ向けられている時には駆動源による送風装飾部の可動を停止させる。これにより、当初の状態では、送風装飾部が可動していると共に、送風装飾部及び装飾面部が回転軸線周りに回転していることから、遊技者側からは送風装飾部や装飾面部の装飾を明確に認識することができないため、遊技者に対して回転軸線周りに回転している送風装飾部や装飾面部をよく見ようと注目させることができる。そして、駆動源ベースの回転軸線周りの回転が停止した後に、送風装飾部の可動が停止すると、遊技者側を向いている送風装飾部又は装飾面部の装飾を明確に認識することができ、その装飾を楽しませることができる。

【0054】

更には、駆動源により送風装飾部を可動させたまま、回転手段により駆動源ベースを回転軸線周りに回転させて、送風装飾部と装飾面部との間の部位を誘導カバー部側（前方）へ向けた状態で停止させたり、その状態を中心として回転軸線周りに対して所定角度範囲内で往復回転させたり、した後に、駆動源ベースを回転軸線周りに回転させて送風装飾部又は装飾面部の何れかを前方へ向けた上で駆動源による可動を停止させる。これにより、可動している送風装飾部と装飾面部の夫々の側面が見えることで、夫々を正面から見た場合とは違う雰囲気演出（装飾）を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませることができる。そして、送風装飾部又は装飾面部が前方（遊技者側）を向いて停止することで、遊技者側を向いている送風装飾部又は装飾面部の装飾を明確に認識することができ、その装飾を楽しませることができる。

【0055】

また、回転手段により駆動源ベースを回転軸線周りに回転させることで、遊技者側へ向ける装飾を、送風装飾部又は装飾面部の何れかに切替えることができるため、それらの装飾に対して、プレミアム感の異なる装飾を採用した場合、回転手段による駆動源ベースの回転軸線周りの回転により遊技者側に向けさせた装飾（送風装飾部又は装飾面部）により、遊技者に対して遊技者が有利となる有利遊技状態（例えば、「大当たり遊技」）が発生する割合や信頼度、或いは、発生する有利遊技状態の種類（例えば、「ラウンド数」）等を示唆させることができる。従って、回転手段により駆動源ベースを回転軸線周りに回転させることで、遊技者に対して所望の装飾を備えた送風装飾部又は装飾面部（プレミアム感の高い装飾を有している方）が、遊技者側を向いて停止するか否かで、ハラハラ・ドキドキさせて期待感を高めさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【0056】

手段7：手段6の構成によると、

「前記装飾面部は、

前記駆動源により可動させられる」ものであることを特徴とする。

【0057】

ここで、装飾面部の「可動」としては、「誘導カバー部の面に対して垂直に延びた軸線周りに回転するもの」、「誘導カバー部の面に対して平行に延びた軸線周りに回転するもの」、「所定方向に延びた軸周りに回転するもの」、「所定方向に進退するもの」、「直線に沿ってスライドするもの」、「曲線に沿ってスライドするもの」、「上記の動きを適宜組合せたもの」、等が挙げられる。また、装飾面部は、装飾面部として形成されている装飾の一部が可動するものであっても良いし、装飾の全体が可動するものであっても良い。

10

【0058】

手段7の構成によると、装飾面部が、駆動源により可動させられるものである。

【0059】

これにより、送風装飾部を可動させるために駆動源を駆動させると、装飾面部が所定の動きで可動するため、装飾面部を可動させるための駆動源を別に備える必要がない。また、駆動源により装飾面部を可動させることができることから、遊技者に対して装飾面部の可動演出も楽しませることができるため、より多彩な演出を遊技者に見せることができ、遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。

20

【0060】

手段8：手段6又は手段7の構成において、

「前記駆動源ベースは、

外周面に貫通している複数の通気孔が形成された箱状とされており、内部に前記駆動源が取付けられている」ものであることを特徴とする。

【0061】

手段8の構成によると、駆動源ベースを、外周面に貫通している複数の通気孔が形成された箱状とし、内部に駆動源を取付けるようにしたものである。

【0062】

これにより、送風装飾部を可動させる駆動源を、箱状の駆動源ベースの内部に取付けていることから、駆動源ベースを回転軸線周りに回転させても、外側から駆動源が見えないように隠すことができるため、駆動源が見えることで見栄えが悪くなるのを防止することができ、誘導カバー部の透明な部位を通して見える装飾（送風装飾部や装飾面部）の見栄えを良くして遊技者を楽しませることができる。また、箱状の駆動源ベースの外周面に、複数の通気孔を形成しているため、内部に取付けられた駆動源による熱を、複数の通気孔を通して駆動源ベースの外部に放出させることができ、駆動源の温度上昇を抑制して熱による不具合の発生を防止することができる。

30

【0063】

手段9：手段6から手段8までの何れか一つの構成において、

「前記駆動源ベースに取付けられており、前記装飾面部を発光装飾させる装飾面部発光手段を、更に具備しており、

40

前記送風装飾部発光手段は、

前記駆動源ベースに取付けられている」ものであることを特徴とする。

【0064】

ここで、「装飾面部発光手段」としては、「LED（単色LED、フルカラーLED、高輝度LED、等）」、「有機EL」、「白熱灯」、「ネオン灯」、「冷陰極管」、等が挙げられる。

【0065】

手段9の構成によると、遊技機に、駆動源ベースに取付けられ、装飾面部を発光装飾させる装飾面部発光手段を、更に備えた上で、送風装飾部発光手段を、駆動源ベースに取付

50

けるようにしたものである。

【0066】

これにより、送風装飾部及び装飾面部を、送風装飾部発光手段及び装飾面部発光手段によって、夫々発光装飾させることができるため、送風装飾部や装飾面部の発光装飾によって遊技者の関心をそれらに強く引付けさせることができ、送風装飾部や装飾面部の発光装飾を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【0067】

また、上記の可動演出と、送風装飾部及び装飾面部の発光装飾とを適宜組合せることで、より多彩な演出を遊技者に見せることができ、遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。

10

【0068】

手段10：手段6から手段9までの何れか一つの構成において、

「前記駆動源ベースを介して前記回転軸線周りに回転する前記送風装飾部、前記駆動源、及び前記装飾面部の回転範囲の後側を覆うように前記ユニットベースに取付けられており、複数の換気口が貫通している後カバー部を、更に具備している」ものであることを特徴とする。

【0069】

手段10の構成によると、遊技機に、駆動源ベースを介して回転軸線周りに回転する送風装飾部、駆動源、及び装飾面部の回転範囲の後側を覆うようにユニットベースに取付けられており、複数の換気口が貫通している後カバー部を、更に備えるようにしたものである。

20

【0070】

これにより、送風装飾部、駆動源、及び装飾面部の回転範囲の後側を後カバー部で覆っているため、駆動源により可動させられている送風装飾部や、回転手段により駆動源ベースを介して回転軸線周りに回転している送風装飾部及び装飾面部に、他の部材が接触するのを回避させることができ、送風装飾部や装飾面部、及び他部材等の破損を防止することができる。また、後カバー部には、複数の換気口が形成されているため、送風装飾部により発生し、誘導カバー部によって後側へ誘導された風を、複数の換気口を通して後カバー部の後方へ排出させることができるため、駆動源による熱を誘導カバー部と後カバー部との間の空間から逃して外部へ良好に排出させることができ、駆動源の温度上昇による不具合の発生を防止することができる。

30

【0071】

手段11：手段6から手段10までの何れか一つの構成において、

「前記駆動源ベースを貫通している両端に前記送風装飾部及び前記装飾面部が夫々取付けられていると共に、前記駆動源ベースに回転可能に取付けられており、前記駆動源により回転させられる棒状の軸部を、更に具備している」ものであることを特徴とする。

【0072】

手段11の構成によると、遊技機に、駆動源ベースを貫通している両端に送風装飾部及び装飾面部が夫々取付けられていると共に、駆動源ベースに回転可能に取付けられており、駆動源により回転させられる棒状の軸部を、更に備えるようにしたものである。

40

【0073】

これにより、駆動源ベースに取付けられている軸部を、駆動源によって回転させると、軸部の両端に夫々取付けられている送風装飾部と装飾面部が、軸部の中心軸線周りに回転することとなり、簡単な構成により一つの駆動源により別体とされている送風装飾部と装飾面部とを同時に回転させることができ、上述した作用効果を奏する遊技機を具現化することができる。

【0074】

また、駆動源ベースを貫通している軸部に送風装飾部と装飾面部を取付けていることから、ユニットベースに取付けられている駆動源ベースを回転手段により回転させて、軸部の中心軸線を誘導カバー部が向いている方向へ延びるようにした状態で、駆動源により軸

50

部を介して送風装飾部及び装飾面部を回転させると、送風装飾部及び装飾面部のうち誘導カバー部を向いている側が、全体が見えているままでその中央付近を中心としてグルグル回転するような可動演出を遊技者に見せることができるため、目が回るような可動演出により遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技者の遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。一方、ユニットベースに取付けられている駆動源ベースを回転手段により回転させて、軸部の中心軸線を誘導カバー部が向いている方向と直交する方向へ延びるようにした状態で、駆動源により軸部を介して送風装飾部及び装飾面部を回転させると、静止している駆動源ベースの両側に送風装飾部及び装飾面部の夫々の側面が、駆動源ベースに沿った方向（回転軸線と平行な方向）へ移動している状態となるため、静止している駆動源ベースの側面の両側において送風装飾部及び装飾面部の夫々の側面が流れている（一方向へ移動している）ような可動演出を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

10

【0075】

手段12：遊技機において、

「可動することで風を発生させ、所定の装飾が形成されている送風装飾部と、
該送風装飾部を回転させる駆動源と、

透明な部位を通して前記送風装飾部を前方から視認可能に覆っていると共に、遊技者が操作可能とされており、少なくとも外周縁付近が後方へ屈曲し、該送風装飾部の可動により発生した風を誘導して前記駆動源からの熱を逃す誘導カバー部と、

20

外周面に貫通している複数の通気孔が形成された箱状とされており、内部に前記駆動源が取付けられている駆動源ベースと、

該駆動源ベースを前記誘導カバー部が向いている方向と直交する方向に延びた回転軸線周りに回転可能に取付けていると共に、前記誘導カバー部が取付けられているユニットベースと、

該ユニットベースに取付けられており、前記駆動源ベースを前記回転軸線周りに回転させる回転手段と、

前記回転軸線を中心として前記送風装飾部と周方向に離間して配置されており、所定の装飾が形成されている装飾面部と、

前記駆動源ベースを貫通している両端に前記送風装飾部及び前記装飾面部が夫々取付けられていると共に、前記駆動源ベースに回転可能に取付けられており、前記駆動源により回転させられる棒状の軸部と、

30

前記駆動源ベースに夫々取付けられており、前記送風装飾部及び前記装飾面部を夫々発光装飾させる送風装飾部発光手段及び装飾面部発光手段と、

前記駆動源ベースを介して前記回転軸線周りに回転する前記送風装飾部、前記駆動源、及び前記装飾面部の回転範囲の後側を覆うように前記ユニットベースに取付けられており、複数の換気口が貫通している後カバー部と
を具備している」ものであることを特徴とする。

【0076】

手段12の構成によると、遊技機に、可動することで風を発生させ、所定の装飾が形成されている送風装飾部と、送風装飾部を回転させる駆動源と、透明な部位を通して送風装飾部を前方から視認可能に覆っていると共に、遊技者が操作可能とされており、少なくとも外周縁付近が後方へ屈曲し、送風装飾部の可動により発生した風を誘導して駆動源からの熱を逃す誘導カバー部と、外周面に貫通している複数の通気孔が形成された箱状とされており、内部に駆動源が取付けられている駆動源ベースと、駆動源ベースを誘導カバー部が向いている方向と直交する方向に延びた回転軸線周りに回転可能に取付けていると共に、誘導カバー部が取付けられているユニットベースと、ユニットベースに取付けられており、駆動源ベースを回転軸線周りに回転させる回転手段と、回転軸線を中心として送風装飾部と周方向に離間して配置されており、所定の装飾が形成されている装飾面部と、駆動源ベースを貫通している両端に送風装飾部及び装飾面部が夫々取付けられていると共に、

40

50

駆動源ベースに回転可能に取付けられており、駆動源により回転させられる棒状の軸部と、駆動源ベースに夫々取付けられており、送風装飾部及び装飾面部を夫々発光装飾させる送風装飾部発光手段及び装飾面部発光手段と、駆動源ベースを介して回転軸線周りに回転する送風装飾部、駆動源、及び装飾面部の回転範囲の後側を覆うようにユニットベースに取付けられており、複数の換気口が貫通している後カバー部と、を備えるようにしたものである。

【0077】

これにより、本遊技機を前方から見ると、遊技者が操作可能な誘導カバー部の透明な部位を通して送風装飾部又は装飾面部が見えるため、送風装飾部又は装飾面部によって誘導カバー部の見栄えを良くすることができると共に、駆動源ベースに取付けられている送風装飾部発光手段又は装飾面部発光手段により送風装飾部又は装飾面部を発光装飾させることで、遊技者の関心を送風装飾部又は装飾面部に強く引付けさせて注目させることができる。そして、箱状の駆動源ベース内に取付けられている駆動源により軸部を回転させると、軸部の両端に夫々取付けられている送風装飾部及び装飾面部が、軸部の中心軸線周りに回転することとなり、誘導カバー部の透明な部位を通して、遊技者側を向いた送風装飾部又は装飾面部の全体が見えているままの状態、その中央付近を中心としてグルグル回転するような可動演出を遊技者に見せることができるため、遊技者の関心を送風装飾部又は装飾面部に強く引付けさせることができ、遊技者に送風装飾部又は装飾面部による可動演出を楽しませることができると共に、目が回るような可動演出により遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技者の遊技に対する期待感を高め

10

20

【0078】

ところで、軸部を介して送風装飾部及び装飾面部を回転させるために駆動源を駆動させると、駆動源から熱が発生する。そして、送風装飾部と装飾面部との間において内部に駆動源が取付けられている駆動源ベースは、送風装飾部及び装飾面部と一緒に、前側が誘導カバー部により覆われていると共に、後側が後カバー部により覆われていることから、駆動源から発生した熱がこもり易い状態となっている。これに対しては、駆動源ベースの外周面に複数の通気孔が形成されていると共に、後カバー部に複数の換気口が形成されているため、駆動源や送風装飾部発光手段及び装飾面部発光手段において発生した熱が、複数の通気孔を通して駆動源ベースの外部に放出された後に、駆動源ベースに取付けられている送風装飾部の回転により発生した風が、誘導カバー部によって誘導された上で、後カバー部の複数の換気口を通して、後カバー部の後方へ排出されることとなる。従って、送風装飾部の回転により発生して誘導カバー部により誘導された風によって、駆動源や送風装飾部発光手段及び装飾面部発光手段からの熱を、誘導カバー部と後カバー部との間の空間から逃して外部に排出させることができるため、遊技者が操作可能な誘導カバー部の後側において熱のこもりを抑制して温度の上昇を低減させることができ、熱による不具合の発生を良好に防止することができると共に、不具合の発生による遊技の中断により、遊技者に対して不快感を与えてしまうのを防止することができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

30

【0079】

また、誘導カバー部によって送風装飾部の回転により発生した風を誘導して駆動源や送風装飾部発光手段及び装飾面部発光手段からの熱を逃して外部に排出させることができることから、送風装飾部や装飾面部から離れた位置に駆動源を配置することが可能となるため、駆動源を送風装飾部や装飾面部の邪魔になり難くすることができ、送風装飾部や装飾面部の装飾（形状）の設計自由度を高めることができる。従って、所望の装飾効果を発揮する見栄えの良い送風装飾部や装飾面部とすることができ、遊技者に送風装飾部や装飾面部の装飾や可動演出をより楽しませて、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

40

【0080】

更に、送風装飾部を、軸部を介して駆動源により回転させるようにしていることから、送

50

風装飾部の回転により発生する風が一定の流れとなり易く、誘導カバー部によって誘導し易くなるため、駆動源からの熱を効果的に逃して外部に排出させられる位置へ、風を連続的に誘導させることが可能となり、熱の排出効率をより高めることができ、熱による不具合の発生を確実に防止することができる。

【0081】

また、誘導カバー部の少なくとも外周縁付近を、後方へ屈曲させるようにしているため、駆動源により送風装飾部を回転させた時に、例えば、送風装飾部から前方へ向かう風が発生する場合、その風が、送風装飾部の前方を覆っている誘導カバー部の後面に当接し、誘導カバー部の面に沿って外周縁側へ流れる（誘導される）こととなる。そして、誘導カバー部の外周縁側へ誘導された風は、外周縁付近の後方へ屈曲している部位により、その流れが後方へと誘導され、送風装飾部の外周外側を通して送風装飾部よりも後側へ流れる（誘導される）こととなる。或いは、送風装飾部から後方へ向かう風が発生する場合、送風装飾部の前方、詳しくは、送風装飾部と誘導カバー部との間の空間が、負圧となるため、送風装飾部よりも後側の空気が、送風装飾部の外周外側を通った上で、誘導カバー部の外周縁付近の後方へ屈曲している部位により、誘導カバー部の中央側へと誘導され、送風装飾部と誘導カバー部との間の空間へ流れる（誘導される）こととなる。このように、送風装飾部の回転により発生する風をスムーズに誘導することができ、駆動源からの熱を逃して外部へ排出させ易くすることができる。

【0082】

更に、回転手段により駆動源ベースを回転軸線周りに回転させると、遊技者側へ送風装飾部を向けたり装飾面部を向けたりすることができ、遊技者が操作可能な誘導カバー部の透明な部位を通して遊技者側から見える装飾を切替えることができる。この際に、送風装飾部には所定の装飾が形成されていることから、見栄えが良くなっているため、送風装飾部を遊技者側に向けても、送風装飾部の装飾により遊技者に違和感を与えることはなく、駆動源ベースの回転による送風装飾部と装飾面部との切替えによる装飾の変化を遊技者に楽しませることができると共に、駆動源により軸部を介して送風装飾部及び装飾面部を回転させることで、送風装飾部及び装飾面部の回転も楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。また、送風装飾部を発光装飾させる送風装飾部発光手段に加えて、装飾面部を発光装飾させる装飾面部発光装飾手段も備えているため、送風装飾部や装飾面部の発光装飾によって遊技者の関心をそれらに強く引付けさせることができ、送風装飾部や装飾面部の発光装飾を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。そして、駆動源による送風装飾部及び装飾面部の回転、回転手段による駆動源ベースの回転、及び、送風装飾部発光手段及び装飾面部発光手段による発光装飾、を適宜組合せることで、多彩な演出を遊技者に見せることができ、遊技者を飽きさせ難くすることができる。また、楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【0083】

また、上述したように、遊技者が操作可能な誘導カバー部の透明な部位を通して見える装飾を切替えたり、回転させたり、発光装飾させたりすることができることから、遊技者の関心を送風装飾部又は装飾面部に引付けさせることができるため、透明な部位を通して送風装飾部又は装飾面部が見える誘導カバー部に対しても遊技者の関心を強く引付けさせることができる。そして、誘導カバー部の透明な部位を通して見える装飾が、回転したり切替わったりすることで、遊技者に対して誘導カバー部を操作すると、何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技者に対して誘導カバー部の操作を促すことができる。従って、遊技者参加型演出を実行した時に、誘導カバー部内の装飾を変化させたり切替えたりすることで、遊技者に対して誘導カバー部の操作を促すことができるため、遊技者に対して誘導カバー部を操作させることができ、遊技者参加型演出に遊技者を確実に参加させることができると共に、遊技者参加型演出を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【0084】

また、送風装飾部及び装飾面部を回転させる駆動源を、箱状の駆動源ベースの内部に取付けていることから、回転手段により駆動源ベースを回転させた時に、駆動源ベース（駆動源ベースの外周面）が、誘導カバー部の透明な部位を通して遊技者側から見える状態となっても、駆動源ベースによって駆動源が見えないように隠すことができるため、駆動源が見えることで見栄えが悪くなるのを防止することができ、誘導カバー部内の見栄えを良くして遊技者を楽しませることができる。

【0085】

手段13：手段1から手段12の何れか一つの遊技機において、パチンコ機であることを特徴とする。

ここで、パチンコ機とは、遊技者が遊技機に投入する媒体である投入媒体と、遊技者が行う実質的な遊技に用いられる媒体である遊技媒体とを同一のものとした遊技機であり、投入された例えば遊技球等の媒体を用いて遊技が行われるタイプの遊技機の一つである。具体的には、「操作ハンドルの操作に対応して遊技球を発射する発射装置と、多数の障害釘、役物、表示手段等の適宜の機器が組み込まれたり、始動入賞口、大入賞口、通過口、到達口等の遊技球が入球する適宜の入球口が設けられた遊技領域と、発射装置から遊技領域に遊技球を導くレールと、遊技領域に導かれた遊技球の入球口への入球に応じたり、複数の入球口への遊技球の入球態様に依りて、所定数の遊技球を賞球として払い出す払出手段とを具備するもの」である。

【0086】

なお、パチンコ機としては、種々のタイプのものがあり、一般に「デジパチ機」と称されるものに代表される「入球口への入球状態を検出する入球状態検出手段（遊技状態検出手段として捉えることもできる）」と、入球状態検出手段によって入球が検出されると所定の抽選を行う抽選手段と、抽選手段の抽選結果に依りて特別図柄を変動させると共に変動を停止させる特別図柄表示手段とを備えたもの」や「加えて、特別図柄の変動中に、複数の図柄からなる図柄列を変動表示し、図柄列にて図柄を停止表示させたり、キャラクタや種々の物品等の表示物を描写し表示物を動作させたりする、等によって適宜の演出表示を行う演出表示手段を更に具備するもの」、一般に「ハネモノ機」と称されるものに代表される「役物内での遊技球の振分けによって抽選を行う抽選手段を備えたもの」、一般に「アレパチ機」と称されるものに代表される「例えば16個等の所定個数の遊技球により1ゲームが行われ、1ゲームにおける複数の入球口への遊技球の入球態様に依りて所定個数の遊技球の払出しを行うもの」等を例示することができる。

【0087】

手段13の構成によると、パチンコ機において、上述した手段のいずれかの作用効果を奏することができる。

【0088】

手段14：手段1から手段12までの何れか一つの遊技機において、パチスロ機であることを特徴とする。

ここで、パチスロ機とは、投入媒体であるメダルを投入し、メダルの投入後、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作によって、夫々複数の図柄が描かれた複数のリールを回転させる等して、各リール等によって構成された図柄列を変動表示させるとともに、その後、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に依りて各図柄列の変動表示を停止させる、といった遊技が遊技者によって行われるものである。換言すれば、停止操作機能付きのスロットマシンとして捉えることができるものである。なお、所定時間が経過しても停止用操作手段が操作されない場合には、所定時間経過したことに応じて図柄列の変動表示を停止させるものであってもよい。そして、各図柄列の変動表示の停止時において、表示された単体の図柄が特定の図柄であったり、各図柄列にて表示された図柄の組合せが特定の組合せであったりする等、特定の条件を満たす場合に、満たされた条件に依りて所定個数のメダルを払出したり、遊技者が多量のメダルを獲得することができる遊技者に有利な特別有利状態を発生させたりするものである。

【0089】

手段１４の構成によると、パチスロ機において、上述した手段のいずれかの作用効果を奏することができる。

【００９０】

手段１５：手段１から手段１２までの何れか一つの遊技機において、パチンコ機とパチスロ機とを融合させてなることを特徴とする。

ここで、「パチンコ機とパチスロ機とを融合させてなる遊技機」とは、複数個（例えば５個）の遊技球を１単位の投入媒体とし、投入媒体を投入した後、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に応じて複数の図柄からなる図柄列を変動表示させるとともに、その後、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に応じて図柄列の変動を停止させるものである。なお、所定時間が経過しても停止用操作手段が操作されない場合には、所定時間経過したことに応じて図柄列の変動表示を停止させるものであってもよい。そして、各図柄列の変動表示の停止時において、表示された単体の図柄が特定の図柄であったり、各図柄列にて表示された図柄の組合せが特定の組合せであったりする等、特定の条件を満たす場合に、満たされた条件に応じて所定個数のメダルを払出したり、遊技者が多量のメダルを獲得することができる遊技者に有利な特別有利状態を発生させたりするものである。

【００９１】

手段１５の構成によると、パチンコ機とパチスロ機とを融合させてなる遊技機において、上述した手段のいずれかの作用効果を奏することができる。

【発明の効果】

【００９２】

このように、本発明によれば、駆動源からの熱による不具合を防止しつつ装飾を楽しませて遊技者の興趣の低下を抑制させることが可能な遊技機を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【００９３】

【図１】本発明の一実施形態であるパチンコ機の正面図である。

【図２】パチンコ機の右側面図である。

【図３】パチンコ機の左側面図である。

【図４】パチンコ機の背面図である。

【図５】パチンコ機を右前から見た斜視図である。

【図６】パチンコ機を左前から見た斜視図である。

【図７】パチンコ機を後ろから見た斜視図である。

【図８】本体枠から扉枠を開放させると共に、外枠から本体枠を開放させた状態で前から見たパチンコ機の斜視図である。

【図９】パチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して前から見た分解斜視図である。

【図１０】パチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図１１】パチンコ機における外枠の正面図である。

【図１２】外枠の右側面図である。

【図１３】外枠を前から見た斜視図である。

【図１４】外枠を後ろから見た斜視図である。

【図１５】外枠を分解して前から見た分解斜視図である。

【図１６】（ａ）は外枠における外枠側上ヒンジ部材の部位を、左枠部材を省略して下側から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）を分解して示す分解斜視図である。

【図１７】（ａ）は外枠の外枠側上ヒンジ部材に対して本体枠の本体枠側上ヒンジ部材が取外されている状態を拡大して示す斜視図であり、（ｂ）は外側上ヒンジ部材に本体側上ヒンジ部材が取り付けられている状態を拡大して示す斜視図である。

【図１８】外枠におけるロック部材の作用を示す説明図である。

【図１９】パチンコ機における扉枠の正面図である。

- 【図 20】扉枠の右側面図である。
- 【図 21】扉枠の左側面図である。
- 【図 22】扉枠の背面図である。
- 【図 23】扉枠を右前から見た斜視図である。
- 【図 24】扉枠を左前から見た斜視図である。
- 【図 25】扉枠を後ろから見た斜視図である。
- 【図 26】図 19 における A-A 線で切断した断面図である。
- 【図 27】図 19 における B-B 線で切断した断面図である。
- 【図 28】図 19 における C-C 線で切断した断面図である。
- 【図 29】扉枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。 10
- 【図 30】扉枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
- 【図 31】(a) は扉枠における扉枠ベースユニットを前から見た斜視図であり、(b) は扉枠ベースユニットを後ろから見た斜視図である。
- 【図 32】扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
- 【図 33】扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
- 【図 34】(a) は扉枠ベースユニットの球送りユニットを前から見た斜視図であり、(b) は球送りユニットを後ろから見た斜視図である。
- 【図 35】(a) は球送りユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、(b) は球送りユニットの後ケースと不正防止部材を外して後ろから見た分解斜視図である。
- 【図 36】(a) は扉枠ベースユニットのファールカバーユニットを前から見た斜視図であり、(b) はファールカバーユニットを後ろから見た斜視図である。 20
- 【図 37】(a) はファールカバーユニットを蓋部材を外して前から見た分解斜視図であり、(b) はファールカバーユニットを蓋部材を外して後ろから見た分解斜視図である。
- 【図 38】蓋部材を外した状態のファールカバーユニットの正面図である。
- 【図 39】(a) は扉枠におけるハンドルユニットの正面図であり、(b) はハンドルユニットを前から見た斜視図であり、(c) はハンドルユニットを後ろから見た斜視図である。
- 【図 40】(a) はハンドルユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、(b) はハンドルユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
- 【図 41】(a) は扉枠の皿ユニットを右前から見た斜視図であり、(b) は皿ユニットを左前から見た斜視図である。 30
- 【図 42】(a) は皿ユニットを右上後ろから見た斜視図であり、(b) は皿ユニットを左下後から見た斜視図である。
- 【図 43】皿ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
- 【図 44】皿ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
- 【図 45】図 28 の断面図において下皿カバーを外した状態で下皿の部位を拡大して示す説明図である。
- 【図 46】(a) は下皿に球誘導部を備えた例を概略で示す説明図であり、(b) は下皿に (a) とは異なる球誘導部を備えた例を概略で示す説明図であり、(c) は更に異なる球誘導部を備えた例を概略で示す説明図である。 40
- 【図 47】(a) は分割可能とした下皿を概略で示す説明図であり、(b) は演出操作ユニットの後方の空間の大きさに応じて下皿の貯留領域を拡張した状態を概略で示す説明図であり、(c) は (b) の下皿を概略の斜視図で示す説明図である。
- 【図 48】(a) は扉枠における演出操作ユニットの正面図であり、(b) は演出操作ユニットの右側面図である。
- 【図 49】(a) は演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、(b) は演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。
- 【図 50】演出操作ユニットを、操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。
- 【図 51】図 48 (a) における D-D 線で切断した断面図である。 50

【図 5 2】図 4 8 (b) における E-E 線で切断した断面図である。

【図 5 3】(a) は図 4 8 (b) における F-F 線で切断した断面図であり、(b) は (a) における A 部の拡大図である。

【図 5 4】演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。

【図 5 5】演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図 5 6】(a) は操作ボタンを分解して前から見た分解斜視図であり、(b) は操作ボタンを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図 5 7】演出操作ユニットの装飾基板ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図 5 8】(a) は演出操作ユニットのベースユニットを前から見た斜視図であり、(b) は演出操作ユニットのベースユニットを後ろから見た斜視図である。 10

【図 5 9】演出操作ユニットのベースユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図 6 0】演出操作ユニットのベースユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図 6 1】図 5 1 の演出操作ユニットの断面図において操作ボタンを押圧した状態を示す説明図である。

【図 6 2】(a) は演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの一部を切欠いて操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、(b) は演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。 20

【図 6 3】(a) は演出操作ユニットの外観を前から見た斜視図で示す説明図であり、(b) は演出操作ユニットの外観を操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。

【図 6 4】(a) は図 4 8 乃至図 6 3 の演出操作ユニットとは実施形態の異なる第二演出操作ユニットの正面図であり、(b) は第二演出操作ユニットの右側面図である。

【図 6 5】(a) は第二演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、(b) は第二演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。

【図 6 6】第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。 30

【図 6 7】図 6 4 (a) における G-G 線で切断した断面図である。

【図 6 8】図 6 4 (b) における H-H 線で切断した断面図である。

【図 6 9】(a) は図 6 4 (b) における I-I 線で切断した断面図であり、(b) は (a) における A 部の拡大図である。

【図 7 0】第二演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。

【図 7 1】第二演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図 7 2】(a) は第二演出操作ユニットの操作ボタンを分解して前から見た分解斜視図であり、(b) は第二演出操作ユニットの操作ボタンを分解して後ろから見た分解斜視図である。 40

【図 7 3】第二演出操作ユニットの第二ベースユニットを前から見た斜視図である。

【図 7 4】(a) はスクリーンユニットのメインスクリーンを前方へ向けた状態で操作ボタンの中心軸が延びている方向から第二演出操作ユニットを見た説明図であり、(b) はスクリーンユニットのサブスクリーンを前方へ向けた状態で操作ボタンの中心軸が延びている方向から第二演出操作ユニットを見た説明図である。

【図 7 5】(a) は図 7 4 (a) における J-J 線で切断した断面図であり、(b) は図 7 4 (b) における K-K 線で切断した断面図である。

【図 7 6】(a) はメインスクリーンを前方へ向けた状態で第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、(b) は (a) の状 50

態の第二演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。

【図 77】(a) はサブスクリーンを前方へ向けた状態で第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、(b) は(a) の状態の第二演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。

【図 78】(a) は図 48 乃至図 77 の演出操作ユニット及び第二演出操作ユニットとは実施形態の異なる第三演出操作ユニットの正面図であり、(b) は第三演出操作ユニットの右側面図である。

【図 79】第三演出操作ユニットの背面図である。

【図 80】(a) は第三演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、(b) は第三演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。

【図 81】第三演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。

【図 82】図 78 (a) における L-L 線で切断した断面図である。

【図 83】図 78 (b) における M-M 線で切断した断面図である。

【図 84】第三演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。

【図 85】第三演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図 86】第三演出操作ユニットの第三ベースユニットを前から見た斜視図である。

【図 87】(a) は第三演出操作ユニットの装飾回転体ユニットを前から見た斜視図であり、(b) は第三演出操作ユニットの装飾回転体ユニットを後ろから見た斜視図である。

【図 88】(a) は装飾回転体ユニットの第二装飾面部を前方へ向けた状態で示す第三演出操作ユニットの正面図であり、(b) は(a) を操作ボタンの中心軸が延びている方向から見た説明図である。

【図 89】(a) は第三演出操作ユニットにおいて第一装飾面部を前方へ向けた状態で第一装飾面部の回転を示す説明図であり、(b) は第三演出操作ユニットにおいて第二装飾面部を前方へ向けた状態で第二装飾面部の回転を示す説明図である。

【図 90】第三演出操作ユニットにおいて、装飾回転体ユニットを回転させる可動演出の動きを示す説明図である。

【図 91】第三演出操作ユニットにおいて、第一装飾面部及び第二装飾面部を回転させた状態で装飾回転体ユニットを回転させる可動演出の動きを示す説明図である。

【図 92】第三演出操作ユニットにおいて、第二装飾面部の回転による空気の流れを示す説明図である。

【図 93】(a) は扉枠における扉枠左サイドユニットの正面図であり、(b) は扉枠左サイドユニットを前から見た斜視図であり、(c) は扉枠左サイドユニットを後ろから見た斜視図である。

【図 94】扉枠左サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図 95】扉枠左サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図 96】図 93 (a) における N-N 線で切断した断面図である。

【図 97】(a) は扉枠における扉枠右サイドユニットの正面図であり、(b) は扉枠右サイドユニットを前から見た斜視図であり、(c) は扉枠右サイドユニットを後ろから見た斜視図である。

【図 98】扉枠右サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図 99】扉枠右サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図 100】図 97 (a) における O-O 線で切断した断面図である。

【図 101】(a) は図 97 (a) における P-P 線で切断した断面図であり、(b) は図 97 (a) における Q-Q 線で切断した断面図である。

【図 102】(a) は扉枠における扉枠トップユニットの正面図であり、(b) は扉枠ト

10

20

30

40

50

ップユニットを前から見た斜視図であり、(c)は扉枠トップユニットを後ろから見た斜視図である。

【図103】扉枠トップユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図104】扉枠トップユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図105】図102におけるR-R線で切断した断面図である。

【図106】本体枠を前から見た斜視図である。

【図107】本体枠を後ろから見た斜視図である。

【図108】本体枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。

【図109】本体枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図110】払出ユニットを前から見た斜視図である。

10

【図111】払出ユニットを後ろから見た斜視図である。

【図112】払出ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図である。

【図113】払出ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図114】(a)は払出ユニットの球誘導ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は球誘導ユニットを後ろから見た斜視図である。

【図115】球誘導ユニットの分解斜視図である。

【図116】(a)は払出ユニットの払出装置を前から見た斜視図であり、(b)は払出装置を後ろから見た斜視図である。

【図117】払出装置を分解して前から見た分解斜視図である。

【図118】払出装置を分解して後ろから見た分解斜視図である。

20

【図119】(a)は払出装置の正面図であり、(b)は(a)におけるS-S線で切断した断面図である。

【図120】(a)は払出装置において球抜き可動片により球抜き通路を閉鎖した状態を示す説明図であり、(b)は球抜き可動片により球抜き通路を開放した状態を示す説明図である。

【図121】(a)は払出ユニットにおける上部満タン球経路ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は上部満タン球経路ユニットを後ろから見た斜視図である。

【図122】(a)は上部満タン球経路ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、(b)は上部満タン球経路ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図123】(a)は払出ユニットにおける下部満タン球経路ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は下部満タン球経路ユニットを後ろから見た斜視図である。

30

【図124】下部満タン球経路ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図125】下部満タン球経路ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図126】(a)は下部満タン球経路ユニットにおいて誘導路開閉扉が閉じている状態を示す説明図であり、(b)は誘導路開閉扉が開いている状態を示す説明図である。

【図127】扉枠のファールカバーユニットと下部満タン球経路ユニットとの関係を示す説明図である。

【図128】払出ユニットにおける遊技球の流れを示す説明図である。

【図129】遊技パネルのパネル板を不透明な状態とした遊技盤の正面図である。

【図130】図129の状態の遊技盤を右前から見た斜視図である。

40

【図131】図129の状態の遊技盤を左前から見た斜視図である。

【図132】遊技盤を後ろから見た斜視図である。

【図133】図129におけるT-T線で切断した断面図である。

【図134】図129におけるU-U線で切断した断面図である。

【図135】遊技盤における表ユニットを遊技領域内の前後方向の略中央で切断した正面図である。

【図136】遊技パネルのパネル板を透明な状態とした遊技盤の正面図である。

【図137】遊技盤を主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図である。

【図138】遊技盤を主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図139】(a)は遊技盤における前構成部材と遊技パネルとを前から見た斜視図であ

50

り、(b)は(a)を後ろから見た斜視図である。

【図140】(a)は遊技盤の表ユニットにおける始動口ユニット、サイドユニット、サイドスロープ、及びアタッカユニットを前から見た斜視図であり、(b)は(a)を後ろから見た斜視図である。

【図141】表ユニットにおけるアタッカユニットを遊技領域内の前後方向の略中央で切断して正面から示した説明図である。

【図142】(a)は表ユニットにおけるセンター役物を前から見た斜視図であり、(b)はセンター役物を後ろから見た斜視図である。

【図143】遊技盤の裏ユニットを前から見た斜視図である。

【図144】裏ユニットを後ろから見た斜視図である。

10

【図145】裏ユニットを主な構成部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。

【図146】裏ユニットを主な構成部材毎に分解して後から見た分解斜視図である。

【図147】(a)は裏ユニットにおける裏前飾りユニットの正面図であり、(b)は(a)におけるV-V線で切断して拡大した拡大断面図である。

【図148】(a)は裏ユニットにおける裏上可動演出ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は裏上可動演出ユニットを後ろから見た斜視図である。

【図149】裏上可動演出ユニットを主に構成ユニット毎に分解して前から見た分解斜視図である。

【図150】裏上可動演出ユニットを主な構成ユニット毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

20

【図151】(a)は裏上可動演出ユニットにおける裏上第一装飾体ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は裏上第一装飾体ユニットを後ろから見た斜視図である。

【図152】裏上第一装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図153】裏上第一装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図154】(a)は裏上第一装飾体ユニットが閉位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、(b)は裏上第一装飾体ユニットが開位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。

【図155】(a)は裏上可動演出ユニットにおける裏上第二装飾体ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は裏上第二装飾体ユニットを後ろから見た斜視図である。

【図156】裏上第二装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

30

【図157】裏上第二装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図158】(a)は裏上第二装飾体ユニットが閉位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、(b)は裏上第二装飾体ユニットが開位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。

【図159】(a)は裏上可動演出ユニットにおける裏上第三装飾体ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は裏上第三装飾体ユニットを後ろから見た斜視図である。

【図160】裏上第三装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図161】裏上第三装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図162】(a)は裏上第三装飾体ユニットが閉位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、(b)は裏上第三装飾体ユニットが開位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。

40

【図163】(a)は裏上可動演出ユニットにおける裏上回転ベースユニットを前から見た斜視図であり、(b)は裏上回転ベースユニットを後ろから見た斜視図である。

【図164】裏上回転ベースユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図165】裏上回転ベースユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図166】裏上回転ベースユニットにおけるギア構成を正面から示す説明図である。

【図167】(a)は裏上回転ベースユニットにおける作用レバーが作用位置の状態を正面から示す説明図であり、(b)は作用レバーが非作用位置の状態を正面から示す説明図である。

【図168】(a)は裏上可動演出ユニットにおける裏上昇降ユニットを前から見た斜視

50

図であり、(b)は裏上昇降ユニットを後ろから見た斜視図である。

【図169】(a)は裏上昇降ユニットを可動側ユニットと固定側ユニットとに分解して前から見た分解斜視図であり、(b)は裏上昇降ユニットを可動側ユニットと固定側ユニットとに分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図170】(a)は裏上昇降ユニットの可動側ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、(b)は可動側ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【図171】裏上昇降ユニットの固定側ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。

【図172】裏上昇降ユニットの固定側ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

10

【図173】(a)は裏上昇降ユニットの可動側ユニットが上昇位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、(b)は裏上昇降ユニットの可動側ユニットが下降位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。

【図174】裏上可動演出ユニットにおいて裏上昇降ユニットの可動側ユニットが上昇位置の時の昇降用の駆動系を示す説明図である。

【図175】裏上可動演出ユニットにおいて裏上昇降ユニットの可動側ユニットが下降位置の時の昇降用の駆動系を示す説明図である。

【図176】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置の時に、作用レバーが作用位置の状態を示す説明図である。

【図177】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置の時に、作用レバーが非作用位置の状態を示す説明図である。

20

【図178】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置の時の裏上回転ベースユニットの駆動系を示す説明図である。

【図179】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置から時計回りに45度回転したの時の裏上回転ベースユニットの駆動系を示す説明図である。

【図180】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時の裏上回転ベースユニットの駆動系を示す説明図である。

【図181】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時に、作用レバーが非作用位置の状態を示す説明図である。

30

【図182】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時に、作用レバーが作用位置で回転を規制している状態を示す説明図である。

【図183】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時に、作用レバーが作用位置で裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットに作用を及ぼしている状態を示す説明図である。

【図184】(a)は裏ユニットの裏下可動演出ユニットの正面図であり、(b)は裏下可動演出ユニットの背面図であり、(c)は裏下可動演出ユニットにおいて裏下可動装飾体ユニットを上昇させた状態で示す背面図である。

40

【図185】裏ユニットにおける裏中可動演出ユニットの裏中左装飾体及び裏中右装飾体を中央側の出現位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。

【図186】裏ユニットにおける裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体及び裏右装飾体を中央寄りの出現位置へ移動させた上で、夫々の第一装飾面を前方へ向けた状態で示す遊技盤の正面図である。

【図187】図186の状態から左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体及び裏右装飾体を回転させて夫々の第二装飾面を前方へ向けた状態で示す遊技盤の正面図である。

【図188】図186の状態から左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体及び裏右装飾体を回転させて夫々の第三装飾面を前方へ向けた状態で示す遊技盤の正

50

面図である。

【図189】裏ユニットにおける裏上可動演出ユニットにおいて裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々閉位置の状態とした上で、裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットが水平に並ぶように裏上回転ベースユニットを水平位置の状態としたまま下降位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。

【図190】図189の状態から裏上回転ベースユニットを正面視時計回りの方向へ45度回転させて裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットが斜めに並んだ状態で示す遊技盤の正面図である。

【図191】図190の状態から裏上回転ベースユニットを正面視時計回りの方向へ更に45度回転させて垂直位置の状態として裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットが垂直に並んだ状態で示す遊技盤の正面図である。

【図192】図177の状態から裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々開位置の状態として夫々の第一固定装飾レンズ、第二固定装飾レンズ、及び第三固定装飾レンズを視認可能とした状態で示す遊技盤の正面図である。

【図193】裏ユニットにおける裏下可動演出ユニットの裏下可動装飾体ユニットを第一上昇位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。

【図194】図193の状態から裏下可動装飾体ユニットを更に上昇させて第二上昇位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。

【図195】遊技盤の別の実施形態として、裏ユニットの裏上可動演出ユニットに、センター役物のステージや裏前飾りユニットの裏前下中央レンズを発光装飾させるためのLEDを備えた例を示す説明図である。

【図196】遊技盤の裏ユニットにおける裏上可動演出ユニットにおいて、裏上回転ベースユニットを垂直位置の状態とすると共に、裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々開位置の状態として夫々の第一固定装飾レンズ、第二固定装飾レンズ、及び第三固定装飾レンズを視認可能とした状態で示すパチンコ機の正面図である。

【図197】皿ユニット320に演出操作ユニット400に替えて第三演出操作ユニット400Bを取付け、装飾回転体ユニットの第一装飾面部を前方に向けた状態とすると共に、遊技盤を通常の状態を示すパチンコ機の正面図である。

【図198】図197において、装飾回転体ユニットの第二装飾面部を前方へ向けた状態とした上で、遊技盤の裏ユニットにおける裏上可動演出ユニットにおいて、裏上回転ベースユニットを垂直位置の状態とすると共に、裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々開位置の状態として夫々の第一固定装飾レンズ、第二固定装飾レンズ、及び第三固定装飾レンズを視認可能とした状態で示すパチンコ機の正面図である。

【発明を実施するための形態】

【0094】

[1. パチンコ機の全体構造]

本発明の一実施形態であるパチンコ機1について、図面を参照して詳細に説明する。まず、図1乃至図10を参照して本実施形態のパチンコ機1の全体構成について説明する。図1は本発明の一実施形態であるパチンコ機の正面図である。図2はパチンコ機の右側面図であり、図3はパチンコ機の左側面図であり、図4はパチンコ機の背面図である。図5はパチンコ機を右前から見た斜視図であり、図6はパチンコ機を左前から見た斜視図であ

10

20

30

40

50

り、図7はパチンコ機を後ろから見た斜視図である。また、図8は本体枠から扉枠を開放させると共に、外枠から本体枠を開放させた状態で前から見たパチンコ機の斜視図である。図9はパチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して前から見た分解斜視図であり、図10はパチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【0095】

本実施形態のパチンコ機1は、遊技ホールの島設備（図示しない）に設置される枠状の外枠2と、外枠2の前面を開閉可能に閉鎖する扉枠3と、扉枠3を開閉可能に支持していると共に外枠2に開閉可能に取付けられている本体枠4と、本体枠4に前側から着脱可能に取付けられると共に扉枠3を通して遊技者側から視認可能とされ遊技者によって遊技球が打込まれる遊技領域5aを有した遊技盤5と、を備えている。

10

【0096】

パチンコ機1の外枠2は、図9及び図10等に示すように、上下に離間しており左右に延びている上枠部材10及び下枠部材20と、上枠部材10及び下枠部材20の両端同士を連結しており上下に延びている左枠部材30及び右枠部材40と、を備えている。上枠部材10、下枠部材20、左枠部材30、及び右枠部材40は、前後の幅が同じ幅に形成されている。また、上枠部材10及び下枠部材20の左右の長さに対して、左枠部材30及び右枠部材40の上下の長さが、長く形成されている。

【0097】

また、外枠2は、左枠部材30及び右枠部材40の下端同士を連結し下枠部材20の前側に取付けられる幕板部材50と、上枠部材10の正面視左端部側に取付けられている外枠側上ヒンジ部材60と、幕板部材50の正面視左端側上部と左枠部材30とに取付けられている外枠側下ヒンジ部材70と、を備えている。外枠2の外枠側上ヒンジ部材60と外枠側下ヒンジ部材70とによって、本体枠4及び扉枠3が開閉可能に取付けられている。

20

【0098】

パチンコ機1の扉枠3は、正面視の外形が上下に延びた四角形で前後に貫通している貫通口111を有した枠状の扉枠ベースユニット100と、扉枠ベースユニット100の貫通口111よりも下側で前面右下隅に取付けられており遊技球を遊技盤5の遊技領域5a内へ打込むために遊技者が操作可能なハンドルユニット300と、扉枠ベースユニット100の貫通口111よりも下側で前面下部に取付けられている皿ユニット320と、皿ユニット320の中央に取付けられており遊技領域5a内に遊技球が打込まれることで変化する遊技状態に応じて遊技者に参加型の演出を提示することが可能な演出操作ユニット400と、皿ユニット320の上側で扉枠ベースユニット100における貫通口111よりも左側の前面左部に取付けられている扉枠左サイドユニット540と、皿ユニット320の上側で扉枠ベースユニット100における貫通口111よりも右側の前面右部に取付けられている扉枠右サイドユニット550と、扉枠左サイドユニット540及び扉枠右サイドユニット550の上側で扉枠ベースユニット100における貫通口111よりも上側の前面上部に取付けられている扉枠トップユニット570と、を備えている。

30

【0099】

パチンコ機1の本体枠4は、一部が外枠2の枠内に挿入可能とされると共に遊技盤5の外周を支持可能とされた枠状の本体枠ベース600と、本体枠ベース600の正面視左側の上下両端に取付けられ外枠2の外枠側上ヒンジ部材60及び外枠側下ヒンジ部材70に夫々回転可能に取付けられると共に扉枠3の扉枠側上ヒンジ部材140及び扉枠側下ヒンジ部材150が夫々回転可能に取付けられる本体枠側上ヒンジ部材620及び本体枠側下ヒンジ部材640と、本体枠ベース600の正面視左側面に取付けられる補強フレーム660と、本体枠ベース600の前面下部に取付けられており遊技盤5の遊技領域5a内に遊技球を打込むための球発射装置680と、本体枠ベース600の正面視右側面に取付けられており外枠2と本体枠4、及び扉枠3と本体枠4の間を施錠する施錠ユニット700と、本体枠ベース600の正面視上辺及び左辺に沿って後側に取付けられており遊技者側

40

50

へ遊技球を払出す逆L字状の払出ユニット800と、本体枠ベース600の後面下部に取付けられている基板ユニット900と、本体枠ベース600の後側に開閉可能に取付けられ本体枠ベース600に取付けられた遊技盤5の後側を覆う裏カバー980と、を備えている。

【0100】

本体枠4の払出ユニット800は、本体枠ベース600の後側に取付けられる逆L字状の払出ユニットベース801と、払出ユニットベース801の上部に取付けられており上方へ開放された左右に延びた箱状で図示しない島設備から供給される遊技球を貯留する球タンク802と、球タンク802の下側で払出ユニットベース801に取付けられており球タンク802内の遊技球を正面視左方向へ誘導する左右に延びたタンクレール803と、払出ユニットベース801における正面視左側上部の後面に取付けられタンクレール803からの遊技球を蛇行状に下方へ誘導する球誘導ユニット820と、球誘導ユニット820の下側で払出ユニットベース801から着脱可能に取付けられており球誘導ユニット820により誘導された遊技球を払出制御基板ボックス950に収容された払出制御基板951からの指示に基づいて一つずつ払出す払出装置830と、払出ユニットベース801の後面に取付けられ払出装置830によって払出された遊技球を下方へ誘導すると共に皿ユニット320における上皿321での遊技球の貯留状態に応じて遊技球を通常放出口850d又は満タン放出口850eの何れかから放出させる上部満タン球経路ユニット850と、払出ユニットベース801の下端に取付けられ上部満タン球経路ユニット850の通常放出口850dから放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠3の貫通球通路273へ誘導する通常誘導路861及び満タン放出口850eから放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠3の満タン球受口274へ誘導する満タン誘導路862を有した下部満タン球経路ユニット860と、を備えている。

【0101】

本体枠4の基板ユニット900は、本体枠ベース600の後側に取付けられる基板ユニットベース910と、基板ユニットベース910の正面視左側で本体枠ベース600の後側に取付けられ内部に低音用のスピーカ921を有したスピーカユニット920と、基板ユニットベース910の後側で正面視右側に取付けられ内部に電源基板が収容されている電源基板ボックス930と、スピーカユニット920の後側に取付けられており内部にインターフェイス制御基板が収容されているインターフェイス制御基板ボックス940と、電源基板ボックス930及びインターフェイス制御基板ボックス940に跨って取付けられており内部に遊技球の払出しを制御する払出制御基板951が収容された払出制御基板ボックス950と、を備えている。

【0102】

パチンコ機1の遊技盤5は、図9及び図10等に示すように、遊技球が打込まれる遊技領域5aの外周を区画し球発射装置680から発射された遊技球を遊技領域5aの上部に案内する外レール1001及び内レール1002を有した前構成部材1000と、前構成部材1000の後側に取付けられると共に遊技領域5aの後端を区画する平板状の遊技パネル1100と、を備えている。

【0103】

本実施形態のパチンコ機1は、上皿321に遊技球を貯留した状態で、遊技者がハンドル302を回転操作すると、球発射装置680によってハンドル302の回転角度に応じた強さで遊技球が遊技盤5の遊技領域5a内へ打込まれる。そして、遊技領域5a内に打込まれた遊技球が、入賞口に受入れられると、受入れられた入賞口に応じて、所定数の遊技球が払出装置830によって上皿321に払出される。この遊技球の払出しによって遊技者の興味を高めることができるため、上皿321内の遊技球を遊技領域5a内へ打込ませることができる、遊技者に遊技を楽しませることができる。

【0104】

[2. 外枠の全体構成]

パチンコ機1の外枠2について、図11乃至図16を参照して説明する。図11はパチ

10

20

30

40

50

ンコ機における外枠の正面図であり、図 1 2 は外枠の右側面図である。また、図 1 3 は外枠を前から見た斜視図であり、図 1 4 は外枠を後ろから見た斜視図である。図 1 5 は、外枠を分解して前から見た分解斜視図である。図 1 6 (a) は外枠における外枠側上ヒンジ部材の部位を、左枠部材を省略して下側から見た斜視図であり、(b) は(a)を分解して示す分解斜視図である。外枠 2 は、遊技ホール等のパチンコ機 1 が設置される島設備（図示は省略）に取付けられるものである。

【0105】

外枠 2 は、図示するように、上下に離間しており左右に延びている上枠部材 1 0 及び下枠部材 2 0 と、上枠部材 1 0 及び下枠部材 2 0 の両端同士を連結しており上下に延びている左枠部材 3 0 及び右枠部材 4 0 と、を備えている。上枠部材 1 0、下枠部材 2 0、左枠部材 3 0、及び右枠部材 4 0 は、前後の幅が同じ幅に形成されている。また、上枠部材 1 0 及び下枠部材 2 0 の左右の長さに対して、左枠部材 3 0 及び右枠部材 4 0 の上下の長さが、長く形成されている。また、外枠 2 は、上枠部材 1 0 及び下枠部材 2 0 の左右両端面と、左枠部材 3 0 及び右枠部材 4 0 の左右方向の外側を向いた側面とが、同一面となるように組立てられている。

【0106】

また、外枠 2 は、上枠部材 1 0 の正面視左端部側に取付けられている外枠側上ヒンジ部材 6 0 と、外枠側上ヒンジ部材 6 0 の下面に取付けられているロック部材 6 6 と、幕板部材 5 0 の正面視左端側上部と左枠部材 3 0 とに取付けられている外枠側下ヒンジ部材 7 0 と、を備えている。外枠 2 の外枠側上ヒンジ部材 6 0 と外枠側下ヒンジ部材 7 0 とによって、本体枠 4 及び扉枠 3 を開閉可能に取付けることができる。

【0107】

また、外枠 2 は、左枠部材 3 0 及び右枠部材 4 0 の下端同士を連結し下枠部材 2 0 の前側に取付けられる幕板部材 5 0 と、幕板部材 5 0 の後側に取付けられていると共に両端が左枠部材 3 0 及び右枠部材 4 0 に夫々取付けられる幕板補強部材 8 0 と、幕板部材 5 0 の上面における左右中央から左寄りの位置に取付けられている平板状の左滑り部材 8 1 と、幕板部材 5 0 の上面における右端付近の位置に取付けられている平板状の右滑り部材 8 2 と、を備えている。幕板補強部材 8 0 は、中実の部材（例えば、木材、合板、等）によって形成されており、下枠部材 2 0、左枠部材 3 0、及び右枠部材 4 0 に、取付けられている。

【0108】

更に、外枠 2 は、上枠部材 1 0 と左枠部材 3 0、上枠部材 1 0 と右枠部材 4 0、下枠部材 2 0 と左枠部材 3 0、及び下枠部材 2 0 と右枠部材 4 0 を、夫々連結している連結部材 8 5 を備えている。また、外枠 2 は、右枠部材 4 0 の内側（左側面側）に取付けられており後述する施錠ユニット 7 0 0 の外枠用鉤 7 0 3 が係止される上鉤掛部材 9 0 及び下鉤掛部材 9 1 を、備えている。

【0109】

[2-1. 上枠部材]

外枠 2 の上枠部材 1 0 は、所定厚さの無垢（中実）の材料（例えば、木材、合板、等）によって形成されている。この上枠部材 1 0 は、左右両端における前後方向の中央に、上下に貫通しており左右方向中央側へ窪んだ係合切欠部 1 1 を備えている。この係合切欠部 1 1 内には、連結部材 8 5 の後述する左上連結部材 8 5 A 及び右上連結部材 8 5 B の上横固定部 8 7 が取付けられる。また、上枠部材 1 0 は、正面視左側端部の上面と前面に、一般面よりも窪んだ取付段部 1 2 を備えている。この取付段部 1 2 には、外枠側上ヒンジ部材 6 0 が取付けられる。

【0110】

[2-2. 下枠部材]

外枠 2 の下枠部材 2 0 は、所定厚さの無垢（中実）の材料（例えば、木材、合板、等）によって形成されている。この下枠部材 2 0 は、左右の長さ及び上下の厚さが、上枠部材 1 0 の左右の長さ及び上下の厚さと同じ寸法に形成されていると共に、前後の幅が、上枠

部材 10 の前後の幅よりも長く形成されている。下枠部材 20 は、左右両端における前後方向の中央よりも後側寄りの位置に、上下に貫通しており左右方向中央側へ窪んだ係合切欠部 21 を備えている。この係合切欠部 21 内には、連結部材 85 の後述する左下連結部材 85C 及び右下連結部材 85D の下横固定部 88 が取付けられる。

【0111】

また、下枠部材 20 は、左右両端の前面から後方へ窪んだ前端切欠部 22 を備えている。下枠部材 20 において、前端切欠部 22 の後端から下枠部材 20 の後面までの前後方向の幅が、上枠部材 10 の前後方向の幅と同じ寸法に形成されている。この下枠部材 20 は、外枠 2 に組立てた状態で、左右の前端切欠部 22 同士の間部位が、幕板部材 50 内に挿入される。

10

【0112】

[2-3. 左枠部材及び右枠部材]

外枠 2 の左枠部材 30 及び右枠部材 40 は、一定の断面形状で上下に延びており、アルミ合金等の金属の押出型材によって形成されている。左枠部材 30 及び右枠部材 40 は、平面視において互いに対称の形状に形成されている。左枠部材 30 及び右枠部材 40 は、外枠 2 として組立てた時に、左右方向の外側となる側面において、前後方向中央に対して後寄りの位置から後端付近までの間に、内側へ窪んだ凹部 31, 41 と、凹部 31, 41 の反対側の側面から膨出しており内部が空洞に形成されている突出部 32, 42 と、を備えている。この左枠部材 30 及び右枠部材 40 は、突出部 32, 42 によって、強度・剛性が高められている。また、突出部 32, 42 内には、連結部材 85 の後述する左上連結部材 85A 及び右上連結部材 85B の後側の下横固定部 88 が挿入されて取付けられる。

20

【0113】

また、左枠部材 30 及び右枠部材 40 は、表面に上下に延びた複数の溝が形成されている。この複数の溝によって、パチンコ機 1 を遊技ホール等の島設備に設置したり運搬したりする等の際に、作業者の指掛りとなってパチンコ機 1 を持ち易くすることができると共に、パチンコ機 1 の外観の意匠性を高めることができる。

【0114】

[2-4. 幕板部材]

外枠 2 の幕板部材 50 は、後側が開放された箱状に形成されている。幕板部材 50 は、上面における正面視左端付近に後方へ平板状に延出している後方延出部 51 と、後方延出部 51 の左端から遊技球が通過可能な大きさで U 字状に切欠かれており上下に貫通している左排出孔 52 と、後方延出部 51 における左排出孔 52 の右側において遊技球が通過可能な大きさで上下に貫通している右排出孔 53 と、後方延出部 51 の後端を含む幕板部材 50 の上面の後端から上方へ平板状に延出している立壁部 54 と、立壁部 54 の上端付近から前方へ膨出しており前面が上方へ向かうに従って後方へ向かうように傾斜している返し部 55 と、を備えている。

30

【0115】

幕板部材 50 は、後方延出部 51 の前側の上面と、後方延出部 51 の上面とに、外枠側下ヒンジ部材 70 が載置されるように、外枠側下ヒンジ部材 70 の後述する水平部 71 が取付けられる。また、幕板部材 50 の左排出孔 52 は、外枠 2 に組立てた状態で外枠側下ヒンジ部材 70 の後述する排出孔 74 と一致する位置に形成されている。また、右排出孔 53 は、外枠 2 に組立てた状態で外枠側下ヒンジ部材 70 よりも右側となる位置に形成されている。右排出孔 53 は、左排出孔 52 よりも大きく形成されている。

40

【0116】

また、幕板部材 50 は、後方延出部 51 よりも右側の上面が、前端側が低くなるように傾斜している。また、幕板部材 50 は、上面における後方延出部 51 よりも右側の部位に左滑り部材 81 を取付けるための左取付部 56 と、上面における右端付近に右滑り部材 82 を取付けるための右取付部 57 と、を備えている。幕板部材 50 は、上面に、左滑り部材 81 及び右滑り部材 82 を介して本体枠 4 の下面が載置される。

【0117】

50

この幕板部材 50 は、図示するように、前面に浅いレリーフ状の装飾が形成されている。また、幕板部材 50 は、図示は省略するが、箱状の内部が複数のリブによって格子状に仕切られており、強度・剛性が高められている。また、幕板部材 50 は、幕板補強部材 80 の前側半分を、内部に収容可能に形成されている。

【0118】

[2-5. 外枠側上ヒンジ部材]

外枠 2 の外枠側上ヒンジ部材 60 は、図示するように、水平に延びた平板状で外形が四角形の上固定部 61 と、上固定部 61 の前端から前方へ延出している平板状の前方延出部 62 と、前方延出部 62 の右端から前方へ向かうに従って前方延出部 62 の左右中央へ延びており上下に貫通している軸受溝 63 と、上固定部 61 の平面視左辺から下方へ延びて 10
いる平板状の横固定部 64 と、前方延出部 62 の左端から前端を周って軸受溝 63 が開口している部位までの端辺から下方へ延びており横固定部 64 と連続している平板状の垂下部 65 と、を備えている（図 16（b）等を参照）。

【0119】

外枠側上ヒンジ部材 60 は、外枠 2 が組立てられた状態で、上固定部 61 が、上枠部材 10 の取付段部 12 の上面に載置されており、図示しないビスによって固定されている。また、前方延出部 62 は、上枠部材 10 の前端よりも前方へ延出している。また、横固定部 64 は、左枠部材 30 の外側側面の凹部 31 内に上側から挿入された状態で、ビスによって左枠部材 30 に固定されている。

【0120】

この外枠側上ヒンジ部材 60 は、軸受溝 63 内に本体枠側上ヒンジ部材 620 の本体枠上ヒンジピン 622 を挿入させることで、外枠側下ヒンジ部材 70 と協働して本体枠 4 を開閉可能に支持することができる。この外枠側上ヒンジ部材 60 は、金属板をプレス成型により屈曲させて形成されている。

【0121】

[2-6. ロック部材]

外枠 2 のロック部材 66 は、図 16 に示すように、左右が所定幅で前後に延びている帯板状のロック本体 66a と、ロック本体 66a の後端から右方へ突出している操作部 66b と、ロック本体 66a の後端から左方へ延びた後に斜め左前方へ延びている弾性変形可能な棒状の弾性部 66c と、ロック本体 66a の後端付近で上下に貫通している取付孔 66d と、を備えている。このロック部材 66 は、合成樹脂によって形成されている。ロック部材 66 は、取付ビス 67 によって、外枠側上ヒンジ部材 60 における前方延出部 62 30
の下面に回動可能に取付けられる。

【0122】

このロック部材 66 は、取付孔 66d を通して、ロック本体 66a の後端が、外枠側上ヒンジ部材 60 の前方延出部 62 における軸受溝 63 よりも後側の位置に取付けられる。また、ロック部材 66 を外枠側上ヒンジ部材 60 に取付けた状態では、ロック本体 66a が、平面視で軸受溝 63 を遮ることができると共に、前端付近の右側面が、外枠側上ヒンジ部材 60 の垂下部 65 における軸受溝 63 の開口まで延びている部位と当接可能となるように前方へ延びている（図 18 を参照）。 40

【0123】

また、ロック本体 66a の後端から左方へ延びている弾性部 66c の先端は、外枠側上ヒンジ部材 60 における垂下部 65 の内周面に当接している。このロック部材 66 は、弾性部 66c の付勢力によって取付孔 66d を中心に、前端が左方へ回動する方向に付勢されている。従って、通常の状態では、ロック部材 66 のロック本体 66a の前端付近の右側面が、垂下部 65 に当接している（図 18 を参照）。この状態では、軸受溝 63 におけるロック本体 66a よりも前側の部位に、本体枠側上ヒンジ部材 620 の後述する本体枠上ヒンジピン 622 を収容可能な空間が形成される。

【0124】

このロック部材 66 は、操作部 66b を操作することで、弾性部 66c の付勢力に抗し 50

てロック本体 6 6 a を回動させることができる。そして、操作部 6 6 b の操作によって、ロック本体 6 6 a を、その前端が左方へ移動する方向へ回動させることで、平面視において軸受溝 6 3 からロック本体 6 6 a を後退させることができ、軸受溝 6 3 が全通している状態とすることができる。これにより、軸受溝 6 3 内に本体枠上ヒンジピン 6 2 2 を挿入したり、軸受溝 6 3 内から本体枠上ヒンジピン 6 2 2 を外したりすることができる。

【0125】

[2-7. 外枠側下ヒンジ部材]

外枠 2 の外枠側下ヒンジ部材 7 0 は、図示するように、水平に延びている平板状の水平部 7 1 と、水平部 7 1 の左辺において前後方向中央よりも後側の部位から上方へ立上っている平板状の立上り部 7 2 と、水平部 7 1 の前端付近から上方へ突出している外枠下ヒンジピン 7 3 と、水平部 7 1 を上下に貫通しており遊技球が一つのみ通過可能な大きさの排出孔 7 4 と、を備えている。この外枠側下ヒンジ部材 7 0 は、金属板をプレス成型により屈曲させて形成されている。

10

【0126】

外枠側下ヒンジ部材 7 0 の水平部 7 1 は、平面視において、左辺を底辺とした台形に形成されている。外枠下ヒンジピン 7 3 は、円柱状で、上下方向中央よりも上部が、上端が窄まった円錐台状に形成されている。この外枠下ヒンジピン 7 3 は、水平部 7 1 の前端付近における左寄りの位置に取付けられている。排出孔 7 4 は、水平部 7 1 において、立上り部 7 2 の前後方向中央の部位と接し、水平部 7 1 の左辺から右方へ逆 U 字状に延びるように形成されている。この排出孔 7 4 は、幕板部材 5 0 の左排出孔 5 2 と、略同じ大きさに形成されている。

20

【0127】

外枠側下ヒンジ部材 7 0 は、外枠 2 が組立てられた状態では、水平部 7 1 が、幕板部材 5 0 の左端付近の上面と後方延出部 5 1 上に載置されており、水平部 7 1 が、幕板部材 5 0 の上面を貫通する図示しないビスによって幕板補強部材 8 0 に固定されている。また、外枠 2 が組立てられた状態では、立上り部 7 2 が、左枠部材 3 0 の内側側面における突出部 3 2 よりも前側の部位に、図示しないビスによって取付けられている。この外枠側下ヒンジ部材 7 0 は、外枠下ヒンジピン 7 3 を、本体枠 4 の本体枠側下ヒンジ部材 6 4 0 における本体枠用下ヒンジ孔（図示は省略）に挿通させることで、外枠側上ヒンジ部材 6 0 と協働して本体枠 4 を開閉可能に取付けることができる。

30

【0128】

また、外枠 2 が組立てられた状態では、排出孔 7 4 が、幕板部材 5 0 の左排出孔 5 2 と一致している。これにより、水平部 7 1 上の遊技球を、排出孔 7 4 及び左排出孔 5 2 を通して、幕板部材 5 0 の後側へ落下（排出）させることができる。詳述すると、外枠 2 に対して本体枠 4 を閉じる時に、外枠 2 と本体枠 4 との間に落下した遊技球が、本体枠 4 が閉じられるのに従って、外枠 2 と本体枠 4 との間が徐々に狭くなることから、間隔が広い後方側へ転動とすることとなり、排出孔 7 4 から排出させることができる。この際に、排出孔 7 4 が、パチンコ機 1 に組立てた状態で、外枠 2 に対して本体枠 4 を閉じた時に、本体枠 4 の後端と略同じとなる位置に形成されているため、外枠 2 と本体枠 4 との間に落下した遊技球を、排出孔 7 4 から排出させることで本体枠 4 よりも後側へ転動するのを阻止し易くすることができる。外枠側下ヒンジ部材 7 0 の部位に遊技球が留まり難くすることができる。

40

【0129】

[2-8. 連結部材]

外枠 2 の連結部材 8 5 は、上枠部材 1 0 と左枠部材 3 0 とを連結する左上連結部材 8 5 A と、上枠部材 1 0 と右枠部材 4 0 とを連結する右上連結部材 8 5 B と、下枠部材 2 0 と左枠部材 3 0 とを連結する左下連結部材 8 5 C と、下枠部材 2 0 と右枠部材 4 0 とを連結する右下連結部材 8 5 D と、がある。

【0130】

連結部材 8 5 は、水平に延びた平板状の水平固定部 8 6 と、水平固定部 8 6 の左右側辺

50

の何れか一方から上方へ延出している平板状の上横固定部 8 7 と、水平固定部 8 6 における上横固定部 8 7 が延出している部位と同じ側から下方へ延出している平板状の下横固定部 8 8 と、を備えている。この連結部材 8 5 は、平板状の金属板を屈曲させて形成されている。

【0131】

左上連結部材 8 5 A 及び右上連結部材 8 5 B では、水平固定部 8 6 の前後方向の中央から上横固定部 8 7 が上方へ延出していると共に、上横固定部 8 7 の前後両側から下横固定部 8 8 が下方へ延出している。つまり、左上連結部材 8 5 A 及び右上連結部材 8 5 B では、下横固定部 8 8 が前後に離間して二つ備えられている。左上連結部材 8 5 A 及び右上連結部材 8 5 B の水平固定部 8 6 は、上枠部材 1 0 の下面に当接した状態で上枠部材 1 0 に固定される。また、左上連結部材 8 5 A 及び右上連結部材 8 5 B の上横固定部 8 7 は、上枠部材 1 0 の係合切欠部 2 1 内に挿入されて、上枠部材 1 0 の左右方向の端部に固定される。また、左上連結部材 8 5 A 及び右上連結部材 8 5 B の前側の下横固定部 8 8 は、左枠部材 3 0 及び右枠部材 4 0 の突出部 3 2, 4 2 よりも前側の内側側面に夫々固定される。更に、左上連結部材 8 5 A 及び右上連結部材 8 5 B の後側の下横固定部 8 8 は、左枠部材 3 0 及び右枠部材 4 0 の突出部 3 2, 4 2 内に挿入されて外側側面から掬込まれるビスにより左枠部材 3 0 及び右枠部材 4 0 に夫々固定される。

【0132】

左下連結部材 8 5 C 及び右下連結部材 8 5 D では、上横固定部 8 7 の後端が、水平固定部 8 6 の後端よりも後方へ突出していると共に、上横固定部 8 7 の水平固定部 8 6 よりも後方へ突出している部位の下端から下横固定部 8 8 が水平固定部 8 6 よりも下方へ延出している。また、左下連結部材 8 5 C 及び右下連結部材 8 5 D では、上横固定部 8 7 の後端から水平固定部 8 6 と同じ側へ突出している屈曲部 8 9 を更に備えている。左下連結部材 8 5 C 及び右下連結部材 8 5 D の水平固定部 8 6 は、下枠部材 2 0 の上面に当接した状態で固定される。また、左下連結部材 8 5 C 及び右下連結部材 8 5 D の上横固定部 8 7 は、左枠部材 3 0 及び右枠部材 4 0 の突出部 3 2, 4 2 よりも前側の内側側面に夫々固定される。更に、左下連結部材 8 5 C 及び右下連結部材 8 5 D の下横固定部 8 8 は、下枠部材 2 0 の係合切欠部 2 1 内に挿入されて下枠部材 2 0 の左右方向の端部面に夫々固定される。

【0133】

[2-9. 外枠側上ヒンジ部材のロック機構]

次に、本実施形態のパチンコ機 1 の外枠 2 において、外枠側上ヒンジ部材 6 0 におけるロック部材 6 6 による本体枠 4 の本体枠側上ヒンジ部材 6 2 0 に対するロック機構について、図 1 7 及び図 1 8 を参照して説明する。図 1 7 (a) は外枠の外枠側上ヒンジ部材に対して本体枠の本体枠側上ヒンジ部材が取外されている状態を拡大して示す斜視図であり、(b) は外側上ヒンジ部材に本体側上ヒンジ部材が取り付けられている状態を拡大して示す斜視図である。図 1 8 は、外枠におけるロック部材の作用を示す説明図である。

【0134】

外枠 2 におけるロック部材 6 6 は、外枠側上ヒンジ部材 6 0 の前方延出部 6 2 に取付けた状態（通常の状態）では、弾性部 6 6 c の先端が垂下部 6 5 の内周面と当接しており、ロック本体 6 6 a がく字状に屈曲した軸受溝 6 3 の一部を閉塞するようになっていると共に、ロック本体 6 6 a の先端部分が、軸受溝 6 3 の最深部分を閉塞した状態とはならず、軸受溝 6 3 の最深部分に本体枠 4 の本体枠側上ヒンジ部材 6 2 0 の本体枠上ヒンジピン 6 2 2 を挿入可能な空間が形成された状態となっている。

【0135】

本実施形態における外枠側上ヒンジ部材 6 0 とロック部材 6 6 とを用いた本体枠上ヒンジピン 6 2 2 の支持機構は、本体枠上ヒンジピン 6 2 2 が軸受溝 6 3 の最深部分に挿入されてロック本体 6 6 a の前端の右側面が、右側の垂下部 6 5 と接近している状態（この状態ではロック本体 6 6 a の前端の右側面と右側の垂下部 6 5 との間に僅かな隙間があり当接した状態となっていない）である通常の軸支状態においては、屈曲している軸受溝 6 3 の最深部分に位置する本体枠上ヒンジピン 6 2 2 とロック本体 6 6 a の前端面との夫々の

中心が斜め方向にずれて対向した状態となっている。

【0136】

そして、この通常の軸支状態においては、重量のある本体枠4を軸支している本体枠上ヒンジピン622が軸受溝63の前端部分に当接した状態となっているので、本体枠上ヒンジピン622からロック本体66aの前端面への負荷がほとんどかかっていない。つまり、ロック部材66の弾性部66cに対し負荷がかかっていない状態となっている。なお、ロック本体66aの前端面が円弧状に形成されているため、ロック部材66を回動させるために操作部66bを回動操作した時に、ロック部材66がスムーズに回動するようになっている。また、図示では、ロック本体66aの前端面の円弧中心が、取付孔66dの中心（ロック部材66の回転中心）とされている。

10

【0137】

従って、本体枠上ヒンジピン622がく字状に形成された軸受溝63の傾斜に沿って抜ける方向に作用力Fがかかって、ロック本体66aの円弧状の前端面に当接したとき、その作用力Fを、本体枠上ヒンジピン622と円弧状の前端面との当接部分に作用する分力F1（ロック本体66aの前端面の円弧の法線方向）と、本体枠上ヒンジピン622と軸受溝63の一侧内面との当接部分に作用する分力F2と、に分けたときに、分力F1の方向が取付孔66d（取付ビス67）の中心（ロック部材66の回転中心）を向くため、ロック部材66のロック本体66aの前端が、右側の垂下部65から離れる方向に回転させるモーメントが働かず、本体枠上ヒンジピン622がロック部材66のロック本体66aの前端部と軸受溝63の一侧内面との間に挟持された状態が保持される。

20

【0138】

このため、通常の軸支状態、或は、本体枠上ヒンジピン622の作用力がロック部材66にかかった状態でも、ロック部材66の弾性部66cに常時負荷がかからず、合成樹脂で一体形成される弾性部66cのクリープによる塑性変形を防止し、長期間に亘って本体枠上ヒンジピン622の軸受溝63からの脱落を防止することができる。なお、仮に無理な力がかかってロック部材66のロック本体66aの前端部が右方へ移動する方向へ回転させられても、ロック本体66aの前端右側面が垂下部65に当接してそれ以上回転しないので、ロック部材66が前方延出部62の外側にはみ出ないようになっている。

【0139】

なお、ロック本体66aの前端面の形状は円弧状でなくても、上記した分力F1の作用により回転モーメントが生じない位置又はロック部材66をその前端部が前方延出部62の外側に向って回転させる回転モーメントが生ずる位置にロック部材66の回転中心（取付ビス67により固定される軸）を位置させることにより、常時ロック部材66の弾性部66cに対しても負荷がかかることはないし、ロック部材66が回転してもロック本体66aの前端の右側面が垂下部65に当接するだけであるため、ロック部材66が前方延出部62の外側にはみ出ることもない。

30

【0140】

外枠側上ヒンジ部材60の軸受溝63に、本体枠側上ヒンジ部材620の本体枠上ヒンジピン622を支持させる場合は、軸受溝63の開放されている側から軸受溝63内に本体枠上ヒンジピン622を挿入する。軸受溝63内に本体枠上ヒンジピン622を挿入すると、ロック部材66のロック本体66aの右側面に本体枠上ヒンジピン622が当接し、弾性部66cの付勢力に抗してロック本体66aの前端が左方へ移動するようにロック部材66が取付ビス67を中心に回動する。これにより、軸受溝63を閉鎖していたロック本体66aが後退して軸受溝63が開放され、軸受溝63の最深部（前端）へ本体枠上ヒンジピン622を移動させることができるようになる。

40

【0141】

そして、軸受溝63の最深部に本体枠上ヒンジピン622を移動させると、本体枠上ヒンジピン622とロック部材66のロック本体66aとの当接が解除され、弾性部66cの付勢力によってロック本体66aの前端が右方へ移動するようにロック部材66が回動し、ロック部材66が通常の状態に復帰する。これにより、本体枠上ヒンジピン622が

50

、軸受溝 6 3 内におけるロック本体 6 6 a の前端よりも前側の空間に収容された状態となり、本体枠上ヒンジピン 6 2 2 が、軸受溝 6 3 の最深部において回動可能な状態で保持（ロック）された状態となる。

【0142】

軸受溝 6 3 内から本体枠上ヒンジピン 6 2 2 を取外す場合は、ロック部材 6 6 の操作部 6 6 b を操作して、ロック本体 6 6 a の前端が左方へ移動するようにロック部材 6 6 を回動させ、弾性部 6 6 c の付勢力に抗して軸受溝 6 3 からロック本体 6 6 a を後退させる。これにより、軸受溝 6 3 の最深部と開口部とが連通した状態となり、軸受溝 6 3 から本体枠上ヒンジピン 6 2 2 を取外すことができる。

【0143】

[2-10. 外枠側下ヒンジ部材の部位における防犯機構と球噛み防止機構]

本実施形態のパチンコ機 1 における外枠 2 の外枠側下ヒンジ部材 7 0 の部位における防犯機構と外枠 2 と本体枠 4 との間に遊技球が挟まれるのを防止するための球噛み防止機構について説明する。

【0144】

外枠 2 は、組立てた状態では、幕板部材 5 0 の上面における正面視左端部に外枠側下ヒンジ部材 7 0 が取付けられている。外枠側下ヒンジ部材 7 0 の水平部 7 1 は、幕板部材 5 0 の上面の左端付近と後方延出部 5 1 の上面とに載置された状態で取付けられている。この幕板部材 5 0 には、上面の後端から上方へ立上っている立壁部 5 4 を備えている。これにより、外枠側下ヒンジ部材 7 0 と本体枠側下ヒンジ部材 6 4 0 との間の隙間を通して、本体枠 4（パチンコ機 1）の後側へピアノ線等の不正な工具を侵入させようとしても、不正な工具の先端が幕板部材 5 0 の上面の後端から上方へ延出している立壁部 5 4 に当接するため、不正な工具がこれ以上後側へ挿入されるのを阻止することができ、外枠側下ヒンジ部材 7 0 の部位を介して不正行為が行われるのを防止することができる。

【0145】

また、立壁部 5 4 の上端に、前方へ延出している返し部 5 5 を備えているため、立壁部 5 4 に当接した不正な工具が上方へ曲がった場合、返し部 5 5 によって不正な工具の先端を更に前方へ折返させることができるため、本体枠 4 の後側に不正な工具が侵入させられるのを阻止することができ、外枠側下ヒンジ部材 7 0 の部位を介して不正行為が行われるのを確実に阻止することができる。

【0146】

ところで、幕板部材 5 0 の上面の後端に上方へ延出している立壁部 5 4 を備えるようにした場合、外枠 2 に対して本体枠 4 を開いている状態で、遊技球が外枠側下ヒンジ部材 7 0（水平部 7 1）上に落下した場合、水平部 7 1 上の遊技球が、立壁部 5 4 の存在によって水平部 7 1 の後端から後方へ排出されないため、外枠 2 と本体枠 4 との間に挟まれてしまう虞がある。これに対して、本実施形態では、外枠側下ヒンジ部材 7 0 の水平部 7 1 と、幕板部材 5 0 の後方延出部 5 1 とに、遊技球が通過可能な排出孔 7 4、左排出孔 5 2、及び右排出孔 5 3 を備えているため、外枠側下ヒンジ部材 7 0 の水平部 7 1 上の遊技球を、排出孔 7 4 等から下方へ排出することができ、外枠 2 と本体枠 4 との間に遊技球が挟まれるのを低減させることができる。

【0147】

従って、外枠 2 と本体枠 4 との間に遊技球が挟まれることで、外枠側下ヒンジ部材 7 0 の周りが破損したり、本体枠 4 が正常な状態で閉まらずに外枠 2 と本体枠 4 との間に隙間ができてしまい、その隙間を使って不正行為が行われてしまったりするのを防止することができる。

【0148】

[3. 扉枠の全体構成]

パチンコ機 1 の扉枠 3 について、図 19 乃至図 30 を参照して説明する。図 19 はパチンコ機における扉枠の正面図であり、図 20 は扉枠の右側面図であり、図 21 は扉枠の左側面図であり、図 22 は扉枠の背面図である。図 23 は扉枠を右前から見た斜視図であり

10

20

30

40

50

、図 2 4 は扉枠を左前から見た斜視図であり、図 2 5 は扉枠を後ろから見た斜視図である。図 2 6 は図 1 9 における A－A 線で切断した断面図であり、図 2 7 は図 1 9 における B－B 線で切断した断面図であり、図 2 8 は図 1 9 における C－C 線で切断した断面図である。図 2 9 は扉枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図 3 0 は扉枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【0149】

扉枠 3 は、図 2 9 及び図 3 0 等に示すように、正面視の外形が上下に延びた四角形で枠状の扉枠ベースユニット 1 0 0 と、扉枠ベースユニット 1 0 0 の前面右下隅に取付けられているハンドルユニット 3 0 0 と、扉枠ベースユニット 1 0 0 の前面下部に取付けられている皿ユニット 3 2 0 と、皿ユニット 3 2 0 の中央に取付けられている演出操作ユニット 4 0 0 と、皿ユニット 3 2 0 の上側で扉枠ベースユニット 1 0 0 の前面左部に取付けられている扉枠左サイドユニット 5 4 0 と、皿ユニット 3 2 0 の上側で扉枠ベースユニット 1 0 0 の前面右部に取付けられている扉枠右サイドユニット 5 5 0 と、扉枠左サイドユニット 5 4 0 及び扉枠右サイドユニット 5 5 0 の上側で扉枠ベースユニット 1 0 0 の前面上部に取付けられている扉枠トップユニット 5 7 0 と、を備えている。

【0150】

扉枠 3 の扉枠ベースユニット 1 0 0 は、詳細は後述するが、正面視の外形が上下に延びた長方形（四角形）で前後に貫通している貫通口 1 1 1 を有した板状の扉枠ベース 1 1 0 と、扉枠ベース 1 1 0 の後側に取付けられている枠状の補強ユニット 1 3 0 と、補強ユニット 1 3 0 の正面視左端側の上下両端に取付けられており本体枠 4 に対してヒンジ回転可能に取付けられる扉枠側上ヒンジ部材 1 4 0 及び扉枠側下ヒンジ部材 1 5 0 と、扉枠ベース 1 1 0 の後面に取付けられ貫通口 1 1 1 を閉鎖するガラスユニット 1 9 0 と、ガラスユニット 1 9 0 の後面下部を覆う防犯カバー 2 0 0 と、扉枠ベース 1 1 0 の後面に扉枠ベース 1 1 0 を貫通して前方に突出するように取付けられ開閉可能とされている扉枠 3 と本体枠 4、及び本体枠 4 と外枠 2 との間を施錠するための開閉シリンダユニット 2 1 0 と、扉枠ベース 1 1 0 の後面下部に取付けられ遊技球を球発射装置 6 8 0 に送るための球送りユニット 2 5 0 と、扉枠ベース 1 1 0 の後面下部に取付けられ球発射装置 6 8 0 により発射されて遊技領域 5 a 内に到達しなかった遊技球を受けて下皿 3 2 2 へ排出させるファールカバーユニット 2 7 0 と、を備えている。

【0151】

扉枠 3 のハンドルユニット 3 0 0 は、詳細は後述するが、回転可能なハンドル 3 0 2 を遊技者が回転操作することで、上皿 3 2 1 内に貯留されている遊技球を、ハンドル 3 0 2 の回転角度に応じた強さで遊技盤 5 の遊技領域 5 a 内に打込むことができるものである。

【0152】

扉枠 3 の皿ユニット 3 2 0 は、詳細は後述するが、扉枠ベースユニット 1 0 0 における扉枠ベース 1 1 0 の前面において貫通口 1 1 1 の下側の部位に取付けられ、前面が前方へ膨出していると共に、左右方向中央の前端に演出操作ユニット 4 0 0 が取付けられる。皿ユニット 3 2 0 は、遊技領域 5 a 内に打込むための遊技球を貯留する上皿 3 2 1 と、上皿 3 2 1 の下側に配置されており上皿 3 2 1 やファールカバーユニット 2 7 0 から供給される遊技球を貯留可能な下皿 3 2 2 と、上皿 3 2 1 に貯留されている遊技球を下皿 3 2 2 へ抜くための上皿球抜きボタン 3 2 7 と、球貸機に投入した現金やプリペイドカードの残金の範囲内で遊技者に遊技球を貸し出すための球貸ボタン 3 2 8 と、球貸機から貸出された遊技球の分を差し引いた現金やプリペイドカードを返却させるための返却ボタン 3 2 9 と、球貸機に投入した現金やプリペイドカードの残数等を表示する球貸返却表示部 3 3 0 と、演出提示時に遊技者の操作が受付可能とされている演出選択左ボタン 3 3 1 及び演出選択右ボタン 3 3 2 と、下皿 3 2 2 内の遊技球を皿ユニット 3 2 0 の下方へ排出するための下皿球抜きボタン 3 3 3 と、を備えている。

【0153】

扉枠 3 の演出操作ユニット 4 0 0 は、皿ユニット 3 2 0 の正面視左右方向中央の前部に取付けられるものであり、遊技者が押圧操作することができると共に、遊技者に対して演

出画像を提示することができるものである。この演出操作ユニット４００は、詳細は後述するが、遊技者が操作可能な大型の操作ボタン４１０と、操作ボタン４１０内に遊技者側から視認可能に配置され演出画像を表示可能な扉枠側演出表示装置４６０と、を備えている。

【０１５４】

扉枠３の扉枠左サイドユニット５４０は、詳細な内容は後述するが、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも左側の前面左部に取付けられ、貫通口１１１（遊技領域５ａ）の左外側を装飾するものである。扉枠左サイドユニット５４０は、発光装飾可能な左ユニット装飾レンズ部材（図示は省略）を備えている。

【０１５５】

扉枠３の扉枠右サイドユニット５５０は、詳細な内容は後述するが、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも右側の前面右部に取付けられ、貫通口１１１（遊技領域５ａ）の右外側を装飾するものである。この扉枠右サイドユニット５５０は、扉枠左サイドユニット５４０よりも前方へ大きく突出しており、左右両面側に備えられている右ユニット左装飾部材５５４及び右ユニット右装飾部材５５７と、前端に備えられている右ユニット装飾レンズ部材５６１と、を備えている。扉枠右サイドユニット５５０は、右ユニット左装飾部材５５４、右ユニット右装飾部材５５７、及び右ユニット装飾レンズ部材５６１を発光装飾させることができる。

【０１５６】

扉枠３の扉枠トップユニット５７０は、扉枠左サイドユニット５４０及び扉枠右サイドユニット５５０の上側で扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０の前面における貫通口１１１の上側に取付けられ、扉枠３の上部を装飾するものである。扉枠トップユニット５７０は、詳細な内容は後述するが、左右に離間した一对の上部スピーカ５７３と、前面中央で前方へ突出しているトップ中装飾部材５７６と、トップ中装飾部材５７６の左右両側を装飾しているトップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０と、を備えている。扉枠トップユニット５７０は、トップ中装飾部材５７６、トップ左装飾レンズ部材５７９、及びトップ右装飾レンズ部材５８０を発光装飾させることができる。

【０１５７】

〔３－１．扉枠ベースユニットの全体構成〕

扉枠３の扉枠ベースユニット１００について、図３１乃至図３３を参照して詳細に説明する。図３１（ａ）は扉枠における扉枠ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠ベースユニットを後ろから見た斜視図である。図３２は扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図３３は扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【０１５８】

扉枠ベースユニット１００は、正面視左辺側が本体枠４の前面を閉鎖するように本体枠４に対して開閉可能（ヒンジ回転可能）に取付けられるものである。扉枠ベースユニット１００は、前面下隅にハンドルユニット３００が、貫通口１１１の下側前面に演出操作ユニット４００が取付けられる皿ユニット３２０が、貫通口１１１の左外側前面に扉枠左サイドユニット５４０が、貫通口１１１の右外側前面に扉枠右サイドユニット５５０が、貫通口１１１の上外側前面に扉枠トップユニット５７０が、夫々取付けられるものである。

【０１５９】

扉枠ベースユニット１００は、図３２及び図３３に等を示すように、正面視の外形が上下に延びた長方形で前後に貫通している貫通口１１１を有した板状の扉枠ベース１１０と、扉枠ベース１１０の後側に取付けられている枠状の補強ユニット１３０と、補強ユニット１３０の正面視左端側の上下両端に取付けられており扉枠ベース１１０から前方へ突出して本体枠４の本体枠側上ヒンジ部材６２０及び本体枠側下ヒンジ部材６４０に回転可能に取付けられる扉枠側上ヒンジ部材１４０及び扉枠側下ヒンジ部材１５０と、扉枠ベース１１０の前面で貫通口１１１の正面視左側に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている扉枠左サイド装飾基板１６０と、扉枠ベース１１０の後側に回動可能に取付け

10

20

30

40

50

られておりガラスユニット 190 を着脱可能に取付けるためのガラスユニット取付部材 170 と、を備えている。

【0160】

また、扉枠ベースユニット 100 は、扉枠ベース 110 の前面で正面視右下隅に取付けられておりハンドルユニット 300 を取付けるための筒状のハンドル取付部材 180 と、扉枠ベース 110 の後面に取付けられ貫通口 111 を閉鎖するガラスユニット 190 と、ガラスユニット 190 の後面下部を覆う防犯カバー 200 と、扉枠ベース 110 の後面に扉枠ベース 110 を貫通して前方に突出するように取付けられる開閉シリンダユニット 210 と、扉枠ベース 110 の後面下部に取付けられる球送りユニット 250 と、扉枠ベース 110 の後面下部に取付けられるファールカバーユニット 270 と、を備えている。

10

【0161】

更に、扉枠ベースユニット 100 は、図示は省略するが、扉枠 3 に備えられている各種の装飾基板、球送ソレノイド 255、ハンドル回転検知センサ 307、ハンドルタッチセンサ 310、単発ボタン操作センサ 312、球貸ボタン 328、返却ボタン 329、球貸返却表示部 330、演出選択左ボタン 331、演出選択右ボタン 332、振動モータ 424、押圧検知センサ 440、扉枠側演出表示装置 460（液晶表示装置 461）、上部スピーカ 573、等と、本体枠 4 における基板ユニット 900 の扉枠用中継基板 911 との接続を中継するための扉本体中継基板を備えている。

【0162】

[3-1 a. 扉枠ベース]

扉枠 3 における扉枠ベースユニット 100 の扉枠ベース 110 について、主に図 31 乃至図 33 を参照して詳細に説明する。扉枠ベース 110 は、正面視の外形が上下に延びた四角形（長方形）に形成されている。扉枠ベース 110 は、前後に貫通しており、正面視における内周形状が上下に延びた略四角形に形成された貫通口 111 を備えている。貫通口 111 は、内周を形成している上辺及び左右両辺が、扉枠ベース 110 の外周に夫々接近しており、内周を形成している下辺が、扉枠ベース 110 の下端から上下方向の約 1/3 の高さに位置している。従って、扉枠ベース 110 は、前後に貫通している貫通口 111 により全体が枠状に形成されている。この扉枠ベース 110 は、合成樹脂により一体成形されている。

20

【0163】

扉枠ベース 110 は、前面における正面視右下隅に形成されており左端側が右端側よりも前方へやや突出するように傾斜しているハンドル取付座面 112 と、ハンドル取付座面 112 と貫通口 111 との間で正面視右端付近に後面から前方へ向かって窪み、開閉シリンダユニット 210 のシリンダ取付板金 213 が取付けられるシリンダ取付部 113 と、シリンダ取付部 113 において前後に貫通しており開閉シリンダユニット 210 のシリンダ錠 211 が挿通されるシリンダ挿通孔 114 と、シリンダ挿通孔 114 及びハンドル取付座面 112 の正面視左側で前後に貫通しており球送りユニット 250 の進入口 251 a 及び球抜口 251 b を前方に臨ませるための球送り開口 115 と、を備えている。

30

【0164】

また、扉枠ベース 110 は、扉枠ベース 110 の左右方向中央より左寄り且つハンドル取付座面 112 と略同じ高さで前後に貫通しておりファールカバーユニット 270 の球放出口 276 を前方に臨ませる下皿用通過口 116 と、扉枠ベース 110 の正面視左端付近で貫通口 111 の下辺に隣接するように前後に貫通しておりファールカバーユニット 270 の貫通球通路 273 を前方に臨ませる上皿用通過口 117 と、貫通口 111 の内周に沿って後面から前方へ向かって窪み、ガラスユニット 190 のガラス枠 191 が挿入されるガラスユニット取付部 118 と、扉枠ベース 110 の左右両上隅において前後に貫通しており扉枠トップユニット 570 の上部スピーカ 573 の後端が挿通されるスピーカ挿通口 119 と、を備えている。

40

【0165】

[3-1 b. 補強ユニット]

50

扉枠ベースユニット100の補強ユニット130について、図31及び図33等を参照して詳細に説明する。補強ユニット130は、扉枠ベース110の後側に取付けられることで扉枠ベース110を補強して、扉枠ベース110（扉枠3）の強度剛性を高めている。補強ユニット130は、扉枠ベース110の後面における上辺に沿って取付けられる左右に延びた上補強板金131と、扉枠ベース110の後面における貫通口111の下側に取付けられる左右に延びた中補強板金132と、扉枠ベース110の後面における正面視左辺に沿って取付けられる上下に延びた左補強板金133と、扉枠ベース110の後面における正面視右辺に沿って取付けられる上下に延びた右補強板金134と、右補強板金134の後面に取付けられており施錠ユニット700の扉枠用鉤702に係止される施錠係止部135と、を備えている。

10

【0166】

補強ユニット130は、上補強板金131の左右両端が左補強板金133及び右補強板金134の夫々の上端にビスによって連結固定されており、中補強板金132の左端が左補強板金133にビスによって連結固定されている。中補強板金132の右端は、後述する開閉シリンダユニット210のシリンダ取付板金213を介して右補強板金134に連結固定されている。従って、補強ユニット130は、上補強板金131、中補強板金132、左補強板金133、及び右補強板金134等によって、枠状に形成されている。

【0167】

補強ユニット130の上補強板金131、中補強板金132、左補強板金133、右補強板金134、及び施錠係止部135は、夫々金属板を適宜屈曲させて形成されている。中補強板金132は、扉枠ベース110の上皿用通過口117と対応する位置に、前後に貫通した切欠部132aが形成されている。

20

【0168】

補強ユニット130は、詳細な図示は省略するが、各上補強板金131、中補強板金132、左補強板金133、及び右補強板金134において、夫々前後方向に屈曲された部位を有しており、その部位によって、強度剛性が高められていると共に、外部からのピアノ線やマイナスドライバー等の不正な工具の侵入を防止している。

【0169】

[3-1c. 扉枠側上ヒンジ部材]

扉枠ベースユニット100の扉枠側上ヒンジ部材140について、主に図31乃至図33等を参照して詳細に説明する。扉枠側上ヒンジ部材140は、扉枠ベース110に取付けられ上下に離間している一对の突出片141aを有した扉枠上ヒンジ軸ブラケット141と、扉枠上ヒンジ軸ブラケット141の一对の突出片141aを貫通しており、上端が本体枠側上ヒンジ部材620の扉枠用上ヒンジ孔623に挿入される円柱状の扉枠上ヒンジピン142と、扉枠上ヒンジピン142における一对の突出片141aの間の位置に取付けられている円盤状の鏝部材143と、鏝部材143と一对の突出片141aのうちの下の突出片141aとの間に介装されていると共に扉枠上ヒンジピン142が挿通されており、扉枠上ヒンジピン142を上方へ付勢しているロックバネ144と、を備えている。

30

【0170】

扉枠上ヒンジ軸ブラケット141は、図示は省略するが一对の突出片141aの後端同士を連結している平板状の取付片を有しており、側面視の形状が前方へ開放されたコ字状に形成されている。扉枠上ヒンジ軸ブラケット141は、一对の突出片141a同士を連結している取付片が、ビスによって扉枠ベース110の後面に取付けられている。

40

【0171】

扉枠上ヒンジピン142は、上側の突出片141aよりも上方に突出している部位（上端）が、本体枠側上ヒンジ部材620の扉枠用上ヒンジ孔623に対して回転可能に挿入される。また、扉枠上ヒンジピン142は、図示は省略するが、下側の突出片141aよりも下方に突出している部位が水平方向に屈曲している。この屈曲している部位が下側の突出片141aの下面に当接することで、扉枠上ヒンジピン142の上方への移動を規制

50

している。

【0172】

鍰部材143は、Eリングとされており、扉枠上ヒンジピン142の外周に形成されている溝内に挿入保持されている。ロックバネ144は、扉枠上ヒンジピン142を挿通可能なコイルスプリングとされており、上端が鍰部材143に当接していると共に、下端が下側の突出片141aに当接している。このロックバネ144は、鍰部材143と下側の突出片141aとの間に、圧縮された状態で介装されており、鍰部材143を介して扉枠上ヒンジピン142を上方へ付勢している。

【0173】

扉枠側上ヒンジ部材140は、扉枠上ヒンジピン142がロックバネ144により上方へ付勢された状態となっており、扉枠上ヒンジピン142における下端の水平に屈曲している部位が下側の突出片141aの下面に当接することで、これ以上の上方への移動が規制されている。この状態では、扉枠上ヒンジピン142の上端が、上側の突出片141aの上面よりも所定量上方に突出している。

【0174】

扉枠側上ヒンジ部材140は、扉枠上ヒンジピン142における下端の水平に屈曲している部位を作業者が持って、ロックバネ144の付勢力に抗してその部位を下方へ引っ張ると、扉枠上ヒンジピン142を全体的に下方へ移動させることができ、扉枠上ヒンジピン142の上端を、上側の突出片141aの上面よりも下方へ没入させることができる。従って、扉枠側上ヒンジ部材140は、扉枠上ヒンジピン142の上端を、本体枠側上ヒンジ部材620の扉枠用上ヒンジ孔623に対して下方から挿入させたり、下方へ抜いたりすることができる。これにより、扉枠側上ヒンジ部材140の扉枠上ヒンジピン142の上端を、本体枠側上ヒンジ部材620の扉枠用上ヒンジ孔623に挿入させることで、扉枠3の正面視上部左端を、本体枠4に対してヒンジ回転可能に支持させることができる。

【0175】

また、扉枠側上ヒンジ部材140は、扉枠上ヒンジピン142における扉枠上ヒンジ軸ブラケット141の一对の突出片141aにより支持されている部位が、後述する扉枠側下ヒンジ部材150の扉枠下ヒンジピン152と同軸上に支持されている。これにより、扉枠側上ヒンジ部材140と扉枠側下ヒンジ部材150とによって、扉枠3を本体枠4に対して良好な状態でヒンジ回転させることができる。

【0176】

[3-1d. 扉枠側下ヒンジ部材]

扉枠ベースユニット100の扉枠側下ヒンジ部材150について、主に図31及び図32等を参照して詳細に説明する。扉枠側下ヒンジ部材150は、扉枠ベース110に取付けられ前方に延出している平板状の延出片151aを有している扉枠下ヒンジ軸ブラケット151と、扉枠下ヒンジ軸ブラケットにおける延出片151aの前端部付近から下方に突出している円柱状の扉枠下ヒンジピン152（図21及び図22を参照）と、を備えている。

【0177】

扉枠下ヒンジ軸ブラケット151は、水平に延びた平板状の延出片151aの後端から上方に延出した平板状の取付片（図示は省略）を有しており、側面視の全体形状が略L字状に形成されている。この扉枠下ヒンジ軸ブラケット151は、図示しない取付片がビスによって扉枠ベース110の後面に取付けられている。

【0178】

扉枠下ヒンジピン152は、下端部が、下方へ向かうほど窄まる円錐台状に形成されている。この扉枠下ヒンジピン152は、後述する本体枠4における本体枠側下ヒンジ部材640の扉枠用ヒンジ孔644に、上方から回転可能に挿入される。扉枠下ヒンジピン152は、扉枠側上ヒンジ部材140の扉枠上ヒンジピン142と同軸上に配置されている。

10

20

30

40

50

【0179】

この扉枠側下ヒンジ部材150は、扉枠下ヒンジピン152が本体枠側下ヒンジ部材640の扉枠用ヒンジ孔644に挿入されることで、扉枠3を本体枠4に対してヒンジ回転可能に支持することができる。

【0180】

〔3-1e. 扉枠左サイド装飾基板〕

扉枠ベースユニット100の扉枠左サイド装飾基板160について、主に図31及び図32等を参照して詳細に説明する。扉枠左サイド装飾基板160は、扉枠ベース110の前面において、貫通口111の正面視左側に取付けられている。扉枠左サイド装飾基板160は、扉枠ベース110における正面視左側のスピーカ挿通口119よりも下側の位置の高さから貫通口111の上下方向の中央付近の高さまで上下に延びている扉枠左サイド上装飾基板161と、扉枠左サイド上装飾基板161の下側の位置の高さから上皿用通過口117の下端と略同じ高さまで上下に延びている扉枠左サイド下装飾基板162と、を備えている。

10

【0181】

扉枠左サイド装飾基板160の扉枠左サイド上装飾基板161及び扉枠左サイド下装飾基板162は、夫々前面に、前方へ光を照射可能な複数のLED161a, 162aを備えている。これらLED161a, 162aは、フルカラーLEDとされている。

【0182】

扉枠左サイド装飾基板160は、扉枠3を組立てた状態で、後述する扉枠左サイドユニット540の後方に位置しており、前面に備えられた（実装された）複数のLED161a, 162aを適宜発光させることで、扉枠左サイドユニット540の左ユニット装飾レンズ部材を発光装飾させることができる。

20

【0183】

〔3-1f. ガラスユニット取付部材〕

扉枠ベースユニット100のガラスユニット取付部材170について、主に図31（b）等を参照して詳細に説明する。ガラスユニット取付部材170は、扉枠ベース110の後側に回転可能に取付けられておりガラスユニット190を着脱可能に取付けるためのものである。ガラスユニット取付部材170は、扉枠ベース110の後側で前後に延びた軸線周りに対して回転可能に取付けられる円盤状の基部171と、基部171から回転軸線に対して直角方向へ棒状に突出している突出部172と、を有している。

30

【0184】

ガラスユニット取付部材170は、扉枠ベース110の後面における一対のスピーカ挿通口119の下側で、ガラスユニット取付部118よりも外側の部位に、夫々回転可能に取付けられている。

【0185】

ガラスユニット取付部材170は、突出部172が基部171から上方へ突出するように回転させた状態とすることで、背面視において扉枠ベース110のガラスユニット取付部118よりも突出部172が外側に位置した状態となり、扉枠ベース110のガラスユニット取付部118に対してガラスユニット190を挿入したり、ガラスユニット取付部118からガラスユニット190を取外したりすることができる。

40

【0186】

ガラスユニット取付部材170は、ガラスユニット190を扉枠ベース110のガラスユニット取付部118に挿入させた状態で、突出部172が基部171から下方へ突出するように回転させると、突出部172がガラスユニット190の取付片191aの後側と当接し、ガラスユニット190上部の後方への移動を規制した状態となり、ガラスユニット190を扉枠ベース110に取付けることができる。

【0187】

ガラスユニット取付部材170は、扉枠ベース110に回転可能に取付けられる円盤状の基部171から突出部172が突出しているため、ガラスユニット取付部材170の重

50

心位置が突出部 172 内に位置している。このことから、ガラスユニット取付部材 170 が自由に回転できる状態では、突出部 172 が基部 171 から下方へ突出した状態で安定することとなる。そして、ガラスユニット取付部材 170 では、突出部 172 が基部 171 から下方へ突出している回転位置の時に、突出部 172 によりガラスユニット 190 の後方への移動を規制させるようにしているため、ガラスユニット取付部材 170 に振動等が作用しても、突出部 172 が基部 171 から上方へ突出するように全体が回転することはなく、ガラスユニット 190 の後方への移動の規制が自然に解除されることはない。

【0188】

なお、扉枠ベース 110 からガラスユニット 190 を取外す場合は、ガラスユニット取付部材 170 を、突出部 172 が基部 171 から上方へ突出するように回転させて、突出部 172 をガラスユニット 190 の取付片 191a よりも外側へ移動させることで、ガラスユニット 190 の上部側を後方へ移動させることができるようになり、扉枠ベース 110 からガラスユニット 190 を取外すことができる。

【0189】

[3-1g. ハンドル取付部材]

扉枠ベースユニット 100 のハンドル取付部材 180 について、主に図 31 乃至図 33 等を参照して詳細に説明する。ハンドル取付部材 180 は、扉枠ベース 110 の前面にハンドルユニット 300 を取付けるためのものである。ハンドル取付部材 180 は、図 32 及び図 33 等に示すように、前後方向へ延びた円筒状の筒部 181 と、筒部 181 の後端から筒部 181 の軸に対して直角方向外方へ延びた円環状のフランジ部 182 と、筒部 181 内に突出していると共に筒部 181 の軸方向全長に亘って延びており筒部 181 の周方向に対して不等間隔に配置された複数（本例では三つ）の突条 183 と、筒部 181 の外周面とフランジ部 182 の前面とを繋ぎ、筒部 181 の周方向に対して複数配置された補強リブ 184 と、を備えている。

【0190】

ハンドル取付部材 180 は、フランジ部 182 の後面を、扉枠ベース 110 におけるハンドル取付座面 112 の前面に当接させた状態で、ビスによってハンドル取付座面 112 に取付けられる。

【0191】

筒部 181 は、内径がハンドルユニット 300 におけるハンドルベース 301 の基部 301a の外径よりも若干大きく形成されている。三つの突条 183 は、一つが筒部 181 内の上側に備えられており、残り二つが筒部 181 内の下側に備えられている。これら三つの突条 183 は、ハンドルベース 301 における三つの溝部 301c と対応する位置に形成されている。従って、ハンドル取付部材 180 は、三つの突条 183 と、ハンドルベース 301 の三つの溝部 301c とを一致させた状態でのみ、筒部 181 内にハンドルベース 301 の基部 301a を挿入させることができ、扉枠ベース 110 に対してハンドルベース 301（ハンドルユニット 300）の回転位置を規制することができる。

【0192】

なお、ハンドル取付部材 180 は、フランジ部 182 の後面に対して、筒部 181 の軸線が垂直に延びていることから、扉枠ベース 110 の傾斜したハンドル取付座面 112 に取付けることで、筒部 181 の軸線が右前方へ延びるように傾いた状態となり、ハンドルユニット 300 を同様に傾いた状態で扉枠ベース 110 に取付けることができる。

【0193】

[3-1h. ガラスユニット]

扉枠ベースユニット 100 のガラスユニット 190 について、主に図 31 乃至図 33 等を参照して詳細に説明する。ガラスユニット 190 は、扉枠ベース 110 の貫通口 111 を、前方から後方が視認できるように閉鎖するものである。ガラスユニット 190 は、扉枠ベース 110 の貫通口 111 の内周形状よりも大きくガラスユニット取付部 118 に取付可能な枠状のガラス枠 191 と、ガラス枠 191 の枠内を閉鎖し外周がガラス枠 191 に取付けられている透明な二つのガラス板 192 と、を備えている。二つのガラス板 19

2は、ガラス枠191の前端側と後端側とに夫々取付けられており、互いの間に空間が形成されるように前後に離間している（図26等を参照）。

【0194】

ガラス枠191は、正面視左右上隅よりも下側の位置から外方へ平板状に延出している一対の取付片191aと、下端から下方へ突出していると共に下辺に沿って延びている帯板状の係止片191bと、を有している。ガラス枠191の取付片191aは、ガラスユニット取付部材170の突出部172と当接可能とされている。係止片191bは、扉枠ベース110と補強ユニット130の中補強板金132との間の空間内に挿入可能とされている（図26を参照）。

【0195】

このガラスユニット190は、扉枠ベース110の後側から、ガラス枠191の係止片191bを、扉枠ベース110と補強ユニット130の中補強板金132との間の隙間に上方から挿入した上で、ガラス枠191の前端を扉枠ベース110のガラスユニット取付部118の後面に当接させ、ガラスユニット取付部材170を回転させてガラスユニット取付部材170の突出部172をガラス枠191の取付片191aの後面と当接させることで、扉枠ベース110に取付けられる。

【0196】

ガラスユニット190を扉枠ベース110から取外す場合は、上記と逆の手順により、取外すことができる。これにより、ガラスユニット190は、扉枠ベース110に対して着脱可能となっている。

【0197】

[3-1i. 防犯カバー]

扉枠ベースユニット100の防犯カバー200について、主に図31乃至図33等を参照して詳細に説明する。防犯カバー200は、ガラスユニット190の後面下部を覆うように扉枠ベース110の後側に取付けられ、透明な合成樹脂により形成されている。防犯カバー200は、外周が所定形状に形成された平板状の本体部201と、本体部201の外周縁に沿って後方へ短く突出した平板状の後方突片202と、左右に離間して配置され本体部201よりも前方に突出し、扉枠ベース110の後側に係止可能とされている一対の係止片203と、を備えている。

【0198】

防犯カバー200の本体部201は、扉枠ベース110に取付けた状態で下端がガラスユニット190の下端よりも下方へ突出するように形成されている。また、本体部201は、上端が、パチンコ機1に組立てた状態で、遊技盤5における遊技領域5aの下端に沿った形状に形成されている。詳述すると、本体部201の上端は、後述する前構成部材1000の内レール1002の一部、アウト誘導部1003、右下レール1004の一部、及び右レール1005に沿った形状に形成されており、パチンコ機1に組立てた状態で遊技領域5a内に突出しないように形成されている。

【0199】

後方突片202は、本体部201の外周縁の略全周に亘って形成されている。従って、防犯カバー200は、本体部201と後方突片202とによって、後方へ開放された浅い箱状に形成されており、強度・剛性が高くなっている。また、後方突片202は、図33に示すように、本体部201の外周縁とは異なる本体部201の後面の一部からも後方に突出している。この本体部201の後面の一部から後方に突出している後方突片202は、パチンコ機1に組立てた状態で遊技盤5の前構成部材1000における外レール1001の一部と沿うように形成されている。

【0200】

なお、後方突片202は、パチンコ機1に組立てた状態で、遊技盤5における外レール1001と内レール1002との間に位置する部位には形成されていない。これにより、外レール1001と内レール1002との間を通る遊技球（球発射装置680により発射された遊技球）が、防犯カバー200の後方突片202に当接することはない、遊技領域

10

20

30

40

50

5 a 内への遊技球の打込みを阻害することはない。

【0201】

一对の係止片203は、扉枠ベース110の後側に弾性係止される。これにより、防犯カバー200は、扉枠ベース110に対して容易に着脱することができる。

【0202】

防犯カバー200は、パチンコ機1に組立てた状態で、本体部201の前面がガラスユニット190の後面（ガラス枠191の後端）と当接し、本体部201の下辺から後方へ突出している部位を除いた後方突片202が、後述する前構成部材1000の防犯凹部1008内に挿入された状態となる。また、防犯カバー200は、本体部201の下辺から後方に突出している後方突片202が、前構成部材1000の下面と接するように前構成部材1000の前面よりも後方へ突出している状態となる。これにより、防犯カバー200と遊技盤5（前構成部材1000）との間が、防犯カバー200の後方突片202と前構成部材1000の防犯凹部1008とによって複雑に屈曲した状態となるため、遊技盤5の前面下方より防犯カバー200と前構成部材1000との間を通してピアノ線等の不正な工具を遊技領域5a内に侵入させようとしても、後方突片202や防犯凹部1008に阻まれることとなり、遊技領域5a内への不正な工具の侵入を阻止することができる。

【0203】

[3-1j. 開閉シリンダユニット]

扉枠ベースユニット100の開閉シリンダユニット210について、主に図31乃至図33等を参照して説明する。開閉シリンダユニット210は、正面視において扉枠ベース110の右端付近で貫通口111とハンドル取付座面112との間の位置のシリンダ取付部113に後側から取付けられ、後述する施錠ユニット700と協働して、扉枠3と本体枠4との開閉、及び、外枠2と本体枠4との開閉に使用されるものである。

【0204】

開閉シリンダユニット210は、前面に鍵穴211aを有し前後に延びた円筒状のシリンダ錠211と、シリンダ錠211の後端に取付けられており鍵穴211aに挿入された鍵の回動操作を施錠ユニット700の鍵シリンダ710に伝達させる回転伝達部材212と、シリンダ錠211を扉枠ベース110（補強ユニット130）に取付けるシリンダ取付板金213と、を備えている。

【0205】

シリンダ錠211は、対応する鍵（図示は省略）を鍵穴211aに差し込むことで、鍵を回転させることができるものであり、対応する鍵であれば、正面視において時計回り及び反時計回りの何れの方角へも所定角度回転させることができる。

【0206】

回転伝達部材212は、後方が開放された円筒状（詳しくは、後方へ向かうに従って直径が大きくなる円錐筒状）に形成されており、中心軸を挟んで対向した位置に後端から前方へ向かって切欠かれた一对の切欠部212aを有している。この回転伝達部材212は、本体枠4における施錠ユニット700の鍵シリンダ710が後方から挿入されるように形成されており、施錠ユニット700の鍵シリンダ710の突起が一对の切欠部212a内に挿入されることで、回転伝達部材212（シリンダ錠211の鍵穴211aに挿入された鍵）の回転を、施錠ユニット700の鍵シリンダ710に伝達させて鍵シリンダ710を回転させることができる。

【0207】

シリンダ取付板金213は、一枚の金属板を屈曲させて形成されており、平面視の形状が前方へ突出している凸形状に形成されている。詳述すると、シリンダ取付板金213は、正面視において上下に延びた長方形で平板状の前板部213aと、前板部213aの左右両辺から後方へ平板状に延出している一对の側板部213bと、一对の側板部213bの夫々の後辺から互いに遠ざかる方角へ平板状に延出している一对の取付板部213cと、を備えている。シリンダ取付板金213の前板部213aは、上下方向略中央の位置で後方からシリンダ錠211が貫通し、前板部213aの後面にシリンダ錠211の後端が

取付けられる。シリンダ取付板金 2 1 3 の一対の取付板部 2 1 3 c は、正面視左側の取付板部 2 1 3 c が補強ユニット 1 3 0 の中補強板金 1 3 2 の右端部に取付けられ、正面視右側の取付板部 2 1 3 c が補強ユニット 1 3 0 の右補強板金 1 3 4 に取付けられる。これにより、シリンダ取付板金 2 1 3 によって、補強ユニット 1 3 0 の中補強板金 1 3 2 と右補強板金 1 3 4 とが連結される。

【0208】

開閉シリンダユニット 2 1 0 は、扉枠ベースユニット 1 0 0 に組立てた状態では、シリンダ取付板金 2 1 3 の前板部 2 1 3 a から前方に突出しているシリンダ錠 2 1 1 の前端が、扉枠ベース 1 1 0 の後側からシリンダ挿通孔 1 1 4 に挿通されて扉枠ベース 1 1 0 の前方へ突出していると共に、シリンダ取付板金 2 1 3 の前板部 2 1 3 a 及び一対の側板部 2 1 3 b が後方へ開放されている箱状のシリンダ取付部 1 1 3 内に収容されている。

10

【0209】

[3-1k. 球送りユニット]

扉枠ベースユニット 1 0 0 の球送りユニット 2 5 0 について、主に図 3 4 及び図 3 5 を参照して詳細に説明する。図 3 4 (a) は扉枠ベースユニットの球送りユニットを前から見た斜視図であり、(b) は球送りユニットを後ろから見た斜視図である。図 3 5 (a) は球送りユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、(b) は球送りユニットの後ケースと不正防止部材を外して後ろから見た分解斜視図である。球送りユニット 2 5 0 は、皿ユニット 3 2 0 の上皿 3 2 1 から供給される遊技球を一つずつ球発射装置 6 8 0 へ供給することができると共に、上皿 3 2 1 内に貯留された遊技球を、上皿球抜きボタン 3 2 7 の操作によって下皿へ抜くことができるものである。

20

【0210】

球送りユニット 2 5 0 は、皿ユニット 3 2 0 の上皿 3 2 1 に貯留された遊技球が、皿ユニットベース 3 2 3 の上皿球送り口 3 2 3 d 及び扉枠ベース 1 1 0 の球送り開口 1 1 5 を通して供給され前後方向に貫通した進入口 2 5 1 a、及び進入口 2 5 1 a の下側に開口する球抜口 2 5 1 b を有し後方が開放された箱状の前カバー 2 5 1 と、前カバー 2 5 1 の後端を閉鎖すると共に前方が開放された箱状で、前後方向に貫通している前カバー 2 5 1 の進入口 2 5 1 a から進入した遊技球を球発射装置 6 8 0 へ供給するための打球供給口 2 5 2 a を有した後カバー 2 5 2 と、後カバー 2 5 2 及び前カバー 2 5 1 の間で前後方向へ延びた軸周りに回動可能に軸支され前カバー 2 5 1 の後側で進入口 2 5 1 a と球抜口 2 5 1 b との間を仕切る仕切部 2 5 3 a を有した球抜き部材 2 5 3 と、球抜き部材 2 5 3 の仕切部 2 5 3 a 上の遊技球を一つずつ後カバー 2 5 2 の打球供給口 2 5 2 a へ送り、前カバー 2 5 1 と後カバー 2 5 2 との間で上下方向へ延びた軸周りに回動可能に支持された球送り部材 2 5 4 と、球送り部材 2 5 4 を回動させる球送ソレノイド 2 5 5 と、を備えている。

30

【0211】

この球送りユニット 2 5 0 は、図示するように、正面視で、球送り部材 2 5 4 が進入口 2 5 1 a の右側に配置されており、球送り部材 2 5 4 の左側に球抜き部材 2 5 3 が、球送り部材 2 5 4 の右側に球送ソレノイド 2 5 5 が夫々配置されている。

【0212】

球送りユニット 2 5 0 の前カバー 2 5 1 は、正面視で球抜口 2 5 1 b の左側に、球抜き部材 2 5 3 の回転中心に対して同心円状に形成された円弧状のスリット 2 5 1 c を備えており、このスリット 2 5 1 c から後述する球抜き部材 2 5 3 の作動棒 2 5 3 c が前方へ延びだすようになっている。また、前カバー 2 5 1 は、進入口 2 5 1 a の上縁から上側が上方へ延びだしており、扉枠 3 を組立てた際に、皿ユニットベース 3 2 3 の球送り誘導路 3 2 3 e 及び球抜き誘導路 3 2 3 f の上流端側の後方へ開放されている部位を後側から閉鎖するように形成されている。

40

【0213】

球抜き部材 2 5 3 は、進入口 2 5 1 a よりも下側で進入口 2 5 1 a と球抜口 2 5 1 b との間を仕切り上面が球送り部材 2 5 4 の方向へ向かって低くなる仕切部 2 5 3 a と、仕切部 2 5 3 a の球送り部材 2 5 4 とは反対側の端部から下方へ延出すると共に上下方向の中

50

間付近から球抜口 2 5 1 b の下側中央へ向かってく字状に屈曲し下端が前後方向へ延びた軸周りに回動可能に支持される回動棹部 2 5 3 b と、回動棹部 2 5 3 b の上端から前方へ向かって突出する棒状の作動棹 2 5 3 c と、作動棹 2 5 3 c よりも下側で回動棹部 2 5 3 b の側面から仕切部 2 5 3 a とは反対側へ突出した錘部 2 5 3 d と、を備えている。球抜き部材 2 5 3 の作動棹 2 5 3 c は、前カバー 2 5 1 に形成された円弧状のスリット 2 5 1 c を通して前方へ突出するように形成されている（図 3 4（a）を参照）。作動棹 2 5 3 c は、扉枠ベース 1 1 0 の球送り開口 1 1 5 を介して皿ユニット 3 2 0 の上皿球抜きボタン 3 2 7 の押圧操作によって動作する作動伝達部 3 2 7 a の上端と当接する。

【0 2 1 4】

球送り部材 2 5 4 は、進入口 2 5 1 a 及び球抜き部材 2 5 3 の仕切部 2 5 3 a の方を向き上下方向へ延びた回転軸芯を中心とした平面視が扇状の遮断部 2 5 4 a と、遮断部 2 5 4 a の後端から回転軸芯側へ円弧状に窪んだ球保持部 2 5 4 b と、球保持部 2 5 4 b の後端から下方へ延出する棒状の棹部 2 5 4 c と、を備えている。球送り部材 2 5 4 における遮断部 2 5 4 a と球保持部 2 5 4 b は、夫々回転軸芯を中心とした約 180° の角度範囲内に隣接して形成されている。また、球送り部材 2 5 4 の球保持部 2 5 4 b は、一つの遊技球を保持可能な大きさとされている。球送り部材 2 5 4 は、球送ソレノイド 2 5 5 の駆動によって回転軸芯と偏芯した位置に配置された棹部 2 5 4 c が左右方向へ移動させられることで、回転軸芯周りに回動する。

【0 2 1 5】

この球送り部材 2 5 4 は、遮断部 2 5 4 a が仕切部 2 5 3 a の方向を向くと同時に球保持部 2 5 4 b が打球供給口 2 5 2 a と連通した方向を向いた供給位置と、球保持部 2 5 4 b が仕切部 2 5 3 a の方向へ向いた保持位置との間で回動するようになっている。球送り部材 2 5 4 が供給位置の時には、球保持部 2 5 4 b に保持された遊技球が、打球供給口 2 5 2 a から球発射装置 6 8 0 へ供給されると共に、進入口 2 5 1 a から仕切部 2 5 3 a 上に進入した遊技球が、遮断部 2 5 4 a によって球保持部 2 5 4 b（打球供給口 2 5 2 a）側への移動が遮断されて仕切部 2 5 3 a 上に留まった状態となる。一方、球送り部材 2 5 4 が保持位置へ回動すると、球保持部 2 5 4 b が仕切部 2 5 3 a の方向を向くと共に、球保持部 2 5 4 b の棹部 2 5 4 c 側の端部が打球供給口 2 5 2 a を閉鎖した状態となり、仕切部 2 5 3 a 上の遊技球が一つだけ球保持部 2 5 4 b 内に保持される。

【0 2 1 6】

また、球送りユニット 2 5 0 は、球送ソレノイド 2 5 5 の駆動（通電）によって先端が上下方向へ揺動する球送り作動桿 2 5 6 と、球送り作動桿 2 5 6 における上下方向へ揺動する先端の動きによって前後方向へ延びた軸周りに回動すると共に、球送り部材 2 5 4 を上下方向へ延びた軸周りに回動させる球送りクランク 2 5 7 と、を備えている。球送りクランク 2 5 7 は、球送り作動桿 2 5 6 の上下動する先端と係合可能とされ左右方向へ延びた係合部 2 5 7 a と、係合部 2 5 7 a の球送り作動桿 2 5 6 と係合する側とは反対側に配置され前カバー 2 5 1 と後カバー 2 5 2 との間で前後方向へ延びた軸周りに回動可能に軸支される軸部 2 5 7 b と、軸部 2 5 7 b から上方へ延出しており、球送り部材 2 5 4 における回動中心に対して偏芯した位置から下方へ突出する棒状の棹部 2 5 4 c（図 3 5（b）を参照）と係合する伝達部 2 5 7 c と、を備えている。

【0 2 1 7】

この球送りユニット 2 5 0 は、球送り作動桿 2 5 6 及び球送りクランク 2 5 7 によって、上下方向へ進退する球送ソレノイド 2 5 5 の駆動により揺動する球送り作動桿 2 5 6 の動きを伝達させて球送り部材 2 5 4 を回動させることができる。なお、球送ソレノイド 2 5 5 の非駆動時（通常時）では、球送り作動桿 2 5 6 が球送ソレノイド 2 5 5 の下端から離れて先端が下方へ位置した状態となり、この状態では球送り部材 2 5 4 が供給位置に位置した状態となる。また、球送ソレノイド 2 5 5 の駆動時では、球送り作動桿 2 5 6 が球送ソレノイド 2 5 5 の下端に吸引されて先端が上方へ位置した状態となり、球送り部材 2 5 4 が保持位置へ回動する。つまり、球送ソレノイド 2 5 5 が駆動される（ON の状態）と、球送り部材 2 5 4 が遊技球を一つ受入れ、球送ソレノイド 2 5 5 の駆動が解除される

(OFFの状態)と、球送り部材254が受入れた遊技球を球発射装置680側へ送る(供給する)ことができる。この球送りユニット250における球送ソレノイド255の駆動は、払出制御基板951の発射制御部(図示は省略)により発射ソレノイド682の駆動制御と同期して制御される。

【0218】

また、球送りユニット250における回動可能に軸支された球抜き部材253は、錘部253dによって正面視反時計周りの方向へ回転するようなモーメントがかかるようになっているが、前方へ突出した作動棹253cが皿ユニット320の上皿球抜きボタン327の押圧操作によって動作する作動伝達部327aの上端と当接することで、その回動が規制されるため、通常時では、球抜き部材253の仕切部253aが進入口251aと球抜口251bとの間を仕切っており、球抜口251b側へ遊技球が侵入することはない。

10

【0219】

そして、遊技者が、皿ユニット320の上皿球抜きボタン327を下方へ押圧操作すると、上皿球抜きスライダ327bが作動伝達部327aと共に下方へスライドして、作動伝達部327aの下方への移動に伴って作動棹253cも相対的に下方へ移動することとなる。作動伝達部327aと共に作動棹253cが下方へ移動すると、球抜き部材253が正面視反時計周りの方向へ回動し、仕切部253aによる進入口251aと球抜口251bとの間の仕切りが解除される。これにより、進入口251aから進入した遊技球が、球抜口251bから皿ユニット320の球抜き誘導路323fへと排出され、下皿球供給口323cを介して下皿322へ排出(供給)させることができる。

20

【0220】

なお、球抜き部材253の作動棹253cが当接する作動伝達部327aが形成されている上皿球抜きスライダ327bは、上皿球抜きパネ327cによって上方へ付勢されているので、仕切部253a上に遊技球が勢い良く供給されても、その衝撃を、作動棹253cを介して上皿球抜きパネ327cによって吸収させることができ、球抜き部材253等が破損するのを防止することができると共に、遊技球が仕切部253aで跳ね返るのを防止することができる。

【0221】

また、球送りユニット250は、後カバー252における打球供給口252aの背面視で右上に前方へ窪んだ矩形状の取付凹部252b(図35(b)等を参照)が形成されていると共に、その取付凹部252b内に不正防止部材260が取付けられている。球送りユニット250の不正防止部材260は、工具鋼やステンレス等の硬質の金属板により形成されており、後カバー252の取付凹部252b内に対して後側から脱着可能に取付けられている。

30

【0222】

不正防止部材260は、正面視の外形が左右に延びた長形状に形成されており、右辺から左方へ所定距離の間において、上下方向略中央で上下に分離している上片部261及び下片部262と、上片部261及び下片部262の互いに対向している辺の先端側(正面視右端側)でC面取り状に夫々形成されている傾斜部263と、を備えている。不正防止部材260の上片部261は、不正防止部材260の一般面に対して、正面視右端が後方へ突出するように屈曲させられている。下片部262は、不正防止部材260の一般面と同一面上に延びている。これにより、平面視において、上片部261と下片部262とによって、右方に向かうに従って広がるV字状の溝を形成している。

40

【0223】

不正防止部材260は、後カバー252の取付凹部252bに取付けられることで、上片部261と下片部262とで形成されるV字状の溝が、打球供給口252a内と連通した状態となる。

【0224】

この不正防止部材260によれば、紐を取付けた不正な遊技球を、上皿321から球送りユニット250を介して球発射装置680により遊技領域5a内に打込み、不正な遊技

50

球に取付けられた紐を操作して、不正な遊技球を第一始動口 2 0 0 2 等に出し入れさせるような不正行為が行われる際に、球発射装置 6 8 0 により発射（打球）された不正な遊技球の勢いによって、不正な遊技球に取付けられた紐を、上片部 2 6 1 と下片部 2 6 2 との間に挿入させた上で、上片部 2 6 1 と下片部 2 6 2 とによって形成された V 字状の狭くなった部位により切断させることができ、紐を取付けた不正な遊技球を用いた不正行為が行われるのを防止することができる。

【0 2 2 5】

〔3-11. ファールカバーユニット〕

扉枠ベースユニット 1 0 0 のファールカバーユニット 2 7 0 について、図 3 6 乃至図 3 8 を参照して詳細に説明する。図 3 6 (a) は扉枠ベースユニットのファールカバーユニットを前から見た斜視図であり、(b) はファールカバーユニットを後ろから見た斜視図である。また、図 3 7 (a) はファールカバーユニットを蓋部材を外して前から見た分解斜視図であり、(b) はファールカバーユニットを蓋部材を外して後ろから見た分解斜視図である。更に、図 3 8 は、蓋部材を外した状態のファールカバーユニットの正面図である。

【0 2 2 6】

ファールカバーユニット 2 7 0 は、図示するように、扉枠ベース 1 1 0 の後側に取付けられ前側が開放された浅い箱状のユニット本体 2 7 1 と、ユニット本体 2 7 1 の前面に取付けられている平板状の蓋部材 2 7 2 と、を備えている。ファールカバーユニット 2 7 0 は、正面視左上隅において前後に貫通しており本体枠 4 の下部満タン球経路ユニット 8 6 0 の通常誘導路 8 6 1 と皿ユニット 3 2 0 の上皿球供給口 3 2 3 a とを連通させる貫通球通路 2 7 3 と、貫通球通路 2 7 3 の正面視右下側で後方へ向かって開口しており本体枠 4 の下部満タン球経路ユニット 8 6 0 の満タン誘導路 8 6 2 と連通可能な満タン球受口 2 7 4 と、を備えている。

【0 2 2 7】

また、ファールカバーユニット 2 7 0 は、満タン球受口 2 7 4 の正面視右側で上方へ向かって開口しており本体枠 4 の球発射装置 6 8 0 により発射されにも関わらず遊技領域 5 a 内へ到達しなかった遊技球（ファール球）を受けるファール球受口 2 7 5 と、正面視右下隅付近で前方へ向かって開口しており満タン球受口 2 7 4 及びファール球受口 2 7 5 に受入れられた遊技球を前方へ放出すると共に皿ユニット 3 2 0 の下皿球供給口 3 2 3 c と連通する球放出口 2 7 6 と、を備えている。

【0 2 2 8】

更に、ファールカバーユニット 2 7 0 は、ユニット本体 2 7 1 及び蓋部材 2 7 2 によって、満タン球受口 2 7 4 及びファール球受口 2 7 5 と球放出口 2 7 6 との間に形成されており所定量の遊技球を貯留可能な広さを有している貯留通路 2 7 7 と、貯留通路 2 7 7 の内壁の一部を構成しており下端が回動可能にユニット本体 2 7 1 に取付けられている平板状の可動片 2 7 8 と、可動片 2 7 8 の貯留通路 2 7 7 から遠ざかる方向への回動を検知する満タン検知センサ 2 7 9 と、可動片 2 7 8 を貯留通路 2 7 7 の中心側へ付勢しているバネ 2 8 0 と、を備えている。

【0 2 2 9】

このファールカバーユニット 2 7 0 は、皿ユニット 3 2 0 の下皿 3 2 2 内が遊技球で一杯になって、球放出口 2 7 6 から遊技球が下皿 3 2 2 側へ放出されなくなると、貯留通路 2 7 7 内にある程度数の遊技球を貯留することができる。そして、貯留通路 2 7 7 内にある程度数の遊技球が貯留されると、遊技球の重さによって可動片 2 7 8 の上端がバネ 2 8 0 の付勢力に抗して貯留通路 2 7 7 から遠ざかる方向へ移動するように可動片 2 7 8 が回動し、その回動が満タン検知センサ 2 7 9 によって検知される。これにより、下皿 3 2 2 が遊技球で満タンになっていると判断することができるため、満タン検知センサ 2 7 9 により満タンが検知されると、これ以上の遊技球の払出しを停止させると共に、その旨を遊技者や遊技ホールの係員等に報知して、下皿 3 2 2 の満タンを解消させるように促すことができる。

【0230】

また、ファールカバーユニット270は、ユニット本体271の後側で貫通球通路273の下側に取付けられており、本体枠4の後述する払出ユニット800における下部満タン球経路ユニット860の誘導路開閉扉863の作動突部863eが当接可能な扉開閉当接部281を備えている（図127を参照）。扉開閉当接部281は、後面が下方へ向かうに従って前方へ移動するように傾斜している。この扉開閉当接部281は、本体枠4に対して扉枠3を閉じると、誘導路開閉扉863の作動突部863eが当接するように形成されている。この扉開閉当接部281に誘導路開閉扉863の作動突部863eが当接することで、誘導路開閉扉863が回動して通常誘導路861及び満タン誘導路862の下流端（前側開口）を開放させることができる。

10

【0231】**[3-2. ハンドルユニット]**

扉枠3のハンドルユニット300について、主に図39及び図40を参照して詳細に説明する。図39(a)は扉枠におけるハンドルユニットの正面図であり、(b)はハンドルユニットを前から見た斜視図であり、(b)はハンドルユニットを後ろから見た斜視図である。また、図40(a)はハンドルユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、(b)はハンドルユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。ハンドルユニット300は、扉枠ベースユニット100のハンドル取付部材180に取付けられ、遊技者が操作することで、上皿321内の遊技球を遊技盤5の遊技領域5a内に打込むことができるものである。

20

【0232】

ハンドルユニット300は、扉枠ベースユニット100におけるハンドル取付部材180の筒部181に取付けられるハンドルベース301と、ハンドルベース301の前端に回転可能に取付けられるハンドル302と、ハンドル302の前端側を覆うようにハンドルベース301に取付けられるハンドルカバー303と、を備えている。

【0233】

また、ハンドルユニット300は、ハンドル302の後側でハンドルベース301の前面に取付けられるインナーベース304と、前端にハンドル302が取付けられると共にインナーベース304とハンドルベース301とによって回転可能に取付けられ外周に駆動ギア部305aを有している軸部材305と、軸部材305の駆動ギア部305aと噛合している伝達ギア306と、伝達ギア306と一体回転する検知軸307aを有しハンドルベース301とインナーベースとの間に挟持されているハンドル回転検知センサ307と、を備えている。

30

【0234】

更に、ハンドルユニット300は、一端側がハンドルベース301に取付けられると共に他端側がハンドル302に取付けられハンドル302を初期回転位置（正面視で反時計周りの方向への回転端）へ復帰させるように付勢しているハンドル復帰バネ308と、一端側がインナーベース304に取付けられると共に他端側が伝達ギア306に取付けられ伝達ギア306を介してハンドル回転検知センサ307の検知軸307aを正面視で時計回りの方向へ付勢している補助バネ309と、インナーベース304の後方でハンドルベース301に取付けられているハンドルタッチセンサ310と、先端側がハンドルベース301の前端外周面の正面視における左側から外方に突出していると共に基端側がインナーベース304の後方でハンドルベース301に前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている単発ボタン311と、単発ボタン311の押圧操作を検知しハンドルベース301に取付けられている単発ボタン操作センサ312と、を備えている。

40

【0235】

ハンドルユニット300のハンドルベース301は、前後に延びた円筒状の基部301aと、基部301aの前端から半径方向へ突出している円盤状の前端部301bと、円筒状の基部301aの外周面から窪んでいると共に軸方向に延びており周方向へ不等間隔で三つ形成されている溝部301cと、を備えている。ハンドルベース301の基部301

50

aは、外径がハンドル取付部材180の筒部181の内径よりも若干小さく形成されている。また、三つの溝部301cは、ハンドル取付部材180における筒部181の三つの突条183と対応した位置に形成されている。従って、三つの溝部301cを三つの突条183と一致させた状態で、基部301aをハンドル取付部材180の筒部181内に挿入させることができると共に、三つの溝部301c内に夫々突条183が挿入されることで、ハンドルベース301がハンドル取付部材180に対して相対回転不能な状態となる。

【0236】

ハンドル302は、外周面から周方向に離れて外方へ突出している四つの第一突起302a、第二突起302b、第三突起302c、及び第四突起302dと、回転軸（軸部材305）を中心として円弧状に延びていると共に前後方向に貫通している二つのスリット302eと、スリット302eよりも回転中心に対して内側の位置から後方に突出しておりハンドル復帰バネ308の他端側が係止される係止突部302fと、を備えている。

【0237】

四つの第一突起302a、第二突起302b、第三突起302c、及び第四突起302dは、正面視において時計回りの方向に順番に備えられている。詳述すると、第一突起302aは、ハンドル302の一般外周面から最も突出した部位の正面視時計回りの方向の側面が、外側へ膨らむように膨出しており、反対側である反都決周りの方向の側面が、内側へ湾曲するように凹んでいる（挟れている）。第二突起302bは、ハンドル302の一般外周面から最も突出した部位が、第一突起302aの最も突出した部位から時計回りの方向へ約85度の回転角度で離れており、第一突起302aよりはやや低く突出している。この第二突起302bは、最も突出した部位の正面視時計回りの方向の側面が、外側へ膨らむように膨出しており、反対側である反都決周りの方向の側面が、内側へ湾曲するように凹んでおり、第一突起302aと相似した形状に形成されている。

【0238】

第三突起302cは、ハンドル302の一般外周面から最も突出した部位が、第二突起302bの最も突出した部位から時計回りの方向へ約70度の回転角度で離れており、第一突起302aの約半分の高さで突出している。この第三突起302cは、両側の側面が略直線状に傾斜しており、時計回りの方向の側面が反対側である反時計回りの方向の側面よりもなだらかに傾斜している。第四突起302dは、ハンドル302の一般外周面から最も突出した部位が、第三突起302cの最も突出した部位から時計回りの方向へ約55度の回転角度で離れており、第一突起302aよりもやや高く突出している。この第四突起302dは、両側の側面が略直線状に傾斜しており、略二等辺三角形に形成されている。

【0239】

ハンドルカバー303は、前面の中心が丸く前方へ膨出しており、後方へ突出している三つの取付ボス303aを備えている。三つの取付ボス303aは、ハンドル302のスリット302eを前方から貫通してハンドルベース301の前面に取付けられる。ハンドルカバー303の取付ボス303aが、ハンドル302のスリット302eを貫通していることから、取付ボス303aがスリット302eの周方向端部に当接することとなり、ハンドル302の回転角度を規制している。本例では、ハンドル302を、約120度の回転角度の範囲内で回転させることができる。

【0240】

このハンドルユニット300は、扉枠ベース110のハンドル取付座面112に対して、ハンドル取付部材180を介して取付けられる。この扉枠ベース110のハンドル取付座面112は、平面視において、右端側が左端側よりも後方に位置するように傾斜しており、外側（開放側）を向いているため、ハンドル取付部材180を介して取付けられるハンドルユニット300も平面視で外側に傾斜（換言すると、パチンコ機1の前面に直交する線に対してその先端部がパチンコ機1の外側に向かうように傾斜している。）して扉枠3に取付固定される。これにより、遊技者がハンドルユニット300のハンドル302が

握り易く、違和感がなく回動操作を行わせることができる。

【0241】

ハンドルユニット300のハンドル回転検知センサ307は、可変抵抗器とされており、ハンドル302を回転させると、軸部材305及び伝達ギア306を介してハンドル回転検知センサ307の検知軸307aが回転する。この検知軸307aの回転角度に応じてハンドル回転検知センサ307の内部抵抗が変化し、ハンドル回転検知センサ307の内部抵抗に応じて後述する球発射装置680における発射ソレノイド682の駆動力が変化して、ハンドル302の回転角度に応じた強さで遊技球が遊技領域5a内へ打込まれる。

【0242】

ハンドル302やハンドルカバー303の外周表面は、導電性のメッキが施されており、遊技者がハンドル302等に接触することでハンドルタッチセンサ310が接触を検出する。そして、ハンドルタッチセンサ310が遊技者の接触を検出している時に、ハンドル302を回動させると、ハンドル回転検知センサ307の検知が受けられ、ハンドル302の回転角度に応じた強さで発射ソレノイド682の駆動が制御されて、遊技球を打込むことができる。つまり、遊技者がハンドル302に触れずに、何らかの方法でハンドル302を回転させて遊技球を遊技領域5a内に打込もうとしても、発射ソレノイド682は駆動されず、遊技球を打込むことができないようになっている。これにより、遊技者が本来とは異なる方法でハンドル302を回転させて遊技が行われるのを防止することができ、パチンコ機1を設置する遊技ホールに係る負荷（負担）を軽減させることができる。

【0243】

また、ハンドルユニット300は、遊技者がハンドル302を回転操作中に、単発ボタン311を押圧すると、単発ボタン操作センサ312が単発ボタン311の操作を検知し、払出制御基板951の発射制御部（図示は省略）によって発射ソレノイド682の回転駆動が停止させられる。これにより、ハンドル302の回転操作を戻さなくても、遊技球の発射を一時的に停止させることができると共に、単発ボタン311の押圧操作を解除することで、単発ボタン311を操作する前の打込み強さで再び遊技球を遊技領域5a内に打込むことができる。

【0244】

更に、ハンドルユニット300は、ハンドル302に、四つの第一突起302a、第二突起302b、第三突起302c、及び第四突起302dを備えており、ハンドル302を正面時計回りの方向へ最も回転させて、遊技球を最も強く遊技領域5a内に打込むようにした（所謂、「右打ち」した）時に、第四突起302dが、ハンドル302を回転させていない時の第一突起302aの位置と、略同じ位置となるため、第四突起302dを第一突起302aとしてハンドル302を持ち替えることで、遊技者が楽な状態で「右打ち」の位置でハンドル302を維持させることができ、遊技者の疲労感を軽減させて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【0245】

[3-3. 皿ユニットの全体構成]

扉枠3における皿ユニット320について、主に図41乃至図45を参照して詳細に説明する。図41(a)は扉枠の皿ユニットを右前から見た斜視図であり、(b)は皿ユニットを左前から見た斜視図である。また、図42(a)は皿ユニットを右上後ろから見た斜視図であり、(b)は皿ユニットを左下後ろから見た斜視図である。図43は皿ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図44は皿ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。図45は、図28の断面図において下皿カバーを外した状態で下皿の部位を拡大して示す説明図である。皿ユニット320は、扉枠ベースユニット100における扉枠ベース110の前面において貫通口111の下側の部位に取付けられ、前面が前方へ膨出している。皿ユニット320の前面には、後述する演出操作ユニット400が取付けられる。

【0246】

皿ユニット320は、遊技領域5a内に打込むための遊技球を貯留する上皿321と、上皿321の下側に配置されており上皿321やファールカバーユニット270から供給される遊技球を貯留可能な下皿322と、を備えている。

【0247】

皿ユニット320は、扉枠ベースユニット100の扉枠ベース110に取付けられる平板状の皿ユニットベース323と、皿ユニットベース323の前面上部に取付けられると共に左右中央より左側が前方へ大きく膨出しており上皿321を形成している上皿本体324と、皿ユニットベース323の前面下部で左右中央よりも左側に取付けられると共に前方へ大きく膨出しており下皿322を形成している下皿本体325と、上皿本体324及び下皿本体325の前側を覆うように皿ユニットベース323の前面に取付けられている皿ユニットカバー326と、を備えている。

【0248】

また、皿ユニット320は、皿ユニットカバー326の上面における上皿321の正面視右方で上方から押圧操作可能に取付けられている上皿球抜きボタン327と、上皿球抜きボタン327の正面視右方で皿ユニットカバー326の上面に取付けられている球貸ボタン328と、球貸ボタン328の正面視右方で皿ユニットカバー326の上面に取付けられている返却ボタン329と、球貸ボタン328及び返却ボタン329の後方で皿ユニットカバー326の上面に取付けられている球貸返却表示部330と、上皿321の前方で皿ユニットカバー326の前面における皿前上装飾部326bに取付けられている演出選択左ボタン331及び演出選択右ボタン332と、下皿322の前方で皿ユニットカバー326の前面から前方に突出しており前方から押圧操作可能に取付けられている下皿球抜きボタン333と、を備えている。

【0249】

〔3-3a. 上皿〕

皿ユニット320の上皿321について、主に図41及び図44等を参照して詳細に説明する。皿ユニット320の上皿321は、皿ユニットベース323と上皿本体324とによって形成されており、正面視左右の中央より左側の方が大きく前方へ膨出し、上方へ開放された容器状に形成されている。上皿321（上皿本体324）は、扉枠3の左右方向の幅に対して左端から右方へ約1/3の部位が最も前方に膨出している。上皿321は、最も膨出した部位から正面視右方へ向かうに従って、前端が後方へ後退しており、前後方向の奥行が遊技球の外径よりも若干大きい誘導通路部321aが形成されている。上皿321は、誘導通路部321aを含む底面の全体が、右端側が低くなるように傾斜しており、誘導通路部321aの正面視右端側が、皿ユニットカバー326の上面（上皿球抜きボタン327）の下方へ潜り込んでいる（図44を参照）。

【0250】

上皿321は、皿ユニットベース323に組立てた状態で、その底面が、皿ユニットベース323の上皿球供給口323aよりも下側の位置から上皿球送り口323dの上端に対して遊技球の外径よりも若干下側の位置へ向かって低くなるように傾斜している。これにより、上皿球供給口323aから前方へ放出された遊技球が、上皿321内に受けられて貯留させることができると共に、受けられた遊技球を誘導通路部321aの右端側から上皿球送り口323dへ供給させることができる。

【0251】

上皿321は、上述したように、前後方向の奥行が狭くなる誘導通路部321aにおいて、その底面が下方へ向かって低くなるように形成されている。つまり、上皿321の一部が、後述する演出操作ユニット400（第二演出操作ユニット400A）が取付けられる皿ユニットカバー326の取付空間326j内へ、上方から突出している。従って、上皿321において、遊技球の貯留量を十分に確保することができるようになっている。なお、上皿321（上皿本体324）は、皿ユニットカバー326の取付空間326j内へ、演出操作ユニット400（第二演出操作ユニット400A）と接触しないように突出し

ている。

【0252】

なお、誘導通路部321aには、パチンコ機1において電氣的に接地（アース）されている金属製のアース金具321bが備えられており、遊技球が接触（転動）することで、遊技球に帯電した静電気を除去させることができる。

【0253】

[3-3b. 下皿]

皿ユニット320の下皿322について、主に図41乃至図45等を参照して詳細に説明する。下皿322は、上皿321の下方で、正面視において皿ユニット320（扉枠3）の左右方向中央よりも左側に配置されている。下皿322は、遊技球を貯留可能な容器状に形成されており、底壁部325aに上下に貫通し遊技球を排出可能とされた下皿球抜き孔322aと、皿ユニットカバー326に取付けられた演出操作ユニット400（第二演出操作ユニット400A）との接触を回避させるための逃し部322bと、を備えている。下皿322の逃し部322bは、右前隅が、後方へ向かって円弧状に窪むように形成されている。

10

【0254】

下皿322は、上方及び後方が開放されている下皿本体325と、下皿本体325の左端側から上方を覆っている皿ユニットカバー326の下皿カバー部326kと、下皿本体325の開放されている後方を閉鎖している皿ユニットベース323と、下皿本体325における演出操作ユニット取付部326a内に突出している部位の上側を覆う下皿カバー340とによって、形成されており、皿ユニットカバー326の下皿開口部326dから外方に臨んでいる。下皿322は、図28及び図45に示すように、平面視の外周形状が、左右に延びた四角形と、その四角形の前辺を底辺とし底辺よりも短い上辺が前方側に配置された台形と、を組合せたような形状に形成されており、台形の斜めに延びた左右の辺が後方へ凹むように湾曲している。この下皿322は、平面視において、前方から後方へ向かうに従って、左右方向の幅が大きくなるように形成されている。

20

【0255】

下皿本体325は、図43及び図44等に示すように、上方及び後方が開放された容器状に形成されている。下皿本体325は、平板状の底壁部325aと、底壁部325aの後端辺を除いた外周端から上方へ延出している本体立壁部325bと、底壁部325aを遊技球が通過可能な大きさで上下に貫通している下皿球抜き孔322aと、を備えている。底壁部325aの外周形状は、左右に延びた四角形と、その四角形の前辺を底辺とし底辺よりも短い上辺が前方側に配置され斜めに延びた左右の辺が後方へ凹むように湾曲した台形と、を組合せたような形状に形成されている。底壁部325a（の上面）は、下皿球抜き孔322aへ向かって低くなるように傾斜している。本体立壁部325bは、底壁部325aから上方へ、遊技球の直径の2倍～5倍の高さで立上っている。下皿球抜き孔322aは、下皿本体325（底壁部325a）の左右方向中央よりも右寄りの位置に形成されている。下皿本体325では、底壁部325a及び本体立壁部325bにおける正面視右前隅の湾曲している部位が、逃し部322bに相当している。

30

【0256】

下皿カバー340は、下皿本体325の上方のおよそ右半部を覆うように形成されている。下皿カバー340は、図43及び図44等に示すように、下皿本体325の本体立壁部325bの上端から上方へ立上っているカバー立壁部340aと、カバー立壁部340aの上端から略水平に延びている天井部340bと、を備えている。カバー立壁部340aは、下皿本体325の本体立壁部325bにおける前辺側の一部から右辺の後端までの部位から立上っている。下皿カバー340は、皿ユニット320に組立てた状態で、カバー立壁部340a及び天井部340bの後端が、皿ユニットベース323の前面に当接している。また、カバー立壁部340aの前端（前辺における左端側）が、皿ユニットカバー326の下皿開口部326dの右端辺と当接している。更に、天井部340bの左端が、皿ユニットカバー326の下皿カバー部326kの右端に当接している。この下皿カバ

40

50

ー 3 4 0 では、カバー立壁部 3 4 0 a における湾曲面状の部位と、その後側においてカバー立壁部 3 4 0 a と天井部 3 4 0 b との間で斜めに延びている部位とが、逃し部 3 2 2 b に相当している。

【0257】

下皿 3 2 2 は、前端側の左右に短く延びている部位の正面視左端付近から右側が、皿ユニットカバー 3 2 6（演出操作ユニット 4 0 0）によって覆われており、正面視において半分以上が演出操作ユニット 4 0 0 の後方に位置している。つまり、下皿 3 2 2 は、右半分が、演出操作ユニット 4 0 0 の後方へ回り込むように形成されている。従って、下皿 3 2 2 は、図 4 5 に示すように、後述する皿ユニットカバー 3 2 6 の下皿開口部 3 2 6 d の後方に位置する下皿第一領域 A 1（図 4 5 においてクロスハッチの領域）と、下皿開口部 3 2 6 d よりも右側（演出操作ユニット 4 0 0、皿ユニットカバー 3 2 6 における演出操作ユニット取付部 3 2 6 a、及び下皿カバー 3 4 0 の前端側）の後方に位置する下皿第二領域 A 2（図 4 5 において網掛けの領域）と、を有している。換言すると、下皿 3 2 2 は、遊技球を貯留可能な貯留領域（平面視における貯留面積に相当し、下皿第一領域 A 1 と下皿第二領域 A 2 とを合せた領域）の半分以上が、演出操作ユニット 4 0 0 の後方に位置している。なお、図 4 5 において点線ハッチの領域は、皿ユニットカバー 3 2 6 における取付空間 3 2 6 j の残りの空間（領域）である。

10

【0258】

下皿 3 2 2 は、後壁を形成している皿ユニットベース 3 2 3 の下皿球供給口 3 2 3 c が、後壁の正面視左右方向中央よりも右側に開口している。更に詳述すると、下皿 3 2 2 の下皿球供給口 3 2 3 c は、演出操作ユニット 4 0 0、皿ユニットカバー 3 2 6 における演出操作ユニット取付部 3 2 6 a（下皿開口部 3 2 6 d の右外側）、下皿カバー 3 4 0 の前端側、等の後方となる下皿第二領域 A 2 に配置されている。これにより、扉枠 3 を正面から見た時に、下皿球供給口 3 2 3 c が下皿開口部 3 2 6 d を通して遊技者側から見えなくなっている（図 1 9 等を参照）。従って、下皿 3 2 2 は、前方に膨出している皿ユニット 3 2 0（皿ユニットカバー 3 2 6）の左側面の下皿開口部 3 2 6 d から演出操作ユニット 4 0 0 の後方へ向かって挟れるように形成されており、正面から見える範囲よりも遊技球の貯留容積が大きく形成されている。換言すると、下皿 3 2 2 は、下皿第一領域 A 1 よりも下皿第二領域 A 2 の方が大きく形成されている。これにより、外側（遊技者側）から下皿 3 2 2 を見た時に、見た目以上に下皿 3 2 2 内に多くの遊技球を貯留させることができる。

20

30

【0259】

下皿 3 2 2 は、下皿本体 3 2 5 の左右方向の右側半分（下皿第二領域 A 2）が、図 4 1（a）に示すように、皿ユニットカバー 3 2 6 の演出操作ユニット取付部 3 2 6 a（取付空間 3 2 6 j）内に突出しており、下皿本体 3 2 5 における演出操作ユニット取付部 3 2 6 a 内に突出している部位の上側を、下皿カバー 3 4 0 が覆っている。この下皿カバー 3 4 0 により、下皿開口部 3 2 6 d から下皿 3 2 2 内に遊技者が手指を挿入した時に、その指先が演出操作ユニット 4 0 0（第二演出操作ユニット 4 0 0 A）の後側に触れるのを阻止することができる。

【0260】

下皿 3 2 2 は、下皿第二領域 A 2 内である下皿球供給口 3 2 3 c の真正面に、上下に貫通している下皿球抜き孔 3 2 2 a を備えている。下皿 3 2 2 の底面は、下皿球抜き孔 3 2 2 a へ向かって低くなるように傾斜している。下皿 3 2 2 の下皿球抜き孔 3 2 2 a は、下皿球抜きボタン 3 3 3 の押圧操作によって動作する蓋部材 3 3 4 によって開閉可能に閉鎖されている。下皿 3 2 2 は、通常の状態では、下皿球抜き孔 3 2 2 a が蓋部材 3 3 4 によって閉鎖されており、下皿 3 2 2 内に遊技球を貯留させることができる。そして、下皿球抜きボタン 3 3 3 を押圧操作して蓋部材 3 3 4 を開動作させると、下皿 3 2 2 内の遊技球を、下皿球抜き孔 3 2 2 a から皿ユニット 3 2 0 の下方へ排出させることができる。

40

【0261】

下皿 3 2 2 の下皿球抜き孔 3 2 2 a は、下皿 3 2 2 の後壁を形成している皿ユニットベ

50

ース 3 2 3 の下皿球供給口 3 2 3 c の前方（真正面）に配置されている。従って、扉枠 3 に組立てた状態では、下皿球抜き孔 3 2 2 a が、皿ユニットカバー 3 2 6 の下皿開口部 3 2 6 d よりも右側で演出操作ユニット 4 0 0 におけるフレームユニット 4 1 5 の後方に位置しているため、遊技者（正面）側からは見えないようになっている。

【0 2 6 2】

この下皿 3 2 2 は、上述したように、外周形状が、左右に延びた四角形の前側に、前方側が窄まった台形を組合せた形状に形成されていると共に、底面が、下皿球抜き孔 3 2 2 a へ向かって低くなるように傾斜している。従って、蓋部材 3 3 4 が開いて下皿球抜き孔 3 2 2 a が開放されている状態で、下皿球供給口 3 2 3 c から下皿 3 2 2 内へ供給された遊技球は、下皿球供給口 3 2 3 c の真正面に開口している下皿球抜き孔 3 2 2 a から即座に下方へ排出される。この下皿球抜き孔 3 2 2 a の左端は、下皿球供給口 3 2 3 c の左端よりも若干左方に位置していることから、下皿球抜き孔 3 2 2 a が開放されている状態では、下皿球供給口 3 2 3 c から下皿 3 2 2 へ供給された遊技球が、下皿 3 2 2 内における下皿球抜き孔 3 2 2 a よりも左側の領域へ直接流通することではなく、下皿球抜き孔 3 2 2 a から排出されることとなる。

【0 2 6 3】

一方、下皿球抜き孔 3 2 2 a の右端は、下皿球供給口 3 2 3 c の右端よりも左方に位置していることから、下皿球供給口 3 2 3 c の右端付近から下皿 3 2 2 へ供給された遊技球が、本体立壁部 3 2 5 b における下皿 3 2 2 の右側の立壁を形成している部位に当接することとなる。この下皿 3 2 2 の右側の立壁は、下皿球抜き孔 3 2 2 a の方向を向くように前後方向に対して斜めに湾曲しているため、下皿球供給口 3 2 3 c から供給された遊技球が、この傾斜している部位に当接すると、下皿球抜き孔 3 2 2 a の方向へ反射することとなり、下皿球抜き孔 3 2 2 a よりも左側の領域へ行くことなく、下皿球抜き孔 3 2 2 a から排出される（図 4 5 を参照）。

【0 2 6 4】

このように、本実施形態の下皿 3 2 2 は、下皿球供給口 3 2 3 c から供給された遊技球を、下皿球抜き孔 3 2 2 a へ誘導するように形成しているため、下皿球抜き孔 3 2 2 a が開放されている状態では、下皿球供給口 3 2 3 c から供給された遊技球を、下皿 3 2 2 における下皿球抜き孔 3 2 2 a の左側の領域へ侵入させることなく、直ちに下皿球抜き孔 3 2 2 a から下方（ドル箱）へ排出させることができる。これにより、下皿球抜き孔 3 2 2 a を開いたままの状態とすると、遊技者側からは下皿 3 2 2 上を流通している遊技球が見えないため、上皿 3 2 1 や払出装置 8 3 0 から払出された遊技球等が、直接ドル箱へ排出されているように錯覚させることができ、遊技球が下皿 3 2 2 を通る煩わしさを感じさせ難くすることで、遊技者を遊技（遊技球の打込操作や演出画像等）に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。

【0 2 6 5】

また、本実施形態の下皿 3 2 2 は、下皿本体 3 2 5 の本体立壁部 3 2 5 b と、本体立壁部 3 2 5 b の上端から上方へ延出した下皿カバー 3 4 0、3 4 0 A とを備えているため、下皿 3 2 2 内に供給され遊技球が、下皿 3 2 2 内で跳ねて飛び上がっても、下皿 3 2 2 内から取付空間 3 2 6 j 側へ遊技球が侵入するのを防止することができ、下皿 3 2 2 内の遊技球が演出操作ユニット 4 0 0（第二演出操作ユニット 4 0 0 A）の後側に接触するのを阻止することができる。従って、下皿 3 2 2 内に供給された遊技球や下皿 3 2 2 に貯留されている遊技球が、演出操作ユニット 4 0 0（第二演出操作ユニット 4 0 0 A）の後側に当接したり押圧したりするのを防止することができ、遊技球によって演出操作ユニット 4 0 0（第二演出操作ユニット 4 0 0 A）の後側が破損するのを防止することができる。

【0 2 6 6】

更に、下皿 3 2 2 において、下皿球供給口 3 2 3 c の前方に下皿球抜き孔 3 2 2 a を備えていることから、下皿球抜き孔 3 2 2 a が開いている状態では、下皿球供給口 3 2 3 c から放出された遊技球をそのまま下皿球抜き孔 3 2 2 a に進入させて下方（ドル箱）へ排出させることができるため、遊技球を下皿本体 3 2 5 の本体立壁部 3 2 5 b の前端側に到

達し難くすることができる。また、下皿 3 2 2 の前端付近の下皿本体 3 2 5 の底壁部 3 2 5 a が、前方へ向かうほど高くなっているため、下皿本体 3 2 5 の本体立壁部 3 2 5 b の前端側へ向かう遊技球が、傾斜した底面を登ることとなり、遊技球の移動速度を減衰させることができる。従って、下皿球供給口 3 2 3 c から下皿 3 2 2 内に放出された遊技球が、下皿カバー 3 4 0、3 4 0 A や本体立壁部 3 2 5 b に当接した時の衝撃を小さくすることができる、それらを破損し難くすることができる。

【0 2 6 7】

なお、本実施形態では、上皿球抜きボタン 3 2 7 に対して、下皿球抜き孔 3 2 2 a を閉鎖している蓋部材 3 3 4 を連動させるようにしても良い。これにより、上皿球抜きボタン 3 2 7 を操作すると、蓋部材 3 3 4 も可動して下皿球抜き孔 3 2 2 a が開くため、上皿 3 2 1 から下皿 3 2 2 へ排出された遊技球が、更に下皿球抜き孔 3 2 2 a から下方のドル箱へ排出されることとなる。つまり、上皿 3 2 1 から遊技球を抜くために上皿球抜きボタン 3 2 7 を操作すると、下皿球抜きボタン 3 3 3 を操作していないにも関わらず、上皿 3 2 1 の遊技球がドル箱に排出されるため、遊技者に対して上皿 3 2 1 の遊技球が直接ドル箱に排出されているように強く錯覚させることができ、上述した作用効果をより一層発揮させることができる。なお、上皿 3 2 1 及び下皿 3 2 2 の球抜きの同時開放は、モータやソレノイド等の駆動源の駆動による同時開放であっても良いし、機械的なリンク機構による同時開放であっても良い。

【0 2 6 8】

また、本実施形態では、下皿 3 2 2 を構成している下皿本体 3 2 5 と下皿カバー 3 4 0 とが分解可能な別体のものを示したが、下皿本体 3 2 5 と下皿カバー 3 4 0 とが分解不能な一体のものとしても良い。また、下皿カバー 3 4 0 のカバー立壁部 3 4 0 a が、下皿本体 3 2 5 の本体立壁部 3 2 5 b の上端から立上った例を示したが、下皿本体 3 2 5 の底壁部 3 2 5 a から下皿カバー 3 4 0 のカバー立壁部 3 4 0 a が立上っていても良い。また、下皿カバー 3 4 0 の天井部 3 4 0 b が、カバー立壁部 3 4 0 a の上端から略水平に延びた例を示したが、下皿カバー 3 4 0 の天井部 3 4 0 b が、下皿本体 3 2 5 の本体立壁部 3 2 5 b の上端から略水平に延びるようにしても良い。

【0 2 6 9】

更に、本実施形態では、下皿 3 2 2 の演出操作ユニット 4 0 0（第二演出操作ユニット 4 0 0 A）との接触を回避させるための逃し部 3 2 2 b を備えた例を示したが、逃し部 3 2 2 b を備えていない下皿 3 2 2 としても良い。

【0 2 7 0】

また、本実施形態では、下皿 3 2 2（下皿本体 3 2 5 や下皿カバー 3 4 0 等）として、貫通した孔の無い様な面状のものを示したが、遊技球が通過不能な複数の貫通した孔を有するものであっても良い。具体的には、下皿 3 2 2 の底壁部 3 2 5 a、本体立壁部 3 2 5 b、カバー立壁部 3 4 0 a、天井部 3 4 0 b 等の少なくとも一部を、遊技球が通過不能な隙間を有した、柵状に形成したものや網状に形成したものとしても良い。なお、皿ユニットカバー 3 2 6（取付空間 3 2 6 j）内に、LED 等の発光体を配置し、下皿 3 2 2 の柵状や網状の隙間を通して下皿 3 2 2 内を照らす（発光装飾させる）ようにしても良い。

【0 2 7 1】

なお、本実施形態では、夫々別体に形成された下皿本体 3 2 5、下皿カバー 3 4 0、皿ユニットベース 3 2 3、及び皿ユニットカバー 3 2 6（下皿カバー部 3 2 6 k）によって、下皿 3 2 2 を形成したものを示したが、それら四つの部材が適宜の組合せで一体とされて下皿 3 2 2 を形成するようにしても良い。具体的には、下皿カバー 3 4 0 と下皿本体 3 2 5 とが一体とされたもの、下皿カバー 3 4 0 と皿ユニットカバー 3 2 6 とが一体とされたもの、下皿本体 3 2 5 と皿ユニットカバー 3 2 6 とが一体とされたもの、下皿カバー 3 4 0 と皿ユニットベース 3 2 3 とが一体とされたもの、下皿本体 3 2 5 と皿ユニットベース 3 2 3 とが一体とされたもの、皿ユニットベース 3 2 3 と皿ユニットカバー 3 2 6 とが一体とされたもの、下皿本体 3 2 5 と下皿カバー 3 4 0 と皿ユニットベース 3 2 3 とが一体とされたもの、下皿本体 3 2 5 と下皿カバー 3 4 0 と皿ユニットカバー 3 2 6 とが一体

とされたもの、下皿カバー 3 4 0 と皿ユニットベース 3 2 3 と皿ユニットカバー 3 2 6 とが一体とされたもの、下皿本体 3 2 5 と皿ユニットベース 3 2 3 と皿ユニットカバー 3 2 6 とが一体とされたもの、下皿本体 3 2 5 と下皿カバー 3 4 0 と皿ユニットベース 3 2 3 と皿ユニットカバー 3 2 6 とが一体とされたもの、等としても良い。

【0 2 7 2】

[3 - 3 b - 1 . 下皿の球誘導部]

皿ユニット 3 2 0 の下皿 3 2 2 において、下皿球供給口 3 2 3 c から下皿球抜き孔 3 2 2 a へ遊技球を誘導する球誘導部 3 2 2 c 等を備えた実施形態について、図 4 6 を参照して詳細に説明する。図 4 6 (a) は下皿に球誘導部を備えた例を概略で示す説明図であり、(b) は下皿に (a) とは異なる球誘導部を備えた例を概略で示す説明図であり、(c) は更に異なる球誘導部を備えた例を概略で示す説明図である。図 4 6 では、上記と同じ構成については、同一の符号を付してある。

10

【0 2 7 3】

図 4 6 (a) の下皿 3 2 2 の例は、下皿 3 2 2 の底面における下皿球供給口 3 2 3 c と下皿球抜き孔 3 2 2 a との間の部位に、下皿球抜き孔 3 2 2 a の直径と略同じ距離で左右に離間して配置された一对の球誘導部 3 2 2 c を備えている。一对の球誘導部 3 2 2 c は、下皿 3 2 2 の底面から突出した状態で前後に延びたレール状 (突条) に形成されている。また、下皿 3 2 2 は、底面が下皿球抜き孔 3 2 2 a へ向かって低くなるように傾斜している。従って、下皿球供給口 3 2 3 c から下皿 3 2 2 内へ供給された遊技球は、球誘導部 3 2 2 c を乗り越えることなく、一对の球誘導部 3 2 2 c により下皿球抜き孔 3 2 2 a へ誘導され、下皿球抜き孔 3 2 2 a から下方 (ドル箱) へ排出される。

20

【0 2 7 4】

そして、この例の下皿 3 2 2 は、上記と同様に、皿ユニットカバー 3 2 6 の下皿開口部 3 2 6 d よりも右側の後方 (下皿第二領域 A 2) に、下皿球供給口 3 2 3 c と下皿球抜き孔 3 2 2 a とが前後方向へ直線状に並んで配置されている。従って、下皿球供給口 3 2 3 c 及び下皿球抜き孔 3 2 2 a は、演出操作ユニット 4 0 0、皿ユニットカバー 3 2 6 における演出操作ユニット取付部 3 2 6 a、及び下皿カバー 3 4 0 の前端側等の被覆壁の後方に位置しており、正面からは見えないようになっている。

【0 2 7 5】

このように、本例の下皿 3 2 2 は、一对の球誘導部 3 2 2 c を備えているため、下皿球抜き孔 3 2 2 a が開放されている状態では、下皿球供給口 3 2 3 c から供給された遊技球を、下皿 3 2 2 における下皿球抜き孔 3 2 2 a の左側の領域へ侵入させることなく、直ちに下皿球抜き孔 3 2 2 a から下方 (ドル箱) へ排出させることができる。そして、遊技者側からは下皿 3 2 2 上を流通している遊技球が見えないため、上皿 3 2 1 や払出装 8 3 0 から払出された遊技球等が、直接ドル箱へ排出されているように錯覚させることができ、遊技球が下皿 3 2 2 を通る煩わしさを感じさせ難くすることで、遊技者を遊技 (遊技球の打込操作や演出画像等) に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。

30

【0 2 7 6】

この図 4 6 (a) の例では、球誘導部 3 2 2 c として、レール状のものを示したが、これに限らず、下皿球抜き孔 3 2 2 a へ向かって延びた溝のように、遊技球を下皿球抜き孔 3 2 2 a へ誘導できるものであれば良い。

40

【0 2 7 7】

次に、図 4 6 (b) の下皿 3 2 2 の例は、下皿 3 2 2 における下皿球抜き孔 3 2 2 a の右側の壁部を、下皿球供給口 3 2 3 c から右斜め前方へ放出された遊技球が、下皿球抜き孔 3 2 2 a の方向へ反射するような形状に形成していると共に、遊技球が当接する部位に緩衝部 3 2 2 d を備えるようにしたものである。この緩衝部 3 2 2 d は、ゴムや発泡体等で形成されている。

【0 2 7 8】

本例の下皿 3 2 2 も上記と同様に、下皿球供給口 3 2 3 c の真正面に下皿球抜き孔 3 2 2 a が配置されていると共に、下皿 3 2 2 の底面が下皿球抜き孔 3 2 2 a へ向かって低く

50

なるように傾斜している。従って、下皿球供給口 3 2 3 c から真直ぐに前方へ放出された遊技球は、そのまま下皿球抜き孔 3 2 2 a から下方（ドル箱）へ排出される。一方、下皿球供給口 3 2 3 c から右前方へ放出された遊技球は、緩衝部 3 2 2 d で下皿球抜き孔 3 2 2 a の方向へ反射して、下皿球抜き孔 3 2 2 a から下方（ドル箱）へ排出される。この際に、遊技球が緩衝部 3 2 2 d に当接して反射するため、反射時の衝突音が低減される。

【0 2 7 9】

更に、この例の下皿 3 2 2 も上記と同様に、皿ユニットカバー 3 2 6 の下皿開口部 3 2 6 d よりも右側の後方（下皿第二領域 A 2 である演出操作ユニット 4 0 0、皿ユニットカバー 3 2 6 における演出操作ユニット取付部 3 2 6 a、及び下皿カバー 3 4 0 の前端側等の被覆壁の後方）に配置されており、正面からは見えなくなっている。

10

【0 2 8 0】

このように、本例の下皿 3 2 2 は、遊技球を反射させる壁部に緩衝部 3 2 2 d を備えているため、下皿球供給口 3 2 3 c から遊技球が真直ぐに前方へ放出されなかった場合でも、緩衝部 3 2 2 d により音もなく下皿球抜き孔 3 2 2 a の方向へ反射させて下方（ドル箱）へ排出させることができる。従って、上皿 3 2 1 や払出装置 8 3 0 から払出された遊技球等がドル箱へ排出される際に、下皿 3 2 2 から遊技球の衝突音が聞こえないため、恰も直接ドル箱へ排出されているように錯覚させることができ、遊技球が下皿 3 2 2 を通る煩わしさを感じさせ難くすることで、遊技者を遊技（遊技球の打込操作や演出画像等）に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。

【0 2 8 1】

20

続いて、図 4 6（c）の下皿 3 2 2 の例は、下皿 3 2 2 の底面（底壁部 3 2 5 a）における下皿球抜き孔 3 2 2 a を間にして下皿球供給口 3 2 3 c とは反対側の部位から上方へ突出し、下皿球抜き孔 3 2 2 a を飛び越えた遊技球を下皿球抜き孔 3 2 2 a 側へ反射させる返し部 3 2 2 e を備えたものである。なお、返し部 3 2 2 e は、下皿 3 2 2 を形成している素材と同じ素材を用いても良いし、ゴムや発泡体等の反射時の衝突音を緩和させる緩衝材を用いても良い。また、返し部 3 2 2 e は、下皿 3 2 2 の側壁を構成していないものとしても良いし、下皿 3 2 2 の側壁（本体立壁部 3 2 5 b）の一部を構成するものとしても良い。

【0 2 8 2】

30

この下皿 3 2 2 では、下皿球供給口 3 2 3 c、下皿球抜き孔 3 2 2 a、及び返し部 3 2 2 e が、後方から前方へ向かって順番に直線上に配置されていると共に、皿ユニットカバー 3 2 6 の下皿開口部 3 2 6 d よりも右側の後方（下皿第二領域 A 2 である演出操作ユニット 4 0 0、皿ユニットカバー 3 2 6 における演出操作ユニット取付部 3 2 6 a、及び下皿カバー 3 4 0 の前端側等の被覆壁の後方）に配置されており、正面からは見えなくなっている。この下皿 3 2 2 では、下皿球供給口 3 2 3 c から下皿球抜き孔 3 2 2 a へ流通する遊技球が、万が一、下皿球抜き孔 3 2 2 a を飛び越えても、返し部 3 2 2 e により下皿球抜き孔 3 2 2 a 側へ反射させて、下皿球抜き孔 3 2 2 a から下方（ドル箱）へ排出させることができる。従って、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【0 2 8 3】

40

なお、本実施形態では、下皿 3 2 2 に対して、上記の球誘導部 3 2 2 c と緩衝部 3 2 2 d とを、適宜に組合せても良い。これにより、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【0 2 8 4】

[3 - 3 b - 2 . 下皿の別の実施形態]

皿ユニット 3 2 0 の下皿 3 2 2 の別の実施形態について、図 4 7 を参照して説明する。図 4 7（a）は分割可能とした下皿を概略で示す説明図であり、（b）は演出操作ユニットの後方の空間の大きさに応じて下皿の貯留領域を拡張した状態を概略で示す説明図であり、（c）は（b）の下皿を概略の斜視図で示す説明図である。図 4 7 に示す下皿 3 2 2 は、下皿本体 3 2 5 が下皿第二領域 A 2 内に配置された分割線 P L を境に分割可能とされているものである。なお、図 4 7 において点線ハッチで示す領域は、取付空間 3 2 6 j の

50

残りの空間を示している。

【0285】

まず、図47(a)に示す下皿本体325(下皿322)は、下皿第一領域A1及び下皿第二領域A2の一部を構成し下皿球抜き孔322aを有している本体部325Aと、本体部325Aの右側に取付けられており下皿第二領域A2の残りの領域を構成している第一増設部325Bとを備えている。第一増設部325Bは、本体部325Aよりも更に、演出操作ユニット400(第二演出操作ユニット400A)が収容される取付空間326jの残りの空間(演出操作ユニット400や第二演出操作ユニット400Aの後方の空間)内へ突出している。この第一増設部325Bは、図示するように、前方から後方へ向かうに従って、左右方向の幅が大きくなるように形成されている。また、第一増設部325Bは、右前隅に、第二演出操作ユニット400Aとの接触を回避させるための逃し部322bが形成されている。

10

【0286】

次に、図47(b)及び図47(c)の例は、演出操作ユニット400の後端が、下皿322の前端よりも後方へ突出しておらず、図47(a)の例よりも、演出操作ユニット400の後方の空間(取付空間326jの残りの空間)が広がっている。そして、この下皿本体325(下皿322)は、下皿第一領域A1及び下皿第二領域A2の一部を構成し下皿球抜き孔322aを有している本体部325Aと、本体部325Aの右側に取付けられておりと共下皿第二領域A2の残りの領域を構成しており第一増設部325Bよりも大きい第二増設部325Cとを備えている。この第二増設部325Cは、図示するように、前端から後端までの左右方向の幅が一定に形成されており、第一増設部325Bよりも遊技球の貯留領域が大きく形成されている。また、この下皿322は、第二増設部325Cの形状と対応した形状の下皿カバー340Aが取付けられている(図47(c)を参照)。

20

【0287】

図47に示した例では、本体部325Aに第一増設部325Bや第二増設部325Cを取付けることで、夫々の遊技球の貯留領域同士が連続(連通)した状態となり、遊技球の貯留領域が拡大する。また、本体部325Aと、第一増設部325Bや第二増設部325Cとの境が、分割線PLとなっている。また、下皿本体325における第一増設部325B及び第二増設部325Cは、演出操作ユニット400や第二演出操作ユニット400Aの後面との間に、所定の隙間(取付空間326jと連通している空間)が生じるように形成されている。

30

【0288】

このように、上記の例では、下皿本体325(下皿322)を分割可能な構成とすると共に、分割された部材の少なくとも一方を交換可能としていることから、下皿322内における遊技球の貯留領域を、必要に応じて、大きくしたり、小さくしたりすることができる。また、下皿本体325(下皿322)を分割可能な構成としているため、皿ユニットカバー326に取付けられる演出操作ユニット400(第二演出操作ユニット400A)の後方(取付空間326j内)への突出量に応じた大きさの増設部(第一増設部325B又は第二増設部325C)を取付けることができる。

40

【0289】

なお、上記の実施形態では、演出操作ユニット400(第二演出操作ユニット400A)の後方となる下皿第二領域A2内に分割線PLを配置したものを示したが、分割線PLを、下皿第一領域A1と下皿第二領域A2との境界線上に配置しても良いし、下皿第一領域A1内に配置しても良い。

【0290】

また、上記の実施形態では、下皿本体325(下皿322)における本体部325Aに、下皿球抜き孔322aを備えたものを示したが、第一増設部325Bや第二増設部325Cに下皿球抜き孔322aを備えるようにしても良い。

【0291】

50

また、上記の実施形態では、下皿本体 3 2 5 の本体部 3 2 5 A の右側に、第一増設部 3 2 5 B や第二増設部 3 2 5 C を取付けたものを示したが、本体部 3 2 5 A の右側に、遊技球の貯留領域を有しない、平板状の閉鎖部材を取付けるようにしても良い。

【0292】

更に、上記の実施形態では、下皿 3 2 2 における下皿本体 3 2 5 について説明したが、下皿カバー 3 4 0 についても、下皿本体 3 2 5 と同様に分割可能としたり、第一増設部 3 2 5 B や第二増設部 3 2 5 C の大きさに合せた形状としたりしても良い。

【0293】

[3-3c. 皿ユニットベース]

皿ユニット 3 2 0 の皿ユニットベース 3 2 3 について、主に図 4 1 乃至図 4 4 等を参照して詳細に説明する。皿ユニットベース 3 2 3 は、扉枠ベースユニット 1 0 0 の扉枠ベース 1 1 0 の前面における貫通口 1 1 1 の下側に取付けられ、扉枠ベース 1 1 0 の全幅に亘って左右に延びた平板状（後方が開放された浅い箱状）に形成されている。

【0294】

皿ユニットベース 3 2 3 は、正面視左上隅付近で前後に貫通していると共に後方へ筒状に延びている上皿球供給口 3 2 3 a と、上皿球供給口 3 2 3 a の下側で前後に貫通していると共に上下に延びている複数の長穴からなるスピーカスリット 3 2 3 b と、正面視左右中央から左寄りの下部において前後に貫通していると共に後方へ筒状に延びている下皿球供給口 3 2 3 c と、下皿球供給口 3 2 3 c の正面視右上側で前後に貫通していると共に上下に延びており上部が上皿本体 3 2 4 の右端に位置する上皿球送り口 3 2 3 d と、を備えている。

【0295】

また、皿ユニットベース 3 2 3 は、上皿球送り口 3 2 3 d を通って皿ユニットベース 3 2 3 の後側に送られた遊技球を球送りユニット 2 5 0 の進入口 2 5 1 a へ誘導する球送り誘導路 3 2 3 e と、球送り誘導路 3 2 3 e の下側から垂下した後下皿球供給口 3 2 3 c の筒状の正面視右側面へ向かって低くなるように略 L 字状に延びており球送りユニット 2 5 0 の球抜口 2 5 1 b から放出された遊技球を下皿球供給口 3 2 3 c へ誘導する球抜き誘導路 3 2 3 f と、球送り誘導路 3 2 3 e の正面視左方で且つ球送り誘導路 3 2 3 e の下端と球抜き誘導路 3 2 3 f の上端との間の高さの位置で前後に貫通しており球送りユニット 2 5 0 の作動棹 2 5 3 c と当接し上皿球抜きボタン 3 2 7 により動作する作動伝達部 3 2 7 a が後方へ臨むように突出する開口部 3 2 3 g と、を備えている。球抜き誘導路 3 2 3 f は、下流端が下皿球供給口 3 2 3 c における筒状の部位内に開口している。

【0296】

更に、皿ユニットベース 3 2 3 は、正面視右下隅で前後に貫通しており扉枠ベースユニット 1 0 0 のハンドル取付部材 1 8 0 の筒部 1 8 1 が挿通されるハンドル挿通口 3 2 3 h と、正面視右隅付近で前後に貫通しており開閉シリンダユニット 2 1 0 のシリンダ錠 2 1 1 が挿通されるシリンダ挿通口 3 2 3 i と、を備えている。

【0297】

皿ユニットベース 3 2 3 の上皿球供給口 3 2 3 a は、扉枠 3 に組立てた状態で、前端が上皿 3 2 1 の後壁に開口し、筒状の後端が扉枠ベース 1 1 0 の上皿用通過口 1 1 7 を前側から貫通してファールカバーユニット 2 7 0 の貫通球通路 2 7 3 の前端と接続している。これにより、払出ユニット 8 0 0 から払出された遊技球が、上皿球供給口 3 2 3 a を通って上皿 3 2 1 内に供給（払出）される。

【0298】

下皿球供給口 3 2 3 c は、扉枠 3 に組立てた状態で、前端が下皿 3 2 2 の後壁に開口し、筒状の後端が扉枠ベース 1 1 0 の下皿用通過口 1 1 6 を前側から貫通してファールカバーユニット 2 7 0 の球放出口 2 7 6 の前端と接続している。これにより、ファールカバーユニット 2 7 0 の貯留通路 2 7 7 内を流通する遊技球が、下皿球供給口 3 2 3 c を通って下皿 3 2 2 内に供給される。この下皿球供給口 3 2 3 c は、演出操作ユニット 4 0 0、皿ユニットカバー 3 2 6 における演出操作ユニット取付部 3 2 6 a（下皿開口部 3 2 6 d の

右外側)、下皿カバー 3 4 0 の前端側、等の後方に配置されており、扉枠 3 を正面から見た時に、下皿開口部 3 2 6 d を通して遊技者側から見えないようになっている。

【0 2 9 9】

[3 - 3 d . 皿ユニットカバー]

皿ユニット 3 2 0 の皿ユニットカバー 3 2 6 について、主に図 4 1 乃至図 4 4 等を参照して詳細に説明する。皿ユニットカバー 3 2 6 は、上皿本体 3 2 4 及び下皿本体 3 2 5 の前側を覆うように皿ユニットベース 3 2 3 の前面に取付けられる。皿ユニットカバー 3 2 6 は、左右方向中央が前方へ膨出しており左右方向中央に前方へ大きく開口し演出操作ユニット 4 0 0 が取付けられる演出操作ユニット取付部 3 2 6 a と、演出操作ユニット取付部 3 2 6 a の左右両側における上皿 3 2 1 と略同じ高さに形成されている皿前上装飾部 3 2 6 b と、左右の皿前上装飾部 3 2 6 b の夫々の下側に形成されている皿前下装飾部 3 2 6 c と、を備えている。

10

【0 3 0 0】

演出操作ユニット取付部 3 2 6 a は、左右方向が皿ユニット 3 2 0 の左右方向の全幅に対して約 1 / 3 の大きさに形成されていると共に、上下方向が皿ユニット 3 2 0 の上下方向の高さと略同じ高さに形成されている。また、演出操作ユニット取付部 3 2 6 a は、前端が上方へ向かうに従って後方へ移動するように傾斜している。詳しくは、演出操作ユニット取付部 3 2 6 a の前端は、垂直線に対して 2 7 度の角度で傾斜している。

【0 3 0 1】

皿前上装飾部 3 2 6 b は、前面が、皿ユニットカバー 3 2 6 の左右方向中央側から左右両端側へ向かうに従って後方へ移動しており、皿ユニットカバー 3 2 6 の左右方向中央側の端部と左右両端側の端部とを結んだ平面に対して、中間部が前方へやや膨出した湾曲面状に形成されている。また、皿前上装飾部 3 2 6 b は、下端が、皿ユニットカバー 3 2 6 の左右方向中央側から左右両端側へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜しており、皿ユニットカバー 3 2 6 の左右方向中央側（演出操作ユニット取付部 3 2 6 a 側）から左右両端側へ向かって上下方向が窄まるように形成されている。皿ユニットカバー 3 2 6 は、正面視左側の皿前上装飾部 3 2 6 b に、演出選択左ボタン 3 3 1 及び演出選択右ボタン 3 3 2 が取付けられている。

20

【0 3 0 2】

皿前下装飾部 3 2 6 c は、前面が、皿ユニットカバー 3 2 6 の左右方向中央側から左右両端側へ向かうに従って後方へ移動しており、皿ユニットカバー 3 2 6 の左右方向中央側の端部と左右両端側の端部とを結んだ平面に対して、中間部が後方へ窪むような湾曲面状に形成されている。

30

【0 3 0 3】

正面視左側の皿前下装飾部 3 2 6 c には、前後に貫通している下皿開口部 3 2 6 d が形成されており、下皿開口部 3 2 6 d から下皿 3 2 2 が前方に臨んでいる。正面視左側の皿前下装飾部 3 2 6 c では、下皿開口部 3 2 6 d の下側前面から下皿球抜きボタン 3 3 3 が前方へ突出している。また、正面視左側の皿前下装飾部 3 2 6 c における下皿開口部 3 2 6 d の左側には、パンチングメタルからなる下スピーカ口 3 2 6 e が形成されている。下スピーカ口 3 2 6 e は、皿ユニット 3 2 0 に組立てた状態で、皿ユニットベース 3 2 3 のスピーカスリット 3 2 3 b の前方に位置している。

40

【0 3 0 4】

正面視右側の皿前下装飾部 3 2 6 c には、正面視右下隅で前後に貫通しており扉枠ベースユニット 1 0 0 のハンドル取付部材 1 8 0 の筒部 1 8 1 が挿通されるハンドル挿通口 3 2 6 f と、正面視右隅付近におけるハンドル挿通口 3 2 6 f の上側で前後に貫通しており開閉シリンダユニット 2 1 0 のシリンダ錠 2 1 1 が挿通されるシリンダ挿通口 3 2 6 g と、が形成されている。

【0 3 0 5】

皿ユニットカバー 3 2 6 は、正面視右側の皿前上装飾部 3 2 6 b の上端から皿ユニットベース 3 2 3 の前端まで延びた板状の天板部 3 2 6 h を有しており、天板部 3 2 6 h によ

50

り上皿 3 2 1 の右側上方を覆っている。この天板部 3 2 6 h に、上皿球抜きボタン 3 2 7、球貸ボタン 3 2 8、返却ボタン 3 2 9、及び球貸返却表示部 3 3 0 が取付けられている。

【0306】

皿ユニットカバー 3 2 6 は、皿前下装飾部 3 2 6 c の下端から皿ユニットベース 3 2 3 の前面まで延びている平板状の底板部 3 2 6 i を備えている。この底板部 3 2 6 i により皿ユニット 3 2 0 の下側が閉鎖されている。なお、底板部 3 2 6 i は、下皿 3 2 2 の下方に位置する部位が下方から上方へ凹むように段状に形成されており、その部位に後述する下皿球抜きベース 3 3 5 が取付けられている。また、底板部 3 2 6 i には、下皿 3 2 2 の下皿球抜き孔 3 2 2 a と対応した位置に、上下に貫通した孔が形成されている。

10

【0307】

皿ユニットカバー 3 2 6 は、演出操作ユニット取付部 3 2 6 a の部位で前方へ開口しており演出操作ユニット 4 0 0（第二演出操作ユニット 4 0 0 A）の後側が挿入（収容）される取付空間 3 2 6 j を備えている。また、皿ユニットカバー 3 2 6 は、下皿開口部 3 2 6 d の左辺及び上辺から後方へ平板状に延出しており、下皿 3 2 2 を覆っている下皿カバー部 3 2 6 k を備えている（図 4 4 を参照）。下皿カバー部 3 2 6 k は、左端に、下皿本体 3 2 5 における本体立壁部 3 2 5 b の左辺の上端が当接していると共に、右端に、下皿カバー 3 4 0 における天井部 3 4 0 b の左端が当接するようになっている。

【0308】

[3-3 e. 上皿球抜きボタン]

20

皿ユニット 3 2 0 の上皿球抜きボタン 3 2 7 について、主に図 4 1 乃至図 4 4 等を参照して詳細に説明する。上皿球抜きボタン 3 2 7 は、上皿 3 2 1 の正面視右側で、皿ユニットカバー 3 2 6 の天板部 3 2 6 h に取付けられており、押圧操作することで、上皿 3 2 1 内の遊技球を下皿 3 2 2 へ抜くことができるものである。上皿球抜きボタン 3 2 7 は、詳細な図示は省略するが、皿ユニットカバー 3 2 6 の天板部 3 2 6 h の下側に取付けられている球抜きボタンホルダによって、天板部 3 2 6 h の下方で後端側が左右に延びた軸周りに回転可能に取付けられている。上皿球抜きボタン 3 2 7 は、その前端下面に、上下に延びている球抜きレバーの上端が当接している。この球抜きレバーは、上皿球抜きボタン 3 2 7 の下方で皿ユニットベース 3 2 3 の前面に取付けられている球抜きベースによって上下方向へスライド可能に取付けられている。

30

【0309】

そして、上皿球抜きボタン 3 2 7 の前端下面に上端が当接している球抜きレバーは、皿ユニットベース 3 2 3 によって上下にスライド可能に取付けられている上皿球抜きスライダ 3 2 7 b の上部に上側から当接している。この上皿球抜きスライダ 3 2 7 b は、後面から後方に突出している作動伝達部 3 2 7 a を備えており、扉枠 3 を組立てた状態で、この作動伝達部 3 2 7 a が、皿ユニットベース 3 2 3 における開口部 3 2 3 g から臨むように後方に突出すると共に、球送りユニット 2 5 0 における球抜き部材 2 5 3 の作動棒 2 5 3 c に下方から当接する。なお、上皿球抜きスライダ 3 2 7 b は、上皿球抜きバネ 3 2 7 c により上方へ付勢されており、この上皿球抜きバネ 3 2 7 c の付勢力により、上皿球抜きスライダ 3 2 7 b 及び球抜きレバーを介して上皿球抜きボタン 3 2 7 が上昇端に位置している。

40

【0310】

従って、上皿球抜きボタン 3 2 7 を、上皿球抜きバネ 3 2 7 c の付勢力に抗して下方へ押圧すると、上皿球抜きスライダ 3 2 7 b の作動伝達部 3 2 7 a が下方へ移動し、作動伝達部 3 2 7 a の上端側に当接している球抜き部材 2 5 3 の作動棒 2 5 3 c も相対的に下方へ移動することとなるため、球抜き部材 2 5 3 が正面視反時計周りの方向へ回動し、仕切部 2 5 3 a による進入口 2 5 1 a と球抜口 2 5 1 b との間の仕切りが解除され、それらが互いに連通した状態となる。これにより、上皿 3 2 1 内の遊技球が、球送りユニット 2 5 0 の球抜口 2 5 1 b から皿ユニット 3 2 0 の球抜き誘導路 3 2 3 f へと排出され、下皿球供給口 3 2 3 c を介して下皿 3 2 2 へ排出（供給）させることができる。

50

【0311】

なお、上皿球抜きボタン327を操作すると、下皿球抜き孔322aを閉鎖している蓋部材334が連動して可動するようにしても良い。これにより、上皿球抜きボタン327を操作すると、蓋部材334も可動して下皿球抜き孔322aが開くため、上皿321から下皿322へ排出された遊技球が、更に下皿球抜き孔322aから下方のドル箱へ排出されることとなる。つまり、上皿321から遊技球を抜くために上皿球抜きボタン327を操作すると、下皿球抜きボタン333を操作していないにも関わらず、上皿321の遊技球がドル箱に排出されるため、遊技者に対して上皿321の遊技球が直接ドル箱に排出されているように強く錯覚させることができ、遊技球が下皿322を通る煩わしさを感じさせ難くすることで、遊技者を遊技（遊技球の打込操作や演出画像等）に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。なお、上皿321及び下皿322の球抜きの同時開放は、モータやソレノイド等の駆動源の駆動による同時開放であっても良いし、機械的なリンク機構による同時開放であっても良い。

10

【0312】

[3-3f. 球貸ボタン、返却ボタン、及び球貸返却表示部]

皿ユニット320の球貸ボタン328、返却ボタン329、及び球貸返却表示部330について、主に図41を参照して詳細に説明する。球貸ボタン328、返却ボタン329、及び球貸返却表示部330は、図示するように、皿ユニットカバー326の天板部326hにおける上皿球抜きボタン327の正面視右側で、円形状の装飾内に取付けられている。

20

【0313】

球貸ボタン328は、パチンコ機1に隣接して設けられた球貸機（図示は省略）に対して現金やプリペイドカードを投入した上で、押圧操作することで、所定数の遊技球を皿ユニット320の上皿321内へ貸出す（払出す）ものである。返却ボタン329は、球貸機に投入された現金やプリペイドカードを投入した状態で押圧操作すると、貸出された遊技球の分を差し引いた上で、現金やプリペイドカードを返却するものである。

【0314】

球貸返却表示部330は、図示は省略するが、透明な表面の下側に三桁の7セグメントLEDが配置されており、球貸機に投入した現金やプリペイドカードの残数、或は、球貸機が故障した時のエラーコード等、を表示するものである。

30

【0315】

[3-3g. 演出選択左ボタン及び演出選択右ボタン]

皿ユニット320の演出選択左ボタン331及び演出選択右ボタン332について、主に図41等を参照して詳細に説明する。演出選択左ボタン331及び演出選択右ボタン332は、図示するように、皿ユニットカバー326における正面視左側の皿前上装飾部326bにおける演出操作ユニット取付部326aに近い右端付近に取付けられている。演出選択左ボタン331は、一つの頂点を左方へ向けた三角形形状に形成されている。演出選択右ボタン332は、演出選択左ボタン331の右方で一つの頂点を右方へ向けた三角形形状に形成されている。

【0316】

演出選択左ボタン331及び演出選択右ボタン332は、正面視において遊技領域5a内に配置された遊技盤側演出表示装置1600や演出操作ユニット400の扉枠側演出表示装置460等において、遊技者に対して選択を促す演出画像が表示されると、押圧操作が受付可能となり、所定時間内に演出選択左ボタン331や演出選択右ボタン332を操作して所望の選択肢を選択するためのものである。

40

【0317】

[3-3h. 下皿球抜きボタン]

皿ユニット320の下皿球抜きボタン333について、主に図41乃至図44等を参照して詳細に説明する。下皿球抜きボタン333は、下皿322の前方となる皿ユニットカバー326における下皿開口部326dの下側で、正面視左側の皿前下装飾部326cの

50

前面下端から前方に突出している。この下皿球抜きボタン 3 3 3 は、押圧操作することで、下皿 3 2 2 の下皿球抜き孔 3 2 2 a を閉鎖している蓋部材 3 3 4 を回動させることができ、蓋部材 3 3 4 が回動することで下皿球抜き孔 3 2 2 a が開放されて、下皿 3 2 2 内に貯留されている遊技球を、皿ユニット 3 2 0 の下方へ排出させることができる。

【0 3 1 8】

下皿球抜きボタン 3 3 3 は、下皿本体 3 2 5 の下側で皿ユニットカバー 3 2 6 の底板部 3 2 6 i に取付けられている下皿球抜きベース 3 3 5 (図 4 2 (b) を参照) によって前後方向へスライド可能に取付けられている。下皿球抜きボタン 3 3 3 は、下皿 3 2 2 の下皿球抜き孔 3 2 2 a に対して左方に配置されている (図 2 8 等を参照)。

【0 3 1 9】

下皿球抜きベース 3 3 5 には、皿ユニットカバー 3 2 6 の底板部 3 2 6 i において、下皿 3 2 2 の下方の位置で下方から上方へ凹むように段状に形成されている部位に收容されるように、底板部 3 2 6 i に取付けられている。下皿球抜きベース 3 3 5 は、下皿 3 2 2 の下皿球抜き孔 3 2 2 a の直下となる位置に、下皿球抜き孔 3 2 2 a と同じ大きさで上下に貫通している排出口 3 3 5 a が形成されている。蓋部材 3 3 4 は、詳細な図示は省略するが、下皿本体 3 2 5 と下皿球抜きベース 3 3 5 との間に配置されている。これにより、下皿 3 2 2 の下皿球抜き孔 3 2 2 a を閉鎖している蓋部材 3 3 4 を開くと、下皿球抜きベース 3 3 5 の排出口 3 3 5 a も開くこととなり、下皿球抜き孔 3 2 2 a と排出口 3 3 5 a とが互いに連通した状態となる。

【0 3 2 0】

蓋部材 3 3 4 は、図示は省略するが、平面視において、下皿球抜きボタン 3 3 3 よりも左方の位置を中心として回動可能に下皿球抜きベース 3 3 5 に取付けられている。下皿球抜きボタン 3 3 3 には、蓋部材 3 3 4 における下皿球抜き孔 3 2 2 a を閉鎖する部位と、下皿球抜きベース 3 3 5 により回動可能に取付けられる部位との間の部位が連結されている。これにより、下皿球抜きボタン 3 3 3 を前後方向へ移動させると、蓋部材 3 3 4 が上下に延びた軸周りに回動し、下皿球抜き孔 3 2 2 a (排出口 3 3 5 a) を開閉させることができる。

【0 3 2 1】

下皿球抜きベース 3 3 5 には、図示は省略するが、下皿球抜きボタン 3 3 3 を後方へ押圧して移動させた時に、下皿球抜きボタン 3 3 3 を保持する保持装置と、下皿球抜きボタン 3 3 3 を前方へ付勢している下皿球抜きバネと、が取付けられている。下皿球抜きボタン 3 3 3 が前方に突出して下皿球抜き孔 3 2 2 a を蓋部材 3 3 4 により閉鎖している状態で、下皿球抜きボタン 3 3 3 を押圧して後方へ移動させると、蓋部材 3 3 4 が回動して下皿球抜き孔 3 2 2 a が開くと共に、下皿球抜きボタン 3 3 3 が保持装置に保持されて、後方へ移動したままの状態となる。この状態で、下皿球抜きボタン 3 3 3 の押圧を放しても、下皿球抜きボタン 3 3 3 が前方へ移動することはなく、下皿球抜き孔 3 2 2 a が開いたままの状態維持され、下皿 3 2 2 内の遊技球を下皿球抜き孔 3 2 2 a 及び排出口 3 3 5 a を通して皿ユニット 3 2 0 の下方へ排出させることができる。

【0 3 2 2】

そして、下皿球抜きボタン 3 3 3 が保持装置に保持されて下皿球抜き孔 3 2 2 a が開いている状態で、下皿球抜きボタン 3 3 3 を後方へ押圧すると、保持装置による保持が解除される。この状態で、下皿球抜きボタン 3 3 3 の押圧を放すと、下皿球抜きボタン 3 3 3 が下皿球抜きバネの付勢力により前方へ移動し、突出した状態に復帰すると共に、蓋部材 3 3 4 が回動して下皿球抜き孔 3 2 2 a (排出口 3 3 5 a) が閉鎖された状態となる。これにより、下皿 3 2 2 内に遊技球を貯留させることができる。

【0 3 2 3】

なお、下皿球抜きボタン 3 3 3 の押圧操作とは別に、上皿球抜きボタン 3 2 7 の押圧操作によっても、下皿球抜き孔 3 2 2 a (排出口 3 3 5 a) を閉鎖している蓋部材 3 3 4 が可動して下皿球抜き孔 3 2 2 a が開くようにしても良い。これにより、上皿 3 2 1 に貯留された遊技球を皿ユニット 3 2 0 の下方に配置されたドル箱に排出させたい時に、上皿球

10

20

30

40

50

抜きボタン 3 2 7 を操作するだけで、下皿 3 2 2 を介してドル箱に排出させることができ、球抜きに係る手間を簡素化することができる。なお、上皿 3 2 1 及び下皿 3 2 2 の球抜きの同時開放は、モータやソレノイド等の駆動源の駆動による同時開放であっても良いし、機械的なリンク機構による同時開放であっても良い。

【0324】

[3-4. 演出操作ユニットの全体構成]

扉枠 3 における演出操作ユニット 4 0 0 の全体構成について、主に図 4 8 乃至図 5 5 等を参照して詳細に説明する。図 4 8 (a) は扉枠における演出操作ユニットの正面図であり、(b) は演出操作ユニットの右側面図である。また、図 4 9 (a) は演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、(b) は演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。図 5 0 は、演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。図 5 1 は図 4 8 (a) における D-D 線で切断した断面図であり、図 5 2 は図 4 8 (b) における E-E 線で切断した断面図である。図 5 3 (a) は図 4 8 (b) における F-F 線で切断した断面図であり、(b) は (a) における A 部の拡大図である。図 5 4 は演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図 5 5 は演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。演出操作ユニット 4 0 0 は、皿ユニット 3 2 0 の正面視左右方向中央の前部に取付けられるものであり、遊技者が押圧操作できると共に、遊技者に対して演出画像を提示することができるものである。

【0325】

演出操作ユニット 4 0 0 は、外形が円形で外周縁を除いた中央側が透明に形成されており遊技者が押圧操作可能な操作ボタン 4 1 0 と、操作ボタン 4 1 0 の外周を囲み皿ユニットカバー 3 2 6 の演出操作ユニット取付部 3 2 6 a に取付けられる枠状のフレームユニット 4 1 5 と、操作ボタン 4 1 0 よりも後方に配置されており操作ボタン 4 1 0 の外周縁及びフレームユニット 4 1 5 を発光装飾させることが可能な装飾基板ユニット 4 2 0 と、フレームユニット 4 1 5 の後側に取付けられており操作ボタン 4 1 0 及び装飾基板ユニット 4 2 0 が前面に取付けられているベースユニット 4 3 0 と、操作ボタン 4 1 0 を通して遊技者側から視認可能にベースユニット 4 3 0 に取付けられており演出画像を表示可能な扉枠側演出表示装置 4 6 0 と、を備えている。

【0326】

[3-4 a. 操作ボタン]

演出操作ユニット 4 0 0 の操作ボタン 4 1 0 について、主に図 5 3 乃至図 5 6 等を参照して詳細に説明する。図 5 6 (a) は操作ボタンを分解して前から見た分解斜視図であり、(b) は操作ボタンを分解して後ろから見た分解斜視図である。操作ボタン 4 1 0 は、外形が皿ユニット 3 2 0 の上下方向の高さよりも若干小さい直径の円形に形成されており、外周縁を除いた中央側が透明に形成されている。操作ボタン 4 1 0 は、外周が円形で中央側が前方へ膨出するように湾曲面状（球面の一部の形状）に形成されている透明なボタンレンズ 4 1 1 と、ボタンレンズ 4 1 1 の外周縁の前側に取付けられている円環状のボタンフレーム 4 1 2 と、ボタンフレーム 4 1 2 の後側にボタンレンズ 4 1 1 の外周縁を挟持するように取付けられている円筒状のボタンベース 4 1 3 と、を備えている。ボタンフレーム 4 1 2 及びボタンベース 4 1 3 は、光を通し難い部材によって形成されている。

【0327】

ボタンレンズ 4 1 1 は、全体が略一定の厚さに形成されている。また、ボタンレンズ 4 1 1 は、表面側が凹凸の無い滑らかな湾曲面状に形成されている。ボタンレンズ 4 1 1 は、ボタンフレーム 4 1 2 の内周側となる位置に裏面から断面 W 字状に窪んだ状態で中央側（内側）へ所定長さで延びていると共に周方向に列設されている第一ボタン装飾部 4 1 1 a と、第一ボタン装飾部 4 1 1 a よりも外周側の位置に裏面から断面円弧状に窪んだ状態で中央側へ向かう軸線上に延びていると共に周方向に所定角度範囲内で列設されている複数（六つ）の第二ボタン装飾部 4 1 1 b と、を備えている。

【0328】

ボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａは、図示するように、操作ボタン４１０に組立てた状態では、ボタnfレーム４１２の内周から中央側へ延びており、左右両側の一群が、上下両側の一群よりも中央側へ長く延びている。

【０３２９】

ボタンレンズ４１１の複数の第二ボタン装飾部４１１ｂは、夫々が同一の円周上において円弧状に延びており、左右両側に夫々三つずつ形成されている。これらの第二ボタン装飾部４１１ｂは、ボタnfレーム４１２のフレーム開口部４１２ａから臨むように形成されていると共に、前面側がボタnfレーム４１２の前面と略同一面上となるように前方へ突出している。

【０３３０】

ボタンレンズ４１１は、第一ボタン装飾部４１１ａ及び第二ボタン装飾部４１１ｂの部位において、裏面に形成されている断面Ｗ字状や断面円弧状の凹凸により、光が屈折するレンズ効果が発揮されるため、後側が明瞭に見えないようになっている。

【０３３１】

ボタnfレーム４１２は、円環状に形成されており、前後方向に貫通し周方向へ所定長さで円弧状に延びた複数（六つ）のフレーム開口部４１２ａを備えている。六つのフレーム開口部４１２ａは、左右両側に夫々三つずつ備えられており、ボタンレンズ４１１の六つの第二ボタン装飾部４１１ｂと対応している。このボタnfレーム４１２は、表面に金属光沢を有したメッキ層を備えている。

【０３３２】

ボタンベース４１３は、前後方向に短く延びた略円筒状の本体部４１３ａと、本体部４１３ａの前端から外方へ突出している円環状のフランジ部４１３ｂと、フランジ部４１３ｂの後側から本体部４１３ａの外周に沿って後方へ円柱状に突出しており周方向に略等間隔で複数（四つ）配置されているガイドボス部４１３ｃと、フランジ部４１３ｂの後側から本体部４１３ａの外周に沿って後方へ帯板状に突出しており周方向に複数（三つ）配置されている検知片４１３ｄと、本体部４１３ａよりも外側でフランジ部４１３ｂを前後に貫通していると共に外周に沿って所定長さで延びており周方向に複数（六つ）形成されているベース開口部４１３ｅと、本体部４１３ａの前端から前方へ筒状に延出しており前端側がボタンレンズ４１１の内面に沿うように内側（中央側）へ窄まっている内側延出部４１３ｆと、を備えている。

【０３３３】

ボタンベース４１３における内側延出部４１３ｆの外周面と、フランジ部４１３ｂの前面とにボタンレンズ４１１の外周縁及びボタnfレーム４１２が取付けられる。四つのガイドボス部４１３ｃは、本体部４１３ａの周方向に対して、上下左右の四隅に相当する部位に夫々配置されている。これら四つのガイドボス部４１３ｃは、ベースユニット４３０におけるユニットベース４３１の保持孔４３１ｂ内に夫々摺動可能に挿入される。三つの検知片４１３ｄは、本体部４１３ａの周方向に対して、上側に二つ、下側に一つ、配されるように、周方向へ略等間隔に配置されている。これら三つの検知片４１３ｄは、操作ボタン４１０が押圧されると、ベースユニット４３０の押圧検知センサ４４０により検知される。

【０３３４】

六つのベース開口部４１３ｅは、左右両側に夫々三つずつ備えられており、ボタンレンズ４１１の第二ボタン装飾部４１１ｂ及びボタnfレーム４１２のフレーム開口部４１２ａと対応している。ボタンベース４１３におけるベース開口部４１３ｅの部位では、本体部４１３ａ及び内側延出部４１３ｆの一部が、外周側から内側へ窪んでいる。内側延出部４１３ｆは、内側へ窄まっている前端の内径が、ボタnfレーム４１２の内径と略一致している。

【０３３５】

この操作ボタン４１０は、前面が前方へ湾曲面状（略球面の一部の形状）に膨出していると共に、透明に形成されており、後側に配置されている扉枠側演出表示装置４６０の表

10

20

30

40

50

示画面を前方から視認することができる。操作ボタン410は、四つのガイドボス部413cがベースユニット430におけるユニットベース431の保持孔431bに摺動可能に挿入されていると共に、ユニットベース431の保持孔に431bに挿入されている操作ボタンバネ438により前方へ付勢されている。操作ボタン410は、ベースユニット430の操作ボタンバネ438の付勢力により、外周縁の前面側がフレームユニット415に当接することで、前方へのこれ以上の移動が規制されており、操作ボタンバネ438の付勢力に抗して押圧操作することで、後端がベースユニット430の前面に当接するまで後方へ移動する。操作ボタン410は、押圧操作して後方へ移動させると、三つの検知片413dの少なくとも一つがベースユニット430の押圧検知センサ440に検知される。この押圧検知センサ440による検知片413dの検知によって、操作ボタン410が操作されたこととなる。 10

【0336】

また、操作ボタン410は、演出操作ユニット400を組立てた状態で、透明なボタンレンズ411におけるボタンフレーム412の内周端から中央側へ延びるように全周に亘って形成されている第一ボタン装飾部411aによって、ボタンベース413の内周面と、ベースユニット430の操作ボタン内装飾部材432との間の隙間を、遊技者側から見え難くすることができる。

【0337】

更に、操作ボタン410は、円筒状のボタンベース413の前端開口を、ボタンレンズ411とボタンフレーム412とで閉鎖しており、ボタンレンズ411の外周縁に取付けられているボタンフレーム412により、操作ボタン410の外径に対して、後方が視認可能な透明な部分が、外周から内側へ窄まったように形成されている。このボタンフレーム412の存在によっても、ボタンベース413の内周面と、ベースユニット430の操作ボタン内装飾部材432との間の隙間を、遊技者側から見え難くしている。 20

【0338】

また、操作ボタン410は、演出操作ユニット400に組立てた状態では、筒状のボタンベース413（本体部413a）の後端が、装飾基板ユニット420の内周側を通して装飾基板ユニット420の前面よりも後方へ突出した状態となる。これにより、装飾基板ユニット420の操作ボタン左外装飾基板422及び操作ボタン右外装飾基板423に夫々実装されている第一LED422a、423a及び第二LED422b、423bから前方へ照射された光が、ボタンベース413の外側から内側へ漏れるのを防止することができると共に、ベースユニット430の操作ボタン左内装飾基板433、操作ボタン右内装飾基板434、操作ボタン上内装飾基板435、及び操作ボタン下内装飾基板436に実装されたLEDから前方へ照射された光がボタンベース413の内側から外側へ漏れるのを防止することができる。従って、装飾基板ユニット420の第一LED422a、423a及び第二LED422b、423bやベースユニット430の操作ボタン左内装飾基板433、操作ボタン右内装飾基板434、操作ボタン上内装飾基板435、及び操作ボタン下内装飾基板436に実装されたLEDが、発光装飾対象としている部位以外が発光装飾されてしまうのを防止することができ、見栄え良く発光装飾を行うことができる。 30

【0339】

[3-4b. フレームユニット]

演出操作ユニット400のフレームユニット415について、主に図53乃至図55等を参照して詳細に説明する。フレームユニット415は、操作ボタン410の前方側から外周を囲むように、皿ユニット320における皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326aに前側から取付けられ、操作ボタン410の外側を装飾している。フレームユニット415は、外形が演出操作ユニット取付部326aの前端側に合せた形状に形成されている。

【0340】

フレームユニット415は、皿ユニット320における皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326aに取付けられ円形の中央開口部416aを有する枠状のフレ 50

ーム本体４１６と、中央開口部４１６ａの左右両側でフレーム本体４１６に後側から取付けられる透光性を有した一对のフレームサイドレンズ４１７と、中央開口部４１６ａの上側でフレーム本体４１６に前側から取付けられる透光性を有したフレームトップレンズ４１８と、を備えている。

【０３４１】

フレーム本体４１６は、操作ボタン４１０の外径よりも小径で前後に貫通している円形の中央開口部４１６ａと、中央開口部４１６ａよりも左右両外側で前後に貫通していると共に中央開口部４１６ａの周縁に沿って円弧状に延びており周方向に列設されている複数（六つ）の外周開口部４１６ｂと、中央開口部４１６ａの上側前面において所定幅で切欠かれている切欠部４１６ｃと、を備えている。中央開口部４１６ａは、操作ボタン４１０におけるボタンフレーム４１２のフレーム開口部４１２ａの外周側の直径と略同じ大きさに形成されている。これにより、フレーム開口部４１２ａの外周後側に操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３のフランジ部４１３ｂの前端側が当接できるようになっている。

10

【０３４２】

六つの外周開口部４１６ｂは、中央開口部４１６ａの左右両外側に、夫々三つずつ備えられており、後側からフレームサイドレンズ４１７によって閉鎖されている。切欠部４１６ｃは、前後方向にも貫通しており、前側からフレームトップレンズ４１８が嵌込まれている。

【０３４３】

また、フレーム本体４１６は、中央開口部４１６ａの周縁よりも若干外側の位置から後方へ延出している略筒状の内側筒部４１６ｄを備えている。内側筒部４１６ｄは、中央開口部４１６ａと外周開口部４１６ｂとの間の位置から後方へ延出しており、切欠部４１６ｃと対応している部位が切欠かれている。内側筒部４１６ｄは、演出操作ユニット４００を組立てた状態では、装飾基板ユニット４２０の操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３における夫々の第一ＬＥＤ４２２ａ、４２３ａと第二ＬＥＤ４２２ｂ、４２３ｂとの間に位置しており、第一ＬＥＤ４２２ａ、４２３ａと第二ＬＥＤ４２２ｂ、４２３ｂとの間を仕切っている（図５２を参照）。

20

【０３４４】

更に、フレーム本体４１６は、外周の左右両側上部において夫々外方へ延出しており、皿ユニット３２０の皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられる一对の取付部４１６ｅを備えている。フレーム本体４１６（演出操作ユニット４００）は、一对の取付部４１６ｅと切欠部４１６ｃの左右両側の部位が、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられる。

30

【０３４５】

フレーム本体４１６は、中央開口部４１６ａを間にして切欠部４１６ｃ側（フレームトップレンズ４１８が取付けられる側）とは反対側で切欠部４１６ｃと同じ幅の部位を除いて、表面の略全体に金属光沢を有したメッキ層が形成されている。

【０３４６】

フレームサイドレンズ４１７は、フレーム本体４１６の左右に夫々三つずつ形成されている外周開口部４１６ｂを後側から閉鎖している。フレームサイドレンズ４１７は、前面側が凹凸の無い滑らかな面に形成されており、後面側に中央開口部４１６ａの周縁に沿った複数の凹凸が形成されている（図５３及び図６３を参照）。これら複数の凹凸によって光が屈折することで、フレームサイドレンズ４１７の後側が見えないようになっている。

40

【０３４７】

フレームトップレンズ４１８は、フレーム本体４１６の切欠部４１６ｃに前側から嵌込まれるように、外形が略四角形に形成されている。フレームトップレンズ４１８は、前面側が滑らかに形成されている。また、フレームトップレンズ４１８は、後面側に中央開口部４１６ａの周縁に沿ってジグザグ状に延びた複数の凹凸が中央開口部４１６ａの半径方向に複数列設されている（図５１及び図６３を参照）。これら複数の凹凸によって光が屈

50

折することで、フレームトップレンズ４１８の後側が見えないようになっている。

【０３４８】

フレームユニット４１５は、演出操作ユニット４００を組立てた状態で、一对のフレームサイドレンズ４１７が装飾基板ユニット４２０の操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３における夫々の第二ＬＥＤ４２２ｂ、４２３ｂの前方に位置すると共に、フレームトップレンズ４１８がベースユニット４３０のフレームトップレンズ装飾基板４３７の前方に位置し、それらに実装されている第二ＬＥＤ４２２ｂ、４２３ｂ等によって夫々が発光装飾可能となっている。

【０３４９】

〔３－４ｃ．装飾基板ユニット〕

演出操作ユニット４００の装飾基板ユニット４２０について、主に図５３乃至図５７等を参照して詳細に説明する。図５７は、演出操作ユニットの装飾基板ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。装飾基板ユニット４２０は、フレームユニット４１５の下方でベースユニット４３０の前面に取付けられ、操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂ及びフレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７を発光装飾させることができると共に、演出操作ユニット４００に振動を付与させることができるものである。

【０３５０】

装飾基板ユニット４２０は、上方側が開放されたＣ字状の基板ベース４２１と、基板ベース４２１における左右両側の前面に夫々取付けられている操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３と、基板ベース４２１の前面下部に取付けられている振動モータ４２４と、振動モータ４２４の前側を覆うように基板ベース４２１の前面に取付けられているモータカバー４２５と、を備えている。

【０３５１】

基板ベース４２１は、内周側が操作ボタン４１０のボタンベース４１３における筒状の本体部４１３ａの外径よりも若干大きく形成されていると共に、外周側がボタンベース４１３におけるフランジ部４１３ｂの外径よりも大きく且つフレームユニット４１５の外径よりも小さく形成されている。

【０３５２】

操作ボタン左外装飾基板４２２は、基板ベース４２１の前面に沿って円弧状に延びている。操作ボタン左外装飾基板４２２は、前面側に、基板ベース４２１の内周に沿って実装された複数の第一ＬＥＤ４２２ａと、複数の第一ＬＥＤ４２２ａよりも半径方向外側で基板ベース４２１の内周に沿って実装された複数の第二ＬＥＤ４２２ｂと、を備えている。操作ボタン右外装飾基板４２３は、基板ベース４２１の前面に沿って円弧状に延びている。操作ボタン右外装飾基板４２３は、前面側に、基板ベース４２１の内周に沿って実装された複数の第一ＬＥＤ４２３ａと、複数の第一ＬＥＤ４２３ａよりも半径方向外側で基板ベース４２１の内周に沿って実装された複数の第二ＬＥＤ４２３ｂと、を備えている。これら操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３は、前後両面が白色とされている。

【０３５３】

振動モータ４２４は、回転軸に偏芯した錘４２４ａが取付けられており、この錘４２４ａを回転させることで振動を発生させることができる。

【０３５４】

装飾基板ユニット４２０は、演出操作ユニット４００に組立てた状態では、基板ベース４２１の内側に、操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３の筒状の本体部４１３ａ後端側が挿入されている。また、装飾基板ユニット４２０は、操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３における夫々の第一ＬＥＤ４２２ａ、４２３ａが操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂの後方に位置し、夫々の第二ＬＥＤ４２２ｂ、４２３ｂがフレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７の後方に位置している。また、演出操作ユニット４００に組立てた状態では、操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３の夫々の第一ＬＥＤ４２２ａ、４２３ａと、夫々の

10

20

30

40

50

第二LED 422b, 423bとの間に、フレームユニット415の内側筒部416dが位置している(図52を参照)。

【0355】

従って、装飾基板ユニット420は、操作ボタン左外装飾基板422及び操作ボタン右外装飾基板423における夫々の第一LED 422a, 423aからの光によって操作ボタン410の第二ボタン装飾部411bのみを発光装飾させることができると共に、夫々の第二LED 422b, 423bからの光によってフレームユニット415のフレームサイドレンズ417のみを発光装飾させることができる。

【0356】

また、装飾基板ユニット420は、振動モータ424の錘424aを回転させることで、振動を発生させて、演出操作ユニット400全体を振動させることができる。

【0357】

[3-4d. ベースユニット]

演出操作ユニット400のベースユニット430について、主に図58乃至図60等を参照して詳細に説明する。図58(a)は演出操作ユニットのベースユニットを前から見た斜視図であり、(b)は演出操作ユニットのベースユニットを後ろから見た斜視図である。図59は、演出操作ユニットのベースユニットを分解して前から見た分解斜視図である。また、図60は、演出操作ユニットのベースユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。演出操作ユニット400のベースユニット430は、操作ボタン410を前後方向へ進退可能に取付けていると共に、フレームユニット415の後側に取付けられるものである。

【0358】

ベースユニット430は、フレームユニット415の後側に取付けられ中央部において上下に延びた略四角形に貫通している貫通孔431a、及び貫通孔431aの外側で前方に開放された止り孔からなる四つの保持孔431bを有する環状のユニットベース431と、ユニットベース431の前面で貫通孔431aを覆うように取付けられており前後に短く筒状延びた透光性を有する操作ボタン内装飾部材432と、操作ボタン内装飾部材432の後方でユニットベース431の前面における貫通孔431aの左右両側に夫々取付けられている操作ボタン左内装飾基板433及び操作ボタン右内装飾基板434と、操作ボタン内装飾部材432の後方でユニットベース431の前面における貫通孔431aの上下両側に取付けられている操作ボタン上内装飾基板435及び操作ボタン下内装飾基板436と、ユニットベース431の前面上部に取付けられているフレームトップレンズ装飾基板437と、を備えている。

【0359】

また、ベースユニット430は、ユニットベース431の四つの保持孔431b内に夫々挿入されている四つの操作ボタンバネ438と、ユニットベース431の前面に取付けられている三つのセンサホルダ439と、各センサホルダ439に夫々取付けられており操作ボタン410の押圧操作を検知する三つの押圧検知センサ440と、ユニットベース431の後側に取付けられている演出操作ユニット中継基板441と、演出操作ユニット中継基板441の後側を覆うようにユニットベース431の後側に取付けられている中継基板カバー442と、を備えている。

【0360】

ユニットベース431は、外形が略円形状で、フレームユニット415の外形よりも若干小さく形成されている。ユニットベース431は、中央において前後に貫通しており、上下に延びた略四角形の貫通孔431aが形成されている。この貫通孔431aは、操作ボタン410のボタンベース413における筒状の本体部413a内に収まる大きさと、扉枠側演出表示装置460の表示画面が挿通可能な大きさに形成されている。このユニットベース431の後側に扉枠側演出表示装置460が取付けられる。

【0361】

ユニットベース431の四つの保持孔431bは、貫通孔431aの外側の上下左右の

四隅で、操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３の四つのガイドボス部４１３ｃと対応する位置に形成されている。これら保持孔４３１ｂは、内径がガイドボス部４１３ｃの外径よりも若干大きく形成されており、ガイドボス部４１３ｃを摺動可能に挿入させることができる。

【０３６２】

更に詳述すると、四つの保持孔４３１ｂのうちの左上側の保持孔４３１ｂは、ユニットベース４３１の中心（操作ボタン４１０の中心）を通る上下に延びた中心線から、ユニットベース４３１の中心に対して反時計周りの方向へ約３０度回転した位置に形成されている。また、四つの保持孔４３１ｂのうちの右上側の保持孔４３１ｂは、ユニットベース４３１の中心（操作ボタン４１０の中心）を通る上下に延びた中心線から、ユニットベース４３１の中心に対して時計周りの方向へ約４７度回転した位置に形成されている。一方、四つの保持孔４３１ｂのうちの下側に配置されている二つの保持孔４３１ｂは、上側の二つの保持孔４３１ｂに対してユニットベース４３１の中心の反対側の位置に夫々形成されている。

【０３６３】

また、ユニットベース４３１は、前面上部において、操作ボタン上内装飾基板４３５が取付けられる部位と、フレームトップレンズ装飾基板４３７が取付けられる部位との間から平板状に前方へ突出している遮光壁部４３１ｃを備えている。この遮光壁部４３１ｃにより、フレームトップレンズ装飾基板４３７のみによってフレームトップレンズ４１８を発光装飾させることができる。

【０３６４】

操作ボタン内装飾部材４３２は、前後方向へ短く延びた略円筒状の周壁部４３２ａと、周壁部４３２ａの前端側を閉鎖しており中央が前方へ突出するように湾曲面状に形成されている前板部４３２ｂと、前板部４３２ｂを前後に貫通しており上下延びた四角形状の開口部４３２ｃと、周壁部４３２ａの後端から外方へ延出しているフランジ部４３２ｄと、フランジ部４３２ｄから後方へ突出しておりユニットベース４３１に取付けられる複数の取付ボス４３２ｅと、を備えている。

【０３６５】

操作ボタン内装飾部材４３２の周壁部４３２ａは、外径が操作ボタン４１０におけるボタンフレーム４１２の内径と略同じ大きさに形成されている。前板部４３２ｂを貫通している開口部４３２ｃは、扉枠側演出表示装置４６０の表示画面と略同じ大きさに形成されている。

【０３６６】

操作ボタン内装飾部材４３２は、周壁部４３２ａの外周面と、前板部４３２ｂの前面が、凹凸のない滑らかな面に形成されている。

【０３６７】

操作ボタン内装飾部材４３２は、周壁部４３２ａの内周面に形成されており、円弧状に窪んでいると共に前後方向へ延びており、周方向に複数備えられた第一ボタン内装飾部４３２ｆと、前板部４３２ｂの後面に形成されており、円弧状に膨出し、前板部４３２ｂの中央を中心とするような変八角形状に延びていると共に、前板部４３２ｂの中央を中心として同心円状に複数備えられている第二ボタン内装飾部４３２ｇ（図６３を参照）と、を備えている。第二ボタン内装飾部４３２ｇは、開口部４３２ｃの四つの内周辺と平行に延びている部位を有するように形成されている。

【０３６８】

操作ボタン内装飾部材４３２は、透明な部材によって形成されている。操作ボタン内装飾部材４３２は、周壁部４３２ａの第一ボタン内装飾部４３２ｆと、前板部４３２ｂの第二ボタン内装飾部４３２ｇとによるレンズ効果により、後方が明瞭に視認できないようになっている。

【０３６９】

操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾

基板 4 3 5、及び操作ボタン下内装飾基板 4 3 6 は、夫々前面側に複数の L E D が実装されており、それら L E D を発光させることで操作ボタン内装飾部材 4 3 2 を発光装飾させることができる。この操作ボタン内装飾部材 4 3 2 を発光装飾させることで、操作ボタン 4 1 0 内や扉枠側演出表示装置 4 6 0 の外側を発光装飾させることができる。

【0 3 7 0】

フレームトップレンズ装飾基板 4 3 7 は、前面に複数の L E D が実装されており、それら L E D を発光させることで、フレームユニット 4 1 5 におけるフレームトップレンズ 4 1 8 を発光装飾させることができる。

【0 3 7 1】

操作ボタン左内装飾基板 4 3 3、操作ボタン右内装飾基板 4 3 4、操作ボタン上内装飾基板 4 3 5、操作ボタン下内装飾基板 4 3 6、及びフレームトップレンズ装飾基板 4 3 7 に実装されている L E D は、夫々フルカラー L E D とされている。また、操作ボタン左内装飾基板 4 3 3、操作ボタン右内装飾基板 4 3 4、操作ボタン上内装飾基板 4 3 5、操作ボタン下内装飾基板 4 3 6、及びフレームトップレンズ装飾基板 4 3 7 は、前面が白色とされている。

【0 3 7 2】

操作ボタンバネ 4 3 8 は、コイルバネとされており、ユニットベース 4 3 1 における四つの保持孔 4 3 1 b 内に前方から挿入されている。操作ボタンバネ 4 3 8 は、演出操作ユニット 4 0 0 に組立てた状態では、後端が保持孔 4 3 1 b の底面に当接しており、前端が操作ボタン 4 1 0 におけるボタンベース 4 1 3 の本体部 4 1 3 a から後方へ突出しているガイドボス部 4 1 3 c の後端に当接している。これら操作ボタンバネ 4 3 8 により、操作ボタン 4 1 0 を前方へ付勢している。

【0 3 7 3】

三つの押圧検知センサ 4 4 0 は、操作ボタン 4 1 0 におけるボタンベース 4 1 3 の三つの検知片 4 1 3 d と対応している位置に配置されている。詳述すると、三つの押圧検知センサ 4 4 0 は、ユニットベース 4 3 1 の前面において、一つが左上の保持孔 4 3 1 b の左下側に、もう一つが右上の保持孔 4 3 1 b の右下側に、残りの一つが左下の保持孔 4 3 1 b の右下側に夫々センサホルダ 4 3 9 を介して取付けられている。三つの押圧検知センサ 4 4 0 は、ユニットベース 4 3 1 の中央を中心として周方向へ略等間隔に取付けられている。これら三つの押圧検知センサ 4 4 0 は、操作ボタン 4 1 0 の三つの検知片 4 1 3 d を検知することができる。

【0 3 7 4】

演出操作ユニット中継基板 4 4 1 は、ユニットベース 4 3 1 の後側において、背面視で貫通孔 4 3 1 a の左側（正面視右側）に取付けられている。演出操作ユニット中継基板 4 4 1 は、操作ボタン左外装飾基板 4 2 2、操作ボタン右外装飾基板 4 2 3、振動モータ 4 2 4、操作ボタン左内装飾基板 4 3 3、操作ボタン右内装飾基板 4 3 4、操作ボタン上内装飾基板 4 3 5、操作ボタン下内装飾基板 4 3 6、フレームトップレンズ装飾基板 4 3 7、押圧検知センサ 4 4 0、及び扉枠側演出表示装置 4 6 0 と、扉枠ベースユニット 1 0 0 の扉本体中継基板（図示は省略）との接続を中継するためのものである。

【0 3 7 5】

中継基板カバー 4 4 2 は、演出操作ユニット中継基板 4 4 1 の後側を覆う部位の下端から正面視左方に延びており、ユニットベース 4 3 1 の後面下部に取付けられる脚部 4 4 2 a を備えている。中継基板カバー 4 4 2 の脚部 4 4 2 a は、扉枠 3 に組立てた状態では、下面が略水平に延びていると共に、皿ユニット 3 2 0 における皿ユニットカバー 3 2 6 の底面を形成している底板部 3 2 6 i との間で僅かな隙間を形成している（図 2 6 を参照）。これにより、操作ボタン 4 1 0 やフレームユニット 4 1 5 を強く下方へ押圧したり叩いたりした時に、脚部 4 4 2 a の下面が皿ユニットカバー 3 2 6 の底板部 3 2 6 i の上面に当接するまでの間では、フレームユニット 4 1 5 の取付部 4 1 6 e や皿ユニットカバー 3 2 6 の演出操作ユニット取付部 3 2 6 a 等が下方へ撓むことで衝撃を吸収することができる。そして、脚部 4 4 2 a の下面が底板部 3 2 6 i の上面に当接した後では、演出操作ユ

ニット400の下方へ移動が規制され、フレームユニット415の取付部416eや皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326a等に無理な力が作用するのを回避させて、それらの破損を防止することができる。

【0376】

[3-4e. 扉枠側演出表示装置]

演出操作ユニット400の扉枠側演出表示装置460について、主に図54及び図55等を参照して詳細に説明する。扉枠側演出表示装置460は、表示画面がベースユニット430における操作ボタン内装飾部材432の開口部432cから前方へ臨むようにユニットベース431の後側に取付けられており、操作ボタン410の透明な中央部分を通して前方側（遊技者側）から表示画面を視認することができると共に、表示画面に演出画像を表示させることができるものである。

10

【0377】

扉枠側演出表示装置460は、前面に四角形の表示画面を有した液晶表示装置461と、液晶表示装置461の後側に取付けられていると共に、ベースユニット430のユニットベース431の後側に取付けられる有底角筒状の取付ブラケット462と、を備えている。液晶表示装置461は、縦横の比が、16:9で、対角線の長さが、約4.3inchの市販のカラー液晶ディスプレイである。取付ブラケット462は、外周が液晶表示装置461の外周と同じ形状に形成されており、有底筒状の底部が液晶表示装置461の後面と当接するように取付けられている。

20

【0378】

扉枠側演出表示装置460は、演出操作ユニット400に組立てた状態では、液晶表示装置461がユニットベース431の貫通孔431aを後側から貫通して、操作ボタン内装飾部材432の周壁部432a内に突出している（図51を参照）。液晶表示装置461の前面（表示画面）は、操作ボタン内装飾部材432の周壁部432aの前端付近に位置しており、前板部432bを貫通している開口部432cから前方に臨んでいる。

【0379】

扉枠側演出表示装置460は、液晶表示装置461において周辺制御基板1510からの制御信号に基づいた所定の演出画像を表示することができる。

【0380】

[3-4f. 演出操作ユニットの作用効果]

30

演出操作ユニット400の作用効果について、主に図61乃至図63等を参照して詳細に説明する。図61は、図51の演出操作ユニットの断面図において操作ボタンを押圧した状態を示す説明図である。図62(a)は演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの一部を切欠いて操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、(b)は演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。図63(a)は演出操作ユニットの外観を前から見た斜視図で示す説明図であり、(b)は演出操作ユニットの外観を操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。

【0381】

40

本実施形態の演出操作ユニット400は、遊技盤5の遊技領域5a内に遊技球が打込まれることで変化する遊技状態に応じて演出画像を遊技者に見せることができると共に、遊技者に操作ボタン410の操作をさせて遊技者に提示した演出に遊技者を参加させて楽しませることができるものである。

【0382】

演出操作ユニット400は、全高が、扉枠3の扉枠ベースユニット100における扉枠ベース110の貫通口111の下側の部位の高さと略同じ高さに形成されている。また、演出操作ユニット400は、全幅が、扉枠3の全幅の1/3よりも若干大きく形成されている。演出操作ユニット400は、正面視において、遊技領域5a（扉枠ベース110の貫通口111）の下側で左右方向の中央に配置されている。

50

【0383】

演出操作ユニット400は、フレームユニット415のフレーム本体416の上部が、皿ユニット320における皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326aに取付けられている。演出操作ユニット400は、皿ユニット320に取付けた状態で、底面となる中継基板カバー442の脚部442aの下面が、皿ユニット320の皿ユニットカバー326における底板部326iの上面との間に、隙間が形成されている。つまり、演出操作ユニット400は、皿ユニット320に対して上部のみが取付けられており、吊下げられた状態に取付けられている。

【0384】

また、演出操作ユニット400は、フレームユニット415の前面（フレーム本体416の中央開口部416aの前端内周により形成される面）が、演出操作ユニット取付部326aの前端開口の傾斜面と平行になるように取付けられている。これにより、演出操作ユニット400は、湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出している透明な操作ボタン410の中心軸線CLが、垂直線に対して63度の角度で、前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している。これにより、本パチンコ機1を用いて遊技を行うために本パチンコ機1の前で遊技者が着座すると、遊技者の頭部が皿ユニット320（演出操作ユニット400）の上方に配置されている遊技盤5における遊技領域5aの中央の前方に位置するため、操作ボタン410の中心軸線CLが、遊技者の頭部付近を通ることとなる。従って、遊技者が遊技領域5aから演出操作ユニット400（操作ボタン410）に視線を落すと、操作ボタン410がその正面視（中心軸線CLと平行な方向からの投影視）に可及的に近い状態で見えることとなり、操作ボタン410や操作ボタン410内の扉枠側演出表示装置460等を良好な状態で視認することができる。

【0385】

演出操作ユニット400は、操作ボタン410の四つのガイドボス部413cがベースユニット430の四つの保持孔431bに夫々摺動可能に挿入されていると共に、操作ボタンバネ438により前方へ付勢されている。演出操作ユニット400は、通常の状態（操作ボタン410を押圧操作していない状態）では、操作ボタンバネ438の付勢力によって、操作ボタン410のボタンベース413のフランジ部413bの前端が、フレームユニット415のフレーム本体416の後面における中央開口部416a付近の部位に当接している。

【0386】

演出操作ユニット400は、通常の状態では、操作ボタン410におけるボタンフレーム412の内周付近から中央側（中心軸線CL側）が、フレームユニット415におけるフレーム本体416の中央開口部416aから前方へ突出している。換言すると、操作ボタン410における湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出している透明なボタンレンズ411において、ボタンフレーム412の内周（内側）から前方へ突出している部位が、フレームユニット415のフレーム本体416の中央開口部416aから前方へ突出している（図51等を参照）。

【0387】

因みに、本実施形態では、フレームユニット415におけるフレーム本体416の中央開口部416aの直径が約15cmとされており、操作ボタン410の中心軸線CL方向に対してボタンレンズ411（の前端）がフレームユニット415の前面から約4cm前方へ突出している。

【0388】

通常の状態において、遊技者が演出操作ユニット400の操作ボタン410を押圧操作すると、操作ボタン410は操作ボタンバネ438の付勢力に抗して中心軸線CLに沿って後方へ移動する。そして、操作ボタン410の後端がベースユニット430のユニットベース431の前面に当接すると、後方への移動が規制されて操作ボタン410の後方への移動が停止する。遊技者が操作ボタン410を押圧操作する時には、湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出しているボタンレンズ411を押圧する。

【0389】

この操作ボタン410は、従来のパチンコ機に備えられている演出用の操作ボタンと比較して、外径が非常に大きく形成されているため、ボタンレンズ411の中央部分から離れた周縁付近が押圧される可能性が高い。詳述すると、従来のパチンコ機における演出用の操作ボタンは、その中心軸線が垂直線と略平行に延びるように取付けられているのに対して、本実施形態の演出操作ユニット400の操作ボタン410は、中心軸線CLが垂直線に対して傾いて取付けられているため、遊技者が従来のパチンコ機と同様に上方から操作ボタン410を押圧すると、図61において白抜きの矢印で示すように、操作ボタン410の中心軸線CLから離れた部位を押圧することとなる。

【0390】

ところで、従来のパチンコ機における演出用の操作ボタンは、遊技者が押圧操作する面が平坦な面に形成されていることから、押圧操作する部位を平坦な面としたまま操作ボタンを大きくした場合、操作ボタンの中央から外れた部位を押圧すると、その押圧された部位が先に後退するように押圧操作する面が傾いてしまい、操作ボタンが真直ぐに後退することができなくなって、操作ボタンを押圧操作することができなくなる虞がある。

【0391】

これに対して、本実施形態の演出操作ユニット400の操作ボタン410は、遊技者が押圧操作する部位（ボタンレンズ411）が、前方へ膨出した湾曲面状（略球面の一部の形状）としているため、操作ボタン410の中央から離れた位置を押圧操作した場合、その力が操作ボタン410の全体に分散されて操作ボタン410が傾き難くなり、操作ボタン410が真直ぐに後方へ移動することができる。従って、操作ボタン410の前面側のどの位置を押圧操作しても、操作ボタン410が傾くことなくスムーズに後退することができるため、押圧操作を確実に検知させることができ、操作ボタン410を押圧操作する演出を十分に楽しませることができる。

【0392】

また、演出操作ユニット400は、装飾基板ユニット420における基板ベース421の前面下部に振動モータ424が取付けられている上で、上述したように、演出操作ユニット400が吊下げられるように上部のみが皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326aに取付けられているため、振動モータ424により錘424aを回転させて振動を発生させると、取付けられている部位から最も離れた部位で振動が発生することから、演出操作ユニット400全体を大きく（強く）振動させることができ、演出操作ユニット400に触れている遊技者に対して振動を伝達させることができる。また、振動モータ424を、比較的遊技者が押圧操作し易い位置（図61において白抜きの矢印の位置）の直下に配置しているため、操作ボタン410を押圧操作している遊技者に対して強い振動を伝達させることができ、遊技者を驚かせて演出を楽しむことができる。

【0393】

更に、演出操作ユニット400は、吊下げられたような状態で皿ユニットカバー326に取付けられていると共に、下面を形成している中継基板カバー442の脚部442aの下面と皿ユニットカバー326の底板部326iの上面との間に隙間が形成されているため、操作ボタン410を強く下方へ押圧したり叩いたりした時に、脚部442aの下面が底板部326iの上面に当接するまでの間、フレームユニット415の取付部416eや皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326a等が下方へ撓むことで衝撃を吸収することができる。また、脚部442aの下面が底板部326iの上面に当接した後では、演出操作ユニット400の下方への移動を規制し、フレームユニット415の取付部416eや皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326a等に無理な力が作用するのを回避させることができ、演出操作ユニット400等の破損を防止することができる。従って、演出操作ユニット400の操作ボタン410を押圧操作する演出を遊技者に提示した時等に、強い力で操作ボタン410が押圧操作されたり叩かれたりしても、操作ボタン410や演出操作ユニット400等が破損することはないため、破損による遊技の中断を回避させることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができると共に

10

20

30

40

50

、破損し難くすることで遊技ホール側の負担の増加を抑制させることができる。

【0394】

なお、上述したように、遊技者が押圧操作する操作ボタン410のボタンレンズ411を、前方へ突出している湾曲面状（略球面の一部の形状）に形成しているため、平板状とした場合と比較して強度・剛性が高くなっていると共に、強く叩かれても、その衝撃をボタンレンズ411全体へ分散させることができ、破損し難くなっている。

【0395】

また、演出操作ユニット400は、図63に示すように、ボタンレンズ411、フレームサイドレンズ417、フレームトップレンズ418、及び操作ボタン内装飾部材432が、透明な部材で構成されているため、それらの裏面側に形成されている第一ボタン装飾部411a、第二ボタン装飾部411b、第一ボタン内装飾部432f、及び第二ボタン内装飾部432g等の凹凸による装飾が、前方側（遊技者側）から視認することができる。また、それら凹凸の装飾が形成されている部位では、板厚が変化していることから光が複雑に屈折するため、凹凸の装飾が形成されている部位を通しては後側が視認し難くなっている。

【0396】

演出操作ユニット400は、操作ボタン410のボタンレンズ411におけるボタンフレーム412の内周から中央側へ延びている第一ボタン装飾部411aを備えているため、この第一ボタン装飾部411aの凹凸の装飾によりボタンレンズ411の内側となる部位の外周縁の部位において後方を見え辛くすることができる。第一ボタン装飾部411aが形成されている部位の後方（中心軸線CL方向の後方）には、操作ボタン410のボタンベース413の本体部413aの内周面と操作ボタン内装飾部材432の周壁部432aの外周面との間の隙間が位置しているが、その隙間の前方に位置する第一ボタン装飾部411aによって前方側（遊技者側）から、操作ボタン内装飾部材432の外周の隙間を見え難くすることができる。これにより、押圧操作可能な操作ボタン410内に、位置が固定されている操作ボタン内装飾部材432を備えても、操作ボタン410の見栄えの悪化を防止することができ、操作ボタン410を見た遊技者が不快感を抱くのを防止することができると共に、透明な操作ボタン410内に操作ボタン内装飾部材432を問題なく配置することができ、操作ボタン410の見栄えを良くすることができる。

【0397】

詳述すると、演出操作ユニット400は、操作ボタン410におけるボタンレンズ411の第一ボタン装飾部411a、第二ボタン装飾部411b、及びボタンフレーム412によって、ベースユニット430の操作ボタン内装飾部材432の外周よりも外側で後方側（奥側）にあるユニットベース431や装飾基板ユニット420等が、透明なボタンレンズ411を通して遊技者側から見えないように形成されている。具体的には、図62において、一点鎖線で囲んだクロスハッチの部位が、遊技者側から見えないようにしている。このように、操作ボタン410に第一ボタン装飾部411a、第二ボタン装飾部411b、及びボタンフレーム412等を備えているため、操作ボタン内装飾部材432の外側や奥側を見え難くして隠すことができ、操作ボタン410、ひいては、演出操作ユニット400全体の見栄えを良くすることができる。

【0398】

また、演出操作ユニット400は、操作ボタン410におけるボタンレンズ411の第一ボタン装飾部411aが、操作ボタン410の中心軸線CLへ向かうように延びていると共に周方向に列設されているのに対して、操作ボタン410の内側後方に配置されている操作ボタン内装飾部材432の前板部432bに形成されている第二ボタン内装飾部432gが中心軸線CLを中心とした変八角形状に延びていると共に同心円状に列設されているため、図63に示すように、第一ボタン装飾部411aの凹凸線と第二ボタン内装飾部432gの凹凸線とが交差することとなり、幾何学的な装飾を遊技者に見せることができる。

【0399】

また、演出操作ユニット４００は、第一ボタン装飾部４１１aと第二ボタン内装飾部４３２gとが、前後方向（中心軸線ＣＬの延びている方向）に離れているため、第一ボタン装飾部４１１aと第二ボタン内装飾部４３２gとによって奥行のある立体的な感じの幾何学模様を遊技者に見せることができ、操作ボタン４１０内を含む装飾を楽しませることができる。

【０４００】

更に、演出操作ユニット４００では、第一ボタン装飾部４１１aと第二ボタン内装飾部４３２gとが前後方向に離れているため、遊技者の目の位置が移動すると、第一ボタン装飾部４１１aの凹凸線と、第二ボタン内装飾部４３２gの凹凸線との重なり具合が変化するため、動きのある装飾を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませることができる。

10

【０４０１】

このように、演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０の第一ボタン装飾部４１１aと操作ボタン内装飾部材４３２の第二ボタン内装飾部４３２gとによって、動きがあり立体感のある装飾を遊技者に見せることができるため、遊技者の関心を強く引付けることができ、訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０４０２】

また、演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０内（ボタンフレーム４１２の内側）で、操作ボタン内装飾部材４３２の後方には、操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６が配置されており、それらの前面に実装されている複数のＬＥＤを発光させることで、操作ボタン４１０内の操作ボタン内装飾部材４３２を発光装飾させることができる。つまり、操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６によって、操作ボタン４１０内を発光装飾させることができる。これら操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６の前面に実装されているＬＥＤは、図５２に示すように、中心軸線ＣＬの延びている方向から見て、操作ボタン４１０のボタンベース４１３における筒状の本体部４１３aの内側に配置されているため、それらからの光が本体部４１３aの外側に漏れることはなく、操作ボタン４１０内のみを良好に発光装飾させることができる。

20

30

【０４０３】

また、演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０の外周付近に位置するボタンフレーム４１２のフレーム開口部４１２aから臨む第二ボタン装飾部４１１bの後方に、装飾基板ユニット４２０における操作ボタン左外装飾基板４２２の第一ＬＥＤ４２２a及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第一ＬＥＤ４２３aが配置されており、それら第一ＬＥＤ４２２a、４２３aを発光させることで、操作ボタン４１０の六つの第二ボタン装飾部４１１bを発光装飾させることができる。操作ボタン左外装飾基板４２２の第一ＬＥＤ４２２a及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第一ＬＥＤ４２３aは、図５２に示すように、操作ボタン４１０のボタンベース４１３における筒状の本体部４１３aと、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６における筒状の内側筒部４１６dとの間に位置しており、第一ＬＥＤ４２２a、４２３aからの光が本体部４１３aの内側や内側筒部４１６dの外側へ漏れることはなく、操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１bのみを良好に発光装飾させることができる。

40

【０４０４】

更に、演出操作ユニット４００は、フレームユニット４１５におけるフレーム本体４１６の六つの外周開口部４１６bから臨むフレームサイドレンズ４１７の後方に、操作ボタン左外装飾基板４２２の第二ＬＥＤ４２２b及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第二ＬＥＤ４２３bが配置されており、それら第二ＬＥＤ４２２b、４２３bを発光させることでフレームサイドレンズ４１７を発光装飾させることができる。操作ボタン左外装飾基板４２２の第二ＬＥＤ４２２b及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第二ＬＥＤ４２３bは

50

、フレームユニット415のフレーム本体416における筒状の内側筒部416dとフレーム本体416の外周との間に位置しており、第二LED422b、423bからの光が内側筒部416dの内側やフレーム本体416の外側へ漏れることはなく、フレームユニット415のフレームサイドレンズ417のみを良好に発光装飾させることができる。

【0405】

また、演出操作ユニット400は、フレームユニット415のフレームトップレンズ418の後方に、ベースユニット430におけるフレームトップレンズ装飾基板437が配置されており、フレームトップレンズ装飾基板437の前面に実装されている複数のLEDを発光させることで、フレームトップレンズ418を発光装飾させることができる。ベースユニット430におけるユニットベース431のフレームトップレンズ装飾基板437が取付けられている部位の下側からは、フレームトップレンズ418の下端後方付近まで平板状の遮光壁部431cが前方へ突出しており、フレームトップレンズ装飾基板437のLEDからの光が操作ボタン410やフレームサイドレンズ417側へ漏れることはなく、フレームユニット415のフレームトップレンズ418のみを良好に発光装飾させることができる。

【0406】

[3-4g. 演出操作ユニットの第二実施形態の全体構成]

次に、上記の演出操作ユニット400の第二実施形態である第二演出操作ユニット400Aについて、主に図64乃至図71等を参照して詳細に説明する。図64(a)は図48乃至図63の演出操作ユニットとは実施形態の異なる第二演出操作ユニットの正面図であり、(b)は第二演出操作ユニットの右側面図である。図65(a)は第二演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は第二演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。図66は、第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。図67は、図64(a)におけるG-G線で切断した断面図である。図68は、図64(b)におけるH-H線で切断した断面図である。図69(a)は図64(b)におけるI-I線で切断した断面図であり、(b)は(a)におけるA部の拡大図である。図70は第二演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図71は第二演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【0407】

第二演出操作ユニット400Aは、上記の演出操作ユニット400に替えて皿ユニット320の演出操作ユニット取付部326aに取付けることができるものである。この第二演出操作ユニット400Aは、演出操作ユニット400と同様に、遊技者が押圧操作することができると共に、遊技者に対して演出画像を提示することができるものである。以下では、第二演出操作ユニット400Aにおいて、演出操作ユニット400と同一の構成部材については、同一の符号を付して説明する。

【0408】

第二演出操作ユニット400Aは、外形が円形で外周縁を除いた中央側が透明に形成されており遊技者が押圧操作可能な操作ボタン410と、操作ボタン410の外周を囲み皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326aに取付けられる枠状のフレームユニット415と、操作ボタン410よりも後方に配置されており操作ボタン410の外周縁及びフレームユニット415を発光装飾させることが可能な装飾基板ユニット420と、フレームユニット415の後側に取付けられており操作ボタン410及び装飾基板ユニット420が前面に取付けられている第二ベースユニット450と、操作ボタン410を通して遊技者側から視認可能に第二ベースユニット450に取付けられており演出画像を表示可能な扉枠側第二演出表示装置460Aと、扉枠側第二演出表示装置460Aの下面に取付けられている緩衝ユニット510と、を備えている。

【0409】

また、第二演出操作ユニット400Aは、扉枠側第二演出表示装置460Aの正面視右側面に取付けられている第二演出操作ユニット中継基板515と、第二演出操作ユニット

中継基板 5 1 5 の表面を覆うように扉枠側第二演出表示装置 4 6 0 A の正面視右側面に取付けられている中継基板カバー 5 1 6 と、を備えている。第二演出操作ユニット中継基板 5 1 5 及び中継基板カバー 5 1 6 は、扉枠側第二演出表示装置 4 6 0 A におけるプロジェクタ取付部材 5 0 5 の正面視右側面に取付けられている。

【0 4 1 0】

第二演出操作ユニット中継基板 5 1 5 は、操作ボタン左外装飾基板 4 2 2、操作ボタン右外装飾基板 4 2 3、振動モータ 4 2 4、押圧検知センサ 4 5 4、フレームトップレンズ装飾基板 4 8 2、切替駆動モータ 4 9 2、プロジェクタ 5 0 0、及び回転検知センサ 5 0 7 と、扉枠ベースユニット 1 0 0 の扉本体中継基板との接続を中継するためのものである。

10

【0 4 1 1】

[3 - 4 g - 1 . 操作ボタン]

第二演出操作ユニット 4 0 0 A の操作ボタン 4 1 0 について、主に図 6 9 乃至図 7 2 等を参照して詳細に説明する。図 7 2 (a) は第二演出操作ユニットの操作ボタンを分解して前から見た分解斜視図であり、(b) は第二演出操作ユニットの操作ボタンを分解して後ろから見た分解斜視図である。第二演出操作ユニット 4 0 0 A の操作ボタン 4 1 0 は、外形が皿ユニット 3 2 0 の上下方向の高さよりも若干小さい直径の円形に形成されており、外周縁を除いた中央側が透明に形成されている。この操作ボタン 4 1 0 は、外周が円形で中央側が前方へ膨出するように湾曲面状（略球面の一部の形状）に形成されている透明なボタンレンズ 4 1 1 と、ボタンレンズ 4 1 1 の外周縁の前側に取付けられている円環状のボタンフレーム 4 1 2 と、ボタンフレーム 4 1 2 の後側にボタンレンズ 4 1 1 の外周縁を挟持するように取付けられている円筒状のボタンベース 4 1 3 と、を備えており、演出操作ユニット 4 0 0 の操作ボタン 4 1 0 と略同一の構成である。

20

【0 4 1 2】

具体的な相違点は、第二演出操作ユニット 4 0 0 A の操作ボタン 4 1 0 と、演出操作ユニット 4 0 0 の操作ボタン 4 1 0 とでは、ボタンレンズ 4 1 1 の第一ボタン装飾部 4 1 1 a の模様と、ボタンベース 4 1 3 のガイドボス部 4 1 3 c の形状が異なっている。

【0 4 1 3】

詳述すると、図示するように、第二演出操作ユニット 4 0 0 A における操作ボタン 4 1 0 の第一ボタン装飾部 4 1 1 a は、ボタンフレーム 4 1 2 の内周と接する部位に、ボタンレンズ 4 1 1 の中央側へ一つの頂点を向けた三角形と、中央とは反対側へ一つの頂点を向けた三角形とが、周方向へ交互に全周に亘って複数列設されたトラス状の模様と、トラス状の模様におけるボタンレンズ 4 1 1 の中央側を向いている底辺と、その底辺の両端からボタンレンズ 4 1 1 の中央側へ延びた辺と、その辺の先端から底辺の中央へ延びている斜辺とで構成された直角三角形の模様と、直角三角形の模様の斜辺と、トラス状の模様の三角形の底辺の中央からボタンレンズ 4 1 1 の中央側へ直角三角形の模様よりも長く延びた辺と、その辺の先端から直角三角形の模様の斜辺の先端へ延びた辺とで構成された変二等辺三角形の模様と、で形成されている。

30

【0 4 1 4】

つまり、この第一ボタン装飾部 4 1 1 a は、複数の三角形の組合せによって構成されている。なお、図示は省略するが、第一ボタン装飾部 4 1 1 a を構成している各三角形は、夫々の面が異なる方向を向いており、多面体状に形成されている。これにより、ボタンレンズ 4 1 1 の表面側が滑らかな湾曲面状に形成されているのに対して、裏面側が第一ボタン装飾部 4 1 1 a の部位において多面体状に形成されているため、第一ボタン装飾部 4 1 1 a の部位では、ボタンレンズ 4 1 1 の板厚が複雑に変化しており、この部位を通る光が乱屈折することとなる。従って、第一ボタン装飾部 4 1 1 a の部位では、複数の三角形が組合わされた幾何学模様を遊技者に見せることができると同時に、乱屈折により後側の部材を見え難くすることができる。

40

【0 4 1 5】

第二演出操作ユニット 4 0 0 A のボタンベース 4 1 3 におけるガイドボス部 4 1 3 c は

50

、後方が開放されている円筒状に形成されている。このガイドボス部 4 1 3 c は、第二ベースユニット 4 5 0 の保持孔 4 5 1 d 内に挿入されると共に、筒状の内部に第二ベースユニット 4 5 0 におけるユニットベース 4 5 1 の保持孔 4 5 1 d 内に保持されているボタンシャフト 4 5 2 が摺動可能に挿入される。本例では、操作ボタン 4 1 0 が、ガイドボス部 4 1 3 c 内に後方から挿入される第二ベースユニット 4 5 0 のボタンシャフト 4 5 2 によって前後方向へ進退可能に取付けられる。

【0 4 1 6】

[3 - 4 g - 2 . フレームユニット]

第二演出操作ユニット 4 0 0 A のフレームユニット 4 1 5 について、主に図 6 9 乃至図 7 1 等を参照して説明する。フレームユニット 4 1 5 は、操作ボタン 4 1 0 の前方側から外周を囲むように、皿ユニット 3 2 0 における皿ユニットカバー 3 2 6 の演出操作ユニット取付部 3 2 6 a に前側から取付けられ、操作ボタン 4 1 0 の外側を装飾している。フレームユニット 4 1 5 は、外形が演出操作ユニット取付部 3 2 6 a の前端側に合せた形状に形成されている。

10

【0 4 1 7】

第二演出操作ユニット 4 0 0 A のフレームユニット 4 1 5 は、演出操作ユニット 4 0 0 のフレームユニット 4 1 5 と同一の構成であり、同一の符号を付すと共に、詳細な説明は省略する。

【0 4 1 8】

[3 - 4 g - 3 . 装飾基板ユニット]

第二演出操作ユニット 4 0 0 A の装飾基板ユニット 4 2 0 について、主に図 5 7、図 6 9 乃至図 7 1 等を参照して説明する。装飾基板ユニット 4 2 0 は、フレームユニット 4 1 5 の下方で第二ベースユニット 4 5 0 の前面に取付けられ、操作ボタン 4 1 0 の第二ボタン装飾部 4 1 1 b 及びフレームユニット 4 1 5 のフレームサイドレンズ 4 1 7 を発光装飾させることができると共に、第二演出操作ユニット 4 0 0 A に振動を付与させることができるものである。

20

【0 4 1 9】

装飾基板ユニット 4 2 0 は、上方側が開放された C 字状の基板ベース 4 2 1 と、基板ベース 4 2 1 における左右両側の前面に夫々取付けられている操作ボタン左外装飾基板 4 2 2 及び操作ボタン右外装飾基板 4 2 3 と、基板ベース 4 2 1 の前面下部に取付けられている振動モータ 4 2 4 と、振動モータ 4 2 4 の前側を覆うように基板ベース 4 2 1 の前面に取付けられているモータカバー 4 2 5 と、を備えている。

30

【0 4 2 0】

第二演出操作ユニット 4 0 0 A の装飾基板ユニット 4 2 0 は、演出操作ユニット 4 0 0 の装飾基板ユニット 4 2 0 と同一の構成であり、同一の符号を付すと共に、詳細な説明は省略する。

【0 4 2 1】

[3 - 4 g - 4 . 第二ベースユニット]

第二演出操作ユニット 4 0 0 A の第二ベースユニット 4 5 0 について、主に図 7 3 等を参照して詳細に説明する。図 7 3 は、第二演出操作ユニットの第二ベースユニットを前から見た斜視図である。第二演出操作ユニット 4 0 0 A の第二ベースユニット 4 5 0 は、操作ボタン 4 1 0 を前後方向へ進退可能に取付けていると共に、扉枠側第二演出表示装置 4 6 0 A が取付けられ、フレームユニット 4 1 5 の後側に取付けられるものである。

40

【0 4 2 2】

第二ベースユニット 4 5 0 は、フレームユニット 4 1 5 の後側に取付けられるユニットベース 4 5 1 と、ユニットベース 4 5 1 の前面から突出しており操作ボタン 4 1 0 のボタンベース 4 1 3 における円筒状の四つのガイドボス部 4 1 3 c 内に後方から摺動可能に夫々挿入される円柱状の四つのボタンシャフト 4 5 2 と、四つのボタンシャフト 4 5 2 の夫々が挿通され操作ボタン 4 1 0 のガイドボス部 4 1 3 c の後端を前方へ付勢している操作ボタンバネ（図示は省略）と、ユニットベース 4 5 1 の前面に取付けられており、操作ボ

50

タン４１０におけるボタンベース４１３の三つの検知片４１３ｄを夫々検知する三つの押圧検知センサ４５４と、を備えている。

【０４２３】

第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１は、円環状の本体部４５１ａと、本体部４５１ａの内周縁から後方へ半球状に突出しているカバー部４５１ｂと、本体部４５１ａの前面に対して垂直方向から見た時に上下に延びた略四角形でカバー部４５１ｂを前後に貫通している貫通口４５１ｃと、本体部４５１ａの前面から後方へ止り孔状に窪んでいる四つの保持孔４５１ｄと、本体部４５１ａの上部において前面から後方へ向かって半円状（Ｕ字状）に窪んでいる上軸受部４５１ｅと、本体部４５１ａの下部において前面から後方へ向かって上軸受部４５１ｅと同軸上で半円状（Ｕ字状）に窪んでいる下軸受部４

10

【０４２４】

ユニットベース４５１の円環状の本体部４５１ａは、内周と外周とが、Ｃ字状に形成されている装飾基板ユニット４２０の基板ベース４２１と略同じ大きさに形成されている。この本体部４５１ａの前面に装飾基板ユニット４２０が取付けられる。カバー部４５１ｂは、上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆにより回転可能に取付けられる扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのスクリーンユニット４７０が回転した時に接触せずに収容可能な大きさに形成されている。貫通口４５１ｃは、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのプロジェクタ５００が後方から通過可能な大きさに形成されている。

20

【０４２５】

ユニットベース４５１の四つの保持孔４５１ｄは、本体部４５１ａの前面の上下左右の四隅で、操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３の四つのガイドボス部４１３ｃと対応する位置に形成されている。これら保持孔４５１ｄは、内径がガイドボス部４１３ｃの外径よりも大きく形成されており、ガイドボス部４１３ｃを挿入させることができる。これら四つの保持孔４５１ｄ内には、その中心軸と同軸上にボタンシャフト４５２が取付けられている。保持孔４５１ｄに取付けられたボタンシャフト４５２の前端は、本体部４５１ａの前面よりも前方へ突出している。保持孔４５１ｄに取付けられたボタンシャフト４５２が操作ボタン４１０の筒状のガイドボス部４１３ｃ内に挿入されることで、ガイドボス部４１３ｃを介して操作ボタン４１０を前後方向へ摺動可能に取付けることができる。

30

【０４２６】

四つの保持孔４５１ｄのうちの左上側の保持孔４５１ｄは、ユニットベース４５１の中心（操作ボタン４１０の中心）を通る上下に延びた中心線から、ユニットベース４５１の中心に対して反時計周りの方向へ約３０度回転した位置に形成されている。また、四つの保持孔４５１ｄのうちの右上側の保持孔４５１ｄは、ユニットベース４５１の中心（操作ボタン４１０の中心）を通る上下に延びた中心線から、ユニットベース４５１の中心に対して時計周りの方向へ約４７度回転した位置に形成されている。一方、四つの保持孔４５１ｄのうちの下側に配置されている二つの保持孔４５１ｄは、上側の二つの保持孔４５１ｄに対してユニットベース４５１の中心の反対側の位置に夫々形成されている。

40

【０４２７】

また、四つの保持孔４５１ｄ内には、図示しない操作ボタンバネが夫々挿入されており、これら操作ボタンバネの前端がガイドボス部４１３ｃの後端に当接することで、ガイドボス部４１３ｃを介して操作ボタン４１０を前方へ付勢している。

【０４２８】

ユニットベース４５１の上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆは、前方が開放されて後方へ延びたＵ字状に形成されている。上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆは、半円弧状に延びている部位の中心が同軸上に位置している。上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆは、前方から扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの上軸部材４７３及び下軸部材４７４が挿入されたうえで、前側から上部軸受部材４８０及び下部軸受部材４８５が本体部４

50

51aの前面に取付けられることで、扉枠側第二演出表示装置460Aのスクリーンユニット470を回転可能に支持することができる。

【0429】

ユニットベース451の一对の回転規制部451gは、夫々の前面が、その延長線（面）が、U字状に後方へ窪んでいる上軸受部451eにおける半円形状の部位の中心軸を通るように形成されており、中心軸を中心として所定角度周方向へ離反している。これら一对の回転規制部451gは、第二演出操作ユニット400Aに組立てた状態で、スクリーンユニット470における作動ギア部材475のストッパ475bが当接することで、スクリーンユニット470の回転範囲を規制している。本実施形態では、一对の回転規制部451gによりスクリーンユニット470の回転範囲を、90度の角度範囲に規制している。

10

【0430】

なお、図示は省略するが、一对の回転規制部451g内には、夫々磁石が埋設されており、ストッパ475bに取付けられている鉄板と磁着することで、回転規制部451gに当接しているストッパ475bを回転規制部451gから離れ難くしている。従って、回転規制部451g内の磁石と、ストッパ475bの鉄板とによって、スクリーンユニット470において、メインスクリーン471を前方へ向けた第一位置の状態、或いは、サブスクリーン472を前方へ向けた第二位置の状態、の何れかにスクリーンユニット470を保持することができ、操作ボタン410の押圧操作や振動モータ424等による振動によって、スクリーンユニット470が回転しようとする動きを抑制して扉枠側第二演出表示装置460Aによる演出画像を良好な状態で楽しませることができる。

20

【0431】

三つの押圧検知センサ454は、ユニットベース451の本体部451aの前面において、操作ボタン410におけるボタンベース413の三つの検知片413dと対応している位置に取付けられている。詳述すると、三つの押圧検知センサ454は、ユニットベース451の本体部451aの前面において、一つが左上の保持孔451dの左下側に、もう一つが右上の保持孔451dの右下側に、残りの一つが左下の保持孔451dの右下側に夫々取付けられている。三つの押圧検知センサ454は、ユニットベース451の中央を中心として周方向へ略等間隔に取付けられている。これら三つの押圧検知センサ454は、操作ボタン410の三つの検知片413dを検知することができる。

30

【0432】

[3-4g-5. 扉枠側第二演出表示装置]

第二演出操作ユニット400Aの扉枠側第二演出表示装置460Aについて、主に図70及び図71等を参照視して詳細に説明する。扉枠側第二演出表示装置460Aは、第二ベースユニット450に取付けられており操作ボタン410の透明な部位を通して遊技者に演出画像を見せることができるものである。扉枠側第二演出表示装置460Aは、第二ベースユニット450の上軸受部451e及び下軸受部451fにより上下に延びた軸線周りを回転可能に取付けられているスクリーンユニット470と、第二ベースユニット450の前面上部に取付けられておりスクリーンユニット470の上部側を第二ベースユニット450と協働して回転可能に取付けている上部軸受部材480と、第二ベースユニット450の前部下部に取付けられておりスクリーンユニット470の下部側を第二ベースユニット450と協働して回転可能に取付けている下部軸受部材485と、を備えている。

40

【0433】

また、扉枠側第二演出表示装置460Aは、スクリーンユニット470を回転駆動させ第二ベースユニット450の上部に取付けられている回転駆動ユニット490と、第二ベースユニット450のカバー部451b内に配置され後方からスクリーンユニット470に演出画像を投影表示可能なプロジェクタ500と、プロジェクタ500が取付けられていると共に第二ベースユニット450のカバー部451bを後側から覆うようにユニットベース451の後面取付けられており前方が開放されている箱状のプロジェクタ取付部材

50

505と、第二ベースユニット450の上部における回動駆動ユニット490の正面視左側でスクリーンユニット470の作動ギア部材475を上方から覆うように取付けられている上部カバー506と、上部カバー506に取付けられておりスクリーンユニット470の回動位置（回転位置）を検知する二つの回転検知センサ507と、を備えている。

【0434】

[3-4g-5a. スクリーンユニット]

扉枠側第二演出表示装置460Aのスクリーンユニット470について、主に図70及び図71等を参照して詳細に説明する。扉枠側第二演出表示装置460Aのスクリーンユニット470は、第二ベースユニット450に上下に延びた軸周りに対して回転可能に取付けられており、プロジェクタ500から演出画像が投射されることで、その演出画像を遊技者から視認可能に表示（投影表示）することができるものである。

10

【0435】

スクリーンユニット470は、半円筒状に形成されており乳白色で透光性を有しているメインスクリーン471と、メインスクリーン471の軸方向一端側を外周の一部としている円盤状で中央部が軸方向外方へ膨出するように湾曲しており乳白色で透光性を有しているサブスクリーン472と、メインスクリーン471の両端部の軸方向中央から軸直角方向外方へ夫々円柱状に突出している上軸部材473及び下軸部材474と、上軸部材473の先端に取付けられており外周の略半周に亘ってギア歯475aが形成されている作動ギア部材475と、サブスクリーン472を貫通する透明で所定のキャラクタ（ドクロ）を模したレリーフ状に形成されているサブスクリーン装飾部材476（図74及び図75等を参照）と、サブスクリーン472の裏面側に取付けられておりサブスクリーン472と対向する面に複数のLED477aが実装されているサブスクリーン装飾基板477（図75等を参照）と、メインスクリーン471のサブスクリーン472とは反対側の端部からメインスクリーン471の中心軸へ向かって短く延びている半円弧状の周縁装飾部材478と、を備えている。

20

【0436】

スクリーンユニット470の半円筒状のメインスクリーン471は、半径が第二ベースユニット450のユニットベース451における円環状の本体部451aの内径よりも小さい大きさに形成されている。メインスクリーン471は、軸方向の長さが、半円筒状の半径の約4/3倍の大きさに形成されている。メインスクリーン471は、軸方向の両端が、サブスクリーン472の周縁装飾部472aと周縁装飾部材478とによって、縁取られるように装飾されている。

30

【0437】

サブスクリーン472は、その中心軸が延びている方向から見た時に、外形が半円筒状のメインスクリーン471の半径と一致している円形状に形成されている（図74（b）を参照）。サブスクリーン472は、外周から中心側へ所定幅で円環状に形成されており四角錐状の凹凸が周方向に複数列設されている周縁装飾部472aと、周縁装飾部472aの内側を閉鎖している湾曲面状のスクリーン一般部472bと、を備えている。サブスクリーン472の周縁装飾部472aは、内周側がメインスクリーン471から遠ざかる方向へ突出するように全体が円錐台状に形成されている。スクリーン一般部472bは、メインスクリーン471から遠ざかる方向へ、半円筒状のメインスクリーン471の半径よりも大きい半径の球面状に膨出している。サブスクリーン472のスクリーン一般部472bには、貫通した穴が形成されており、その穴を閉鎖するようにサブスクリーン装飾部材476が取付けられている。

40

【0438】

上軸部材473及び下軸部材474は、夫々第二ベースユニット450におけるユニットベース451の上軸受部451e及び下軸受部451f内に夫々前方から挿入されて回転可能に取付けられる。

【0439】

作動ギア部材475は、回動駆動ユニット490の第二伝達ギア495と噛合し略半周

50

に亘って形成されているギア歯 475a と、ギア歯 475a の周方向端部の一方から外方へ突出しているストッパ 475b と、ギア歯 475a の周方向端部のストッパ 475b とは反対側から外方へ平板状に突出している検知片 475c と、を備えている。作動ギア部材 475 のストッパ 475b は、第二演出操作ユニット 400A に組立てた状態で、上軸部材 473 の軸芯を中心として円弧状に窪んでいる上部軸受部材 480 の凹部 481a 内に位置しており、凹部 481a 内の両端部に位置している第二ベースユニット 450 におけるユニットベース 451 の一对の回動規制部 451g に当接することでスクリーンユニット 470 の回動範囲が規制される。

【0440】

なお、詳細な図示は省略するが、ストッパ 475b における回動規制部 451g と当接する部位には、鉄板が取付けられており、この鉄板が回動規制部 451g に埋設されている磁石と磁着できるようになっている。

【0441】

このスクリーンユニット 470 は、メインスクリーン 471 を前方へ向けた第一位置と、サブスクリーン 472 を前方へ向けた第二位置との間で回動することができる。検知片 475c は、上部カバー 506 に取付けられている回転検知センサ 507 により検知される。

【0442】

サブスクリーン装飾部材 476 は、サブスクリーン 472 におけるスクリーン一般部 472b に取付けられている。サブスクリーン装飾部材 476 は、透明な部材によりドクロを模したレリーフ状に形成されており、その板厚が複雑に変化していることから、透過する光が複雑に乱屈折し、後方が視認し難くなっている。なお、詳細な図示は省略するが、サブスクリーン装飾部材 476 は、ドクロを模したレリーフ内に「PUSH」の文字が形成されている。

【0443】

サブスクリーン装飾基板 477 は、サブスクリーン 472 の裏面側に、サブスクリーン 472 との間に隙間が形成されるように取付けられており、前面側（サブスクリーン 472 を向いている側）に複数の LED 477a が実装されている。サブスクリーン装飾基板 477 は、外形がサブスクリーン装飾部材 476 よりも小さく形成されており、表面が白色とされている。このサブスクリーン装飾基板 477 の LED 477a を発光させることで、サブスクリーン装飾部材 476 及びサブスクリーン 472 を発光装飾させることができる。詳述すると、サブスクリーン装飾基板 477 は、LED 477a を発光させることで、ドクロの「目」の部分と「PUSH」の文字の部分とを、強く発光装飾させることができる。

【0444】

また、サブスクリーン装飾基板 477 は、サブスクリーン 472 に対して比較的接近させて配置していると共に、サブスクリーン 472 との間に光を拡散させる部材を備えていないことから、LED 477a を発光させると、LED 477a の点光源を遊技者が認識することができるようになっている。更に、サブスクリーン装飾基板 477 は、プロジェクタ 500 からの光を遮ることができる。従って、プロジェクタ 500 によって、サブスクリーン 472 にサブスクリーン装飾基板 477 の影を投影させることができる。

【0445】

周縁装飾部材 478 は、サブスクリーン 472 の周縁装飾部 472a の一部と同じ形状に形成されており、周縁装飾部 472a と同様に四角錐状の凹凸が円弧の周方向に複数列設されている。

【0446】

上述したように、スクリーンユニット 470 は、メインスクリーン 471 とサブスクリーン 472 のように、互いに異なる二つのスクリーンを備えている。メインスクリーン 471 は、プロジェクタ 500 から演出画像が半円筒状の全面に亘って投影され、プロジェクタ 500 からの投影により遊技者に注目される演出画像の表示を目的としている。一方

10

20

30

40

50

、サブスクリーン４７２は、プロジェクタ５００からの演出画像が、裏側中央のサブスクリーン装飾基板４７７の存在により、中央のサブスクリーン装飾部材４７６の周囲を形成している狭い範囲（メインスクリーン４７１よりも狭い範囲）に投影され、サブスクリーン装飾部材４７６の周囲を華やかに彩る演出画像の表示を目的としていると共に、ＬＥＤ４７７ａを用いたサブスクリーン装飾部材４７６の発光装飾による遊技者への操作ボタン４１０の押圧操作の促しを目的としている。

【０４４７】

〔３－４ｇ－５ｂ．上部軸受部材及び下部軸受部材〕

扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの上部軸受部材４８０及び下部軸受部材４８５について、主に図７０及び図７１を参照して詳細に説明する。上部軸受部材４８０及び下部軸受部材４８５は、第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１における前方へ開放されている上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆの前側を閉鎖するように、ユニットベース４５１の本体部４５１ａの前面に取付けられるものである。また、上部軸受部材４８０及び下部軸受部材４８５は、ユニットベース４５１の上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆに、スクリーンユニット４７０の上軸部材４７３及び下軸部材４７４を夫々前方から挿入させた状態で、ユニットベース４５１の前面に取付けることで、上軸部材４７３及び下軸部材４７４を第二ベースユニット４５０に対して回転可能に取付けることができる。

【０４４８】

上部軸受部材４８０は、第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１の本体部４５１ａの上部に、前方側が開放されている上軸受部４５１ｅの前方側を閉鎖するように取付けられる軸受部材４８１と、軸受部材４８１の上部前面に取付けられるフレームトップレンズ装飾基板４８２と、を備えている。軸受部材４８１は、左右方向中央が最も深くなるように、後面から前方へ向かって円弧状に窪んでいる凹部４８１ａを有している。上部軸受部材４８０における軸受部材４８１の凹部４８１ａは、第二演出操作ユニット４００Ａに組立てた状態で、スクリーンユニット４７０の上軸部材４７３の軸芯を中心とした円弧状に窪んでおり、内部にスクリーンユニット４７０における作動ギア部材４７５のストッパ４７５ｂが挿入配置されていると共に、凹部４８１ａの円弧の両端にユニットベース４５１の一对の回動規制部４５１ｇが位置している。この円弧状に窪んだ凹部４８１ａにより、作動ギア部材４７５のストッパ４７５ｂが、一对の回動規制部４５１ｇの間で良好に回動することができる。

【０４４９】

上部軸受部材４８０のフレームトップレンズ装飾基板４８２は、表面側に複数のＬＥＤが実装されており、第二演出操作ユニット４００Ａに組立てた状態で、フレームユニット４１５のフレームトップレンズ４１８の後方に位置している。これにより、フレームトップレンズ装飾基板４８２のＬＥＤを発光させることで、フレームトップレンズ４１８を発光装飾させることができる。

【０４５０】

下部軸受部材４８５は、略平板状に形成されており、第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１における本体部４５１ａの前面に、下軸受部４５１ｆの前方を閉鎖するように取付けられる。スクリーンユニット４７０の下軸部材４７４を、第二ベースユニット４５０におけるユニットベース４５１の下軸受部４５１ｆに挿入させた状態で、下部軸受部材４８５をユニットベース４５１の前面に取付けることで、下軸部材４７４を回転可能に取付けることができる。

【０４５１】

〔３－４ｇ－５ｃ．回動駆動ユニット〕

扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの回動駆動ユニット４９０について、主に図７０及び図７１を参照して詳細に説明する。回動駆動ユニット４９０は第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１の上面に取付けられ、スクリーンユニット４７０を回動駆動させることができるものである。回動駆動ユニット４９０は、ユニットベース４５１の上面に取付けられ内部が中空のユニットケース４９１と、ユニットケース４９１の下面に取付け

られており回転軸がユニットケース４９１内に突出している切替駆動モータ４９２と、切替駆動モータの回転軸に固定されている平歯車状の駆動ギア（図示は省略）と、駆動ギアと噛合しておりユニットケース４９１内に回転可能に取付けられている平歯車状の第一伝達ギア（図示は省略）と、第一伝達ギアと噛合していると共にスクリーンユニット４７０における作動ギア部材４７５のギア歯４７５aと噛合可能とされておりユニットケース４９１内に回転可能に取付けられている平歯車状の第二伝達ギア４９５と、を備えている。

【０４５２】

回動駆動ユニット４９０は、第二演出操作ユニット４００Ａに組立てた状態で、第二伝達ギア４９５が、スクリーンユニット４７０における作動ギア部材４７５のギア歯４７５aと噛合している。回動駆動ユニット４９０は、切替駆動モータ４９２を回転駆動させることで、駆動ギア、第一伝達ギア、第二伝達ギア４９５、及びギア歯４７５aを介してスクリーンユニット４７０を前後に延びた軸周りに回動させることができる。

【０４５３】

[３－４g－５d．プロジェクタ]

扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのプロジェクタ５００について、主に図７０及び図７１等を参照して詳細に説明する。プロジェクタ５００は、第二ベースユニット４５０におけるユニットベース４５１の半球状のカバー部４５１b内に配置されており、プロジェクタ取付部材５０５を介してユニットベース４５１の後側に取付けられている。プロジェクタ５００は、スクリーンユニット４７０のメインスクリーン４７１又はサブスクリーン４７２へ向かって演出画像を照射することで、メインスクリーン４７１又はサブスクリーン４７２に演出画像を投影表示させることができる。

【０４５４】

プロジェクタ５００は、プロジェクタ取付部材５０５に取付けられる立方体状のプロジェクタ本体５０１と、プロジェクタ本体５０１から円柱状に前方へ突出しており前端から演出画像を前方へ照射するレンズ部５０２と、を備えている。

【０４５５】

このプロジェクタ５００は、プロジェクタ本体５０１の後部がプロジェクタ取付部材５０５に取付けられ、レンズ部５０２及びプロジェクタ本体５０１が、ユニットベース４５１の貫通口４５１cを後側から通って、カバー部４５１b内に配置されるように取付けられる。

【０４５６】

プロジェクタ５００は、スクリーンユニット４７０のメインスクリーン４７１やサブスクリーン４７２の略前面に亘って演出画像を投影させることができ、演出画像として、静止画や動画を投影表示させることができる。このプロジェクタ５００は、市販の液晶型プロジェクタとされており、自動焦点機能を有している。

【０４５７】

[３－４g－５e．プロジェクタ取付部材]

扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのプロジェクタ取付部材５０５について、主に図７０及び図７１等を参照して詳細に説明する。プロジェクタ取付部材５０５は、前方が開放された箱状に形成されており、内部にプロジェクタ５００が取付けられると共に、第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１の後側に取付けられるものである。このプロジェクタ取付部材５０５は、第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１の後側に取付けられることで、ユニットベース４５１のカバー部４５１b及びプロジェクタ５００の後側を覆うことができる。

【０４５８】

プロジェクタ取付部材５０５は、底壁が水平方向に延びていると共に、後壁が垂直方向に延びており、プロジェクタ５００を、操作ボタン４１０の傾きと一致するように傾斜させた状態で取付けることができる。プロジェクタ取付部材５０５の後壁には、前後に貫通している複数のスリット５０５aが形成されており、プロジェクタ５００から放出される熱を、スリット５０５aを通して外部へ排出させることができる。

【0459】

プロジェクタ取付部材505の正面視右側面には、第二演出操作ユニット中継基板515及び中継基板カバー516が取付けられる。

【0460】

[3-4g-5f. 上部カバー及び回転検知センサ]

扉枠側第二演出表示装置460Aの上部カバー506及び回転検知センサ507について、主に図70及び図71等を参照して詳細に説明する。上部カバー506は、スクリーンユニット470の作動ギア部材475の上方を覆うように、第二ベースユニット450におけるユニットベース451の本体部451aの上面に取付けられている。回転検知センサ507は、スクリーンユニット470の回転位置を検知するためのものであり、上部カバー506の下面に、互いに離間している状態で二つ取付けられている。

10

【0461】

二つの回転検知センサ507は、詳細な図示は省略するが、スクリーンユニット470の回転軸を中心にして周方向へ互いに90度の回転角度離れた位置に取付けられており、スクリーンユニット470における作動ギア部材475の検知片475cを検知することができる。具体的には、二つの回転検知センサ507は、スクリーンユニット470のメインスクリーン471が前方を向いている第一位置の時の検知片475cと、サブスクリーン472が前方を向いている第二位置の時の検知片475cと、を夫々検知することができる。これら二つの回転検知センサ507による検知片475cの検知信号に基づいて、回動駆動ユニット490の切替駆動モータ492の回転駆動が制御されている。

20

【0462】

[3-4g-6. 緩衝ユニット]

第二演出操作ユニット400Aの緩衝ユニット510について、主に図70及び図71等を参照して詳細に説明する。緩衝ユニット510は、扉枠側第二演出表示装置460Aの下面に取付けられており、上方から第二演出操作ユニット400Aが叩かれたりした時の衝撃を緩和させて、皿ユニット320における皿ユニットカバー326の底板部326iに伝達させるものである。

【0463】

緩衝ユニット510は、上面が扉枠側第二演出表示装置460Aにおけるプロジェクタ取付部材505の下面に接触している弾性変形可能な平板状の緩衝部材511と、緩衝部材511の下面に当接しておりプロジェクタ取付部材505の下面に対して相対的に接近可能に取付けられている緩衝ベース512と、を備えている。

30

【0464】

緩衝ユニット510の緩衝ベース512は、緩衝部材511の下面と当接する平板状の本体部512aと、本体部512aの正面視左右両端辺から下方へ突出していると共に前後方向に延びている脚片部512bと、を備えている。緩衝ベース512の脚片部512bは、扉枠3に組立てた状態で、皿ユニット320における皿ユニットカバー326の底板部326iの上面に接触している。

【0465】

この緩衝ユニット510は、操作ボタン410やフレームユニット415を強く下方へ押圧したり叩いたりした時に、ベースユニット430に取付けられているプロジェクタ取付部材505が、緩衝ユニット510における緩衝部材511を圧縮するように下方へ移動する。この緩衝部材511が圧縮されることで衝撃が吸収される。そして、プロジェクタ取付部材505が更に下方へ移動した場合、プロジェクタ取付部材505の下面が緩衝ベース512の本体部512aの上面側に当接する。この本体部512aは、左右の脚片部512bによって、皿ユニットカバー326の底板部326iの上面との間に隙間が形成されているため、本体部512aの上面側に当接しているプロジェクタ取付部材505が更に下方へ移動すると、平板状の本体部512aが撓むこととなり、本体部512aの撓みによっても衝撃を吸収することができる。更に、プロジェクタ取付部材505が下方へ移動した場合、下方へ撓んでいる本体部512aの下面が、皿ユニットカバー326の

40

50

底板部 3 2 6 i の上面に当接し、本体部 5 1 2 a のこれ以上の撓みが規制され、衝撃が皿ユニットカバー 3 2 6 に伝達されることとなる。このように、操作ボタン 4 1 0 やフレームユニット 4 1 5 を上方から強く叩かれた時に、その衝撃を多段階で吸収させることができ、フレームユニット 4 1 5 の取付部 4 1 6 e や皿ユニットカバー 3 2 6 の演出操作ユニット取付部 3 2 6 a 等に無理な力が作用するのを回避させて、それらの破損を防止することができる。

【0 4 6 6】

〔3-4 g-7. 第二演出操作ユニットの作用効果〕

第二演出操作ユニット 4 0 0 A の作用効果について、主に図 7 4 乃至図 7 7 等を参照して詳細に説明する。図 7 4 (a) はスクリーンユニットのメインスクリーンを前方へ向けた状態で操作ボタンの中心軸が延びている方向から第二演出操作ユニットを見た説明図であり、(b) はスクリーンユニットのサブスクリーンを前方へ向けた状態で操作ボタンの中心軸が延びている方向から第二演出操作ユニットを見た説明図である。また、図 7 5 (a) は図 7 4 (a) における J-J 線で切断した断面図であり、(b) は図 7 4 (b) における K-K 線で切断した断面図である。図 7 6 (a) はメインスクリーンを前方へ向けた状態で第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、(b) は (a) の状態の第二演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。図 7 7 (a) はサブスクリーンを前方へ向けた状態で第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、(b) は (a) の状態の第二演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。

【0 4 6 7】

本実施形態の第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、遊技盤 5 の遊技領域 5 a 内に遊技球が打込まれることで変化する遊技状態に応じて、操作ボタン 4 1 0 内の装飾を変化させたり、操作ボタン 4 1 0 内に演出画像を表示させたりして遊技者を楽しませることができると共に、遊技者に操作ボタン 4 1 0 の操作をさせて、遊技者に提示した演出に遊技者を参加させることができるものである。

【0 4 6 8】

第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、全高が、扉枠 3 の扉枠ベースユニット 1 0 0 における扉枠ベース 1 1 0 の貫通口 1 1 1 の下側の部位の高さと略同じ高さに形成されている。また、第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、全幅が、扉枠 3 の全幅の $1/3$ よりも若干大きく形成されている。第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、正面視において、遊技領域 5 a (扉枠ベース 1 1 0 の貫通口 1 1 1) の下側で左右方向の中央に配置されている。

【0 4 6 9】

第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、フレームユニット 4 1 5 のフレーム本体 4 1 6 の上部が、皿ユニット 3 2 0 における皿ユニットカバー 3 2 6 の演出操作ユニット取付部 3 2 6 a に取付けられている。第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、皿ユニット 3 2 0 に取付けた状態で、緩衝ユニット 5 1 0 の緩衝ベース 5 1 2 の脚片部 5 1 2 b の下端と、皿ユニット 3 2 0 の皿ユニットカバー 3 2 6 における底板部 3 2 6 i の上面との間に、隙間が形成されている。つまり、第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、皿ユニット 3 2 0 に対して上部のみが取付けられており、吊下げられた状態に取付けられている。

【0 4 7 0】

また、第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、フレームユニット 4 1 5 の前面 (フレーム本体 4 1 6 の中央開口部 4 1 6 a の前端内周により形成される面) が、演出操作ユニット取付部 3 2 6 a の前端開口の傾斜面と平行になるように取付けられている。これにより、第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、湾曲面状 (略球面の一部の形状) に前方へ膨出している透明な操作ボタン 4 1 0 の中心軸線 C L (図 6 7 を参照) が、垂直線に対して 6 3 度の角

度で、前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している。これにより、本パチンコ機 1 を用いて遊技を行うために本パチンコ機 1 の前で遊技者が着座すると、遊技者の頭部が皿ユニット 3 2 0（第二演出操作ユニット 4 0 0 A）の上方に配置されている遊技盤 5 における遊技領域 5 a の中央の前方に位置するため、操作ボタン 4 1 0 の中心軸線 C L が、遊技者の頭部付近を通ることとなる。従って、遊技者が遊技領域 5 a から第二演出操作ユニット 4 0 0 A（操作ボタン 4 1 0）に視線を落すと、操作ボタン 4 1 0 がその正面視（中心軸線 C L と平行な方向からの投影視）に可及的に近い状態で見えることとなり、操作ボタン 4 1 0 や操作ボタン 4 1 0 内の扉枠側第二演出表示装置 4 6 0 A 等を良好な状態で視認することができる。

【0 4 7 1】

10

第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、操作ボタン 4 1 0 の四つの筒状のガイドボス部 4 1 3 c に、第二ベースユニット 4 5 0 におけるユニットベース 4 5 1 の四つの保持孔 4 5 1 d 内に保持されているボタンシャフト 4 5 2 が夫々摺動可能に挿入されていると共に、図示しない操作ボタンバネにより前方へ付勢されている。第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、通常の状態（操作ボタン 4 1 0 を押圧操作していない状態）では、操作ボタンバネの付勢力によって、操作ボタン 4 1 0 のボタンベース 4 1 3 のフランジ部 4 1 3 b の前端が、フレームユニット 4 1 5 のフレーム本体 4 1 6 の後面における中央開口部 4 1 6 a 付近の部位に当接している。

【0 4 7 2】

20

第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、通常の状態では、操作ボタン 4 1 0 におけるボタンフレーム 4 1 2 の内周付近から中央側（中心軸線 C L 側）が、フレームユニット 4 1 5 におけるフレーム本体 4 1 6 の中央開口部 4 1 6 a から前方へ突出している。換言すると、操作ボタン 4 1 0 における湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出している透明なボタンレンズ 4 1 1 において、ボタンフレーム 4 1 2 の内周（内側）から前方へ突出している部位が、フレームユニット 4 1 5 のフレーム本体 4 1 6 の中央開口部 4 1 6 a から前方へ突出している（図 6 7 等を参照）。

【0 4 7 3】

因みに、本実施形態では、フレームユニット 4 1 5 におけるフレーム本体 4 1 6 の中央開口部 4 1 6 a の直径が約 1 5 c m とされており、操作ボタン 4 1 0 の中心軸線 C L 方向に対してボタンレンズ 4 1 1（の前端）がフレームユニット 4 1 5 の前面から約 4 c m 前方へ突出している。

30

【0 4 7 4】

通常の状態において、遊技者が第二演出操作ユニット 4 0 0 A の操作ボタン 4 1 0 を押圧操作すると、操作ボタン 4 1 0 は操作ボタンバネの付勢力に抗して中心軸線 C L に沿って後方へ移動する。そして、操作ボタン 4 1 0 の後端が第二ベースユニット 4 5 0 のユニットベース 4 5 1 における本体部 4 5 1 a の前面に当接すると、後方への移動が規制されて操作ボタン 4 1 0 の後方への移動が停止する。遊技者が操作ボタン 4 1 0 を押圧操作する時には、湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出しているボタンレンズ 4 1 1 を押圧する。

【0 4 7 5】

40

この操作ボタン 4 1 0 は、従来のパチンコ機に備えられている演出用の操作ボタンと比較して、外径が非常に大きく形成されているため、ボタンレンズ 4 1 1 の中央部分から離れた周縁付近が押圧される可能性が高い。詳述すると、従来のパチンコ機における演出用の操作ボタンは、その中心軸線が垂直線と略平行に延びるように取付けられているのに対して、本実施形態の第二演出操作ユニット 4 0 0 A の操作ボタン 4 1 0 は、中心軸線 C L が垂直線に対して傾いて取付けられているため、遊技者が従来のパチンコ機と同様に上方から操作ボタン 4 1 0 を押圧すると、操作ボタン 4 1 0 の中心軸線 C L から離れた部位を押圧することとなる（図 6 1 を参照）。

【0 4 7 6】

ところで、従来のパチンコ機における演出用の操作ボタンは、遊技者が押圧操作する面

50

が平坦な面に形成されていることから、押圧操作する部位を平坦な面としたまま操作ボタンを大きくした場合、操作ボタンの中央から外れた部位を押圧すると、その押圧された部位が先に後退するように押圧操作する面が傾いてしまい、操作ボタンが真直ぐに後退することができなくなって、操作ボタンを押圧操作することができなくなる虞がある。

【0477】

これに対して、本実施形態の第二演出操作ユニット400Aの操作ボタン410は、遊技者が押圧操作する部位（ボタンレンズ411）が、前方へ膨出した湾曲面状（略球面の一部の形状）としているため、操作ボタン410の中央から離れた位置を押圧操作した場合、その力が操作ボタン410の全体に分散されて操作ボタン410が傾き難くなり、操作ボタン410が真直ぐに後方へ移動することができる。従って、操作ボタン410の前面側のどの位置を押圧操作しても、操作ボタン410が傾くことなくスムーズに後退することができるため、押圧操作を確実に検知させることができ、操作ボタン410を押圧操作する演出を十分に楽しませることができる。

10

【0478】

また、第二演出操作ユニット400Aは、装飾基板ユニット420における基板ベース421の前面下部に振動モータ424が取付けられている上で、上述したように、第二演出操作ユニット400Aが吊下げられるように上部のみが皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326aに取付けられているため、振動モータ424により錘424aを回転させて振動を発生させると、取付けられている部位から最も離れた部位で振動が発生することから、第二演出操作ユニット400A全体を大きく（強く）振動させることができ、第二演出操作ユニット400Aに触れている遊技者に対して振動を伝達させることができる。また、振動モータ424を、比較的遊技者が押圧操作し易い位置（操作ボタン410の上部付近）の直下に配置しているため、操作ボタン410を押圧操作している遊技者に対して強い振動を伝達させることができ、遊技者を驚かせて演出を楽しむことができる。

20

【0479】

更に、第二演出操作ユニット400Aは、吊下げられたような状態で皿ユニットカバー326に取付けられていると共に、扉枠側第二演出表示装置460Aのプロジェクト取付部材505と皿ユニットカバー326の底板部326iの上面との間に、緩衝ユニット510を配置している。この緩衝ユニット510は、弾性変形可能な緩衝部材511を備えていると共に、緩衝部材511が上面に当接している本体部512aと皿ユニットカバー326の底板部326iとの間に隙間を形成しているため、操作ボタン410やフレームユニット415を強く下方へ押圧したり叩いたりした時に、その衝撃を緩衝部材511の弾性変形（圧縮）や、緩衝ベース512の本体部512aの撓み等によって多段階に吸収することができ、フレームユニット415の取付部416eや皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326a等に無理な力が作用するのを回避させることができ、第二演出操作ユニット400A等の破損を防止することができる。従って、第二演出操作ユニット400Aの操作ボタン410を押圧操作する演出を遊技者に提示した時等に、強い力で操作ボタン410やフレームユニット415が押圧操作されたり叩かれたりしても、操作ボタン410や第二演出操作ユニット400A等が破損することはないため、破損による遊技の中断を回避させることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができると共に、破損し難くすることで遊技ホール側の負担の増加を抑制させることができる。

30

40

【0480】

なお、遊技者が押圧操作する操作ボタン410のボタンレンズ411を、前方へ突出している湾曲面状（略球面の一部の形状）に形成しているため、平板状とした場合と比較して強度・剛性が高くなっていると共に、強く叩かれても、その衝撃をボタンレンズ411全体へ分散させることができ、破損し難くなっている。

【0481】

また、第二演出操作ユニット400Aは、ボタンレンズ411、フレームサイドレンズ417、及びフレームトップレンズ418が、透明な部材で構成されているため、それら

50

の裏面側に形成されている第一ボタン装飾部 4 1 1 a、及び第二ボタン装飾部 4 1 1 b 等の凹凸による装飾が、前方側（遊技者側）から視認することができる（図 6 3 を参照）。また、それら凹凸の装飾が形成されている部位では、板厚が変化していることから光が複雑に屈折するため、凹凸の装飾が形成されている部位を通しては後側が視認し難くなっている。

【0 4 8 2】

第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、操作ボタン 4 1 0 のボタンレンズ 4 1 1 におけるボタンフレーム 4 1 2 の内周から中央側へ延びている第一ボタン装飾部 4 1 1 a を備えているため、この第一ボタン装飾部 4 1 1 a の複数の三角形を組合せた凹凸の装飾によりボタンレンズ 4 1 1 の内側となる部位の外周縁の部位において後方を見え辛くすることができる。第一ボタン装飾部 4 1 1 a が形成されている部位の後方（中心軸線 C L 方向の後方）には、操作ボタン 4 1 0 のボタンベース 4 1 3 の本体部 4 1 3 a の内周面と、扉枠側第二演出表示装置 4 6 0 A のスクリーンユニット 4 7 0 の外周との間の隙間が位置しているが、その隙間の前方に位置する第一ボタン装飾部 4 1 1 a によって前方側（遊技者側）から、スクリーンユニット 4 7 0 の外側や後側の部材を見え難くすることができる。これにより、押圧操作可能な操作ボタン 4 1 0 内に、扉枠側第二演出表示装置 4 6 0 A を備えても、操作ボタン 4 1 0 の見栄えの悪化を防止することができ、操作ボタン 4 1 0 を見た遊技者が不快感を抱くのを防止することができると共に、透明な操作ボタン 4 1 0 内に扉枠側第二演出表示装置 4 6 0 A を問題なく配置することができ、操作ボタン 4 1 0 の見栄えを良くすることができる。

【0 4 8 3】

詳述すると、第二演出操作ユニット 4 0 0 A は、操作ボタン 4 1 0 におけるボタンレンズ 4 1 1 の第一ボタン装飾部 4 1 1 a、第二ボタン装飾部 4 1 1 b、及びボタンフレーム 4 1 2 によって、扉枠側第二演出表示装置 4 6 0 A におけるメインスクリーン 4 7 1 やサブスクリーン 4 7 2 等の外周よりも外側で後方側（奥側）にある第二ベースユニット 4 5 0、上軸部材 4 7 3 及び下軸部材 4 7 4 等が、透明なボタンレンズ 4 1 1 を通して遊技者側から見えないように形成されている。具体的には、スクリーンユニット 4 7 0 のメインスクリーン 4 7 1 を前方へ向けた第一位置の状態では、メインスクリーン 4 7 1 の上下外側、サブスクリーン 4 7 2 の周縁装飾部 4 7 2 a の左外側、及び周縁装飾部材 4 7 8 の右外側の部位（図 7 6 において、一点鎖線で囲んだクロスハッチの部位）が、遊技者側から見えないようにしている。

【0 4 8 4】

一方、スクリーンユニット 4 7 0 のサブスクリーン 4 7 2 を前方へ向けた第二位置の状態では、サブスクリーン 4 7 2 の円環状の周縁装飾部 4 7 2 a の外側の部位（図 7 6 において、一点鎖線で囲んだクロスハッチの部位）が、遊技者側から見えないようにしている。このように、操作ボタン 4 1 0 に第一ボタン装飾部 4 1 1 a、第二ボタン装飾部 4 1 1 b、及びボタンフレーム 4 1 2 等を備えているため、メインスクリーン 4 7 1 やサブスクリーン 4 7 2 の外側や奥側を見え難くして隠すことができ、操作ボタン 4 1 0、ひいては、第二演出操作ユニット 4 0 0 A 全体の見栄えを良くすることができる。

【0 4 8 5】

また、メインスクリーン 4 7 1 が前方を向いている第一位置の状態では、ボタンレンズ 4 1 1 の第一ボタン装飾部 4 1 1 a、第二ボタン装飾部 4 1 1 b、及びボタンフレーム 4 1 2 等によって、サブスクリーン 4 7 2 のスクリーン一般部 4 7 2 b 及びサブスクリーン装飾部材 4 7 6 や、上軸部材 4 7 3 及び下軸部材 4 7 4 が、見え難くなっている（図 7 6 を参照）。これにより、遊技者が、サブスクリーン 4 7 2 の存在や、メインスクリーン 4 7 1 が回転可能であること等に、気付き難くなるため、スクリーンユニット 4 7 0 を回転させてメインスクリーン 4 7 1 からサブスクリーン 4 7 2 に切替えると、操作ボタン 4 1 0 内において遊技者の予想を超えた動きが行われることで遊技者に強いインパクトを与えることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【0 4 8 6】

更に、サブスクリーン４７２が前方を向いている第二位置の状態では、ボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１a、第二ボタン装飾部４１１b、及びボタンフレーム４１２等によって、上軸部材４７３及び下軸部材４７４が見え難くなっている（図７７を参照）。これにより、遊技者が、サブスクリーン４７２（サブスクリーン装飾部材４７６）が回転可能であることに気が付き難くなるため、サブスクリーン４７２（スクリーンユニット４７０）を回転させた時のインパクトを高めることができ、遊技者を楽しませることができる。

【０４８７】

また、第二演出操作ユニット４００Aは、操作ボタン４１０における後側に配置されている扉枠側第二演出表示装置４６０Aを視認することができるボタンレンズ４１１において、ボタンフレーム４１２の内周から中心側へ所定幅の範囲内に、複数の三角形の面を組合せた多面体状の第一ボタン装飾部４１１aを備えていると共に、操作ボタン４１０の内側後方に配置されている扉枠側第二演出表示装置４６０Aに、複数の四角錐を列設したサブスクリーン４７２の周縁装飾部４７２aや、周縁装飾部材４７８を備えている。これにより、前側に配置された三角形からなる装飾（第一ボタン装飾部４１１a）と後側に配置された四角形からなる装飾（周縁装飾部４７２a及び周縁装飾部材４７８）とが、交差するように重なって見えることとなり、複雑な幾何学模様を遊技者に見せることができ、見栄えを良くして遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【０４８８】

また、上述したように、三角形を主体とした第一ボタン装飾部４１１aと、四角形を主体とした周縁装飾部４７２a及び周縁装飾部材４７８とが、前後方向に離れているため、遊技者の目の位置が移動すると、それらの重なり具合が変化するため、重なって見える幾何学模様に変化して動きのある装飾を遊技者に見せることができると共に、奥行きのある立体的な感じの装飾を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませることができる。

【０４８９】

更に、操作ボタン４１０の内側後方に配置されている扉枠側第二演出表示装置４６０Aでは、切替駆動モータ４９２の駆動によりスクリーンユニット４７０を回動させてメインスクリーン４７１を前方へ向けたり、サブスクリーン４７２を前方へ向けたりすることができ、複数の四角形からなる装飾を変化させることができる。詳述すると、メインスクリーン４７１を前方へ向けた状態では、図７４（a）に示すように、周縁装飾部４７２a及び周縁装飾部材４７８が左右に離間して上下に延びている状態となり、上下に列設された複数の四角錐からなる装飾が、ボタンレンズ４１１における第一ボタン装飾部４１１aの円環状に列設された複数の三角形からなる装飾を縦断しているような幾何学模様の装飾を遊技者に見せることができる。一方、サブスクリーン４７２を前方へ向けた状態では、図７４（b）に示すように、周縁装飾部４７２aが円環状の延びている状態となり、環状に列設された複数の四角錐からなる装飾が、ボタンレンズ４１１における第一ボタン装飾部４１１aの円環状に列設された複数の三角形からなる装飾と重なった幾何学模様の装飾を遊技者に見せることができる。従って、スクリーンユニット４７０を回動させることで、操作ボタン４１０の装飾（物理的な装飾）を変化させることができるため、装飾の変化によって遊技者の関心を操作ボタン４１０に引付けたり、装飾の変化によって遊技者にチャ

【０４９０】

また、第二演出操作ユニット４００Aは、操作ボタン４１０内に備えられている扉枠側第二演出表示装置４６０Aに、切替可能な形態の異なるスクリーン（メインスクリーン４７１及びサブスクリーン４７２）を有したスクリーンユニット４７０と、スクリーンユニット４７０に演出画像を投影表示させるプロジェクタ５００と、を備えているため、液晶表示装置による演出画像の表示とは全く異なる演出画像を表示させることができ、遊技者に強いインパクトを与えて楽しませることができる。詳述すると、スクリーンユニット４７０は、半円筒状のメインスクリーン４７１と、円盤状で中央にレリーフ状のサブスクリ

ーン装飾部材４７６を有するサブスクリーン４７２とが、上軸部材４７３及び下軸部材４７４の中心軸を中心として９０度の回転角度周方向へ離間して備えられている。

【０４９１】

そして、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａにおいて、スクリーンユニット４７０のメインスクリーン４７１を前方へ向けた第一位置の状態では、半円筒状の中心軸が左右方向へ延びるように位置しており、正面から見ると上下に延びた四角形（長方形）に見える（図７４（ａ）を参照）。このメインスクリーン４７１の後方に配置されているプロジェクタ５００から演出画像を前方へ照射すると、その演出画像がメインスクリーン４７１の後面に投影され（図７５（ａ）を参照）、透光性を有する乳白色のメインスクリーン４７１を通して、前方側から投影された演出画像を視認することができる。このメインスクリーン４７１は、表面が滑らかな半円筒状に形成されていることから、演出画像が表示画面も半円筒状に湾曲している。これにより、一般的な液晶表示装置の表示画面が平面であるのに対して、メインスクリーン４７１の表示画面が半円筒状に湾曲しているため、遊技者に対して一見して従来の表示画面とは異なるものであることを認識させることができ、遊技者を驚かせることができると共に、遊技者をメインスクリーン４７１に注目させることができ、メインスクリーン４７１に投影表示される演出画像を楽しませることができる。

10

【０４９２】

一方、スクリーンユニット４７０のサブスクリーン４７２を前方へ向けた第二位置の状態では、円盤状の中心軸が操作ボタン４１０の中心軸と略一致しており、正面から見ると円形の操作ボタン４１０の中央にドクロを模したサブスクリーン装飾部材４７６が位置した状態に見える（図７４（ｂ）を参照）。この状態で後方に配置されているプロジェクタ５００から前方へ演出画像を照射すると、その演出画像がサブスクリーン４７２の後面に投影される。ところで、サブスクリーン４７２の後側には平板状で不透光性のサブスクリーン装飾基板４７７が取付けられているため、このサブスクリーン装飾基板４７７の部位ではプロジェクタ５００から照射された演出画像（光）が遮られることとなり、サブスクリーン４７２の後面の中央部分には、サブスクリーン装飾基板４７７の影が投影されることとなる（図７５（ｂ）を参照）。従って、サブスクリーン４７２では、サブスクリーン装飾基板４７７の影が投影される中央部分を除いた外周の部分に、プロジェクタ５００からの演出画像が投影表示される。この際に、サブスクリーン装飾基板４７７の前面に実装されているＬＥＤ４７７ａを発光させると、その光によってサブスクリーン４７２の中央部分を発光装飾させることができ、サブスクリーン４７２の中央に備えられているサブスクリーン装飾部材４７６を発光装飾させることができる。また、サブスクリーン装飾基板４７７のＬＥＤ４７７ａを発光させることで、プロジェクタ５００からの光によりサブスクリーン４７２の後面に投影されるサブスクリーン装飾基板４７７の影を見え難くすることができ、サブスクリーン４７２の前面側全体を明るく発光装飾させることができる。

20

30

【０４９３】

この扉枠側第二演出表示装置４６０Ａは、スクリーンユニット４７０のサブスクリーン４７２を前方へ向けた状態で、サブスクリーン装飾基板４７７のＬＥＤ４７７ａを発光させると共に、プロジェクタ５００から前方へ演出画像（動画）を照射させると、サブスクリーン４７２におけるサブスクリーン装飾基板４７７の影が投影されていない部位、つまり、ドクロを模した装飾からなるサブスクリーン装飾部材４７６の外側の部位に、演出画像が表示され、演出画像の内側となるサブスクリーン装飾部材４７６がサブスクリーン装飾基板４７７のＬＥＤ４７７ａによって発光装飾される。この状態では、固定されたサブスクリーン装飾部材４７６の発光装飾の外側が、演出画像（動画）によって装飾されることとなり、これまでのパチンコ機における装飾部材の発光装飾とは全く異なった装飾演出を遊技者に見せることができ、遊技者に強いインパクトを与えることができると共に、サブスクリーン４７２に対して遊技者を強く注目させることができる。また、この状態では、演出画像の内側において、ＬＥＤ４７７ａの光が、演出画像の明るさよりも明るく（高輝度で）輝くため、従来の液晶表示装置では成し得ない部分的に高輝度な演出画像を表示させることができ、遊技者の関心を強く引付けることができると共に、遊技者をより楽し

40

50

ませられる演出画像を表示させることができる。

【0494】

また、扉枠側第二演出表示装置460Aでは、プロジェクタ500から前方へ演出画像を照射させた状態で、前方へ向いているスクリーンを適宜方向へ回転させて、メインスクリーン471からサブスクリーン472に変更したり、サブスクリーン472からメインスクリーン471に変更したりすると、メインスクリーン471及びサブスクリーン472が回転している途中では、メインスクリーン471及びサブスクリーン472におけるプロジェクタ500の投影範囲に位置している部位に、演出画像が投影表示される。つまり、演出画像が、メインスクリーン471とサブスクリーン472とに跨るように表示される。従って、メインスクリーン471からサブスクリーン472にゆっくり変更させると、プロジェクタ500から投影されている演出画像上に、周縁装飾部472aやサブスクリーン装飾部材476が回転移動してくるような不思議な視覚演出を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませることができる。

10

【0495】

このように、第二演出操作ユニット400Aは、操作ボタン410の第一ボタン装飾部411aと扉枠側第二演出表示装置460Aにおけるスクリーンユニット470の装飾（周縁装飾部472a及び周縁装飾部材478）とによって、動きがあり立体感のある装飾を遊技者に見せることができるため、遊技者の関心を強く引付けることができ、訴求力の高いパチンコ機1とすることができる。

【0496】

20

また、第二演出操作ユニット400Aは、操作ボタン410内（ボタンフレーム412の内側）の後方には、前面にLED477aが実装されているサブスクリーン装飾基板477や前方へ演出画像等の光を照射可能なプロジェクタ500を有する扉枠側第二演出表示装置460Aを備えており、扉枠側第二演出表示装置460Aによって操作ボタン410内を良好に発光装飾させることができる。

【0497】

また、第二演出操作ユニット400A、操作ボタン410の外周付近に位置するボタンフレーム412のフレーム開口部412aから臨む第二ボタン装飾部411bの後方に、装飾基板ユニット420における操作ボタン左外装飾基板422の第一LED422a及び操作ボタン右外装飾基板423の第一LED423aが配置されており、それら第一LED422a、423aを発光させることで、操作ボタン410の六つの第二ボタン装飾部411bを発光装飾させることができる。操作ボタン左外装飾基板422の第一LED422a及び操作ボタン右外装飾基板423の第一LED423aは、図68に示すように、操作ボタン410のボタンベース413における筒状の本体部413aと、フレームユニット415のフレーム本体416における筒状の内側筒部416dとの間に位置しており、第一LED422a、423aからの光が本体部413aの内側や内側筒部416dの外側へ漏れることはなく、操作ボタン410の第二ボタン装飾部411bのみを良好に発光装飾させることができる。

30

【0498】

更に、第二演出操作ユニット400Aは、フレームユニット415におけるフレーム本体416の六つの外周開口部416bから臨むフレームサイドレンズ417の後方に、操作ボタン左外装飾基板422の第二LED422b及び操作ボタン右外装飾基板423の第二LED423bが配置されており、それら第二LED422b、423bを発光させることでフレームサイドレンズ417を発光装飾させることができる。操作ボタン左外装飾基板422の第二LED422b及び操作ボタン右外装飾基板423の第二LED423bは、フレームユニット415のフレーム本体416における筒状の内側筒部416dとフレーム本体416の外周との間に位置しており、第二LED422b、423bからの光が内側筒部416dの内側やフレーム本体416の外側へ漏れることはなく、フレームユニット415のフレームサイドレンズ417のみを良好に発光装飾させることができる。

40

50

【0499】

また、第二演出操作ユニット400Aは、フレームユニット415のフレームトップレンズ418の後方に、扉枠側第二演出表示装置460Aにおける上部軸受部材480のフレームトップレンズ装飾基板482が配置されており、フレームトップレンズ装飾基板482の前面に実装されている複数のLEDを発光させることで、フレームトップレンズ418を良好に発光装飾させることができる。

【0500】

また、第二演出操作ユニット400Aは、操作ボタン410の内側後方に配置されている扉枠側第二演出表示装置460Aのスクリーンユニット470を回動させることで、互いに形態の異なる表示画面を有したメインスクリーン471又はサブスクリーン472に切替えて演出画像を表示させることができ、表示画面の形状が変化する（切替わる）と言う従来のパチンコ機で有りえない演出を遊技者に提示することができ、遊技者に強いインパクトを与えて楽しませることができる。

【0501】

[3-4h. 演出操作ユニットの第三実施形態の全体構成]

次に、上記の演出操作ユニット400の第三実施形態である第三演出操作ユニット400Bについて、主に図78乃至図85等を参照して詳細に説明する。図78(a)は図48乃至図77の演出操作ユニット及び第二演出操作ユニットとは実施形態の異なる第三演出操作ユニットの正面図であり、(b)は第三演出操作ユニットの右側面図である。図79は、第三演出操作ユニットの背面図である。図80(a)は第三演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は第三演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。図81は、第三演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。図82は、図79(a)におけるL-L線で切断した断面図である。図83は、図78(b)におけるM-M線で切断した断面図である。図84は第三演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図85は第三演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【0502】

第三演出操作ユニット400Bは、上記の演出操作ユニット400や第二演出操作ユニット400Aに替えて皿ユニット320の演出操作ユニット取付部326aに取付けることができるものである。この第三演出操作ユニット400Bは、演出操作ユニット400と同様に、遊技者が押圧操作することができるものである。以下では、第三演出操作ユニット400Bにおいて、演出操作ユニット400と同一の構成部材については、同一の符号を付して説明する。

【0503】

第三演出操作ユニット400Bは、外形が円形で外周縁を除いた中央側が透明に形成されており遊技者が押圧操作可能な操作ボタン410と、操作ボタン410の外周を囲み皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326aに取付けられる枠状のフレームユニット415と、操作ボタン410よりも後方に配置されており操作ボタン410の外周縁及びフレームユニット415を発光装飾させることが可能な装飾基板ユニット420と、フレームユニット415の後側に取付けられており操作ボタン410及び装飾基板ユニット420が前面に取付けられている第三ベースユニット520と、操作ボタン410を通して遊技者側から視認可能に第三ベースユニット520に取付けられている装飾回転体ユニット530と、を備えている。

【0504】

[3-4h-1. 操作ボタン]

第三演出操作ユニット400Bの操作ボタン410について、主に図84及び図85等を参照して詳細に説明する。第三演出操作ユニット400Bの操作ボタン410は、外形が皿ユニット320の上下方向の高さよりも若干小さい直径の円形に形成されており、外周縁を除いた中央側が透明に形成されている。この操作ボタン410は、外周が円形で中央側が前方へ膨出するように湾曲面状（略球面の一部の形状）に形成されている透明なボ

タンレンズ 4 1 1 と、ボタンレンズ 4 1 1 の外周縁の前側に取付けられている円環状のボタンフレーム 4 1 2 と、ボタンフレーム 4 1 2 の後側にボタンレンズ 4 1 1 の外周縁を挟持するように取付けられている円筒状のボタンベース 4 1 3 と、を備えている。

【0505】

第三演出操作ユニット 4 0 0 B の操作ボタン 4 1 0 は、演出操作ユニット 4 0 0 の操作ボタン 4 1 0 と同一の構成であり、同一の符号を付すと共に、詳細な説明は省略する。

【0506】

[3-4h-2. フレームユニット]

第三演出操作ユニット 4 0 0 B のフレームユニット 4 1 5 について、主に図 8 4 及び図 8 5 等を参照して説明する。フレームユニット 4 1 5 は、操作ボタン 4 1 0 の前方側から外周を囲むように、皿ユニット 3 2 0 における皿ユニットカバー 3 2 6 の演出操作ユニット取付部 3 2 6 a に前側から取付けられ、操作ボタン 4 1 0 の外側を装飾している。フレームユニット 4 1 5 は、外形が演出操作ユニット取付部 3 2 6 a の前端側に合せた形状に形成されている。

【0507】

フレームユニット 4 1 5 は、円形の中央開口部 4 1 6 a、中央開口部 4 1 6 a の周縁に沿って列設されている複数の外周開口部 4 1 6 b、及び中央開口部 4 1 6 a の上側前面において所定幅で切欠かれている切欠部 4 1 6 c を有し、皿ユニット 3 2 0 における皿ユニットカバー 3 2 6 の演出操作ユニット取付部 3 2 6 a に取付けられる枠状のフレーム本体 4 1 6 と、外周開口部 4 1 6 b を閉鎖するようにフレーム本体 4 1 6 に後側から取付けられる透光性を有した一対のフレームサイドレンズ 4 1 7 と、切欠部 4 1 6 c を閉鎖するようにフレーム本体 4 1 6 に前側から取付けられる透光性を有したフレームトップレンズ 4 1 8 と、を備えている。

【0508】

第三演出操作ユニット 4 0 0 B のフレームユニット 4 1 5 は、演出操作ユニット 4 0 0 のフレームユニット 4 1 5 と同一の構成であり、同一の符号を付すと共に、詳細な説明は省略する。

【0509】

[3-4h-3. 装飾基板ユニット]

第三演出操作ユニット 4 0 0 B の装飾基板ユニット 4 2 0 について、主に図 8 4 及び図 8 5 等を参照して説明する。装飾基板ユニット 4 2 0 は、フレームユニット 4 1 5 の下方で第三ベースユニット 5 2 0 の前面に取付けられ、操作ボタン 4 1 0 の第二ボタン装飾部 4 1 1 b 及びフレームユニット 4 1 5 のフレームサイドレンズ 4 1 7 を発光装飾させることができると共に、第三演出操作ユニット 4 0 0 B に振動を付与させることができるものである。

【0510】

装飾基板ユニット 4 2 0 は、上方側が開放された C 字状の基板ベース 4 2 1 と、基板ベース 4 2 1 における左右両側の前面に夫々取付けられている操作ボタン左外装飾基板 4 2 2 及び操作ボタン右外装飾基板 4 2 3 と、基板ベース 4 2 1 の前面下部に取付けられている振動モータ 4 2 4 と、振動モータ 4 2 4 の前側を覆うように基板ベース 4 2 1 の前面に取付けられているモータカバー 4 2 5 と、を備えている。

【0511】

操作ボタン左外装飾基板 4 2 2 及び操作ボタン右外装飾基板 4 2 3 は、操作ボタン 4 1 0 の第二ボタン装飾部 4 1 1 b のみを発光装飾させることができる第一 LED 4 2 2 a 及び第一 LED 4 2 3 a と、フレームユニット 4 1 5 のフレームサイドレンズ 4 1 7 のみを発光装飾させることができる第二 LED 4 2 2 b 及び第二 LED 4 2 3 b と、を備えている。

【0512】

第三演出操作ユニット 4 0 0 B の装飾基板ユニット 4 2 0 は、演出操作ユニット 4 0 0 の装飾基板ユニット 4 2 0 と同一の構成であり、同一の符号を付すと共に、詳細な説明は

省略する。

【0513】

[3-4h-4. 第三ベースユニット]

第三演出操作ユニット400Bの第三ベースユニット520について、主に図86等を参照して詳細に説明する。図86は、第三演出操作ユニットの第三ベースユニットを前から見た斜視図である。第三演出操作ユニット400Bの第三ベースユニット520は、操作ボタン410を前後方向へ進退可能に取付けていると共に、装飾回転体ユニット530が取付けられ、フレームユニット415の後側に取付けられるものである。

【0514】

第三ベースユニット520は、フレームユニット415の後側に取付けられ中央部において半球状に後方へ窪んでいる収容壁部521a、及び収容壁部521aの外側で前方に開放された止り孔からなる四つの保持孔521bを有する環状のユニットベース521と、ユニットベース521の前面上部に取付けられているフレームトップレンズ装飾基板522と、ユニットベース521の四つの保持孔521b内に夫々挿入されている四つの操作ボタンバネ523と、ユニットベース521の前面に取付けられている三つのセンサホルダ524と、各センサホルダ524に夫々取付けられており操作ボタン410の押圧操作を検知する三つの押圧検知センサ525と、ユニットベース521の後側に取付けられている第三演出操作ユニット中継基板526と、第三演出操作ユニット中継基板526の後側を覆うようにユニットベース521の後側に取付けられている中継基板カバー527と、を備えている。

【0515】

また、第三ベースユニット520は、ユニットベース521の左側面に取付けられている演出操作ユニット第一駆動モータ528と、演出操作ユニット第一駆動モータ528の回転軸に取付けられている平歯車状の第一駆動ギア（図示は省略）と、第一駆動ギアと噛合しておりユニットベース521に回転可能に取付けられている平歯車状の第一伝達ギア529と、を備えている。第一伝達ギア529は、後述する装飾回転体ユニット530の回転体ギア531aと噛合する。

【0516】

ユニットベース521は、外形が略円形状で、フレームユニット415の外形よりも若干小さく形成されている。ユニットベース521は、収容壁部521a及び保持孔521bの他に、前面上部において、フレームトップレンズ装飾基板437が取付けられる部位の下側から平板状に前方へ突出している遮光壁部521cと、収容壁部521aを貫通している複数の換気口521dと、収容壁部521aの左外側且つ上下方向の略中央から前方へ突出している左突出部521eと、左突出部521eと対向するように収容壁部521aの右外側且つ上下方向の略中央から前方へ突出している右突出部521fと、左突出部521eから右方へ円柱状に延びている左軸部521gと、左軸部521gの延長軸線（第一軸線CL1）に対して同軸上で右突出部521fを貫通している右軸受部521hと、を備えている。

【0517】

ユニットベース521の後方へ半球状に窪んだ収容壁部521aは、その窪んだ前面側に、装飾回転体ユニット530の後側の略半分が接触しない状態で収容できるように形成されている。

【0518】

ユニットベース521の四つの保持孔521bは、収容壁部521aの外側の上下左右の四隅で、操作ボタン410におけるボタンベース413の四つのガイドボス部413cと対応する位置に形成されている。これら保持孔521bは、内径がガイドボス部413cの外径よりも若干大きく形成されており、ガイドボス部413cを摺動可能に挿入させることができる。

【0519】

更に詳述すると、四つの保持孔521bのうちの左上側の保持孔521bは、ユニット

ベース 5 2 1 の中心（操作ボタン 4 1 0 の中心）を通る上下に延びた中心線から、ユニットベース 5 2 1 の中心に対して反時計周りの方向へ約 3 0 度回転した位置に形成されている。また、四つの保持孔 5 2 1 b のうちの右上側の保持孔 5 2 1 b は、ユニットベース 5 2 1 の中心（操作ボタン 4 1 0 の中心）を通る上下に延びた中心線から、ユニットベース 5 2 1 の中心に対して時計周りの方向へ約 4 7 度回転した位置に形成されている。一方、四つの保持孔 5 2 1 b のうちの下側に配置されている二つの保持孔 5 2 1 b は、上側の二つの保持孔 5 2 1 b に対してユニットベース 5 2 1 の中心の反対側の位置に夫々形成されている。

【0 5 2 0】

ユニットベース 5 2 1 の遮光壁部 5 2 1 c は、フレームトップレンズ装飾基板 5 2 2 からの光が下方へ漏れるのを阻止することができ、フレームトップレンズ 4 1 8 を、フレームトップレンズ装飾基板 5 2 2 よってのみ発光装飾できるようにするためのものである。

【0 5 2 1】

ユニットベース 5 2 1 の左軸部 5 2 1 g は、水平に延びた左端が左突出部 5 2 1 e に固定されており、そこから右側が、装飾回転体ユニット 5 3 0 の回転体側左軸受部 5 3 1 b に回転可能に挿入されるものである。また、ユニットベース 5 2 1 の右軸受部 5 2 1 h は、内部に装飾回転体ユニット 5 3 0 の円筒状の回転体側右軸部 5 3 1 c が、回転可能に挿入される。左軸部 5 2 1 g 及び右軸受部 5 2 1 h は、水平方向に延びた第一軸線 C L 1（図 8 3 を参照）に対して、同軸上に配置されている。ユニットベース 5 2 1 の左軸部 5 2 1 g 及び右軸受部 5 2 1 h によって、装飾回転体ユニット 5 3 0 を、水平方向に延びた第一軸線 C L 1 周りに回転可能に取付けることができる。

【0 5 2 2】

フレームトップレンズ装飾基板 5 2 2 は、前面に複数の L E D が実装されており、それら L E D を発光させることで、フレームユニット 4 1 5 におけるフレームトップレンズ 4 1 8 を発光装飾させることができる。また、フレームトップレンズ装飾基板 5 2 2 は、前面が白色とされていると共に、実装されている L E D が、フルカラー L E D とされている。

【0 5 2 3】

操作ボタンバネ 5 2 3 は、コイルバネとされており、ユニットベース 5 2 1 における四つの保持孔 5 2 1 b 内に前方から挿入されている。操作ボタンバネ 5 2 3 は、第三演出操作ユニット 4 0 0 B に組立てた状態では、後端が保持孔 5 2 1 b の底面に当接しており、前端が操作ボタン 4 1 0 におけるボタンベース 4 1 3 の本体部 4 1 3 a から後方へ突出しているガイドボス部 4 1 3 c の後端に当接している。これら操作ボタンバネ 5 2 3 により、操作ボタン 4 1 0 を前方へ付勢している。

【0 5 2 4】

三つの押圧検知センサ 5 2 5 は、操作ボタン 4 1 0 におけるボタンベース 4 1 3 の三つの検知片 4 1 3 d と対応している位置に配置されている。詳述すると、三つの押圧検知センサ 5 2 5 は、ユニットベース 5 2 1 の前面において、一つが左上の保持孔 5 2 1 b の左下側に、もう一つが右上の保持孔 5 2 1 b の右下側に、残りの一つが左下の保持孔 5 2 1 b の右下側に夫々センサホルダ 5 2 4 を介して取付けられている。三つの押圧検知センサ 5 2 5 は、ユニットベース 5 2 1 の中央を中心として周方向へ略等間隔に取付けられている。これら三つの押圧検知センサ 5 2 5 は、操作ボタン 4 1 0 の三つの検知片 4 1 3 d を検知することができる。

【0 5 2 5】

第三演出操作ユニット中継基板 5 2 6 は、ユニットベース 5 2 1 の後側において、背面視で収容壁部 5 2 1 a の左外側（正面視右側）に取付けられている。第三演出操作ユニット中継基板 5 2 6 は、操作ボタン左外装飾基板 4 2 2、操作ボタン右外装飾基板 4 2 3、振動モータ 4 2 4、フレームトップレンズ装飾基板 5 2 2、押圧検知センサ 5 2 5、演出操作ユニット第一駆動モータ 5 2 8、装飾回転体ユニット 5 3 0 の演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4、第一装飾面部装飾基板 5 3 5、及び第二装飾面部装飾基板 5 3 6 と、扉枠ベースユニット 1 0 0 の扉本体中継基板（図示は省略）との接続を中継するためのも

のである。

【0526】

中継基板カバー527は、第三演出操作ユニット中継基板526の後側を覆う部位の下端から正面視左方に延びており、ユニットベース521の後面下部に取付けられる脚部527aを備えている。中継基板カバー527の脚部527aは、扉枠3に組立てた状態では、下面が略水平に延びていると共に、皿ユニット320における皿ユニットカバー326の底面を形成している底板部326iとの間で僅かな隙間を形成している（図26を参照）。これにより、操作ボタン410やフレームユニット415を強く下方へ押圧したり叩いたりした時に、脚部527aの下面が皿ユニットカバー326の底板部326iの上面に当接するまでの間では、フレームユニット415の取付部416eや皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326a等が下方へ撓むことで衝撃を吸収することができる。そして、脚部527aの下面が底板部326iの上面に当接した後では、第三演出操作ユニット400Bの下方へ移動が規制され、フレームユニット415の取付部416eや皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326a等に無理な力が作用するのを回避させて、それらの破損を防止することができる。

10

【0527】

演出操作ユニット第一駆動モータ528は、ユニットベース521の左側面に取付けられており、第一駆動ギア（図示は省略）及び第一伝達ギア529を介して、ユニットベース521の左軸部521g及び右軸受部521hによって回転可能に取付けられている装飾回転体ユニット530を、水平方向に延びた第一軸線CL1周りに回転させることができる。

20

【0528】

[3-4h-5. 装飾回転体ユニット]

第三演出操作ユニット400Bの装飾回転体ユニット530について、主に図82乃至図85、及び図87を参照して詳細に説明する。図87(a)は第三演出操作ユニットの装飾回転体ユニットを前から見た斜視図であり、(b)は第三演出操作ユニットの装飾回転体ユニットを後ろから見た斜視図である。装飾回転体ユニット530は、第三ベースユニット520に取付けられており、操作ボタン410の透明な部位を通して遊技者に可動演出を見せることができるものである。装飾回転体ユニット530は、図示するように、全体的に外面形状が略球形状に形成されている。

30

【0529】

装飾回転体ユニット530は、第三ベースユニット520のユニットベース521に回転可能に取付けられており、円盤状に形成されている回転体ベースユニット531と、円盤状の回転体ベースユニット531における一方の面の外側で回転可能に取付けられている第一装飾面部532と、回転体ベースユニット531における第一装飾面部532とは反対側の面の外側で回転可能に取付けられており、第一装飾面部532とは装飾の異なる第二装飾面部533と、回転体ベースユニット531内に取付けられており、第一装飾面部532及び第二装飾面部533を回転させるための演出操作ユニット第二駆動モータ534（図83を参照）と、を備えている。

【0530】

また、装飾回転体ユニット530は、図82及び図83に示すように、回転体ベースユニット531の一方の面に取付けられており第一装飾面部532へ向かって光を照射可能な複数のLEDが実装されている第一装飾面部装飾基板535と、回転体ベースユニット531の第一装飾面部装飾基板535とは反対側の面に取付けられており第二装飾面部533に向かって光を照射可能な複数のLEDが実装されている第二装飾面部装飾基板536と、を備えている。

40

【0531】

回転体ベースユニット531は、所定の厚さを有した円盤状で、内部が中空に形成されている。回転体ベースユニット531は、外周面の所定位置に取付けられており第三ベースユニット520の第一伝達ギア529と噛合する平歯車状の回転体ギア531aと、回

50

転体ギア 5 3 1 a の中心を貫通しており左軸部 5 2 1 g が相対回転可能に挿入される回転体側左軸受部 5 3 1 b と、回転体ギア 5 3 1 a とは反対側の外周面から円筒状に突出しており右軸受部 5 2 1 h 内に相対回転可能に挿入される回転体側右軸部 5 3 1 c と、回転体側右軸部 5 3 1 c の基端側において外方へ突出しているストッパ 5 3 1 d と、を備えている。

【0 5 3 2】

回転体ギア 5 3 1 a、回転体側左軸受部 5 3 1 b、及び回転体側右軸部 5 3 1 c は、回転体ベースユニット 5 3 1 における円盤状の中心を通る第二軸線 C L 2 に直交し、外周面の軸方向中央を通る第一軸線 C L 1 に対して、同軸上に配置されている。ストッパ 5 3 1 d は、第三ベースユニット 5 2 0 におけるユニットベース 5 2 1 の前面に当接するように形成されている。このストッパ 5 3 1 d は、第三ベースユニット 5 2 0 に対する装飾回転体ユニット 5 3 0 の水平方向に延びた第一軸線 C L 1 周りの回転範囲を所定の角度範囲（ここでは、180度）に規制している。

10

【0 5 3 3】

また、回転体ベースユニット 5 3 1 は、円盤状の中心を通る第二軸線 C L 2 と同心上で円筒状に延びている軸受筒部 5 3 1 e と、外周面を装飾している複数の周面装飾部 5 3 1 f と、を備えている。軸受筒部 5 3 1 e は、第一装飾面部 5 3 2 から突出している軸部材 5 3 2 d が内部に挿入されるものであり、両端に取付けられるブッシュにより軸部材 5 3 2 d を回転可能に取付けることができる。周面装飾部 5 3 1 f は、回転体ベースユニット 5 3 1 の外周面を貫通しており、回転体ベースユニット 5 3 1 内の熱を外へ放出させることができると共に、回転体ベースユニット 5 3 1 の外周面を装飾して見栄えを良くすることができる。

20

【0 5 3 4】

なお、図示は省略するが、装飾回転体ユニット 5 3 0 に、回転体ベースユニット 5 3 1 内に取付けられており、周面装飾部 5 3 1 f に向かって光を照射可能な複数の L E D が実装されている周面装飾部装飾基板を備えるようにしても良い。この周面装飾部装飾基板の L E D を適宜発光させることで、回転体ベースユニット 5 3 1 の周面装飾部 5 3 1 f を発光装飾させることができる。

【0 5 3 5】

第一装飾面部 5 3 2 は、全体が略半球状に形成されている。第一装飾面部 5 3 2 は、膨出した表面の中心に備えられている所定の文字からなるロゴ装飾部 5 3 2 a と、ロゴ装飾部 5 3 2 a を中心にして放射状に形成されている透光性を有した第一主装飾部 5 3 2 b と、第一主装飾部 5 3 2 b の外周を埋めるように形成されており外周端が第一装飾面部 5 3 2 の円形の外周端を形成している不透光性の第一副装飾部 5 3 2 c と、裏面から中心に沿って円柱状に突出している軸部材 5 3 2 d と、を備えている。

30

【0 5 3 6】

ロゴ装飾部 5 3 2 a 及び第一主装飾部 5 3 2 b は、第一装飾面部装飾基板 5 3 5 に実装されている L E D からの光により、発光装飾させられる。軸部材 5 3 2 d は、軸受筒部 5 3 1 e にブッシュを介して回転可能に挿入されるものである。この軸部材 5 3 2 d は、装飾回転体ユニット 5 3 0 に組立てた状態で、回転体ベースユニット 5 3 1 の軸受筒部 5 3 1 e を貫通して反対側へ延び出す長さに形成されており、中心軸が第一軸線 C L 1 と直交する第二軸線 C L 2 と一致した状態となる。

40

【0 5 3 7】

この第一装飾面部 5 3 2 は、軸部材 5 3 2 d が、回転体ベースユニット 5 3 1 の軸受筒部 5 3 1 e に取付けられることで、全体が、第二軸線 C L 2 周りに回転することができる。

【0 5 3 8】

第二装飾面部 5 3 3 は、第一装飾面部 5 3 2 の軸部材 5 3 2 d の先端に取付けられる回転装飾部 5 3 3 a と、回転装飾部 5 3 3 a と回転体ベースユニット 5 3 1 との間に配置されると共に、回転体ベースユニット 5 3 1 に取付けられる固定装飾部 5 3 3 b と、を備え

50

ている。回転装飾部 533a は、軸部材 532d に取付けられることから、軸部材 532d を介して第一装飾面部 532 と一緒に回転することができ、第二軸線 CL2 周りに回転することができる。一方、固定装飾部 533b は、回転体ベースユニット 531 に取付けられることから、軸部材 532d を介して第一装飾面部 532 と一緒に回転することはなく、第二軸線周りに回転しない。

【0539】

回転装飾部 533a は、周方向に複数のフィン（羽根）を備えた装飾形状に形成されており、同心円状に周方向へ延びた複数の装飾を有している。この回転装飾部 533a は、回転することで風を発生させることができる。固定装飾部 533b は、放射状にのびた複数の線を有した装飾が形成されている。回転装飾部 533a 及び固定装飾部 533b は、部分的に透光性を有しており、第二装飾面部装飾基板 536 に実装されている LED から光により、発光装飾させられる。

【0540】

演出操作ユニット第二駆動モータ 534 は、図 83 に示すように、回転体ベースユニット 531 内において、回転軸が後方へ突出するように取付けられている。演出操作ユニット第二駆動モータ 534 の回転軸には、平歯車状の第二駆動ギア 534a が取付けられている。第二駆動ギア 534a は、軸部材 532d の途中に固定されている平歯車状の装飾面部ギア 534b と噛合している。従って、演出操作ユニット第二駆動モータ 534 により、第二駆動ギア 534a、装飾面部ギア 534b、及び軸部材 532d を介して、第一装飾面部 532 と第二装飾面部 533（回転装飾部 533a）とを一緒に回転させることができる。

【0541】

第一装飾面部装飾基板 535 及び第二装飾面部装飾基板 536 は、前面が白色とされていると共に、実装されている LED が、フルカラー LED とされている。

【0542】

本実施形態の装飾回転体ユニット 530 は、第二軸線 CL2 を中心として、互いに装飾の異なる第一装飾面部 532 と第二装飾面部 533 とが、周方向に列設されている。具体的には、第一装飾面部 532 と第二装飾面部 533 は、周方向へ 180 度離間して備えられている。

【0543】

[3-4h-6. 第三演出操作ユニットの作用効果]

次に、第三演出操作ユニット 400B の作用効果について、主に図 78、図 81、及び図 88 等を参照して詳細に説明する。図 88（a）は装飾回転体ユニットの第二装飾面部を前方へ向けた状態で示す第三演出操作ユニットの正面図であり、（b）は（a）を操作ボタンの中心軸が延びている方向から見た説明図である。図 89（a）は第三演出操作ユニットにおいて第一装飾面部を前方へ向けた状態で第一装飾面部の回転を示す説明図であり、（b）は第三演出操作ユニットにおいて第二装飾面部を前方へ向けた状態で第二装飾面部の回転を示す説明図である。

【0544】

本実施形態の第三演出操作ユニット 400B は、遊技盤 5 の遊技領域 5a 内に遊技球が打込まれることで変化する遊技状態に応じて演出画像を遊技者に見せることができると共に、遊技者に操作ボタン 410 の操作をさせて遊技者に提示した遊技者参加型演出に遊技者を参加させて楽しませることができるものである。

【0545】

第三演出操作ユニット 400B は、図 197 及び図 198 等に示すように、全高が、扉枠 3 の扉枠ベースユニット 100 における扉枠ベース 110 の貫通口 111 の下側の部位の高さと略同じ高さに形成されている。また、第三演出操作ユニット 400B は、全幅が、扉枠 3 の全幅の 1/3 よりも若干大きく形成されている。第三演出操作ユニット 400B は、正面視において、遊技領域 5a（扉枠ベース 110 の貫通口 111）の下側で左右方向の中央に配置されている。

【0546】

第三演出操作ユニット400Bは、フレームユニット415のフレーム本体416の上部が、皿ユニット320における皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326aに取付けられている。第三演出操作ユニット400Bは、皿ユニット320に取付けた状態で、底面となる中継基板カバー527の脚部527aの下面が、皿ユニット320の皿ユニットカバー326における底板部326iの上面との間に、隙間が形成されている。つまり、第三演出操作ユニット400Bは、皿ユニット320に対して上部のみが取付けられており、吊下げられた状態に取付けられている。

【0547】

また、第三演出操作ユニット400Bは、フレームユニット415の前面（フレーム本体416の中央開口部416aの前端内周により形成される面）が、演出操作ユニット取付部326aの前端開口の傾斜面と平行になるように取付けられている。これにより、第三演出操作ユニット400Bは、湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出している透明な操作ボタン410の中心軸線CL（図82を参照）が、垂直線に対して63度の角度で、前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している。これにより、本パチンコ機1を用いて遊技を行うために本パチンコ機1の前で遊技者が着座すると、遊技者の頭部が皿ユニット320（第三演出操作ユニット400B）の上方に配置されている遊技盤5における遊技領域5aの中央の前方に位置するため、操作ボタン410の中心軸線CLが、遊技者の頭部付近を通ることとなる。従って、遊技者が遊技領域5aから第三演出操作ユニット400B（操作ボタン410）に視線を落すと、操作ボタン410がその正面視（中心軸線CLと平行な方向からの投影視）に可及的に近い状態で見えることとなり、操作ボタン410や操作ボタン410内の装飾回転体ユニット530等を良好な状態で視認することができる。

【0548】

第三演出操作ユニット400Bは、操作ボタン410の四つのガイドボス部413cが第三ベースユニット520の四つの保持孔521bに夫々摺動可能に挿入されていると共に、操作ボタンバネ523により前方へ付勢されている。第三演出操作ユニット400Bは、通常の状態（操作ボタン410を押圧操作していない状態）では、操作ボタンバネ523の付勢力によって、演出操作ユニット400及び第二演出操作ユニット400Aと同様に、操作ボタン410のボタンベース413のフランジ部413bの前端が、フレームユニット415のフレーム本体416の後面における中央開口部416a付近の部位に当接している。

【0549】

第三演出操作ユニット400Bは、通常の状態では、操作ボタン410におけるボタンフレーム412の内周付近から中央側（中心軸線CL側）が、フレームユニット415におけるフレーム本体416の中央開口部416aから前方へ突出している。換言すると、操作ボタン410における湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出している透明なボタンレンズ411において、ボタンフレーム412の内周（内側）から前方へ突出している部位が、フレームユニット415のフレーム本体416の中央開口部416aから前方へ突出している（図82等を参照）。

【0550】

因みに、本実施形態では、フレームユニット415におけるフレーム本体416の中央開口部416aの直径が約15cmとされており、操作ボタン410の中心軸線CL方向に対してボタンレンズ411（の前端）がフレームユニット415の前面から約4cm前方へ突出している。

【0551】

通常の状態において、遊技者が第三演出操作ユニット400Bの操作ボタン410を押圧操作すると、操作ボタン410は操作ボタンバネ523の付勢力に抗して中心軸線CLに沿って後方へ移動する。そして、操作ボタン410の後端が第三ベースユニット520のユニットベース521の前面に当接すると、後方への移動が規制されて操作ボタン41

0の後方への移動が停止する。遊技者が操作ボタン410を押圧操作する時には、湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出しているボタンレンズ411を押圧する。

【0552】

この操作ボタン410は、従来のパチンコ機に備えられている演出用の操作ボタンと比較して、外径が非常に大きく形成されているため、ボタンレンズ411の中央部分から離れた周縁付近が押圧される可能性が高い。詳述すると、従来のパチンコ機における演出用の操作ボタンは、その中心軸線が垂直線と略平行に延びるように取付けられているのに対して、本実施形態の第三演出操作ユニット400Bの操作ボタン410は、演出操作ユニット400及び第二演出操作ユニット400Aと同様に、中心軸線CLが垂直線に対して傾いて取付けられているため、遊技者が従来のパチンコ機と同様に上方から操作ボタン410を押圧すると、図61において白抜きの矢印で示すように、操作ボタン410の中心軸線CLから離れた部位を押圧することとなる。

10

【0553】

ところで、従来のパチンコ機における演出用の操作ボタンは、遊技者が押圧操作する面が平坦な面に形成されていることから、押圧操作する部位を平坦な面としたまま操作ボタンを大きくした場合、操作ボタンの中央から外れた部位を押圧すると、その押圧された部位が先に後退するように押圧操作する面が傾いてしまい、操作ボタンが真直ぐに後退することができなくなって、操作ボタンを押圧操作することができなくなる虞がある。

【0554】

これに対して、本実施形態の第三演出操作ユニット400Bの操作ボタン410は、遊技者が押圧操作する部位（ボタンレンズ411）が、前方へ膨出した湾曲面状（略球面の一部の形状）としているため、操作ボタン410の中央から離れた位置を押圧操作した場合、その力が操作ボタン410の全体に分散されて操作ボタン410が傾き難くなり、操作ボタン410が真直ぐに後方へ移動することができる。従って、操作ボタン410の前面側のどの位置を押圧操作しても、操作ボタン410が傾くことなくスムーズに後退することができるため、押圧操作を確実に検知させることができ、操作ボタン410を押圧操作する演出を十分に楽しませることができる。

20

【0555】

また、第三演出操作ユニット400Bは、装飾基板ユニット420における基板ベース421の前面下部に振動モータ424が取付けられている上で、上述したように、第三演出操作ユニット400Bが吊下げられるように上部のみが皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326aに取付けられているため、振動モータ424により錘424aを回転させて振動を発生させると、取付けられている部位から最も離れた部位で振動が発生することから、第三演出操作ユニット400B全体を大きく（強く）振動させることができ、第三演出操作ユニット400Bに触れている遊技者に対して振動を伝達させることができる。また、振動モータ424を、比較的遊技者が押圧操作し易い位置の直下に配置しているため、操作ボタン410を押圧操作している遊技者に対して強い振動を伝達させることができ、遊技者を驚かせて演出を楽しませることができる。

30

【0556】

更に、第三演出操作ユニット400Bは、吊下げられたような状態で皿ユニットカバー326に取付けられていると共に、下面を形成している中継基板カバー527の脚部527aの下面と皿ユニットカバー326の底板部326iの上面との間に隙間が形成されているため、操作ボタン410を強く下方へ押圧したり叩いたりした時に、脚部527aの下面が底板部326iの上面に当接するまでの間、フレームユニット415の取付部416eや皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326a等が下方へ撓むことで衝撃を吸収することができる。また、脚部527aの下面が底板部326iの上面に当接した後では、第三演出操作ユニット400Bの下方への移動を規制し、フレームユニット415の取付部416eや皿ユニットカバー326の演出操作ユニット取付部326a等に無理な力が作用するのを回避させることができ、第三演出操作ユニット400B等の破損を防止することができる。従って、第三演出操作ユニット400Bの操作ボタン410

40

50

を押圧操作する演出を遊技者に提示した時等に、強い力で操作ボタン４１０が押圧操作されたり叩かれたりしても、操作ボタン４１０や第三演出操作ユニット４００Ｂ等が破損することはないため、破損による遊技の中断を回避させることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができると共に、破損し難くすることで遊技ホール側の負担の増加を抑制させることができる。

【０５５７】

また、上述したように、遊技者が押圧操作する操作ボタン４１０のボタンレンズ４１１を、前方へ突出している湾曲面状（略球面の一部の形状）に形成しているため、平板状とした場合と比較して強度・剛性が高くなっていると共に、強く叩かれても、その衝撃をボタンレンズ４１１全体へ分散させることができ、破損し難くなっている。

10

【０５５８】

また、第三演出操作ユニット４００Ｂは、操作ボタン４１０のボタンレンズ４１１におけるボタンフレーム４１２の内周から中央側へ延びている第一ボタン装飾部４１１ａを備えているため、この第一ボタン装飾部４１１ａの凹凸の装飾によりボタンレンズ４１１の内側となる部位の外周縁の部位において後方を見え辛くすることができる。第一ボタン装飾部４１１ａが形成されている部位の後方（中心軸線ＣＬ方向の後方）には、操作ボタン４１０のボタンベース４１３の本体部４１３ａの内周面と装飾回転体ユニット５３０の外周面との間の隙間が位置しているが、その隙間の前方に位置する第一ボタン装飾部４１１ａによって前方側（遊技者側）から、装飾回転体ユニット５３０の外周の隙間を見え難くすることができる。これにより、押圧操作可能な操作ボタン４１０内に、回転する装飾回転体ユニット５３０を備えても、操作ボタン４１０の見栄えの悪化を防止することができ、操作ボタン４１０を見た遊技者が不快感を抱くのを防止することができると共に、透明な操作ボタン４１０内に装飾回転体ユニット５３０を問題なく配置することができ、操作ボタン４１０及び装飾回転体ユニット５３０、ひいてはパチンコ機１全体の見栄えを良くすることができる。

20

【０５５９】

更に、第三演出操作ユニット４００Ｂは、操作ボタン４１０内（ボタンフレーム４１２の内側）に配置されている装飾回転体ユニット５３０に、第一装飾面部装飾基板５３５及び第二装飾面部装飾基板５３６が備えられており、それらに実装されている複数のＬＥＤを発光させることで、操作ボタン４１０内において第一装飾面部５３２及び第二装飾面部５３３を発光装飾させることができる。そして、第一装飾面部５３２及び第二装飾面部５３３が発光装飾させることで、操作ボタン４１０内を発光装飾させることができる。この際に、操作ボタン４１０のボタンベース４１３には、装飾回転体ユニット５３０の外周を囲う筒状の本体部４１３ａを備えているため、装飾回転体ユニット５３０からの光が本体部４１３ａの外側に漏れることはなく、操作ボタン４１０内のみを良好に発光装飾させることができる。

30

【０５６０】

また、第三演出操作ユニット４００Ｂは、操作ボタン４１０の外周付近に位置するボタンフレーム４１２のフレーム開口部４１２ａから臨む第二ボタン装飾部４１１ｂの後方に、装飾基板ユニット４２０における操作ボタン左外装飾基板４２２の第一ＬＥＤ４２２ａ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第一ＬＥＤ４２３ａが配置されており、それら第一ＬＥＤ４２２ａ、４２３ａを発光させることで、操作ボタン４１０の六つの第二ボタン装飾部４１１ｂを発光装飾させることができる。操作ボタン左外装飾基板４２２の第一ＬＥＤ４２２ａ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第一ＬＥＤ４２３ａは、操作ボタン４１０のボタンベース４１３における筒状の本体部４１３ａと、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６における筒状の内側筒部４１６ｄとの間に位置しており（図５２及び図８３等を参照）、第一ＬＥＤ４２２ａ、４２３ａからの光が本体部４１３ａの内側（装飾回転体ユニット５３０側）や内側筒部４１６ｄの外側へ漏れることはなく、操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂのみを良好に発光装飾させることができる。

40

【０５６１】

50

更に、第三演出操作ユニット400Bは、フレームユニット415におけるフレーム本体416の六つの外周開口部416bから臨むフレームサイドレンズ417の後方に、操作ボタン左外装飾基板422の第二LED422b及び操作ボタン右外装飾基板423の第二LED423bが配置されており、それら第二LED422b、423bを発光させることでフレームサイドレンズ417を発光装飾させることができる。操作ボタン左外装飾基板422の第二LED422b及び操作ボタン右外装飾基板423の第二LED423bは、フレームユニット415のフレーム本体416における筒状の内側筒部416dとフレーム本体416の外周との間に位置しており、第二LED422b、423bからの光が内側筒部416dの内側やフレーム本体416の外側へ漏れることはなく、フレームユニット415のフレームサイドレンズ417のみを良好に発光装飾させることができる。

10

【0562】

また、第三演出操作ユニット400Bは、フレームユニット415のフレームトップレンズ418の後方に、第三ベースユニット520におけるフレームトップレンズ装飾基板522が配置されており、フレームトップレンズ装飾基板522の前面に実装されている複数のLEDを発光させることで、フレームトップレンズ418を発光装飾させることができる。第三ベースユニット520におけるユニットベース521のフレームトップレンズ装飾基板522が取付けられている部位の下側からは、フレームトップレンズ418の下端後方付近まで平板状の遮光壁部521cが前方へ突出しており、フレームトップレンズ装飾基板522のLEDからの光が操作ボタン410やフレームサイドレンズ417側へ漏れることはなく、フレームユニット415のフレームトップレンズ418のみを良好に発光装飾させることができる。

20

【0563】

本実施形態の第三演出操作ユニット400Bは、操作ボタン410の透明なボタンレンズ411を通して後側に配置されている装飾回転体ユニット530を、前方から視認することができる。この第三演出操作ユニット400Bは、通常の状態では、図78及び図80等に示すように、装飾回転体ユニット530の第一装飾面部532を前方へ向けた状態としている。この状態では、第一装飾面部532の軸部材532d（第二軸線CL2）の中心軸が、操作ボタン410の中心軸線CLと略一致している（図82を参照）。また、通常の状態では、第一装飾面部532における第二軸線CL2周りの回転位置が、方向性を有したロゴ装飾部532aが、正しい方向を向いた状態で回転静止させられている。

30

【0564】

また、通常の状態では、装飾回転体ユニット530における回転体ベースユニット531のストッパ531dが、第三ベースユニット520におけるユニットベース521の右軸受部521hよりも上側の前面に当接している。つまり、通常の状態では、ストッパ531dにより装飾回転体ユニット530が、水平に延びている第一軸線CL1に対して、上部が後方へ移動する方向への回転が規制されている。

【0565】

この通常の状態で、第三ベースユニット520における演出操作ユニット第一駆動モータ528により第一駆動ギア（図示は省略）及び第一伝達ギア529を介して、装飾回転体ユニット530の回転体ギア531aを、右側面視において反時計回りの方向へ回転させると、装飾回転体ユニット530が、その上部が前方へ移動するように第一軸線CL1周りに回転することとなる。そして、通常の状態から、装飾回転体ユニット530が、第一軸線CL1周りに180度回転すると、ストッパ531dがユニットベース521の右軸受部521hよりも下側の前面に当接し、これ以上の回転が規制されると共に、演出操作ユニット第一駆動モータ528による回転駆動が停止する。

40

【0566】

なお、図示は省略するが、第三ベースユニット520には、装飾回転体ユニット530の回転位置を検知する回転検知センサを備えており、回転検知センサによる検知に基づいて、装飾回転体ユニット530の回転位置が制御されている。

50

【0567】

装飾回転体ユニット530を、通常の状態から第一軸線CL1周りに180度回転させると、図88に示すように、第二装飾面部533が前方を向いた状態となる。従って、操作ボタン410における透明なボタンレンズ411を通して、第二装飾面部533が良好に視認できる状態となっている。この状態では、第二装飾面部533の第二軸線CL2が、操作ボタン410の中心軸線CLと略一致している。

【0568】

また、第三演出操作ユニット400Bは、装飾回転体ユニット530において演出操作ユニット第二駆動モータ534により、第二駆動ギア534a及び装飾面部ギア534bを介して、第二軸線CL2と同軸上に延びた軸部材532dを回転させると、軸部材532dの両端に取付けられている第一装飾面部532及び第二装飾面部533を同時に回転させることができる（図89を参照）。換言すると、演出操作ユニット第二駆動モータ534により、第一装飾面部532及び第二装飾面部533を、水平に延びた第一軸線CL1に対して直交している第二軸線CL2周りに回転させることができる。

【0569】

なお、図示は省略するが、装飾回転体ユニット530は、第一装飾面部532及び第二装飾面部533の回転位置を検知する回転検知センサを備えており、その回転検知センサの検知により、第一装飾面部532及び第二装飾面部533を任意の回転位置で停止させることができる。従って、第一装飾面部532のよう、方向性を有したロゴ装飾部532aを備えていても、その方向性に合わせた位置で回転停止させることができるため、第一装飾面部532の装飾が損なわれることはなく、装飾性を確実に発揮させることができる。

【0570】

また、第三演出操作ユニット400Bは、装飾回転体ユニット530に備えられている第一装飾面部装飾基板535及び第二装飾面部装飾基板536により、第一装飾面部532及び第二装飾面部533を、夫々発光装飾させることができる。第一装飾面部装飾基板535及び第二装飾面部装飾基板536による第一装飾面部532及び第二装飾面部533の発光装飾は、装飾回転体ユニット530が水平に延びた第一軸線CL1周りに回転している時や、第一装飾面部532及び第二装飾面部533が第一軸線CL1に対して直交している第二軸線CL2周りに回転している時でも行うことができる。

【0571】

第二装飾面部533は、回転する回転装飾部533aと、回転しない固定装飾部533bとを備えているため、回転装飾部533aを回転させている時に、第二装飾面部装飾基板536に実装されている複数のLEDを発光させると、固定装飾部533bを当して前方へ照射された光の一部が、回転している回転装飾部533aの不透光性の部位や着色されている部位等によって周期的に遮られることとなり、チカチカした瞬くような発光装飾を遊技者に見せることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができる。

【0572】

〔3-4h-7. 第三演出操作ユニットにおける可動演出〕

次に、第三演出操作ユニット400Bにおける可動演出について、主に図90及び図91を参照して詳細に説明する。図90は、第三演出操作ユニットにおいて、装飾回転体ユニットを回転させる可動演出の動きを示す説明図である。図91は、第三演出操作ユニットにおいて、第一装飾面部及び第二装飾面部を回転させた状態で装飾回転体ユニットを回転させる可動演出の動きを示す説明図である。まず、図90等を参照して、演出操作ユニット第一駆動モータ528のみを用いた装飾回転体ユニット530の可動演出について説明する。通常の状態では、図90(a)等に示すように、ロゴ装飾部532aを有した第一装飾面部532が前方へ向けられている。

【0573】

水平に延びた第一軸線CL1周りのみに回転させる可動演出の一例として、通常の状態（図90(a)の状態）から、演出操作ユニット第一駆動モータ528により、第一駆動

10

20

30

40

50

ギア（図示は省略）第一伝達ギア５２９、及び回転体ギア５３１aを介して、装飾回転体ユニット５３０を右側面視において反時計回りの方向へ、途中で停止させることなく一気に１８０度回転させて、第一装飾面部５３２の反対側に配置されている第二装飾面部５３３が前方を向いた状態とする（図９０（d）を参照）。これにより、第一装飾面部５３２が下方へ移動するように回転しつつ、第二装飾面部５３３が上方から移動して出現するような可動演出を遊技者に見せることができる。従って、第一装飾面部５３２が、装飾の異なる第二装飾面部５３３に突然切替わったような印象を遊技者に与えることができ、遊技者を驚かせることができると共に、装飾が変化することで遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。

10

【０５７４】

また、上記とは異なる可動演出として、通常の状態から、装飾回転体ユニット５３０が、右側面視において反時計回りの方向へ０度～６０度の角度範囲内で往復するように、演出操作ユニット第一駆動モータ５２８を複数回に亘って正転・逆転させる。これにより、第一装飾面部５３２が下方を向くように回転した時には、第一装飾面部５３２の上側に複数の周面装飾部５３１fを間にして第二装飾面部５３３の一部が僅かに見えることとなるため（図９０（b）を参照）、装飾回転体ユニット５３０が往復回転することで見え隠れする第二装飾面部５３３に対して、遊技者の関心を強く引付けさせることができ、第二装飾面部５３３が前方を向くか否かによってチャンスの到来に対する遊技者の期待感を高めさせることができる。その後、装飾回転体ユニット５３０を基の状態（図９０（a）の状態）に戻すことで、遊技者に対してチャンスが到来しないことを示唆させることができる。一方、装飾回転体ユニット５３０を更に回転させて第二装飾面部５３３を前方へ向けた状態（図９０（d）の状態）とすることで、チャンスが到来することを示唆させることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

20

【０５７５】

また、上記とは異なる可動演出として、通常の状態から、装飾回転体ユニット５３０を、右側面視において反時計回りの方向へ９０度回転させて、回転体ベースユニット５３１の外周面を前方へ向けた状態とする（図９０（c）を参照）。これにより、前方を向いている回転体ベースユニット５３１の外周面に間にして、下側に第一装飾面部５３２が下方を向いた状態で、また、上側に第二装飾面部５３３が上方を向いた状態で、夫々位置しており、第一装飾面部５３２及び第二装飾面部５３３の装飾が不明瞭になるため、相対的に、回転体ベースユニット５３１の外周面に備えられている複数の周面装飾部５３１fの装飾を明瞭に見せることができ、周面装飾部５３１fの装飾を楽しませることができる。また、装飾回転体ユニット５３０が、複数の周面装飾部５３１fを前方へ向けた中間位置で回転停止することで、遊技者に対して遊技状況の変化を予感させることができ、遊技者の遊技に対する期待感を高めさせることができる。その後、装飾回転体ユニット５３０を所定の方向へ回転させて、第一装飾面部５３２を基のように前方へ向けた状態、或いは、第二装飾面部５３３を前方へ向けた状態、とすることで、上記と同様の作用効果を奏することができる。

30

【０５７６】

更に、装飾回転体ユニット５３０を、通常の状態から、右側面視において反時計回りの方向へ９０度回転させた状態（図９０（c）を参照）で、その回転角度を中心にして所定角度範囲で往復するように、演出操作ユニット第一駆動モータ５２８を複数回に亘って正転・逆転させる。これにより、回転体ベースユニット５３１（複数の周面装飾部５３１f）を挟んで、第一装飾面部５３２側が多く見えたり、第二装飾面部５３３側が多く見えたり、するため、遊技者に対して、第一装飾面部５３２が前方を向くか第二装飾面部５３３が前方を向くかでワクワク・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。その後、装飾回転体ユニット５３０を所定の方向へ回転させて、第一装飾面部５３２を前方へ向けた状態、或いは、第二装飾面部５３３を前方へ向けた状態、とすることで、上記と同様の作用効果を奏することができる。

40

50

【0577】

また、上記とは異なる可動演出として、通常の状態から、装飾回転体ユニット530を180度回転させて、第二装飾面部533を前方へ向けた状態（図90（d）を参照）とし、この状態を基準として、上記とは逆の動作をする可動演出を行うこともでき、上記と同様の作用効果を奏することができる。この場合、前方を向いている第二装飾面部533が、上方へ移動するように回転して第一装飾面部532が下方から出現することとなるため、遊技者に対して上昇機運を感じさせることができ、遊技に対する期待感を高めさせることができると共に、第二装飾面部533の上方への回転により、遊技者の視線を第三演出操作ユニット400Bよりも上側にある遊技領域5a内に向けさせることができ、遊技領域5a内での遊技や演出等を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

10

【0578】

なお、上記の可動演出を実行する際に、第一装飾面部装飾基板535及び第二装飾面部装飾基板536に夫々実装されている複数のLEDを適宜発光させて、第一装飾面部532や第二装飾面部533を適宜発光装飾させた状態とする。これにより、操作ボタン410の透明なボタンレンズ411を通して見える第一装飾面部532や第二装飾面部533がより見え易くなるため、遊技者に対してそれらの装飾の違いを明確に認識させることができ、装飾の違いによるプレミアム感を十分に発揮させることができると共に、それらの装飾を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。また、第一装飾面部532や第二装飾面部533を発光装飾させることで、遊技者の関心を操作ボタン410へ向けさせることができるため、操作ボタン410を押圧操作させる遊技者参加型演出の実行時に、遊技者に対して操作ボタン410の押圧操作を促すことができ、遊技者参加型演出に遊技者を参加させて楽しませることができる。

20

【0579】

続いて、図91等を参照して、演出操作ユニット第一駆動モータ528及び演出操作ユニット第二駆動モータ534を用いた装飾回転体ユニット530の可動演出について説明する。最初の状態では、図91（a）に示すように、ロゴ装飾部532aを有した第一装飾面部532が前方へ向けられていると共に、第一装飾面部532が、演出操作ユニット第二駆動モータ534によって、操作ボタン410の中心軸線CLと一致するように延びている第二軸線CL2周り（ここでは、時計回りの方向）に回転させられている。この状態では、第一装飾面部532が第二軸線CL2周りに回転していることから、方向性を有したロゴ装飾部532aのロゴが遊技者側から認識し辛くなっている。

30

【0580】

演出操作ユニット第二駆動モータ534により第一装飾面部532及び第二装飾面部533を回転させた状態で行われる可動演出の一例として、第一装飾面部532（第二装飾面部533）を第二軸線CL2周りに回転させたまま、演出操作ユニット第一駆動モータ528により、装飾回転体ユニット530を、右側面視において反時計回りの方向へ、途中で停止させることなく一気に180度回転させて、第一装飾面部532の反対側で回転している第二装飾面部533を、前方へ向けた状態とする（図91（d）を参照）。これにより、時計回りに回転していた第一装飾面部532が、突然、装飾の異なる第二装飾面部533に切替わると共に、第二装飾面部533（回転装飾部533a）が第一装飾面部532とは反対方向の反時計回りの方向に回転しているため、遊技者に対して強いインパクトを与えることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができると共に、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。

40

【0581】

また、上記とは異なる可動演出として、演出操作ユニット第二駆動モータ534により第一装飾面部532及び第二装飾面部533を第二軸線CL2周りに回転させたままの状態、装飾回転体ユニット530が、右側面視において反時計回りの方向へ0度～60度の角度範囲内で往復するように、演出操作ユニット第一駆動モータ528を複数回に亘って正転・逆転させる。これにより、第二軸線CL2周りに回転している第一装飾面部53

50

2が下方を向くように第一軸線C L 1周りに回転した時には、第一装飾面部5 3 2の上側において第二軸線C L 2周りには回転していない複数の周面装飾部5 3 1 fが見えると共に、複数の周面装飾部5 3 1 fの上側には、第二軸線C L 2周りに回転している第二装飾面部5 3 3の一部が僅かに見えることとなる（図9 1（b）を参照）。従って、装飾回転体ユニット5 3 0が、第一軸線C L 1周りに往復回転することで、見え隠れする第二装飾面部5 3 3に対して、遊技者の関心を強く引付けさせることができ、第二装飾面部5 3 3が前方を向くか否かによってチャンスの到来に対する遊技者の期待感を高めさせることができる。その後、装飾回転体ユニット5 3 0を第一軸線C L 1周りに対して所定方向へ回転させて、第一装飾面部5 3 2を前方へ向けた状態（図9 1（a）の状態）、或いは、第二装飾面部5 3 3を前方へ向けた状態（図9 1（b）の状態）とし、遊技者が所望した状態となれば、チャンスの到来を確信させることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。なお、第二軸線C L 2周りに回転している第一装飾面部5 3 2を前方へ向けた後に、第一装飾面部5 3 2のロゴ装飾部5 3 2 aが正しい向きとなるように回転を停止させても良い。これにより、遊技者に対して、第一装飾面部5 3 2のロゴ装飾部5 3 2 aを、明確に認識させることができるため、チャンスの到来を示唆させることができ、遊技者の遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。

10

【0 5 8 2】

また、上記とは異なる可動演出として、演出操作ユニット第二駆動モータ5 3 4により第一装飾面部5 3 2及び第二装飾面部5 3 3を第二軸線C L 2周りに回転させたままの状態から、装飾回転体ユニット5 3 0を、第一軸線C L 1周りに対し右側面視において反時計回りの方向へ9 0度回転させて、回転体ベースユニット5 3 1の外周面を前方へ向けた状態とする（図9 1（c）を参照）。これにより、前方を向いている回転体ベースユニット5 3 1の外周面を間にして、下側に第一装飾面部5 3 2が下方を向いた状態で、また、上側に第二装飾面部5 3 3が上方を向いた状態で、夫々位置していると共に、それらが同じ方向へ移動するように動いている状態となることから、第一装飾面部5 3 2及び第二装飾面部5 3 3の装飾を不明瞭な状態とすることができるため、それらの間に挟まれている静止した回転体ベースユニット5 3 1の外周面の複数の周面装飾部5 3 1 fを明瞭に見せることができる。従って、操作ボタン4 1 0内において、静止している周面装飾部5 3 1 fを目立たせることができ、遊技者の関心を周面装飾部5 3 1 fに強く引付けさせて、その装飾を楽しませることができる。その後、装飾回転体ユニット5 3 0を所定方向へ回転させて、第一装飾面部5 3 2を基のように前方へ向けた状態、或いは、第二装飾面部5 3 3を前方へ向けた状態、とすることで、上記と同様の作用効果を奏することができる。

20

30

【0 5 8 3】

更に、第一装飾面部5 3 2及び第二装飾面部5 3 3を第二軸線C L 2周りに回転させたまま、装飾回転体ユニット5 3 0を第一軸線C L 1周りに回転させて回転体ベースユニット5 3 1の外周面を前方へ向けた状態（図9 1（c）を参照）で、その状態を中心に第一軸線C L 1周りに対して所定角度範囲で往復するように、演出操作ユニット第一駆動モータ5 2 8を複数回に亘って正転・逆転させる。これにより、回転体ベースユニット5 3 1（複数の周面装飾部5 3 1 f）を挟んで、夫々が第二軸線C L 2周りに回転している第一装飾面部5 3 2側が多く見えたり第二装飾面部5 3 3側が多く見えたりするため、遊技者に対して、第一装飾面部5 3 2が前方を向くか第二装飾面部5 3 3が前方を向くかでワクワク・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。その後、装飾回転体ユニット5 3 0を第一軸線C L 1周りに対して所定方向へ回転させて、第一装飾面部5 3 2を前方へ向けた状態（図9 1（a）の状態）、或いは、第二装飾面部5 3 3を前方へ向けた状態（図9 1（b）の状態）とすることで、上記と同様の作用効果を奏することができる。

40

【0 5 8 4】

また、上記とは異なる可動演出として、通常の状態から、第一装飾面部5 3 2及び第二装飾面部5 3 3を第二軸線C L 2周りに回転させた後に、装飾回転体ユニット5 3 0を第

50

一軸線C L 周りに180度回転させて、回転している第二装飾面部533を前方へ向けた状態、或いは、通常の状態から、装飾回転体ユニット530を第一軸線C L 周りに180度回転させて、第二装飾面部533を前方へ向けた後に、第一装飾面部532及び第二装飾面部533を第二軸線C L 2 周りに回転させた状態とし、この状態（図91（d）を参照）を基準として、上記とは逆の動作をする可動演出を行うこともでき、上記と同様の作用効果を奏することができる。この場合、前方を向いている回転中の第二装飾面部533が、上方へ移動するように第一軸線C L 1 周りに回転して、第二装飾面部533とは第二軸線C L 2 周りに対して逆方向に回転している第一装飾面部532が下方から出現することとなるため、遊技者に対して上昇機運を感じさせることができ、遊技に対する期待感を高めさせることができると共に、第二軸線C L 2 周りに回転している第二装飾面部533の上方への移動により、遊技者の視線を第三演出操作ユニット400Bよりも上側にある遊技領域5a内に向けさせることができ、遊技領域5a内での遊技や演出等を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

10

【0585】

なお、上記の可動演出を実行する際に、演出操作ユニット第二駆動モータ534による第一装飾面部532及び第二装飾面部533の第二軸線C L 2 周りの回転を、途中で逆回転させるようにしても良いし、所定の角度範囲内で往復回転させるようにしても良い。また、演出操作ユニット第一駆動モータ528による装飾回転体ユニット530の第一軸線C L 1 周りの回転速度と、演出操作ユニット第二駆動モータ534による第一装飾面部532及び第二装飾面部533の第二軸線C L 2 周りの回転速度と、同じ回転速度としても

20

【0586】

また、上記の可動演出を実行する際に、第一装飾面部装飾基板535及び第二装飾面部装飾基板536に夫々実装されている複数のLEDを適宜発光させて、第二軸線C L 2 周りに回転している第一装飾面部532及び第二装飾面部533を適宜発光装飾させた状態とする。これにより、第二軸線C L 2 周りに回転している第一装飾面部532を前方へ向けた状態では、操作ボタン410の透明なボタンレンズ411全体を、一様な光により発光装飾させることができる。一方、第二軸線C L 2 周りに回転している第二装飾面部533を前方へ向けた状態では、回転装飾部533aによる周期的な光の遮断により、透明なボタンレンズ411を、チカチカした瞬くような光によって発光装飾させることができる。このように、操作ボタン410のボタンレンズ411を、多彩に発光装飾させることができるため、遊技者の関心を操作ボタン410へ向けさせることができ、操作ボタン410を押圧操作させる遊技者参加型演出の実行時に、遊技者に対して操作ボタン410の押圧操作を促すことが可能となり、遊技者参加型演出に遊技者を参加させて楽しませることができる。

30

【0587】

[3-4h-8. 第三演出操作ユニットの排熱作用]

次に、第三演出操作ユニット400Bの排熱作用について、主に図92等を参照して詳細に説明する。図92は、第三演出操作ユニットにおいて、第二装飾面部の回転による空気の流れを示す説明図である。本実施形態の第三演出操作ユニット400Bでは、操作ボタン410の後側に配置されている装飾回転体ユニット530が、操作ボタン410と第三ベースユニット520のユニットベース521（収容壁部521a）とによって、前後が閉鎖されたボタン内空間ASに配置されている（図92を参照）。このボタン内空間ASの後部を形成し、装飾回転体ユニット530の後側を覆っている収容壁部521aには、前後に貫通している複数の換気口521dが形成されている。従って、ボタン内空間ASは、複数の換気口521dを通して、第三演出操作ユニット400Bが取付けられている皿ユニットカバー326の取付空間326j内と連通している。なお、図示は省略するが、取付空間326jは、底板部326iや下皿カバー340に形成されている排気口を

40

50

通してパチンコ機 1 の外部と連通している。

【0588】

また、第三演出操作ユニット 400B では、装飾回転体ユニット 530 において、回転体ベースユニット 531 の軸受筒部 531e に、第二軸線 CL と同軸上で回転可能に取付けられている一つの軸部材 532d の両端に、互いに装飾の異なる第一装飾面部 532 と第二装飾面部 533 が夫々取付けられており、第一装飾面部 532 と第二装飾面部 533 とが一緒に回転できるようになっている。第一装飾面部 532 と第二装飾面部 533 とを回転させる演出操作ユニット第二駆動モータ 534 は、中空の回転体ベースユニット 531 内に取付けられている。回転体ベースユニット 531 の外周面には、貫通した孔状の装飾からなる複数の周面装飾部 531f が形成されており、それら周面装飾部 531f を通して、回転体ベースユニット 531 の内側と外側とが互いに連通している。

10

【0589】

装飾回転体ユニット 530 において、第二軸線 CL 周りに回転可能に取付けられている第一装飾面部 532 及び第二装飾面部 533 のうち、第二装飾面部 533 では、第二軸線 CL 周りに回転する回転装飾部 533a が、回転させた時に風を発生させることが可能な形状に形成されている。

【0590】

上記のような構成の第三演出操作ユニット 400B において、装飾回転体ユニット 530 の第一装飾面部 532 を前方へ向けた状態で、第一装飾面部 532 及び第二装飾面部 533 を、演出操作ユニット第二駆動モータ 534 により第二軸線 CL 周りに対して所定方向へ回転させると、第二装飾面部 533 における回転装飾部 533a の回転により発生した風が、後方を覆っている収容壁部 521a の複数の換気口 521d を通して、収容壁部 521a よりも後側へ抜けることとなる（図 92（a）を参照）。この風の流れにより、装飾回転体ユニット 530 が収容されているボタン内空間 AS の空気を、強制的に外部に排出させて換気させることができる。そして、ボタン内空間 AS と回転体ベースユニット 531 の内部とは、複数の周面装飾部 531f を通して互いに連通しているため、演出操作ユニット第二駆動モータ 534 から放出された熱を、複数の周面装飾部 531f、ボタン内空間 AS、及び換気口 521d を通して、第三演出操作ユニット 400B の後方（皿ユニット 320 の取付空間 326j 内）へ排出させることができる。これにより、装飾回転体ユニット 530 内や操作ボタン 410 内の温度が異常に上昇するのを抑制することができ、熱による不具合の発生を防止することができる。

20

30

【0591】

また、本実施形態の第三演出操作ユニット 400B は、装飾回転体ユニット 530 の第二装飾面部 533 を前方へ向けた状態で、第一装飾面部 532 及び第二装飾面部 533 を、演出操作ユニット第二駆動モータ 534 により第二軸線 CL 周りに対して所定方向へ回転させると、第二装飾面部 533 における回転装飾部 533a の回転により発生した風が、操作ボタン 410 の内面に沿うように後方へ誘導され、装飾回転体ユニット 530 の後方を覆っている収容壁部 521a の複数の換気口 521d を通して、収容壁部 521a よりも後側へ抜けることとなる（図 92（b）を参照）。この風の流れにより、装飾回転体ユニット 530 が収容されているボタン内空間 AS の空気を、強制的に外部に排出させて換気させることができるため、回転体ベースユニット 531 内に取付けられている演出操作ユニット第二駆動モータ 534 から放出された熱を、複数の周面装飾部 531f、ボタン内空間 AS、及び換気口 521d を通して、第三演出操作ユニット 400B の後方（皿ユニット 320 の取付空間 326j 内）へ排出させることができる。これにより、装飾回転体ユニット 530 内や操作ボタン 410 内の温度が異常に上昇するのを抑制することができ、熱による不具合の発生を防止することができる。

40

【0592】

なお、ユニットベース 521 における収容壁部 521a の複数の換気口 521d を通して取付空間 326j 内に排出された排熱は、底板部 326i や下皿カバー 340 に形成されている図示しない排気口を通してパチンコ機 1 の外部に排出される。

50

【0593】

[3-5. 扉枠左サイドユニット]

扉枠3の扉枠左サイドユニット540について、主に図93乃至図96を参照して詳細に説明する。図93(a)は扉枠における扉枠左サイドユニットの正面図であり、(b)は扉枠左サイドユニットを前から見た斜視図であり、(c)は扉枠左サイドユニットを後ろから見た斜視図である。図94は扉枠左サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図95は扉枠左サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図96は図93(a)におけるN-N線で切断した断面図である。扉枠左サイドユニット540は、皿ユニット320の上側で扉枠左サイド上装飾基板161及び扉枠左サイド下装飾基板162(扉枠左サイド装飾基板160)の前側を覆うように扉枠ベースユニット100における貫通口111よりも左側の前面左部に取付けられるものである。扉枠左サイドユニット540は、扉枠ベース110の貫通口111の正面視左側を装飾するためのものである。

10

【0594】

扉枠左サイドユニット540は、扉枠ベースユニット100における扉枠ベース110の前面で貫通口111の正面視左側に取り付けられる上下に延びた帯板状の左ユニットベース541と、左ユニットベース541の前面に取り付けられている透明な帯板状の左ユニット拡散レンズ部材542と、左ユニット拡散レンズ部材542の前方に配置されており前端部に多面体状の装飾を有している透光性を有する左ユニット装飾レンズ部材(図示は省略)と、左ユニット装飾レンズ部材の前側から左ユニットベース541の前面上部に取り付けられており前方へ筒状に突出していると共に上下に延びている左ユニット上装飾ベース544と、左ユニット装飾レンズ部材の前側から左ユニットベース541の前面下部に取り付けられており左ユニット上装飾ベース544よりも短く前方へ棒状に突出している左ユニット下装飾ベース545と、左ユニット上装飾ベース544及び左ユニット下装飾ベース545の前側から左ユニット装飾レンズ部材の前端側を覆うように左ユニットベース541の前側に取り付けられている透明な左ユニット装飾カバー546と、左ユニット装飾カバー546の前側に取り付けられている複数の飾り部材547と、を備えている。

20

【0595】

扉枠左サイドユニット540の左ユニットベース541は、後側が開放された浅い箱状に形成されており、前面に前後に貫通している複数の開口部541aを有している。複数の開口部541aは、図示するように、円形状の穴と、上下に延びた四角形状の穴とがある。左ユニットベース541は、扉枠左サイド装飾基板160(扉枠左サイド上装飾基板161及び扉枠左サイド下装飾基板162)の前面に実装されているLED161a、162aが、複数の開口部541aから前方へ臨むように、扉枠ベース110の前面左側に取り付けられる。左ユニットベース541の各開口部541aは、扉枠3に組立てた時に、扉枠左サイド装飾基板160の各LED161a、162aが上下方向の略中央に位置するように夫々形成されている。この左ユニットベース541は、不透光性の部材によって形成されている。

30

【0596】

左ユニット拡散レンズ部材542は、透明な部材によって形成されており、上拡散レンズ部材542Aと下拡散レンズ部材542Bとに上下に分割されている。左ユニット拡散レンズ部材542は、左ユニットベース541における円形状の開口部541aと対応している正面視円形の円形レンズ部542aと、四角形状の開口部541aと対応している正面視四角形の角形レンズ部542bと、を備えている。扉枠左サイドユニット540は、扉枠3に組立てた状態で、円形レンズ部542a及び角形レンズ部542bの中央の直後に、扉枠左サイド装飾基板160の夫々のLED161a、162aが位置するように形成されている。

40

【0597】

左ユニット拡散レンズ部材542の円形レンズ部542aは、前面及び後面が滑らかな凸レンズ状に形成されている。この円形レンズ部542aによって、後方に配置されてい

50

るLED161a, 162aからの光を、点状のまま前方へ照射させることができる。この円形レンズ部542aから前方へ照射された光によって、左ユニット装飾レンズ部材の円形装飾部を発光装飾させることができる。

【0598】

左ユニット拡散レンズ部材542の角形レンズ部542bは、前面中央において円錐状に後方へ窪んだ中央拡散反射部542cと、前面における中央拡散反射部542cの外側に形成されている前面拡散レンズ部542dと、後面中央（中央拡散反射部542cの直後）において湾曲面状に後方へ膨出している入力レンズ部542eと、後面における入力レンズ部542eの外側で全体的に入力レンズ部542eから遠ざかるに従って前方へ移動するように傾斜している前方反射部542fと、を備えている。

10

【0599】

角形レンズ部542bの前面拡散レンズ部542dは、中央拡散反射部542cを中心にした放射状に延びている線により周方向へ分割されている同心円弧状の複数の溝により形成されている。更に詳述すると、前面拡散レンズ部542dは、半径方向に沿って切断した時の断面形状に、溝の部分が後方へ円弧状に窪んでおり、溝と溝の間の山の部分が前方へ円弧状に膨出しており、前面が滑らかな波状に形成されている。また、前面拡散レンズ部542dは、周方向へ分割している放射状に延びた線を境に、溝の部分と山の部分とが周方向へ交互に位置するように形成されている。

【0600】

角形レンズ部542bの前方反射部542fは、入力レンズ部542eを中心にした放射状に延びている線により周方向へ分割されている同心円弧状の複数の溝により形成されている。これら複数の溝は、後方から前方へ向かってV字状に窪んでおり、最深部が円弧状に形成されている。前方反射部542fは、半径方向に沿って切断した時の断面形状が、溝と溝との間の山の部分が後方へ尖った三角形に形成されており、鋸状に形成されている。前方反射部542fは、中心から遠ざかるに従って溝及び山の部分が前方へ移動するように形成されている。また、前方反射部542fは、周方向へ分割している放射状に延びた線を境に、溝の部分と山の部分とが周方向へ交互に位置するように形成されている。この周方向へ分割している放射状に延びた線は、前面拡散レンズ部542dにおける放射状に延びた分割線と一致している。

20

【0601】

この角形レンズ部542bは、扉枠3に組立てた状態で、入力レンズ部542eの直後に、扉枠左サイド装飾基板160の対応しているLED161a, 162aが位置している。

30

【0602】

角形レンズ部542bは、LED161a, 162aから前方へ照射された光が、入力レンズ部542eから角形レンズ部542b内に入力される。この入力レンズ部542eは、後方へ湾曲面状（凸レンズ状）に膨出していることから、LED161a, 162aから前方へ広がる光を、前方へ平行に進むように屈折させて、入力された光の略全てを円錐状の中央拡散反射部542cへ導くことができる。そして、中央拡散反射部542cへ導かれた光は、中央拡散反射部542cの傾斜している円錐面により、前後に延びた軸線に対して直角方向（扉枠左サイド装飾基板160の前面と平行な方向）へ拡散するように反射させられ、角形レンズ部542b内をその前面に沿って中央側から外側へ向かって進むこととなる。また、中央拡散反射部542cで反射した光は、角形レンズ部542bの前後方向の厚さ全体に亘って、中央側から外側（中央拡散反射部542cの中心線から遠ざかる方向）へ進む。

40

【0603】

角形レンズ部542b内を扉枠左サイド装飾基板160の前面と略平行に中央側から外側へ向かって反射した光が、鋸状の前方反射部542fに到達すると、前方反射部542fの面により前方側へ反射する。この際に、前方反射部542fは、後面が中央拡散反射部542cから遠ざかるに従って前方へ移動するように傾斜していることから、角形レン

50

ズ部 5 4 2 b の前後方向の厚が、中央から遠ざかるに従って薄くなっている（図 9 6 を参照）。これにより、中央拡散反射部 5 4 2 c において角形レンズ部 5 4 2 b の前後方向の厚さ全体に亘って外側へ向かって反射している光を、中心側から外側へ向かうに従って、前方反射部 5 4 2 f により順次前方へ反射させることができる。

【0604】

そして、前方反射部 5 4 2 f により前方へ向かって反射させられた光は、前面拡散レンズ部 5 4 2 d を通って角形レンズ部 5 4 2 b から前方へ照射される。この際に、前面拡散レンズ部 5 4 2 d は、断面が波状に形成されているため、前方反射部 5 4 2 f で前方へ向かって反射させられた光を様々な方向へ拡散させることができ、角形レンズ部 5 4 2 b の前面から略均一に光を前方（左ユニット装飾レンズ部材の後面）へ照射させることができる。

10

【0605】

この角形レンズ部 5 4 2 b は、前面拡散レンズ部 5 4 2 d 及び前方反射部 5 4 2 f では、同心円状の複数の溝を放射状に延びた複数の線で分割した上で、分割線を境に同心円弧状の複数の溝を半径方向へずらして、同心円弧状の溝を周方向において交互に配置するようにしているため、角形レンズ部 5 4 2 b の前面から前方へ照射される光が、同心円状の縞模様の濃淡を有した光となるのを回避させることができ、より濃淡の均一な光を前方へ照射させることができる。これにより、左ユニット装飾レンズ部材における角形レンズ部 5 4 2 b の前方の多面装飾部を略均一に発光装飾させることができる。

【0606】

20

図示しない左ユニット装飾レンズ部材は、左ユニット装飾カバー 5 4 6 の前面に沿うように形成されている。左ユニット装飾レンズ部材は、左ユニット拡散レンズ部材 5 4 2 の円形レンズ部 5 4 2 a の前方の位置する部位に形成されている円形装飾部と、左ユニット拡散レンズ部材 5 4 2 の角形レンズ部 5 4 2 b の前方に位置する部位に形成されている多面装飾部と、を備えている。円形装飾部は、前面が窪み前後に短く延びた円柱状の部位の外周に三角形のリブを周方向に複数備えた形状に形成されている。多面装飾部は、上下に延びた直方体の前面に四角錐状の部位が上下方向に複数列設されていると共に、直方体の部位の左右両側に複数の三角形からなる多面体が上下方向に複数列設したような形状に形成されている。円形装飾部及び多面装飾部は、扉枠右サイドユニット 5 5 0 における右ユニット装飾レンズ部材 5 6 1 の円形装飾部 5 6 1 a 及び多面装飾部 5 6 1 b と、同じ形状に形成されている。

30

【0607】

左ユニット装飾レンズ部材は、透明な左ユニット装飾カバー 5 4 6 を通して前方側（遊技者側）から視認することができる。また、左ユニット装飾レンズ部材は、円形装飾部が左ユニット拡散レンズ部材 5 4 2 の円形レンズ部 5 4 2 a から前方へ照射された光により、多面装飾部が左ユニット拡散レンズ部材 5 4 2 の角形レンズ部 5 4 2 b から前方へ照射された光により、夫々発光装飾させられる。

【0608】

左ユニット上装飾ベース 5 4 4 は、正面視の形状が上下に延びた四角形で、前後に延びた角筒状に形成されている。左ユニット上装飾ベース 5 4 4 は、外周における下面を構成する部位が、前端側から後端側へ向かうに従って下方へ突出するように傾斜しており、その部位の下部が前後に貫通している。この左ユニット上装飾ベース 5 4 4 は、不透光性の部材によって形成されている。

40

【0609】

左ユニット下装飾ベース 5 4 5 は、正面視の形状が、上方へ開放されているコ字状に形成されている。左ユニット下装飾ベース 5 4 5 は、前端における上下方向略中央から上側が、上方へ向かうに従って後方へ移動するように後端まで傾斜している。この左ユニット下装飾ベース 5 4 5 は、不透光性の部材によって形成されている。

【0610】

左ユニット装飾カバー 5 4 6 は、扉枠左サイドユニット 5 4 0 の全高に亘って上下に延

50

びている。左ユニット装飾カバー 546 は、上下方向の中間部が後方へ凹むように屈曲しており、左ユニット上装飾ベース 544 の前端に沿うように下部が後方へ折れ曲がっているく字状の部位と、左ユニット下装飾ベース 545 の前端に沿うように上部が後方へ折れ曲がっているく字状の部位と、上側のく字状の部位の下端と下側のく字状の部位の上端とを結んでいる直線状の部位と、で構成されている。

【0611】

左ユニット装飾カバー 546 は、上下両端が左ユニット上装飾ベース 544 の前面と、左ユニット下装飾ベース 545 の前面とに夫々取付けられる。この左ユニット装飾カバー 546 は、透明な部材によって形成されており、後側に配置されている左ユニット装飾レンズ部材を前方側から視認することができる。

10

【0612】

飾り部材 547 は、上下に短く延びており、上下方向へ所定間隔で左ユニット装飾カバー 546 の前面に取付けられている。飾り部材 547 は、不透光性の部材によって形成されている。

【0613】

[3-6. 扉枠右サイドユニット]

扉枠 3 の扉枠右サイドユニット 550 について、主に図 97 乃至図 101 等を参照して詳細に説明する。図 97 (a) は扉枠における扉枠右サイドユニットの正面図であり、(b) は扉枠右サイドユニットを前から見た斜視図であり、(c) は扉枠右サイドユニットを後ろから見た斜視図である。図 98 は扉枠右サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図 99 は扉枠右サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図 100 は、図 97 (a) における O-O 線で切断した断面図である。図 101 (a) は図 97 (a) における P-P 線で切断した断面図であり、(b) は図 97 (a) における Q-Q 線で切断した断面図である。扉枠右サイドユニット 550 は、皿ユニット 320 の上側で扉枠ベースユニット 100 の扉枠ベース 110 の前面における貫通口 111 の右側に取付けられるものである。

20

【0614】

扉枠右サイドユニット 550 は、扉枠ベースユニット 100 における扉枠ベース 110 の前面で貫通口 111 の正面視右側に取付けられる上下に延びた箱状の右ユニットベース 551 と、右ユニットベース 551 の前面に取付けられている扉枠右サイド装飾基板 552 と、扉枠右サイド装飾基板 552 の前側で右ユニットベース 551 の前面における正面視中央より左側に取付けられており上下方向及び前後方向に延びている透明平板状の右ユニット左拡散レンズ部材 553 と、右ユニット左拡散レンズ部材 553 の左側面に取付けられており装飾が施されているシート状の右ユニット左装飾部材 554 と、右ユニット左装飾部材 554 の左側を覆うように右ユニット左拡散レンズ部材 553 に取付けられている透明平板状の右ユニット左カバー 555 と、を備えている。

30

【0615】

また、扉枠右サイドユニット 550 は、扉枠右サイド装飾基板 552 の前側且つ右ユニット左拡散レンズ部材 553 の正面視右側で右ユニットベース 551 の前面における正面視中央より右側と右ユニット左拡散レンズ部材 553 とに取付けられており上下方向及び前後方向に延びている透明平板状の右ユニット右拡散レンズ部材 556 と、右ユニット右拡散レンズ部材 556 の右側面に取付けられており装飾が施されているシート状の右ユニット右装飾部材 557 と、右ユニット右装飾部材 557 の右側を覆うように右ユニット右拡散レンズ部材 556 に取付けられている透明平板状の右ユニット右カバーと 558、を備えている。

40

【0616】

更に、扉枠右サイドユニット 550 は、右ユニット左拡散レンズ部材 553 と右ユニット右拡散レンズ部材 556 との間に配置されており前方及び右方が開放された上下方向及び前後方向に延びた浅い箱状で不透光性の右ユニット左遮光部材 559 と、右ユニット右拡散レンズ部材 556 の左側で右ユニット左遮光部材 559 の開放されている右側を閉鎖

50

するように取付けられている不透光性で平板状の右ユニット右遮光部材 5 6 0 と、を備えている。

【0 6 1 7】

また、扉枠右サイドユニット 5 5 0 は、右ユニット左拡散レンズ部材 5 5 3 及び右ユニット右拡散レンズ部材 5 5 6 の前端に取付けられており前端部に多面体状の装飾を有している透光性を有する右ユニット装飾レンズ部材 5 6 1 と、右ユニット装飾レンズ部材 5 6 1 の左右両側と右ユニット左拡散レンズ部材 5 5 3 及び右ユニット右拡散レンズ部材 5 5 6 の前端側を覆うように右ユニットベース 5 5 1 の前面に取付けられている前後に貫通した枠状の右ユニット装飾ベース 5 6 2 と、右ユニット装飾ベース 5 6 2 の前端開口を閉鎖するように右ユニット装飾ベース 5 6 2 の前側に取付けられている透明な右ユニットカバー 5 6 3 と、右ユニットカバー 5 6 3 の前側に取付けられている複数の飾り部材 5 6 4 と、を備えている。なお、図示は省略するが、扉枠右サイドユニット 5 5 0 は、右ユニットベース 5 5 1 を上下に貫通するように取付けられ、扉枠ベースユニット 1 0 0 の扉本体中継基板と、扉枠トップユニット 5 7 0 の扉枠トップユニット中継基板 5 8 9 とを接続するための接続ケーブルを備えている。

10

【0 6 1 8】

扉枠右サイドユニット 5 5 0 の右ユニットベース 5 5 1 は、正面視の形状が上下に長く延びた四角形で、前後に短く角筒状に延びており、前後方向の中央付近が閉鎖された箱状に形成されている。この右ユニットベース 5 5 1 は、不透光性の部材によって形成されている。

20

【0 6 1 9】

扉枠右サイド装飾基板 5 5 2 は、上下に延びた帯板状に形成されている。扉枠右サイド装飾基板 5 5 2 は、前面における左右方向中央より左側に実装されている複数の左 L E D 5 5 2 a と、前面における左右方向中央より右側に実装されている右 L E D 5 5 2 b と、前面における左右方向中央に実装されている複数の中 L E D 5 5 2 c と、を備えている。扉枠右サイド装飾基板 5 5 2 の左 L E D 5 5 2 a は、右ユニット左拡散レンズ部材 5 5 3 を介して右ユニット左装飾部材 5 5 4 を発光装飾させるためのものである。また、右 L E D 5 5 2 b は、右ユニット右拡散レンズ部材 5 5 6 を介して右ユニット右装飾部材 5 5 7 を発光装飾させるためのものである。中 L E D 5 5 2 c は、右ユニット装飾レンズ部材 5 6 1 を発光装飾させるためのものである。

30

【0 6 2 0】

扉枠右サイド装飾基板 5 5 2 は、前後両面が白色に形成されている。扉枠右サイド装飾基板 5 5 2 は、上側の扉枠右サイド上装飾基板 5 5 2 A と、下側の扉枠右サイド下装飾基板 5 5 2 B とに上下に分割されている。図示は省略するが、扉枠右サイド下装飾基板 5 5 2 B は、扉枠ベースユニット 1 0 0 の扉本体中継基板に接続されており、扉枠右サイド上装飾基板 5 5 2 A は、扉枠右サイド下装飾基板 5 5 2 B に接続されている。

【0 6 2 1】

右ユニット左拡散レンズ部材 5 5 3 は、上下方向及び前後方向に延びた平板状の本体部 5 5 3 a と、本体部 5 5 3 a の後辺から正面視右方へ短く平板状に突出している後壁部 5 5 3 b と、後壁部 5 5 3 b の正面視右端側から左方へ四角形状に切欠かれており上下方向に所定間隔で複数形成されている切欠部 5 5 3 c と、本体部 5 5 3 a の正面視左面側において右ユニット左装飾部材 5 5 4 を収容可能に浅く窪んでいる収容凹部 5 5 3 d と、本体部 5 5 3 a の後端面から後方へ突出しており上下方向に複数備えられている入力レンズ部 5 5 3 e と、本体部 5 5 3 a の正面視右面側において各入力レンズ部 5 5 3 e が上下方向の中央となるように上下方向に複数配置されている側面反射部 5 5 3 f と、を備えている。

40

【0 6 2 2】

右ユニット左拡散レンズ部材 5 5 3 の本体部 5 5 3 a は、側面視の形状が、上下に延びた四角形の前端側の上隅が C 面取り状に斜めに切欠かれていると共に、下辺が前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している形状に形成されている。また、本体部 5 5

50

3 a は、図 1 0 1 に示すように、後端側から前方へ向かうに従って、正面視右方へ移動するように全体が、扉枠右サイド装飾基板 5 5 2 の前面の垂直線に対して僅かに傾斜している。本体部 5 5 3 a の前端は、扉枠 3 に組立てた状態で、扉枠左サイドユニット 5 4 0 の前端よりも大きく前方へ突出している。

【0 6 2 3】

後壁部 5 5 3 b は、扉枠右サイドユニット 5 5 0 に組立てた状態で、その右端が、右ユニットベース 5 5 1 の左右方向略中央まで延びている。この後壁部 5 5 3 b の右端には、右ユニット右拡散レンズ部材 5 5 6 の後壁部 5 5 6 b の左端が当接する。

【0 6 2 4】

複数の切欠部 5 5 3 c は、上下方向へ所定間隔で複数形成されており、一部が扉枠右サイド装飾基板 5 5 2 の中 L E D 5 5 2 c と対応している。扉枠右サイドユニット 5 5 0 に組立てた状態では、複数の切欠部 5 5 3 c から扉枠右サイド装飾基板 5 5 2 の中 L E D 5 5 2 c が前方に臨んでおり、複数の中 L E D 5 5 2 c によって右ユニット装飾レンズ部材 5 6 1 を良好に発光装飾させることができる。

【0 6 2 5】

収容凹部 5 5 3 d は、底面が平坦面に形成されており、外周の形状が右ユニット左装飾部材 5 5 4 の外形形状に略一致している。これにより、右ユニット左装飾部材 5 5 4 を収容することができる。

【0 6 2 6】

複数の入力レンズ部 5 5 3 e は、本体部 5 5 3 a の後端面から上下方向へ所定間隔で後方へ突出している。具体的には、右ユニット左拡散レンズ部材 5 5 3 を上下方向へ 6 等分した時の夫々の上下方向略中央に形成されている。入力レンズ部 5 5 3 e は、詳細な図示は省略するが、上下に延びた四角形が後方へ突出した直方体の部位と、その直方体の部位の後面から球面状に湾曲するように前方へ向かって窪んでいる部位と、を有している。これら入力レンズ部 5 5 3 e は、扉枠右サイドユニット 5 5 0 に組立てた状態で、扉枠右サイド装飾基板 5 5 2 の左 L E D 5 5 2 a の直前に夫々位置している。これにより、左 L E D 5 5 2 a からの光を、本体部 5 5 3 a 内で広く拡散されるように入力させることができる。

【0 6 2 7】

側面反射部 5 5 3 f は、上下方向に複数（六つ）備えられている。各側面反射部 5 5 3 f は、入力レンズ部 5 5 3 e を中心にした放射状に延びている線により周方向へ分割されている同心円弧状の複数の溝により形成されている。これら同心円弧状の複数の溝は、夫々の溝において、入力レンズ部 5 5 3 e に近い側の面が本体部 5 5 3 a の面に対して傾斜していると共に、入力レンズ部 5 5 3 e から遠い側の面が本体部 5 5 3 a の面に対して垂直に延びており、最深部が円弧状に形成されている。側面反射部 5 5 3 f は、入力レンズ部 5 5 3 e を中心とした半径方向に切断した時に断面形状が、溝と溝との間の山の部分が中心側へ向くような尖った三角形に形成されており、全体が鋸状に形成されている。また、側面反射部 5 5 3 f は、複数の同心円弧状の溝を周方向に分割している放射状の線を境に、溝の部分と山の部分とが周方向へ交互に配置されるように形成されている。

【0 6 2 8】

この右ユニット左拡散レンズ部材 5 5 3 は、扉枠右サイド装飾基板 5 5 2 の左 L E D 5 5 2 a から前方へ照射された光が、入力レンズ部 5 5 3 e の後面から右ユニット左拡散レンズ部材 5 5 3 の本体部 5 5 3 a 内へと入射される。この入力レンズ部 5 5 3 e の後端は、前方へ向かって湾曲状に窪んでいることから、その湾曲面により左 L E D 5 5 2 a からの光が広がるように屈折し、本体部 5 5 3 a 内において、各入力レンズ部 5 5 3 e を中心として前方へ向かって放射状に拡散することとなる。

【0 6 2 9】

本体部 5 5 3 a は、全体が前方へ向かうに従って正面視右方へ移動するように、扉枠右サイド装飾基板 5 5 2 の前面から垂直に延びている線に対して僅かに傾斜しているため、扉枠右サイド装飾基板 5 5 2 の前面に実装されている左 L E D 5 5 2 a から照射されて入

10

20

30

40

50

力レンズ部 5 5 3 e から本体部 5 5 3 a 内に入射された光が、本体部 5 5 3 a 内の平坦な左面に当ることとなる。しかしながら、左 L E D 5 5 2 a からの直接光は、本体部 5 5 3 a の左面に対する入射角度の関係で、本体部 5 5 3 a の左面から外部へ放射されることはなく、左面の内面で側面反射部 5 5 3 f 側へ反射することとなる。

【0630】

そして、入力レンズ部 5 5 3 e から本体部 5 5 3 a 内に前方へ向かって入射された光は、鋸状の側面反射部 5 5 3 f に当ることによって正面視左方へ反射し、本体部 5 5 3 a の左面から外方へ照射されることとなる。なお、本体部 5 5 3 a の右面（側面反射部 5 5 3 f）からも外方（正面視右方）へ光が照射されるが、本体部 5 5 3 a の右側に配置されている右ユニット左遮光部材 5 5 9 が白色の部材とされているため、右ユニット左遮光部材 5 5 9 の左面が明るく照らされることとなり、右ユニット左遮光部材 5 5 9 で反射した間接光が本体部 5 5 3 a を通って左方側へ照射されることとなる。従って、本体部 5 5 3 a の左面からは、本体部 5 5 3 a 内において側面反射部 5 5 3 f により左方へ反射された光と、側面反射部 5 5 3 f から右方へ照射されて右ユニット左遮光部材 5 5 9 の左面で左方へ反射して本体部 5 5 3 a を通過した光とが、左方へ照射されるため、本体部 5 5 3 a の左側に取付けられている右ユニット左装飾部材 5 5 4 を良好な明るさで発光装飾させることができる。

【0631】

また、側面反射部 5 5 3 f では、同心円状の複数の溝を放射状に延びた複数の線で分割した上で、分割線を境に同心円弧状の複数の溝を半径方向へずらして、同心円弧状の溝を周方向において交互に配置するようにしているため、本体部 5 5 3 a の左面から外方（左方）へ照射される光が、同心円状の縞模様の濃淡を有した光となるのを回避させることができ、より濃淡の均一な光を左方へ照射させることができる。これにより、本体部 5 5 3 a の左面の収容凹部 5 5 3 d に収容されている右ユニット左装飾部材 5 5 4 を、略均一に発光装飾させることができる。

【0632】

なお、右ユニット左拡散レンズ部材 5 5 3 は、透明な部材により形成されているため、本体部 5 5 3 a の正面視左側（収容凹部 5 5 3 d が形成されている側）から、反対側に形成されている側面反射部 5 5 3 f の複数の同心円弧状の溝と放射状に延びている線とからなる模様を視認することができる。従って、右ユニット左装飾部材 5 5 4 において、透明な部分を形成した場合、その透明な部分を通して右ユニット左拡散レンズ部材 5 5 3 の側面反射部 5 5 3 f の模様が視認できることとなり、右ユニット左装飾部材 5 5 4 における透明な部分を側面反射部 5 5 3 f によって装飾することができる。

【0633】

右ユニット左装飾部材 5 5 4 は、薄いシート状に形成されており、パチンコ機 1 のメーカーロゴや、遊技盤 5 において遊技者に提示する演出のコンセプトに沿ったロゴ、等の装飾が、透光性を有するように施されている。右ユニット左カバー 5 5 5 は、扉枠右サイドユニット 5 5 0 に組立てた状態で、右ユニット左装飾部材 5 5 4 の外面を保護している。

【0634】

右ユニット右拡散レンズ部材 5 5 6 は、右ユニット左拡散レンズ部材 5 5 3 とは略左右対称に形成されており、同じような構成を備えている。詳述すると、右ユニット右拡散レンズ部材 5 5 6 は、上下方向及び前後方向に延びた平板状の本体部 5 5 6 a と、本体部 5 5 6 a の後辺から正面視左方へ短く平板状に突出している後壁部 5 5 6 b と、後壁部 5 5 6 b の正面視左端側から右方へ四角形状に切欠かれており上下方向に所定間隔で複数形成されている切欠部 5 5 6 c と、本体部 5 5 6 a の正面視右面側において右ユニット右装飾部材 5 5 7 を収容可能に浅く窪んでいる収容凹部 5 5 6 d と、本体部 5 5 6 a の後端面から後方へ突出しており上下方向に複数備えられている入力レンズ部 5 5 6 e と、本体部 5 5 6 a の正面視左面側において各入力レンズ部 5 5 6 e が上下方向の中央となるように上下方向に複数配置されている側面反射部 5 5 6 f と、を備えている。

【0635】

右ユニット右拡散レンズ部材５５６の本体部５５６ａは、側面視の形状が、上下に延びた四角形の前端側の上隅がＣ面取り状に斜めに切欠かれていると共に、下辺が前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している形状に形成されており、右ユニット左拡散レンズ部材５５３の本体部５５３ａと外形が略同じ形状に形成されている。また、本体部５５６ａは、図１０１に示すように、後端側から前方へ向かうに従って、正面視左方へ移動するように全体が、扉枠右サイド装飾基板５５２の前面の垂直線に対して僅かに傾斜している。本体部５５６ａの前端は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠左サイドユニット５４０の前端よりも大きく前方へ突出している。

【０６３６】

後壁部５５６ｂは、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、その左端が、右ユニットベース５５１の左右方向略中央まで延びている。この後壁部５５６ｂの左端には、右ユニット左拡散レンズ部材５５３の後壁部５５３ｂの右端が当接する。

【０６３７】

複数の切欠部５５６ｃは、上下方向へ所定間隔で複数形成されており、一部が扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃと対応している。これら複数の切欠部５５６ｃは、右ユニット左拡散レンズ部材５５３の複数の切欠部５５３ｃと対応した位置に形成されている。従って、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態では、右ユニット左拡散レンズ部材５５３の切欠部５５３ｃと、右ユニット右拡散レンズ部材５５６の切欠部５５６ｃとで、前後に貫通している四角い開口部が形成され、その開口部から扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃが前方に臨み、複数の中ＬＥＤ５５２ｃによって右ユニット装飾レンズ部材５６１を良好に発光装飾させることができる。

【０６３８】

収容凹部５５６ｄは、底面が平坦面に形成されており、外周の形状が右ユニット右装飾部材５５７の外形形状に略一致している。これにより、右ユニット右装飾部材５５７を収容することができる。

【０６３９】

複数の入力レンズ部５５６ｅは、本体部５５６ａの後端面から上下方向へ所定間隔で後方へ突出している。具体的には、右ユニット右拡散レンズ部材５５６を上下方向へ６等分した時の夫々の上下方向略中央に形成されている。入力レンズ部５５６ｅは、詳細な図示は省略するが、上下に延びた四角形が後方へ突出した直方体の部位と、その直方体の部位の後面から球面状に湾曲するように前方へ向かって窪んでいる部位と、を有している。これら入力レンズ部５５６ｅは、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、扉枠右サイド装飾基板５５２の右ＬＥＤ５５２ｂの直前に夫々位置している。これにより、右ＬＥＤ５５２ｂからの光を、本体部５５６ａ内で広く拡散されるように入力させることができる。

【０６４０】

側面反射部５５６ｆは、上下方向に複数（六つ）備えられている。各側面反射部５５６ｆは、入力レンズ部５５６ｅを中心にした放射状に延びている線により周方向へ分割されている同心円弧状の複数の溝により形成されている。これら同心円弧状の複数の溝は、夫々の溝において、入力レンズ部５５６ｅに近い側の面が本体部５５６ａの面に対して傾斜していると共に、入力レンズ部５５６ｅから遠い側の面が本体部５５６ａの面に対して垂直に延びており、最深部が円弧状に形成されている。側面反射部５５６ｆは、入力レンズ部５５６ｅを中心とした半径方向に切断した時に断面形状が、溝と溝との間の山の部分が中心側へ向くような尖った三角形に形成されており、全体が鋸状に形成されている。また、側面反射部５５６ｆは、複数の同心円弧状の溝を周方向に分割している放射状の線を境に、溝の部分と山の部分とが周方向へ交互に配置されるように形成されている。

【０６４１】

この右ユニット右拡散レンズ部材５５６は、扉枠右サイド装飾基板５５２の右ＬＥＤ５５２ｂから前方へ照射された光が、入力レンズ部５５６ｅの後面から右ユニット右拡散レンズ部材５５６の本体部５５６ａ内へと入射される。この入力レンズ部５５６ｅの後端は

、前方へ向かって湾曲状に窪んでいることから、その湾曲面により右LED552bからの光が広がるように屈折し、本体部556a内において、各入力レンズ部556eを中心として前方へ向かって放射状に拡散することとなる。

【0642】

本体部556aは、全体が前方へ向かうに従って正面視左方へ移動するように、扉枠右サイド装飾基板552の前面から垂直に延びている線に対して僅かに傾斜しているため、扉枠右サイド装飾基板552の前面に実装されている右LED552bから照射されて入力レンズ部556eから本体部556a内に入射された光が、本体部556a内の平坦な右面に当ることとなる。しかしながら、右LED552bからの直接光は、本体部556aの右面に対する入射角度の関係で、本体部556aの左面から外部へ放射されることはなく、右面の内面で側面反射部556f側へ反射することとなる。

10

【0643】

そして、入力レンズ部556eから本体部556a内に前方へ向かって入射された光は、鋸状の側面反射部556fに当ることで正面視右方へ反射し、本体部556aの右面から外方へ照射されることとなる。なお、本体部556aの右面（側面反射部556f）からも外方（正面視左方）へ光が照射されるが、本体部556aの左側に配置されている右ユニット右遮光部材560が白色の部材とされているため、右ユニット右遮光部材560の右面が明るく照らされることとなり、右ユニット右遮光部材560で反射した間接光が本体部556aを通して右方側へ照射されることとなる。従って、本体部556aの右面からは、本体部556a内において側面反射部556fにより右方へ反射された光と、側面反射部556fから左方へ照射されて右ユニット右遮光部材560の右面で右方へ反射して本体部556aを通過した光とが、右方へ照射されるため、本体部556aの右側に取付けられている右ユニット右装飾部材557を良好な明るさで発光装飾させることができる。

20

【0644】

また、側面反射部556fでは、同心円状の複数の溝を放射状に延びた複数の線で分割した上で、分割線を境に同心円弧状の複数の溝を半径方向へずらして、同心円弧状の溝を周方向において交互に配置するようにしているため、本体部556aの右面から外方（右方）へ照射される光が、同心円状の縞模様の濃淡を有した光となるのを回避させることができ、より濃淡の均一な光を右方へ照射させることができる。これにより、本体部556aの右面の収容凹部556dに収容されている右ユニット右装飾部材557を、略均一に発光装飾させることができる。

30

【0645】

なお、右ユニット右拡散レンズ部材556は、透明な部材により形成されているため、本体部556aの正面視右側（収容凹部556dが形成されている側）から、反対側に形成されている側面反射部556fの複数の同心円弧状の溝と放射状に延びている線とからなる模様を視認することができる。従って、右ユニット右装飾部材557において、透明な部分を形成した場合、その透明な部分を通して右ユニット右拡散レンズ部材556の側面反射部556fの模様が視認できることとなり、右ユニット右装飾部材557における透明な部分を側面反射部556fによって装飾することができる。

40

【0646】

右ユニット右装飾部材557は、薄いシート状に形成されており、パチンコ機1のメーカーロゴや、遊技盤5において遊技者に提示する演出のコンセプトに沿ったロゴ、等の装飾が、透光性を有するように施されている。右ユニット右カバー558は、扉枠右サイドユニット550に組立てた状態で、右ユニット右装飾部材557の外面を保護している。右ユニット右装飾部材557及び右ユニット右カバー558は、右ユニット左装飾部材554及び右ユニット左カバー555とは、略左右対称に形成されている。また、右ユニット左装飾部材554と右ユニット右装飾部材557とに施される装飾は、同じ装飾であっても良いし、異なる装飾であっても良い。

【0647】

50

右ユニット左遮光部材 5 5 9 は、側面視の形状が右ユニット左拡散レンズ部材 5 5 3 及び右ユニット右拡散レンズ部材 5 5 6 の側面視の形状と、略同じ形状に形成されている。右ユニット左遮光部材 5 5 9 は、前方及び右方が開放された浅い箱状に形成されている。右ユニット左遮光部材 5 5 9 は、上下方向及び前後方向に延びた平板状の本体部 5 5 9 a と、本体部 5 5 9 a の後辺から正面視右方へ短く平板状に突出している後壁部 5 5 9 b と、後壁部 5 5 9 b の正面視右端側から左方へ四角形状に切欠かれており上下方向に所定間隔で複数形成されている切欠部 5 5 9 c と、本体部 5 5 9 a の右面から右方へ延出していると共に後壁部 5 5 9 b から本体部 5 5 9 a の前端まで延びている平板状の複数の補強部 5 5 9 d と、を備えている。

【0648】

10

右ユニット左遮光部材 5 5 9 の本体部 5 5 9 a は、側面視の形状が、上下に延びた四角形の前端側の上隅が C 面取り状に斜めに切欠かれており、下辺が前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している形状に形成されており、右ユニット左拡散レンズ部材 5 5 3 及び右ユニット右拡散レンズ部材 5 5 6 の本体部 5 5 3 a, 5 5 6 a と外形が略同じ形状に形成されている。

【0649】

後壁部 5 5 9 b は、扉枠右サイドユニット 5 5 0 に組立てた状態で、その左端が、右ユニットベース 5 5 1 の左右方向略中央よりも右側へ延出している。この後壁部 5 5 9 b の右端には、右ユニット右遮光部材 5 6 0 の左面が当接する。

【0650】

20

複数の切欠部 5 5 9 c は、上下方向へ所定間隔で複数形成されており、一部が扉枠右サイド装飾基板 5 5 2 の中 LED 5 5 2 c と対応している。これら複数の切欠部 5 5 9 c は、右ユニット左拡散レンズ部材 5 5 3 及び右ユニット右拡散レンズ部材 5 5 6 の複数の切欠部 5 5 3 c, 5 5 6 c と対応した位置に形成されている。従って、扉枠右サイドユニット 5 5 0 に組立てた状態では、複数の切欠部 5 5 9 c から扉枠右サイド装飾基板 5 5 2 の中 LED 5 5 2 c が前方に臨み、複数の中 LED 5 5 2 c によって右ユニット装飾レンズ部材 5 6 1 を良好に発光装飾させることができる。

【0651】

複数の補強部 5 5 9 d は、左右の幅と略同じ高さで上下方向に離間している一対の補強部 5 5 9 d を一組として、上下方向へ所定距離離間して三組備えられている。各組の補強部 5 5 9 d は、右ユニットカバー 5 6 3 に取付けられる飾り部材 5 6 4 の後方となる位置に夫々形成されている。これら複数の補強部 5 5 9 d によって、扉枠右サイドユニット 5 5 0 の全体の強度・剛性を高めている。

30

【0652】

右ユニット右遮光部材 5 6 0 は、側面視の形状が、上下に延びた四角形の前端側の上隅が C 面取り状に斜めに切欠かれており、下辺が前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している形状に形成されており、右ユニット左遮光部材 5 5 9 における本体部 5 5 9 a と略同じ形状に形成されている。右ユニット右遮光部材 5 6 0 は、扉枠右サイドユニット 5 5 0 に組立てた状態で、浅い箱状に形成されている右ユニット左遮光部材 5 5 9 の右方へ開放されている右側開口を閉鎖している。

40

【0653】

右ユニット左遮光部材 5 5 9 及び右ユニット右遮光部材 5 6 0 は、白色の部材によって夫々形成されている。右ユニット左遮光部材 5 5 9 及び右ユニット右遮光部材 5 6 0 は、図 101 に示すように、扉枠右サイドユニット 5 5 0 に組立てた状態で、夫々の本体部 5 5 9 a 及び右ユニット右遮光部材 5 6 0 が、右ユニット左拡散レンズ部材 5 5 3 及び右ユニット右拡散レンズ部材 5 5 6 の本体部 5 5 3 a, 5 5 6 a と近接するように配置されている。これにより、右ユニット左遮光部材 5 5 9 の本体部 5 5 9 a 及び右ユニット右遮光部材 5 6 0 同士が左右方向に離間しており、左右方向に所定幅で上下方向及び前後方向に延びた空間を形成している。この右ユニット左遮光部材 5 5 9 の本体部 5 5 9 a 及び右ユニット右遮光部材 5 6 0 同士の間に形成された空間を通して、扉枠右サイド装飾基板 5 5

50

2の中LED552cから前方へ放射された光が、右ユニット装飾レンズ部材561の後側に照射される。

【0654】

また、右ユニット左遮光部材559及び右ユニット右遮光部材560は、不透光性の部材によって形成されており、扉枠右サイド装飾基板552における左LED552a、中LED552c、右LED552bから夫々前方へ照射される光が、互いに干渉するのを防止しており、右ユニット左装飾部材554、右ユニット右装飾部材557、及び右ユニット装飾レンズ部材561を、夫々対応している左LED552a、右LED552b、及び中LED552cによってのみ発光装飾させることができる。

【0655】

更に、右ユニット左遮光部材559及び右ユニット右遮光部材560は、三組の補強部559dによって内部空間が上下方向へ四つに分割されているため、分割された夫々の空間の後側に配置されている扉枠右サイド装飾基板552の中LED552cによって、各空間同士の間で光が干渉しないようにすることができ、右ユニット装飾レンズ部材561の各空間の前方に位置している部位を、夫々独立して発光装飾させることができる。つまり、扉枠右サイドユニット550の前端側において、上下方向へ複数（四つ）の領域に分割して夫々を独立して発光装飾させることができる。

【0656】

右ユニット装飾レンズ部材561は、右ユニット左拡散レンズ部材553及び右ユニット右拡散レンズ部材556の前端形状に沿った形状に形成されている。右ユニット装飾レンズ部材561は、正面視において円形状に形成されている円形装飾部561aと、上下に延びており複数の多面体が形成されている多面装飾部561bと、を備えている。円形装飾部561aは、前面が窪み前後に短く延びた円柱状の部位の外周に三角形のリブを周方向に複数備えた形状に形成されている。多面装飾部561bは、上下に延びた直方体の前面に四角錐状の部位が上下方向に複数列設されていると共に、直方体の部位の左右両側に複数の三角形からなる多面体が上下方向に複数列設したような形状に形成されている。

【0657】

詳述すると、右ユニット装飾レンズ部材561は、複数の円形装飾部561a及び多面装飾部561bが、右ユニット左遮光部材559における三組の補強部559dによって四つに分割されている夫々の空間の前方に位置する部位において、上から三つの部位では、上下方向の中央に配置された円形装飾部561aの上下両側に一つずつ多面装飾部561bが配置され、最も下側の部位では、多面装飾部561bのみが配置されるように形成されている。

【0658】

右ユニット装飾レンズ部材561は、右ユニット左拡散レンズ部材553及び右ユニット右拡散レンズ部材556の前端に取付けられている。右ユニット装飾レンズ部材561は、透明な右ユニットカバー563を通して前方側（遊技者側）から視認することができる。この右ユニット装飾レンズ部材561は、後方に配置されている扉枠右サイド装飾基板552の中LED552cによって、発光装飾させられる。

【0659】

右ユニット装飾ベース562は、前後方向に貫通している筒枠状に形成されている。右ユニット装飾ベース562は、右ユニット左拡散レンズ部材553及び右ユニット右拡散レンズ部材556の前端及び上端の形状に沿った形状に形成されている。右ユニット装飾ベース562は、右ユニット左拡散レンズ部材553及び右ユニット右拡散レンズ部材556における前端付近の左右両外側と、右ユニット装飾レンズ部材561の左右両側を被覆可能に形成されている。扉枠右サイドユニット550に組立てた状態で、右ユニット装飾ベース562の前端よりも、右ユニット装飾レンズ部材561の前端が、僅かに前方へ突出している。この右ユニット装飾ベース562は、不透光性の部材によって形成されている。

【0660】

右ユニットカバー５６３は、右ユニット装飾ベース５６２の前端開口を閉鎖可能に形成されている。この右ユニットカバー５６３は、透明な部材によって形成されており、後側に配置されている右ユニット装飾レンズ部材５６１を前方側から視認することができる。

【０６６１】

飾り部材５６４は、上下に短く延びており、上下方向へ所定間隔で右ユニットカバー５６３の前面に取付けられている。飾り部材５６４は、不透光性の部材によって形成されている。三つの飾り部材５６４は、右ユニットカバー５６３（右ユニット装飾レンズ部材５６１）を上下方向へ四つに分割している。

【０６６２】

扉枠右サイドユニット５５０は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠左サイドユニット５４０よりも前方へ大きく板状に突出しており、皿ユニット３２０の上皿３２１前端よりも若干前方へ突出している。扉枠右サイドユニット５５０は、突出した左右両面側に備えられている右ユニット左装飾部材５５４及び右ユニット右装飾部材５５７と、前端に備えられている右ユニット装飾レンズ部材５６１と、を夫々独立して発光装飾させることができる。

10

【０６６３】

扉枠右サイドユニット５５０は、板状で前方へ大きく突出していることから、本パチンコ機１を遊技ホールの島設備に設置すると、扉枠右サイドユニット５５０が右側に隣接しているパチンコ機との間で仕切りのような作用効果を発揮することができる。これにより、本パチンコ機１で遊技する遊技者に対して、個室で遊技しているように錯覚させることができ、周りの他の遊技者に気兼ねすることなくリラックスした雰囲気で行わせることができる。

20

【０６６４】

また、扉枠右サイドユニット５５０は、前方へ大きく突出していることから、パチンコ機１が並んだ状態で設置される遊技ホールでは、本パチンコ機１の前方に位置していなくても、島設備に沿った横方向からでも視認することができる。従って、扉枠右サイドユニット５５０の左右両面側の右ユニット左装飾部材５５４や右ユニット右装飾部材５５７を発光装飾させると、本パチンコ機１の前方近辺に位置していなくても、遠くから本パチンコ機１の存在を知らせることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

30

【０６６５】

更に、扉枠右サイドユニット５５０において、本パチンコ機１で球詰りやエラー等の不具合が発生した時に、左右両面側の右ユニット左装飾部材５５４や右ユニット右装飾部材５５７、及び右ユニット装飾レンズ部材５６１等を特有な態様で発光装飾させるようにすることで、遊技ホールの係員に対して、不具合の発生を直ち知らせて認識させることができ、不具合に対して素早い対応ができるようになることから、遊技者の遊技の中断を早期に解決させることができ、遊技者が苛立ちを覚えて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０６６６】

40

〔３－７．扉枠トップユニット〕

扉枠３の扉枠トップユニット５７０について、主に図１０２乃至図１０５等を参照して詳細に説明する。図１０２（ａ）は扉枠における扉枠トップユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠トップユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠トップユニットを後ろから見た斜視図である。図１０３は扉枠トップユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１０４は扉枠トップユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１０５は、図１０２におけるＲ－Ｒ線で切断した断面図である。扉枠トップユニット５７０は、扉枠左サイドユニット５４０及び扉枠右サイドユニット５５０の上側で扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０の前面における貫通口１１１の上側に取付けられるものである。

50

【0667】

扉枠トップユニット570は、扉枠ベースユニット100の扉枠ベース110の前面における貫通口111の上側で左右方向の中央に取付けられる中央ベース571と、中央ベース571の左右両側に取付けられていると共に扉枠ベース110の前面に取付けられる一対のサイドベース572と、一対のサイドベース572の前面に夫々取付けられている一対の上部スピーカ573と、左右に延びていると共に左右方向中央が前方へ突出しており後方が開放されている箱状で一対の上部スピーカ573の前方位置で前後に夫々貫通している一対の開口部574a、及び一対の開口部574aよりも左右方向中央寄りの位置から中央付近まで夫々延びていると共に前後方向に夫々貫通しており上下に離間している複数（左右夫々三つ）のスリット574bを有しており中央ベース571及び一対のサイドベース572の前側に取付けられているユニット本体574と、一対の上部スピーカ573の前側に夫々配置されており一対の開口部574aを閉鎖するようにユニット本体574の後側に取付けられているパンチングメタルからなるスピーカカバー575と、を備えている。

10

【0668】

また、扉枠トップユニット570は、ユニット本体574の左右方向中央の前面に取付けられており透光性を有しているトップ中装飾部材576と、トップ中装飾部材576の後側に取付けられており前面に複数のLEDが実装されている扉枠トップ中装飾基板577と、ユニット本体574の前面に夫々取付けられており複数のスリット574bを夫々閉鎖していると共にトップ中装飾部材576の左右両端付近から開口部574aを跨いでユニット本体574の左右両端付近まで夫々延びている透明平板状の複数（左右夫々三つ）の導光部材578と、ユニット本体574の前面におけるトップ中装飾部材576の左右両側に夫々取付けられており複数（三つ）の導光部材578の前面を夫々覆っているトップ左装飾レンズ部材579及びトップ右装飾レンズ部材580と、トップ左装飾レンズ部材579及びトップ右装飾レンズ部材580の夫々の前方側からユニット本体574の前面に夫々取付けられておりトップ中装飾部材576の左右両側から開口部574aの中央側端部付近まで夫々延びているトップ中左装飾部材581及びトップ中右装飾部材582と、を備えている。

20

【0669】

更に、扉枠トップユニット570は、ユニット本体574における左右両側面の内側に夫々取付けられており複数（三つ）の導光部材578における左右方向外側端部と対面する部位にLEDが夫々実装されている扉枠トップ左装飾基板583及び扉枠トップ右装飾基板584と、ユニット本体574の後側における左右方向中央の左右両側に夫々形成されている複数（三つの）スリット574bが貫通している部位に夫々取付けられている一対の基板ベース585と、一対の基板ベース585の前面に夫々取付けられておりユニット本体574のスリット574bの後方となる位置に複数のLED586a、587aが実装されている扉枠トップ中左装飾基板586及び扉枠トップ中右装飾基板587と、扉枠トップ中左装飾基板586及び扉枠トップ中右装飾基板587の前側でユニット本体574の後側に夫々取付けられている一対の遮光部材588と、を備えている。

30

【0670】

また、扉枠トップユニット570は、ユニット本体574内で中央ベース571の前面に取付けられている扉枠トップユニット中継基板589と、扉枠トップユニット中継基板589の前面を覆うように中央ベース571に取付けられている中継基板カバー590と、ユニット本体574の上開口部574cを閉鎖するようにユニット本体574に取付けられている上カバー591と、ユニット本体574の下開口部574dを閉鎖するようにユニット本体574に取付けられている下カバー592と、を備えている。

40

【0671】

扉枠トップユニット570の中央ベース571は、正面視の形状が左右に延びた四角形に形成されている。中央ベース571は、後方へ開放された箱状に形成されており、前面に複数の凹凸を備えている。一対のサイドベース572は、中央ベース571の左右両端

50

に夫々取付けられる。一对の上部スピーカ 573 は、各サイドベース 572 の前面に夫々取付けられる。一对の上部スピーカ 573 は、扉枠トップユニット 570 に組立てた状態で、夫々の前面が、扉枠トップユニット 570 の左右方向中央に近い側が後方へ移動するように斜めに取付けられている。一对の上部スピーカ 573 は、広い周波数帯域で音を出力可能なフルレンジのコーン型スピーカである。

【0672】

ユニット本体 574 は、正面視の形状が、左右に延びた四角形の左右両端付近の下部が下方へ膨出したような形状に形成されている。換言すると、ユニット本体 574 は、正面視の形状が、左右に延びた四角形を、下端辺側から上方へ窄まった台形で切欠いたような形状に形成されている。ユニット本体 574 は、平面視の形状が、左右に延びた四角形と、その四角形の前端辺側における左右方向中央を中心にして全幅（左右方向の長さ）の約 $1/2$ の部位を底辺とする前方へ突出した台形と、その台形の前端辺を長辺として前方へ短く突出した四角形と、を組合せた形状に形成されている。従って、ユニット本体 574 は、前面における左右方向中央で前方へ突出した部位の両側が、ユニット本体 574 の左右方向の端部と、前方へ突出した部位の前端の左右方向端部とを結んだ線よりも後方に位置している（窪んでいる）。

【0673】

ユニット本体 574 は、前面における左右方向両端から前方へ突出している部位よりも外側の位置までの部位に、夫々前後に貫通している開口部 574a が形成されている。また、ユニット本体 574 は、前面における前方へ台形に突出している部位の斜めに延びている部位に、上下方向に所定の高さで左右に延びていると共に前後方向に貫通している複数のスリット 574b が形成されている。複数のスリット 574b は、ユニット本体 574 の前面における前方へ斜めに延びている部位の前端付近から、開口部 574a 付近まで左右に延びている。また、複数のスリット 574b は、ユニット本体 574 の左右方向中央の両側に、夫々三つずつ上下に離間して形成されている。

【0674】

また、ユニット本体 574 は、上面における左右方向中央に後端から前方へ向かって四角く切欠かれた上開口部 574c と、下面における左右方向に後端から前方へ向かって切欠かれた下開口部 574d と、を備えている。ユニット本体 574 の上開口部 574c は、上カバー 591 によって閉鎖される。また、下開口部 574d は、下カバー 592 によって閉鎖される。

【0675】

また、ユニット本体 574 は、左右両端に上下に延びたトップ左装飾部 574e 及びトップ右装飾部 574f を備えている。トップ左装飾部 574e は、その前面が、開口部 574a の形成されている部位の前面と、前後方向が略同じ位置に形成されている。トップ右装飾部 574f は、その前面が、開口部 574a の形成されている部位の前面よりも前方へ位置するように形成されている。このユニット本体 574 は、不透光性の部材によって形成されている。

【0676】

トップ中装飾部材 576 は、ユニット本体 574 の前面における左右方向中央において前方へ突出している部位の前端に取付けられる。トップ中装飾部材 576 は、正面視の形状が、略正方形の下辺の左右方向中央部が下方へ位置するように折れ曲がった変五角形と、変五角形の左右の辺の上端から左右方向外側へ延出した辺の先端と辺五角形の左右の辺の下端とを結んだ略直角三角形と、を組合せたような形状に形成されている。トップ中装飾部材 576 は、前面の変五角形の部位が、下方へ向かうに従って後方へ移動するように傾斜している。このトップ中装飾部材 576 は、全体が立体的な形状に形成されており、透光性を有している。

【0677】

扉枠トップ中装飾基板 577 は、前面が、トップ中装飾部材 576 の変五角形の部位の前面と沿うように、下方へ向かうに従って後方へ移動するように傾斜した状態でトップ中

10

20

30

40

50

装飾部材 576 の後側に取り付けられる。扉枠トップ中装飾基板 577 は、前面に複数の LED が実装されており、それら LED を発光させることで、トップ中装飾部材 576 を発光装飾させることができる。

【0678】

導光部材 578 は、透明な部材によって形成されている。導光部材 578 は、ユニット本体 574 の前面における前方へ突出した部位の前端よりも左右両外側の形状に沿った形状に形成されている。ユニット本体 574 の左右方向両端部に近い側を端部側、中央に近い側を中央側として説明すると、導光部材 578 は、端部側から中央側へ向かって左右に真っすぐに延びた直部 578a と、直部 578a の中央側の端部側から中央側へ向かうに従って前方へ移動するように半径の大きい円弧状に延びた円弧部 578b と、で構成されている。導光部材 578 は、直部 578a では前後方向の奥行きが上下方向の高さよりも小さく形成されており、円弧部 578b では前後方向の奥行きが上下方向の高さよりも大きく形成されている。また、導光部材 578 は、直部 578a では上下方向の高さが一定に形成されており、円弧部 578b では上下方向の高さが中央側へ向かうに従って小さくなるように形成されている。導光部材 578 は、扉枠トップユニット 570 に組立てた状態で、直部 578a がユニット本体 574 の開口部 574a の直前に位置し、円弧部 578b がユニット本体 574 のスリット 574b を前方から閉鎖している。

【0679】

導光部材 578 は、直部 578a の後面に形成されている鋸状の凹凸からなる拡散反射部 578c と、円弧部 578b の後面側に形成されている複数の凹凸からなる拡散入力部 578d と、を備えている。

【0680】

導光部材 578 は、扉枠トップユニット 570 に組立てた状態で、左右方向両外側の端部が、扉枠トップ左装飾基板 583 又は扉枠トップ右装飾基板 584 の LED 583a, 584a と対面していると共に、拡散入力部 578d が扉枠トップ中左装飾基板 586 又は扉枠トップ中右装飾基板 587 の LED 586a, 587a と対面している。この導光部材 578 は、左右方向両外側の端部から、扉枠トップ左装飾基板 583 又は扉枠トップ右装飾基板 584 の LED 583a, 584a からの光が入射されると、その光が直部 578a 内を中央側へ進むと共に、直部 578a の後面に形成されている拡散反射部 578c により端部側から順次前方へ反射され、直部 578a の前面全体から光が前方へ照射される。導光部材 578 の前方にはトップ左装飾レンズ部材 579 又はトップ右装飾レンズ部材 580 が配置されており、それらのうちの直部 578a の前方となる部位が発光装飾させられる。

【0681】

また、導光部材 578 は、円弧部 578b の後面に形成されている拡散入力部 578d から、扉枠トップ中左装飾基板 586 又は扉枠トップ中右装飾基板 587 の LED 586a, 587a からの光が入射されると、その光が拡散入力部 578d の凹凸により円弧部 578b 内へ広く拡散され、円弧部 578b の前面全体から光が前方へ照射される。これにより、トップ左装飾レンズ部材 579 又はトップ右装飾レンズ部材 580 における円弧部 578b の前方に位置している部位を発光装飾させることができる。

【0682】

このように、導光部材 578 は、扉枠トップ左装飾基板 583 及び扉枠トップ中左装飾基板 586 の LED 583a, 586a、又は、扉枠トップ右装飾基板 584 及び扉枠トップ中右装飾基板 587 の LED 584a, 587a、からの光を導いて、前方に配置されているトップ左装飾レンズ部材 579 又はトップ右装飾レンズ部材 580 の全体を良好（均一）な状態で発光装飾させることができる。

【0683】

トップ左装飾レンズ部材 579 は、ユニット本体 574 の前面における左右方向中央より左側に配置される三つの導光部材 578 の前方を覆うように、ユニット本体 574 の前面に取り付けられる。トップ左装飾レンズ部材 579 は、三つの導光部材 578 を夫々独立

して前方から収容する三つの装飾レンズ部 579a を有している。トップ左装飾レンズ部材 579 の装飾レンズ部 579a は、導光部材 578 に倣った形状に形成されており、導光部材 578 の前面及び上下両面を被覆している。各装飾レンズ部 579a の前面には、前方へ突出した四角錐台の凹凸が左右に列設されている。

【0684】

トップ左装飾レンズ部材 579 は、扉枠トップユニット 570 におけるトップ中装飾部材 576 の左端から、ユニット本体 574 のトップ左装飾部 574e の右端まで延びている。つまり、トップ左装飾レンズ部材 579 は、扉枠トップユニット 570 におけるトップ中装飾部材 576 よりも左側の略全体を装飾している。このトップ左装飾レンズ部材 579 は、三つの導光部材 578 を介して扉枠トップ左装飾基板 583 及び扉枠トップ中左装飾基板 586 の LED 583a, 586a によって発光装飾させられる。

10

【0685】

トップ右装飾レンズ部材 580 は、ユニット本体 574 の前面における左右方向中央より右側に配置される三つの導光部材 578 の前方を覆うように、ユニット本体 574 の前面に取付けられる。トップ右装飾レンズ部材 580 は、三つの導光部材 578 を夫々独立して前方から収容する三つの装飾レンズ部 580a を有している。トップ右装飾レンズ部材 580 の装飾レンズ部 580a は、導光部材 578 に倣った形状に形成されており、導光部材 578 の前面及び上下両面を被覆している。各装飾レンズ部 580a の前面には、前方へ突出した四角錐台の凹凸が左右に列設されている。

20

【0686】

トップ右装飾レンズ部材 580 は、扉枠トップユニット 570 におけるトップ中装飾部材 576 の右端から、ユニット本体 574 のトップ右装飾部 574f の左端まで延びている。つまり、トップ右装飾レンズ部材 580 は、扉枠トップユニット 570 におけるトップ中装飾部材 576 よりも右側の略全体を装飾している。このトップ右装飾レンズ部材 580 は、三つの導光部材 578 を介して扉枠トップ右装飾基板 584 及び扉枠トップ中右装飾基板 587 の LED 584a, 587a によって発光装飾させられる。

【0687】

トップ中左装飾部材 581 は、ユニット本体 574 の前面における左側の開口部 574a とトップ中装飾部材 576 との間で、トップ左装飾レンズ部材 579 の前方からユニット本体 574 の前面に取付けられる。トップ中左装飾部材 581 は、扉枠トップユニット 570 に組立てた状態で、トップ左装飾レンズ部材 579 の三つの装飾レンズ部 579a の間を埋めるように取付けられており、前面の中央寄りがトップ左装飾レンズ部材 579 の前面よりも前方に突出している。このトップ中左装飾部材 581 は、不透光性の部材によって形成されている。

30

【0688】

トップ中右装飾部材 582 は、ユニット本体 574 の前面における右側の開口部 574a とトップ中装飾部材 576 との間で、トップ右装飾レンズ部材 580 の前方からユニット本体 574 の前面に取付けられる。トップ中右装飾部材 582 は、扉枠トップユニット 570 に組立てた状態で、トップ右装飾レンズ部材 580 の三つの装飾レンズ部 580a の間を埋めるように取付けられており、前面の中央寄りがトップ右装飾レンズ部材 580 の前面よりも前方に突出している。このトップ中右装飾部材 582 は、不透光性の部材によって形成されている。

40

【0689】

扉枠トップ左装飾基板 583 は、ユニット本体 574 内における左側面（トップ左装飾部 574e）の内側に、LED 583a が実装されている面を右方へ向けて取付けられている。扉枠トップ左装飾基板 583 は、ユニット本体 574 の左右方向中央より左側の前面に取付けられている三つの導光部材 578 の左端面と対向する位置に LED 583a が実装されている（図 105 を参照）。三つの LED 583a は、夫々独立して発光させることができる。扉枠トップ左装飾基板 583 の LED 583a により、三つの導光部材 578 の直部 578a を介して、トップ左装飾レンズ部材 579 におけるユニット本体 57

50

4の左側の開口部574aの前方に位置している部位を発光装飾させることができる。

【0690】

扉枠トップ右装飾基板584は、ユニット本体574内における右側面（トップ右装飾部574f）の内側に、LED584aが実装されている面を左方へ向けて取付けられている。扉枠トップ右装飾基板584は、ユニット本体574の左右方向中央より右側の前面に取付けられている三つの導光部材578の右端面と対向する位置にLED584aが実装されている（図105を参照）。三つのLED584aは、夫々独立して発光させることができる。扉枠トップ右装飾基板584のLED584aにより、三つの導光部材578の直部578aを介して、トップ右装飾レンズ部材580におけるユニット本体574の右側の開口部574aの前方に位置している部位を発光装飾させることができる。

10

【0691】

一対の基板ベース585は、ユニット本体574内における複数のスリット574bが形成されている部位の後側に取付けられるものである。一対の基板ベース585は、互いが略左右対称に形成されている。基板ベース585は、上下及び前後に延びた辺を有する側面視略正方形の側壁と、側壁の後辺から直角に左右方向外方へ延びた正面視四角形の後壁と、側壁の上辺の前端から側壁の上辺途中までを結んだ線を斜辺として側壁と後壁の上辺同士を結んでいる略直角三角形の上壁と、上壁とは反対側で側壁と後壁の下辺同士を結んでいる略直角三角形の下壁と、を備え、上下の斜辺同士の間が開放された三角柱状の箱状に形成されている。基板ベース585は、開放されている部位が、ユニット本体574によって閉鎖されるようにユニット本体574に取付けられる。この基板ベース585は、開放されている部位が閉鎖されるように、扉枠トップ中左装飾基板586又は扉枠トップ中右装飾基板587が取付けられる。

20

【0692】

扉枠トップ中左装飾基板586は、ユニット本体574における左右中央より左側の後側に取付けられる基板ベース585において、箱状の開放されている部位を前方から閉鎖するように、基板ベース585に取付けられる。扉枠トップ中左装飾基板586は、基板ベース585の前面に取付けられることで、前面が、ユニット本体574の左右方向中央側へ向かうに従って前方へ移動するように、左右に延びた面に対して傾斜した状態となる。これにより、扉枠トップ中左装飾基板586は、扉枠トップユニット570に組立てた状態で、その前面が、ユニット本体574の左右方向中央より左側の三つのスリット574bが形成されている部位の面と略平行な状態となる。

30

【0693】

扉枠トップ中左装飾基板586は、ユニット本体574の三つのスリット574bと対応している位置に、複数のLED586aが実装されている。これにより、扉枠トップ中左装飾基板586は、扉枠トップユニット570に組立てた状態で、ユニット本体574の中央より左側の三つのスリット574bから、複数のLED586aが前方に臨んだ状態となる。扉枠トップ中左装飾基板586は、複数のLED586aを発光させることで、導光部材578の円弧部578bを介して、トップ左装飾レンズ部材579のトップ中装飾部材576に近い部位を発光装飾させることができる。

【0694】

扉枠トップ中右装飾基板587は、ユニット本体574における左右中央より右側の後側に取付けられる基板ベース585において、箱状の開放されている部位を前方から閉鎖するように、基板ベース585に取付けられる。扉枠トップ中右装飾基板587は、基板ベース585の前面に取付けられることで、前面が、ユニット本体574の左右方向中央側へ向かうに従って前方へ移動するように、左右に延びた面に対して傾斜した状態となる。これにより、扉枠トップ中右装飾基板587は、扉枠トップユニット570に組立てた状態で、その前面が、ユニット本体574の左右方向中央より右側の三つのスリット574bが形成されている部位の面と略平行な状態となる。

40

【0695】

扉枠トップ中右装飾基板587は、ユニット本体574の三つのスリット574bと対

50

応している位置に、複数のLED587aが実装されている。これにより、扉枠トップ中右装飾基板587は、扉枠トップユニット570に組立てた状態で、ユニット本体574の中央より右側の三つのスリット574bから、複数のLED587aが前方に臨んだ状態となる。扉枠トップ中右装飾基板587は、複数のLED587aを発光させることで、導光部材578の円弧部578bを介して、トップ右装飾レンズ部材580のトップ中装飾部材576に近い部位を発光装飾させることができる。

【0696】

一对の遮光部材588は、扉枠トップ中左装飾基板586及び扉枠トップ中右装飾基板587とユニット本体574との間の位置で、ユニット本体574の前面後側に取付けられるものである。一对の遮光部材588は、不透光性の部材によって、互いが略左右対称に形成されている。遮光部材588は、ユニット本体574における三つのスリット574bと対応して列設されている扉枠トップ中左装飾基板586及び扉枠トップ中右装飾基板587の複数のLED586a, 587aの上下の間を仕切っている。この遮光部材588により、各導光部材578の直後に位置しているLED586a, 587aによってのみ、その導光部材578により光を前方へ誘導させることができ、トップ左装飾レンズ部材579及びトップ右装飾レンズ部材580の夫々の装飾レンズ部579a, 580aを夫々独立させた状態で良好に発光装飾させることができる。

【0697】

扉枠トップユニット中継基板589は、中央ベース571の前面に取付けられている。扉枠トップユニット中継基板589は、一对の上部スピーカ573、扉枠トップ中装飾基板577、扉枠トップ左装飾基板583、扉枠トップ右装飾基板584、扉枠トップ中左装飾基板586、及び扉枠トップ中右装飾基板587と、扉枠ベースユニット100の扉本体中継基板との接続を中継している。扉枠トップユニット中継基板589は、扉枠右サイドユニット550に備えられている図示しない接続ケーブルを介して、扉本体中継基板と接続されている。この扉枠トップユニット中継基板589は、前側が中継基板カバー590によって覆われている。

【0698】

この扉枠トップユニット570は、左右方向中央において前方へ突出したトップ中装飾部材576を備えていると共に、トップ中装飾部材576の左右両側の前面が後方へ挟められているように湾曲しているため、トップ中装飾部材576のみが前方へ大きく突出しているように遊技者を錯覚させることができ、遊技者の関心を本パチンコ機1に対して強く引付けさせることができる。

【0699】

また、扉枠トップユニット570は、中央に配置されているトップ中装飾部材576の左右両側を装飾しているトップ左装飾レンズ部材579及びトップ右装飾レンズ部材580を、トップ中装飾部材576の左右両側から、ユニット本体574の左右両端に形成されているトップ左装飾部574e及びトップ右装飾部574fまで延びるように形成している。これにより、扉枠トップユニット570によって、扉枠3の前面上部を全体的に装飾することができる。

【0700】

この際に、扉枠トップユニット570では、トップ左装飾レンズ部材579及びトップ右装飾レンズ部材580が配置されている左右方向両端付近の夫々の後方に、パンチングメタルからなるスピーカカバー575により前面が保護された上部スピーカ573を備え、トップ左装飾レンズ部材579及びトップ右装飾レンズ部材580の上下に離間している三つの装飾レンズ部579a, 580aの間からスピーカカバー575が前方へ臨むようにしているため、左右の上部スピーカ573から出力されるサウンドを、良好な状態で遊技者に聴かせることができ、良質なステレオサウンドを楽しむことができる。

【0701】

また、扉枠トップユニット570は、トップ左装飾レンズ部材579及びトップ右装飾レンズ部材580の後側に備えられた複数の導光部材578により、扉枠トップ左装飾基

板５８３、扉枠トップ右装飾基板５８４、扉枠トップ中左装飾基板５８６、及び扉枠トップ中右装飾基板５８７からの光を、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０に導くことができ、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の前面全体を良好に発光装飾させることができる。従って、扉枠トップユニット５７０は、左右の上部スピーカ５７３の前方を含む扉枠３の上部の前面全体を発光装飾させることができる。

【０７０２】

〔３－８．扉枠の作用効果〕

扉枠３の作用効果について説明する。本実施形態のパチンコ機１における扉枠３は、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１１０の前後に貫通している貫通口１１１を、従来のパチンコ機よりは上下及び左右方向へ大きくしており、貫通口１１１の拡大に合わせて、皿ユニット３２０及び扉枠トップユニット５７０の上下方向の高さを小さくしていると共に、扉枠左サイドユニット５４０及び扉枠右サイドユニット５５０の左右方向の幅を小さくしている。これにより、貫通口１１１（ガラスユニット１９０）を通して、本体枠４に取付けられた遊技盤５（遊技領域５ａ）の前面を、可及的に広く遊技者（前方）から見えるようにすることができ、遊技領域５ａの広い遊技盤５に対応している。

【０７０３】

扉枠３は、貫通口１１１の下側において、前方へ膨出している皿ユニット３２０の左右方向中央に大きな半球面状の操作ボタン４１０を有した演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）を備え、演出操作ユニット４００の左右両側における下半分（上皿３２１よりも下側の部分）の前面（皿前下装飾部３２６ｃの前面）を、後方へ挟めるように窪んだ形状（皿ユニット３２０の左右両端の前端と、演出操作ユニット４００の左右両端の前端とを結んだ直線よりも、演出操作ユニット４００の左右両側の前面が後方へ位置するように凹状に湾曲した形状）に形成されている。これにより、皿ユニット３２０の左右方向中央の前面に取付けられている演出操作ユニット４００が前方へ大きく突出しているように見えるため、遊技者に対して演出操作ユニット４００を目立たせて強調して見せることができ、演出操作ユニット４００に強く注目させることができる。

【０７０４】

扉枠３は、貫通口１１１よりも下側の皿ユニット３２０の前面に配置されている演出操作ユニット４００を、大きな半球面状の透明な操作ボタン４１０が、斜め上前方を向くように傾けた状態で取付けているため、本パチンコ機１の前で遊技者が着座すると、操作ボタン４１０が遊技者の頭部（顔）を向いた状態となり、遊技者が視線を落として演出操作ユニット４００を見ると、操作ボタン４１０が略正面に近い状態で見えることとなり、大きくて丸い操作ボタン４１０を強烈に視認させることができ、操作ボタン４１０を用いた演出に対して期待感を高めさせることができると共に、透明な操作ボタン４１０内に配置されている扉枠側演出表示装置４６０に表示される演出画像を良好な状態で視認させることができ、演出画像を十分に楽しませることができる。

【０７０５】

また、扉枠３は、皿ユニット３２０の全高と略同じ直径の大きくて前方へ丸く膨出した操作ボタン４１０を備えているため、操作ボタン４１０を操作する際に、短い距離の手の移動で操作ボタン４１０の何れかの部位に触れることができ、操作ボタン４１０の「早押し」を比較的容易に行うことができる。また、大径で前方へ丸く膨出した操作ボタン４１０を、傾けた状態で取付けているため、従来のパチンコ機の操作ボタンのように上から押圧操作することができるだけでなく、左方や右方、或いは、前方からでも良好に操作することができ、操作性の良い操作ボタン４１０によって操作ボタン４１０を用いた演出をより楽しませることができる。

【０７０６】

また、扉枠３は、皿ユニット３２０によって演出操作ユニット４００を、吊り下げたような状態で取付けていると共に、演出操作ユニット４００の下部に振動を発生させる振動モータ４２４を備えているため、遊技状態に応じて振動モータ４２４を回転させて振動を

10

20

30

40

50

発生させると、操作ボタン４１０の上部に触れている遊技者の手に対して、強い振動を伝達させることができ、遊技者を驚かせて操作ボタン４１０を用いた演出をより一層楽しませることができる。

【０７０７】

更に、扉枠３は、皿ユニット３２０の前面中央に、皿ユニット３２０の全高に亘る大きな操作ボタン４１０（演出操作ユニット４００）を備えていることから、従来のパチンコ機と比較して上皿３２１の下にある下皿３２２が目立ち難くなるため、従来のパチンコ機を見慣れた遊技者に対して、明らかに異なっていると認識させ易くことができ、遊技者の関心を強く引付けられる訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０７０８】

また、扉枠３は、皿ユニット３２０の前面における演出操作ユニット４００の左側に開口している下皿開口部３２６ｄに対して、下皿３２２を、演出操作ユニット４００の後側へ回り込むように形成しているため、下皿開口部３２６ｄの大きさに対して、下皿３２２の容積を大きくすることができ、下皿３２２での遊技球の貯留数を十分に確保することができる。また、下皿３２２の後部が演出操作ユニット４００の後側へ回り込んでいることから、遊技者が下皿３２２内に左手を入れたり、下皿開口部３２６ｄに左手の指を掛けたりした時に、指先が下皿３２２の後の壁に触れ難くなるため、遊技者に対して違和感を与え難くすることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができると共に、下皿開口部３２６ｄの大きさに比べて下皿３２２の容積が大きいことを触覚でも認識させることができる。

【０７０９】

更に、扉枠３は、上皿３２１からの遊技球が下皿３２２に放出される下皿球供給口３２３ｃと下皿３２２の遊技球を皿ユニット３２０の下方のドル箱等に抜くための下皿球抜き孔３２２ａとを、前後に直線状に配置すると共に、正面視において下皿開口部３２６ｄの右外側（演出操作ユニット４００のフレームユニット４１５の左端よりも右側）に配置している。つまり、下皿球供給口３２３ｃ及び下皿球抜き孔３２２ａを、演出操作ユニット４００、皿ユニットカバー３２６における演出操作ユニット取付部３２６ａ（下皿開口部３２６ｄの右外側）、下皿カバー３４０の前端側、等の後方に配置しているため、遊技者側から下皿球供給口３２３ｃや下皿球抜き孔３２２ａが見えず、皿ユニット３２０（パチンコ機１）の外観をスッキリさせることができ、パチンコ機１の見栄えを良くすることができる。

【０７１０】

また、扉枠３は、下皿３２２において、下皿球供給口３２３ｃの前方（真正面）の下方に下皿球抜き孔３２２ａを配置しているため、下皿球抜き孔３２２ａを開いた状態とすると、上皿３２１等から下皿３２２へ放出された遊技球が、下皿３２２に入ると直ぐに下皿球抜き孔３２２ａから下方のドル箱等へ排出されることとなる。この際に、遊技者側からは、下皿球供給口３２３ｃや下皿球抜き孔３２２ａが見えないため、上皿３２１等から下皿３２２を通してドル箱へ排出される遊技球の流れも見ることができない。これにより、遊技者に対して上皿３２１の遊技球や上皿３２１が満タンな状態で払出装置８３０から払出された遊技球等が、直接ドル箱へ排出されているように錯覚させることができるため、遊技球が下皿３２２を通る煩わしさを感じさせ難くすることができ、遊技者を遊技（遊技球の打込操作や演出画像等）に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。

【０７１１】

また、扉枠３は、下皿３２２において、下皿球供給口３２３ｃの前方左寄りの位置に下皿球抜き孔３２２ａを配置すると共に、下皿球抜き孔３２２ａよりも右側の下皿３２２の立上った壁部を下皿球抜き孔３２２ａの方向を向くように斜めに湾曲させているため、下皿球供給口３２３ｃから下皿３２２へ供給された遊技球を、直接的に下皿球抜き孔３２２ａへ誘導したり、右側の壁部に反射させて間接的に下皿球抜き孔３２２ａへ誘導したりすることができる。これにより、下皿球抜き孔３２２ａが開いたままの状態では、下皿球供給口３２３ｃから下皿３２２に供給された遊技球が、下皿３２２における下皿球抜き孔３

2 2 a よりも左側の領域（下皿第一領域 A 1）へ侵入することなく、下皿球抜き孔 3 2 2 a から下方へ排出させることができるため、下皿 3 2 2 内を流通する遊技球を遊技者に見せることなく下皿 3 2 2 の下方（ドル箱）へ遊技球を排出させることができ、上述と同様の作用効果を奏することができる。

【0712】

また、扉枠 3 は、下皿 3 2 2 が前方へ臨む皿ユニットカバー 3 2 6 の下皿開口部 3 2 6 d を、演出操作ユニット取付部 3 2 6 a（演出操作ユニット 4 0 0）と下スピーカ口 3 2 6 e との間に備えているため、遊技者が下皿開口部 3 2 6 d に手を掛けたり、下皿 3 2 2 に手を入れたりしても、下スピーカ口 3 2 6 e の前方が遊技者の手によって遮られることはないため、本体枠 4 の基板ユニット 9 0 0 におけるスピーカ 9 2 1 からのサウンドを、良好に前方へ出力させることができ、本パチンコ機 1 によるサウンドを楽しませることができる。また、遊技者が下皿 3 2 2 に手を入れたり近付いたりすると、下スピーカ口 3 2 6 e から前方へ出力されるスピーカ 9 2 1 からの重低音による振動を、遊技者に触覚的に感じさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

10

【0713】

また、扉枠 3 は、貫通口 1 1 1 の右側から板状で前方へ大きく突出している扉枠右サイドユニット 5 5 0 を備えていることから、本パチンコ機 1 を遊技ホールの島設備に設置すると、扉枠右サイドユニット 5 5 0 が右側に隣接しているパチンコ機との間で仕切りのような作用効果を発揮することができるため、本パチンコ機 1 で遊技する遊技者に対して、個室で遊技しているような感じに錯覚させることができ、周りの他の遊技者に気兼ねすることなくリラックスした雰囲気で行わせることができる。

20

【0714】

更に、扉枠 3 は、板状で前方へ大きく突出している扉枠右サイドユニット 5 5 0 の前端や左右両面を、発光装飾させることができるため、パチンコ機 1 が並んだ状態で設置される遊技ホール内において、本パチンコ機 1 の前方に位置していなくても、島設備に沿った横方向から等の遠くからでも本パチンコ機 1 の存在を知らせることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機 1 とすることができる。

【0715】

また、扉枠 3 は、貫通口 1 1 1 の上側の扉枠トップユニット 5 7 0 において、左右方向中央で前方へ突出しているトップ中装飾部材 5 7 6 を備えると共に、トップ中装飾部材 5 7 6 の左右両側の前面を、後方へ挟めるように窪んだ形状（扉枠トップユニット 5 7 0 の左右両端の前端と、トップ中装飾部材 5 7 6 の左右両端の前端とを結んだ直線よりも、扉枠トップユニット 5 7 0 におけるトップ中装飾部材 5 7 6 の左右両側の前面が後方へ位置するように凹状に湾曲した形状）に形成されている。これにより、扉枠トップユニット 5 7 0 のトップ中装飾部材 5 7 6 のみが前方へ大きく突出しているように見えるため、遊技者に対してトップ中装飾部材 5 7 6 を目立たせて強調して見せることができ、トップ中装飾部材 5 7 6 に強く注目させることができる。

30

【0716】

ところで、従来のパチンコ機における扉枠の上部には、左右に離間した一对の上部スピーカが備えられており二つの上部スピーカが目立っていた。これに対して、本実施形態の扉枠 3 は、貫通口 1 1 1 の上側に取付けられている扉枠トップユニット 5 7 0 において、左右両端にパンチングメタルからなるスピーカカバー 5 7 5 により前面が保護された一对の上部スピーカ 5 7 3 を備えた上で、中央のトップ中装飾部材 5 7 6 の左右両側からスピーカカバー 5 7 5 の前を通して左右方向両端まで延びたトップ左装飾レンズ部材 5 7 9 及びトップ右装飾レンズ部材 5 8 0 を備え、トップ左装飾レンズ部材 5 7 9 及びトップ右装飾レンズ部材 5 8 0 の前面全体を、発光装飾できるようにしている。これにより、扉枠 3 の前面上部を全体的に装飾することができるため、扉枠 3 の上部において、一对の上部スピーカ 5 7 3 が目立たなくなり、従来のパチンコ機とは明らかに異なる装飾が施されていることを一見して遊技者に認識させることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機 1 とすることができると共に、一对の上部スピーカ 5 7 3 により良質なステレオサウン

40

50

ドを遊技者に楽しませることができる。

【0717】

このように、本実施形態の扉枠3は、貫通口111より下側と上側において、皿ユニット320に取付けられている演出操作ユニット400と、扉枠トップユニット570のトップ中装飾部材576とが、夫々左右方向の中央で前方へ大きく突出しているため、左右方向中央を通る仮想線が目立つような上下において統一感のある装飾を遊技者に見せることができると共に、洗練された感じの装飾により他のパチンコ機よりも目立たせることができ、訴求力の高いパチンコ機1とすることができる。

【0718】

また、扉枠3は、左右方向の中央において上下に配置されている扉枠トップユニット570のトップ中装飾部材576と演出操作ユニット400とを、前方へ突出させているため、トップ中装飾部材576及び演出操作ユニット400を発光装飾させると、扉枠3の前面の左右方向中央で上下に延びたような発光ラインを遊技者に見せることができ、遊技者の視線を左右方向中央に配置された演出操作ユニット400の操作ボタン410等に誘導させることができる。

【0719】

[4. 本体枠の全体構成]

本実施形態のパチンコ機1における本体枠4について、図106乃至図109を参照して説明する。図106は本体枠を前から見た斜視図であり、図107は本体枠を後ろから見た斜視図である。また、図108は本体枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図109は本体枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。本実施形態の本体枠4は、図示するように、前方が開放された箱状に形成されており、内部に遊技盤5が着脱可能に収容される。この本体枠4は、正面左辺側前端の上下において、遊技ホールの島設備に取付けられる枠状の外枠2に開閉可能に取付けられると共に、開放された前面側が閉鎖されるように扉枠3が開閉可能に取付けられるものである。

【0720】

本実施形態の本体枠4は、一部が外枠2の枠内に挿入可能とされると共に遊技盤5の外周を支持可能とされた枠状の本体枠ベース600と、本体枠ベース600の正面視左側の上下両端に取付けられ外枠2の外枠側上ヒンジ部材60及び外枠側下ヒンジ部材70に夫々回転可能に取付けられると共に扉枠3の扉枠側上ヒンジ部材140及び扉枠側下ヒンジ部材150が夫々回転可能に取付けられる本体枠側上ヒンジ部材620及び本体枠側下ヒンジ部材640と、本体枠ベース600の正面視左側面に取付けられる補強フレーム660と、を備えている。

【0721】

また、本体枠4は、本体枠ベース600の前面下部に取付けられており遊技盤5の遊技領域5a内に遊技球を打込むための球発射装置680と、本体枠ベース600の正面視右側面に取付けられており外枠2と本体枠4、及び扉枠3と本体枠4の間を施錠する施錠ユニット700と、本体枠ベース600の正面視上辺及び左辺に沿って後側に取付けられており遊技者側へ遊技球を払出す逆L字状の払出ユニット800と、本体枠ベース600の後面下部に取付けられている基板ユニット900と、本体枠ベース600の後側に開閉可能に取付けられ本体枠ベース600に取付けられた遊技盤5の後側を覆う裏カバー980と、を備えている。

【0722】

[4-1. 本体枠ベース]

本実施形態における本体枠4の本体枠ベース600は、図106乃至図109に示すように、正面視の形状が上下に延びた長方形に形成されている。この本体枠ベース600は、上端よりやや下側の位置から全高の約3/4の高さの範囲で前後に貫通しており遊技盤5が前側から挿入される遊技盤挿入口601と、遊技盤挿入口601の下辺を形成しており遊技盤5が載置される遊技盤載置部602と、遊技盤載置部602の左右方向中央から上方へ突出しており遊技盤5の下端の左右及び後方への移動を規制する遊技盤規制部60

3と、を備えている。

【0723】

また、本体枠ベース600は、遊技盤載置部602の正面視右下側に形成されている球発射装置680を取付けるための発射装置取付部604と、発射装置取付部604の正面視右側で前後に貫通しており施錠ユニット700の鍵シリンダ710が挿通されるシリンダ挿通口605と、遊技盤載置部602の正面視左右中央から左寄り下側で前後に貫通しており基板ユニット900の扉枠用中継基板911を前方へ臨ませる接続用開口部606と、遊技盤載置部602の正面視左下側で前後に貫通しており基板ユニット900におけるスピーカユニット920を前方へ臨ませる円形状のスピーカ用開口部607と、を備えている。

10

【0724】

更に、本体枠ベース600は、遊技盤挿入口601の正面視右辺から後方へ板状に延出しており、右側面に施錠ユニット700が取付けられると共に、後端に裏カバー980が回動可能に取付けられる後方延出部608を備えている。また、本体枠4の本体枠ベース600は、後面における正面視左端の上下両端部付近に形成されており、本体枠側上ヒンジ部材620及び本体枠側下ヒンジ部材640を取付けるための上ヒンジ取付部609及び下ヒンジ取付部610を備えている。

【0725】

また、本体枠ベース600は、接続用開口部606を開閉可能に閉鎖する開口カバー615と、遊技盤載置部602の正面視左右中央より左側でやや下側の位置に回動可能に取付けられ、遊技盤挿入口601に挿通された遊技盤5の前方への移動を規制可能な遊技盤ロック部材616と、を備えている。

20

【0726】

[4-2. 本体枠側上ヒンジ部材及び本体枠側下ヒンジ部材]

本実施形態における本体枠4の本体枠側上ヒンジ部材620と本体枠側下ヒンジ部材640について、図106乃至図109を参照して説明する。この本体枠側上ヒンジ部材620及び本体枠側下ヒンジ部材640は、本体枠ベース600の上ヒンジ取付部609及び下ヒンジ取付部610に取付けられるものである。

【0727】

本体枠側上ヒンジ部材620は、水平に延びた平板状の板材の後部が下方へL字状に折り曲げられている上ヒンジ本体621と、上ヒンジ本体621の前端から上方へ円柱状に突出しており外枠側上ヒンジ部材60に軸支される本体枠上ヒンジピン622と、本体枠上ヒンジピン622の正面視左側で上ヒンジ本体621を貫通しており扉枠側上ヒンジ部材140を軸支するための扉枠用上ヒンジ孔623と、を備えている。本体枠側上ヒンジ部材620は、上ヒンジ本体621における下方へ折り曲げられた部位が、本体枠ベース600の上ヒンジ取付部609に取付けられる。

30

【0728】

本体枠側下ヒンジ部材640は、水平に延びた平板状の板材の後部が上方へL字状に折り曲げられている下ヒンジ第一本体641と、下ヒンジ第一本体641の前端で上下に貫通しており外枠2の外枠側下ヒンジ部材70に軸支される外枠用下ヒンジ孔（図示は省略）と、下ヒンジ第一本体641の上側に配置されており水平に延びた平板状の板材の後部が上方へL字状に折り曲げられている下ヒンジ第二本体643と、下ヒンジ第二本体643の前端で上下に貫通しており扉枠3の扉枠側下ヒンジ部材150を軸支するための扉枠用ヒンジ孔644と、下ヒンジ第二本体643の水平に延びている部位における扉枠用ヒンジ孔644よりも後側で左端から上方へ延出しており扉枠3の回動範囲を規制するための規制片645と、を備えている。

40

【0729】

下ヒンジ第二本体643は、水平に延びた部位が、下ヒンジ第一本体641の水平に延びた部位の上側に一定の間隔を開けた状態で、上方へ折り曲げられた部位が下ヒンジ第一本体641の上方へ折り曲げられた部位の前面に当接している。この本体枠側下ヒンジ部

50

材 6 4 0 は、下ヒンジ第一本体 6 4 1 及び下ヒンジ第二本体 6 4 3 の上方へ折り曲げられた部位が、本体枠ベース 6 0 0 の下ヒンジ取付部 6 1 0 に取付けられる。

【 0 7 3 0 】

[4 - 3 . 補強フレーム]

本実施形態における本体枠 4 の補強フレーム 6 6 0 について、図 1 0 6 乃至図 1 0 9 を参照して説明する。補強フレーム 6 6 0 は、本体枠ベース 6 0 0 の左側面に取付けられるものである。この補強フレーム 6 6 0 は、平面視の断面形状が、右側が開放されたコ字状に形成されており、一定の断面形状で上下に延びている。また、補強フレーム 6 6 0 には、前端から右方へ延びている部位の後側に、本体枠ベース 6 0 0 の遊技盤挿入口 6 0 1 に挿入された遊技盤 5 が前方及び上下に移動するのを規制する左位置決め部材 6 6 1 が、上下に離間して一組取付けられている。

10

【 0 7 3 1 】

この補強フレーム 6 6 0 によって本体枠ベース 6 0 0 のヒンジ側（正面視左側）を補強することができると共に、外枠 2 と本体枠 4 の間を通した左側からの本体枠 4 内（遊技盤 5）への不正な工具の差し込みを防止することができる。

【 0 7 3 2 】

[4 - 4 . 球発射装置]

本実施形態における本体枠 4 の球発射装置 6 8 0 について、図 1 0 6、図 1 0 8 及び図 1 0 9 を参照して説明する。球発射装置 6 8 0 は、皿ユニット 3 2 0 の上皿 3 2 1 に貯留されている遊技球を、本体枠 4 に取付けられた遊技盤 5 の遊技領域 5 a 内に打込むための装置である。この球発射装置 6 8 0 は、扉枠 3 の前面右下隅のハンドルユニット 3 0 0 のハンドル 3 0 2 の回動角度に応じて、遊技球の打込強さが変化する。

20

【 0 7 3 3 】

球発射装置 6 8 0 は、本体枠ベース 6 0 0 の発射装置取付部 6 0 4 に取付けられる平板状の発射ベース 6 8 1 と、発射ベース 6 8 1 の正面視右部の後面に取付けられており回転軸が発射ベース 6 8 1 を貫通して前方へ延出しているロータリーソレノイドからなる発射ソレノイド 6 8 2 と、発射ソレノイド 6 8 2 の回転軸に基端が取付けられている打球槌 6 8 3 と、打球槌 6 8 3 の先端付近から左斜め上方へ延出するように発射ベース 6 8 1 の前面に取付けられており遊技球が転動可能な発射レール 6 8 4 と、を備えている。

【 0 7 3 4 】

この球発射装置 6 8 0 は、扉枠 3 の球送りユニット 2 5 0 から遊技球が発射レール 6 8 4 の上面右端に供給されるようになっており、発射レール 6 8 4 の上面右端に遊技球が供給されている状態で、ハンドル 3 0 2 を回動操作すると、その回動操作角度に応じた強さで発射ソレノイド 6 8 2 が駆動して、打球槌 6 8 3 により遊技球を打球する。そして、打球槌 6 8 3 により打たれた遊技球は、発射レール 6 8 4 を通って遊技盤 5 の外レール 1 0 0 1 及び内レール 1 0 0 2 に案内されて遊技領域 5 a 内に打込まれる。

30

【 0 7 3 5 】

なお、遊技球の打込強さ等の関係で、打球した遊技球が遊技領域 5 a 内に到達しなかった場合は、発射レール 6 8 4 と遊技盤 5（外レール 1 0 0 1 及び内レール 1 0 0 2）との間から、下方のファールカバーユニット 2 7 0 のファール球受口 2 7 5 へ落下し、ファールカバーユニット 2 7 0 内を通して下皿 3 2 2 に排出される。

40

【 0 7 3 6 】

[4 - 5 . 施錠ユニット]

本実施形態における本体枠 4 の施錠ユニット 7 0 0 について、図 1 0 6 乃至図 1 0 9 を参照して説明する。本実施形態の施錠ユニット 7 0 0 は、本体枠 4 の本体枠ベース 6 0 0 に取付けられ、本体枠 4 と扉枠 3、本体枠 4 と外枠 2、との間を施錠することができる。施錠ユニット 7 0 0 は、本体枠ベース 6 0 0 の後方延出部 6 0 8 の右側面に取付けられ上下に延びているユニットベース 7 0 1 と、ユニットベース 7 0 1 から前方へ突出しており扉枠 3 と係止可能な複数の扉枠用鉤 7 0 2 と、ユニットベース 7 0 1 から後方へ突出しており外枠 2 と係止可能な複数の外枠用鉤 7 0 3 と、ユニットベース 7 0 1 の下部にから前

50

方に円柱状に突出していると共に、前端部から軸直角方向へ突起が突出しており、扉枠 3 の開閉シリンダユニット 2 1 0 の回転伝達部材 2 1 2 と係合することでシリンダ錠 2 1 1 の回転が伝達され、鍵の回転方向に応じて扉枠用鉤 7 0 2 又は外枠用鉤 7 0 3 の何れかの係止を開錠させる鍵シリンダ 7 1 0 と、を備えている。

【0737】

[4-6. 払出ユニット]

本実施形態における本体枠 4 の払出ユニット 8 0 0 について、図 1 1 0 乃至図 1 2 8 を参照して説明する。図 1 1 0 は払出ユニットを前から見た斜視図であり、図 1 1 1 は払出ユニットを後ろから見た斜視図である。また、図 1 1 2 は払出ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図 1 1 3 は払出ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。また、図 1 1 4 (a) は払出ユニットの球誘導ユニットを前から見た斜視図であり、(b) は球誘導ユニットを後ろから見た斜視図である。更に、図 1 1 5 は、球誘導ユニットの分解斜視図である。また、図 1 1 6 (a) は払出ユニットの払出装置を前から見た斜視図であり、(b) は払出装置を後ろから見た斜視図である。また、図 1 1 7 は払出装置を分解して前から見た分解斜視図であり、図 1 1 8 は払出装置を分解して後ろから見た分解斜視図である。更に、図 1 1 9 (a) は払出装置の正面図であり、(b) は (a) における S-S 線で切断した断面図である。また、図 1 2 0 (a) は払出装置において球抜き可動片により球抜き通路を閉鎖した状態を示す説明図であり、(b) は球抜き可動片により球抜き通路を開放した状態を示す説明図である。

【0738】

また、図 1 2 1 (a) は払出ユニットにおける上部満タン球経路ユニットを前から見た斜視図であり、(b) は上部満タン球経路ユニットを後ろから見た斜視図である。また、図 1 2 2 (a) は上部満タン球経路ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、(b) は上部満タン球経路ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。更に、図 1 2 3 (a) は払出ユニットにおける下部満タン球経路ユニットを前から見た斜視図であり、(b) は下部満タン球経路ユニットを後ろから見た斜視図である。また、図 1 2 4 は下部満タン球経路ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図 1 2 5 は下部満タン球経路ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。更に、図 1 2 6 (a) は下部満タン球経路ユニットにおいて誘導路開閉扉が閉じている状態を示す説明図であり、(b) は誘導路開閉扉が開いている状態を示す説明図である。また、図 1 2 7 は、扉枠のフェールカバーユニットと下部満タン球経路ユニットとの関係を示す説明図である。図 1 2 8 は、払出ユニットにおける遊技球の流れを示す説明図である。

【0739】

本実施形態の払出ユニット 8 0 0 は、図 1 1 0 及び図 1 1 1 等のように、本体枠ベース 6 0 0 の後側に取付けられる逆 L 字状の払出ユニットベース 8 0 1 と、払出ユニットベース 8 0 1 の上部に取付けられており上方へ開放された左右に延びた箱状で図示しない遊技ホールの島設備から供給される遊技球を貯留する球タンク 8 0 2 と、球タンク 8 0 2 の下側で払出ユニットベース 8 0 1 に取付けられており球タンク 8 0 2 内の遊技球を正面視左方向へ誘導する左右に延びたタンクレール 8 0 3 と、を備えている。タンクレール 8 0 3 内では、遊技球を左方へ誘導させながら、上方から揺動可能に垂下している球均し部材 8 0 4 (図 1 2 8 を参照) によって、前後二列に整列させる。

【0740】

また、払出ユニット 8 0 0 は、払出ユニットベース 8 0 1 における正面視左側上部の後面に取付けられタンクレール 8 0 3 からの遊技球を蛇行状に下方へ誘導する球誘導ユニット 8 2 0 と、球誘導ユニット 8 2 0 の下側で払出ユニットベース 8 0 1 から着脱可能に取付けられており球誘導ユニット 8 2 0 により誘導された遊技球を払出制御基板ボックス 9 5 0 に収容された払出制御基板 9 5 1 からの指示に基づいて一つずつ払出す払出装置 8 3 0 と、を備えている。タンクレール 8 0 3 から払出装置 8 3 0 までは、遊技球が二列で流通し、払出装置 8 3 0 からは、遊技球が一つずつ払出される。

【0741】

更に、払出ユニット８００は、払出ユニットベース８０１の後面に取付けられ払出装置８３０によって払出された遊技球を下方へ誘導すると共に皿ユニット３２０における上皿３２１での遊技球の貯留状態に応じて遊技球を通常放出口８５０ｄ又は満タン放出口８５０ｅの何れかから放出させる上部満タン球経路ユニット８５０と、払出ユニットベース８０１の下端に取付けられ上部満タン球経路ユニット８５０の通常放出口８５０ｄから放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠３の貫通球通路２７３へ誘導する通常誘導路８６１、満タン放出口８５０ｅから放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠３の満タン球受口２７４へ誘導する満タン誘導路８６２、及び通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口を本体枠４に対する扉枠３の開閉に応じて開閉する誘導路開閉扉８６３、を有した下部満タン球経路ユニット８６０と、を備えている。

10

【０７４２】

〔４－６ａ．球誘導ユニット〕

本実施形態における払出ユニット８００の球誘導ユニット８２０について、図１１４及び図１１５を参照して説明する。球誘導ユニット８２０は、上下に延びており後側が開放された箱状の前ケース８２１と、前ケース８２１の後側に取付けられており前側が開放された箱状の後ケース８２２と、前ケース８２１と後ケース８２２との間に取付けられており前ケース８２１と後ケース８２２と間を仕切る平板状の仕切板８２３と、仕切板８２３を貫通して前後両端が前ケース８２１及び後ケース８２２に取付けられている棒状の軸部材８２４と、軸部材８２４によって回動可能に取付けられており前ケース８２１内及び後ケース８２２内に夫々配置されている一对の可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６と、前ケース８２１内に取付けられており一对の可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６の回動位置を検知可能な球切れ検知センサ８２７と、を備えている。

20

【０７４３】

前ケース８２１は、右側面の上部において遊技球が通過可能に開口している球誘導入口８２１ａと、底面の左右方向中央よりも右寄りの位置で遊技球が通過可能に開口している球誘導出口８２１ｂと、球誘導入口８２１ａと球誘導出口８２１ｂとを連通しており遊技球が流通可能な誘導通路８２１ｃと、を備えている。誘導通路８２１ｃは、球誘導入口８２１ａから左端付近まで水平に対して小さい角度で低くなるように斜めに延びている導入部８２１ｄと、導入部８２１ｄから前ケース８２１の左辺に沿って高さの中央付近まで下方へ真っ直ぐ延びている検知部８２１ｅと、検知部８２１ｅから前ケース８２１の左右の幅で蛇行状に延びている蛇行部８２１ｆと、で構成されている。また、前ケース８２１は、誘導通路８２１ｃにおける検知部８２１ｅの正面視右側の壁に切欠部８２１ｇを備えている。

30

【０７４４】

後ケース８２２は、右側面の上部において遊技球が通過可能に開口している球誘導入口８２２ａと、底面の左右方向中央よりも右寄りの位置で遊技球が通過可能に開口している球誘導出口８２２ｂと、球誘導入口８２２ａと球誘導出口８２２ｂとを連通しており遊技球が流通可能な誘導通路８２２ｃと、を備えている。誘導通路８２２ｃは、球誘導入口８２２ａから左端付近まで水平に対して小さい角度で低くなるように斜めに延びている導入部８２２ｄと、導入部８２２ｄから後ケース８２２の左辺に沿って高さの中央付近まで下方へ真っ直ぐ延びている検知部８２２ｅと、検知部８２２ｅから後ケース８２２の左右の幅で蛇行状に延びている蛇行部８２２ｆと、で構成されている。また、後ケース８２２は、誘導通路８２２ｃにおける検知部８２２ｅの正面視右側の壁に切欠部８２２ｇを備えている。

40

【０７４５】

この後ケース８２２は、前ケース８２１に対して左右に略対称に形成されており、球誘導ユニット８２０に組立てた状態で、誘導通路８２１ｃと誘導通路８２２ｃとが前後に一致するように形成されている。

【０７４６】

軸部材８２４は、前ケース８２１及び後ケース８２２における切欠部８２１ｇ、８２２

50

gの上端の下側且つ誘導通路821c, 822cの外側の位置に前後の端部が取付けられている。

【0747】

可動片部材前825は、上下に延びた平板状の可動片825aと、可動片825aの右側の面の上端で前後に貫通しており軸部材824が挿通される軸孔825bと、可動片825aの上端から可動片825aの右面に対して直角に右方向へ延びている延出部825cと、延出部825cと可動片825aとを連結しており軸孔825bを中心に扇状に延びている連結部825dと、延出部825cの上部及び連結部825dの外周の中央付近から外方へ夫々突出しており前後に貫通している貫通孔を有した錘取付部825eと、延出部825cの右側先端から外方へ平板状に延出しており球切れ検知センサ827により
10 検知可能な検知片825fと、連結部825dの外周における可動片825aに近い位置から外方へ平板状に延出しているストッパ片825gと、を備えている。

【0748】

この可動片部材前825は、軸孔825bに軸部材824を通すと、その自重によって、連結部825dの外周から突出している錘取付部825eが、軸孔825bの直下に位置するように回動し、可動片825aが軸孔825bの部位から斜め下方へ延出した状態となる。従って、球誘導ユニット820を組立てた状態では、連結部825dが前ケース821の切欠部821gに挿通されて、可動片825aの下端が誘導通路821c内に突出した状態となると共に、ストッパ片825gが誘導通路821c（検知部821e）の外壁に当接した状態となる。このストッパ片825gが誘導通路821cの外壁に当接す
20 ることで、可動片825aの下端が、誘導通路821c内へ突出する方向（正面視左方向）へこれ以上回動するのが規制される。また、可動片部材前825は、可動片825aの下端を、誘導通路821cの壁に接近させる方向（正面視右方向）へ回動させると、可動片825aの左側の面が、誘導通路821cの内面と一致する。この状態では、可動片部材前825の検知片825fは、球切れ検知センサ827に対して非検知の状態となる。つまり、誘導通路821c内に遊技球がある時は、球切れ検知センサ827が非検知となる。

【0749】

可動片部材後826は、上下に延びた平板状の可動片826aと、可動片826aの右側の面の上端で前後に貫通しており軸部材824が挿通される軸孔826bと、可動片826aの上端から可動片826aの右面に対して直角に右方向へ延びている延出部826cと、延出部826cと可動片826aとを連結しており軸孔826bを中心に扇状に延びている連結部826dと、延出部826cの上部及び連結部826dの外周の中央付近から外方へ夫々突出しており前後に貫通している貫通孔を有した錘取付部826eと、延出部826cの右側先端から外方へ平板状に延出しており球切れ検知センサ827により
30 検知可能な検知片826fと、連結部826dの外周における可動片826aに近い位置から外方へ平板状に延出しているストッパ片826gと、を備えている。

【0750】

この可動片部材後826は、軸孔826bに軸部材824を通すと、その自重によって、連結部826dの外周から突出している錘取付部826eが、軸孔826bの直下に位置するように回動し、可動片826aが軸孔826bの部位から斜め下方へ延出した状態となる。従って、球誘導ユニット820を組立てた状態では、連結部826dが後ケース822の切欠部822gに挿通されて、可動片826aの下端が誘導通路822c内に突出した状態となると共に、ストッパ片826gが誘導通路822c（検知部822e）の外壁に当接した状態となる。このストッパ片826gが誘導通路822cの外壁に当接することで、可動片826aの下端が、誘導通路822c内へ突出する方向（正面視左方向）へこれ以上回動するのが規制される。また、可動片部材後826は、可動片826aの下端を、誘導通路822cの壁に接近させる方向（正面視右方向）へ回動させると、可動片826aの左側の面が、誘導通路822cの内面と一致する。この状態では、可動片部材後826の検知片826fは、球切れ検知センサ827に対して非検知の状態となる。
40
50

つまり、誘導通路 8 2 2 c 内に遊技球がある時は、球切れ検知センサ 8 2 7 が非検知となる。

【0751】

本実施形態の球誘導ユニット 8 2 0 は、タンクレール 8 0 3 によって複数の遊技球が前後に夫々一列で並ばされた状態で供給され、複数の遊技球が一列に並んだ状態で、前ケース 8 2 1 及び後ケース 8 2 2 によって、前後に二列の状態で下方の払出装 8 3 0 へ誘導することができる（図 1 2 8 を参照）。この際に、前ケース 8 2 1 と後ケース 8 2 2 とは仕切板 8 2 3 によって仕切られているため、夫々の誘導通路 8 2 1 c, 8 2 2 c を流通する遊技球が、互いに干渉し合うことはなく、良好に流通することができる。

【0752】

また、球誘導ユニット 8 2 0 の誘導通路 8 2 1 c, 8 2 2 c 内に遊技球が流通すると、遊技球が可動片部材前 8 2 5 及び可動片部材後 8 2 6 の可動片 8 2 5 a, 8 2 6 a に当接し、可動片 8 2 5 a, 8 2 6 a が誘導通路 8 2 1 c, 8 2 2 c の壁面と一致する方向へ可動片部材前 8 2 5 及び可動片部材後 8 2 6 が回転する。これにより、可動片部材前 8 2 5 及び可動片部材後 8 2 6 の検知片 8 2 5 f, 8 2 6 f が球切れ検知センサ 8 2 7 に対して非検知の状態となり、誘導通路 8 2 1 c, 8 2 2 c 内に遊技球があることが判る。

【0753】

そして、球誘導ユニット 8 2 0 の下流側の払出装 8 3 0 により遊技球の払出し等が行われると、誘導通路 8 2 1 c, 8 2 2 c 内の遊技球が下流へ流れることとなる。誘導通路 8 2 1 c, 8 2 2 c 内を遊技球が流れると、導入部 8 2 1 d, 8 2 2 d を流れる遊技球の勢いが強くなり、導入部 8 2 1 d, 8 2 2 d を流れた遊技球が、検知部 8 2 1 e, 8 2 2 e の上部で可動片 8 2 5 a, 8 2 6 a 側へ跳ね返り、可動片 8 2 5 a, 8 2 6 a に当接することとなる。この遊技球の当接により、可動片 8 2 5 a, 8 2 6 a が振動することとなるため、その振動により可動片 8 2 5 a, 8 2 6 a と誘導通路 8 2 1 c, 8 2 2 c の切欠部 8 2 1 g, 8 2 2 g との間に挟まれたり侵入したりした埃やゴミ等を除去することができ、自重等によって可動片 8 2 5 a, 8 2 6 a が良好に回転できるようになる。

【0754】

また、球誘導ユニット 8 2 0 は、各誘導通路 8 2 1 c, 8 2 2 c 内を流通する遊技球を夫々別々の可動片部材前 8 2 5 及び可動片部材後 8 2 6 によって検知するようにしていると共に、可動片部材前 8 2 5 及び可動片部材後 8 2 6 の夫々の検知片 8 2 5 f, 8 2 6 f を一つの球切れ検知センサ 8 2 7 で検知するようにしているため、何れかの誘導通路 8 2 1 c, 8 2 2 c 内の遊技球がなくなると、可動片部材前 8 2 5 又は可動片部材後 8 2 6 の可動片 8 2 5 a, 8 2 6 a が誘導通路 8 2 1 c, 8 2 2 c 内へ突出するように回転し、遊技球のなくなった側の検知片 8 2 5 f, 8 2 6 f が球切れ検知センサ 8 2 7 で検知される。従って、遊技球の球切れを早期に検知することができるため、速やかに遊技球を補充させることができ、遊技が中断する時間を可及的に短くすることで、遊技者の興趣の低下を抑制することができる。

【0755】

更に、可動片部材前 8 2 5 及び可動片部材後 8 2 6 の錘取付部 8 2 5 e, 8 2 6 e に、錘として金属ビスを掘り込んで取付けることで、可動片部材前 8 2 5 及び可動片部材後 8 2 6 と錘の重量とによって、可動片 8 2 5 a, 8 2 6 a の下端側を、誘導通路 8 2 1 c, 8 2 2 c 内に突出する方向へ回転させ易くすることができる。また、可動片 8 2 5 a, 8 2 6 a の上端を誘導通路 8 2 1 c, 8 2 2 c の外側で回転可能に取付けて、下端側が誘導通路 8 2 1 c, 8 2 2 c 内に突出するようにしているため、誘導通路 8 2 1 c, 8 2 2 c 内の埃やゴミ等が、可動片 8 2 5 a, 8 2 6 a の上端や下端に付着することがない。従って、可動片 8 2 5 a, 8 2 6 a が誘導通路 8 2 1 c, 8 2 2 c の壁側に回転しても、可動片 8 2 5 a, 8 2 6 a の下端と壁との間に埃やゴミ等が噛み込むことはないため、自重等によって良好に回転することができ、可動片 8 2 5 a, 8 2 6 a が回転しなくなるような不具合の発生を抑制することができる。

【0756】

このように、本実施形態の球誘導ユニット 820 は、自重によって下端側が遊技球の流通する誘導通路 821c, 822c 内へ突出する可動片部材前 825 及び可動片部材後 826 の可動片 825a, 826a において、遊技球と当接する面の反対側の錘取付部 825e, 826e に金属ビスからなる錘を取付けることで、可動片部材前 825 及び可動片部材後 826 の自重と錘の重量とによって、可動片 825a, 826a の下端側を誘導通路 821c, 822c 内に回動（突出）させ易くすることができる。また、可動片 825a, 826a の上端を誘導通路 821c, 822c の外側で回動可能に取付けて、下端側が誘導通路 821c, 822c 内に突出するようにしているため、誘導通路 821c, 822c 内の埃やゴミ等が、可動片 825a, 826a の上端や下端に付着することがない。従って、可動片 825a, 826a が誘導通路 821c, 822c の壁側に回動しても、可動片 825a, 826a の下端と壁との間に埃やゴミ等が噛み込むことはないため、自重等によって良好に回動することができ、可動片 825a, 826a（可動片部材前 825 及び可動片部材後 826）が回動しなくなるような不具合の発生を抑制することができる。

【0757】

また、錘としての金属ビスを、貫通孔とされた錘取付部 825e, 826e に掘り込んで取付けるため、可動片部材前 825 及び可動片部材後 826 が頻繁に回動しても、錘が可動片部材前 825 及び可動片部材後 826（錘取付部 825e, 826e）から外れることがなく、長期に亘って可動片部材前 825 及び可動片部材後 826 を良好な状態に維持することができる。また、錘取付部 825e, 826e に金属ビスを掘り込むだけで、可動片部材前 825 及び可動片部材後 826 に錘を容易に取付けることができるため、錘の取付けの手間を簡略化することができ、パチンコ機 1 の組立てに係るコストを低減させることができる。

【0758】

更に、誘導通路 821c, 822c 内において可動片 825a, 826a が内部に突出する部位よりも上流側に、可動片 825a, 826a へ向かって遊技球を誘導させる導入部 821d, 822d を備えていることから、誘導通路 821c, 822c 内を遊技球が流れることで、遊技球が可動片 825a, 826a に当接するため、遊技球の当接によって可動片 825a, 826a を振動させることができる。従って、可動片 825a, 826a の振動により、可動片 825a, 826a と誘導通路 821c, 822c の壁との間に挟まれたり侵入したりした埃やゴミ等を除去することができ、自重等によって可動片部材前 825 及び可動片部材後 826 が良好に回動するようにできる。

【0759】

従って、可動片部材前 825 及び可動片部材後 826 を良好に回動させることができるため、誘導通路 821c, 822c 内の遊技球の状態（有無）を確実に検知させることができ、遊技球の誤検知等による不具合の発生を抑制させることができる。また、払出装置 830 へ供給される遊技球が誘導通路 821c, 822c 内からなくなっても、可動片 825a, 826a を介して確実に誘導通路 821c, 822c 内の有無を検知することができるため、速やかに遊技球を補充させることができ、遊技が中断する時間を可及的に短くすることで、遊技者の興趣の低下を抑制することができる。

【0760】

[4-6b. 払出装置]

本実施形態における払出ユニット 800 の払出装置 830 について、図 116 乃至図 120 を参照して説明する。払出装置 830 は、後側が開放されている箱状で、上面における左右方向中央に遊技球が通過可能に開口している払出入口 831a、底面における正面視左端付近で遊技球が通過可能に開口している払出出口 831b、底面における正面視右端付近で遊技球が通過可能に開口している球抜き出口 831c、払出入口 831a と払出出口 831b とを連通しており遊技球が流通可能な払出通路 831d、及び払出通路 831d の途中から分岐して球抜き出口 831c と連通しており遊技球が流通可能な球抜き通路 831e、を有している前箱 831 と、前箱 831 の後側に取付けられており前側が開

放されている箱状で、上面における左右方向中央に遊技球が通過可能に開口している払出入口 8 3 2 a、底面における正面視左端付近で遊技球が通過可能に開口している払出出口 8 3 2 b、底面における正面視右端付近で遊技球が通過可能に開口している球抜き出口 8 3 2 c、払出入口 8 3 2 a と払出出口 8 3 2 b とを連通しており遊技球が流通可能な払出通路 8 3 2 d、及び払出通路 8 3 2 d の途中から分岐して球抜き出口 8 3 2 c と連通しており遊技球が流通可能な球抜き通路 8 3 2 e、を有している後箱 8 3 2、を備えている。

【0761】

また、払出装置 8 3 0 は、前箱 8 3 1 の前側に取付けられており後側が開放されている浅い箱状の前カバー 8 3 3 と、前箱 8 3 1 内に取付けられており回転軸が前箱 8 3 1 を貫通して前カバー 8 3 3 内に延出している払出モータ 8 3 4 と、払出モータ 8 3 4 の回転軸 10 に取付けられている駆動ギア 8 3 5 と、駆動ギア 8 3 5 と噛合しており前箱 8 3 1 と前カバー 8 3 3 とで回転可能に取付けられている平歯車状の中間ギア 8 3 6 と、中間ギア 8 3 6 と噛合している従動ギア 8 3 7 と、従動ギア 8 3 7 が回転可能に貫通しており前端が前カバー 8 3 3 に取付けられていると共に後端が前箱 8 3 1 を貫通して後箱 8 3 2 に取付けられている軸部材 8 3 8 と、軸部材 8 3 8 を貫通して回転可能に取付けられていると共に前箱 8 3 1 及び後箱 8 3 2 の払出通路 8 3 1 d、8 3 2 d 内に配置されており従動ギア 8 3 7 と一体回転する払出羽根 8 3 9 と、前箱 8 3 1 と後箱 8 3 2 との間に取付けられており払出羽根 8 3 9 の回転を検知する羽根回転検知センサ 8 4 0 と、を備えている。

【0762】

更に、払出装置 8 3 0 は、前箱 8 3 1 と後箱 8 3 2 の間に取付けられており前箱 8 3 1 20 の払出通路 8 3 1 d と後箱 8 3 2 の払出通路 8 3 2 d とを仕切る平板状の仕切板 8 4 1 と、前箱 8 3 1 と後箱 8 3 2 との間に取付けられており払出羽根 8 3 9 の回転により払出されて払出出口 8 3 1 b、8 3 2 b から放出される遊技球を検知する払出検知センサ 8 4 2 と、払出通路 8 3 1 d、8 3 2 d と球抜き通路 8 3 1 e、8 3 2 e とが分岐している部位で前箱 8 3 1 と後箱 8 3 2 とによって回動可能に取付けられており球抜き通路 8 3 1 e、8 3 2 e を閉鎖可能な球抜き可動片 8 4 3 と、前箱 8 3 1 及び後箱 8 3 2 の正面視右側面上部で上下にスライド可能に取付けられており球抜き可動片 8 4 3 を回動可能又は回動不能とする球抜きレバー 8 4 4 と、を備えている。

【0763】

前箱 8 3 1 の払出通路 8 3 1 d は、払出入口 8 3 1 a から球抜き出口 8 3 1 c へ向かう 30 ように正面視右下へ斜めに延び、前箱 8 3 1 の全高に対して上面から約 $1/3$ の高さのところで下方へ垂直に延びるように折れ曲がり、全高の中央付近で左方へ略水平に延びるように曲がった後に、前箱 8 3 1 の左右の幅に対して左端から約 $1/3$ のところで再び下方へ垂直に延びるように折れ曲がっており、前箱 8 3 1 の全高に対して底面から約 $1/4$ の高さのところで払出出口 8 3 1 b の直上へ位置するようにクランク状に折れ曲がって払出出口 8 3 1 b へ垂直に延びている。払出通路 8 3 1 d 内のクランク状に折れ曲がっている部位に払出羽根 8 3 9 が配置される。

【0764】

一方、球抜き通路 8 3 1 e は、払出通路 8 3 1 d において払出入口 8 3 1 a から右下へ 40 斜めに延びている部位を更に延長する形態で、前箱 8 3 1 の全高に対して上面から約 $1/3$ の高さから中央付近の高さまでの間で分岐している。

【0765】

また、前箱 8 3 1 は、払出通路 8 3 1 d 内の払出出口 8 3 1 b へ向かって垂直に延びている部位において下方へ向かうに従って後方へ突出している誘導柵 8 3 1 f と、正面視右側面の上部に形成されており球抜きレバー 8 4 4 を上下にスライド可能に取付けるためのレバー取付部 8 3 1 g と、を備えている。

【0766】

後箱 8 3 2 の払出通路 8 3 2 d は、払出入口 8 3 2 a から球抜き出口 8 3 2 c へ向かう 50 ように正面視右下へ斜めに延び、後箱 8 3 2 の全高に対して上面から約 $1/3$ の高さのところで下方へ垂直に延びるように折れ曲がり、全高の中央付近で左方へ略水平に延びるよ

うに曲がった後に、後箱 8 3 2 の左右の幅に対して左端から約 $1/3$ のところで再び下方へ垂直に延びるように折れ曲がっており、後箱 8 3 2 の全高に対して底面から約 $1/4$ の高さのところで払出出口 8 3 2 b の直上へ位置するようにクランク状に折れ曲がって払出出口 8 3 2 b へ垂直に延びている。払出通路 8 3 2 d 内のクランク状に折れ曲がっている部位に払出羽根 8 3 9 が配置される。

【0767】

一方、球抜き通路 8 3 2 e は、払出通路 8 3 2 d において払出入口 8 3 2 a から右下へ斜めに延びている部位を更に延長する形態で、後箱 8 3 2 の全高に対して上面から約 $1/3$ の高さから中央付近の高さまでの間で分岐している。

【0768】

また、後箱 8 3 2 は、払出通路 8 3 2 d 内の払出出口 8 3 2 b へ向かって垂直に延びている部位において下方へ向かうに従って前方へ突出している誘導柵 8 3 2 f と、正面視右側面の上部に形成されており球抜きレバー 8 4 4 を上下にスライド可能に取付けるためのレバー取付部 8 3 2 g と、を備えている。

【0769】

前箱 8 3 1 及び後箱 8 3 2 の払出通路 8 3 1 d, 8 3 2 d と球抜き通路 8 3 1 e, 8 3 2 e は、同じ形状に形成されている。払出通路 8 3 1 d, 8 3 2 d は、払出羽根 8 3 9 が配置されている部位の上流までが仕切板 8 4 1 によって仕切られている。また、誘導柵 8 3 1 f, 8 3 2 f と払出出口 8 3 1 b, 8 3 2 b との間に、払出検知センサ 8 4 2 が取付けられている。つまり、前箱 8 3 1 の払出通路 8 3 1 d を流通した遊技球と、後箱 8 3 2 の払出通路 8 3 2 d を流通した遊技球とは、夫々の誘導柵 8 3 1 f, 8 3 2 f によって前箱 8 3 1 と後箱 8 3 2 との前後の境界付近に寄せられて、一つの払出検知センサ 8 4 2 により検知される。

【0770】

従動ギア 8 3 7 は、中間ギア 8 3 6 と噛合する平歯車状のギア部 8 3 7 a と、ギア部 8 3 7 a の後面から周方向へ 60 度の角度の間隔で放射状に突出しており羽根回転検知センサ 8 4 0 によって検知可能な複数の検知片 8 3 7 b と、ギア部 8 3 7 a の中心から後方へ円筒状に突出していると共に後端の周面に凹凸が形成されており払出羽根 8 3 9 と連結可能な連結部 8 3 7 c と、を備えている。

【0771】

払出羽根 8 3 9 は、前後に円筒状に延びており軸部材 8 3 8 が挿通されるベース筒部 8 3 9 a と、ベース筒部 8 3 9 a の前端から周方向に一定間隔でベース筒部 8 3 9 a の軸直角方向へ突出している複数（三つ）の前羽根 8 3 9 b と、ベース筒部 8 3 9 a の後端から前羽根 8 3 9 b とは互い違いとなるように周方向に一定間隔でベース筒部 8 3 9 a の軸直角方向へ突出している複数（三つ）の後羽根 8 3 9 c と、ベース筒部 8 3 9 a の前端から前方へ筒状に突出していると共に前端の周面に従動ギア 8 3 7 の連結部 8 3 7 c と連結可能な凹凸が形成されている被連結部 8 3 9 d と、を備えている。

【0772】

払出羽根 8 3 9 の前羽根 8 3 9 b 及び後羽根 8 3 9 c は、周方向へ 120 度の角度の間隔で夫々三つずつ備えられており、互い違いとなるように、前羽根 8 3 9 b に対して後羽根 8 3 9 c が、周方向へ 60 度の角度でオフセットして外方へ延出している。本実施形態の払出羽根 8 3 9 は、三つの前羽根 8 3 9 b （後羽根 8 3 9 c ）同士の間が中心側へ窪んだ円弧によって結ばれており、その円弧の直径が遊技球の直径と同じか若干大きい。これにより、前羽根 8 3 9 b （後羽根 8 3 9 c ）同士の間には、遊技球が一つのみ収容することが可能な球収容部 8 3 9 e が形成されている。

【0773】

また、三つの前羽根 8 3 9 b 及び後羽根 8 3 9 c は、ベース筒部 8 3 9 a の軸を中心としたそれらの外周の直径 $D1$ が、遊技球の外径の $1 \sim 1.4$ 倍に形成されている。また、前羽根 8 3 9 b （後羽根 8 3 9 c ）同士の間円弧の部位（球収容部 8 3 9 e ）におけるベース筒部 8 3 9 a の軸に最も接近した部位までの、ベース筒部 8 3 9 a の軸を中心とし

10

20

30

40

50

た直径D 2は、遊技球の外径の約0.3～0.4倍に形成されている。つまり、前羽根839b及び後羽根839cの外周から球収容部839eの最も凹んだ部位までの深さ〔(直径D 1－直径D 2)／2〕が、遊技球の外径の0.1～0.4倍とされている。

【0774】

従って、前羽根839b(後羽根839c)同士の間、円弧の部位(球収容部839e)により、遊技球の外周の約3／10(1／4～1／3の間)を保持することができる。換言すると、遊技球の外径の約1／5(1／7～1／4)の深さを収容することができる。これにより、払出通路831d、832d内の遊技球を、速やかに前羽根839b(後羽根839c)同士の間(球収容部839e)に収容することができる。

【0775】

本実施形態の払出羽根839は、払出装置830を組立てた状態で、前羽根839bが前箱831の払出通路831d内に、後羽根839cが後箱832の払出通路832d内に位置し、夫々の払出通路831d、832d内の遊技球を、夫々払出すことができる。また、払出羽根839は、払出通路831d、832dにおいて、前箱831及び後箱832の全高の中央よりも下側でクランク状に折れ曲がっている部位に配置されている。詳しくは、払出通路831d、832dにおいて、前箱831及び後箱832の全高の中央付近から下方へ垂直に延びている部位の直下に、払出羽根839の回転中心が位置している。そして、払出通路831d、832dのクランク状に折れ曲がっている部位では、払出羽根839から遠い側の壁(内壁)が、払出羽根839の回転中心を中心とし、前羽根839b及び後羽根839cの外周から遊技球の外径よりも小さい距離Sだけ離れた円弧状に形成されている。なお、本実施形態では、距離Sが、遊技球の外径の0.7～0.9倍とされている。換言すると、球収容部839eの最も凹んだ部位から払出通路831d、832dの円弧状に形成されている部位までの距離が、遊技球の外径の1.03～1.1倍とされている。

【0776】

これにより、払出装置830は、払出羽根839上に流下してきた遊技球が、前羽根839b及び後羽根839cの外周に当接すると、払出通路831d、832dのクランク状に折れ曲がっている部位を通ることができず、払出出口831b、832bから下方へ放出されることはない。一方、遊技球が、球収容部839eに収容されると、払出羽根839の回転と共に移動し、払出通路831d、832dのクランク状に折れ曲がっている部位を通ることができ、払出出口831b、832bから下方へ放出される。

【0777】

また、払出装置830では、前羽根839b及び後羽根839cの直径D 1を、遊技球の外径の約1.2～1.4倍とすると共に、球収容部839eにより遊技球の外径の1／7～1／4の深さを収容するようにしているため、払出羽根839の外径を可及的に小さくしつつ、遊技球の収容にかかる時間を短くすることができる。これにより、払出羽根839を速く回転させても、球収容部839eに遊技球を収容させて、払出出口831b、832b側へ送ることができる。従って、従来よりも単位時間当りの遊技球の払出数を多くすることができ、遊技球の払出しにかかる時間を短縮することができる。

【0778】

球抜き可動片843は、上下及び前後に板状に延びており下部が折れ曲がって正面視く字状に形成されている本体部843aと、本体部843aの上端で前後に筒状に延びており両端が夫々前箱831及び後箱832に回動可能に取付けられる軸筒部843bと、本体部843aのく字状に折れ曲がっている外側面の上部から突出している突出部843cと、本体部843aのく字状に折れ曲がっている下部において前後に貫通している貫通孔からなる錘取付部843d(図120を参照)と、を備えている。

【0779】

球抜き可動片843は、払出装置830を組立てた状態では、本体部843aの下部が正面視斜め左下へ延びるような向きで、上端の軸筒部843bが、前箱831及び後箱832の払出通路831d、832dにおいて、払出入口831a、832aから正面視右

10

20

30

40

50

下へ斜めに延びている部位で、且つ、下方へ折れ曲がる部位よりもやや上側の正面視右側の壁の外側の位置で、回動可能に取付けられている。

【0780】

本実施形態の払出装置830は、通常の状態では、球抜きレバー844を下方へスライドさせた状態としており、球抜きレバー844の下部が球抜き可動片843の突出部843cに正面視右側から当接している。これにより、球抜き可動片843は、正面視反時計回りへの回動が規制されている（図120（a）を参照）。

【0781】

この通常の状態では、球抜き可動片843のく字状に折れ曲がっている本体部843aにおいて、曲がっている部位よりも上側が垂直に延びていると共に、曲がっている部位の下側が正面視斜め左下へ延びている。そして、本体部843aの下端は、払出通路831d、832dと球抜き通路831e、832eとが分岐している部位の近傍に位置している。従って、球抜き可動片843（本体部843a）によって、球抜き通路831e、832eを閉鎖していると共に、本体部843aの左側を向いた面が、払出通路831d、832dの一部の壁を形成している。

【0782】

本実施形態の球抜き可動片843は、通常の状態において、球抜き可動片843の重心が、軸筒部843bの中心を通る垂直線の正面視左側に位置するように形成されており、自重によって正面視反時計回りに回転させようとする力が作用しているが、球抜きレバー844によって反時計回りへの回動が規制されているため、通常の状態が維持される。

【0783】

通常の状態から、球抜きレバー844を上方へスライドさせると、球抜きレバー844の下部が、球抜き可動片843の突出部843cから離れ、球抜き可動片843の正面視反時計回りへの回動の規制が解除される。従って、球抜き可動片843は、重心が軸筒部843bの直下へ位置するように、自重によって反時計回りへ回動することとなる。なお、球抜き可動片843は、本体部843aの下部の右側側面が、前箱831及び後箱832の右側面を形成している部材の左面に当接するまで、反時計回りに回動することができる（図120（b）を参照）。これにより、球抜き通路831e、832eが開放された状態となり、払出入口831a、832aから進入した遊技球が、払出通路831d、832dの途中で、球抜き可動片843の本体部843aに当接して球抜き可動片843を正面視反時計回りへ回動させて球抜き通路831e、832eを開放し、開放された球抜き通路831e、832eを流通して球抜き出口831c、832cから下方へ放出されることとなる。

【0784】

本実施形態では、球抜き可動片843に錘取付部843dを備えているため、この錘取付部843dに金属ビスからなる錘を掘り込んで取付けることで、球抜きレバー844を上方へスライドさせて、正面視反時計回りへの回動の規制を解除した時に、球抜き可動片843の自重と錘の重量とによって、球抜き可動片843の下端を球抜き通路831e、832e内へ突出する方向へ（正面視反時計回りに）回動させ易くすることができる。

【0785】

また、球抜きレバー844を下方へスライドさせて球抜き通路831e、832eを閉鎖している通常の状態において、払出入口831a、832aから進入した遊技球が、球抜き可動片843の本体部843aに当接するようにしているため、遊技球の当接によって球抜き可動片843を振動させることができる。従って、球抜き可動片843の下端と球抜き通路831e、832eの内面との間に挟まれたり侵入したりした埃やゴミ等を、球抜き可動片843の振動によって除去することができ、埃やゴミ等を噛み込んで球抜き可動片843が回動できなくなるのを防止することができる。

【0786】

また、錘としての金属ビスを、貫通孔とされた錘取付部843dに掘り込んで取付けることができるため、球抜き可動片843が頻繁に回動しても、錘が球抜き可動片843（

10

20

30

40

50

錘取付部 8 4 3 d) から外れることがなく、長期に亘って球抜き可動片 8 4 3 を良好な状態に維持することができる。また、錘取付部 8 4 3 d に金属ビスを掘り込むだけで、球抜き可動片 8 4 3 に錘を容易に取付けることができるため、錘の取付けの手間を簡略化することができ、パチンコ機 1 の組立てに係るコストを低減させることができる。

【0787】

ところで、球抜き可動片 8 4 3 によって球抜き通路 8 3 1 e, 8 3 2 e を長期に亘って閉鎖していると、球抜き可動片 8 4 3 の回転軸に微細な埃が付着したり回転軸が錆びたりして、球抜き可動片 8 4 3 が回転し辛くなることがある。これに対して、本実施形態では、払出入口 8 3 1 a, 8 3 2 a から進入した遊技球が、球抜き可動片 8 4 3 の本体部 8 4 3 a に当接するようにしているため、球抜き可動片 8 4 3 により球抜き通路 8 3 1 e, 8 3 2 e を閉鎖している状態から、閉鎖を解除する球抜きレバー 8 4 4 を上方へスライドさせてロックを外した時に、遊技球が球抜き可動片 8 4 3 に当接することで、その当接の衝撃によって球抜き可動片 8 4 3 を回転させることができ、球抜き通路 8 3 1 e, 8 3 2 e を確実に開放させることができる。

【0788】

従って、球抜きレバー 8 4 4 を操作して球抜き通路 8 3 1 e, 8 3 2 e を開放させる際に、球抜き可動片 8 4 3 が良好に回転することができるため、遊技球の抜き取り作業を確実に行うことができ、メンテナンス等の際の作業性を良くすることができる。

【0789】

[4-6c. 上部満タン球経路ユニット]

本実施形態における払出ユニット 8 0 0 の上部満タン球経路ユニット 8 5 0 について、図 1 2 1 及び図 1 2 2 を参照して詳細に説明する。上部満タン球経路ユニット 8 5 0 は、払出ユニットベース 8 0 1 において、払出装置 8 3 0 の下側の位置に取付けられるものである。この上部満タン球経路ユニット 8 5 0 は、払出ユニットベース 8 0 1 に取付けられ後側が開放された箱状の上部満タンベース 8 5 1 と、上部満タンベース 8 5 1 の後側に取付けられており前側が開放された箱状の上部満タンカバー 8 5 2 と、上部満タンカバー 8 5 2 の後側に回転可能に取付けられており払出装置 8 3 0 を上方へ押圧可能な払出装置押圧部材 8 5 3 と、を備えている。

【0790】

また、上部満タン球経路ユニット 8 5 0 は、上面における正面視左右中央から左側の部位で遊技球が通過可能に上方へ開口している上部払出球受口 8 5 0 a と、上面における正面視左右中央から右側の部位で遊技球が通過可能に上方へ開口している上部球抜き入口 8 5 0 b と、上部満タンベース 8 5 1 と上部満タンカバー 8 5 2 との間に形成されており上部払出球受口 8 5 0 a に受けられた遊技球が流通する所定広さの上部球貯留通路 8 5 0 c と、上部球貯留通路 8 5 0 c の下端における上部払出球受口 8 5 0 a の直下の部位で下方へ開口している通常放出口 8 5 0 d と、上部球貯留通路 8 5 0 c の下端における通常放出口 8 5 0 d を除いた部位で下方へ開口している満タン放出口 8 5 0 e と、通常放出口 8 5 0 d と満タン放出口 8 5 0 e との間から上方へ突出しており上部球貯留通路 8 5 0 c 内の下部を左右に仕切っている仕切片 8 5 0 f と、を備えている。

【0791】

また、上部満タン球経路ユニット 8 5 0 は、上部球抜き入口 8 5 0 b から進入した遊技球を下方へ誘導する上部球抜き通路 8 5 0 g と、上部球抜き通路 8 5 0 g の下端で下方へ向かって開口している上部球抜き出口 8 5 0 h と、を備えている。この上部満タン球経路ユニット 8 5 0 は、正面視で左側から、通常放出口 8 5 0 d、満タン放出口 8 5 0 e、上部球抜き出口 8 5 0 h が順に並んで下方へ開口している。また、上部満タン球経路ユニット 8 5 0 は、上部満タンベース 8 5 1 の右端に裏カバー 9 8 0 を取付けるための裏カバー取付部 8 5 4 を備えている。

【0792】

この上部満タン球経路ユニット 8 5 0 は、払出ユニット 8 0 0 に組立てた状態で、上部払出球受口 8 5 0 a が、払出装置 8 3 0 の払出出口 8 3 1 b, 8 3 2 b の直下に位置して

いると共に、上部球抜き入口 8 5 0 b が、払出装置 8 3 0 の球抜き出口 8 3 1 c, 8 3 2 c の直下に位置している。また、上部満タン球経路ユニット 8 5 0 は、払出ユニット 8 0 0 に組立てた状態で、通常放出口 8 5 0 d、満タン放出口 8 5 0 e、及び上部球抜き出口 8 5 0 h は、下部満タン球経路ユニット 8 6 0 の通常誘導路 8 6 1、満タン誘導路 8 6 2、及び下部球抜き誘導路 8 6 5 の夫々後端開口の直上に夫々開口している（図 1 2 8 を参照）。

【0 7 9 3】

上部満タン球経路ユニット 8 5 0 は、払出装置 8 3 0 によって払出されて払出出口 8 3 1 b, 8 3 2 b から下方へ放出された遊技球が、上部払出球受口 8 5 0 a から上部球貯留通路 8 5 0 c 内へ進入する。上部球貯留通路 8 5 0 c の下端の通常放出口 8 5 0 d が閉鎖 10
されていない状態では、上部払出球受口 8 5 0 a から上部球貯留通路 8 5 0 c 内へ進入した遊技球が、上部払出球受口 8 5 0 a の直下に開口している通常放出口 8 5 0 d から放出される。

【0 7 9 4】

扉枠 3 の上皿 3 2 1 内が遊技球で満たされて遊技球を貯留させることができなくなり、更に、下部満タン球経路ユニット 8 6 0 の通常誘導路 8 6 1 内が遊技球で満たされると、通常放出口 8 5 0 d が閉鎖された状態となる。この状態で上部球貯留通路 8 5 0 c 内に遊技球が進入すると、通常放出口 8 5 0 d の上側に貯留される。そして、通常放出口 8 5 0 d の上側に貯留されている遊技球の量が、仕切片 8 5 0 f よりも高くなると、新たに上部球貯留通路 8 5 0 c 内に進入してきた遊技球は、仕切片 8 5 0 f を乗り越えて満タン放出口 8 5 0 e から下方へ放出されることとなり、下部満タン球経路ユニット 8 6 0 の満タン誘導路 8 6 2 を通って下皿 3 2 2 に送られることとなる。 20

【0 7 9 5】

このように、上部満タン球経路ユニット 8 5 0 は、払出装置 8 3 0 から払出された遊技球を、扉枠 3 における上皿 3 2 1 での遊技球の貯留量に応じて、自動的に上皿 3 2 1 から下皿 3 2 2 へ振分けることができる。

【0 7 9 6】

[4 - 6 d. 下部満タン球経路ユニット]

本実施形態における払出ユニット 8 0 0 の下部満タン球経路ユニット 8 6 0 について、図 1 2 3 乃至図 1 2 7 を参照して詳細に説明する。下部満タン球経路ユニット 8 6 0 は、払出ユニットベース 8 0 1 における上部満タン球経路ユニット 8 5 0 の下側に取付けられるものである。下部満タン球経路ユニット 8 6 0 は、上部満タン球経路ユニット 8 5 0 の通常放出口 8 5 0 d から放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠 3 の貫通球通路 2 7 3 へ誘導する通常誘導路 8 6 1 と、上部満タン球経路ユニット 8 5 0 の満タン放出口 8 5 0 e から放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠 3 の満タン球受口 2 7 4 へ誘導する満タン誘導路 8 6 2 と、通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の前端開口を本体枠 4 に対する扉枠 3 の開閉に応じて開閉する誘導路開閉扉 8 6 3 と、誘導路開閉扉 8 6 3 を通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の前端開口を閉鎖する方向へ付勢している閉鎖バネ 8 6 4 と、を備えている。 30

【0 7 9 7】

また、下部満タン球経路ユニット 8 6 0 は、上部満タン球経路ユニット 8 5 0 の上部球抜き出口 8 5 0 h から放出された遊技球を前方へ誘導し前後方向の中央右端から基板ユニット 9 0 0 の基板ユニットベース 9 1 0 上へ放出する下部球抜き誘導路 8 6 5 を、備えている。 40

【0 7 9 8】

下部満タン球経路ユニット 8 6 0 は、通常誘導路 8 6 1、満タン誘導路 8 6 2、及び下部球抜き誘導路 8 6 5 が、正面視において、左側から順に右側へ並んでいる。これら通常誘導路 8 6 1、満タン誘導路 8 6 2、及び下部球抜き誘導路 8 6 5 は、後端が上方へ向かって開口している。また、通常誘導路 8 6 1、及び満タン誘導路 8 6 2 は、左右に遊技球が複数並ぶ幅で、前端側が低くなるように本体枠 4 の前端付近まで前方へ延びている。更 50

に、満タン誘導路 8 6 2 は、通常誘導路 8 6 1 よりも低い位置で前方へ延びている。これら通常誘導路 8 6 1、満タン誘導路 8 6 2、及び下部球抜き誘導路 8 6 5 は、図示するように、上下に分割可能な上ケース 8 6 6 及び下ケース 8 6 7 によって形成されている。

【0799】

誘導路開閉扉 8 6 3 は、下ケース 8 6 7 の前端における通常誘導路 8 6 1 と満タン誘導路 8 6 2 との間の部位に、回動可能に取付けられており、閉鎖パネ 8 6 4 によって正面視時計回りの方向へ付勢されている。更に詳述すると、下部満タン球経路ユニット 8 6 0 の前端において、正面視で通常誘導路 8 6 1 の前端開口の右側に開口している満タン誘導路 8 6 2 は、通常誘導路 8 6 1 に対して一つの遊技球の高さ分低い位置に配置されている。そして、誘導路開閉扉 8 6 3 は、通常誘導路 8 6 1 の下側で、且つ、満タン誘導路 8 6 2 の左側の位置で、前後に延びた軸周りに対して回動可能に取付けられている。

10

【0800】

誘導路開閉扉 8 6 3 は、回転可能に取付けられる円盤状の基部 8 6 3 a と、基部 8 6 3 a から斜め左上側に平板状に延びており通常誘導路 8 6 1 の前端開口を閉鎖可能な第一扉板部 8 6 3 b と、基部 8 6 3 a から右側に平板状に延びており満タン誘導路 8 6 2 の前端開口を閉鎖可能な第二扉板部 8 6 3 c と、基部 8 6 3 a から斜め左下側に平板状に延びている延出部 8 6 3 d と、延出部 8 6 3 d の先端部前面から前方へ突出しており扉枠 3 におけるファールカバーユニット 2 7 0 の扉開閉当接部 2 8 1 と当接可能な作動突部 8 6 3 e と、を備えている。

【0801】

20

ここで、通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の前端開口を閉鎖するとは、開口を密閉する必要はなく、遊技球が通過不能となれば良いことである。作動突部 8 6 3 e は、正面視の形状が、基部 8 6 3 a を中心とした短い円弧状に形成されており、前端面が、反時計回りの方向の端部側へ近づくに従って前方へ突出するように傾斜している。

【0802】

誘導路開閉扉 8 6 3 は、閉鎖パネ 8 6 4 によって正面視時計回りの方向へ付勢されており、第二扉板部 8 6 3 c が、下ケース 8 6 7 の前端における満タン誘導路 8 6 2 の前端開口の下側から前方へ突出しているボス部 8 6 7 a に当接することで、時計回りの方向への回動が規制される。

【0803】

30

本実施形態の下部満タン球経路ユニット 8 6 0 は、パチンコ機 1 を組立てた状態で、前端が、扉枠 3 のファールカバーユニット 2 7 0 における貫通球通路 2 7 3、満タン球受口 2 7 4、及び扉開閉当接部 2 8 1 と対向する位置に取付けられている（図 1 2 7 を参照）。そして、誘導路開閉扉 8 6 3 は、本体枠 4 に対して扉枠 3 が開いている状態では、作動突部 8 6 3 e に何も当接していないため、誘導路開閉扉 8 6 3 は閉鎖パネ 8 6 4 の付勢力によって、正面視時計回りの方向へ回動させられ、第二扉板部 8 6 3 c が下ケース 8 6 7 のボス部 8 6 7 a に当接した状態で停止する。この状態では、第一扉板部 8 6 3 b と第二扉板部 8 6 3 c が、通常誘導路 8 6 1 と満タン誘導路 8 6 2 の前端開口の前面に位置しており、前端開口を閉鎖している（図 1 2 6 (a) を参照）。従って、この状態では、通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 内の遊技球が、前端開口から前方へ移動することができず、扉枠 3 を開けても、通常誘導路 8 6 1 や満タン誘導路 8 6 2 から遊技球がこぼれることはない。

40

【0804】

そして、本体枠 4 に対して扉枠 3 を閉じると、誘導路開閉扉 8 6 3 の作動突部 8 6 3 e の前端面に、扉枠 3 におけるファールカバーユニット 2 7 0 の扉開閉当接部 2 8 1 が当接し、作動突部 8 6 3 e の前端面の傾斜によって、閉鎖パネ 8 6 4 の付勢力に抗して誘導路開閉扉 8 6 3 を正面視反時計回りの方向へ回動させようとする力が作用する。これにより、通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の前端開口を閉鎖していた第一扉板部 8 6 3 b と第二扉板部 8 6 3 c が、前端開口から離れる方向へ回動し、通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の前端開口が開放された状態となる（図 1 2 6 (b) を参照）。この状

50

態では、図示するように、第一扉板部 8 6 3 b が通常誘導路 8 6 1 の前端開口の下側に、第二扉板部 8 6 3 c が満タン誘導路 8 6 2 の前端開口の上側に位置している。

【0805】

この通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の前端開口を開放させた状態では、本体枠 4 に対して扉枠 3 が完全に閉じられた状態となっており、通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の前端開口の前側に、扉枠 3 におけるファールカバーユニット 2 7 0 の貫通球通路 2 7 3 及び満タン球受口 2 7 4 が位置しており、通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 側から、貫通球通路 2 7 3 及び満タン球受口 2 7 4 側へ遊技球を受渡することができる。

【0806】

このように、通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の前端開口を上下方向に異ならせると共に、誘導路開閉扉 8 6 3 を回動させることで通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の前端開口を開閉させるようにしているため、誘導路開閉扉 8 6 3 の動作範囲を可及的に狭くすることができ、通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の開閉機構を小型化することができる。従って、相対的に他の部材のためのスペースを広くすることができ、パチンコ機 1 の内部空間をより有効活用することができる。

【0807】

本実施形態の払出ユニット 8 0 0 は、扉枠 3 の上皿 3 2 1 が遊技球で一杯になり、上皿 3 2 1 へ遊技球を放出することができなくなった状態で、払出装置 8 3 0 から更に多くの遊技球が払出されると、下部満タン球経路ユニット 8 6 0 の通常誘導路 8 6 1 内が遊技球で一杯になるまで遊技球を貯留することができる。そして、通常誘導路 8 6 1 が遊技球で一杯になった状態で払出装置 8 3 0 から更に遊技球が払出されると、上部満タン球経路ユニット 8 5 0 の上部球貯留通路 8 5 0 c 内において、遊技球が通常放出口 8 5 0 d よりも上側に留って仕切片 8 5 0 f を超えると、満タン放出口 8 5 0 e 側へ流通するようになり、満タン放出口 8 5 0 e から、下部満タン球経路ユニット 8 6 0 の満タン誘導路 8 6 2、ファールカバーユニット 2 7 0 を通って下皿 3 2 2 へ遊技球の払出しが自動的に切換えられる。その後、払出装置 8 3 0 から更に遊技球が払出されて、上皿 3 2 1 に加えて下皿 3 2 2 も遊技球で一杯になって下皿 3 2 2 へ遊技球を供給することができなくなると、ファールカバーユニット 2 7 0 の貯留通路 2 7 7 内に遊技球が貯留される。そして、貯留通路 2 7 7 内に遊技球が貯留されることで可動片 2 7 8 が回動して満タン検知センサ 2 7 9 により検知されると、上皿 3 2 1 及び下皿 3 2 2 が遊技球で満タンであることが報知されると共に、満タン検知センサ 2 7 9 による可動片 2 7 8 の検知が解除されるまで払出装置 8 3 0 による遊技球の払出しが一時的に停止される。

【0808】

なお、満タン検知センサ 2 7 9 による可動片 2 7 8 の検知に対する払出装置 8 3 0 による遊技球の払出しの停止を、例えば、ファールカバーユニット 2 7 0 の貯留通路 2 7 7 内に可動片 2 7 8 が検知されるまで遊技球が貯留されている状態で、その上流側の貯留通路 2 7 7、下部満タン球経路ユニット 8 6 0 の満タン誘導路 8 6 2、及び上部満タン球経路ユニット 8 5 0 の上部球貯留通路 8 5 0 c 内を満たすことが可能な数の遊技球が払出されると、払出装置 8 3 0 による遊技球の払出しを停止させるようにしても良い。これにより、従来のパチンコ機よりも多くの遊技球を貯留することができるため、大当り遊技中等の多くの遊技球が払出される遊技状態において、遊技球の払出しによって上皿 3 2 1 や下皿 3 2 2 が遊技球で一杯になることに対して気に掛ける必要を低減させることができ、遊技者を大当り遊技に専念させて楽しませることができる。

【0809】

[4-7. 基板ユニット]

本実施形態における本体枠 4 の基板ユニット 9 0 0 について、図 1 0 6 乃至図 1 0 9 を参照して説明する。本体枠 4 の基板ユニット 9 0 0 は、本体枠ベース 6 0 0 の後側に取付けられる基板ユニットベース 9 1 0 と、基板ユニットベース 9 1 0 の正面視左側で本体枠ベース 6 0 0 の後側に取付けられ内部に低音用のスピーカ 9 2 1 を有したスピーカユニッ

10

20

30

40

50

ト 9 2 0 と、基板ユニットベース 9 1 0 の後側で正面視右側に取付けられ内部に電源基板が収容されている電源基板ボックス 9 3 0 と、スピーカユニット 9 2 0 の後側に取付けられており内部にインターフェイス制御基板が収容されているインターフェイス制御基板ボックス 9 4 0 と、電源基板ボックス 9 3 0 及びインターフェイス制御基板ボックス 9 4 0 に跨って取付けられており内部に遊技球の払出しを制御する払出制御基板 9 5 1 が収容された払出制御基板ボックス 9 5 0 と、を備えている。

【0810】

基板ユニット 9 0 0 は、基板ユニットベース 9 1 0 の前面で、本体枠ベース 6 0 0 の接続用開口部 6 0 6 から前方へ臨むように取付けられている扉枠用中継基板 9 1 1 を備えている。この扉枠用中継基板 9 1 1 は、払出制御基板 9 5 1、主制御基板 1 3 1 0、及び周
10
辺制御基板 1 5 1 0 と、扉枠 3 の扉枠ベースユニット 1 0 0 に取付けられている扉本体中継基板との接続を中継するためのものである。払出制御基板ボックス 9 5 0 内に収容された払出制御基板 9 5 1 によって、払出装置 8 3 0 が制御されている。

【0811】

[5. 遊技盤の全体構成]

次に、パチンコ機 1 の遊技盤 5 の全体構成について、主に図 1 2 9 乃至図 1 3 8 を参照して詳細に説明する。図 1 2 9 は、遊技パネルのパネル板を不透明な状態とした遊技盤の正面図である。図 1 3 0 は図 1 2 9 の状態の遊技盤を右前から見た斜視図であり、図 1 3 1 は図 1 2 9 の状態の遊技盤を左前から見た斜視図であり、図 1 3 2 は遊技盤を後ろから見た斜視図である。また、図 1 3 3 は図 1 2 9 における T-T 線で切断した断面図であり
20
、図 1 3 4 は図 1 2 9 における U-U 線で切断した断面図である。更に、図 1 3 5 は、遊技盤における表ユニットを遊技領域内の前後方向の略中央で切断した正面図である。また、図 1 3 6 は、遊技パネルのパネル板を透明な状態とした遊技盤の正面図である。また、図 1 3 7 は遊技盤を主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図 1 3 8 は遊技盤を主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【0812】

遊技盤 5 は、遊技者がハンドルユニット 3 0 0 のハンドル 3 0 2 を操作することで遊技球が打込まれる遊技領域 5 a を有している。また、遊技盤 5 は、遊技領域 5 a の外周を区画し外形が正面視略四角形状とされた前構成部材 1 0 0 0 と、前構成部材 1 0 0 0 の後側に取付けられており遊技領域 5 a の後端を区画する板状の遊技パネル 1 1 0 0 と、遊技パ
30
ネル 1 1 0 0 の後側下部に取付けられている基板ホルダ 1 2 0 0 と、基板ホルダ 1 2 0 0 の後面に取付けられており遊技球を遊技領域 5 a 内へ打込むことで行われる遊技内容を制御する主制御基板 1 3 1 0 を有している主制御ユニット 1 3 0 0 と、を備えている。遊技パネル 1 1 0 0 の前面において遊技領域 5 a 内となる部位には、遊技球と当接する複数の障害釘が所定のゲージ配列で植設されている（図示は省略）。

【0813】

また、遊技盤 5 は、主制御基板 1 3 1 0 からの制御信号に基づいて遊技状況を表示し前構成部材 1 0 0 0 の左下隅に遊技者側へ視認可能に取付けられている機能表示ユニット 1 4 0 0 と、遊技パネル 1 1 0 0 の後側に取付けられている周辺制御ユニット 1 5 0 0 と、正面視において遊技領域 5 a の中央に配置されており所定の演出画像を表示可能な遊技盤
40
側演出表示装置 1 6 0 0 と、遊技パネル 1 1 0 0 の前面に取付けられる表ユニット 2 0 0 0 と、遊技パネル 1 1 0 0 の後面に取付けられる裏ユニット 3 0 0 0 と、を更に備えている。裏ユニット 3 0 0 0 の後面に遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 が取付けられていると共に、遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 の後面に周辺制御ユニット 1 5 0 0 が取付けられている。

【0814】

遊技パネル 1 1 0 0 は、外周が枠状の前構成部材 1 0 0 0 の内周よりもやや大きく形成されていると共に透明な平板状のパネル板 1 1 1 0 と、パネル板 1 1 1 0 の外周を保持しており前構成部材 1 0 0 0 の後側に取付けられると共に後面に裏ユニット 3 0 0 0 が取付けられる枠状のパネルホルダ 1 1 2 0 と、を備えている。
50

【0815】

表ユニット2000は、遊技領域5a内に打込まれた遊技球を受入可能に常時開口している複数の一般入賞口2001と、複数の一般入賞口2001とは遊技領域5a内の異なる位置で遊技球を受入可能に常時開口している第一始動口2002と、遊技領域5a内の所定位置に取付けられており遊技球の通過を検知するゲート部2003と、遊技球がゲート部2003を通過することにより抽選される普通抽選結果に応じて遊技球の受入れが可能となる第二始動口2004と、第一始動口2002又は第二始動口2004への遊技球の受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて何れかにおいて遊技球の受入れが可能となる第一大入賞口2005及び第二大入賞口2006と、を備えている。

10

【0816】

また、表ユニット2000は、遊技領域5a内の左右方向中央でアウト口1126の直上に取付けられており第一始動口2002を有している始動口ユニット2100と、始動口ユニット2100の正面視左方で内レール1002に沿うように取付けられており複数（ここでは三つ）の一般入賞口2001を有しているサイドユニット2200と、サイドユニット2200の正面視左端上方に取付けられているサイドスロープ2300と、遊技領域5a内の正面視右下隅となる始動口ユニット2100の正面視右方に取付けられており一つの一般入賞口2001、ゲート部2003、第二始動口2004、第一大入賞口2005、及び第二大入賞口2006を有しているアタッカユニット2400と、始動口ユニット2100及びサイドユニット2200よりも上方で、遊技領域5a内の正面視略中央やや上寄りに取付けられている枠状のセンター役物2500と、を備えている。

20

【0817】

裏ユニット3000は、パネルホルダ1120の後面に取付けられ前方が開放されている箱状で後壁に四角い開口部3010aを有している裏箱3010と、裏箱3010の後面に取付けられており遊技盤側演出表示装置1600を着脱可能に取付けるためのロック機構3020と、裏箱3010の後面で開口部3010aの下側に取付けられている演出駆動基板3031と、裏箱3010の後面で演出駆動基板3031の背面視右側に取付けられているパネル中継基板3032と、裏箱3010の後面でパネル中継基板3032の背面視右側に取付けられている左下中継基板3033と、裏箱3010の後面で演出駆動基板3031の背面視左側に取付けられている右下中継基板3034と、を備えている。

30

【0818】

更に、裏ユニット3000は、裏箱3010の前端で正面視左辺側と下辺側とにかけて取付けられている裏前飾りユニット3100と、裏箱3010内において開口部3010aを囲むように取付けられている裏中可動演出ユニット3200と、裏箱3010内において開口部3010aの左右両側に夫々取付けられている裏左可動演出ユニット3300及び裏右可動演出ユニット3400と、裏箱3010内において開口部3010aの上側に取付けられている裏上可動演出ユニット3500と、裏箱3010内において開口部3010aの下側に取付けられている裏下可動演出ユニット3700と、を備えている。

【0819】

[5-1. 前構成部材]

40

次に、前構成部材1000について、主に図139を参照して説明する。図139(a)は遊技盤における前構成部材と遊技パネルとを前から見た斜視図であり、(b)は(a)を後ろから見た斜視図である。前構成部材1000は、正面視の外形が略正方形とされ、内形が略円形状に前後方向へ貫通しており、内形の内周によって遊技領域5aの外周を区画している。この前構成部材1000は、正面視で左右方向中央から左寄りの下端から時計回りの周方向へ沿って円弧状に延び正面視左右方向中央上端を通り過ぎて右斜め上部まで延びた外レール1001と、外レール1001に略沿って前構成部材1000の内側に配置され正面視左右方向中央下部から正面視左斜め上部まで円弧状に延びた内レール1002と、内レール1002の下端の正面視右側で遊技領域5aの最も低くなった位置に形成されており後方へ向かって低くなるように傾斜しているアウト誘導部1003と、を

50

備えている。

【0820】

また、前構成部材1000は、アウト誘導部1003の正面視右端から前構成部材1000の右辺付近まで右端側が僅かに高くなるように直線状に傾斜している右下レール1004と、右下レール1004の右端から前構成部材1000の右辺に沿って外レール1001の上端の下側まで延びており上部が前構成部材1000の内側へ湾曲している右レール1005と、右レール1005の上端と外レール1001の上端とを繋いでおり外レール1001に沿って転動して来た遊技球が当接する衝止部1006と、を備えている。

【0821】

また、前構成部材1000は、内レール1002の上端に回動可能に軸支され、外レール1001との間を閉鎖するように内レール1002の上端から上方へ延出した閉鎖位置と正面視時計回りの方向へ回動して外レール1001との間を開放した開放位置との間でのみ回動可能とされると共に閉鎖位置側へ復帰するように図示しないバネによって付勢された逆流防止部材1007を、備えている。

10

【0822】

更に、前構成部材1000は、外レール1001及び内レール1002における下端から略垂直に延びた付近の部位の外側、アウト誘導部1003及び右下レール1004の下側、及び右レール1005の外側、の夫々の部位において、前端から後方へ窪んだ防犯凹部1008を備えている。この防犯凹部1008は、遊技盤5を本体枠4に取付けて、本体枠4に対して扉枠3を閉じた状態とすると、扉枠3における防犯カバー200の後方へ突出した後方突片202が挿入された状態となる。これにより、防犯カバー200と遊技盤5（前構成部材1000）との間が、防犯カバー200の後方突片202と前構成部材1000の防犯凹部1008とによって複雑に屈曲した状態となるため、遊技盤5の前面下方より防犯カバー200と前構成部材1000との間を通してピアノ線等の不正な工具を遊技領域5a内に侵入させようとしても、後方突片202や防犯凹部1008に阻まれることとなり、遊技領域5a内への不正な工具の侵入を阻止することができる。

20

【0823】

また、前構成部材1000は、図示は省略するが、内レール1002の後端から後方へ突出している複数の位置決め突起を備えている。これら位置決め突起は、遊技パネル1100におけるパネル板1110に形成されている内レール固定孔に挿入させることで、内レール1002をパネル板1110の前面に位置決め固定することができる。

30

【0824】

更に、前構成部材1000は、図示は省略するが、後面から後方へ突出している複数の取付ボスを備えている。複数の取付ボスは、遊技パネル1100におけるパネルホルダ1120の取付孔（図示は省略）に挿入されることで、パネルホルダ1120（遊技パネル1100）との間を位置決めすることができる。

【0825】

また、前構成部材1000は、正面視左下隅において下端から上方へ切欠かれている切欠部1011を備えている。この切欠部1011は、遊技パネル1100におけるパネルホルダ1120の切欠部1127と一致しており、遊技盤5を本体枠4に取付けた時に、これら切欠部1011、1127を貫通して下部満タン球経路ユニット860の通常誘導路861及び満タン誘導路862の前端開口が前方へ臨むようになっている。

40

【0826】

[5-2. 遊技パネル]

次に、遊技パネル1100について、主に図139を参照して説明する。遊技パネル1100は、外周が枠状の前構成部材1000の内周よりもやや大きく形成されていると共に透明な合成樹脂で形成されている平板状のパネル板1110と、パネル板1110の外周を保持しており前構成部材1000の後側に取付けられると共に後面に裏ユニット3000が取付けられる枠状のパネルホルダ1120と、を備えている。

【0827】

50

遊技パネル１１００のパネル板１１１０は、アクリル樹脂、ポリカーボネイト樹脂、ポリアリレート樹脂、メタクリル樹脂等の合成樹脂板や、ガラスや金属等の無機質板により形成されている。このパネル板１１１０の板厚は、パネルホルダ１１２０よりも薄く、障害釘を前面に植設したり表ユニット２０００を取付けたりしても十分に保持可能な必要最低限の厚さ（８～１０mm）とされている。なお、本例では、透明な合成樹脂板によってパネル板１１１０が形成されている。

【０８２８】

パネル板１１１０は、遊技領域５a内において最も低い位置となる部位に下端から上方へ窪んだアウト凹部１１１１が形成されている。また、パネル板１１１０には、前後に貫通しており表ユニット２０００を取付けるための開口部１１１２が複数形成されている。

10

【０８２９】

また、パネル板１１１０は、図示は省略するが、外周近傍に配置され前後方向に貫通する丸孔からなる複数の嵌合孔と、左下部の外周近傍に配置され前後方向に貫通し上下方向に延びる長孔と、を備えている。これら嵌合孔及び長孔は、遊技領域５aよりも外側に配置されており、パネルホルダ１１２０との位置決めを行うものである。また、パネル板１１１０は、上辺の両端と下辺の両端に、前側が窪んだ段状の係合段部が夫々備えられている。これら係合段部は、パネル板１１１０の板厚の略半分まで切欠いた形態とされると共に、嵌合孔及び長孔と同様に、遊技領域５aよりも外側に配置されており、パネル板１１１０をパネルホルダ１１２０へ係合固定するためのものである。

20

【０８３０】

また、パネル板１１１０は、図示は省略するが、所定位置に内レール固定孔が複数備えられている。この内レール固定孔に内レール１００２の後側から突出する位置決め突起（図示は省略）を嵌合固定させることで、内レール１００２を所定の位置に固定することができる。

【０８３１】

遊技パネル１１００のパネルホルダ１１２０は、パネル板１１１０を包含する大きさで外形が略四角形状とされ、パネル板１１１０よりも厚く（本例では、約２０mm）形成されている。パネルホルダ１１２０は、合成樹脂（例えば、熱可塑性合成樹脂）により形成されている。このパネルホルダ１１２０は、パネル板１１１０を着脱可能に保持し前面側から後方側に向かって凹んだ保持段部（図示は省略）と、保持段部の内側において略遊技領域５aと同等の大きさで前後方向に貫通する貫通口１１２２と、を備えている。

30

【０８３２】

パネルホルダ１１２０の保持段部は、前面からの深さがパネル板１１１０の厚さと略同じ深さとされており、保持段部内に保持されたパネル板１１１０の前面が、パネルホルダ１１２０の前面と略同一面となる。また、保持段部は、その前側内周面が、パネル板１１１０の外周面に対して所定量のクリアランスが形成される大きさに形成されている。このクリアランスにより、温度変化や経時変化により相対的にパネル板１１１０が伸縮しても、その伸縮を吸収できるようになっている。

【０８３３】

また、パネルホルダ１１２０は、図示は省略するが、保持段部に保持されるパネル板１１１０に形成されている嵌合孔及び長孔と対応する位置に配置され、保持段部の前面から前方に向かって延びており、パネル板１１１０の嵌合孔及び長孔に嵌合及び挿通可能な複数の突出ピンを備えている。これらの突出ピンをパネル板１１１０の嵌合孔及び長孔に嵌合及び挿通することで、パネルホルダ１１２０とパネル板１１１０とを互いに位置決めすることができる。

40

【０８３４】

更に、パネルホルダ１１２０は、図示は省略するが、パネル板１１１０の係合段部と対応する位置に、係合段部と係合する係合爪及び係合片を備えている。詳述すると、係合爪は、パネルホルダ１１２０の保持段部の上部に配置されており、パネル板１１１０における上側の係合段部と対応し、保持段部の前面から前方に向かって突出し、係合段部と弾性

50

係合するようになっている。この係合爪は、先端がパネルホルダ 1 1 2 0 の前面から突出しない大きさとされている。

【0835】

パネルホルダ 1 1 2 0 の係合片は、パネルホルダ 1 1 2 0 の保持段部の下部に配置され、パネル板 1 1 1 0 における下側の係合段部と対応している。この係合片は、保持段部の前面との間にパネル板 1 1 1 0 の係合段部が挿入可能な大きさの隙間を形成した状態で、パネルホルダの前面に沿って上側（中心側）に向かって所定量延びている。これら係合爪及び係合片にパネル板 1 1 1 0 の係合段部を係合させることで、パネル板 1 1 1 0 がパネルホルダ 1 1 2 0 に対して着脱可能に保持される。

【0836】

また、パネルホルダ 1 1 2 0 は、遊技領域 5 a 内において最も低い位置となる部位に前後に貫通しているアウト口 1 1 2 6 を備えている。パネルホルダ 1 1 2 0 は、アウト口 1 1 2 6 の後面下側が、アウト口 1 1 2 6 と同じ幅で下端まで前方へ窪んでいる。

【0837】

更に、パネルホルダ 1 1 2 0 は、正面視左下隅において下端から上方へ切欠かれている切欠部 1 1 2 7 を備えている。この切欠部 1 1 2 7 は、前構成部材 1 0 0 0 の切欠部 1 0 1 1 と一致しており、遊技盤 5 を本体枠 4 に取付けた時に、これら切欠部 1 0 1 1、1 1 2 7 を貫通して下部満タン球経路ユニット 8 6 0 の通常誘導路 8 6 1 及び満タン誘導路 8 6 2 の前端開口が前方へ臨むようになっている。

【0838】

また、パネルホルダ 1 1 2 0 は、図示は省略するが、前構成部材 1 0 0 0 における複数の取付ボス（図示は省略）と対応している位置に、前後に貫通した複数の取付孔を備えている。これら複数の取付孔に、前構成部材 1 0 0 0 の取付ボスを挿入することで、パネルホルダ 1 1 2 0 を前構成部材 1 0 0 0 の後側に取付けることができると共に、前構成部材 1 0 0 0 との間でパネルホルダ 1 1 2 0（遊技パネル 1 1 0 0）を位置決めすることができる。

【0839】

また、パネルホルダ 1 1 2 0 は、切欠部 1 1 2 7 の上側で前後方向に貫通している四角い挿通孔 1 1 2 9 を備えている。この挿通孔 1 1 2 9 は、機能表示ユニット 1 4 0 0 の後端が挿通される。

【0840】

遊技パネル 1 1 0 0 は、前構成部材 1 0 0 0 の後側に取付けた状態では、前構成部材 1 0 0 0 のアウト誘導部 1 0 0 3 の後側にパネルホルダ 1 1 2 0 のアウト口 1 1 2 6 が開口した状態となる。これにより、遊技領域 5 a の下端へ流下した遊技球が、アウト誘導部 1 0 0 3 によって後側のアウト口 1 1 2 6 へ誘導され、アウト口 1 1 2 6 を通って遊技パネル 1 1 0 0 の後側へ排出される。

【0841】

〔5-3. 基板ホルダ〕

次に、基板ホルダ 1 2 0 0 について、主に図 1 3 7 及び図 1 3 8 を参照して説明する。基板ホルダ 1 2 0 0 は、上方及び前方が開放された横長の箱状に形成されており、底面が左右方向中央へ向かって低くなるように傾斜している。この基板ホルダ 1 2 0 0 は、遊技盤 5 に組立てた状態で、遊技パネル 1 1 0 0 の後側に取付けられている裏ユニット 3 0 0 0 の下部を下側から覆うことができる。これにより、アウト口 1 1 2 6 を通って遊技パネル 1 1 0 0 の後側へ排出された遊技球、及び、表ユニット 2 0 0 0 及び裏ユニット 3 0 0 0 から下方へ排出された遊技球、を全て受けることができ、底面に形成された排出部 1 2 0 1 から下方へ排出させることができる。

【0842】

〔5-4. 主制御基板ユニット〕

次に、主制御ユニット 1 3 0 0 について、主に図 1 3 7 及び図 1 3 8 を参照して説明する。主制御ユニット 1 3 0 0 は、基板ホルダ 1 2 0 0 の後面に着脱可能に取付けられてい

10

20

30

40

50

る。この主制御ユニット1300は、遊技内容及び遊技球の払出し等を制御する主制御基板1310（図133を参照）と、主制御基板1310を収容しており基板ホルダ1200に取付けられる主制御基板ボックス1320と、を備えている。

【0843】

主制御基板ボックス1320は、複数の封印機構を備えており、一つの封印機構を用いて主制御基板ボックス1320を閉じると、次に、主制御基板ボックス1320を開けるためにはその封印機構を破壊する必要がある、主制御基板ボックス1320の開閉の痕跡を残すことができる。従って、開閉の痕跡を見ることで、主制御基板ボックス1320の不正な開閉を発見することができ、主制御基板1310への不正行為に対する抑止力が高められている。

10

【0844】

主制御ユニット1300の主制御基板1310は、払出制御基板951、及び周辺制御基板1510と、接続されている。また、主制御基板1310は、パネル中継基板3032を介して、機能表示ユニット1400、ゲートセンサ2401、第二大入賞口センサ2402、第一受入口センサ2434、第二受入口センサ2435、第二始動口センサ（図示は省略）、第一大入賞口センサ（図示は省略）、始動口ソレノイド（図示は省略）、第一アタッカソレノイド（図示は省略）、第二アタッカソレノイド（図示は省略）、振分ソレノイド（図示は省略）、一般入賞口センサ3111、第一始動口センサ3112、磁気センサ（図示は省略）、と接続されている。

【0845】

20

〔5-5. 機能表示ユニット〕

次に、機能表示ユニット1400について、主に図129等を参照して説明する。機能表示ユニット1400は、図示するように、遊技領域5aの外側で前構成部材1000の左下隅に取付けられている。機能表示ユニット1400は、遊技盤5をパチンコ機1に組立てた状態で、扉枠3の貫通口111を通して前方（遊技者側）から視認することができる（図196を参照）。この機能表示ユニット1400は、主制御基板1310からの制御信号に基づき複数のLEDを用いて、遊技状態（遊技状況）や、普通抽選結果や特別抽選結果等を表示するものである。

【0846】

機能表示ユニット1400は、図示するように、遊技状態を表示する一つのLEDからなる状態表示器1401と、ゲート部2003に対する遊技球の通過により抽選される普通抽選結果を表示する四つのLEDからなる普通図柄表示器1402と、ゲート部2003に対する遊技球の通過に係る保留数を表示する二つのLEDからなる普通保留表示器1408と、第一始動口2002への遊技球の受入れにより抽選された第一特別抽選結果を表示する八つのLEDからなる第一特別図柄表示器1403と、第一始動口2002への遊技球の受入れに係る保留数を表示する二つのLEDからなる第一特別保留数表示器1404と、第二始動口2004への遊技球の受入れにより抽選された第二特別抽選結果を表示する八つのLEDからなる第二特別図柄表示器1405と、第二始動口2004への遊技球の受入れに係る保留数を表示する二つのLEDからなる第二特別保留数表示器1406と、第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果が「大当たり」等の時に、第一大入賞口2005の開閉パターンの繰返し回数（ラウンド数）を表示する三つのLEDからなるラウンド表示器1407と、を主に備えている。

30

40

【0847】

この機能表示ユニット1400では、備えられているLEDを、適宜、点灯、消灯、及び、点滅、等させることにより、保留数や図柄等を表示することができる。

【0848】

〔5-6. 周辺制御ユニット〕

次に、周辺制御ユニット1500について、主に図132及び図138等を参照して説明する。周辺制御ユニット1500は、裏ユニット3000の裏箱3010の後面に取付けられる遊技盤側演出表示装置1600の後側に取付けられている。周辺制御ユニット1

50

500は、主制御基板1310からの制御信号に基いて遊技者に提示する演出を制御する周辺制御基板1510（図133を参照）と、周辺制御基板1510を収容している周辺制御基板ボックス1520と、を備えている。周辺制御基板1510は、図示は省略するが、発光演出、サウンド演出、及び可動演出、等を制御するための周辺制御部と、演出画像を制御するための演出表示制御部と、を備えている。

【0849】

周辺制御ユニット1500の周辺制御基板1510は、主制御基板1310、演出操作ユニット400、扉枠3側の各種装飾基板、遊技盤側演出表示装置1600、演出駆動基板3031、等と接続されている。

【0850】

[5-7. 遊技盤側演出表示装置]

次に、遊技盤側演出表示装置1600について、主に図137及び図138を参照して説明する。遊技盤側演出表示装置1600は、正面視において遊技領域5aの中央に配置されており、遊技パネル1100の後側に、裏ユニット3000の裏箱3010を介して取付けられている。詳述すると、遊技盤側演出表示装置1600は、裏箱3010の後壁の略中央の後面に対して、着脱可能に取付けられている。この遊技盤側演出表示装置1600は、遊技盤5を組立てた状態で、枠状のセンター役物2500の枠内を通して、前側（遊技者側）から視認することができる。遊技盤側演出表示装置1600は、白色LEDをバックライトとしたフルカラーの液晶表示装置である。遊技盤側演出表示装置1600は、周辺制御基板1510に接続されており、所定の静止画像や動画を表示することができる。

【0851】

遊技盤側演出表示装置1600は、正面視左側面から外方へ突出している二つの左固定片1601と、正面視右側面から外方へ突出している右固定片1602と、を備えている。この遊技盤側演出表示装置1600は、液晶画面を前方へ向けた状態で、後述する裏箱3010の枠状の液晶取付部3010b内の正面視左内周面に開口している二つの固定溝3010cに、裏箱3010の斜め後方から二つの左固定片1601を挿入した上で、右固定片1602側を前方へ移動させて、右固定片1602をロック機構3020の開口部に挿入し、ロック機構3020を下方へスライドさせることにより、裏箱3010に取付けられる。

【0852】

[5-8. 表ユニットの全体構成]

次に、表ユニット2000の全体構成について、主に図137及び図138を参照して説明する。遊技盤5の表ユニット2000は、遊技パネル1100のパネル板1110に、前方から取付けられており、前端がパネル板1110の前面よりも前方へ突出していると共に、後端が開口部1112を貫通してパネル板1110の後面よりも後方へ突出している。

【0853】

本実施形態の表ユニット2000は、遊技領域5a内に打込まれた遊技球を受入可能としており常時開口している複数の一般入賞口2001と、複数の一般入賞口2001とは遊技領域5a内の異なる位置で遊技球を受入可能に常時開口している第一始動口2002と、遊技領域5a内の所定位置に取付けられており遊技球の通過を検知するゲート部2003と、遊技球がゲート部2003を通過することにより抽選される普通抽選結果に応じて遊技球の受入れが可能となる第二始動口2004と、第一始動口2002又は第二始動口2004への遊技球の受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて何れかにおいて遊技球の受入れが可能となる第一大入賞口2005及び第二大入賞口2006と、を備えている。

【0854】

複数（ここでは四つ）の一般入賞口2001は、遊技領域5a内の下部に配置されおり、左右方向中央に対して左側に三つ、右側に一つ夫々配置されている。第一始動口200

10

20

30

40

50

2は、遊技領域5a内の左右方向中央でアウト口1126の直上に配置されている。ゲート部2003は、遊技領域5a内における正面視右端付近で上下方向中央の下寄りに配置されている。第二始動口2004は、ゲート部2003の直下に配置されている。第一大入賞口2005は、左右方向中央より右側の一般入賞口2001の右方で当該一般入賞口2001と第一始動口2002との間の高さに配置されている。第二大入賞口2006は、第二始動口2004と第一大入賞口2005との間に配置されている。

【0855】

また、表ユニット2000は、第一大入賞口2005と第二大入賞口2006との間に、遊技球を遊技領域5a内から排出するサブアウト口2007を備えている。

【0856】

更に、表ユニット2000は、遊技領域5a内の左右方向中央でアウト口1126の直上に取付けられており第一始動口2002を有している始動口ユニット2100と、始動口ユニット2100の正面視左方で内レール1002に沿うように取付けられており三つの一般入賞口2001を有しているサイドユニット2200と、サイドユニット2200の正面視左端上方に取付けられているサイドスロープ2300と、始動口ユニット2100の正面視右方に取付けられており一つの一般入賞口2001、ゲート部2003、第二始動口2004、第一大入賞口2005、及び第二大入賞口2006を有しているアタッカユニット2400と、遊技領域5a内の略中央に取付けられている枠状のセンター役物2500と、を備えている。

【0857】

[5-8a. 始動口ユニット]

次に、表ユニット2000の始動口ユニット2100について、主に図140を参照して説明する。図140(a)は遊技盤の表ユニットにおける始動口ユニット、サイドユニット、サイドスロープ、及びアタッカユニットを前から見た斜視図であり、(b)は(a)を後ろから見た斜視図である。始動口ユニット2100は、遊技領域5a内において、左右方向中央の下端部付近でアウト口1126の直上に配置されており、パネル板1110に前方から取付けられている。この始動口ユニット2100は、最上部において、第一始動口2002が、遊技球を一度に一つのみ受入可能な大きさで上方に向かって常時開口している。

【0858】

始動口ユニット2100は、第一始動口2002が形成されており遊技パネル1100のパネル板1110に前方から取付けられる透光性を有したユニット本体2101と、ユニット本体2101の後側に取付けられており前面に複数のLEDが実装されている始動口装飾基板2102(図135を参照)と、を備えている。この始動口ユニット2100は、始動口装飾基板2102のLEDを発光させることで、第一始動口2002の下側を発光装飾させることができる。

【0859】

始動口ユニット2100は、パネル板1110に取付けることで、第一始動口2002がパネル板1110の前面よりも前方に突出した上で、上方へ開放された状態となり、第一始動口2002が後述するセンター役物2500のステージ2530におけるチャンス出口2536の直下に位置している。従って、ステージ2530のチャンス出口2536から下方へ遊技球が放出されると、極めて高い確率で第一始動口2002に受入れられる。この始動口ユニット2100は、第一始動口2002に受入れられた遊技球を、パネル板1110の後方へ誘導し、後述する裏ユニット3000における裏前飾りユニット3100の中央受渡口3135に受け渡すことができる。

【0860】

[5-8b. サイドユニット]

次に、表ユニット2000のサイドユニット2200について、主に図140を参照して詳細に説明する。サイドユニット2200は、遊技領域5a内において、始動口ユニット2100の左方で内レール1002に沿うように円弧状に延びており、パネル板111

10

20

30

40

50

0に前方から取付けられている。サイドユニット2200は、上方へ向かって常時開口している三つの一般入賞口2001を有している。

【0861】

サイドユニット2200は、三つの一般入賞口2001が左右に列設された状態で備えられていると共に、三つの一般入賞口2001が正面視左方へ向かうほど高くなるように備えられている。

【0862】

サイドユニット2200は、パネル板1110に取付けることで、三つの一般入賞口2001が、パネル板1110の前面よりも前方へ突出した状態となると共に、第一始動口2002よりも下方で、且つ、始動口ユニット2100とサイドスロープ2300との間に配置された状態となる。サイドユニット2200は、各一般入賞口2001に受入れられた遊技球を、パネル板1110の後方へ誘導し、後述する裏ユニット3000の裏前飾りユニット3100における球誘導ユニット3150の受渡口3151に受け渡すことができる。

10

【0863】

[5-8c. サイドスロープ]

次に、表ユニット2000のサイドスロープ2300について、主に図140を参照して詳細に説明する。サイドスロープ2300は、遊技領域5a内において、サイドユニット2200の正面視左上方で上下方向中央からやや下寄りに前方からパネル板1110に取付けられる。サイドスロープ2300は、前方に突出していると共に正面視右端側が低くなるように左右に延びている柵部2301を備えている。

20

【0864】

サイドスロープ2300は、パネル板1110の前面に取付けた状態で、柵部2301の左端が内レール1002に接近していると共に、柵部2301の右端がサイドユニット2200の最も左側の一般入賞口2001よりも左方に位置している。また、サイドスロープ2300は、パネル板1110に取付けた状態で、柵部2301が、始動口ユニット2100の第一始動口2002よりも上方に位置している。これにより、サイドスロープ2300は、内レール1002に沿って流下してきた遊技球を、柵部2301により右方（遊技領域5aの左右方向中央）へ誘導させることができ、始動口ユニット2100の第一始動口2002、及びサイドユニット2200の三つの一般入賞口2001の何れかに遊技球が受入れられる可能性がある。

30

【0865】

[5-8d. アタッカユニット]

次に、表ユニット2000のアタッカユニット2400について、主に図140及び図141を参照して詳細に説明する。図141は、表ユニットにおけるアタッカユニットを遊技領域内の前後方向の略中央で切断して正面から示した説明図である。アタッカユニット2400は、遊技領域5a内において、正面視右下隅となる始動口ユニット2100の正面視右方に配置されており、パネル板1110の前面に前方から取付けられている。このアタッカユニット2400は、四つの一般入賞口2001のうちの一つの一般入賞口2001、ゲート部2003、第二始動口2004、第一大入賞口2005、第二大入賞口2006、及びサブアウト口2007を備えている。

40

【0866】

アタッカユニット2400は、図141等に応示するように、正面視における外形形状が、右端がやや上方に位置するように傾斜した底辺と、底辺の右端から略垂直に立ち上がった右辺と、右辺の上端と底辺の左端とを結ぶように斜めに延びた斜辺と、を有するような略三角形に形成されている。このアタッカユニット2400は、右上隅に遊技球が上下に流通（通過）するゲート部2003が配置されていると共に、ゲート部2003の直下に前方へ開口可能な第二始動口2004が配置されている。また、アタッカユニット2400は、第二始動口2004の左下に上方へ開口可能な第二大入賞口2006が配置されていると共に、第二大入賞口2006の左下に左方へ常時開口しているサブアウト口2007

50

が配置されている。更に、アタッカユニット 2400 は、サブアウト口 2007 のやや下側の左方に上方へ開口可能な第一大入賞口 2005 が配置されている共に、第一大入賞口 2005 の左下に上方へ常時開口している一般入賞口 2001 が配置されている。

【0867】

アタッカユニット 2400 は、ゲート部 2003 を通過する遊技球を検知するゲートセンサ 2401 と、第二始動口 2004 に受入れられた遊技球を検知する第二始動口センサ（図示は省略）と、第一大入賞口 2005 に受入れられた遊技球を検知する第一大入賞口センサ（図示は省略）と、第二大入賞口 2006 に受入れられた遊技球を検知する第二大入賞口センサ 2402 と、を備えている。

【0868】

アタッカユニット 2400 は、ゲート部 2003 の遊技球の通過により抽選される普通抽選結果に応じて第二始動口 2004 を開閉する第二始動口扉 2411 と、第一始動口 2002 又は第二始動口 2004 への遊技球の受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて第一大入賞口 2005 を開閉する第一大入賞口扉 2412 と、第一始動口 2002 又は第二始動口 2004 への遊技球の受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて第二大入賞口 2006 を開閉する第二大入賞口扉 2413 と、を備えている。

【0869】

アタッカユニット 2400 は、正面視において右上隅で上下に延びており遊技球が流通可能なゲート通路 2420 と、ゲート通路 2420 の左側で上下に延びており遊技球が流通可能な左サイド通路 2421 と、ゲート通路 2420 の右側で上下に延びており遊技球が流通可能な右サイド通路 2422 と、ゲート通路 2420、左サイド通路 2421、及び右サイド通路 2422 の下方で右サイド通路 2422 の下方から左端側が低くなるように左サイド通路 2421 よりも左方へ延びており遊技球が流通可能なアタッカ通路 2423 と、アタッカ通路 2423 の左側の下方で左端側が低くなるように左方へ延びており遊技球を誘導可能なアタッカ棚部 2424 と、を備えている。

【0870】

ゲート通路 2420 は、上部付近にゲート部 2003 が配置されていると共に、下部に第二始動口 2004 が配置されている。このゲート通路 2420 は、ゲート部 2003 と第二始動口 2004 との間において、左サイド通路 2421 及び右サイド通路 2422 と夫々連通するように左右両壁が貫通している。ゲート通路 2420 は、遊技球の外径よりも若干広い幅で上下に延びている。

【0871】

アタッカ通路 2423 は、左サイド通路 2421 よりも左方における底壁に、第二大入賞口 2006 が開口している。このアタッカ通路 2423 は、第二大入賞口 2006 を開閉可能に閉鎖する第二大入賞口扉 2413 が、底壁の一部を形成している。また、アタッカ通路 2423 は、最も低くなっている左端側が、下方へ向かって開口している。第二大入賞口 2006 は、遊技球の外径の約 1.5 倍の幅で開口している。

【0872】

アタッカ棚部 2424 は、第一大入賞口 2005 が開口しており、第一大入賞口 2005 を開閉可能に閉鎖している第一大入賞口扉 2412 が一部を形成している。第一大入賞口 2005 は、遊技球の外径の約 3 倍の幅で開口している。アタッカ棚部 2424 の右端において、サブアウト口 2007 が開口している。また、アタッカ棚部 2424 の左端よりも左下において、一つの一般入賞口 2001 が開口している。

【0873】

第二始動口扉 2411 は、前方へ開口している第二始動口 2004 を、前方から閉鎖可能としており、第二始動口 2004 の下端付近において、下辺が左右に延びた軸周りに回転可能に取付けられている。この第二始動口扉 2411 は、上辺が前方へ移動するように回転（回動）することで、第二始動口 2004 を開放すると共に、ゲート通路 2420 を閉鎖し、ゲート通路 2420 内を流下してきた遊技球を、第二始動口 2004 側へ誘導し

10

20

30

40

50

て、第二始動口 2 0 0 4 へ受入れさせることができる。第二始動口扉 2 4 1 1 は、図示しない始動口ソレノイドの駆動によって回転するように形成されており、始動口ソレノイドが OFF（非通電時）の時は第二始動口 2 0 0 4 を閉鎖し、始動口ソレノイドが ON（通電時）の時は第二始動口 2 0 0 4 を開放させる。

【0874】

第一大入賞口扉 2 4 1 2 は、前後に延びていると共に、左端が低くなるように左右に延びている板状に形成されており、前後に進退することで上方へ開口している第一大入賞口 2 0 0 5 を閉鎖可能としている。第一大入賞口扉 2 4 1 2 は、前進することで第一大入賞口 2 0 0 5 を閉鎖すると共に、アタッカ柵部 2 4 2 4 の一部を形成し、アタッカ柵部 2 4 2 4 上に流下してきた遊技球を、左方へ誘導してアタッカ柵部 2 4 2 4 の左端から下方へ放出する。また、第一大入賞口扉 2 4 1 2 は、後退することで第一大入賞口 2 0 0 5 を開放し、アタッカ通路 2 4 2 3 等を介してアタッカ柵部 2 4 2 4 上に流下してきた遊技球を、第一大入賞口 2 0 0 5 に受入れさせることができる。この第一大入賞口扉 2 4 1 2 は、図示しない第一アタッカソレノイドの駆動によって進退するように形成されており、第一アタッカソレノイドが OFF（非通電時）の時は第一大入賞口 2 0 0 5 を閉鎖し、第一アタッカソレノイドが ON（通電時）の時は第一大入賞口 2 0 0 5 を開放させる。

【0875】

第二大入賞口扉 2 4 1 3 は、前後に延びていると共に、左端が低くなるように左右に延びている板状に形成されており、前後に進退することで上方へ開口している第二大入賞口 2 0 0 6 を閉鎖可能としている。第二大入賞口扉 2 4 1 3 は、前進することで第二大入賞口 2 0 0 6 を閉鎖すると共に、アタッカ通路 2 4 2 3 の底壁の一部を形成し、ゲート通路 2 4 2 0、左サイド通路 2 4 2 1、及び右サイド通路 2 4 2 2 の何れかを通過した遊技球を、左方へ誘導して、アタッカ通路 2 4 2 3 の左端から下方へ放出する。また、第二大入賞口扉 2 4 1 3 は、後退することで第二大入賞口 2 0 0 6 を開放し、アタッカ通路 2 4 2 3 に進入してきた遊技球を、高い確率で第二大入賞口 2 0 0 6 に受入れさせることができる。この第二大入賞口扉 2 4 1 3 は、図示しない第二アタッカソレノイドの駆動によって進退するように形成されており、第二アタッカソレノイドが OFF（非通電時）の時は第二大入賞口 2 0 0 6 を閉鎖し、第二アタッカソレノイドが ON（通電時）の時は第二大入賞口 2 0 0 6 を開放させる。

【0876】

また、アタッカユニット 2 4 0 0 は、第二大入賞口 2 0 0 6 に受入れられた遊技球が流通可能な内部通路 2 4 3 0 と、内部通路 2 4 3 0 の底部に開口している第一受入口 2 4 3 1 及び第二受入口 2 4 3 2 と、内部通路 2 4 3 0 において遊技球を第一受入口 2 4 3 1 又は第二受入口 2 4 3 2 の何れかに振り分ける振分片 2 4 3 3 と、第一受入口 2 4 3 1 に受入れられた遊技球を検知する第一受入口センサ 2 4 3 4 と、第二受入口 2 4 3 2 に受入れられた遊技球を検知する第二受入口センサ 2 4 3 5 と、を備えている。

【0877】

内部通路 2 4 3 0 は、第二大入賞口センサ 2 4 0 2 の下流側に形成されている。第一受入口 2 4 3 1 は、第二大入賞口センサ 2 4 0 2 における遊技球が通過する部位の直下に配置されており、第二受入口 2 4 3 2 は、第一受入口 2 4 3 1 の正面視右側に配置されている。振分片 2 4 3 3 は、内部通路 2 4 3 0 内における第一受入口 2 4 3 1 と第二受入口 2 4 3 2 との間に配置されており、下辺が前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている。振分片 2 4 3 3 は、垂直に立上って第二大入賞口 2 0 0 6 と第一受入口 2 4 3 1 とを連通させた状態と、上辺が正面視左方へ移動して内部通路 2 4 3 0 の左側の側壁に当接（或いは、接近）して第二大入賞口 2 0 0 6 と第二受入口 2 4 3 2 とを連通させた状態との間で回転するように取付けられている。この振分片 2 4 3 3 は、図示しない振分ソレノイドの駆動によって回転するように形成されており、振分ソレノイドが OFF（非通電時）の時は第一受入口 2 4 3 1 へ遊技球を振り分け、振分ソレノイドが ON（通電時）の時は第二受入口 2 4 3 2 へ遊技球を振り分ける。

【0878】

このアタッカユニット 2 4 0 0 は、パネル板 1 1 1 0 の前面に取付けた状態で、ゲート通路 2 4 2 0 が、後述するセンター役物 2 5 0 0 における右案内通路 2 5 4 0 の下流側の開口部の直下に位置していると共に、ゲート部 2 0 0 3 がセンター役物 2 5 0 0 のステージ 2 5 3 0 よりも上方に位置している。また、第一大入賞口 2 0 0 5 と一般入賞口 2 0 0 1 とが、始動口ユニット 2 1 0 0 の第一始動口 2 0 0 2 よりも下方に位置している。

【0879】

続いて、アタッカユニット 2 4 0 0 における遊技球の流れについて説明する。遊技盤 5 に組立てた状態で、アタッカユニット 2 4 0 0 のゲート部 2 0 0 3 が、センター役物 2 5 0 0 のステージ 2 5 3 0 よりも上方に位置していることから、ステージ 2 5 3 0 から遊技球が放出されてもゲート部 2 0 0 3 を通過することはない。従って、センター役物 2 5 0 0 の右側を流下した遊技球のみゲート部 2 0 0 3 を通過する可能性がある。ゲート部 2 0 0 3 が配置されているゲート通路 2 4 2 0 の上端開口は、センター役物 2 5 0 0 における右案内通路 2 5 4 0 の下流側の開口の直下で上方へ向けて開口していることから、センター役物 2 5 0 0 の右側を流下した遊技球は、高い確率でゲート通路 2 4 2 0 に進入し、ゲート部 2 0 0 3 を通過することとなる。

【0880】

そして、ゲート部 2 0 0 3 を通過した遊技球は、その直下の第二始動口 2 0 0 4 を閉鎖している第二始動口扉 2 4 1 1 の前方を通過して、ゲート通路 2 4 2 0 からアタッカ通路 2 4 2 3 へ放出される。この際に、第二始動口扉 2 4 1 1 が前方へ回動して開位置の状態となっていると、ゲート部 2 0 0 3 を通過した遊技球が第二始動口扉 2 4 1 1 の裏面に当接して第二始動口 2 0 0 4 側へ誘導され、第二始動口 2 0 0 4 に受入れられることとなる。第二始動口扉 2 4 1 1 は、ゲート部 2 0 0 3 を遊技球が通過する（ゲートセンサ 2 4 0 1 より遊技球が検知される）ことで抽選される普通抽選結果に応じて（普通抽選結果が「普通当り」の時に）駆動させられるため、普通抽選結果の抽選時間や第二始動口扉 2 4 1 1 の開閉タイミング等を適宜設定することで、「普通当り」を抽選した遊技球そのものを第二始動口 2 0 0 4 へ受入れさせることができる。

【0881】

第二始動口 2 0 0 4 に受入れられた遊技球は、第二始動口センサにより検知された後、遊技パネル 1 1 0 0 の後側において下方（基板ホルダ 1 2 0 0 上）へ排出される。

【0882】

なお、ゲート通路 2 4 2 0 では、ゲート部 2 0 0 3 と第二始動口 2 0 0 4 との間の部位の左右両側が、左サイド通路 2 4 2 1 や右サイド通路 2 4 2 2 と連通していることから、ゲート部 2 0 0 3 を通過した遊技球が、稀に連通している部位を通過して左サイド通路 2 4 2 1 や右サイド通路 2 4 2 2 側へ進入することがある。つまり、ゲート部 2 0 0 3 を通過した遊技球は、第二始動口扉 2 4 1 1 の前方を必ずしも通過するとは限らない。

【0883】

センター役物 2 5 0 0 の右側を流下した遊技球が、ゲート通路 2 4 2 0 に進入しなかった場合は、ゲート通路 2 4 2 0 の左右両側に配置された左サイド通路 2 4 2 1 又は右サイド通路 2 4 2 2 の何れかに進入し、左サイド通路 2 4 2 1 又は右サイド通路 2 4 2 2 を通過してアタッカ通路 2 4 2 3 へ放出される。

【0884】

ゲート通路 2 4 2 0、左サイド通路 2 4 2 1、及び右サイド通路 2 4 2 2 の何れかからアタッカ通路 2 4 2 3 に放出された遊技球は、アタッカ通路 2 4 2 3 の傾斜に沿って左方へ誘導され、アタッカ通路 2 4 2 3 の左端から下方へ放出される。この際に、第二大入賞口 2 0 0 6 を閉鎖している第二大入賞口扉 2 4 1 3 が後退して第二大入賞口 2 0 0 6 が開いていると、アタッカ通路 2 4 2 3 内に放出された遊技球が、高い確率で第二大入賞口 2 0 0 6 に受入れられる。第二大入賞口 2 0 0 6 に受入れられた遊技球は、第二大入賞口センサ 2 4 0 2 に検知された後、内部通路 2 4 3 0 に送られ、振分片 2 4 3 3 によって第一受入口 2 4 3 1 又は第二受入口 2 4 3 2 の何れかに振り分けられる。

【0885】

第一受入口 2 4 3 1 又は第二受入口 2 4 3 2 に受入れられた遊技球は、第一受入口センサ 2 4 3 4 又は第二受入口センサ 2 4 3 5 により検知された上で、遊技パネル 1 1 0 0 の後側において下方（基板ホルダ 1 2 0 0 上）へ排出される。

【0886】

なお、第二大入賞口 2 0 0 6 は、左右の幅が遊技球の外径の約 1.5 倍とされていることから、第二大入賞口扉 2 4 1 3 が後退して第二大入賞口 2 0 0 6 が開いていても、アタッカ通路 2 4 2 3 を流通している遊技球の速度や挙動等によっては、遊技球が第二大入賞口 2 0 0 6 を飛び越えてしまい、第二大入賞口 2 0 0 6 に受入れられないことがある。

【0887】

アタッカ通路 2 4 2 3 から放出された遊技球は、アタッカ柵部 2 4 2 4 上に流下し、アタッカ柵部 2 4 2 4 に誘導されて、アタッカ柵部 2 4 2 4 の左端から下方へ放出される。この際に、第一大入賞口扉 2 4 1 2 が後退して第一大入賞口 2 0 0 5 が開いていると、アタッカ通路 2 4 2 3 から放出された遊技球が、第一大入賞口 2 0 0 5 に受入れられることとなる。従って、第一大入賞口 2 0 0 5 が開いている時に、センター役物 2 5 0 0 の右側を流通するように遊技球を遊技領域 5 a 内に打込むと、高い確率で第一大入賞口 2 0 0 5 に遊技球を受入させることができる。

【0888】

第一大入賞口 2 0 0 5 に受入れられた遊技球は、図示しない第一大入賞口センサに検知された後、遊技パネル 1 1 0 0 の後側において下方（基板ホルダ 1 2 0 0 上）へ排出される。

【0889】

アタッカ柵部 2 4 2 4 から下方へ放出された遊技球は、下方に配置されている一つの一般入賞口 2 0 0 1 に受入れられる可能性がある。アタッカユニット 2 4 0 0 の一般入賞口 2 0 0 1 に受入れられた遊技球は、パネル板 1 1 1 0 の後側へ誘導された後に、裏ユニット 3 0 0 0 における裏前飾りユニット 3 1 0 0 の右受渡口 3 1 3 6 に受け渡される。一方、一般入賞口 2 0 0 1 に受入れられなかった遊技球は、遊技領域 5 a 下端のアウト口 1 1 2 6 を通り、遊技パネル 1 1 0 0 の後側において下方（基板ホルダ 1 2 0 0 上）へ排出される。

【0890】

[5-8e. センター役物]

次に、表ユニット 2 0 0 0 のセンター役物 2 5 0 0 について、主に図 1 4 2 を参照して詳細に説明する。図 1 4 2 (a) は表ユニットにおけるセンター役物を前から見た斜視図であり、(b) はセンター役物を後ろから見た斜視図である。センター役物 2 5 0 0 は、遊技領域 5 a 内において、始動口ユニット 2 1 0 0、及びサイドユニット 2 2 0 0 よりも上方で、正面視略中央やや上寄りに配置されており、遊技パネル 1 1 0 0 のパネル板 1 1 1 0 の前面に取付けられている。センター役物 2 5 0 0 は、枠状に形成されており、枠内を通して遊技パネル 1 1 0 0 の後方に配置された遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 や裏ユニット 3 0 0 0 に備えられている演出ユニット等を前方から視認することができる。

【0891】

枠状のセンター役物 2 5 0 0 は、下辺を除いた全周が、遊技パネル 1 1 0 0 のパネル板 1 1 1 0 の前面よりも前方へ突出しており、遊技領域 5 a 内に打込まれた遊技球が、枠内に侵入できないようになっている。

【0892】

センター役物 2 5 0 0 は、正面視左側の外周面に、遊技領域 5 a 内の遊技球が進入可能に開口しているワープ入口 2 5 2 0 と、ワープ入口 2 5 2 0 に進入した遊技球を放出可能とされ枠内に開口しているワープ出口 2 5 2 2 と、ワープ出口 2 5 2 2 から放出された遊技球を左右方向に転動させた後に遊技領域 5 a 内へ放出可能なステージ 2 5 3 0 と、を備えている（図 1 3 5 等を参照）。

【0893】

センター役物 2 5 0 0 のステージ 2 5 3 0 は、左右方向の中央側が窪んだ湾曲状で、始

10

20

30

40

50

動口ユニット 2 1 0 0 の第一始動口 2 0 0 2 の直上と対応した位置、つまり、センター役物 2 5 0 0 を遊技パネル 1 1 0 0 (パネル板 1 1 1 0) に取付けた状態で左右方向の略中央の位置が、その左右両側よりも若干高くなるような波状に形成されている。このステージ 2 5 3 0 は、波状に形成されている中央両側の最も低くなっている部位から、遊技球を遊技領域 5 a 内へ放出させることができる。

【0894】

センター役物 2 5 0 0 は、ステージ 2 5 3 0 における中央の若干高くなっている部位の最も高い位置において前方へ向かって開口しており遊技球が進入可能なチャンス入口 2 5 3 5 と、チャンス入口 2 5 3 5 に進入した遊技球をステージ 2 5 3 0 よりも下方で遊技領域 5 a 内へ放出するチャンス出口 2 5 3 6 と、を備えている。チャンス出口 2 5 3 6 は、センター役物 2 5 0 0 を遊技盤 5 に組立てた状態で、始動口ユニット 2 1 0 0 の第一始動口 2 0 0 2 の直上に位置している。これにより、遊技球がチャンス出口 2 5 3 6 から放出されると、極めて高い確率で第一始動口 2 0 0 2 に受入れられる。

【0895】

また、センター役物 2 5 0 0 は、正面視右側の外周面に沿って流下してきた遊技球を、やや左方へ誘導した後に下方へ放出する右案内通路 2 5 4 0 を備えている。この右案内通路 2 5 4 0 は、センター役物 2 5 0 0 を遊技盤 5 に組立てた状態で、右案内通路 2 5 4 0 における下流端が、アタッカユニット 2 4 0 0 におけるゲート通路 2 4 2 0 (ゲート部 2 0 0 3) の直上に位置するように形成されている。

【0896】

このセンター役物 2 5 0 0 は、遊技盤 5 に組立てた状態で、右側の外周面が、前構成部材 1 0 0 0 における右レール 1 0 0 5 から遊技球の外径よりも若干大きい離れるように形成されている。従って、遊技球がセンター役物 2 5 0 0 の右側を流通すると、センター役物 2 5 0 0 の右側の外周面に沿って流通することとなり、センター役物 2 5 0 0 の右側を流通する遊技球は全て右案内通路 2 5 4 0 に進入して案内される。これにより、遊技球がセンター役物 2 5 0 0 の右側を流通するように遊技領域 5 a 内に打込む(所謂、右打ちする)と、極めて高い確率でゲート部 2 0 0 3 に対して遊技球を通過させることができる。

【0897】

[5-9. 裏ユニットの全体構成]

次に、遊技盤 5 における裏ユニット 3 0 0 0 の全体構成について、主に図 1 4 3 乃至図 1 4 6 を参照して詳細に説明する。図 1 4 3 は遊技盤の裏ユニットを前から見た斜視図であり、図 1 4 4 は裏ユニットを後ろから見た斜視図である。また、図 1 4 5 は裏ユニットを主な構成部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図 1 4 6 は裏ユニットを主な構成部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。裏ユニット 3 0 0 0 は、遊技パネル 1 1 0 0 におけるパネルホルダ 1 1 2 0 の後面に取付けられている。また、裏ユニット 3 0 0 0 の後側に遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 及び周辺制御ユニット 1 5 0 0 が取付けられている。

【0898】

裏ユニット 3 0 0 0 は、パネルホルダ 1 1 2 0 の後面に取付けられ前方が開放されている箱状で後壁に四角い開口部 3 0 1 0 a を有している裏箱 3 0 1 0 と、裏箱 3 0 1 0 の後面に取付けられており遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 を着脱可能に取付けるためのロック機構 3 0 2 0 と、裏箱 3 0 1 0 の後面で開口部 3 0 1 0 a の下側に取付けられている演出駆動基板 3 0 3 1 と、裏箱 3 0 1 0 の後面で演出駆動基板 3 0 3 1 の背面視右側に取付けられているパネル中継基板 3 0 3 2 と、裏箱 3 0 1 0 の後面でパネル中継基板 3 0 3 2 の背面視右側に取付けられている左下中継基板 3 0 3 3 と、裏箱 3 0 1 0 の後面で演出駆動基板 3 0 3 1 の背面視左側に取付けられている右下中継基板 3 0 3 4 と、を備えている。

【0899】

演出駆動基板 3 0 3 1 は、周辺制御基板 1 5 1 0 からの制御信号に基づいて、裏前飾りユニット 3 1 0 0、裏中可動演出ユニット 3 2 0 0、裏左可動演出ユニット 3 3 0 0、裏右可動演出ユニット 3 4 0 0、裏上可動演出ユニット 3 5 0 0、及び裏下可動演出ユニッ

ト 3700、に備えられている装飾基板や駆動モータ等を制御している。パネル中継基板 3032 は、主制御基板 1310 と、機能表示ユニット 1400、ゲートセンサ 2401、第二大入賞口センサ 2402、第一受入口センサ 2434、第二受入口センサ 2435、第二始動口センサ（図示は省略）、第一大入賞口センサ（図示は省略）、始動口ソレノイド（図示は省略）、第一アタッカソレノイド（図示は省略）、第二アタッカソレノイド（図示は省略）、振分ソレノイド（図示は省略）、一般入賞口センサ 3111、第一始動口センサ 3112、及び磁気センサ（図示は省略）との接続を中継している。

【0900】

左下中継基板 3033 は、演出駆動基板 3031 と、裏左可動演出ユニット 3300 との接続を中継している。右下中継基板 3034 は、演出駆動基板 3031 と、裏前飾りユニット 3100、裏中可動演出ユニット 3200、裏右可動演出ユニット 3400、裏上可動演出ユニット 3500、及び裏下可動演出ユニット 3700 との接続を中継している。

10

【0901】

また、裏ユニット 3000 は、演出駆動基板 3031、パネル中継基板 3032、左下中継基板 3033、及び右下中継基板 3034 の夫々の後側を夫々覆うように裏箱 3010 の後面に取付けられている演出駆動基板カバー 3035、パネル中継基板カバー 3036、左下中継基板カバー 3037、及び右下中継基板カバー 3038 を備えている。

【0902】

また、裏ユニット 3000 は、裏箱 3010 の前端で正面視左辺側と下辺側とにかけて取付けられている裏前飾りユニット 3100 と、裏箱 3010 内において開口部 3010a を囲むように取付けられている裏中可動演出ユニット 3200 と、裏箱 3010 内において開口部 3010a の左右両側に夫々取付けられている裏左可動演出ユニット 3300 及び裏右可動演出ユニット 3400 と、裏箱 3010 内において開口部 3010a の上側に取付けられている裏上可動演出ユニット 3500 と、裏箱 3010 内において開口部 3010a の下側に取付けられている裏下可動演出ユニット 3700 と、を備えている。

20

【0903】

[5-9a. 裏箱]

次に、裏ユニット 3000 の裏箱 3010 について、主に図 143 乃至図 146 を参照して詳細に説明する。裏ユニット 3000 の裏箱 3010 は、前方が開放されている箱状で後壁に四角く貫通している開口部 3010a と、開口部 3010a の周縁から間隔を開けて後方へ突出している平板枠状の液晶取付部 3010b と、液晶取付部 3010b における背面視右辺において枠内の内側から外方へ向かって窪んでおり遊技盤側演出表示装置 1600 の左固定片 1601 が挿入される二つの固定溝 3010c と、液晶取付部 3010b の背面視左辺の上下方向中央において後端から裏箱 3010 の後壁まで切欠かれロック機構 3020 が取付けられる切欠部 3010d と、を備えている。

30

【0904】

裏箱 3010 の開口部 3010a は、遊技盤側演出表示装置 1600 の表示画面と略同じ大きさに形成されている。また、液晶取付部 3010b は、枠内に遊技盤側演出表示装置 1600 を嵌め込むことが可能な大きさに形成されている。裏箱 3010 は、後面における切欠部 3010d の背面視左側にロック機構 3020 が上下にスライド可能に取付けられる。

40

【0905】

また、裏箱 3010 は、前端から外方へ延出している平板状の固定片部 3010e を備えている。この固定片部 3010e は、前面が遊技パネル 1100 のパネルホルダ 1120 の後面に当接した状態で、パネルホルダ 1120 に取付けられる。裏箱 3010 は、各可動演出ユニット等を取付けるためのボスや取付孔等が適宜位置に形成されている。

【0906】

[5-9b. 裏前飾りユニット]

次に、裏ユニット 3000 の裏前飾りユニット 3100 について、主に図 143 乃至図

50

147を参照して詳細に説明する。図147(a)は裏ユニットにおける裏前飾りユニットの正面図であり、(b)は(a)におけるV-V線で切断して拡大した拡大断面図である。裏前飾りユニット3100は、裏箱3010における前端の正面視左辺側から下辺側にかかるように取付けられている。

【0907】

裏前飾りユニット3100は、裏箱3010の前端における左辺側と下辺側とに沿うようにL字型(三日月型)に形成されており裏箱3010の前端に取付けられる透明なユニットベース3110と、表ユニット2000の一般入賞口2001に受入れられた遊技球を検知する一般入賞口センサ3111と、表ユニット2000の第一始動口2002に受入れられた遊技球を検知する第一始動口センサ3112と、遊技領域5a内に外部から作用させられた不正な磁気を検知可能な磁気センサ(図示は省略)と、を備えている。

10

【0908】

また、裏前飾りユニット3100は、裏箱3010の左辺に沿うよう上下に延びておりユニットベース3110の前面に取付けられている裏前左飾りユニット3120と、裏前左飾りユニット3120の下端から裏箱3010の辺に沿うように左右に延びておりユニットベース3110の前面に取付けられている裏前下飾りユニット3130と、裏前下飾りユニット3130の正面視左側の下部に配置されておりユニットベース3110の前面に取付けられている球誘導ユニット3150と、を備えている。

【0909】

裏前飾りユニット3100の裏前左飾りユニット3120は、図示するように、「ドドド」の文字の装飾を有した透光性を有する平板状の裏前左飾り装飾体3121と、裏前左飾り装飾体3121の後側に取付けられている透明で平板状の裏前左導光レンズ3122と、裏前左導光レンズ3122の左側面に向かって光を照射可能な複数のLED3123aが実装された裏前左装飾基板3123と、を備えている(図147(b)を参照)。

20

【0910】

裏前左導光レンズ3122は、裏前左飾り装飾体3121における「ド」の字の装飾の後方となる後面に、円錐状に形成された複数の反射部3122aを有している。裏前左導光レンズ3122の左側面から内部に入射された光は、複数の反射部3122aによって前方へ反射させられ、裏前左導光レンズ3122の前方に配置された裏前左飾り装飾体3121を面状に発光装飾させることができる。

30

【0911】

裏前飾りユニット3100の裏前下飾りユニット3130は、遊技領域5aの左右方向中央と対応するように配置されており前面に所定の立体的な装飾が形成されている裏前下中央レンズ3131と、裏前下中央レンズ3131の左右両側に夫々配置されており前面に所定の立体的な装飾が形成されている裏前下左レンズ3132及び裏前下右レンズ3133と、裏前下中央レンズ3131、裏前下左レンズ3132、及び裏前下右レンズ3133の後側に配置されており前面に複数のLEDが実装されている裏前下装飾基板3134と、を備えている。裏前下装飾基板のLEDを適宜発光させることで、裏前下中央レンズ3131、裏前下左レンズ3132、及び裏前下右レンズ3133を、夫々独立させた状態で発光装飾させることができる。

40

【0912】

また、裏前下飾りユニット3130は、裏前下中央レンズ3131の上部中央において前方へ向かって開口しており始動口ユニット2100の第一始動口2002に受入れられて後方へ誘導された遊技球が進入可能な中央受渡口3135と、裏前下中央レンズ3131の下部の右外側において前方へ向かって開口しておりアタッカユニット2400の一般入賞口2001に受入れられて後方へ誘導された遊技球が進入可能な左受渡口3137と、を備えている。中央受渡口3135に進入した遊技球は、第一始動口センサ3112に検知された後に、下方(基板ホルダ1200上)へ排出される。また、右受渡口3136に進入した遊技球は、一般入賞口センサ3111に検知された後に、下方(基板ホルダ1200上)へ排出される。

50

【0913】

裏前飾りユニット3100の球誘導ユニット3150は、裏前下飾りユニット3130における裏前下左レンズ3132の下方に配置されるようにユニットベース3110に取付けられている。球誘導ユニット3150は、全体が箱状に形成されており、サイドユニット2200における三つの一般入賞口2001と対応した位置で前方へ向かって開口しており遊技球が進入可能な三つの受渡口3151と、受渡口3151から内部に進入した遊技球を下方（基板ホルダ1200上）へ排出する排出口（図示は省略）と、を備えている。受渡口3151から内部に進入した遊技球は、一般入賞口センサ3111に検知された後に、排出口から下方へ排出される。

【0914】

[5-9c. 裏中可動演出ユニット]

次に、裏ユニット3000における裏中可動演出ユニット3200について、主に図145及び図146を参照して詳細に説明する。裏中可動演出ユニット3200は、裏箱3010内の後壁に、開口部3010aを囲むように取付けられる。裏中可動演出ユニット3200は、正面視において左側に配置され裏箱3010の開口部3010aの高さよりも高く上下に延びており所定の装飾を有している裏中左装飾体3210と、正面視において右側に配置され裏箱3010の開口部3010aの高さよりも高く上下に延びており所定の装飾を有している裏中右装飾体3220と、裏箱3010内の後壁における開口部3010aの上下両外側に取付けられ裏中左装飾体3210及び裏中右装飾体3220を左右方向へ移動させる裏中駆動ユニット3250と、を備えている。

【0915】

裏中左装飾体3210は、前面にレリーフ状の装飾が形成された透光性を有する平板状の裏中左装飾レンズ3211と、裏中左装飾レンズ3211の後側に配置されており前面に複数のLEDが実装されている裏中左装飾基板（図示は省略）と、裏中左装飾基板の後面を覆うように裏中左装飾レンズ3211の後側に取付けられている平板状の裏中左装飾体ベース3212と、を備えている。裏中左装飾体ベース3212は、図示は省略するが、下端に、左右へ延びていると共にギア歯が上方へ向けて形成されているラックギアを備えている。この裏中左装飾体3210は、裏中左装飾基板のLEDを発光させることで、裏中左装飾レンズ3211を発光装飾させることができる。

【0916】

裏中右装飾体3220は、前面にレリーフ状の装飾が形成された透光性を有する平板状の裏中右装飾レンズ3221と、裏中右装飾レンズ3221の後側に配置されており前面に複数のLEDが実装されている裏中右装飾基板（図示は省略）と、裏中右装飾基板の後面を覆うように裏中右装飾レンズ3221の後側に取付けられている平板状の裏中右装飾体ベース3222と、を備えている。裏中右装飾体ベース3222は、図示は省略するが、下端に、左右へ延びていると共にギア歯が下方へ向けて形成されているラックギアを備えている。この裏中右装飾体3220は、裏中右装飾基板のLEDを発光させることで、裏中右装飾レンズ3221を発光装飾させることができる。

【0917】

裏中左装飾体3210及び裏中右装飾体3220の裏中左装飾レンズ3211及び裏中右装飾レンズ3221は、互いが左右対称の形状に形成されており、上下方向の略中央において、遊技盤5の左右方向中央に近い側が抉れたような形状に形成されている。

【0918】

裏中駆動ユニット3250は、裏箱3010内における開口部3010aの上側に取付けられ裏中左装飾体3210及び裏中右装飾体3220の上端を左右方向へスライド可能に支持する上レール3251と、裏中左装飾体3210及び裏中右装飾体3220の下端を左右方向へスライド可能に支持する平板状のユニットベース3252と、ユニットベース3252の後側に取付けられており裏箱3010内における開口部3010aの下側に取付けられる平板状の取付ベース3253と、取付ベース3253とユニットベース3252の間に回転軸が突出するようにユニットベース3252の前面に取付けられている裏

中駆動モータ 3 2 5 4 と、裏中駆動モータ 3 2 5 4 の回転が伝達されると共に取付ベース 3 2 5 3 の前面において回転可能に取付けられており上下から挟まれるように裏中左装飾体 3 2 1 0 のラックギアと裏中右装飾体 3 2 2 0 のラックギアとが噛合しているピニオンギア（図示は省略）と、を備えている。

【0919】

裏中可動演出ユニット 3 2 0 0 は、通常の状態では、左右の裏中左装飾体 3 2 1 0 及び裏中右装飾体 3 2 2 0 が、互いに最も離反した退避位置の状態となっている。この状態では、裏中左装飾体 3 2 1 0 及び裏中右装飾体 3 2 2 0 が、センター役物 2 5 0 0 の枠内を通して僅かに見えるようになっている（図 1 2 9 等を参照）。通常の状態から裏中駆動モータ 3 2 5 4 の駆動によりピニオンギアを正面視反時計回りの方向へ回転させると、ピニオンギアに噛合している裏中左装飾体 3 2 1 0 のラックギアと裏中右装飾体 3 2 2 0 のラックギアとにより、裏中左装飾体 3 2 1 0 が右方へ移動すると共に裏中右装飾体 3 2 2 0 が左方へ移動することとなる。

【0920】

これにより、互いに離反していた裏中左装飾体 3 2 1 0 と裏中右装飾体 3 2 2 0 とが互いに接近するように移動し、互いに当接する直前で移動が停止する。この状態では、裏中左装飾体 3 2 1 0 と裏中右装飾体 3 2 2 0 とが、遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 の前面側の略中央（出現位置）に位置した状態となり、裏中左装飾体 3 2 1 0 と裏中右装飾体 3 2 2 0 との装飾が合体して、一つの大きな装飾（桜の花卉を模した装飾）を形成した状態となる（図 1 8 5 を参照）。

【0921】

[5-9d. 裏左可動演出ユニット]

次に、裏ユニット 3 0 0 0 の裏左可動演出ユニット 3 3 0 0 について、主に図 1 4 5 及び図 1 4 6 を参照して詳細に説明する。裏左可動演出ユニット 3 3 0 0 は、裏箱 3 0 1 0 内における開口部 3 0 1 0 a の正面視左外側に取付けられている。裏左可動演出ユニット 3 3 0 0 は、裏箱 3 0 1 0 内の開口部 3 0 1 0 a を間にして、裏右可動演出ユニット 3 4 0 0 に対して略左右対称に形成されている。

【0922】

裏左可動演出ユニット 3 3 0 0 は、三角柱状に形成されている裏左装飾体 3 3 1 0 と、裏左装飾体 3 3 1 0 を上下に延びた軸線周りに回転させる裏左回転駆動ユニット 3 3 3 0 と、裏箱 3 0 1 0 内に取付けられ裏左回転駆動ユニット 3 3 3 0 の上端側を左右方向へ移動させる裏左移動駆動ユニット 3 3 5 0 と、裏箱 3 0 1 0 内に取付けられ裏左回転駆動ユニット 3 3 3 0 の下端側を左右方向へ移動可能に案内している裏左下案内レール 3 3 7 0 と、裏左移動駆動ユニット 3 3 5 0 の前側に取付けられており所定の装飾を有している裏左上装飾体 3 3 9 0 と、を備えている。

【0923】

裏左装飾体 3 3 1 0 は、上下に延びた三角柱状に形成されており、裏箱 3 0 1 0 における開口部 3 0 1 0 a の上下の高さよりも短く延びている。裏左装飾体 3 3 1 0 は、仁王像のレリーフが形成されている第一装飾面 3 3 1 1 と、所定の文字の装飾が形成されている第二装飾面 3 3 1 2 と、第二装飾面 3 3 1 2 とは異なる文字の装飾が形成されている第三装飾面 3 3 1 3 と、を備えている。裏左装飾体 3 3 1 0 は、透光性を有するように形成されている。また、裏左装飾体 3 3 1 0 は、図示は省略するが、下端に円筒状の軸部を備えている。

【0924】

裏左回転駆動ユニット 3 3 3 0 は、裏左移動駆動ユニット 3 3 5 0 により左右方向へ移動可能に取付けられる上下延びた移動ベース 3 3 3 1 と、前方へ突出するように移動ベース 3 3 3 1 の下部に取付けられており裏左装飾体 3 3 1 0 の下端を回転可能に支持している下回転ベース 3 3 3 2 と、裏左装飾体 3 3 1 0 の上側へ突出するように移動ベース 3 3 3 1 の上部に取付けられている上回転ベース（図示は省略）と、上回転ベースに回転軸が下方へ突出するように取付けられており、上回転ベースを貫通した回転軸が裏左装飾体 3

310の上端に取付けられている裏左回転駆動モータ（図示は省略）と、裏左回転駆動モータの外周を覆うように移動ベース3331に取付けられているモータカバー3333と、裏左装飾体3310の内部に配置されていると共に下端が下回転ベース3332に取付けられており前面に複数のLEDが実装されている裏左装飾基板3334（図134を参照）と、を備えている。

【0925】

移動ベース3331は、図示は省略するが、上端に左右へ延びたラックギアを備えている。下回転ベース3332は、裏左装飾体3310の円筒状の軸部の外周面に対して回転可能に支持している。この下回転ベース3332は、図示は省略するが、下面から下方へ突出し、裏左下案内レール3370に案内される突起を有している。

10

【0926】

裏左装飾基板3334は、円筒状の軸部内を通して裏左装飾体3310の内部に配置されている。この裏左装飾基板3334は、図示は省略するが、上端側が裏左装飾体3310の上端の下側において、相対的に回転可能に支持されている。これにより、裏左回転駆動モータの駆動によって裏左装飾体3310のみが回転するように形成されている。また、裏左装飾基板3334のLEDは常に前方を向いており、裏左装飾体3310における裏左装飾基板3334の前方に位置した部位（つまり、前方を向いている装飾面）のみを発光装飾させることができる。

【0927】

裏左移動駆動ユニット3350は、裏箱3010内である後壁の前面における開口部3010aより上側の左上隅に取付けられるユニットベース3351と、ユニットベース3351を貫通して回転軸が後方へ突出するようにユニットベース3351の前面に取付けられている裏左移動駆動モータ3352と、裏左移動駆動モータ3352の回転軸に取付けられている駆動ギア3353と、駆動ギア3353と噛合していると共に裏左回転駆動ユニット3330のラックギアと噛合しておりユニットベース3351に回転可能に取付けられているピニオンギア（図示は省略）と、ユニットベース3351の前面下部に取付けられており裏左回転駆動ユニット3330の移動ベース3331を左右方向へ移動可能に取付けているスライドレール（図示は省略）と、を備えている。

20

【0928】

裏左移動駆動ユニット3350は、裏左移動駆動モータ3352により駆動ギア3353を介してピニオンギアを正面視において反時計回りの方向へ回転させると、ピニオンギアに噛合しているラックギアにより裏左回転駆動ユニット3330（裏左装飾体3310）を右方へ移動させることができる。

30

【0929】

裏左下案内レール3370は、裏箱3010の後壁の前面における開口部3010aの下側で左端付近に取付けられる。裏左下案内レール3370は、左右に延びており、上面が開口した箱状に形成されている。この裏左下案内レール3370は、上面の開口に、裏左回転駆動ユニット3330の下回転ベース3332の下面から突出している突起を挿入することで、その突起を左右方向へ摺動可能に案内することができる。

【0930】

裏左上装飾体3390は、所定の装飾が形成された透光性を有する裏左上装飾レンズ3391と、裏左上装飾レンズ3391の後側に取付けられており裏左移動駆動ユニット3350のユニットベース3351の前面に取付けられる装飾体ベース3392と、装飾体ベース3392と裏左上装飾レンズ3391との間に取付けられており前面に複数のLEDが実装された裏左上装飾基板（図示は省略）と、を備えている。この裏左上装飾体3390は、裏左上装飾基板のLEDを発光させることで、裏左上装飾レンズ3391を発光装飾させることができる。

40

【0931】

この裏左可動演出ユニット3300は、通常の状態では、裏左移動駆動ユニット3350により裏左回転駆動ユニット3330（裏左装飾体3310）が、最も左側へ移動した

50

位置（退避位置）の状態となっている。この通常の状態では、裏左装飾体 3 3 1 0 が、裏前飾りユニット 3 1 0 0 における裏前左飾りユニット 3 1 2 0 の後方に位置しており、裏前左飾りユニット 3 1 2 0 に遮られて前方から殆ど視認することができない（図 1 2 9 等を参照）。

【0 9 3 2】

この通常の状態において、裏左移動駆動ユニット 3 3 5 0 の裏左移動駆動モータ 3 3 5 2 を駆動させることで、裏左回転駆動ユニット 3 3 3 0 を介して裏左装飾体 3 3 1 0 を右方へ移動させることができ、裏左移動駆動ユニット 3 3 5 0 のスライドレールの右端位置（出現位置）に到達すると、移動が停止する。この出現位置の状態では、裏左回転駆動ユニット 3 3 3 0 を介して裏左装飾体 3 3 1 0 が、裏前飾りユニット 3 1 0 0 における裏前左飾りユニット 3 1 2 0 よりも右側に位置していると共に、遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 の前面における左端付近に位置しており、センター役物 2 5 0 0 の枠内を通して視認可能な状態となっている（図 1 8 6 乃至図 1 8 8 を参照）。

【0 9 3 3】

また、裏左可動演出ユニット 3 3 0 0 は、裏左回転駆動ユニット 3 3 3 0 の裏左回転駆動モータにより裏左装飾体 3 3 1 0 をグルグルと回転させたり、裏左装飾体 3 3 1 0 の第一装飾面 3 3 1 1、第二装飾面 3 3 1 2、及び第三装飾面 3 3 1 3 の何れかが前方を向くように回転停止させたり、することができる。裏左装飾体 3 3 1 0 は、退避位置、及び出現位置、の何れの位置においても回転させることができる。

【0 9 3 4】

[5-9 e. 裏右可動演出ユニット]

次に、裏ユニット 3 0 0 0 の裏右可動演出ユニット 3 4 0 0 について、主に図 1 4 5 及び図 1 4 6 を参照して詳細に説明する。裏右可動演出ユニット 3 4 0 0 は、裏箱 3 0 1 0 内における開口部 3 0 1 0 a の正面視右外側に取付けられている。裏右可動演出ユニット 3 4 0 0 は、裏箱 3 0 1 0 内の開口部 3 0 1 0 a を間にして、裏左可動演出ユニット 3 3 0 0 に対して略左右対称に形成されている。

【0 9 3 5】

裏右可動演出ユニット 3 4 0 0 は、三角柱状に形成されている裏右装飾体 3 4 1 0 と、裏右装飾体 3 4 1 0 を上下に延びた軸線周りに回転させる裏右回転駆動ユニット 3 4 3 0 と、裏箱 3 0 1 0 内に取り付けられ裏右回転駆動ユニット 3 4 3 0 の上端側を左右方向へ移動させる裏右移動駆動ユニット 3 4 5 0 と、裏箱 3 0 1 0 内に取り付けられ裏右回転駆動ユニット 3 4 3 0 の下端側を左右方向へ移動可能に案内している裏右下案内レール 3 4 7 0 と、裏右移動駆動ユニット 3 4 5 0 の前側に取り付けられており所定の装飾を有している裏右上装飾体 3 4 9 0 と、を備えている。

【0 9 3 6】

裏右装飾体 3 4 1 0 は、上下に延びた三角柱状に形成されており、裏箱 3 0 1 0 における開口部 3 0 1 0 a の上下の高さよりも短く延びている。裏右装飾体 3 4 1 0 は、仁王像のレリーフが形成されている第一装飾面 3 4 1 1 と、所定の文字の装飾が形成されている第二装飾面 3 4 1 2 と、第二装飾面 3 4 1 2 とは異なる文字の装飾が形成されている第三装飾面 3 4 1 3 と、を備えている。裏右装飾体 3 4 1 0 は、透光性を有するように形成されている。また、裏右装飾体 3 4 1 0 は、図示は省略するが、下端に円筒状の軸部を備えている。

【0 9 3 7】

裏右回転駆動ユニット 3 4 3 0 は、裏右移動駆動ユニット 3 4 5 0 により左右方向へ移動可能に取り付けられる上下延びた移動ベース 3 4 3 1 と、前方へ突出するように移動ベース 3 4 3 1 の下部に取り付けられており裏右装飾体 3 4 1 0 の下端を回転可能に支持している下回転ベース 3 4 3 2 と、裏右装飾体 3 4 1 0 の上側へ突出するように移動ベース 3 4 3 1 の上部に取り付けられている上回転ベース（図示は省略）と、上回転ベースに回転軸が下方へ突出するように取り付けられており、上回転ベースを貫通した回転軸が裏右装飾体 3 4 1 0 の上端に取り付けられている裏右回転駆動モータ（図示は省略）と、裏右回転駆動モ

ータの外周を覆うように移動ベース 3 4 3 1 に取付けられているモータカバー 3 4 3 3 と、裏右装飾体 3 4 1 0 の内部に配置されていると共に下端が下回転ベース 3 4 3 2 に取付けられており前面に複数の LED が実装されている裏右装飾基板 3 4 3 4（図 1 3 4 を参照）と、を備えている。

【0 9 3 8】

移動ベース 3 4 3 1 は、図示は省略するが、上端に左右へ延びたラックギアを備えている。下回転ベース 3 4 3 2 は、裏右装飾体 3 4 1 0 の円筒状の軸部の外周面に対して回転可能に支持している。この下回転ベース 3 4 3 2 は、図示は省略するが、下面から下方へ突出し、裏右下案内レール 3 4 7 0 に案内される突起を有している。

【0 9 3 9】

裏右装飾基板 3 4 3 4 は、円筒状の軸部内を通して裏右装飾体 3 4 1 0 の内部に配置されている。この裏右装飾基板 3 4 3 4 は、図示は省略するが、上端側が裏右装飾体 3 4 1 0 の上端の下側において、相対的に回転可能に支持されている。これにより、裏右回転駆動モータの駆動によって裏右装飾体 3 4 1 0 のみが回転するように形成されている。また、裏右装飾基板 3 4 3 4 の LED は常に前方を向いており、裏右装飾体 3 4 1 0 における裏右装飾基板 3 4 3 4 の前方に位置した部位（つまり、前方を向いている装飾面）のみを発光装飾させることができる。

【0 9 4 0】

裏右移動駆動ユニット 3 4 5 0 は、裏箱 3 0 1 0 内である後壁の前面における開口部 3 0 1 0 a より上側の右上隅に取付けられるユニットベース 3 4 5 1 と、ユニットベース 3 4 5 1 を貫通して回転軸が後方へ突出するようにユニットベース 3 4 5 1 の前面に取付けられている裏右移動駆動モータ 3 4 5 2 と、裏右移動駆動モータ 3 4 5 2 の回転軸に取付けられている駆動ギア 3 4 5 3 と、駆動ギア 3 4 5 3 と噛合していると共に裏右回転駆動ユニット 3 4 3 0 のラックギアと噛合しておりユニットベース 3 4 5 1 に回転可能に取付けられているピニオンギア（図示は省略）と、ユニットベース 3 4 5 1 の前面下部に取付けられており裏右回転駆動ユニット 3 4 3 0 の移動ベース 3 4 3 1 を左右方向へ移動可能に取付けているスライドレール（図示は省略）と、を備えている。

【0 9 4 1】

裏右移動駆動ユニット 3 4 5 0 は、裏右移動駆動モータ 3 4 5 2 により駆動ギア 3 4 5 3 を介してピニオンギアを正面視において時計回りの方向へ回転させると、ピニオンギアに噛合しているラックギアにより裏右回転駆動ユニット 3 4 3 0（裏右装飾体 3 4 1 0）を左方へ移動させることができる。

【0 9 4 2】

裏右下案内レール 3 4 7 0 は、裏箱 3 0 1 0 の後壁の前面における開口部 3 0 1 0 a の下側で右端付近に取付けられる。裏右下案内レール 3 4 7 0 は、左右に延びており、上面が開口した箱状に形成されている。この裏右下案内レール 3 4 7 0 は、上面の開口に、裏右回転駆動ユニット 3 4 3 0 の下回転ベース 3 4 3 2 の下面から突出している突起を挿入することで、その突起を左右方向へ摺動可能に案内することができる。

【0 9 4 3】

裏右上装飾体 3 4 9 0 は、所定の装飾が形成された透光性を有する裏右上装飾レンズ 3 4 9 1 と、裏右上装飾レンズ 3 4 9 1 の後側に取付けられており裏右移動駆動ユニット 3 4 5 0 のユニットベース 3 4 5 1 の前面に取付けられる装飾体ベース 3 4 9 2 と、装飾体ベース 3 4 9 2 と裏右上装飾レンズ 3 4 9 1 との間に取付けられており前面に複数の LED が実装された裏右上装飾基板（図示は省略）と、を備えている。この裏右上装飾体 3 4 9 0 は、裏右上装飾基板の LED を発光させることで、裏右上装飾レンズ 3 4 9 1 を発光装飾させることができる。

【0 9 4 4】

この裏右可動演出ユニット 3 4 0 0 は、通常の状態では、裏右移動駆動ユニット 3 4 5 0 により裏右回転駆動ユニット 3 4 3 0（裏右装飾体 3 4 1 0）が、最も右側へ移動した位置（退避位置）の状態となっている。この通常の状態では、裏右装飾体 3 4 1 0 が、セ

10

20

30

40

50

ンター役物 2 5 0 0 における右辺側の後方に位置しており、一部を、センター役物 2 5 0 0 の枠内を通して視認することができる（図 1 2 9 等を参照）。

【0 9 4 5】

この通常の状態において、裏右移動駆動ユニット 3 4 5 0 の裏右移動駆動モータ 3 4 5 2 を駆動させることで、裏右回転駆動ユニット 3 4 3 0 を介して裏右装飾体 3 4 1 0 を右方へ移動させることができ、裏右移動駆動ユニット 3 4 5 0 のスライドレールの左端位置（出現位置）に到達すると、移動が停止する。この出現位置の状態では、裏右回転駆動ユニット 3 4 3 0 を介して裏右装飾体 3 4 1 0 が、センター役物 2 5 0 0 における右辺側よりも左側に位置していると共に、遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 の前面における右端付近に位置しており、センター役物 2 5 0 0 の枠内を通して全体が視認可能な状態となっている（図 1 8 6 乃至図 1 8 8 を参照）。

10

【0 9 4 6】

また、裏右可動演出ユニット 3 4 0 0 は、裏右回転駆動ユニット 3 4 3 0 の裏右回転駆動モータにより裏右装飾体 3 4 1 0 をグルグルと回転させたり、裏右装飾体 3 4 1 0 の第一装飾面 3 4 1 1、第二装飾面 3 4 1 2、及び第三装飾面 3 4 1 3 の何れかが前方を向くように回転停止させたり、することができる。裏右装飾体 3 4 1 0 は、退避位置、及び出現位置、の何れの位置においても回転させることができる。

【0 9 4 7】

[5-9 f. 裏上可動演出ユニットの全体構成]

次に、裏ユニット 3 0 0 0 における裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 の全体構成について、主に図 1 4 8 乃至図 1 7 3 を参照して詳細に説明する。図 1 4 8 (a) は裏ユニットにおける裏上可動演出ユニットを前から見た斜視図であり、(b) は裏上可動演出ユニットを後ろから見た斜視図である。図 1 4 9 は裏上可動演出ユニットを主に構成ユニット毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図 1 5 0 は裏上可動演出ユニットを主な構成ユニット毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 は、裏箱 3 0 1 0 内において、後壁の前面で開口部 3 0 1 0 a の上側に取付けられる。

20

【0 9 4 8】

裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 は、所定の文字の装飾を有した裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 と、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 とは異なる文字の装飾を有した裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 と、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 及び裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 とは異なる文字の装飾を有した裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 と、長手方向の中央において裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 が前後に延びた軸線周りに対して相対的に回転可能に取付けられると共に、長手方向の両端付近において裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 が夫々前後に延びた軸線周りに対して相対的に回転可能に取付けられている裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 と、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 を貫通して裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 を回転不能に取付けていると共に、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 と裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 とを昇降させ、裏箱 3 0 1 0 内に取付けられる裏上昇降ユニット 3 6 0 0 と、を備えている。

30

【0 9 4 9】

[5-9 f-1. 裏上第一装飾体ユニット]

次に、裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 における裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 について、主に図 1 5 1 乃至図 1 5 4 を参照して詳細に説明する。図 1 5 1 (a) は裏上可動演出ユニットにおける裏上第一装飾体ユニットを前から見た斜視図であり、(b) は裏上第一装飾体ユニットを後ろから見斜視図である。図 1 5 2 は裏上第一装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図 1 5 3 は裏上第一装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図 1 5 4 (a) は裏上第一装飾体ユニットが閉位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、(b) は裏上第一装飾体ユニットが開位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 の裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 は、後端が、裏上昇降ユニット 3 6 0 0 における可動側ユニット 3 6 1 0 の前面に回転不能に取付けられている。

40

50

【0950】

裏上第一装飾体ユニット3510は、一対一組で所定の文字となるような装飾が形成されており透光性を有する第一左可動装飾レンズ3511及び第一右可動装飾レンズ3512と、第一左可動装飾レンズ3511及び第一右可動装飾レンズ3512の後側に配置されており所定の装飾が形成された透光性を有する第一固定装飾レンズ3513と、第一固定装飾レンズ3513の後側に配置されており前面に複数のLEDが実装されている裏上第一装飾基板3514と、裏上第一装飾基板3514の後面を覆うように第一固定装飾レンズ3513の後側に取付けられている平板状の第一装飾体ベース3515と、を備えている。なお、第一固定装飾レンズ3513には、稲妻を模したような装飾が形成されている。

10

【0951】

また、裏上第一装飾体ユニット3510は、第一装飾体ベース3515の後側の下部において左右方向へ延びていると共に左端が第一装飾体ベース3515の左外側で第一左可動装飾レンズ3511の後側に取付けられており、上辺に左右に延びたラックギア3516a、及びラックギア3516aの下側で前後に貫通し左右に延びているスリット3516bを有する第一下アーム3516と、第一下アーム3516のスリット3516bを通して第一装飾体ベース3515の後側に取付けられており第一装飾体ベース3515と協働して第一下アーム3516を左右方向へスライド可能に取付けている下アーム押え3517と、を備えている。

【0952】

20

また、裏上第一装飾体ユニット3510は、第一装飾体ベース3515の後側の上部において左右方向へ延びていると共に右端が第一装飾体ベース3515の右外側で第一右可動装飾レンズ3512の後側に取付けられており、下辺に左右に延びたラックギア3518a、及びラックギア3518aの上側で前後に貫通し左右に延びているスリット3518bを有する第一上アーム3518と、第一上アーム3518のスリット3518bを通して第一装飾体ベース3515の後側に取付けられており第一装飾体ベース3515と協働して第一上アーム3518を左右方向へスライド可能に取付けている上アーム押え3519と、を備えている。

【0953】

30

更に、裏上第一装飾体ユニット3510は、第一下アーム3516のラックギア3516aと第一上アーム3518のラックギア3518aとに夫々噛合する大径の伝達ギア部3520a、及び伝達ギア部3520aの後面に一体的に形成されている小径の駆動ギア部3520bを有し、第一装飾体ベース3515の後側に回転可能に取付けられている第一開閉ギア部材3520を、備えている。

【0954】

40

また、裏上第一装飾体ユニット3510は、第一装飾体ベース3515の後側における第一開閉ギア部材3520の正面視左側において平板状で上下方向へ延びており、右辺に第一開閉ギア部材3520の駆動ギア部3520bと噛合する上下に延びた駆動ラックギア3521a、後面の下部から後方へ円柱状に突出している受ボス3521b、及び左辺付近において前後に貫通し上下に延びているスリット3521cを有する第一開閉アーム3521と、第一開閉アーム3521のスリット3521cを通して第一装飾体ベース3515の後側に取付けられており第一装飾体ベース3515と協働して第一開閉アーム3521を上下方向へスライド可能に取付けている開閉アーム押え3522と、を備えている。

【0955】

更に、裏上第一装飾体ユニット3510は、左端が第一装飾体ベース3515の後側に取付けられておりと共に右端が第一上アーム3518に取付けられており第一上アーム3518を正面視左方へ移動するように付勢している第一開閉バネ3523と、第一開閉ギア部材3520の後側を覆うように第一装飾体ベース3515の後側に取付けられている第一取付ベース3524と、第一取付ベース3524の後側に取付けられており、右側の

50

外周面に開口している水平ロック孔 3 5 2 5 a、前後方向が水平ロック孔 3 5 2 5 a と同じ位置に形成されており下側の外周面に開口している垂直ロック孔 3 5 2 5 b、及び垂直ロック孔 3 5 2 5 b よりも後側において円筒状に後方へ突出している取付軸部 3 5 2 5 c を有し、取付軸部 3 5 2 5 c の後端が裏上昇降ユニット 3 6 0 0 における可動側ユニット 3 6 1 0 の前面に取付けられる第一取付軸部材 3 5 2 5 と、を備えている。

【0956】

続いて、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 の動きについて詳述する。裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 は、左右の第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 と第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2 とが、互いに接近して当接した閉位置と、互いに離反した開位置との間で左右方向へスライドするように形成されている。

10

【0957】

裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 は、第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 が取付けられている第一下アーム 3 5 1 6 の上方に、第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2 が取付けられている第一上アーム 3 5 1 8 が配置されており、夫々が左右方向へスライド可能に取付けられている。第一下アーム 3 5 1 6 では、左右に延びたラックギア 3 5 1 6 a が上方へ向けて備えられていると共に、第一上アーム 3 5 1 8 では、左右に延びたラックギア 3 5 1 8 a が下方へ向けて備えられており、第一下アーム 3 5 1 6 のラックギア 3 5 1 6 a と第一上アーム 3 5 1 8 のラックギア 3 5 1 8 a とが互いに対向している。そして、第一下アーム 3 5 1 6 と第一上アーム 3 5 1 8 との間において、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 の伝達ギア部 3 5 2 0 a が、第一下アーム 3 5 1 6 のラックギア 3 5 1 6 a と第一上アーム 3 5 1 8 のラックギア 3 5 1 8 a とに夫々噛合している。これにより、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 (伝達ギア部 3 5 2 0 a) を回転させると、第一下アーム 3 5 1 6 と第一上アーム 3 5 1 8 とを互いに左右方向の異なる方向へスライドさせることができる。

20

【0958】

従って、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 を正面視において反時計回りの方向へ回転させると、第一下アーム 3 5 1 6 及び第一上アーム 3 5 1 8 を介して、第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 と第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2 とを互いに接近する方向 (閉位置の方向) へスライドさせることができ、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 を正面視時計回りの方向へ回転させると、第一下アーム 3 5 1 6 及び第一上アーム 3 5 1 8 を介して、第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 と第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2 とを互いに離反する方向 (開位置の方向) へスライドさせることができる。

30

【0959】

また、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 では、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 に、伝達ギア部 3 5 2 0 a と一体回転する駆動ギア部 3 5 2 0 b を有していると共に、駆動ギア部 3 5 2 0 b と噛合する上下に延びた駆動ラックギア 3 5 2 1 a を有した第一開閉アーム 3 5 2 1 を備えている。この第一開閉アーム 3 5 2 1 は、上下方向へスライド可能に取付けられていることから、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 が回転すると、上下方向へスライドすることとなる。そして、第一開閉アーム 3 5 2 1 は、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 の正面視左側に配置されていることから、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 を正面視反時計回りの方向へ回転させると下方へスライドし、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 を正面視時計周りの方向へ回転させると上方へスライドする。

40

【0960】

換言すると、第一開閉アーム 3 5 2 1 を下方へスライドさせると、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 が正面視反時計回りの方向へ回転して、第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 と第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2 とを互いに接近する方向 (閉位置の方向) へスライドさせることができる。一方、第一開閉アーム 3 5 2 1 を上方へスライドさせると、第一開閉ギア部材 3 5 2 0 が正面視時計回りの方向へ回転して、第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 と第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2 とを互いに離反する方向 (開位置の方向) へスライドさせることができる。

【0961】

50

この裏上第一装飾体ユニット 3510 は、第一上アーム 3518 が左方へ移動するように付勢している第一開閉バネ 3523 を有しているため、第一開閉アーム 3521 に力が作用していない時（通常の状態の時）には、第一開閉バネ 3523 の付勢力により、第一上アーム 3518 が左方へスライドさせられ、第一左可動装飾レンズ 3511 と第一右可動装飾レンズ 3512 とが互いに当接した閉位置の状態となる。この閉位置の状態では、第一開閉ギア部材 3520 の伝達ギア部 3520a が、第一下アーム 3516 におけるラックギア 3516a の左端付近と噛合していると共に、第一上アーム 3518 におけるラックギア 3518a の右端付近と噛合している。また、この状態では、第一開閉ギア部材 3520 の駆動ギア部 3520b が、第一開閉アーム 3521 における駆動ラックギア 3521a の上端付近と噛合している（図 154（a）を参照）。 10

【0962】

この閉位置の状態から、第一開閉バネ 3523 の付勢力に抗するように第一開閉アーム 3521 を上方へスライドさせると、第一開閉ギア部材 3520 が正面視時計回りの方向へ回転し、第一下アーム 3516 及び第一上アーム 3518 を介して、第一左可動装飾レンズ 3511 と第一右可動装飾レンズ 3512 とが互いに離反する方向へスライドする。そして、第一左可動装飾レンズ 3511 と第一右可動装飾レンズ 3512 とが開位置に到達すると、スライドが停止する（図 154（b）を参照）。この開位置でのスライドの停止は、第一下アーム 3516 のスリット 3516b、第一上アーム 3518 のスリット 3518b、及び第一開閉アーム 3521 のスリット 3521c、の少なくとも一つにおいて長孔の端部に、下アーム押え 3517、上アーム押え 3519、及び開閉アーム押え 3522、が当接することでスライドが規制される。 20

【0963】

従って、裏上第一装飾体ユニット 3510 は、第一左可動装飾レンズ 3511 と第一右可動装飾レンズ 3512 とが閉位置の時には、第一左可動装飾レンズ 3511 と第一右可動装飾レンズ 3512 とが第一固定装飾レンズ 3513 の前方に位置し、第一固定装飾レンズ 3513 が前方から殆ど見えない状態となると共に、第一左可動装飾レンズ 3511 と第一右可動装飾レンズ 3512 とにより所定の文字の装飾が見える状態となる。一方、第一左可動装飾レンズ 3511 と第一右可動装飾レンズ 3512 とが開位置の時には、第一左可動装飾レンズ 3511 と第一右可動装飾レンズ 3512 とが離反してそれらの間から第一固定装飾レンズ 3513 の装飾が見える状態となる。 30

【0964】

また、裏上第一装飾体ユニット 3510 は、裏上第一装飾基板 3514 の LED を適宜発光させることで、第一左可動装飾レンズ 3511、第一右可動装飾レンズ 3512、及び第一固定装飾レンズ 3513 を、適宜発光装飾させることができる。具体的には、第一左可動装飾レンズ 3511 と第一右可動装飾レンズ 3512 とが閉位置の時に、裏上第一装飾基板 3514 の LED を発光させると、第一固定装飾レンズ 3513 を介して第一左可動装飾レンズ 3511 と第一右可動装飾レンズ 3512 と発光装飾させることができる。一方、第一左可動装飾レンズ 3511 と第一右可動装飾レンズ 3512 とが開位置の時に、裏上第一装飾基板 3514 の LED を発光させると、第一左可動装飾レンズ 3511 と第一右可動装飾レンズ 3512 との間から臨む第一固定装飾レンズ 3513 のみを発光装飾させることができる。 40

【0965】

[5-9f-2. 裏上第二装飾体ユニット]

次に、裏上可動演出ユニット 3500 における裏上第二装飾体ユニット 3530 について、主に図 155 乃至図 158 を参照して詳細に説明する。図 155（a）は裏上可動演出ユニットにおける裏上第二装飾体ユニットを前から見た斜視図であり、（b）は裏上第二装飾体ユニットを後ろから見斜視図である。図 156 は裏上第二装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図 157 は裏上第二装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図 158（a）は裏上第二装飾体ユニットが閉位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、（b）は裏上第二装飾体ユニットが開位置の時の駆動系 50

を正面から示す説明図である。裏上可動演出ユニット 3500 の裏上第二装飾体ユニット 3530 は、後端が、裏上回転ベースユニット 3570 の長手方向の一方の端部付近（水平位置の時の右端部付近）に、前後方向へ延びた軸周りに回転可能に取付けられている。

【0966】

裏上第二装飾体ユニット 3530 は、一対一組で所定の文字となるような装飾が形成されており透光性を有する第二左可動装飾レンズ 3531 及び第二右可動装飾レンズ 3532 と、第二左可動装飾レンズ 3531 及び第二右可動装飾レンズ 3532 の後側に配置されており所定の装飾が形成された透光性を有する第二固定装飾レンズ 3533 と、第二固定装飾レンズ 3533 の後側に配置されており前面に複数の LED が実装されている裏上第二装飾基板 3534 と、裏上第二装飾基板 3534 の後面を覆うように第二固定装飾レンズ 3533 の後側に取付けられている平板状の第二装飾体ベース 3535 と、を備えている。なお、第二固定装飾レンズ 3533 には、稲妻を模したような装飾が形成されている。

10

【0967】

また、裏上第二装飾体ユニット 3530 は、第二装飾体ベース 3535 の後側の下部において左右方向へ延びていると共に左端が第二装飾体ベース 3535 の左外側で第二左可動装飾レンズ 3531 の後側に取付けられており、上辺に左右に延びたラックギア 3536a、及びラックギア 3536a の下側で前後に貫通し左右に延びているスリット 3536b を有する第二下アーム 3536 と、第二下アーム 3536 のスリット 3536b を通して第二装飾体ベース 3535 の後側に取付けられており第二装飾体ベース 3535 と協働して第二下アーム 3536 を左右方向へスライド可能に取付けている下アーム押え 3537 と、を備えている。

20

【0968】

また、裏上第二装飾体ユニット 3530 は、第二装飾体ベース 3535 の後側の上部において左右方向へ延びていると共に右端が第二装飾体ベース 3535 の右外側で第二右可動装飾レンズ 3532 の後側に取付けられており、下辺に左右に延びたラックギア 3538a、及びラックギア 3538a の上側で前後に貫通し左右に延びているスリット 3538b を有する第二上アーム 3538 と、第二上アーム 3538 のスリット 3538b を通して第二装飾体ベース 3535 の後側に取付けられており第二装飾体ベース 3535 と協働して第二上アーム 3538 を左右方向へスライド可能に取付けている上アーム押え 3539 と、を備えている。

30

【0969】

更に、裏上第二装飾体ユニット 3530 は、第二下アーム 3536 のラックギア 3536a と第二上アーム 3538 のラックギア 3538a とに夫々噛合する大径の伝達ギア部 3540a、及び伝達ギア部 3540a の後面に一体的に形成されている小径の駆動ギア部 3540b を有し、第二装飾体ベース 3535 の後側に回転可能に取付けられている第二開閉ギア部材 3540 を、備えている。

【0970】

また、裏上第二装飾体ユニット 3530 は、第二装飾体ベース 3535 の後側における第二開閉ギア部材 3540 の正面視左側において平板状で上下方向へ延びており、右辺に第二開閉ギア部材 3540 の駆動ギア部 3540b と噛合する上下に延びた駆動ラックギア 3541a、後面の上端部付近から後方へ円柱状に突出している受ボス 3541b、及び左辺付近において前後に貫通し上下に延びているスリット 3541c を有する第二開閉アーム 3541 と、第二開閉アーム 3541 のスリット 3541c を通して第二装飾体ベース 3535 の後側に取付けられており第二装飾体ベース 3535 と協働して第二開閉アーム 3541 を上下方向へスライド可能に取付けている開閉アーム押え 3542 と、を備えている。

40

【0971】

更に、裏上第二装飾体ユニット 3530 は、左端が第二下アーム 3536 に取付けられておりと共に右端が第二装飾体ベース 3535 の後側に取付けられており第二下アーム 3

50

536を正面視右方へ移動するように付勢している第二開閉バネ3543と、第二開閉ギア部材3540の後側を覆うように第二装飾体ベース3535の後側に取付けられている第二取付ベース3544と、を備えている。第二取付ベース3544は、後述する裏上回転ベースユニット3570の第二用駆動リンクギア部材3573に取付けられている。

【0972】

続いて、裏上第二装飾体ユニット3530の動きについて詳述する。裏上第二装飾体ユニット3530は、左右の第二左可動装飾レンズ3531と第二右可動装飾レンズ3532とが、互いに接近して当接した閉位置と、互いに離反した開位置との間で左右方向へスライドするように形成されている。

【0973】

裏上第二装飾体ユニット3530は、第二左可動装飾レンズ3531が取付けられている第二下アーム3536の上方に、第二右可動装飾レンズ3532が取付けられている第二上アーム3538が配置されており、夫々が左右方向へスライド可能に取付けられている。第二下アーム3536では、左右に延びたラックギア3536aが上方へ向けて備えられていると共に、第二上アーム3538では、左右に延びたラックギア3538aが下方へ向けて備えられており、第二下アーム3536のラックギア3536aと第二上アーム3538のラックギア3538aとが互に対向している。そして、第二下アーム3536と第二上アーム3538との間において、第二開閉ギア部材3540の伝達ギア部3540aが、第二下アーム3536のラックギア3536aと第二上アーム3538のラックギア3538aとに夫々噛合している。これにより、第二開閉ギア部材3540（伝達ギア部3540a）を回転させると、第二下アーム3536と第二上アーム3538とを互いに左右方向の異なる方向へスライドさせることができる。

【0974】

従って、第二開閉ギア部材3540を正面視において反時計回りの方向へ回転させると、第二下アーム3536及び第二上アーム3538を介して、第二左可動装飾レンズ3531と第二右可動装飾レンズ3532とを互いに接近する方向（閉位置の方向）へスライドさせることができ、第二開閉ギア部材3540を正面視時計回りの方向へ回転させると、第二下アーム3536及び第二上アーム3538を介して、第二左可動装飾レンズ3531と第二右可動装飾レンズ3532とを互いに離反する方向（開位置の方向）へスライドさせることができる。

【0975】

また、裏上第二装飾体ユニット3530では、第二開閉ギア部材3540に、伝達ギア部3540aと一体回転する駆動ギア部3540bを有していると共に、駆動ギア部3540bと噛合する上下に延びた駆動ラックギア3541aを有した第二開閉アーム3541を備えている。この第二開閉アーム3541は、上下方向へスライド可能に取付けられていることから、第二開閉ギア部材3540が回転すると、上下方向へスライドすることとなる。そして、第二開閉アーム3541は、第二開閉ギア部材3540の正面視左側に配置されていることから、第二開閉ギア部材3540を正面視反時計回りの方向へ回転させると下方へスライドし、第二開閉ギア部材3540を正面視時計周りの方向へ回転させると上方へスライドする。

【0976】

換言すると、第二開閉アーム3541を下方へスライドさせると、第二開閉ギア部材3540が正面視反時計回りの方向へ回転して、第二左可動装飾レンズ3531と第二右可動装飾レンズ3532とを互いに接近する方向（閉位置の方向）へスライドさせることができる。一方、第二開閉アーム3541を上方へスライドさせると、第二開閉ギア部材3540が正面視時計回りの方向へ回転して、第二左可動装飾レンズ3531と第二右可動装飾レンズ3532とを互いに離反する方向（開位置の方向）へスライドさせることができる。

【0977】

この裏上第二装飾体ユニット3530は、第二下アーム3536が右方へ移動するよう

10

20

30

40

50

に付勢している第二開閉バネ 3 5 4 3 を有しているため、第二開閉アーム 3 5 4 1 に力が作用していない時（通常の状態の時）には、第二開閉バネ 3 5 4 3 の付勢力により、第二下アーム 3 5 3 6 が右方へスライドさせられ、第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 と第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2 とが互いに当接した閉位置の状態となる。この閉位置の状態では、第二開閉ギア部材 3 5 4 0 の伝達ギア部 3 5 4 0 a が、第二下アーム 3 5 3 6 におけるラックギア 3 5 3 6 a の左端付近と噛合していると共に、第二上アーム 3 5 3 8 におけるラックギア 3 5 3 8 a の右端付近と噛合している。また、この状態では、第二開閉ギア部材 3 5 4 0 の駆動ギア部 3 5 4 0 b が、第二開閉アーム 3 5 4 1 における駆動ラックギア 3 5 4 1 a の上端付近と噛合している（図 1 5 8（a）を参照）。

【0978】

この閉位置の状態から、第二開閉バネ 3 5 4 3 の付勢力に抗するように第二開閉アーム 3 5 4 1 を上方へスライドさせると、第二開閉ギア部材 3 5 4 0 が正面視時計回りの方向へ回転し、第二下アーム 3 5 3 6 及び第二上アーム 3 5 3 8 を介して、第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 と第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2 とが互いに離反する方向へスライドする。そして、第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 と第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2 とが開位置に到達すると、スライドが停止する（図 1 5 8（b）を参照）。この開位置でのスライドの停止は、第二下アーム 3 5 3 6 のスリット 3 5 3 6 b、第二上アーム 3 5 3 8 のスリット 3 5 3 8 b、及び第二開閉アーム 3 5 4 1 のスリット 3 5 4 1 c、の少なくとも一つにおいて長孔の端部に、下アーム押え 3 5 3 7、上アーム押え 3 5 3 9、及び開閉アーム押え 3 5 4 2、が当接することでスライドが規制される。

【0979】

従って、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 は、第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 と第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2 とが閉位置の時には、第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 と第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2 とが第二固定装飾レンズ 3 5 3 3 の前方に位置し、第二固定装飾レンズ 3 5 3 3 が前方から殆ど見えない状態となると共に、第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 と第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2 とにより所定の文字の装飾が見える状態となる。一方、第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 と第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2 とが開位置の時には、第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 と第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2 とが離反してそれらの間から第二固定装飾レンズ 3 5 3 3 の装飾が見える状態となる。

【0980】

また、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 は、裏上第二装飾基板 3 5 3 4 の LED を適宜発光させることで、第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1、第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2、及び第二固定装飾レンズ 3 5 3 3 を、適宜発光装飾させることができる。具体的には、第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 と第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2 とが閉位置の時に、裏上第二装飾基板 3 5 3 4 の LED を発光させると、第二固定装飾レンズ 3 5 3 3 を介して第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 と第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2 と発光装飾させることができる。一方、第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 と第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2 とが開位置の時に、裏上第二装飾基板 3 5 3 4 の LED を発光させると、第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 と第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2 との間から臨む第二固定装飾レンズ 3 5 3 3 のみを発光装飾させることができる。

【0981】

[5-9f-3. 裏上第三装飾体ユニット]

次に、裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 における裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 について、主に図 1 5 9 乃至図 1 6 2 を参照して詳細に説明する。図 1 5 9（a）は裏上可動演出ユニットにおける裏上第三装飾体ユニットを前から見た斜視図であり、（b）は裏上第三装飾体ユニットを後ろから見た斜視図である。図 1 6 0 は裏上第三装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図 1 6 1 は裏上第三装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図 1 6 2（a）は裏上第三装飾体ユニットが閉位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、（b）は裏上第三装飾体ユニットが開位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 の裏上第三装飾体ユニット

3550は、後端が、裏上回転ベースユニット3570の長手方向の裏上第二装飾体ユニット3530とは反対側の端部付近（水平位置の時の左端部付近）に、前後方向へ延びた軸周りに回転可能に取付けられている。

【0982】

裏上第三装飾体ユニット3550は、一対一組で所定の文字となるような装飾が形成されており透光性を有する第三左可動装飾レンズ3551及び第三右可動装飾レンズ3552と、第三左可動装飾レンズ3551及び第三右可動装飾レンズ3552の後側に配置されており所定の装飾が形成された透光性を有する第三固定装飾レンズ3553と、第三固定装飾レンズ3553の後側に配置されており前面に複数のLEDが実装されている裏上第三装飾基板3554と、裏上第三装飾基板3554の後面を覆うように第三固定装飾レンズ3553の後側に取付けられている平板状の第三装飾体ベース3555と、を備えている。なお、第三固定装飾レンズ3553には、稲妻を模したような装飾が形成されている。

10

【0983】

また、裏上第三装飾体ユニット3550は、第三装飾体ベース3555の後側の下部において左右方向へ延びていると共に左端が第三装飾体ベース3555の左外側で第三左可動装飾レンズ3551の後側に取付けられており、上辺に左右に延びたラックギア3556a、及びラックギア3556aの下側で前後に貫通し左右に延びているスリット3556bを有する第三下アーム3556と、第三下アーム3556のスリット3556bを通して第三装飾体ベース3555の後側に取付けられており第三装飾体ベース3555と協働して第三下アーム3556を左右方向へスライド可能に取付けている下アーム押え3557と、を備えている。

20

【0984】

また、裏上第三装飾体ユニット3550は、第三装飾体ベース3555の後側の上部において左右方向へ延びていると共に右端が第三装飾体ベース3555の右外側で第三右可動装飾レンズ3552の後側に取付けられており、下辺に左右に延びたラックギア3558a、及びラックギア3558aの上側で前後に貫通し左右に延びているスリット3558bを有する第三上アーム3558と、第三上アーム3558のスリット3558bを通して第三装飾体ベース3555の後側に取付けられており第三装飾体ベース3555と協働して第三上アーム3558を左右方向へスライド可能に取付けている上アーム押え3559と、を備えている。

30

【0985】

更に、裏上第三装飾体ユニット3550は、第三下アーム3556のラックギア3556aと第三上アーム3558のラックギア3558aとに夫々噛合する大径の伝達ギア部3560a、及び伝達ギア部3560aの後面に一体的に形成されている小径の駆動ギア部3560bを有し、第三装飾体ベース3555の後側に回転可能に取付けられている第三開閉ギア部材3560を、備えている。

【0986】

また、裏上第三装飾体ユニット3550は、第三装飾体ベース3555の後側における第三開閉ギア部材3560の正面視左側において平板状で上下方向へ延びており、右辺に第三開閉ギア部材3560の駆動ギア部3560bと噛合する上下に延びた駆動ラックギア3561a、及び左辺付近において前後に貫通し上下に延びているスリット3561cを有する第三開閉アーム3561と、第三開閉アーム3561のスリット3561cを通して第三装飾体ベース3555の後側に取付けられており第三装飾体ベース3555と協働して第三開閉アーム3561を上下方向へスライド可能に取付けている開閉アーム押え3562と、を備えている。

40

【0987】

更に、裏上第三装飾体ユニット3550は、左端が第三下アーム3556に取付けられておりと共に右端が第三装飾体ベース3555の後側に取付けられており第三下アーム3556を正面視右方へ移動するように付勢している第三開閉バネ3563と、第三開閉ギ

50

ア部材 3 5 6 0 の後側を覆うように第三装飾体ベース 3 5 5 5 の後側に取り付けられている第三取付ベース 3 5 6 4 と、を備えている。第三取付ベース 3 5 6 4 は、後述する裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 に取り付けられている。

【0988】

続いて、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 の動きについて詳述する。裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 は、左右の第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 と第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 とが、互いに接近して当接した閉位置と、互いに離反した開位置との間で左右方向へスライドするように形成されている。

【0989】

裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 は、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 が取り付けられている第三下アーム 3 5 5 6 の上方に、第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 が取り付けられている第三上アーム 3 5 5 8 が配置されており、夫々が左右方向へスライド可能に取り付けられている。第三下アーム 3 5 5 6 では、左右に延びたラックギア 3 5 5 6 a が上方へ向けて備えられていると共に、第三上アーム 3 5 5 8 では、左右に延びたラックギア 3 5 5 8 a が下方へ向けて備えられており、第三下アーム 3 5 5 6 のラックギア 3 5 5 6 a と第三上アーム 3 5 5 8 のラックギア 3 5 5 8 a とが互いに対向している。そして、第三下アーム 3 5 5 6 と第三上アーム 3 5 5 8 との間において、第三開閉ギア部材 3 5 6 0 の伝達ギア部 3 5 6 0 a が、第三下アーム 3 5 5 6 のラックギア 3 5 5 6 a と第三上アーム 3 5 5 8 のラックギア 3 5 5 8 a とに夫々噛合している。これにより、第三開閉ギア部材 3 5 6 0 （伝達ギア部 3 5 6 0 a ）を回転させると、第三下アーム 3 5 5 6 と第三上アーム 3 5 5 8 とを互いに左右方向の異なる方向へスライドさせることができる。

【0990】

従って、第三開閉ギア部材 3 5 6 0 を正面視において反時計回りの方向へ回転させると、第三下アーム 3 5 5 6 及び第三上アーム 3 5 5 8 を介して、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 と第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 とを互いに接近する方向（閉位置の方向）へスライドさせることができ、第三開閉ギア部材 3 5 6 0 を正面視時計回りの方向へ回転させると、第三下アーム 3 5 5 6 及び第三上アーム 3 5 5 8 を介して、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 と第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 とを互いに離反する方向（開位置の方向）へスライドさせることができる。

【0991】

また、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 では、第三開閉ギア部材 3 5 6 0 に、伝達ギア部 3 5 6 0 a と一体回転する駆動ギア部 3 5 6 0 b を有していると共に、駆動ギア部 3 5 6 0 b と噛合する上下に延びた駆動ラックギア 3 5 6 1 a を有した第三開閉アーム 3 5 6 1 を備えている。この第三開閉アーム 3 5 6 1 は、上下方向へスライド可能に取り付けられていることから、第三開閉ギア部材 3 5 6 0 が回転すると、上下方向へスライドすることとなる。そして、第三開閉アーム 3 5 6 1 は、第三開閉ギア部材 3 5 6 0 の正面視左側に配置されていることから、第三開閉ギア部材 3 5 6 0 を正面視反時計回りの方向へ回転させると下方へスライドし、第三開閉ギア部材 3 5 6 0 を正面視時計周りの方向へ回転させると上方へスライドする。

【0992】

換言すると、第三開閉アーム 3 5 6 1 を下方へスライドさせると、第三開閉ギア部材 3 5 6 0 が正面視反時計回りの方向へ回転して、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 と第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 とを互いに接近する方向（閉位置の方向）へスライドさせることができる。一方、第三開閉アーム 3 5 6 1 を上方へスライドさせると、第三開閉ギア部材 3 5 6 0 が正面視時計回りの方向へ回転して、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 と第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 とを互いに離反する方向（開位置の方向）へスライドさせることができる。

【0993】

この裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 は、第三下アーム 3 5 5 6 が右方へ移動するように付勢している第三開閉バネ 3 5 6 3 を有しているため、第三開閉アーム 3 5 6 1 に力が

作用していない時（通常の状態の時）には、第三開閉パネ 3 5 6 3 の付勢力により、第三下アーム 3 5 5 6 が右方へスライドさせられ、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 と第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 とが互いに当接した閉位置の状態となる。この閉位置の状態では、第三開閉ギア部材 3 5 6 0 の伝達ギア部 3 5 6 0 a が、第三下アーム 3 5 5 6 におけるラックギア 3 5 5 6 a の左端付近と噛合していると共に、第三上アーム 3 5 5 8 におけるラックギア 3 5 5 8 a の右端付近と噛合している。また、この状態では、第三開閉ギア部材 3 5 6 0 の駆動ギア部 3 5 6 0 b が、第三開閉アーム 3 5 6 1 における駆動ラックギア 3 5 6 1 a の上端付近と噛合している（図 1 6 2 （a）を参照）。

【0994】

この閉位置の状態から、第三開閉パネ 3 5 6 3 の付勢力に抗するように第三開閉アーム 3 5 6 1 を上方へスライドさせると、第三開閉ギア部材 3 5 6 0 が正面視時計回りの方向へ回転し、第三下アーム 3 5 5 6 及び第三上アーム 3 5 5 8 を介して、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 と第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 とが互いに離反する方向へスライドする。そして、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 と第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 とが開位置に到達すると、スライドが停止する（図 1 6 2 （b）を参照）。この開位置でのスライドの停止は、第三下アーム 3 5 5 6 のスリット 3 5 5 6 b、第三上アーム 3 5 5 8 のスリット 3 5 5 8 b、及び第三開閉アーム 3 5 6 1 のスリット 3 5 6 1 c、の少なくとも一つにおいて長孔の端部に、下アーム押え 3 5 5 7、上アーム押え 3 5 5 9、及び開閉アーム押え 3 5 6 2、が当接することでスライドが規制される。

【0995】

従って、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 は、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 と第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 とが閉位置の時には、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 と第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 とが第三固定装飾レンズ 3 5 5 3 の前方に位置し、第三固定装飾レンズ 3 5 5 3 が前方から殆ど見えない状態となると共に、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 と第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 とにより所定の文字の装飾が見える状態となる。一方、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 と第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 とが開位置の時には、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 と第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 とが離反してそれらの間から第三固定装飾レンズ 3 5 5 3 の装飾が見える状態となる。

【0996】

また、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 は、裏上第三装飾基板 3 5 5 4 の L E D を適宜発光させることで、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1、第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2、及び第三固定装飾レンズ 3 5 5 3 を、適宜発光装飾させることができる。具体的には、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 と第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 とが閉位置の時に、裏上第三装飾基板 3 5 5 4 の L E D を発光させると、第三固定装飾レンズ 3 5 5 3 を介して第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 と第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 と発光装飾させることができる。一方、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 と第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 とが開位置の時に、裏上第三装飾基板 3 5 5 4 の L E D を発光させると、第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 と第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 との間から臨む第三固定装飾レンズ 3 5 5 3 のみを発光装飾させることができる。

【0997】

[5-9f-4. 裏上回転ベースユニット]

次に、裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 の裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 について、主に図 1 6 3 乃至図 1 6 7 を参照して詳細に説明する。図 1 6 3 （a）は裏上可動演出ユニットにおける裏上回転ベースユニットを前から見た斜視図であり、（b）は裏上回転ベースユニットを後ろから見た斜視図である。図 1 6 4 は裏上回転ベースユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図 1 6 5 は裏上回転ベースユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図 1 6 6 は、裏上回転ベースユニットにおけるギア構成を正面から示す説明図である。図 1 6 7 （a）は裏上回転ベースユニットにおける作用レバーが作用位置の状態を正面から示す説明図であり、（b）は作用レバーが非作用位置の状態を正面から示す説明図である。

【0998】

裏上可動演出ユニット3500の裏上回転ベースユニット3570は、裏上昇降ユニットにおける可動側ユニットの前面に、前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられていると共に、長手方向の両端に裏上第二装飾体ユニット3530及び裏上第三装飾体ユニット3550を、夫々前後に延びた軸周りに対して相対的に回転可能に取付けている。

【0999】

裏上回転ベースユニット3570は、前後方向へ延びた軸線に直交する面に対して平行に延びており、長手方向中央に前後に貫通している第一孔3571a、長手方向の両端付近において夫々前後に貫通している第二孔3571b及び第三孔3571c、及び第一孔3571aの外周から後方へ円筒状に突出しており裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610に回転可能に取付けられる取付筒部3571dを有している裏上回転ベースを備えている。第一孔3571a（取付筒部3571dの内径）は、裏上第一装飾体ユニット3510における第一取付軸部材3525の取付軸部3525cが通過可能な大きさに形成されている。第二孔3571b及び第三孔3571cは、第一孔3571aよりも若干小さく形成されていると共に、互いに同じ大きさに形成されている。また、第二孔3571b及び第三孔3571cは、裏上回転ベース3571を水平に延びた状態とした時（水平位置の時）に、正面視において、右端付近と左端付近とに夫々形成されている。なお、以下では、裏上回転ベース3571が水平に延びている状態で説明する。

【1000】

また、裏上回転ベースユニット3570は、裏上回転ベース3571の後側に取付けられており第一孔3571aの中心と同心上で半円弧状に延びた回転ベース被駆動ギア3572を備えている。回転ベース被駆動ギア3572は、中心軸を前後に延ばした状態の円環に対して、上半分の形態に形成されており、外周面にギア歯が形成されている。回転ベース被駆動ギア3572は、取付筒部3571dの上側の外周面との間で、隙間が形成されるように取付けられている。この回転ベース被駆動ギア3572は、後述する裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610における回転ベース駆動ギア3614と噛合する。

【1001】

また、裏上回転ベースユニット3570は、裏上回転ベース3571の第二孔3571bに対して前方から回転可能に挿入される円環状の軸部3573a、及び軸部3573aの前端から同心円状で扇形に形成された第二用リンクギア部3573bを有しており、前面に裏上第二装飾体ユニット3530の第二取付ベース3544の後面が取付けられる第二用駆動リンクギア部材3573と、裏上回転ベース3571の後側から第二用駆動リンクギア部材3573の後側に取付けられており第二孔3571bよりも大径の押え部材3574と、を備えている。第二用駆動リンクギア部材3573は、第二用リンクギア部3573bが、第二孔3571bよりも大径に形成されている。また、第二用リンクギア部3573bは、裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610における可動側ベース3611の中央リンクギア3611bと、同径で同じピッチに形成されている。この第二用駆動リンクギア部材3573は、第二孔3571bに挿入した軸部3573aの後側に、押え部材3574が取付けられることで、第二孔3571bに対して前後への移動が規制された状態で回転可能に取付けられる。

【1002】

更に、裏上回転ベースユニット3570は、第二孔3571bの正面視左側で裏上回転ベース3571の後側に回転可能に取付けられており第二用駆動リンクギア部材3573の第二用リンクギア部3573bと噛合している平歯車状の第二用第一リンクギア3575と、第二用第一リンクギア3575の正面視左側で裏上回転ベース3571の後側に回転可能に取付けられており第二用第一リンクギア3575と噛合している平歯車状の第二用第二リンクギア3576と、第二用第二リンクギア3576の正面視左側で裏上回転ベース3571の後側に回転可能に取付けられており第二用第二リンクギア3576と噛合している平歯車状の第二用第三リンクギア3577と、を備えている。

【1003】

第二用駆動リンクギア部材3573の第二用リンクギア部3573bと、第二用第一リンクギア3575とは、裏上回転ベース3571に形成されている開口部を通して互いに噛合している。第二用第三リンクギア3577は、左端側が裏上回転ベース3571における取付筒部3571dの右側の外周面に接近している。この第二用第三リンクギア3577は、後述する裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610における可動側ベース3611の中央リンクギア3611bと噛合する。

【1004】

また、裏上回転ベースユニット3570は、裏上回転ベース3571の第三孔3571cに対して前方から回転可能に挿入される円環状の軸部3578a、及び軸部3578aの前端から同心円状で扇形に形成された第三用リンクギア部3578bを有しており、前面に裏上第三装飾体ユニット3550の第三取付ベース3564の後面が取付けられる第三用駆動リンクギア部材3578と、裏上回転ベース3571の後側から第三用駆動リンクギア部材3578の後側に取付けられており第三孔3571cよりも大径の押え部材3579と、を備えている。第三用駆動リンクギア部材3578は、第三用リンクギア部3578bが、第三孔3571cよりも大径に形成されている。また、第三用リンクギア部3578bは、裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610における可動側ベース3611の中央リンクギア3611bと、同径で同じピッチに形成されている。この第三用駆動リンクギア部材3578は、第三孔3571cに挿入した軸部3578aの後側に、押え部材3579が取付けられることで、第三孔3571cに対して前後への移動が規制された状態で回転可能に取付けられる。

【1005】

更に、裏上回転ベースユニット3570は、第三孔3571cの正面視右側で裏上回転ベース3571の前側に回転可能に取付けられており第三用駆動リンクギア部材3578の第三用リンクギア部3578bと噛合している平歯車状の第三用第一リンクギア3580と、第三用第一リンクギア3580の正面視右側で裏上回転ベース3571の後側に回転可能に取付けられており第三用第一リンクギア3580と噛合している平歯車状の第三用第二リンクギア3581と、第三用第二リンクギア3581の正面視右側で裏上回転ベース3571の後側に回転可能に取付けられており第三用第二リンクギア3581と噛合している平歯車状の第三用第三リンクギア3582と、を備えている。

【1006】

第三用第一リンクギア3580と、第三用第二リンクギア3581とは、裏上回転ベース3571に形成されている開口部を通して互いに噛合している。第三用第三リンクギア3582は、右端側が裏上回転ベース3571における取付筒部3571dの左側の外周面に接近している。この第三用第三リンクギア3582は、後述する裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610における可動側ベース3611の中央リンクギア3611bと噛合する。

【1007】

また、裏上回転ベースユニット3570は、裏上回転ベース3571における第一孔3571aと第二孔3571bとの間の下部の後側に取付けられており回転軸が裏上回転ベース3571を貫通して前方へ突出している作用レバー駆動モータ3583と、作用レバー駆動モータ3583の回転軸に取付けられている平歯車状の作用レバー駆動ギア3584と、作用レバー駆動ギア3584と噛合しており裏上回転ベース3571の前面に回転可能に取付けられている平歯車状の作用レバーピニオンギア3585と、作用レバーピニオンギア3585に対して上方から噛合しており左右に延びている作用レバーラックギア3586aを有し裏上回転ベース3571の前面に左右方向へスライド可能に取付けられている作用レバー3586と、作用レバー3586の前方への移動を規制しており裏上回転ベース3571の前面に取付けられており作用レバー押え3587と、裏上回転ベース3571の前面に取付けられており作用レバー3586の左右方向への移動を検知する作用レバー移動検知センサ3588と、を備えている。

【1008】

作用レバー3586は、下辺に作用レバーラックギア3586aが形成されている横長四角形の本体部3586bと、本体部3586bの上辺と接続されていると共に本体部3586bよりも左方へ帯板状に延びており裏上回転ベース3571の前面上部に左右方向へスライド可能に取付けられるスライド取付部3586cと、本体部3586bの左辺から左方へ突出しており裏上第一装飾体ユニット3510における第一取付軸部材3525の水平ロック孔3525a及び垂直ロック孔3525bに挿入可能なロック片3586dと、本体部3586bから下方へ延びている第一延出部3586eと、第一延出部3586eの下端からロック片3586dよりも左方へ突出している第一用作用部3586fと、本体部3586bの上辺の右端付近と接続されており右方へ延びている第二右延出部3586gと、第二右延出部3586gの右端から第一用作用部3586fよりも若干高い位置まで下方へ延びている第二下延出部3586hと、第二下延出部3586hの左辺の下端付近から左方に延びている第二用作用部3586iと、スライド取付部3586cの左端から第一延出部3586eの下端と略同じ高さまで下方へ延びている第三延出部3586jと、第三延出部3586jの左辺の下端付近から左方に延びている第三用作用部3586kと、を備えている（図167を参照）。 10

【1009】

また、裏上回転ベースユニット3570は、作用レバー駆動ギア3584及び作用レバーピニオンギア3585の前面を覆うように裏上回転ベース3571の前面に取付けられている前ギアカバー3589と、裏上回転ベース3571の前面で第一孔3571aの下側に取付けられており裏上回転ベースユニット3570の回転位置を検知する裏上回転ベースユニット回転検知センサ3590と、裏上回転ベースユニット回転検知センサ3590の前側を覆うように裏上回転ベース3571の前面に取付けられている裏上回転ベース中継基板3591と、裏上回転ベース中継基板3591の前面を覆うように裏上回転ベース3571の前面に取付けられている基板カバー3592と、を備えている。 20

【1010】

裏上回転ベースユニット回転検知センサ3590は、裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610における可動側ベース3611の回転検知片3611dを検知することで、裏上回転ベースユニット3570の回転位置を検知するものである。裏上回転ベース中継基板3591は、裏上昇降ユニット3600における可動側ユニット3610の裏上回転駆動モータ3612と、裏上第二装飾基板3534、裏上第三装飾基板3554、作用レバー駆動モータ3583、作用レバー移動検知センサ3588、及び裏上回転ベースユニット回転検知センサ3590との接続を中継している。 30

【1011】

更に、裏上回転ベースユニット3570は、第二用第一リンクギア3575、第二用第二リンクギア3576、及び第二用第三リンクギア3577の後側を覆うように裏上回転ベース3571の後側に取付けられている後右ギアカバー3593と、第三用第二リンクギア3581、及び第三用第三リンクギア3582の後側を覆うように裏上回転ベース3571の後側に取付けられている後左ギアカバー3594と、作用レバー駆動モータ3583の下側を覆うように裏上回転ベース3571の後側に取付けられているモータカバー3595と、を備えている。 40

【1012】

続いて、裏上回転ベースユニット3570の動きについて説明する。この裏上回転ベースユニット3570は、裏上回転ベース3571の後方へ突出している取付筒部3571dが、裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610における可動側ベース3611の軸筒部3611a内に挿入されることで、可動側ユニット3610の前面において前後に延びた軸周りに回転するように取付けられる。なお、裏上回転ベースユニット3570は、取付筒部3571dを前方から貫通して可動側ユニットの前面に取付けられる裏上第一装飾体ユニット3510の第一取付軸部材3525によって前方への移動が規制される。また、裏上回転ベースユニット3570は、裏上回転ベース3571の第二孔357 50

1 bに回転可能に取付けられている第二用駆動リンクギア部材3573の前面に、裏上第二装飾体ユニット3530における第二取付ベース3544の後面を取付けることで、裏上第二装飾体ユニット3530を裏上回転ベース3571に対して相対的に回転可能に取付けることができる。更に、裏上回転ベースユニット3570は、裏上回転ベース3571の第三孔3571cに回転可能に取付けられている第三用駆動リンクギア部材3578の前面に、裏上第三装飾体ユニット3550における第三取付ベース3564の後面を取付けることで、裏上第三装飾体ユニット3550を裏上回転ベース3571に対して相対的に回転可能に取付けることができる。

【1013】

この裏上回転ベースユニット3570は、裏上昇降ユニット3600における可動側ユニット3610の前面に取付けた状態で、回転ベース被駆動ギア3572が、可動側ユニット3610の回転ベース駆動ギア3614と噛合していると共に、第二用第三リンクギア3577及び第三用第三リンクギア3582が、可動側ユニット3610の可動側ベース3611における中央リンクギア3611bと噛合している(図178を参照)。そして、可動側ユニット3610の裏上回転駆動モータ3612の駆動により回転ベース駆動ギア3614を回転させると、回転ベース被駆動ギア3572を介して、裏上回転ベースユニット3570が、第一孔3571a(取付筒部3571d)の軸芯を中心として前後に延びた軸周りに回転する。そして、裏上回転ベースユニット3570は、長手方向(第一孔3571a、第二孔3571b、及び第三孔3571cが並んでいる方向)が水平に延びている水平位置と、垂直に延びている垂直位置との間で、90度回転することができる。水平位置の状態では、第一孔3571aの右方に第二孔3571bが位置し、垂直位置の状態では、第一孔3571aの下方に第二孔3571bが位置している。この水平位置の時に、裏上回転ベースユニット回転検知センサ3590が、裏上昇降ユニット3600における可動側ユニット3610の回転検知片3611dを検知している。

【1014】

裏上回転ベースユニット3570は、第一孔3571aを中心に水平位置と垂直位置との間で回転すると、第二用第三リンクギア3577及び第三用第三リンクギア3582が、可動側ユニット3610の中央リンクギア3611bの周りを公転するように移動する。この際に、第二用第三リンクギア3577及び第三用第三リンクギア3582は、中央リンクギア3611bと噛合しているため、中央リンクギア3611bの周りを公転すると、第二用第三リンクギア3577及び第三用第三リンクギア3582が夫々自転し、夫々が裏上回転ベース3571に対して相対的に回転することとなる。

【1015】

そして、第二用第三リンクギア3577及び第三用第三リンクギア3582が回転すると、それらの回転が、第二用第三リンクギア3577からは、第二用第二リンクギア3576、及び第二用第一リンクギア3575を介して第二用リンクギア部3573bに伝達され、第二用駆動リンクギア部材3573が第二用第三リンクギア3577とは反対方向へ回転し、第三用第三リンクギア3582からは、第三用第二リンクギア3581、及び第三用第一リンクギア3580を介して第三用リンクギア部3578bに伝達され、第三用駆動リンクギア部材3578が第三用第三リンクギア3582とは反対方向へ回転する。

【1016】

この際に、第二用リンクギア部3573b及び第三用リンクギア部3578bは、可動側ユニット3610の中央リンクギア3611bと同じ径であるため、裏上回転ベース3571と中央リンクギア3611bとの回転角度と、裏上回転ベース3571と第二用リンクギア部3573b及び第三用リンクギア部3578bとの回転角度とが同じとなる。この可動側ユニット3610の中央リンクギア3611bは、回転不能に取付けられていることから、裏上回転ベース3571が回転すると、第二用リンクギア部3573b及び第三用リンクギア部3578bが、前後に延びた軸周りに対して回転することなく、中央リンクギア3611bの周りを公転することとなる。つまり、裏上回転ベースユニット3

５７０は、裏上第二装飾体ユニット３５３０と裏上第三装飾体ユニット３５５０とを、その上下方向の向きを一定に保った状態で、第一孔３５７１ａ（可動側ユニット３６１０の中央リンクギア３６１１ｂ）を中心に公転させることができる。

【１０１７】

また、裏上回転ベースユニット３５７０は、作用レバー駆動モータ３５８３により作用レバーピニオンギア３５８５を正面視反時計回りの方向へ回転させると、作用レバーラックギア３５８６ａを介して作用レバー３５８６を左方へ移動させることができ、作用レバーピニオンギア３５８５を正面視時計回りの方向へ回転させると、作用レバーラックギア３５８６ａを介して作用レバー３５８６を右方へ移動させることができる。

【１０１８】

詳述すると、作用レバー３５８６は、裏上回転ベースユニット３５７０に組立てた状態で、本体部３５８６ｂが、正面視において裏上回転ベース３５７１における第一孔３５７１ａの右側に位置している。作用レバー３５８６のスライド取付部３５８６ｃは、第一孔３５７１ａの上外側を跨ぐように第三孔３５７１ｃ付近まで左方へ延びている。第一作用部３５８６ｆは、第一孔３５７１ａよりも下側に位置している。第二右延出部３５８６ｇは、第二孔３５７１ｂよりも上側で第二孔３５７１ｂ付近まで延びている。第二下延出部３５８６ｈは、下端が第二孔３５７１ｂよりも下側に位置するように延びている。第二作用部３５８６ｉは、第二孔３５７１ｂの下部付近の高さに位置している。第三延出部３５８６ｊは、第三孔３５７１ｃよりも下側に下端が延びている。従って、第三作用部３５８６ｋは、第三孔３５７１ｃよりも下側に位置している。

【１０１９】

この作用レバー３５８６は、図１６７（ａ）に示すように、最も左方へ移動させた状態（作用位置の状態）では、正面視において本体部３５８６ｂの左辺から左方へ突出しているロック片３５８６ｄが、第一孔３５７１ａ内へ突出した状態となっている。また、この状態では、第一作用部３５８６ｆの左端が第一孔３５７１ａの中心よりもやや左方に位置している。また、第二作用部３５８６ｉの左端は、第二孔３５７１ｂよりも左方に位置している。更に、第三作用部３５８６ｋの左端は、第三孔３５７１ｃの右端付近に位置している。また、この状態では、作用レバー３５８６の第三延出部３５８６ｊの下端が、作用レバー移動検知センサ３５８８により検知されている。

【１０２０】

一方、作用レバー３５８６を、最も右方へ移動させた状態（非作用位置の状態）では、ロック片３５８６ｄ及び第一作用部３５８６ｆが、第一孔３５７１ａよりも右方に位置している。また、第二作用部３５８６ｉの左端は、第二孔３５７１ｂの中心に対して若干左寄りに位置している。更に、第三作用部３５８６ｋの左端は、第三孔３５７１ｃよりも右方に位置している。この状態では、作用レバー３５８６の第三延出部３５８６ｊの下端が、作用レバー移動検知センサ３５８８から離れており、非検知の状態となっている。

【１０２１】

作用レバー３５８６は、詳細は後述するが、作用位置へ移動させて、ロック片３５８６ｄを、裏上第一装飾体ユニット３５１０の第一取付軸部材３５２５における水平ロック孔３５２５ａ又は垂直ロック孔３５２５ｂに挿入させることで、裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０に対する裏上回転ベースユニット３５７０の回転を規制（ロック）することができる。従って、作用レバー３５８６を非作用位置へ移動させると、ロック片３５８６ｄが、水平ロック孔３５２５ａ又は垂直ロック孔３５２５ｂから抜けた状態となり、裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０に対して裏上回転ベースユニット３５７０を回転させることができるようになる。

【１０２２】

また、作用レバー３５８６は、第一作用部３５８６ｆ、第二作用部３５８６ｉ、及び第三作用部３５８６ｋの夫々の左端が、裏上第一装飾体ユニット３５１０の第一開閉アーム３５２１、裏上第二装飾体ユニット３５３０の第二開閉アーム３５４１、及び裏上

第三装飾体ユニット 3 5 5 0 の第三開閉アーム 3 5 6 1 と、当接可能とされている。従って、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 を回転させて垂直に延びた状態に位置させた時に、作用レバー 3 5 8 6 を作用位置へ移動させると、第一開閉アーム 3 5 2 1、第二開閉アーム 3 5 4 1、及び第三開閉アーム 3 5 6 1 を、上方へスライドさせることができる。

【1023】

[5-9f-5. 裏上昇降ユニット]

次に、裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 の裏上昇降ユニット 3 6 0 0 について、主に図 1 6 8 乃至図 1 7 3 を参照して詳細に説明する。図 1 6 8 (a) は裏上可動演出ユニットにおける裏上昇降ユニットを前から見た斜視図であり、(b) は裏上昇降ユニットを後ろから見た斜視図である。図 1 6 9 (a) は裏上昇降ユニットを可動側ユニットと固定側ユニットとに分解して前から見た分解斜視図であり、(b) は裏上昇降ユニットを可動側ユニットと固定側ユニットとに分解して後ろから見た分解斜視図である。図 1 7 0 (a) は裏上昇降ユニットの可動側ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、(b) は可動側ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図 1 7 1 は裏上昇降ユニットの固定側ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図 1 7 2 は裏上昇降ユニットの固定側ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図 1 7 3 (a) は裏上昇降ユニットの可動側ユニットが上昇位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、(b) は裏上昇降ユニットの可動側ユニットが下降位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。

【1024】

裏上昇降ユニット 3 6 0 0 は、裏箱 3 0 1 0 の後壁の前面における開口部 3 0 1 0 a の上側で、裏左可動演出ユニット 3 3 0 0 と裏右可動演出ユニット 3 4 0 0 との間に取付けられる。裏上昇降ユニット 3 6 0 0 は、前面に裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 及び裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が取付けられる可動側ユニット 3 6 1 0 と、可動側ユニット 3 6 1 0 を昇降させ裏箱 3 0 1 0 内に取付けられる固定側ユニット 3 6 5 0 と、を備えている。

【1025】

まず、裏上昇降ユニット 3 6 0 0 の可動側ユニット 3 6 1 0 は、図 1 7 0 に示すように、正面視において左右に延びた略四角形の可動側ベース 3 6 1 1 と、可動側ベース 3 6 1 1 の前面における右上隅に取付けられており回転軸が可動側ベース 3 6 1 1 を貫通して後方へ突出している裏上回転駆動モータ 3 6 1 2 と、裏上回転駆動モータ 3 6 1 2 の回転軸に取付けられている回転駆動ギア 3 6 1 3 と、回転駆動ギア 3 6 1 3 と噛合していると共に裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の回転ベース被駆動ギア 3 5 7 2 と噛合し、可動側ベース 3 6 1 1 の前面に回転可能に取付けられている回転ベース駆動ギア 3 6 1 4 と、を備えている。

【1026】

また、可動側ユニット 3 6 1 0 は、裏上回転駆動モータ 3 6 1 2 を覆うように可動側ベース 3 6 1 1 の前面に取付けられているモータカバー 3 6 1 5 と、可動側ベース 3 6 1 1 の後側に取付けられている平板状のベースカバー 3 6 1 6 と、ベースカバー 3 6 1 6 の前面に取付けられている可動側中継基板 3 6 1 7 と、を備えている。

【1027】

可動側ユニット 3 6 1 0 の可動側ベース 3 6 1 1 は、前面における左右方向中央の下部から前方へ円筒状に突出している軸筒部 3 6 1 1 a と、軸筒部 3 6 1 1 a の外周面の前端に形成されており裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の第二用第三リンクギア 3 5 7 7 及び第三用第三リンクギア 3 5 8 2 と噛合する中央リンクギア 3 6 1 1 b と、上部における左右方向中央から左寄りの位置で前後に貫通していると共に左右に延びている長孔状の昇降スリット 3 6 1 1 c と、前面における軸筒部 3 6 1 1 a の下側に取付けられており裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の裏上回転ベースユニット回転検知センサ 3 5 9 0 により検知される回転検知片 3 6 1 1 d (図 1 7 3 を参照) と、を備えている。

【1028】

可動側ベース 3 6 1 1 の軸筒部 3 6 1 1 a は、内径が、裏上回転ベースユニット 3 5 7

0における裏上回転ベース3571の取付筒部3571dの外径よりも若干大径に形成されており取付筒部3571dを回転可能に挿入させることができる。中央リンクギア3611bは、裏上回転ベースユニット3570における第二用駆動リンクギア部材3573の第二用リンクギア部3573b及び第三用駆動リンクギア部材3578の第三用リンクギア部3578bと、同径で同じピッチに形成されている。

【1029】

可動側中継基板3617は、固定側ユニット3650の裏上中継基板3659と、裏上第一装飾体ユニット3510の裏上第一装飾基板3514、裏上回転ベースユニット3570の裏上回転ベース中継基板3591、及び裏上回転駆動モータ3612との接続を中継している。ベースカバー3616は、後面における左右両端に固定側ユニット3650の昇降スライドレール3656が取付けられる。また、ベースカバー3616の後側には、固定側ユニット3650の昇降バネ3657の下端が取付けられる。

【1030】

裏上昇降ユニット3600の固定側ユニット3650は、図171及び図172等のように、裏箱3010内に取付けられ正面視において左右に延びた略四角形の固定側ベース3651と、固定側ベース3651の前面中央で前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている平歯車状の昇降ギア部3652a、昇降ギア部3652aの前面における外周付近から前方へ円柱状に突出しており可動側ユニット3610における可動側ベース3611の昇降スリット3611c内に摺動可能に挿入される昇降駆動ピン3652b、及び昇降ギア部3652aから外方へ扇状の延出している検知片3652cを有した昇降用回転体3652と、昇降用回転体3652の昇降ギア部3652aと噛合する昇降駆動ギア3653と、昇降駆動ギア3653が回転軸に取付けられており固定側ベース3651の後面に取付けられている裏上昇降駆動モータ3654と、を備えている。

【1031】

また、固定側ユニット3650は、固定側ベース3651の前面に取付けられており昇降用回転体3652の検知片3652cを検知する昇降検知センサ3655と、固定側ベース3651の前面における左右両側付近に取付けられると共に前面に可動側ユニット3610のベースカバー3616が取付けられ、上下に伸縮可能な一对の昇降スライドレール3656と、一对の昇降スライドレール3656よりも外側で固定側ベース3651の前面の下部における左右両端側に上端側が取付けられると共に、下端側が可動側ユニット3610の可動側ベース3611に取付けられ可動側ベース3611が上方へ移動するように付勢している一对の昇降バネ3657と、を備えている。

【1032】

更に、固定側ユニット3650は、前後に貫通していると共に半円弧状に延びており昇降用回転体3652の昇降駆動ピン3652bが通過可能な挿通スリット3658aを有しており、一对の昇降スライドレール3656の間において昇降用回転体3652の前面を覆うように固定側ベース3651の前面に取付けられている固定側前カバー3658と、固定側ベース3651の後面に取付けられており、可動側ユニット3610の可動側中継基板3617、裏上昇降駆動モータ3654、及び昇降検知センサ3655と、右下中継基板3034とを接続している裏上中継基板3659と、裏上中継基板3659の後側を覆うように固定側ベース3651の後側に取付けられている基板カバー3660と、を備えている。

【1033】

続いて、裏上昇降ユニット3600の動作について説明する。裏上昇降ユニット3600は、可動側ユニット3610における可動側ベース3611の軸筒部3611a内に、裏上回転ベースユニット3570における裏上回転ベース3571の取付筒部3571dが回転可能に挿入されると共に、裏上回転ベース3571の取付筒部3571dを通して可動側ベース3611の前面に裏上第一装飾体ユニット3510の第一取付軸部材3525の後端が取付けられる。これにより、可動側ユニット3610は、裏上回転ベースユニット3570を、前方へ移動不能な状態で、軸筒部3611a（第一孔3571a）を中

心とした前後に延びた軸周りに回転可能に取付けることができる。

【1034】

可動側ユニット3610の可動側ベース3611に裏上回転ベースユニット3570を取付けた状態では、回転ベース駆動ギア3614が裏上回転ベースユニット3570の回転ベース被駆動ギア3572と噛合している状態となる。従って、裏上回転駆動モータ3612の駆動により回転駆動ギア3613を介して回転ベース駆動ギア3614を回転させると、裏上回転ベースユニット3570を、軸筒部3611a（第一孔3571a）を中心に回転させることができる。この可動側ユニット3610は、裏上回転ベースユニット3570を、水平に延びた水平位置の状態と、垂直に延びた垂直位置の状態との間で、90度回転させることができる。なお、可動側ユニット3610における可動側ベース3611の回転検知片3611dは、裏上回転ベースユニット3570が水平位置の時に、裏上回転ベースユニット3570の裏上回転ベースユニット回転検知センサ3590により検知される。

10

【1035】

また、裏上昇降ユニット3600は、組立てた状態では、固定側ユニット3650の一对の昇降スライドレール3656によって可動側ユニット3610が固定側ユニット3650に対して上下方向へのみ移動可能（昇降可能）となっている。可動側ユニット3610は、可動側ベース3611の昇降スリット3611c内に固定側ユニット3650における昇降用回転体3652の昇降駆動ピン3652bが左右方向へ摺動可能に挿入されている。従って、可動側ユニット3610は、昇降用回転体3652における昇降駆動ピン3652bの高さ位置によって、上下方向の位置が規制されている。また、可動側ユニット3610は、一对の昇降バネ3657によって、上方へ移動するように付勢されている。

20

【1036】

この裏上昇降ユニット3600は、通常の状態では、図173（a）に示すように、昇降用回転体3652の回転により公転する昇降駆動ピン3652bが、昇降用回転体3652の回転中心の直上に対してやや右寄りに位置しており、昇降駆動ピン3652bにより可動側ユニット3610が最も上側に位置した上昇位置の状態となっている。この状態では、昇降用回転体3652の検知片3652cが、昇降検知センサ3655に検知されている。また、この状態では、昇降駆動ピン3652bが、可動側ユニット3610における可動側ベース3611の左右に延びた昇降スリット3611c内の右端に当接している。

30

【1037】

従って、可動側ユニット3610側の重量が昇降駆動ピン3652bに作用することで、昇降駆動ピン3652bを介して昇降用回転体3652が正面視時計回りの方向へ回転しようとしても、昇降駆動ピン3652bが昇降スリット3611cの右端に当接しているため、昇降用回転体3652がこれ以上正面視時計回りの方向へ回転することができず、可動側ユニット3610の下方への移動が阻止された状態となっている。つまり、可動側ユニット3610が、上昇位置でロックされた状態となっている。これにより、可動側ユニット3610側からの重量（荷重）が、昇降用回転体3652の昇降ギア部3652a、及び昇降駆動ギア3653を介して、裏上昇降駆動モータ3654に作用することはなく、裏上昇降駆動モータ3654に負荷がかからないようになっている。

40

【1038】

この上昇位置の状態から、裏上昇降駆動モータ3654により昇降用回転体3652を正面視反時計回りの方向へ回転させると、昇降用回転体3652の昇降駆動ピン3652bが、左方へ移動しつつ下方へ移動するように公転することとなり、昇降駆動ピン3652bが昇降スリット3611c内を左方へ摺動しつつ、昇降スリット3611cを介して可動側ユニット3610が、一对の昇降バネ3657の付勢力に抗して下方へ移動することとなる。昇降用回転体3652が、反時計回りに回転することで公転する昇降駆動ピン3652bが、昇降用回転体3652の回転中心と同じ高さを越えて下方へ公転すると、

50

昇降駆動ピン 3 6 5 2 b の左右方向の移動の向きが変わって、右方へ移動しつつ下方へ移動することとなり、昇降スリット 3 6 1 1 c 内を右方へ摺動することとなる。

【1039】

そして、昇降駆動ピン 3 6 5 2 b が、昇降用回転体 3 6 5 2 の中心の直下に位置すると、昇降用回転体 3 6 5 2 の回転が停止すると同時に、可動側ユニット 3 6 1 0 の下方への移動が停止し、可動側ユニット 3 6 1 0 が最も下降した下降位置の状態となる（図 1 7 3 (b) を参照）。なお、可動側ユニット 3 6 1 0 を下降位置から上昇位置へ移動させる場合は、裏上昇降駆動モータ 3 6 5 4 を上記とは逆方向へ駆動して昇降用回転体 3 6 5 2 を正面視時計回りの方向へ回転させることで、上昇位置へ復帰させることができる。この際に、可動側ユニット 3 6 1 0 の上方への移動が、一对の昇降バネ 3 6 5 7 の付勢力によってアシストされ、裏上昇降駆動モータ 3 6 5 4 にかかる負荷が軽減されている。

10

【1040】

このように、裏上昇降ユニット 3 6 0 0 は、可動側ユニット 3 6 1 0 を介して、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0、及び裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 を、上昇位置と下降位置との間で上下に移動（昇降）させることができる。

【1041】

[5-9f-6. 裏上可動演出ユニットの動作]

次に、裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 の動作について、主に図 1 7 4 乃至図 1 8 3 を参照して詳細に説明する。図 1 7 4 は裏上可動演出ユニットにおいて裏上昇降ユニットの可動側ユニットが上昇位置の時の昇降用の駆動系を示す説明図であり、図 1 7 5 は裏上可動演出ユニットにおいて裏上昇降ユニットの可動側ユニットが下降位置の時の昇降用の駆動系を示す説明図である。図 1 7 6 は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置の時に、作用レバーが作用位置の状態を示す説明図であり、図 1 7 7 は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置の時に、作用レバーが非作用位置の状態を示す説明図である。図 1 7 8 は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置の時の裏上回転ベースユニットの駆動系を示す説明図であり、図 1 7 9 は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置から時計回りに 4 5 度回転したの時の裏上回転ベースユニットの駆動系を示す説明図であり、図 1 8 0 は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時の裏上回転ベースユニットの駆動系を示す説明図である。

20

30

【1042】

また、図 1 8 1 は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時に、作用レバーが非作用位置の状態を示す説明図であり、図 1 8 2 は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時に、作用レバーが作用位置で回転を規制している状態を示す説明図であり、図 1 8 3 は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時に、作用レバーが作用位置で裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットに作用を及ぼしている状態を示す説明図である。

40

【1043】

裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 は、通常の状態では、図 1 7 4 等に示すように、裏上昇降ユニット 3 6 0 0 の可動側ユニット 3 6 1 0 が最も上昇した上昇位置の状態となっておりと共に、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が水平に延びた水平位置の状態となっている。この状態では、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 を中央にして、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 と裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 とが左右両側に並んでいる。また、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 の第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 及び第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 の第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 及び第二右可

50

動装飾レンズ 3 5 3 2、及び、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 の第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 及び第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 は、夫々第一開閉パネ 3 5 2 3、第二開閉パネ 3 5 4 3、及び第三開閉パネ 3 5 6 3 の付勢力により、夫々互いに当接した閉位置の状態となっている。

【1044】

この通常の状態では、図 1 7 4 に示すように、裏上昇降ユニット 3 6 0 0 における固定側ユニット 3 6 5 0 の公転する昇降駆動ピン 3 6 5 2 b が、昇降用回転体 3 6 5 2 の回転中心の直上に対してやや右寄りに位置して、可動側ベース 3 6 1 1 の左右に延びた昇降スリット 3 6 1 1 c 内の右端に当接している。これにより、可動側ユニット 3 6 1 0 の昇降スリット 3 6 1 1 c を介して、昇降駆動ピン 3 6 5 2 b に、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0、及び可動側ユニット 3 6 1 0 の重量（荷重）が作用しても、昇降駆動ピン 3 6 5 2 b が、これ以上正面視時計回りの方向へ公転することができず、可動側ユニット 3 6 1 0 の下方への移動が規制され、上昇位置でロックされた状態となっている。

10

【1045】

従って、通常の状態では、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0、及び可動側ユニット 3 6 1 0、の荷重が、裏上昇降駆動モータ 3 6 5 4 に作用することではなく、裏上昇降駆動モータ 3 6 5 4 に負荷がかからないようになっている。また、通常の状態では、昇降駆動ピン 3 6 5 2 b を公転させる昇降用回転体 3 6 5 2 の検知片 3 6 5 2 c が、昇降検知センサ 3 6 5 5 に検知されている。

20

【1046】

この通常の状態から、裏上昇降駆動モータ 3 6 5 4 を駆動して昇降用回転体 3 6 5 2 の昇降駆動ピン 3 6 5 2 b を、正面視反時計回りの方向へ公転させると、昇降駆動ピン 3 6 5 2 b が昇降スリット 3 6 1 1 c 内を摺動しつつ下降することとなり、昇降駆動ピン 3 6 5 2 b の下降に伴って可動側ユニット 3 6 1 0 が下方へ移動し、昇降駆動ピン 3 6 5 2 b が、最も下降した位置に到達すると、昇降駆動ピン 3 6 5 2 b の公転が停止して、可動側ユニット 3 6 1 0 が下降位置に位置することとなる（図 1 7 5 を参照）。

【1047】

裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 は、裏上昇降ユニット 3 6 0 0 の可動側ユニット 3 6 1 0 を下降位置に移動させることで、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0、及び裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 を、遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 の前面側の上部に位置させることができる（図 1 8 9 を参照）。

30

【1048】

裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 は、裏上昇降ユニット 3 6 0 0 の可動側ユニット 3 6 1 0 を、上昇位置と下降位置との間で移動させる時には、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の作用レバー 3 5 8 6 を作用位置に移動させている。作用レバー 3 5 8 6 は、作用レバー駆動モータ 3 5 8 3 の駆動により左方の作用位置に移動している状態では、図 1 7 6 に示すように、作用レバー 3 5 8 6 のロック片 3 5 8 6 d が、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 における第一取付軸部材 3 5 2 5 の水平ロック孔 3 5 2 5 a に挿入された状態となっている。これにより、作用レバー 3 5 8 6 が、第一取付軸部材 3 5 2 5 の周りに回転することができなくなるため、作用レバー 3 5 8 6 が取付けられている裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が、第一取付軸部材 3 5 2 5（可動側ユニット 3 6 1 0 の軸筒部 3 6 1 1 a）に対して回転がロックされた状態となる。つまり、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が、水平位置で回転がロックされた状態となる。

40

【1049】

なお、作用レバー 3 5 8 6 のロック片 3 5 8 6 d は、先端がテーパ状に形成されているため、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が水平位置に対して多少ずれていても、第一取

50

付軸部材 3 5 2 5 の水平ロック孔 3 5 2 5 a に挿入させることで、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 を水平位置に移動させて、回転をロックさせることができる。

【1050】

この作用レバー 3 5 8 6 においては、図示は省略するが、作用レバー 3 5 8 6 の第二右延出部 3 5 8 6 g が、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 における第二開閉アーム 3 5 4 1 の受ボス 3 5 4 1 b に上方から当接していると共に、作用レバー 3 5 8 6 の第三延出部 3 5 8 6 j (スライド取付部 3 5 8 6 c の左端) が、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 における第三上アーム 3 5 5 8 の所定位置に右方から当接している。これにより、作用レバー 3 5 8 6 によって、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 における裏上回転ベース 3 5 7 1 の第二孔 3 5 7 1 b を中心とした軸線周りへの回転と、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 における裏上回転ベース 3 5 7 1 の第三孔 3 5 7 1 c を中心とした軸線周りへの回転とを、阻止している。従って、裏上昇降ユニット 3 6 0 0 の可動側ユニット 3 6 1 0 を上下方向へ移動(昇降)させることで、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0、及び裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 に振動が作用しても、作用位置に位置した作用レバー 3 5 8 6 の作用により、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0、及び裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が揺れないようになっている。

10

【1051】

裏上昇降ユニット 3 6 0 0 の可動側ユニット 3 6 1 0 を介して、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0、及び裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 を、下降位置に位置させた状態で、作用レバー駆動モータ 3 5 8 3 により作用レバー駆動ギア 3 5 8 4 を介して作用レバーピニオンギア 3 5 8 5 を正面視時計回りの方向へ回転させると、作用レバーピニオンギア 3 5 8 5 に噛合している作用レバーラックギア 3 5 8 6 a により水平状態の作用レバー 3 5 8 6 が右方の非作用位置へ移動し、第一取付軸部材 3 5 2 5 の水平ロック孔 3 5 2 5 a からロック片 3 5 8 6 d が抜けた状態となる(図 1 7 7 を参照)。これにより、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が、第一取付軸部材 3 5 2 5 の取付軸部 3 5 2 5 c (裏上回転ベース 3 5 7 1 の第一孔 3 5 7 1 a、可動側ベース 3 6 1 1 の軸筒部 3 6 1 1 a) を中心として回転することができるようになる。

20

【1052】

裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 の裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 では、図 1 7 8 に示すように、回転ベース被駆動ギア 3 5 7 2 が、可動側ユニット 3 6 1 0 における回転ベース駆動ギア 3 6 1 4 と噛合していると共に、第二用第三リンクギア 3 5 7 7 及び第三用第三リンクギア 3 5 8 2 が、可動側ユニット 3 6 1 0 の可動側ベース 3 6 1 1 における中央リンクギア 3 6 1 1 b と噛合している。

30

【1053】

そして、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 を水平位置とすると共に、作用レバー 3 5 8 6 を非作用位置とした状態で、可動側ユニット 3 6 1 0 の裏上回転駆動モータ 3 6 1 2 を駆動して回転ベース駆動ギア 3 6 1 4 を正面視反時計周りの方向へ回転させると、回転ベース駆動ギア 3 6 1 4 と噛合している回転ベース被駆動ギア 3 5 7 2 を介して、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が、中央リンクギア 3 6 1 1 b (第一孔 3 5 7 1 a、取付筒部 3 5 7 1 d) の軸芯を中心として正面視時計回りの方向へ回転することとなる(図 1 7 9 を参照)。この際に、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 は、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の回転中心である第一孔 3 5 7 1 a を貫通して可動側ユニット 3 6 1 0 の前面に取付けられているため、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 と一緒に回転することはない。

40

【1054】

裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 は、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が、中央リンクギア 3 6 1 1 b を中心にして回転すると、中央リンクギア 3 6 1 1 b と噛合している第二用第三リンクギア 3 5 7 7 及び第三用第三リンクギア 3 5 8 2 が、中央リンクギア 3 6 1 1 b の周りを公転しながら自転することとなり、裏上回転ベース 3 5 7 1 に対して時計回り

50

の方向へ夫々回転することとなる。これら第二用第三リンクギア 3 5 7 7 及び第三用第三リンクギア 3 5 8 2 が回転すると、それらの回転が、第二用リンクギア部 3 5 7 3 b 及び第三用リンクギア部 3 5 7 8 b に伝達され、第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 及び第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 が、裏上回転ベース 3 5 7 1 に対して反時計回りの方向へ夫々回転することとなる。つまり、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 を正面視時計回りの方向へ回転させると、裏上回転ベース 3 5 7 1 の長手方向両端の第二孔 3 5 7 1 b 及び第三孔 3 5 7 1 c に夫々回転可能に取付けられている第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 及び第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 が、第一孔 3 5 7 1 a を中心に時計回りの方向へ公転すると共に、第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 及び第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 が、裏上回転ベース 3 5 7 1 の第二孔 3 5 7 1 b 及び第三孔 3 5 7 1 c において夫々反時計回りの方向へ回転（自転）する。

【1055】

第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 の第二用リンクギア部 3 5 7 3 b 及び第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 の第三用リンクギア部 3 5 7 8 b は、可動側ユニット 3 6 1 0 の中央リンクギア 3 6 1 1 b と同じ径であるため、裏上回転ベース 3 5 7 1 と中央リンクギア 3 6 1 1 b との回転角度と、裏上回転ベース 3 5 7 1 と第二用リンクギア部 3 5 7 3 b 及び第三用リンクギア部 3 5 7 8 b との回転角度とが同じとなる。裏上回転ベース 3 5 7 1 を、中央リンクギア 3 6 1 1 b を中心にして回転させると、第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 及び第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 が、その回転向きを一定に保ったまま中央リンクギア 3 6 1 1 b の周りを公転する（図 1 7 9 及び図 1 8 0 を参照）。そして、第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 及び第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 の前面には、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 が夫々取付けられていることから、裏上回転ベース 3 5 7 1 を回転させると、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 が、その上下の向きを一定に保った状態で、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 の周りを公転することとなる。

【1056】

この裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 は、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が水平位置の時に、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 の右側に裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 が配置されていると共に、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 の左側に裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 が配置されているため、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 を正面視時計回りの方向へ回転させて垂直位置の状態とすると、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 が、その上下の向きをそのままにして、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 の下側と上側とに夫々配置された状態となる（図 1 8 0 を参照）。従って、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が垂直位置の時には、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、及び裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 の順に上から並んだ状態となる。この状態では、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 が、夫々閉位置の状態、遊技領域 5 a の左右方向中央で、センター役物 2 5 0 0 の枠内の略全高に亘って縦断するように位置している（図 1 9 1 を参照）。

【1057】

この裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 を、水平位置から垂直位置へ回転させた状態では、図 1 8 1 に示すように、非作用位置に位置している裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の作用レバー 3 5 8 6 が、ロック片 3 5 8 6 d を上方へ向けた状態となっている。この状態で、作用レバー駆動モータ 3 5 8 3 の駆動により作用レバーピニオンギア 3 5 8 5 を正面視反時計回りの方向へ回転させて、作用レバー 3 5 8 6 を上方へ移動させて非作用位置から作用位置へ移動させると、作用レバー 3 5 8 6 のロック片 3 5 8 6 d が、第一取付軸部材 3 5 2 5 の垂直ロック孔 3 5 2 5 b に挿入された状態となる（図 1 8 2 を参照）。これにより、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が、垂直位置で回転がロックされた状態となる。

【1058】

裏上可動演出ユニット 3500 は、裏上回転ベースユニット 3570 が垂直位置の状態で、作用レバー 3586 を非作用位置から作用位置へ移動させると、作用レバー 3586 の上方への移動に伴って、作用レバー 3586 の第一用作用部 3586 f、第二用作用部 3586 i、及び第三用作用部 3586 k、の夫々の先端（上端）が、裏上第一装飾体ユニット 3510 における第一開閉アーム 3521 の受ボス 3521 b、裏上第二装飾体ユニット 3530 における第二開閉アーム 3541 の受ボス 3541 b、及び裏上第三装飾体ユニット 3550 における第三開閉アーム 3561 の下端、に夫々下方から当接して、第一開閉アーム 3521、第二開閉アーム 3541、及び第三開閉アーム 3561、を上方向へ移動させる。

【1059】

10

そして、第一開閉アーム 3521、第二開閉アーム 3541、及び第三開閉アーム 3561 が、夫々上方へ移動すると、夫々閉位置の状態となっていた裏上第一装飾体ユニット 3510 の第一左可動装飾レンズ 3511 と第一右可動装飾レンズ 3512、裏上第二装飾体ユニット 3530 の第二左可動装飾レンズ 3531 と第二右可動装飾レンズ 3532、及び裏上第三装飾体ユニット 3550 の第三左可動装飾レンズ 3551 と第三右可動装飾レンズ 3552、が夫々互いに離反するように左右方向外方へ移動して開位置の状態となる（図 183 を参照）。

【1060】

これにより、裏上第三装飾体ユニット 3550 における第三左可動装飾レンズ 3551 と第三右可動装飾レンズ 3552 との間から臨んだ第三固定装飾レンズ 3553、裏上第一装飾体ユニット 3510 における第一左可動装飾レンズ 3511 と第一右可動装飾レンズ 3512 との間から臨んだ第一固定装飾レンズ 3513、及び裏上第二装飾体ユニット 3530 における第二左可動装飾レンズ 3531 と第二右可動装飾レンズ 3532 との間から臨んだ第二固定装飾レンズ 3533 が、上から下へ順に一直線に並んだ状態となる。この状態では、裏上第一装飾体ユニット 3510、裏上第二装飾体ユニット 3530、及び裏上第三装飾体ユニット 3550 が、夫々開位置の状態で、遊技領域 5a の左右方向中央で、センター役物 2500 の枠内の略全高に亘って縦断するように位置しており、第一固定装飾レンズ 3513、第二固定装飾レンズ 3533、及び第三固定装飾レンズ 3553 が、裏前飾りユニット 3100 における裏前下中央レンズ 3131 と連続するように略同じ幅で上下に並んでいる（図 192 を参照）。

20

30

【1061】

なお、裏上可動演出ユニット 3500 を、通常の状態に戻すには、上記と逆の動作をさせることで、通常の状態に復帰させることができる。

【1062】

また、裏上可動演出ユニット 3500 は、裏上第一装飾体ユニット 3510 の第一左可動装飾レンズ 3511 及び第一右可動装飾レンズ 3512、裏上第二装飾体ユニット 3530 の第二左可動装飾レンズ 3531 及び第二右可動装飾レンズ 3532、及び、裏上第三装飾体ユニット 3550 の第三左可動装飾レンズ 3551 及び第三右可動装飾レンズ 3552、が夫々互いに当接した閉位置の状態では、夫々が異なる文字の装飾を見せることができ、左から右へ裏上第三装飾体ユニット 3550、裏上第一装飾体ユニット 3510、及び裏上第二装飾体ユニット 3530 が、並んだ状態では、三つの文字が、パチンコ機 1 のコンセプトに沿った所定のロゴを横書きとした状態となり、遊技者に対して本パチンコ機 1 のコンセプトを認識させることができる。なお、裏上回転ベースユニット 3570 を垂直位置とすることで上から下へ裏上第三装飾体ユニット 3550、裏上第一装飾体ユニット 3510、及び裏上第二装飾体ユニット 3530 が並ぶと、パチンコ機 1 のコンセプトに沿ったロゴが縦書きの状態となり、この状態でも遊技者に対してロゴを認識させることができる。

40

【1063】

このように、裏上可動演出ユニット 3500 によれば、裏上第一装飾体ユニット 3510、裏上第二装飾体ユニット 3530、及び裏上第三装飾体ユニット 3550 に対する裏

50

上回転ベースユニット 3570 の相対的な回転位置（水平位置又は垂直位置）によって、作用位置と非作用位置との間で移動する作用レバー 3586 により、裏上第一装飾体ユニット 3510、裏上第二装飾体ユニット 3530、及び裏上第三装飾体ユニット 3550 に回転ロック（第一作用）と開位置への移動（第二作用）の別の作用を及ぼして異なる演出を遊技者に見せることができ、多彩な演出により遊技者を飽き難くさせることができると共に、遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【1064】

[5-9g. 裏下可動演出ユニット]

次に、裏ユニット 3000 の裏下可動演出ユニット 3700 について、主に図 184 等を参照して詳細に説明する。図 184 (a) は裏ユニットの裏下可動演出ユニットの正面図であり、(b) は裏下可動演出ユニットの背面図であり、(c) は裏下可動演出ユニットにおいて裏下可動装飾体ユニットを上昇させた状態で示す背面図である。裏下可動演出ユニット 3700 は、裏箱 3010 内における後壁の前面の左右方向中央で開口部 3010a の下側に取付けられている。裏下可動演出ユニット 3700 は、所定の立体的な装飾を有している裏下可動装飾体ユニット 3710 と、裏箱 3010 内に取付けられており裏下可動装飾体ユニット 3710 を上下に移動させる裏下駆動ユニット 3750 と、を備えている。

【1065】

裏下可動装飾体ユニット 3710 は、左右に延びた屋根の下に複数の門を左右に列設した立体的な装飾が形成されており各門の部位が前後に貫通している裏下装飾体本体 3711 と、裏下装飾体本体 3711 における各門の部位に対して二つ一組で前方へ観音開き状に開閉するように取付けられている複数の裏下扉部材 3712 と、裏下扉部材 3712 よりも後方で裏下装飾体本体 3711 の後側に取付けられており左右に延びている裏下装飾体ベース 3713 と、裏下装飾体ベース 3713 の前面下部において左右方向へスライド可能に取付けられており二つ一組の複数の裏下扉部材 3712 における正面視左側の裏下扉部材 3712 をヒンジ回転させる下開閉スライダ 3714 と、裏下装飾体ベース 3713 の前面上部において左右方向へスライド可能に取付けられており二つ一組の複数の裏下扉部材 3712 における正面視右側の裏下扉部材 3712 をヒンジ回転させる上開閉スライダ 3715 と、を備えている。

【1066】

また、裏下可動装飾体ユニット 3710 は、裏下装飾体ベース 3713 の後側に回転可能に取付けられており下開閉スライダ 3714 及び上開閉スライダ 3715 を左右方向の互いに異なる方向へスライドさせる開閉用回転体 3716 と、開閉用回転体 3716 の上端に一端側が取付けられていると共に裏下装飾体ベース 3713 に他端側が取付けられており下開閉スライダ 3714 及び上開閉スライダ 3715 を介して各裏下扉部材 3712 が閉じる方向へヒンジ回転するように開閉用回転体 3716 を付勢している扉閉鎖バネ 3717 と、を備えている。扉閉鎖バネ 3717 は、開閉用回転体 3716 が、背面視において反時計回りの方向へ回転するように付勢している。

【1067】

更に、裏下可動装飾体ユニット 3710 は、裏下装飾体本体 3711 の後側に取付けられている裏下装飾レンズ 3718 (図 194 を参照) と、裏下装飾レンズ 3718 の後側に配置されており前面に複数の LED が実装されている裏下装飾基板 3719 と、裏下装飾体ベース 3713 の後側に取付けられており裏下装飾基板 3719 と裏下中継基板 3757 とを接続する配線ケーブル 3701 を誘導可能な上配線カバー 3720 と、を備えている。配線ケーブル 3701 は、フレキシブルフラットケーブルとされている。上配線カバー 3720 は、裏下装飾体ベース 3713 に取付けることで、配線ケーブル 3701 を収容可能な下方に開口した空間を形成する。また、上配線カバー 3720 は、背面視において、右端側に、配線ケーブル 3701 を誘導するための湾曲した上誘導部 3720a を有している。

10

20

30

40

50

【1068】

裏下駆動ユニット3750は、裏箱3010の後壁の前面における左右方向中央で開口部3010aの下側に取付けられ、正面視左上隅に前後に貫通し左右に延びていると共に右端から上方へ短く延びているリンクスリット3751aを有している裏下駆動ベース3751と、裏下駆動ベース3751の前面において上下に移動可能に取付けられていると共に上部に裏下装飾体ユニット3710が取付けられている裏下昇降ベース3752と、裏下駆動ベース3751の前面における左右両端付近に夫々回転可能に取付けられており裏下昇降ベース3752を上下に移動させる一対の昇降アーム3753と、裏下駆動ベース3751の後側に取付けられている裏下駆動モータ3754と、裏下駆動モータ3754の回転を伝達して一対の昇降アーム3753を互いに異なる方向へ回転させる複数の伝達ギア3755と、を備えている。

10

【1069】

また、裏下駆動ユニット3750は、下端側が裏下駆動ベース3751のリンクスリット3751a内に摺動可能に取付けられていると共に上端側が裏下装飾体ユニット3710の開閉用回転体3716に回転可能に取付けられている棒状のリンクアーム3756を備えている。リンクアーム3756の上端は、開閉用回転体3716における回転中心よりも背面視右側の部位に回転可能に取付けられている。これにより、リンクアーム3756を下方へ引っ張ると、扉閉鎖バネ3717の付勢力に抗して開閉用回転体3716が背面視時計周りの方向へ回転する。

20

【1070】

更に、裏下駆動ユニット3750は、裏下駆動ベース3751の後側に取付けられており裏下装飾基板3719及び裏下駆動モータ3754と右下中継基板3034との接続を中継している裏下中継基板3757と、裏下駆動ベース3751の後側における裏下中継基板3757の上方に取付けられており裏下中継基板3757と裏下装飾基板3719とを接続している配線ケーブル3701を誘導可能な下配線カバー3758と、を備えている。下配線カバー3758は、裏下駆動ベース3751に取付けることで、配線ケーブル3701を収容可能な上方に開口した空間を形成する。また、下配線カバー3758は、背面視において、右端側に、配線ケーブル3701を誘導するための湾曲した下誘導部3758aを有している。

30

【1071】

続いて、裏下可動演出ユニット3700の動作について説明する。裏下可動演出ユニット3700は、通常の状態では、裏下可動装飾体ユニット3710が、最も下降した状態となっている（図184（a）及び（b）を参照）。この状態では、扉閉鎖バネ3717の付勢力により、開閉用回転体3716、下開閉スライダ3714及び上開閉スライダ3715により、複数の裏下扉部材3712が閉状態となっており、裏下装飾体本体3711の複数の門の扉（裏下扉部材3712）が閉じられた状態となっている。また、この状態では、棒状のセンター役物2500における下辺を形成している部位の上端よりも下側に位置しており、正面からは殆ど見ることができない（図129等を参照）。

【1072】

この通常の状態において、裏下駆動モータ3754を駆動して一対の昇降アーム3753を、夫々を向いた側が上方へ移動するように回転させると、裏下昇降ベース3752が上方へ移動し、裏下昇降ベース3752に取付けられている裏下可動装飾体ユニット3710が上昇する。

40

【1073】

この際に、リンクアーム3756は、上端側が裏下可動装飾体ユニット3710における開閉用回転体3716に上端が取付けられているため、裏下可動装飾体ユニット3710と共に上昇することとなり、下端側が裏下駆動ベース3751におけるリンクスリット3751a内を上方（背面視左方）へ向かって摺動することとなる。

【1074】

そして、裏下可動装飾体ユニット3710が上昇することで、リンクアーム3756の

50

下端側がリンクスリット 3751a の上端に到達すると、リンクアーム 3756 がこれ以上上方へ移動することができなくなる。裏下可動演出ユニット 3700 は、この位置（第一上昇位置）で、裏下可動装飾体ユニット 3710 の上下方向の移動を一旦停止させることができる。この状態では、裏下装飾体本体 3711 の複数の門の部位が、センター役物 2500 における下辺（ステージ 2530）よりも上側に位置した状態となり、センター役物 2500 の枠内を通して、扉が閉じた状態の複数の門を視認することができる（図 193 を参照）。

【1075】

この第一昇降位置の状態、裏下可動装飾体ユニット 3710 が更に上昇すると、リンクアーム 3756 がリンクスリット 3751a により裏下可動装飾体ユニット 3710 に対して相対的に下方へ引っ張られる状態となり、リンクアーム 3756 の上端側に取付けられている開閉用回転体 3716 が、扉閉鎖バネ 3717 の付勢力に抗して背面視時計回りの方向へ回転することとなる（図 184（c）を参照）。この開閉用回転体 3716 が背面視時計回りの方向へ回転すると、下開閉スライダ 3714 及び上開閉スライダ 3715 が複数の裏下扉部材 3712 を開かせる方向へスライドし、裏下装飾体本体 3711 における複数の門の扉（裏下扉部材 3712）が開いた状態となって上昇が停止する。裏下扉部材 3712 が開いた位置（第二上昇位置）の状態では、裏下装飾体本体 3711 の複数の門を通して後側に配置された裏下装飾レンズ 3718 が視認できるようになる（図 194 を参照）。この状態で、裏下装飾基板 3719 の LED を発光させることで、開いた門を発光装飾させることができる。

【1076】

この裏下可動演出ユニット 3700 は、裏下可動装飾体ユニット 3710 の裏下装飾基板 3719 と、裏下駆動ユニット 3750 の裏下中継基板 3757 とを接続している配線ケーブル 3701 が、上配線カバー 3720 と下配線カバー 3758 とによって支持されている。上配線カバー 3720 は、上辺と背面視右辺との間が湾曲し右辺の下端が下方へ延出している上誘導部 3720a を有している。下配線カバー 3758 は、下辺と背面視右辺との間が湾曲し右辺の上端が上方へ延出している下誘導部 3758a を有している。

【1077】

裏下装飾基板 3719 と裏下中継基板 3757 とを接続している配線ケーブル 3701 は、裏下可動装飾体ユニット 3710 側では上配線カバー 3720 の上辺における背面視左端において背面視右方へ延びるように取付けられており、裏下駆動ユニット 3750 側では下配線カバーの下辺における背面視左端において背面視右方へ延びるように取付けられている。これにより、裏下可動装飾体ユニット 3710 が最も下降した通常位置の状態では、配線ケーブル 3701 は、上誘導部 3720a 及び下誘導部 3758a に沿うように湾曲して延びており、極端に折れ曲がることなく裏下装飾基板 3719 と裏下中継基板 3757 とを良好に接続している（図 184（b）を参照）。

【1078】

一方、裏下可動装飾体ユニット 3710 が上昇した状態では、図 184（c）に示すように、配線ケーブル 3701 は、上配線カバー 3720 の上辺及び背面視右辺（上誘導部 3720a）、及び下配線カバー 3758 の下辺及び背面視右辺（下誘導部 3758a）、から夫々離れた状態で裏下装飾基板 3719 と裏下中継基板 3757 とを接続している。そして、裏下可動装飾体ユニット 3710 が上昇した状態から下降する際に、上誘導部 3720a 及び下誘導部 3758a に夫々誘導されることで、折れ曲がることなくスムーズに湾曲し、上配線カバー 3720 及び下配線カバー 3758 に収容されることとなる。従って、裏下可動演出ユニット 3700 は、裏下可動装飾体ユニット 3710 と裏下駆動ユニット 3750 とを接続している配線ケーブル 3701 を、裏下可動装飾体ユニット 3710 の昇降を繰返しても、極端に折れ曲がるのを阻止することができ、配線ケーブル 3701 の断線を防止することができる。

【1079】

[5-10. 遊技盤における演出]

次に、遊技盤 5 における主な可動演出について、主に図 1 8 5 乃至図 1 9 4 を参照して詳細に説明する。図 1 8 5 は、裏ユニットにおける裏中可動演出ユニットの裏中左装飾体及び裏中右装飾体を中央側の出現位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。図 1 8 6 は裏ユニットにおける裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体及び裏右装飾体を中央寄りの出現位置へ移動させた上で、夫々の第一装飾面を前方へ向けた状態で示す遊技盤の正面図であり、図 1 8 7 は図 1 8 6 の状態から左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体及び裏右装飾体を回転させて夫々の第二装飾面を前方へ向けた状態で示す遊技盤の正面図であり、図 1 8 8 は図 1 8 6 の状態から左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体及び裏右装飾体を回転させて夫々の第三装飾面を前方へ向けた状態で示す遊技盤の正面図である。

10

【1080】

図 1 8 9 は裏ユニットにおける裏上可動演出ユニットにおいて裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々閉位置の状態とした上で、裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットが水平に並ぶように裏上回転ベースユニットを水平位置の状態としたまま下降位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図であり、図 1 9 0 は図 1 8 9 の状態から裏上回転ベースユニットを正面視時計回りの方向へ 4 5 度回転させて裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットが斜めに並んだ状態で示す遊技盤の正面図であり、図 1 9 1 は図 1 9 0 の状態から裏上回転ベースユニットを正面視時計回りの方向へ更に 4 5 度回転させて垂直位置の状態として裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットが垂直に並んだ状態で示す遊技盤の正面図であり、図 1 9 2 は図 1 9 1 の状態から裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々開位置の状態として夫々の第一固定装飾レンズ、第二固定装飾レンズ、及び第三固定装飾レンズを視認可能とした状態で示す遊技盤の正面図である。

20

【1081】

図 1 9 3 は裏ユニットにおける裏下可動演出ユニットの裏下可動装飾体ユニットを第一上昇位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図であり、図 1 9 4 は図 1 9 3 の状態から裏下可動装飾体ユニットを更に上昇させて第二上昇位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。

30

【1082】

遊技盤 5 は、通常の状態では、図 1 2 9 及び図 1 3 6 等 に示すように、センター役物 2 5 0 0 の枠内を通して裏ユニット 3 0 0 0 の後側に取付けられている遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 の表示画面を、遊技者側（前方）から良好に視認することができる。裏中可動演出ユニット 3 2 0 0 では、左右の裏中左装飾体 3 2 1 0 及び裏中右装飾体 3 2 2 0 が、退避位置の裏左装飾体 3 3 1 0 及び裏右装飾体 3 4 1 0 の後方となる互いに最も離反した退避位置の状態となっており、センター役物 2 5 0 0 の枠内を通して裏中左装飾体 3 2 1 0 及び裏中右装飾体 3 2 2 0 の一部が僅かに見えている。裏左可動演出ユニット 3 3 0 0 では、裏左装飾体 3 3 1 0 が、最も左側へ移動した退避位置の状態となっており、裏前飾りユニット 3 1 0 0 における裏前左飾りユニット 3 1 2 0 の後方に位置して前方から殆ど見えない。裏右可動演出ユニット 3 4 0 0 では、裏右装飾体 3 4 1 0 が、最も右側へ移動した退避位置の状態となっており、センター役物 2 5 0 0 における右辺側において一部がセンター役物 2 5 0 0 の枠内を通して見えている。

40

【1083】

また、通常の状態において、裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 では、裏上昇降ユニット 3 6 0 0 の可動側ユニット 3 6 1 0 が最も上昇した上昇位置の状態となっていると共に、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が水平に延びた水平位置の状態となっている。また、裏上

50

第一装飾体ユニット 3 5 1 0 を中央にして、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 が右側に、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 が左側に並んでいる。そして、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 の第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 及び第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 の第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 及び第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2、及び、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 の第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 及び第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2 は、夫々第一開閉パネ 3 5 2 3、第二開閉パネ 3 5 4 3、及び第三開閉パネ 3 5 6 3 の付勢力によって夫々互いに当接した閉位置の状態となっており、夫々において所定の文字の装飾を形成している。裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 は、左から右へ裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、及び裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 が、並んだ状態となることで、三つの文字によりパチンコ機 1 のコンセプトに沿った所定のロゴを横書きで見せることができ、遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 の上部よりも上側でセンター役物 2 5 0 0 の枠内の上部において、所定のロゴが遊技者側（前方）から見えている。

【1084】

遊技盤 5 は、第一始動口 2 0 0 2 や第二始動口 2 0 0 4 に遊技球が受入れられることで抽選される第一特別抽選結果や第二特別抽選結果に応じて、裏ユニット 3 0 0 0 の裏前飾りユニット 3 1 0 0、裏中可動演出ユニット 3 2 0 0、裏左可動演出ユニット 3 3 0 0、裏右可動演出ユニット 3 4 0 0、裏上可動演出ユニット 3 5 0 0、及び裏下可動演出ユニット 3 7 0 0 が、所定の演出（可動演出や発光演出）を行う。

【1085】

具体的には、例えば、裏ユニット 3 0 0 0 の裏中可動演出ユニット 3 2 0 0 を用いた演出として、裏中駆動モータ 3 2 5 4 の駆動により、互いに左右へ離反している裏中左装飾体 3 2 1 0 と裏中右装飾体 3 2 2 0 とを、互いに接近するように移動させて、略中央の出現位置に移動させる（図 1 8 5 を参照）。これにより、裏中左装飾体 3 2 1 0 と裏中右装飾体 3 2 2 0 とが、遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 の前面側の略中央に位置した状態となり、裏中左装飾体 3 2 1 0 と裏中右装飾体 3 2 2 0 との装飾が合体した状態となる。この出現位置の状態では、裏中左装飾体 3 2 1 0 と裏中右装飾体 3 2 2 0 とが、遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 に表示されている演出画像を遮ることとなり、遊技者の関心を強く引付けさせることができると共に、合体することで一つの大きな装飾（桜の花卉を模した装飾）を形成するため、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかとと思わせて遊技に対する期待感を高めさせることができる。

【1086】

また、裏ユニット 3 0 0 0 の裏左可動演出ユニット 3 3 0 0 及び裏右可動演出ユニット 3 4 0 0 を用いた演出として、例えば、裏左移動駆動ユニット 3 3 5 0 及び裏右移動駆動ユニット 3 4 5 0 の裏左移動駆動モータ 3 3 5 2 及び裏右移動駆動モータ 3 4 5 2 を駆動することで、裏左回転駆動ユニット 3 3 3 0 裏右回転駆動ユニット 3 4 3 0 を介して裏左装飾体 3 3 1 0 及び裏右装飾体 3 4 1 0 を左右方向の中央側の出現位置に移動させる。これにより、裏左装飾体 3 3 1 0 及び裏右装飾体 3 4 1 0 が、枠状のセンター役物 2 5 0 0 において、左辺側及び右辺側に接近した中央寄りの位置の状態となる。換言すると、センター役物 2 5 0 0 の枠内において、遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 の前面における左右両端付近に位置している（図 1 8 6 乃至図 1 8 8 を参照）。

【1087】

これにより、裏左装飾体 3 3 1 0 及び裏右装飾体 3 4 1 0 が見えるようになることで、遊技者を驚かせることができ、遊技者の関心を裏左装飾体 3 3 1 0 及び裏右装飾体 3 4 1 0 に引付けさせることができる。この際に、裏左装飾基板 3 3 3 4 及び裏右装飾基板 3 4 3 4 の LED を発光させることで、裏左装飾体 3 3 1 0 及び裏右装飾体 3 4 1 0 を発光装飾させることができ、遊技者の関心を更に引付けさせることができる。また、この状態では、裏左装飾体 3 3 1 0 と裏右装飾体 3 4 1 0 との間から遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 の表示画面が見えるため、演出画像とコラボレートした演出も楽しませることができる。

【1088】

そして、裏左装飾体 3 3 1 0 及び裏右装飾体 3 4 1 0 を出現位置に移動させた状態で、裏左回転駆動ユニット 3 3 3 0 及び裏右回転駆動ユニット 3 4 3 0 の図示しない裏左回転駆動モータ及び裏右回転駆動モータにより、裏左装飾体 3 3 1 0 及び裏右装飾体 3 4 1 0 を上下に延びた軸線周りにグルグルと回転させることで、遊技者を楽しませることが出来る。回転させている裏左装飾体 3 3 1 0 及び裏右装飾体 3 4 1 0 を停止させる際に、裏左装飾体 3 3 1 0 及び裏右装飾体 3 4 1 0 の第一装飾面 3 3 1 1, 3 4 1 1 が前方を向くように停止させたり（図 1 8 6 を参照）、第二装飾面 3 3 1 2, 3 4 1 2 が前方を向くように停止させたり（図 1 8 7 を参照）、第三装飾面 3 3 1 3, 3 4 1 3 が前方を向くように停止させたり（図 1 8 8 を参照）することができる。裏左装飾体 3 3 1 0 及び裏右装飾体 3 4 1 0 の回転を停止させる向きによって装飾が変わるため、遊技者に変化する装飾を楽しませることができると共に、所望の装飾で裏左装飾体 3 3 1 0 及び裏右装飾体 3 4 1 0 が停止するか否かでハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者の興味を高めさせることができる。

10

【1089】

なお、裏左可動演出ユニット 3 3 0 0 及び裏右可動演出ユニット 3 4 0 0 は、夫々独立して可動させることができるため、何れか一方のみを可動させるようにしても良いし、裏左装飾体 3 3 1 0 及び裏右装飾体 3 4 1 0 の回転を停止させた時に、前方を向いている装飾面が異なっているようにしても良い。これにより、より多彩な演出を遊技者に提示することができ、遊技者を飽きさせ難くすることができる。

【1090】

20

裏ユニット 3 0 0 0 の裏上可動演出ユニット 3 5 0 0 を用いた演出として、例えば、通常の位置の状態において、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 を水平位置とすると共に、作用レバー 3 5 8 6 を作用位置とした状態で、裏上昇駆動モータ 3 6 5 4 により昇降駆動ピン 3 6 5 2 b を、正面視反時計回りの方向へ公転させると、昇降駆動ピン 3 6 5 2 b の公転に伴って可動側ユニット 3 6 1 0 が下方へ移動し、可動側ユニット 3 6 1 0 に取付けられている裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 が下降する。そして、昇降駆動ピン 3 6 5 2 b が、最も下降した位置に到達して公転が停止すると、可動側ユニット 3 6 1 0 を介して裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 が、左右（水平）に並んで下降位置に位置することとなる（図 1 8 9 を参照）。

30

【1091】

この状態では、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 が、センター役物 2 5 0 0 の枠内における上下方向中央から上寄りに位置し、遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 の前面の上半分を覆ったような状態となる。これにより、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 の三つで形成される所定のロゴが、遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 に表示されている演出画像の一部を遮るように中央側へ下降するため、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技者の遊技に対する期待感を高めさせることができる。

【1092】

40

図 1 8 9 の状態で、作用レバー駆動モータ 3 5 8 3 により作用レバーピニオンギア 3 5 8 5 を正面視時計回りの方向へ回転させて作用レバー 3 5 8 6 を作用位置から右方の非作用位置へ移動させると、第一取付軸部材 3 5 2 5 の水平ロック孔 3 5 2 5 a に挿入されていたロック片 3 5 8 6 d が、水平ロック孔 3 5 2 5 a から抜けた状態となり、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の回転ロックが解除された状態となる。

【1093】

作用レバー 3 5 8 6 による裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の回転ロックを解除した状態で、可動側ユニット 3 6 1 0 の裏上回転駆動モータ 3 6 1 2 により回転ベース駆動ギア 3 6 1 4 を正面視反時計周りの方向へ回転させると、回転ベース駆動ギア 3 6 1 4 と噛合している回転ベース被駆動ギア 3 5 7 2 を介して、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が、

50

中央リンクギア 3 6 1 1 b を中心として正面視時計回りの方向へ回転することとなる。この際に、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 は、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の回転中心である第一孔 3 5 7 1 a を貫通して可動側ユニット 3 6 1 0 の前面に取付けられているため、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 と一緒に回転することはない。

【1094】

裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が、中央リンクギア 3 6 1 1 b を中心にして回転すると、中央リンクギア 3 6 1 1 b と噛合している第二用第三リンクギア 3 5 7 7 及び第三用第三リンクギア 3 5 8 2 が、中央リンクギア 3 6 1 1 b の周りを公転しながら自転し、それらの回転が第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 及び第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 に伝達され、第二用駆動リンクギア部材 3 5 7 3 及び第三用駆動リンクギア部材 3 5 7 8 が、裏上回転ベース 3 5 7 1 に対して反時計回りの方向へ夫々回転する。従って、裏上回転ベース 3 5 7 1 を回転させると、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 が、その上下の向きを一定に保ったままの状態、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 の周りを公転する（図 1 9 0 及び図 1 9 1 を参照）。

【1095】

この裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 の回転により、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 が、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 の周りを公転する際に、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 の上下の向きが保たれていることから、三つの装飾の文字による所定のロゴを遊技者に対して十分に認識させることができるため、横書きのロゴが縦書きのロゴに変化する動きを楽しむことができる。

【1096】

裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が、水平位置から正面視時計回りの方向へ 9 0 度回転すると、垂直位置に到達しその回転が停止する。この状態では、上から下へ順に、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、及び裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 が並んだ状態となる（図 1 9 1 を参照）。これにより、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0、及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 によって形成されるロゴが、センター役物 2 5 0 0 の枠内の中央において、その枠内の略全高に亘って縦断するように見えるため、遊技者に強いインパクトを与えることができ、遊技者の興味を高めさせることができる。

【1097】

そして、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 を、垂直位置へ回転させて、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0、及び裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 を、上下に並べた状態で、作用レバー駆動モータ 3 5 8 3 により作用レバーピニオンギア 3 5 8 5 を正面視反時計回りの方向へ回転させて、非作用位置の作用レバー 3 5 8 6 を上方へ移動させて作用位置へ移動させると、作用レバー 3 5 8 6 のロック片 3 5 8 6 d が、第一取付軸部材 3 5 2 5 の垂直ロック孔 3 5 2 5 b に挿入されることとなり、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 が、垂直位置で回転ロックされた状態となる。

【1098】

この作用レバー 3 5 8 6 が、非作用位置から作用位置へ移動（上昇）する時に、作用レバー 3 5 8 6 の第一用作用部 3 5 8 6 f、第二用作用部 3 5 8 6 i、及び第三用作用部 3 5 8 6 k、の夫々の先端（上端）が、裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 における第一開閉アーム 3 5 2 1 の受ボス 3 5 2 1 b、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 における第二開閉アーム 3 5 4 1 の受ボス 3 5 4 1 b、及び裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 における第三開閉アーム 3 5 6 1 の下端、に夫々下方から当接し、第一開閉アーム 3 5 2 1、第二開閉アーム 3 5 4 1、及び第三開閉アーム 3 5 6 1、を夫々上方へ移動させる。従って、閉位置の状態となっていた裏上第一装飾体ユニット 3 5 1 0 の第一左可動装飾レンズ 3 5 1 1 及び第一右可動装飾レンズ 3 5 1 2、裏上第二装飾体ユニット 3 5 3 0 の第二左可動装飾レンズ 3 5 3 1 及び第二右可動装飾レンズ 3 5 3 2、及び、裏上第三装飾体ユニット 3 5 5 0 の第三左可動装飾レンズ 3 5 5 1 及び第三右可動装飾レンズ 3 5 5 2、が夫々互いに

離反するように左右方向外方へ移動して開位置の状態となる（図192を参照）。

【1099】

これにより、遊技領域5a内の左右中央を縦断するように、第三左可動装飾レンズ3551と第三右可動装飾レンズ3552との間から臨んだ第三固定装飾レンズ3553と、第一左可動装飾レンズ3511と第一右可動装飾レンズ3512との間から臨んだ第一固定装飾レンズ3513と、第二左可動装飾レンズ3531と第二右可動装飾レンズ3532との間から臨んだ第二固定装飾レンズ3533と、裏前飾りユニット3100の裏前下中央レンズ3131とが、上から下へに一直線に並んだ状態となり、遊技者に対して強いインパクトを与えることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができる。

【1100】

そして、この状態で、裏上第三装飾基板3554、裏上第一装飾基板3514、裏上第二装飾基板3534、及び裏前下装飾基板3134、に実装されているLEDを適宜発光させて、第三固定装飾レンズ3553、第一固定装飾レンズ3513、第二固定装飾レンズ3533、及び裏前下中央レンズ3131を、順次発光装飾させることで、遊技者の視線を、上方や下方に誘導させることができ、遊技者を楽しませることができる。なお、第三固定装飾レンズ3553、第一固定装飾レンズ3513、第二固定装飾レンズ3533、及び裏前下中央レンズ3131は、演出操作ユニット400における扉枠側演出表示装置460と略同じ幅に形成されているため、第三固定装飾レンズ3553、第一固定装飾レンズ3513、第二固定装飾レンズ3533、裏前下中央レンズ3131、及び扉枠側演出表示装置460により、パチンコ機1の左右方向中央を縦断するような発光演出を遊技者に見せることができる（図196を参照）。

【1101】

裏ユニット3000の裏下可動演出ユニット3700を用いた演出として、例えば、通常の状態から、裏下駆動モータ3754により裏下可動装飾体ユニット3710を第一昇降位置へ移動させると、裏下装飾体本体3711がセンター役物2500におけるステージ2530の上側に位置した状態となり、センター役物2500の枠内を通して見えることとなる。これにより、裏下装飾体本体3711が見えるようになることで、遊技者の関心を強く引付けさせることができる（図193を参照）。この第一昇降位置の状態では、裏下装飾体本体3711の複数の門が、複数の裏下扉部材3712によって閉じられている。

【1102】

そして、裏下可動装飾体ユニット3710が、第一昇降位置から第二昇降位置へ僅かに上昇すると、複数の裏下扉部材3712がヒンジ回転して裏下装飾体本体3711の複数の門が開いた状態となる（図194を参照）。この門（裏下扉部材3712）が開く動作をすることで、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせることができる。そして、この状態で、裏下装飾基板3719のLEDを発光させて開いた門を発光装飾させると、遊技者に対してチャンスの到来を確信させることができ、遊技者の興味をより高めさせることができる。

【1103】

このように、本実施形態の遊技盤5では、裏前飾りユニット3100、裏中可動演出ユニット3200、裏左可動演出ユニット3300、裏右可動演出ユニット3400、裏上可動演出ユニット3500、及び裏下可動演出ユニット3700、等を適宜用いて、発光演出、可動演出、表示演出、等を行うことが可能であり、各種の演出によって遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

【1104】

[5-11. 遊技盤における異なる実施形態]

次に、遊技盤5における上記とは異なる実施形態について、図195を参照して詳細に説明する。図195は、遊技盤の別の実施形態として、裏ユニットの裏上可動演出ユニットに、センター役物のステージや裏前飾りユニットの裏前下中央レンズを発光装飾させるためのLEDを備えた例を示す説明図である。図195の実施形態は、裏上可動演出ユニ

10

20

30

40

50

ット3500における裏上第二装飾体ユニット3530の裏上第二装飾基板3534に、下方へ光を照射可能な複数の下部LED3534aを備えるようにしたものである。

【1105】

これにより、裏上回転ベースユニット3570を垂直位置に回転させることで、裏上第二装飾体ユニット3530の下端が、センター役物2500のステージ2530の中央（チャンス入口2535付近）や、裏前飾りユニット3100の裏前下中央レンズ3131の上端と、接近した状態となり、この状態で下部LED3534aを発光させることで、ステージ2530の中央や、裏前下中央レンズ3131の上部を発光装飾させることができる。従って、後方にLEDを備えた装飾基板を配置することができない部位でも、外側（ここでは上側）から光を供給して発光装飾させることができ、遊技者の関心を強く引付けることが可能な発光演出を行うことができる。

10

【1106】

〔5-12. 扉枠と遊技盤とによる演出〕

次に、扉枠3と遊技盤5とを用いた演出について、主に図196乃至図198を参照して説明する。図196は、遊技盤の裏ユニットにおける裏上可動演出ユニットにおいて、裏上回転ベースユニットを垂直位置の状態とすると共に、裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々開位置の状態として夫々の第一固定装飾レンズ、第二固定装飾レンズ、及び第三固定装飾レンズを視認可能とした状態で示すパチンコ機の正面図である。図197は、皿ユニット320に演出操作ユニット400に替えて第三演出操作ユニット400Bを取付け、装飾回転体ユニットの第一装飾面部を前方に向けた状態とすると共に、遊技盤を通常の状態を示すパチンコ機の正面図である。図198は、図197において、装飾回転体ユニットの第二装飾面部を前方へ向けた状態とした上で、遊技盤の裏ユニットにおける裏上可動演出ユニットにおいて、裏上回転ベースユニットを垂直位置の状態とすると共に、裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々開位置の状態として夫々の第一固定装飾レンズ、第二固定装飾レンズ、及び第三固定装飾レンズを視認可能とした状態で示すパチンコ機の正面図である。

20

30

【1107】

まず、扉枠3の皿ユニット320に、扉枠側演出表示装置460を備えた演出操作ユニット400を取付けたパチンコ機1による演出について説明する。扉枠3と遊技盤5とによる演出として、例えば、扉枠3における演出操作ユニット400と、遊技盤5における裏ユニット3000の裏上可動演出ユニット3500と、を用いた演出がある。具体的には、遊技盤5の裏ユニット3000における裏上可動演出ユニット3500において、裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610を下降位置に移動させた状態で、裏上回転ベースユニット3570を垂直位置の状態に回転し、作用レバー3586を非作用位置から作用位置へ移動させて、裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々開位置の状態とする。

40

【1108】

この状態では、図196に示すように、パチンコ機1の左右方向中央において、略同じ幅に形成された、第三固定装飾レンズ3553、第一固定装飾レンズ3513、第二固定装飾レンズ3533、裏前下中央レンズ3131、及び扉枠側演出表示装置460が、上から下へ並んだ状態となり、遊技者を驚かせて強いインパクトを与えることができる。そして、この状態で、裏上第三装飾基板3554、裏上第一装飾基板3514、裏上第二装飾基板3534、及び裏前下装飾基板3134により、第三固定装飾レンズ3553、第一固定装飾レンズ3513、第二固定装飾レンズ3533、及び裏前下中央レンズ313

50

1を、上から順次発光装飾させることで、遊技者の視線を、扉枠3における演出操作ユニット400の扉枠側演出表示装置460へ誘導させることができ、扉枠側演出表示装置460に表示された演出画像を楽しませることができると共に、演出操作ユニット400の操作ボタン410を操作させて、遊技者参加型演出を確実に楽しませることができる。

【1109】

なお、上記の実施形態に対して、皿ユニット320に、上記の演出操作ユニット400に替えて、扉枠側第二演出表示装置460Aを備えた第二演出操作ユニット400Aを取付け、扉枠側第二演出表示装置460Aにおけるスクリーンユニット470のメインスクリーン471を前方に向けた状態で、上記と同様の演出を行うようにしても良い。これによっても、上記と同様の作用効果を奏することができる。

10

【1110】

続いて、扉枠3の皿ユニット320に、装飾回転体ユニット530を備えた第三演出操作ユニット400Bを取付けたパチンコ機1による演出について説明する。このパチンコ機1では、図197に示すように、通常の状態では、扉枠3の皿ユニット320に取付けられている第三演出操作ユニット400Bにおいて、操作ボタン410の透明なボタンレンズ411を通して後側（内部）に配置されている装飾回転体ユニット530の第一装飾面部532が、遊技者側（前方）から見えるようになっている。水平に延びた第一軸線CL1に直交している第二軸線CL2周りに回転可能な第一装飾面部532は、中央の方向性を有したロゴ装飾部532aが正しい向きとなっている。

20

【1111】

また、第三演出操作ユニット400B（皿ユニット320）の上方では、扉枠3の貫通口111を通して見える遊技盤5の遊技領域5a内において、センター役物2500の枠内を通して裏ユニット3000の後側に取付けられている遊技盤側演出表示装置1600の表示画面を、遊技者側（前方）から良好に視認することができる。裏ユニット3000の裏中可動演出ユニット3200では、左右の裏中左装飾体3210及び裏中右装飾体3220が、互いに最も離反した退避位置の状態となっており、センター役物2500の枠内を通して一部が僅かに見えている。裏左可動演出ユニット3300の裏左装飾体3310は、裏前飾りユニット3100の裏前左飾りユニット3120の後方となる退避位置の状態となっており、前方から殆ど見えない。裏右可動演出ユニット3400の裏右装飾体3410は、退避位置の状態となっており、センター役物2500の右辺側において一部が枠内を通して見えている。

30

【1112】

また、裏上可動演出ユニット3500では、裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610が上昇位置の状態となっていると共に、裏上回転ベースユニット3570が水平位置の状態となっており、裏上第一装飾体ユニット3510を中央にして、裏上第二装飾体ユニット3530が右側に、裏上第三装飾体ユニット3550が左側に並んでいる。裏上第一装飾体ユニット3510の第一左可動装飾レンズ3511及び第一右可動装飾レンズ3512、裏上第二装飾体ユニット3530の第二左可動装飾レンズ3531及び第二右可動装飾レンズ3532、及び、裏上第三装飾体ユニット3550の第三左可動装飾レンズ3551及び第三右可動装飾レンズ3552は、夫々互いに当接した閉位置の状態となっており、夫々において所定の文字の装飾（図示は省略）を形成している。従って、センター役物2500の枠内の上部において、三つの文字が左右に並んでいる所定のロゴが、遊技者側（前方）から見えている。

40

【1113】

図197の状態から、例えば、裏上可動演出ユニット3500において、裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610を下降位置に移動させた状態で、裏上回転ベースユニット3570を垂直位置の状態に回転し、作用レバー3586を非作用位置から作用位置へ移動させて、裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々開

50

位置の状態とする。

【1114】

この状態では、パチンコ機1の左右方向中央において、略同じ幅に形成された、第三固定装飾レンズ3553、第一固定装飾レンズ3513、第二固定装飾レンズ3533、及び裏前下中央レンズ3131が、上から下へ並んだ状態となり、遊技者を驚かせて強いインパクトを与えることができる。この状態で、裏上第三装飾基板3554、裏上第一装飾基板3514、裏上第二装飾基板3534、及び裏前下装飾基板3134により、第三固定装飾レンズ3553、第一固定装飾レンズ3513、第二固定装飾レンズ3533、及び裏前下中央レンズ3131を、上から順次発光装飾させることで、遊技者の視線を、扉枠3における第三演出操作ユニット400Bへ誘導させることができる。そして、上からの発光装飾が、第三演出操作ユニット400Bに到達すると、操作ボタン410内の装飾回転体ユニット530を、第一装飾面部装飾基板535及び第二装飾面部装飾基板536によって発光装飾させると共に、演出操作ユニット第一駆動モータ528により、第一装飾面部532が前方を向いている装飾回転体ユニット530を水平に延びている第一軸線CL1周りに180度回転させて、第二装飾面部533を前方へ向けた状態とする（図198を参照）。これにより、遊技領域5a内から下方の第三演出操作ユニット400Bに誘導された遊技者の視線の先で、操作ボタン410の透明なボタンレンズ411を通して見える第一装飾面部532が、異なる装飾の第二装飾面部533に変化するため、遊技者に対してチャンスの到来を示唆させることができ、遊技に対する期待感を高めさせることができると共に、第三演出操作ユニット400Bの操作ボタン410の操作を促すことができ、操作ボタン410の操作により遊技者参加型演出を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

10

20

【1115】

この第三演出操作ユニット400Bの装飾回転体ユニット530による演出は、上述したように、遊技領域5a内での上方から第三演出操作ユニット400Bへの発光装飾の到達を契機にして行うことが望ましく、連続した演出を遊技者に楽しませることができる。なお、装飾回転体ユニット530による演出は、上記の「3-4h-7. 第三演出操作ユニットにおける可動演出」に記載したような演出を実行すれば良い。

【1116】

また、上記とは異なる演出として、例えば、図197の状態から、第三演出操作ユニット400Bの装飾回転体ユニット530を、水平に延びた第一軸線CL1周りに180度回転させて、第二装飾面部533を前方へ向けた状態とする。この状態で、第一装飾面部装飾基板535及び第二装飾面部装飾基板536により第一装飾面部532及び第二装飾面部533を発光装飾させ、遊技者の関心を遊技領域5a下方の第三演出操作ユニット400Bに引付けさせる。その後、前方を向いていた第二装飾面部533が上方へ移動するように、装飾回転体ユニット530を第一軸線CL1周りに回転させ、第二装飾面部533の反対側の第一装飾面部532を、下方から上方へ向かって出現するように移動させる。この第二装飾面部533と第一装飾面部532との切替えにより、遊技者の視線を第三演出操作ユニット400Bの上方（遊技領域5a内）へ誘導させることができる。

30

【1117】

続いて、裏上可動演出ユニット3500における裏上昇降ユニット3600の可動側ユニット3610を下降位置に移動させた状態で、裏上回転ベースユニット3570を垂直位置の状態に回転し、作用レバー3586を非作用位置から作用位置へ移動させて、裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々開位置へ移動させ、第三固定装飾レンズ3553、第一固定装飾レンズ3513、第二固定装飾レンズ3533、及び裏前下中央レンズ3131が、上下に並んだ状態とする。そして、それらを下から順に発光装飾させることで、第三演出操作ユニット400Bから始まった演出が、第三演出操作ユニット400Bよりも上方へ移動したように見せることができるため、上昇機運を感

40

50

じさせることが可能な演出を遊技者に見せることができ、遊技者の気分を高揚させて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。この第三演出操作ユニット400Bから始まる演出は、遊技者参加型演出の実行時において、所定のタイミングで遊技者が操作ボタン410を押圧操作したことを契機に開始されるものとしても良い。

【1118】

このように、様々な演出を遊技者に見せることができ、多彩な演出により遊技者を飽きさせ難くすることができると共に、遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【1119】

〔6. 遊技内容〕

次に、本実施形態のパチンコ機1による遊技内容について、図135等を参照して説明する。本実施形態のパチンコ機1は、扉枠3の前面右下隅に配置されたハンドルユニット300のハンドル302を遊技者が回転操作することで、皿ユニット320の上皿321に貯留された遊技球が、遊技盤5における外レール1001と内レール1002との間を通過して遊技領域5a内の上部へと打ち込まれて、遊技球による遊技が開始される。遊技領域5a内の上部へ打ち込まれた遊技球は、その打込強さによってセンター役物2500の左側、或いは、右側の何れかを流下する。なお、遊技球の打込み強さは、ハンドル302の回転量によって調整することができ、時計回りの方向へ回転させるほど強く打込むことができ、連続で一分間に最大100個の遊技球、つまり、0.6秒間隔で遊技球を打込むことができる。

【1120】

また、遊技領域5a内には、適宜位置に所定のゲージ配列で複数の障害釘（図示は省略）が遊技パネル1100（パネル板1110）の前面に植設されており、遊技球が障害釘に当接することで、遊技球の流下速度が抑制されると共に、遊技球に様々な動きが付与されて、その動きを楽しませられるようになっている。また、遊技領域5a内には、障害釘の他に、遊技球の当接により回転する風車（図示は省略）が適宜位置に備えられている。

【1121】

センター役物2500の上部へ打ち込まれた遊技球は、センター役物2500の外周面のうち、最も高くなった部位よりも正面視左側へ進入すると、図示しない複数の障害釘に当接しながら、センター役物2500よりも左側の領域を流下することとなる。そして、センター役物2500の左側の領域を流下する遊技球が、センター役物2500の外周面に開口しているワープ入口2520に進入すると、ワープ出口2522からステージ2530に供給される。

【1122】

ステージ2530に供給された遊技球は、ステージ2530上を転動して左右に行ったり来たりして前方へ放出される。ステージ2530の中央のチャンス入口2535に遊技球が進入してチャンス出口2536から遊技領域5a内に放出されると、チャンス出口2536が第一始動口2002の直上に位置していることから、高い確率で第一始動口2002に受入れられる。この第一始動口2002に遊技球が受入れられると、主制御基板1310及び払出制御基板951を介して払出装置830から所定数（例えば、3個）の遊技球が、上皿321に払出される。

【1123】

ステージ2530を転動している遊技球が、中央以外から遊技領域5a内に放出されると、始動口ユニット2100へ向かって流下する。センター役物2500のステージ2530から遊技領域5a内に放出された遊技球は、始動口ユニット2100の第一始動口2002、サイドユニット2200やアタッカユニット2400の一般入賞口2001、及びアタッカユニット2400における開状態の第一大入賞口2005等、に受入れられる可能性がある。

【1124】

ところで、センター役物2500の左側へ流下した遊技球が、ワープ入口2520に進

10

20

30

40

50

入しなかった場合、サイドスロープ 2 3 0 0 の棚部 2 3 0 1 により左右方向中央側へ寄せられ、サイドユニット 2 2 0 0 の一般入賞口 2 0 0 1 や、始動口ユニット 2 1 0 0 の第一始動口 2 0 0 2 等、に受入れられる可能性がある。そして、一般入賞口 2 0 0 1 に遊技球が受入れられると、主制御基板 1 3 1 0 及び払出制御基板 9 5 1 を介して払出装置 8 3 0 から所定数（例えば、1 0 個）の遊技球が、上皿 3 2 1 に払出される。

【1 1 2 5】

一方、遊技領域 5 a 内においてセンター役物 2 5 0 0 の上部に打込まれた遊技球が、センター役物 2 5 0 0 の外周面の最も高くなった部位よりも右側に進入する（所謂、右打ちする）と、センター役物 2 5 0 0 の右案内通路 2 5 4 0 からアタッカユニット 2 4 0 0 の上部へ放出される。右案内通路 2 5 4 0 の下流端の直下には、アタッカユニット 2 4 0 0 におけるゲート部 2 0 0 3 と第二始動口 2 0 0 4 とが備えられたゲート通路 2 4 2 0 が配置されており、高い確率で遊技球がゲート通路 2 4 2 0 へ進入する。

10

【1 1 2 6】

そして、右打した遊技球が、ゲート通路 2 4 2 0 に進入してゲート部 2 0 0 3 を通過すると、主制御基板 1 3 1 0 において普通抽選が行われ、抽選された普通抽選結果が「普通当り」の場合、第二始動口 2 0 0 4 を閉鎖している第二始動口扉 2 4 1 1 が所定時間（例えば、0. 3 ～ 1 0 秒）の間、開状態となり、第二始動口 2 0 0 4 への遊技球の受入れが可能となる。そして、第二始動口 2 0 0 4 に遊技球が受入れられると、主制御基板 1 3 1 0 及び払出制御基板 9 5 1 を介して払出装置 8 3 0 から所定数（例えば、4 個）の遊技球が、上皿 3 2 1 に払出される。

20

【1 1 2 7】

本実施形態では、ゲート部 2 0 0 3 を遊技球が通過することで行われる普通抽選において、普通抽選を開始してから普通抽選結果を示唆するまでにある程度の時間を設定している（例えば、0. 0 1 ～ 6 0 秒、普通変動時間とも称す）。この普通抽選結果の示唆は、遊技盤 5 の機能表示ユニット 1 4 0 0 に表示される。第二始動口 2 0 0 4 では、普通変動時間の経過後に開状態となる。この普通変動時間が短いほど、ゲート部 2 0 0 3 において「普通当り」を抽選した遊技球が、第二始動口 2 0 0 4 に受入れられるようになる。

【1 1 2 8】

なお、遊技球がゲート部 2 0 0 3 を通過してから普通抽選結果が示唆されるまでの間に、遊技球がゲート部 2 0 0 3 を通過すると、普通抽選結果の示唆を開始することができないため、普通抽選結果の示唆の開始を、先の普通抽選結果の示唆が終了するまで保留するようにしている。また、普通抽選結果の保留数は、4 つまでを上限とし、それ以上については、ゲート部 2 0 0 3 を遊技球が通過しても、保留せずに破棄している。これにより、保留が貯まることで遊技ホール側の負担の増加を抑制している。

30

【1 1 2 9】

本実施形態のパチンコ機 1 は、第一始動口 2 0 0 2 及び第二始動口 2 0 0 4 に遊技球が受入れられると、主制御基板 1 3 1 0 において、遊技者に有利な有利遊技状態（例えば、「大当り」、「中当り」、「小当り」、「確率変動当り」、「時間短縮当り」、等）を発生させる特別抽選結果の抽選が行われる。そして、抽選された特別抽選結果を、所定時間（例えば、0. 1 ～ 3 6 0 秒、特別変動時間とも称す）かけて遊技者に示唆する。なお、第一始動口 2 0 0 2 及び第二始動口 2 0 0 4 に遊技球が受入れられることで抽選される特別抽選結果には、「ハズレ」、「小当り」、「2 R 大当り」、「5 R 大当り」、「1 5 R 大当り」、「確変（確率変更）当り」、「時短（時間短縮）当り」、「確変時短当り」、「確変時短無し当り」、「第二大当り（例えば、役物当り）」、等がある。

40

【1 1 3 0】

第一始動口 2 0 0 2 及び第二始動口 2 0 0 4 への遊技球の受入れにより抽選された特別抽選結果（第一特別抽選結果及び第二特別抽選結果）が、有利遊技状態を発生させる特別抽選結果の場合、特別変動時間の経過後に、第一大入賞口 2 0 0 5 が所定の開閉パターンで遊技球の受入れが可能な状態となる。第一大入賞口 2 0 0 5 が開状態の時に、第一大入賞口 2 0 0 5 に遊技球が受入れられると、主制御基板 1 3 1 0 及び払出基板によって払出

50

装置 8 3 0 から所定数（例えば、1 0 個、又は、1 3 個）の遊技球が、上皿 3 2 1 に払出される。従って、第一大入賞口 2 0 0 5 が遊技球を受入可能としている時に、第一大入賞口 2 0 0 5 に遊技球を受入れさせることで、多くの遊技球を払出させることができ、遊技者を楽しませることができる。

【1 1 3 1】

特別抽選結果が「小当り」の場合、第一大入賞口 2 0 0 5 が、所定短時間（例えば、0 . 2 秒～0 . 6 秒の間）の間、遊技球を受入可能な開状態となってから閉鎖する開閉パターンを複数回（例えば、2 回）繰返す。一方、特別抽選結果が「大当り」の場合、第一大入賞口 2 0 0 5 が、遊技球を受入可能な開状態となった後に、所定時間（例えば、約 3 0 秒）経過、或いは、第一大入賞口 2 0 0 5 への所定個数（例えば、1 0 個）の遊技球の受入れ、の何れかの条件が充足すると、遊技球を受入不能な閉状態とする開閉パターン（一回の開閉パターンを 1 ラウンドと称す）を、所定回数（所定ラウンド数）繰返す。例えば、「2 R 大当り」であれば 2 ラウンド、「5 R 大当り」であれば 5 ラウンド、「1 5 R 大当り」であれば 1 5 ラウンド、夫々繰返して、遊技者に有利な有利遊技状態を発生させる。

10

【1 1 3 2】

なお、「大当り」では、大当り遊技の終了後に、「大当り」等の特別抽選結果が抽選される確率を変更（「確変当り」）したり、特別抽選結果を示唆する演出画像の表示時間を変更（「時短当り」）したりする「当り」がある。

【1 1 3 3】

20

また、特別抽選結果が「第二大当り（例えば、役物当り）」の場合、第二大入賞口 2 0 0 6 が、所定短時間（例えば、0 . 2 秒～3 . 0 秒の間）の経過、或いは、所定数（例えば、一つのみ）の遊技球の受入れ、の何れかの条件が充足するまで、開状態となる。この第二大入賞口 2 0 0 6 が開状態の時に、遊技球が第二大入賞口 2 0 0 6 に受入れられると、所定数（例えば、3 個）の遊技球が払出される。そして、第二大入賞口 2 0 0 6 に受入れられた遊技球が、振分片 2 4 3 3 によって第一受入口 2 4 3 1 に振り分けられると、「5 R 大当り」として第一大入賞口 2 0 0 5 が開閉し、振分片 2 4 3 3 によって第二受入口 2 4 3 2 に振り分けられると、「1 5 R 大当り」として第一大入賞口 2 0 0 5 が開閉する。

【1 1 3 4】

30

本実施形態では、第一始動口 2 0 0 2 及び第二始動口 2 0 0 4 への遊技球の受入れにより特別抽選の開始から抽選された特別抽選結果が示唆されるまでの間に、第一始動口 2 0 0 2 及び第二始動口 2 0 0 4 に遊技球が受入れられると、特別抽選結果の示唆を開始することができないため、先に抽選された特別抽選結果の示唆が完了するまで、特別抽選結果の示唆の開始が保留される。この保留される特別抽選結果の保留数は、第一始動口 2 0 0 2 及び第二始動口 2 0 0 4 に対して、夫々 4 つまでを上限とし、それ以上については、第一始動口 2 0 0 2 及び第二始動口 2 0 0 4 に遊技球が受入れられても特別抽選結果を保留せずに、破棄している。これにより、保留が貯まることで遊技ホール側の負担の増加を抑制している。

【1 1 3 5】

40

この特別抽選結果の示唆は、機能表示ユニット 1 4 0 0 と遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 とで行われる。機能表示ユニット 1 4 0 0 では、主制御基板 1 3 1 0 によって直接制御されて特別抽選結果の示唆が行われる。機能表示ユニット 1 4 0 0 での特別抽選結果の示唆は、複数の L E D を、点灯・消灯を繰返して所定時間点滅させ、その後に、点灯している L E D の組合せによって特別抽選結果を示唆する。

【1 1 3 6】

一方、遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 では、主制御基板 1 3 1 0 からの制御信号に基づいて、周辺制御基板 1 5 1 0 によって間接的に制御され演出画像として特別抽選結果の示唆が行われる。遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 での特別抽選結果を示唆する演出画像は、複数の図柄からなる図柄列を、左右方向へ三つ並べて表示した状態で、各図柄列を変動させ

50

、変動表示されている図柄列を順次停止表示させ、停止表示される三つの図柄列の図柄が、特別抽選結果と対応した組合せとなるように夫々の図柄列が停止表示される。特別抽選結果が「ハズレ」以外の場合は、三つの図柄列が停止して各図柄が停止表示された後に、特別抽選結果を示唆する確定画像が遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 に表示されて、抽選された特別抽選結果に応じた有利遊技状態（例えば、小当り遊技、大当り遊技、等）が発生する。

【1 1 3 7】

なお、機能表示ユニット 1 4 0 0 での特別抽選結果を示唆する時間（L E D の点滅時間（変動時間））と、遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 での特別抽選結果を示唆する時間（図柄列が変動して確定画像が表示されるまでの時間）とは、異なっており、機能表示ユニット 1 4 0 0 の方が長い時間に設定されている。

10

【1 1 3 8】

また、周辺制御基板 1 5 1 0 では、遊技盤側演出表示装置 1 6 0 0 による特別抽選結果を示唆するための演出画像の表示の他に、抽選された特別抽選結果に応じて、扉枠 3 における演出操作ユニット 4 0 0 の操作ボタン 4 1 0 や扉枠側演出表示装置 4 6 0、裏ユニット 3 0 0 0 の裏前飾りユニット 3 1 0 0、裏中可動演出ユニット 3 2 0 0、裏左可動演出ユニット 3 3 0 0、裏右可動演出ユニット 3 4 0 0、裏上可動演出ユニット 3 5 0 0、及び裏下可動演出ユニット 3 7 0 0、等を適宜用いて、発光演出、可動演出、表示演出、等を行うことが可能であり、各種の演出によっても遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興味が低下するのを抑制することができる。

20

【1 1 3 9】

[7. 本実施形態と本発明の関係]

本実施形態における第三演出操作ユニット 4 0 0 B の操作ボタン 4 1 0 は本発明の誘導カバー部に、本実施形態の第三ベースユニット 5 2 0 におけるユニットベースの収容壁部 5 2 1 a は本発明の後カバー部に、本実施形態における演出操作ユニット第一駆動モータ 5 2 8 は本発明の回転手段に、本実施形態における装飾回転体ユニット 5 3 0 の回転体ベースユニット 5 3 1 は本発明の駆動源ベースに、本実施形態における回転体ベースユニット 5 3 1 の周面装飾部 5 3 1 f は本発明の通気孔に、本実施形態における第一装飾面部 5 3 2 は本発明の装飾面部に、本実施形態における第一装飾面部 5 3 2 の軸部材 5 3 2 d は本発明の軸部に、本実施形態における第二装飾面部 5 3 3 は本発明の送風装飾部に、本実施形態における演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 は本発明の駆動源に、本実施形態における第一装飾面部装飾基板 5 3 5 及び第二装飾面部装飾基板 5 3 6 は本発明の装飾面部発光手段及び送風装飾部発光手段に、夫々相当している。

30

【1 1 4 0】

[8. 本実施形態の特徴的な作用効果]

このように、本実施形態のパチンコ機 1 によると、本パチンコ機 1 を前方から見ると、遊技者が操作可能な操作ボタン 4 1 0 の透明なボタンレンズ 4 1 1 を通して装飾回転体ユニット 5 3 0 の第一装飾面部 5 3 2 又は第二装飾面部 5 3 3 が見えるため、第一装飾面部 5 3 2 又は第二装飾面部 5 3 3 によって操作ボタン 4 1 0 内の見栄えを良くすることができると共に、回転体ベースユニット 5 3 1 に取付けられている第一装飾面部装飾基板 5 3 5 又は第二装飾面部装飾基板 5 3 6 により第一装飾面部 5 3 2 又は第二装飾面部 5 3 3 を発光装飾させることで、遊技者の関心を第一装飾面部 5 3 2 又は第二装飾面部 5 3 3 に強く引付けさせて注目させることができる。そして、箱状の回転体ベースユニット 5 3 1 内に取付けられている演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 により軸部材 5 3 2 d を回転させると、軸部材 5 3 2 d の両端に夫々取付けられている第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 が、軸部材 5 3 2 d の中心軸線（第二軸線 C L 2）周りに回転することとなり、操作ボタン 4 1 0 の透明なボタンレンズ 4 1 1 を通して、遊技者側を向いた第一装飾面部 5 3 2 又は第二装飾面部 5 3 3 の全体が見えているままの状態、その中央付近を中心としてグルグル回転するような可動演出を遊技者に見せることができるため、遊技者の関心を第一装飾面部 5 3 2 又は第二装飾面部 5 3 3 に強く引付けさせることができ、遊技

40

50

者に第一装飾面部 5 3 2 又は第二装飾面部 5 3 3 による可動演出を楽しませることができると共に、目が回るような可動演出により遊技者に対して何か良いことがあるのではないかとと思わせることができ、遊技者の遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。

【1 1 4 1】

ところで、軸部材 5 3 2 d を介して第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 を回転させるために演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 を駆動させると、演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 から熱が発生する。そして、第一装飾面部 5 3 2 と第二装飾面部 5 3 3 との間において内部に演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 が取付けられている回転体ベースユニット 5 3 1 は、第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 と一緒に、前側が操作ボタン 4 1 0 により覆われていると共に、後側がユニットベース 5 2 1 の収容壁部 5 2 1 a により覆われていることから、演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 から発生した熱がこもり易い状態となっている。これに対しては、回転体ベースユニット 5 3 1 の外周面に貫通している複数の周面装飾部 5 3 1 f が形成されていると共に、収容壁部 5 2 1 a に複数の換気口 5 2 1 d が形成されているため、演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 や第一装飾面部装飾基板 5 3 5 及び第二装飾面部装飾基板 5 3 6 等において発生した熱が、複数の周面装飾部 5 3 1 f を通して回転体ベースユニット 5 3 1 の外部（ボタン内空間 A S）に放出された後に、回転体ベースユニット 5 3 1 に取付けられている第二装飾面部 5 3 3 の回転により発生した風が、操作ボタン 4 1 0 によって誘導された上で、収容壁部 5 2 1 a の複数の換気口 5 2 1 d を通して、収容壁部 5 2 1 a の後方（皿ユニットカバー 3 2 6 の取付空間 3 2 6 j 内）へ排出されることとなる。従って、第二装飾面部 5 3 3 の回転により発生して操作ボタン 4 1 0 により誘導された風によって、演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 や第一装飾面部装飾基板 5 3 5 等からの熱を、操作ボタン 4 1 0 と収容壁部 5 2 1 a との間のボタン内空間 A S から逃してパチンコ機 1 の外部に排出させることができるため、操作ボタン 4 1 0 の後側において熱のこもりを抑制して温度の上昇を低減させることができ、熱による不具合の発生を良好に防止することができると共に、不具合の発生による遊技の中断により、遊技者に対して不快感を与えてしまうのを防止することができる、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【1 1 4 2】

また、操作ボタン 4 1 0 によって第二装飾面部 5 3 3 の回転により発生した風を誘導して演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 や第一装飾面部装飾基板 5 3 5 及び第二装飾面部装飾基板 5 3 6 からの熱を逃して外部に排出させることができることから、第二装飾面部 5 3 3 や第一装飾面部 5 3 2 から離れた位置に演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 等を配置することが可能となるため、演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 等を第一装飾面部 5 3 2 や第二装飾面部 5 3 3 の邪魔になり難くすることができ、第一装飾面部 5 3 2 や第二装飾面部 5 3 3 の装飾（形状）の設計自由度を高めることができる。従って、所望の装飾効果を発揮する見栄えの良い第一装飾面部 5 3 2 や第二装飾面部 5 3 3 とすることができ、遊技者に第一装飾面部 5 3 2 や第二装飾面部 5 3 3 の装飾や可動演出をより楽しませて、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【1 1 4 3】

更に、第二装飾面部 5 3 3 を、軸部材 5 3 2 d を介して演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 により回転させるようにしていることから、第二装飾面部 5 3 3 の回転により発生する風が一定の流れとなり易く、操作ボタン 4 1 0 によって誘導し易くなるため、演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 等からの熱を効果的に逃して外部に排出させられる位置へ、風を連続的に誘導させることが可能となり、熱の排出効率をより高めることができ、熱による不具合の発生を確実に防止することができる。

【1 1 4 4】

また、操作ボタン 4 1 0 を、前方へ膨出した半球面形状としているため、演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 により第二装飾面部 5 3 3 を回転させた時に、例えば、第二装飾面部 5 3 3 から前方へ向かう風が発生する場合、その風が、第二装飾面部 5 3 3 の前方

を覆っている操作ボタン４１０の後面に当接し、操作ボタン４１０の湾曲した面に沿って外周縁側へ流れる（誘導される）こととなる。そして、操作ボタン４１０の外周縁側へ誘導された風は、外周縁付近の後方へ屈曲している部位により、その流れが後方へと誘導され、第二装飾面部５３３の外周外側を通して第二装飾面部５３３よりも後側へ流れる（誘導される）こととなる。或いは、第二装飾面部５３３から後方へ向かう風が発生する場合、第二装飾面部５３３の前方、詳しくは、第二装飾面部５３３と操作ボタン４１０との間の空間が、負圧となるため、第二装飾面部５３３よりも後側の空気が、第二装飾面部５３３の外周外側を通った上で、操作ボタン４１０の外周縁付近の後方へ屈曲している部位により、操作ボタン４１０の中央側へと誘導され、第二装飾面部５３３と操作ボタン４１０との間の空間へ流れる（誘導される）こととなる。このように、第二装飾面部５３３の回転により発生する風をスムーズに誘導することができ、演出操作ユニット第二駆動モータ５３４等からの熱を逃して外部へ排出させ易くすることができる。

【１１４５】

また、第二装飾面部５３３を、第一装飾面部５３２とは別体としているため、第二装飾面部５３３により第一装飾面部５３２の装飾を阻害し難くすることができ、第一装飾面部５３２の装飾（形状）の設計自由度を高めることができる。従って、所望の装飾効果を発揮する見栄えの良い第一装飾面部５３２とすることができ、遊技者に第一装飾面部５３２の装飾や可動演出をより楽しませて、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１１４６】

更に、演出操作ユニット第一駆動モータ５２８により回転体ベースユニット５３１を回転軸線（第一軸線ＣＬ１）周りに回転させると、遊技者側へ第一装飾面部５３２を向けたたり第二装飾面部５３３を向けたたりすることができ、操作ボタン４１０の透明なボタンレンズ４１１を通して遊技者側から見える装飾を切替えることができる。この際に、風を発生させる第二装飾面部５３３には羽根状の装飾が形成されているため、第二装飾面部５３３の見栄えが良くなっており、第二装飾面部５３３を遊技者側に向けても、その装飾により遊技者に違和感を与えることなく、回転体ベースユニット５３１の回転による第一装飾面部５３２と第二装飾面部５３３との切替えによる装飾の変化を遊技者に楽しませることができると共に、演出操作ユニット第二駆動モータ５３４により軸部材５３２ｄを介して第二装飾面部５３３（及び第一装飾面部５３２）を回転させることで、第二装飾面部５３３の回転も楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。また、第一装飾面部５３２を発光装飾させる第一装飾面部装飾基板５３５に加えて、第二装飾面部５３３を発光装飾させる第二装飾面部装飾基板５３６も備えているため、第一装飾面部５３２や第二装飾面部５３３の発光装飾によって遊技者の関心をそれらに強く引付けさせることができ、第一装飾面部５３２や第二装飾面部５３３の発光装飾を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。そして、演出操作ユニット第二駆動モータ５３４による第一装飾面部５３２及び第二装飾面部５３３の回転、演出操作ユニット第一駆動モータ５２８による回転体ベースユニット５３１の回転、及び、第一装飾面部装飾基板５３５及び第二装飾面部装飾基板５３６による発光装飾、を適宜組合せることで、多彩な演出を遊技者に見せることができ、遊技者を飽きさせ難くすることができると共に、楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１１４７】

また、演出操作ユニット第一駆動モータ５２８による回転体ベースユニット５３１の回転軸線（第一軸線ＣＬ１）周りの回転によって、第二装飾面部５３３を遊技者側へ向けた状態で、演出操作ユニット第二駆動モータ５３４により第一装飾面部５３２及び第二装飾面部５３３を回転させた場合でも、第二装飾面部５３３において発生した風を、操作ボタン４１０の後面により後方へ案内して収容壁部５２１ａの複数の換気口５２１ｄから排出させることができるため、演出操作ユニット第二駆動モータ５３４や第一装飾面部装飾基板５３５及び第二装飾面部装飾基板５３６等からの熱を良好に排出させることができ、熱による不具合の発生を防止して上述と同様の作用効果を奏することができる。

【1148】

更に、上述したように、操作ボタン410の透明なボタンレンズ411を通して見える装飾を切替えたり、回転させたり、発光装飾させたりすることができることから、遊技者の関心を操作ボタン410内の装飾に引付けさせることができるため、透明な部位を通して装飾が見える操作ボタン410に対しても遊技者の関心を強く引付けさせることができる。そして、操作ボタン410の透明なボタンレンズ411を通して見える装飾が、回転したり切替わったりすることで、遊技者に対して操作ボタン410を操作すると、何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技者に対して操作ボタン410の操作を促すことができる。従って、遊技者参加型演出を実行した時に、操作ボタン410内の装飾を変化させたり切替えたりすることで、遊技者に対して操作ボタン410の操作を促すことができるため、遊技者に対して操作ボタン410を操作させることができ、遊技者参加型演出に遊技者を確実に参加させることができると共に、遊技者参加型演出を楽しむことができる、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【1149】

また、第一装飾面部532及び第二装飾面部533を回転させる演出操作ユニット第二駆動モータ534を、箱状の回転体ベースユニット531の内部に取付けていることから、演出操作ユニット第一駆動モータ528により回転体ベースユニット531を回転させた時に、回転体ベースユニット531の外周面が、操作ボタン410の透明なボタンレンズ411を通して遊技者側から見える状態となっても、回転体ベースユニット531によって演出操作ユニット第二駆動モータ534が見えないように隠すことができるため、演出操作ユニット第二駆動モータ534が見えることで見栄えが悪くなるのを防止することができる、操作ボタン410内の見栄えを良くして遊技者を楽しませることができる。

【1150】

更に、本実施形態のパチンコ機1によると、本パチンコ機1を前方から見ると、第三演出操作ユニット400Bの操作ボタン410の透明なボタンレンズ411を通して、第一装飾面部532及び第二装飾面部533の二つのうち、第一装飾面部532が見えており、第一装飾面部532の装飾により操作ボタン410の見栄えが良くなっている。操作ボタン410を通して見える第一装飾面部532は、操作ボタン410の面（中心軸線CLに直交している面）に平行で水平に延びた第一軸線CL1周りに回転可能に支持されている回転体ベースユニット531に、第一軸線CL1を中心として周方向へ間隔をあけて列設されている。この状態で、演出操作ユニット第一駆動モータ528により回転体ベースユニット531を第一軸線CL1周りに回転させると、操作ボタン410の真後ろに位置している第一装飾面部532が、操作ボタン410の真後ろの位置から移動すると共に、周方向に間隔をあけて列設されている次の第二装飾面部533が操作ボタン410の真後ろに移動してくることとなる。従って、演出操作ユニット第一駆動モータ528により回転体ベースユニット531を第一軸線CL1周りに回転させると、操作ボタン410の透明なボタンレンズ411を通して見える第一装飾面部532を別の第二装飾面部533に切替えることができ、操作ボタン410を通して見える装飾を変化させることができる。

【1151】

回転体ベースユニット531を第一軸線CL1周りに回転させて操作ボタン410を通して見える第一装飾面部532又は第二装飾面部533を切替える際に、間隔があいている第一装飾面部532及び第二装飾面部533同士の間には回転体ベースユニット531の周面装飾部531fが配置されていることから、第一装飾面部532及び第二装飾面部533同士の間を装飾しているため、操作ボタン410内の見栄えの悪化を防止することができ、操作ボタン410内の見栄えを良くすることができる。そして、演出操作ユニット第一駆動モータ528による回転体ベースユニット531の第一軸線CL1周りの回転によって、操作ボタン410の真後ろに移動した第二装飾面部533又は第一装飾面部532では、その第二軸線CL2が、操作ボタン410の面に対して垂直に延びた状態となっている。この状態で、操作ボタン410を通して見えている第二装飾面部533又は第一装飾面部532を、演出操作ユニット第二駆動モータ534により回転させると、当該

第二装飾面部 5 3 3 又は第一装飾面部 5 3 2 が操作ボタン 4 1 0 を通して見える状態のままで、グルグルと回転することとなり、遊技者に対して操作ボタン 4 1 0 の後側でグルグルと回転する第二装飾面部 5 3 3 又は第一装飾面部 5 3 2 を見せることができる。

【1 1 5 2】

或いは、第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 を、演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 により夫々第二軸線 C L 2 周りに回転させたままの状態、演出操作ユニット第一駆動モータ 5 2 8 により回転体ベースユニット 5 3 1 を第一軸線 C L 1 周りに回転させて、第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 同士の間が、操作ボタン 4 1 0 の透明なボタンレンズ 4 1 1 を通して遊技者側から見える位置に移動した時に、回転している第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 と回転していない周面装飾部 5 3 1 f とを同時に見せることができる。

10

【1 1 5 3】

このように、演出操作ユニット第一駆動モータ 5 2 8 により回転体ベースユニット 5 3 1 を第一軸線 C L 1 周りに回転させることで、操作ボタン 4 1 0 を通して異なる装飾に変化する装飾を見せることができると共に、演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 により第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 を第二軸線 C L 2 周りに回転させることで、操作ボタン 4 1 0 を通してグルグルと回転する装飾を見せることができ、また、演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 により第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 を第二軸線 C L 2 周りに回転させながら、演出操作ユニット第一駆動モータ 5 2 8 により回転体ベースユニット 5 3 1 を第一軸線 C L 1 周りに回転させることで、操作ボタン 4 1 0 を通して回転している第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 と回転していない周面装飾部 5 3 1 f とを同時に見せることができるため、操作ボタン 4 1 0 において多彩な装飾を遊技者に見せることが可能となり、遊技者が操作する操作ボタン 4 1 0 の装飾性を高めることができ、遊技者を楽しませて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

20

【1 1 5 4】

また、演出操作ユニット第一駆動モータ 5 2 8 により回転体ベースユニット 5 3 1 を第一軸線 C L 1 周りに回転させると、初めに見えていた第一装飾面部 5 3 2 又は第二装飾面部 5 3 3 が回転方向へ移動すると共に、周面装飾部 5 3 1 f が見えて来てから次の第二装飾面部 5 3 3 又は第一装飾面部 5 3 2 が見える（出現する）ことから、周面装飾部 5 3 1 f により次の第二装飾面部 5 3 3 又は第一装飾面部 5 3 2 の出現を遅らせて間を持たせることができるため、遊技者に対して、次の第二装飾面部 5 3 3 又は第一装飾面部 5 3 2 がどのような装飾であるかを想像させる時間を与えることができ、次の第二装飾面部 5 3 3 又は第一装飾面部 5 3 2 が想像した所望の装飾であるか否かによって遊技者の期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。

30

【1 1 5 5】

また、演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 により第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 を第二軸線 C L 2 周りに回転させると、第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 の装飾を遊技者が明確に認識することが困難となることから、例えば、演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 により第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 を第二軸線 C L 2 周りに回転させたまま、演出操作ユニット第一駆動モータ 5 2 8 により回転体ベースユニット 5 3 1 を第一軸線 C L 1 周りに回転させて、周面装飾部 5 3 1 f を操作ボタン 4 1 0 の直後に位置させた状態とすると、第二軸線 C L 2 周りの回転による移動により装飾が不明瞭に見える第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 の二つの間に、静止している周面装飾部 5 3 1 f の装飾が明瞭に見えることとなため、遊技者の関心を周面装飾部 5 3 1 f に強く引付けさせることができ、遊技者の関心を操作ボタン 4 1 0 に向けさせることができる。その後、演出操作ユニット第一駆動モータ 5 2 8 により回転体ベースユニット 5 3 1 を第一軸線 C L 1 周りに対して所定方向へ回転させて、第一装飾面部 5 3 2 又は第二装飾面部 5 3 3 の何れかを操作ボタン 4 1 0 の直後に位置させた上で、演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 による第二軸線 C L 2 周りの回転を停止させると、操作ボタン 4 1 0 の透明なボタンレンズ 4 1 1 を通して第一装飾面部 5 3 2 又は第二装飾面

40

50

部 5 3 3 が見える演出を遊技者に見せることができる。これにより、操作ボタン 4 1 0 の直後に周面装飾部 5 3 1 f を位置させることで、遊技者の関心を操作ボタン 4 1 0 に引付けさせることができ、周面装飾部 5 3 1 f の両側で移動している第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 のうち、何れが操作ボタン 4 1 0 の直後に移動してその装飾が明瞭に見えるようになるか否かによってワクワク・ドキドキさせて期待感を高めさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【 1 1 5 6 】

更に、第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 の二つを周方向へ間隔をあけて列設していると共に、第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 同士の間周面装飾部 5 3 1 f を配置しているため、周面装飾部 5 3 1 f によって隣接している第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 の二つを明確に仕切ることができる。従って、演出操作ユニット第一駆動モータ 5 2 8 により回転体ベースユニット 5 3 1 を第一軸線 C L 1 周りに回転させて、操作ボタン 4 1 0 を通して見える第一装飾面部 5 3 2 又は第二装飾面部 5 3 3 を切替えた時に、途中で周面装飾部 5 3 1 f が見えることで、遊技者に対して第一装飾面部 5 3 2 又は第二装飾面部 5 3 3 が切替わったことを明確に認識させることができ、操作ボタン 4 1 0 における装飾の変化を確実に楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【 1 1 5 7 】

また、第一軸線 C L 1 周りに回転する回転体ベースユニット 5 3 1 に第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 の二つと周面装飾部 5 3 1 f を備えていることから、周面装飾部 5 3 1 f が、演出操作ユニット第一駆動モータ 5 2 8 により第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 と一緒に第一軸線 C L 1 周りに回転するため、第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 の第一軸線 C L 1 周りの回転位置に関わらず、第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 同士の間に見える周面装飾部 5 3 1 f の位置が変化することはなく、常に同じ部位（装飾）を見せることができる。従って、遊技者に対して周面装飾部 5 3 1 f の装飾を判り易くすることができ、周面装飾部 5 3 1 f による装飾効果を確実に発揮させることができる。

【 1 1 5 8 】

更に、回転体ベースユニット 5 3 1 内に周面装飾部装飾基板を備えることで、周面装飾部 5 3 1 f を発光装飾させることができるため、演出操作ユニット第一駆動モータ 5 2 8 により回転体ベースユニット 5 3 1 を第一軸線 C L 1 周りに回転させて、第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 同士の間配置されている周面装飾部 5 3 1 f を、操作ボタン 4 1 0 の透明なボタンレンズ 4 1 1 を通して遊技者側から見える位置に移動させた時に、周面装飾部 5 3 1 f を発光装飾させると、周面装飾部 5 3 1 f をより綺麗に見せることができ、周面装飾部 5 3 1 f による装飾効果を確実に発揮させることができる。また、周面装飾部 5 3 1 f を発光装飾させることで、操作ボタン 4 1 0 において周面装飾部 5 3 1 f を目立たせることができるため、遊技者の関心を操作ボタン 4 1 0 に向けさせることが可能となり、操作ボタン 4 1 0 を操作する遊技者参加型演出への参加を促すことができ、遊技者参加型演出を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【 1 1 5 9 】

また、第一装飾面部 5 3 2 又は第二装飾面部 5 3 3 を操作ボタン 4 1 0 の直後に位置させた状態で、周面装飾部 5 3 1 f を発光装飾させると、第一装飾面部 5 3 2 又は第二装飾面部 5 3 3 の外周外側が明るくなるため、遊技者に対して操作ボタン 4 1 0 内に注目させることができると共に、遊技に対して何か良いことがあるのではないと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。この状態では、操作ボタン 4 1 0 を通して見ることはできない周面装飾部 5 3 1 f が発光装飾されていることから、その周面装飾部 5 3 1 f が見えるようになると遊技者が有利となる有利遊技状態（例えば、「大当たり遊技」）が発生するチャンスの到来を意味すると思わせることができるため、回転体ベースユニット 5 3 1 が第一軸線 C L 1 周りに回転して発光装飾されている周面装飾部 5 3 1 f が見えるように操作ボタン 4 1 0 の真後ろに位置するか否かによって遊技者をワクワク・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低

10

20

30

40

50

下を抑制させることができる。

【1160】

更に、本実施形態のパチンコ機1によると、本パチンコ機1を前方から見ると、扉枠3における扉枠ベースユニット100の貫通口111を通して、遊技球を用いた遊技が行われる遊技盤5の遊技領域5aが見え、貫通口111の下側において皿ユニット320の前面に取付けられている第三演出操作ユニット400Bの操作ボタン410が見えると共に、操作ボタン410の透明なボタンレンズ411を通して二つの第一装飾面部532及び第二装飾面部533のうちの一つが見え、操作ボタン410を通して見える第一装飾面部532又は第二装飾面部533によりパチンコ機1全体の見栄えを良くしている。この状態で、第三ベースユニット520の演出操作ユニット第一駆動モータ528により装飾回転体ユニット530を水平に延びた第一軸線CL1周りに回転させると、操作ボタン410の透明なボタンレンズ411を通して見える第一装飾面部532又は第二装飾面部533を、第二装飾面部533又は第一装飾面部532に切替えることができ、操作ボタン410を通して見える装飾を変化させることができる。一方、操作ボタン410を通して見えている第一装飾面部532又は第二装飾面部533を、演出操作ユニット第二駆動モータ534により第一軸線CL1に直交し第一装飾面部532及び第二装飾面部533の中央を通る第二軸線CL2周りに回転させると、その第一装飾面部532又は第二装飾面部533が操作ボタン410を通して見える状態のままで、グルグルと回転することとなり、遊技者に対して操作ボタン410の後側でグルグルと回転する第一装飾面部532又は第二装飾面部533を見せることができる。そして、第一装飾面部532及び第二装飾面部533は、第一装飾面部装飾基板535及び第二装飾面部装飾基板536によって発光装飾させることができる。

【1161】

このように、貫通口111（遊技領域5a）の下側において、操作ボタン410を通して見える第一装飾面部532又は第二装飾面部533を変化させることができると共に、操作ボタン410を通して見える第一装飾面部532又は第二装飾面部533をグルグルと回転させることができ、更に、第一装飾面部532や第二装飾面部533を発光装飾させることができるため、操作ボタン410において多彩な装飾を遊技者に見せることができ、遊技者を飽きさせ難くすることができると共に、遊技者の関心を遊技領域5aの下側に配置されている第三演出操作ユニット400Bの操作ボタン410に強く引付けさせることができるため、操作ボタン410を操作する遊技者参加型演出への参加を促すことができ、遊技者に遊技者参加型演出を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【1162】

また、通常の状態では、操作ボタン410の上側の貫通口111を通して見える遊技領域5a内において、裏ユニット3000の裏上可動演出ユニット3500における第一固定装飾レンズ3513、第二固定装飾レンズ3533、及び第三固定装飾レンズ3553が（正面視）遊技領域5a内における辺縁付近であるセンター役物2500の枠内の上部となる第一演出位置に位置していることから、第一固定装飾レンズ3513、第二固定装飾レンズ3533、及び第三固定装飾レンズ3553が比較的目立ち難く、相対的に遊技領域5a内での遊技を目立ち易くして、遊技者に遊技を楽しませるようにしている。そして、裏上回転ベースユニット3570及び裏上昇降ユニット3600により第一固定装飾レンズ3513、第二固定装飾レンズ3533、及び第三固定装飾レンズ3553を第二演出位置へ移動させると、第一固定装飾レンズ3513、第二固定装飾レンズ3533、及び第三固定装飾レンズ3553が、裏前飾りユニット3100の裏前下中央レンズ3131の上側で連続するように上下に並んだ状態となるため、第一固定装飾レンズ3513、第二固定装飾レンズ3533、第三固定装飾レンズ3553、裏前下中央レンズ3131、及び操作ボタン410が、上下に一直線に並んだ状態となり、遊技者の関心を強く引付けさせることができる。この状態で、第一固定装飾レンズ3513、第二固定装飾レンズ3533、第三固定装飾レンズ3553、及び裏前下中央レンズ3131と、操作ボタン410を通して見える第一装飾面部532又は第二装飾面部533を、夫々発光させる

と、パチンコ機 1 の前面において、扉枠 3 及び遊技盤 5（遊技領域 5 a）に跨って縦断するように発光装飾させることができ、遊技者に対してインパクトを与えることができると共に、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと期待感を高めさせることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【1163】

従って、通常の状態から、第一固定装飾レンズ 3 5 1 3、第二固定装飾レンズ 3 5 3 3、第三固定装飾レンズ 3 5 5 3、裏前下中央レンズ 3 1 3 1、及び操作ボタン 4 1 0 を、上下に一直線に並べた状態で、第一固定装飾レンズ 3 5 1 3、第二固定装飾レンズ 3 5 3 3、第三固定装飾レンズ 3 5 5 3、裏前下中央レンズ 3 1 3 1、及び操作ボタン 4 1 0 を通して見える第一装飾面部 5 3 2 又は第二装飾面部 5 3 3（装飾回転体ユニット 5 3 0）の順に発光装飾させると、遊技者の視線を裏前下中央レンズ 3 1 3 1 の下側の操作ボタン 4 1 0 に誘導させて操作ボタン 4 1 0 に注目させることができ、その後に、装飾回転体ユニット 5 3 0 を第一軸線 C L 1 周りに回転させたり第一装飾面部 5 3 2 や第二装飾面部 5 3 3 を第二軸線 C L 2 周りに回転させたりすることで、それらによる演出を確実に見せることができるため、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせることができると共に、遊技者参加型演出において操作ボタン 4 1 0 の操作を促すことができ、遊技者参加型演出を楽しませて遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【1164】

また、第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 のうちの第二装飾面部 5 3 3 に、回転装飾部 5 3 3 a と固定装飾部 5 3 3 b を備えていることから、第二装飾面部 5 3 3 を演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 により回転させると、回転装飾部 5 3 3 a のみが回転し、固定装飾部 5 3 3 b が回転しないため、全体が回転する第一装飾面部 5 3 2 とは異なる印象を与えることができ、より多彩な演出を遊技者に見せて楽しませることができる。また、上述したように、回転装飾部 5 3 3 a と固定装飾部 5 3 3 b を備えた第二装飾面部 5 3 3 では、全体が回転する第一装飾面部 5 3 2 とは異なる印象を与えることができるため、当該第二装飾面部 5 3 3 に対してプレミアム感を付与することが可能となり、演出操作ユニット第一駆動モータ 5 2 8 により装飾回転体ユニット 5 3 0 を回転させた時に、第二装飾面部 5 3 3 が操作ボタン 4 1 0 の真後ろで停止するか否かによって遊技者をワクワク・ドキドキさせることができ、遊技者の期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。

【1165】

更に、一つの演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 により全ての第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 を、夫々の第二軸線 C L 2 周りに回転させるようにしているため、第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 に対して夫々アクチュエーター（駆動モータ）を備えた場合と比較して、駆動モータを備えるためのスペースが一つで済み、相対的に、操作ボタン 4 1 0 や第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3（装飾回転体ユニット 5 3 0）、或いは他の部材、等を配置するためのスペースを広くすることができ、操作ボタン 4 1 0 や装飾回転体ユニット 5 3 0 等をより大きくして目立たせることができる。

【1166】

また、演出操作ユニット第一駆動モータ 5 2 8 により装飾回転体ユニット 5 3 0 を回転させると、操作ボタン 4 1 0 を通して見える第一装飾面部 5 3 2 又は第二装飾面部 5 3 3 が、上下方向へ移動して第二装飾面部 5 3 3 又は第一装飾面部 5 3 2 と切替わるように見えることとなるため、切替わる第二装飾面部 5 3 3 又は第一装飾面部 5 3 2 が、上から又は下から出現するような演出を遊技者に見せることができる。従って、例えば、第一装飾面部 5 3 2 を前方へ向けた状態で、第三固定装飾レンズ 3 5 5 3、第一固定装飾レンズ 3 5 1 3、第二固定装飾レンズ 3 5 3 3、裏前下中央レンズ 3 1 3 1、及び操作ボタン 4 1 0 を、上下に一直線に並べた状態で、第三固定装飾レンズ 3 5 5 3、第一固定装飾レンズ 3 5 1 3、第二固定装飾レンズ 3 5 3 3、裏前下中央レンズ 3 1 3 1 の順に上から発光装飾させた後に、第二装飾面部 5 3 3 が、上から出現して切替わるようにした場合、第二装

飾面部 5 3 3 が、上方の遊技領域 5 a 内において、第三固定装飾レンズ 3 5 5 3、第一固定装飾レンズ 3 5 1 3、第二固定装飾レンズ 3 5 3 3、及び裏前下中央レンズ 3 1 3 1 を伝って上から降りて来たように見えることから、遊技者に対して上から啓示が与えられるような印象を受けさせることができ、何か良いことがあるのではないかと思わせて遊技に対する期待感を高めさせることができると共に、操作ボタン 4 1 0 を注目させることが可能となり、遊技者参加型演出において操作ボタン 4 1 0 の操作を促すことができ、遊技者参加型演出を楽しませて遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。或いは、第二装飾面部 5 3 3 を前方へ向けた状態で、装飾回転体ユニット 5 3 0 を回転させて第一装飾面部 5 3 2 を下から出現させて切替わるようにした後に、操作ボタン 4 1 0 の上側に、第三固定装飾レンズ 3 5 5 3、第一固定装飾レンズ 3 5 1 3、第二固定装飾レンズ 3 5 3 3、及び裏前下中央レンズ 3 1 3 1 を上下に一直線に並べ（予め上下に並べた状態としても良い）、裏前下中央レンズ 3 1 3 1、第二固定装飾レンズ 3 5 3 3、第一固定装飾レンズ 3 5 1 3、第三固定装飾レンズ 3 5 5 3 の順に下から発光装飾させると、下から上がってきた第一装飾面部 5 3 2 が、上側の遊技領域 5 a 内の裏前下中央レンズ 3 1 3 1、第二固定装飾レンズ 3 5 3 3、第一固定装飾レンズ 3 5 1 3、及び第三固定装飾レンズ 3 5 5 3 を伝って上がっていくように見えることから、遊技者に対して上昇機運が高くなるような印象を与えることができ、チャンスが到来したと思わせて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができると共に、遊技者の関心を遊技領域 5 a の下側の操作ボタン 4 1 0 から遊技領域 5 a 内へ向けさせることができ、その後の遊技領域 5 a 内での遊技や演出を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【1 1 6 7】

また、操作ボタン 4 1 0 の表面が半球状の立体的に外方へ膨出しているため、操作ボタン 4 1 0 の後側の空間（ボタン内空間 A S）を広くすることができる。従って、操作ボタン 4 1 0 の後側において装飾回転体ユニット 5 3 0 を水平に延びた第一軸線 C L 周りに回転させた時に、装飾回転体ユニット 5 3 0 の表面（回転体ベースユニット 5 3 1 の外周面、第一装飾面部 5 3 2 や第二装飾面部 5 3 3、等）を操作ボタン 4 1 0 の内面に対して接触し難くすることができ、装飾回転体ユニット 5 3 0 を良好に回転させることができる。また、操作ボタン 4 1 0 の後側の空間（ボタン内空間 A S）を広くすることができることから、装飾回転体ユニット 5 3 0（第一装飾面部 5 3 2 や第二装飾面部 5 3 3）をより大きくすることが可能となるため、大きな第一装飾面部 5 3 2 や第二装飾面部 5 3 3 により遊技者側から目立ち易くすることができ、遊技者の関心を第一装飾面部 5 3 2 や第二装飾面部 5 3 3 に強く引付けさせることができる。

【1 1 6 8】

更に、演出操作ユニット第一駆動モータ 5 2 8 及び演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 による回転の停止中や、装飾回転体ユニット 5 3 0 や第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 の回転中、等の状態において、第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 を第一装飾面部装飾基板 5 3 5 及び第二装飾面部装飾基板 5 3 6 によって発光装飾させることができるため、第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 を発光装飾させることで、第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 の装飾性をより高めさせることができ、遊技の見栄えを良くして遊技者に対する訴求力を高めさせることができる。また、第一装飾面部装飾基板 5 3 5 及び第二装飾面部装飾基板 5 3 6 により第一装飾面部 5 3 2 及び第二装飾面部 5 3 3 を目立たせて、遊技者の関心を第一装飾面部 5 3 2 や第二装飾面部 5 3 3 が見える操作ボタン 4 1 0 に向けさせることができるため、操作ボタン 4 1 0 を操作する遊技者参加型演出への参加を促すことができ、遊技者参加型演出を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【1 1 6 9】

また、演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 を、装飾回転体ユニット 5 3 0 に備えているため、演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 を装飾回転体ユニット 5 3 0 とは別の位置に備えるようにした場合と比較して、演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 からの回転を第二軸線 C L と同軸上の延びている軸部材 5 3 2 d に伝達させて第一装飾面部 5 3

2 及び第二装飾面部 5 3 3 を回転させるための機構を簡略化することができる。また、装飾回転体ユニット 5 3 0 の外側に演出操作ユニット第二駆動モータ 5 3 4 を配置するためのスペースを確保する必要がないため、その分、装飾回転体ユニット 5 3 0 の外側に操作ボタン 4 1 0 を確実に配置したり、他の装飾部材を配置したりすることができ、上述した作用効果を確実に奏するパチンコ機 1 を具現化し易くすることができる。

【1170】

更に、上述したように、通常の状態では、第三固定装飾レンズ 3 5 5 3、第一固定装飾レンズ 3 5 1 3、及び第二固定装飾レンズ 3 5 3 3 が、第一演出位置となるセンター役物 2 5 0 0 の枠内の上部に位置しており、裏前下中央レンズ 3 1 3 1 から離れていることから、遊技者に対して、第三固定装飾レンズ 3 5 5 3、第一固定装飾レンズ 3 5 1 3、及び第二固定装飾レンズ 3 5 3 3 が移動して、第三固定装飾レンズ 3 5 5 3、第一固定装飾レンズ 3 5 1 3、第二固定装飾レンズ 3 5 3 3、裏前下中央レンズ 3 1 3 1、及び操作ボタン 4 1 0 が一直線に並ぶことを想像させ難くすることができるため、裏上回転ベースユニット 3 5 7 0 及び裏上昇降ユニット 3 6 0 0 により、第三固定装飾レンズ 3 5 5 3、第一固定装飾レンズ 3 5 1 3、及び第二固定装飾レンズ 3 5 3 3 を第二演出位置へ移動させて、第三固定装飾レンズ 3 5 5 3、第一固定装飾レンズ 3 5 1 3、第二固定装飾レンズ 3 5 3 3、裏前下中央レンズ 3 1 3 1、及び操作ボタン 4 1 0 が一直線に並んだ状態となる意外性によって、遊技者をおおいに驚かせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【1171】

また、第三固定装飾レンズ 3 5 5 3、第一固定装飾レンズ 3 5 1 3、第二固定装飾レンズ 3 5 3 3、裏前下中央レンズ 3 1 3 1、及び操作ボタン 4 1 0 の後側の第一装飾面部 5 3 2 又は第二装飾面部 5 3 3 を、夫々発光装飾させることができるため、第三固定装飾レンズ 3 5 5 3、第一固定装飾レンズ 3 5 1 3、及び第二固定装飾レンズ 3 5 3 3 を第二演出位置へ移動させてそれらを上下に一直線に並べた状態で夫々を発光装飾させると、パチンコ機 1 を縦断する一本の光の帯をみせることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができると共に、本パチンコ機 1 から離れていても一本の光の帯が目立つことから、他の遊技者に対しても気付かせ易くすることができるため、遊技するパチンコ機として本パチンコ機 1 を選択させ易くすることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機 1 とすることができる。

【1172】

以上、本発明について好適な実施形態を挙げて説明したが、本発明はこれらの実施形態に限定されるものではなく、以下に示すように、本発明の要旨を逸脱しない範囲において、種々の改良及び設計の変更が可能である。

【1173】

すなわち、上記の実施形態では、遊技機としてパチンコ機 1 に適用したものを示したが、これに限定するものではなく、パチスロ機や、パチンコ機とパチスロ機とを融合させる遊技機に、適用しても良く、この場合でも、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【1174】

また、上記の実施形態では、第三演出操作ユニット 4 0 0 B において、装飾回転体ユニット 5 3 0 に第一装飾面部 5 3 2 と第二装飾面部 5 3 3 とを備えたものを示したが、これに限定するものではなく、第二装飾面部 5 3 3 のみとした上で、第二装飾面部 5 3 3 を前方へ向けた状態で第二軸線 C L 2 周りに回転しないようにしても良い。

【1175】

更に、上記の実施形態では、操作ボタン 4 1 0 として、半球面状に前方へ膨出したものを示したが、これに限定するものではなく、操作ボタン 4 1 0 の外周縁付近が後方へ屈曲しているものであれば良い。

【1176】

また、上記の実施形態では、第一装飾面部 5 3 2 と、第一装飾面部 5 3 2 を回転させる

演出操作ユニット第二駆動モータ５３４と、演出操作ユニット第二駆動モータ５３４により回転させられることで風を発生させて演出操作ユニット第二駆動モータ５３４からの熱を排出させる第二装飾面部５３３と、を扉枠３に備えられている操作ボタン４１０の後側に配置したものを示したが、これに限定するものではなく、遊技盤５に備えるようにしても良く、熱による不具合の発生を防止することができる。この際に、誘導カバー部を、扉枠３や遊技盤５に備えられた保護カバーや装飾カバーとすることが望ましい。

【１１７７】

また、上記の実施形態では、第一装飾面部５３２として、回転させられるものを示したが、これに限定するものではなく、所定方向へ進退したりスライドしたりするものとしても良い。また、上記の実施形態では、第二装飾面部５３３として、回転により風を発生させるものを示したが、これに限定するものではなく、進退、スライド、揺動、等により熱を排出させるための風を発生させるものとしても良い。

10

【１１７８】

更に、上記の実施形態では、第三演出操作ユニット４００Ｂにおいて、第一装飾面部５３２、第二装飾面部５３３、及び演出操作ユニット第二駆動モータ５３４が取り付けられている回転体ベースユニット５３１を、水平に延びた第一軸線ＣＬ１周りに回転できるものを示したが、これに限定するものではなく、第一装飾面部５３２を前方へ向けたままで、第一軸線ＣＬ１周りに回転しないものとしても良い。

【１１７９】

また、上記の実施形態では、操作ボタン４１０を遊技者によって押圧操作させられるものを示したが、これに限定するものではなく、遊技者が接触して操作するタッチパネルとしても良い。

20

【１１８０】

また、上記の実施形態において、操作ボタン４１０の押圧操作によって、操作ボタン４１０の後側のボタン内空間ＡＳの空気が、外部へ排出されたり、外部から吸引されたりするようにしても良い。これにより、ボタン内空間ＡＳにおいて熱をこもり難くすることができ、温度上昇による熱によって不具合の発生を抑制させることができる。

【１１８１】

更に、上記の実施形態では、第三演出操作ユニット４００Ｂにおいて、装飾回転体ユニット５３０に、第一装飾面部５３２及び第二装飾面部５３３の二つを、第一軸線ＣＬ周りに対して周方向に列設したものを示したが、これに限定するものではなく、第三装飾面部、第四装飾面部のように、三つ以上を周方向に列設させるようにしても良い。

30

【１１８２】

また、上記の実施形態では、装飾回転体ユニット５３０を、第一軸線ＣＬ周りに対して、１８０度の角度範囲でのみ回転可能としたものを示したが、３６０度までの角度範囲内で回転可能とするようにしても良いし、無限に回転可能とするようにしても良い。

【１１８３】

更に、上記の実施形態では、装飾回転体ユニット５３０の回転軸線である第一軸線ＣＬが、水平に延びたものを示したが、これに限定するものではなく、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬに直交するように上下に延びたものとしても良い。

40

【１１８４】

また、上記の実施形態では、装飾回転体ユニット５３０の回転体ベースユニット５３１に備えられている周面装飾部５３１ｆとして、回転体ベースユニット５３１の外周面を貫通している装飾のものを示したが、これに限定するものではなく、立体的な装飾や、シールや印刷に等による平面的な装飾のものとしても良い。

【符号の説明】

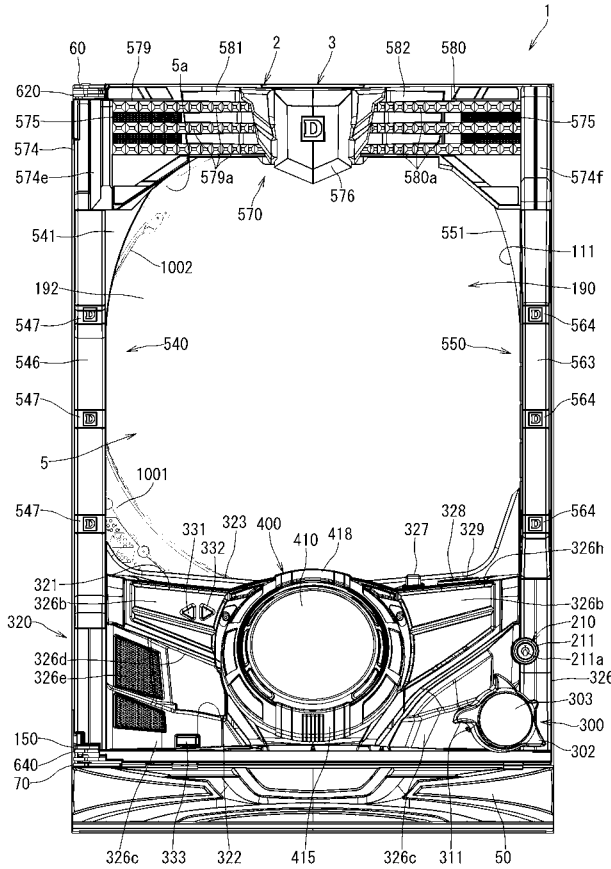
【１１８５】

- １ パチンコ機
- ２ 外枠
- ３ 扉枠

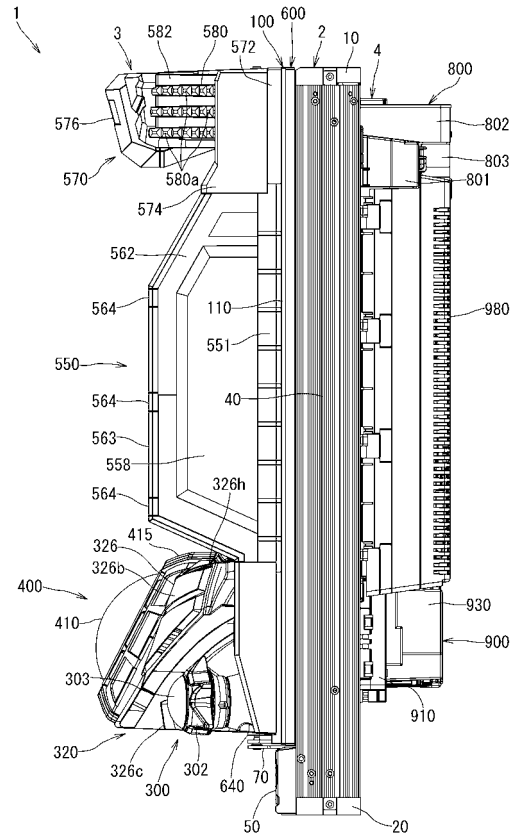
50

4	本体枠	
5	遊技盤	
5 a	遊技領域	
1 0 0	扉枠ベースユニット	
1 1 0	扉枠ベース	
1 1 1	貫通口	
3 2 0	皿ユニット	
4 0 0 B	第三演出操作ユニット	
4 1 0	操作ボタン（誘導カバー部）	
4 1 1	ボタンレンズ	10
4 1 5	フレームユニット	
4 2 0	装飾基板ユニット	
5 2 0	第三ベースユニット	
5 2 1	ユニットベース	
5 2 1 a	収容壁部（後カバー部）	
5 2 1 d	換気口	
5 2 8	演出操作ユニット第一駆動モータ（回転手段）	
5 3 0	装飾回転体ユニット	
5 3 1	回転体ベースユニット（駆動源ベース）	
5 3 1 e	軸受筒部	20
5 3 1 f	周面装飾部（通気孔）	
5 3 2	第一装飾面部（装飾面部）	
5 3 2 d	軸部材（軸部）	
5 3 3	第二装飾面部（送風装飾部）	
5 3 4	演出操作ユニット第二駆動モータ（駆動源）	
5 3 5	第一装飾面部装飾基板（装飾面部発光手段）	
5 3 6	第二装飾面部装飾基板（送風装飾部発光手段）	

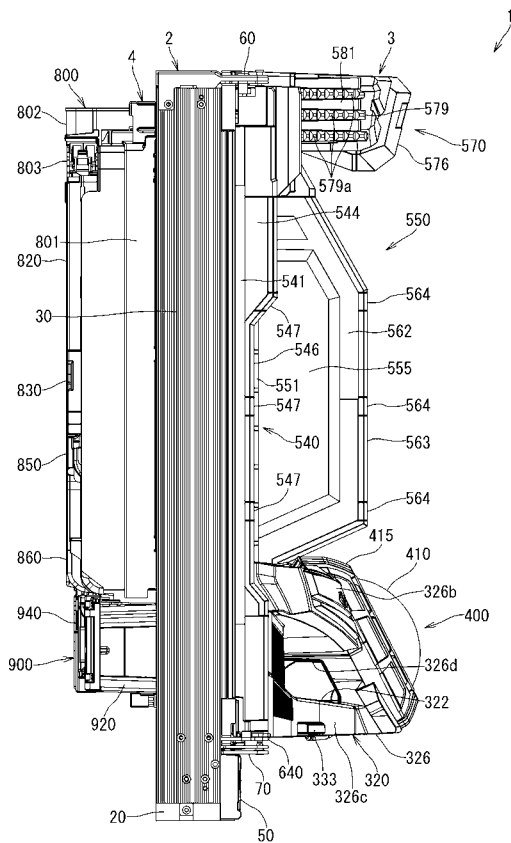
【図 1】



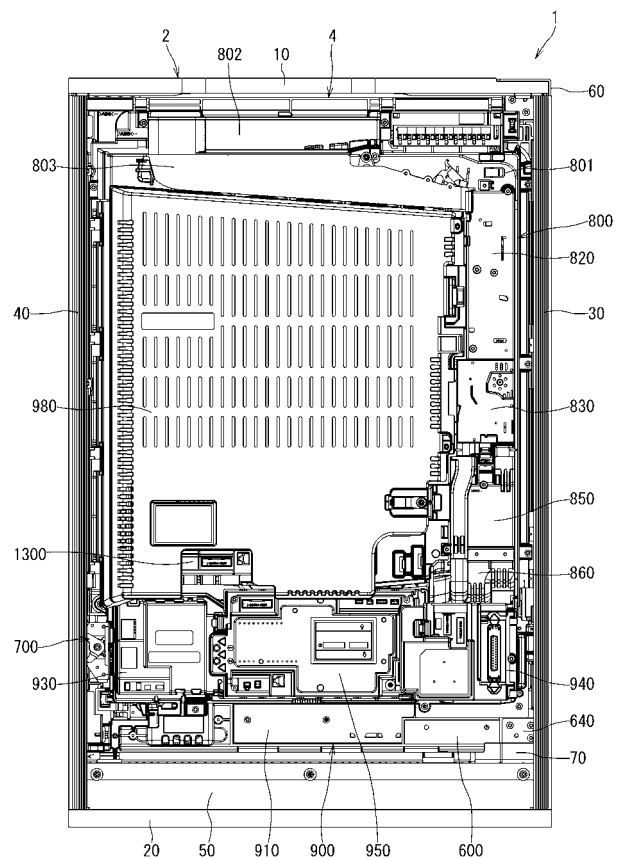
【図 2】



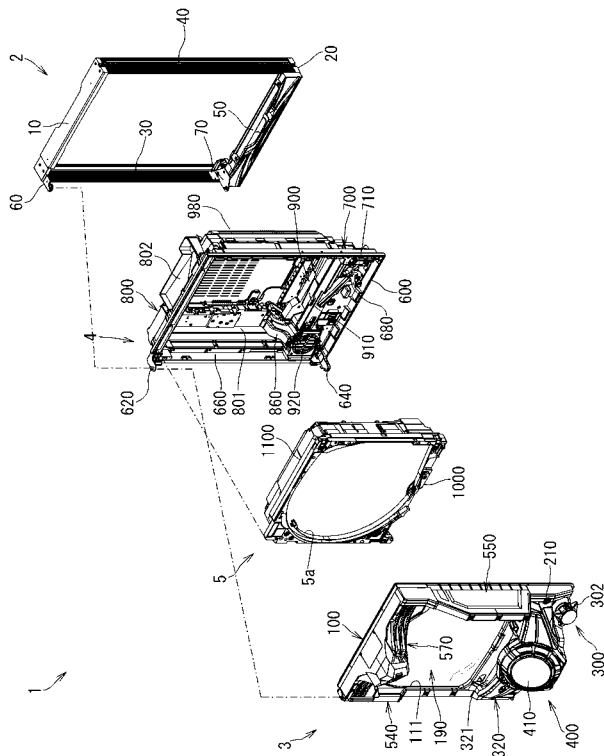
【図 3】



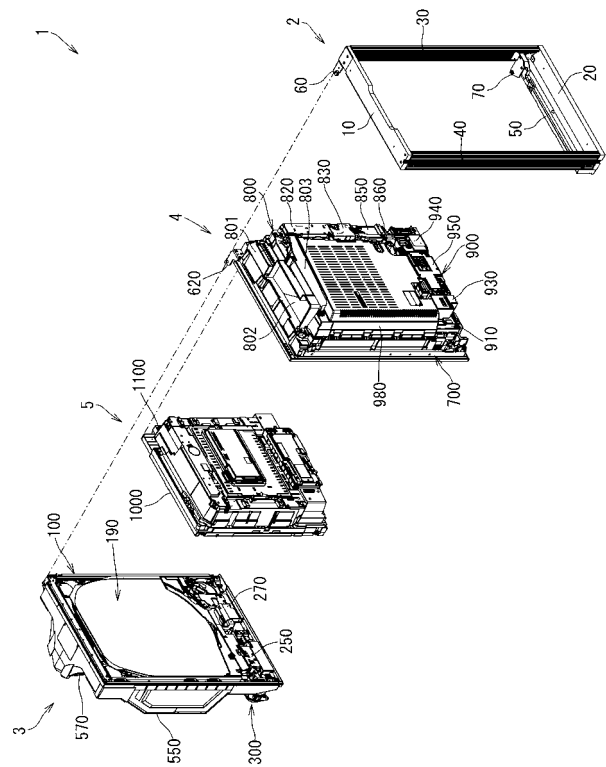
【図 4】



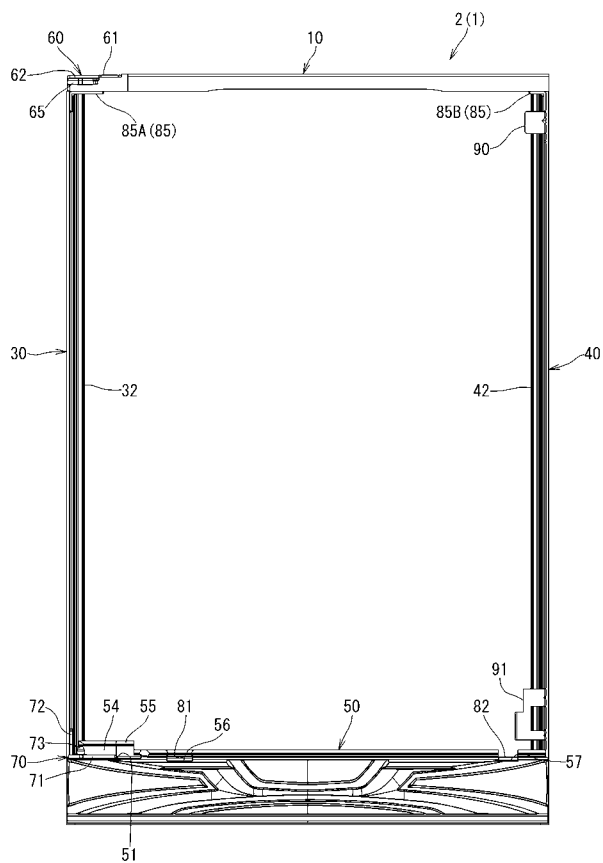
【図 9】



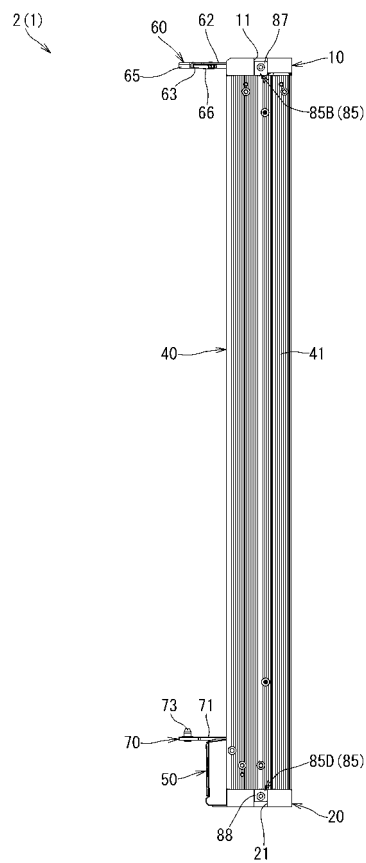
【図 10】



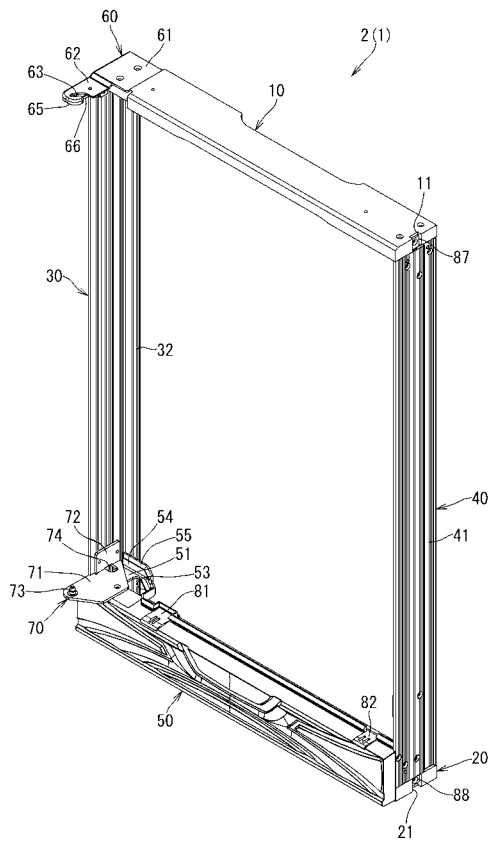
【図 11】



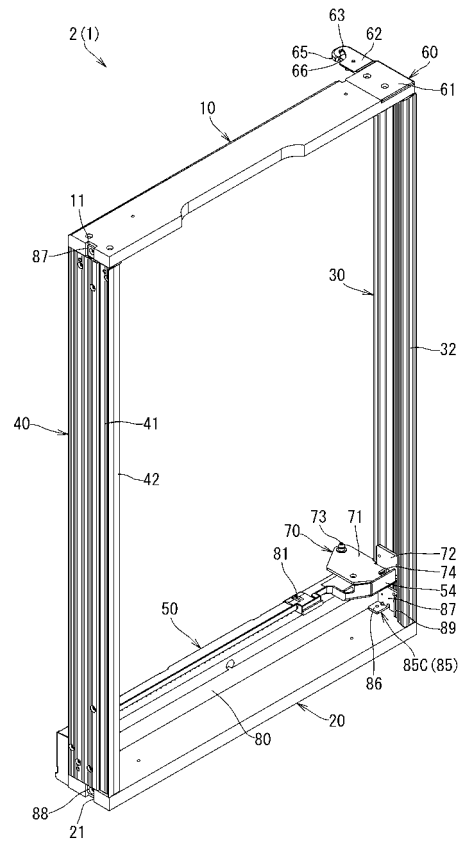
【図 12】



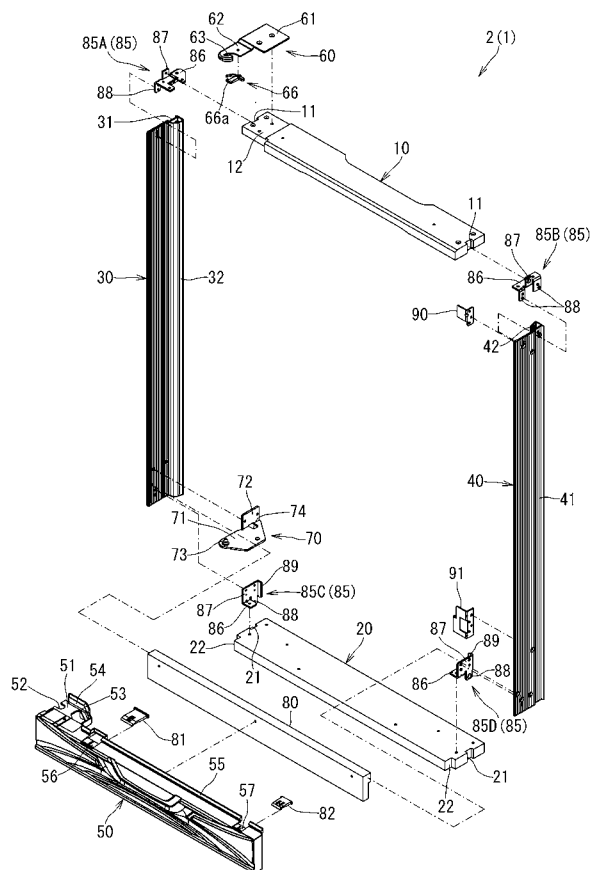
【図 13】



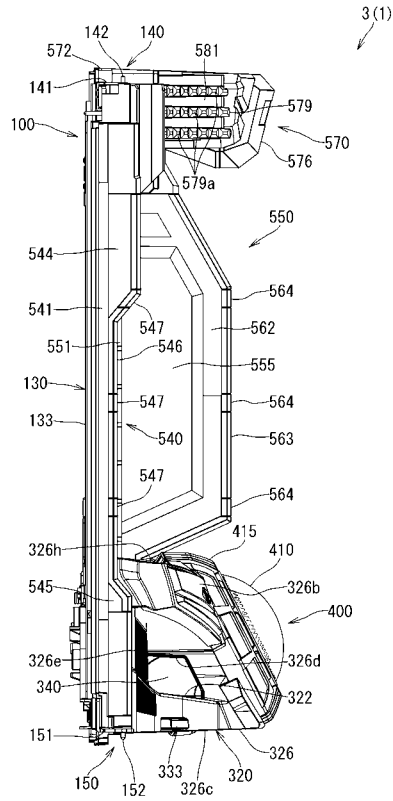
【図 14】



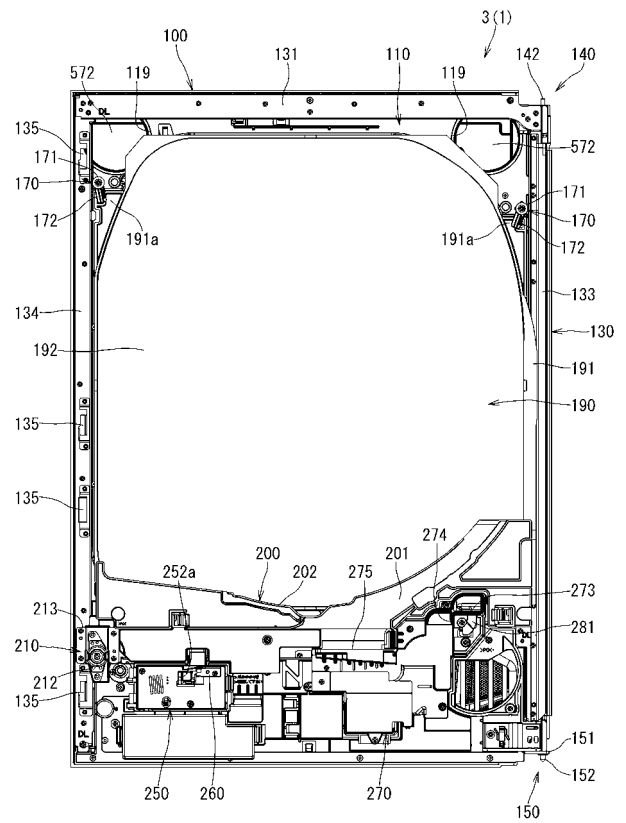
【図 15】



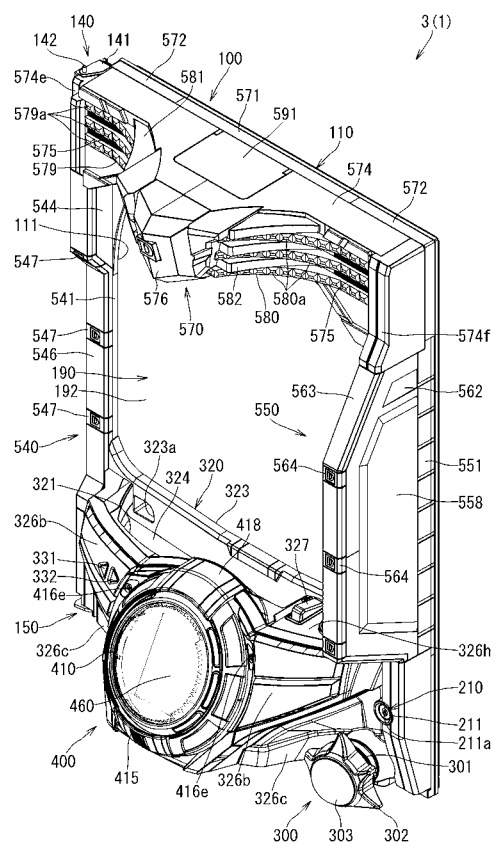
【図 2 1】



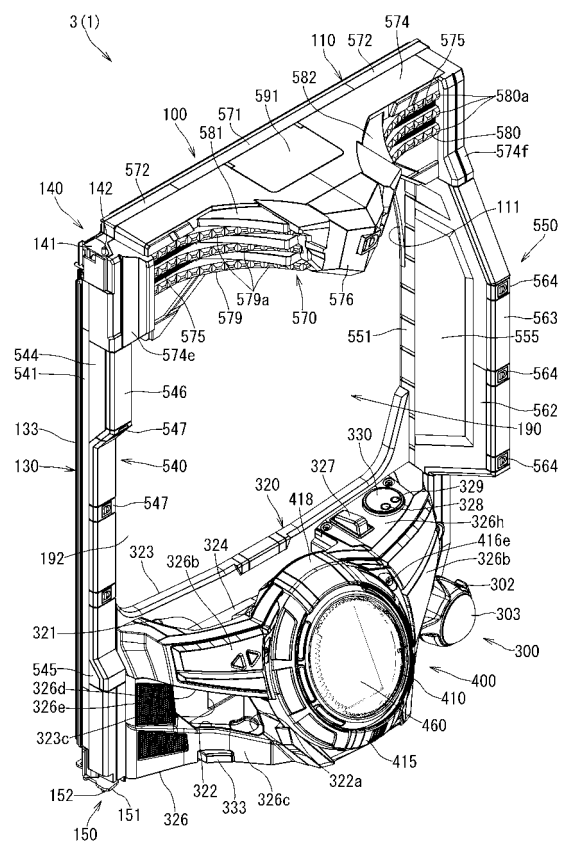
【図 2 2】



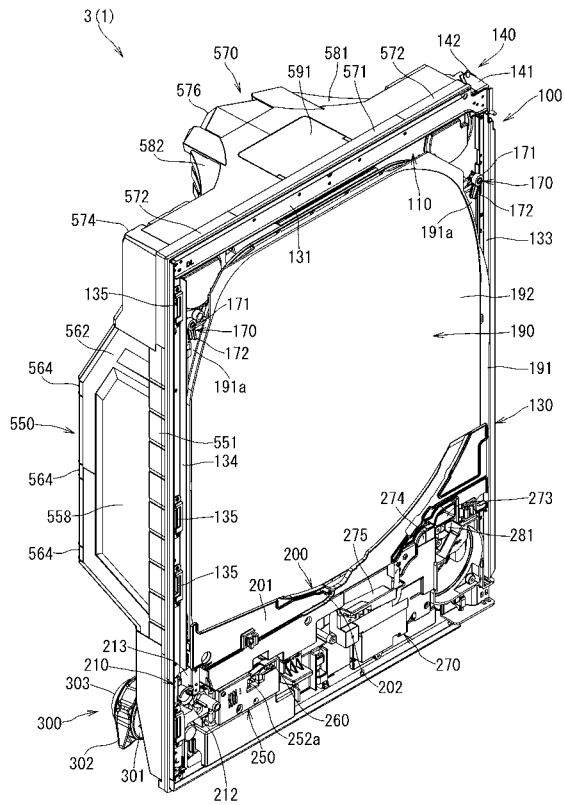
【図 2 3】



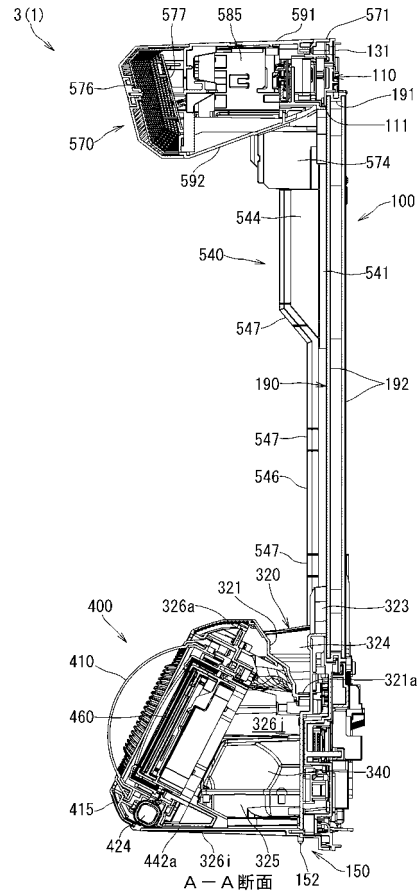
【図 2 4】



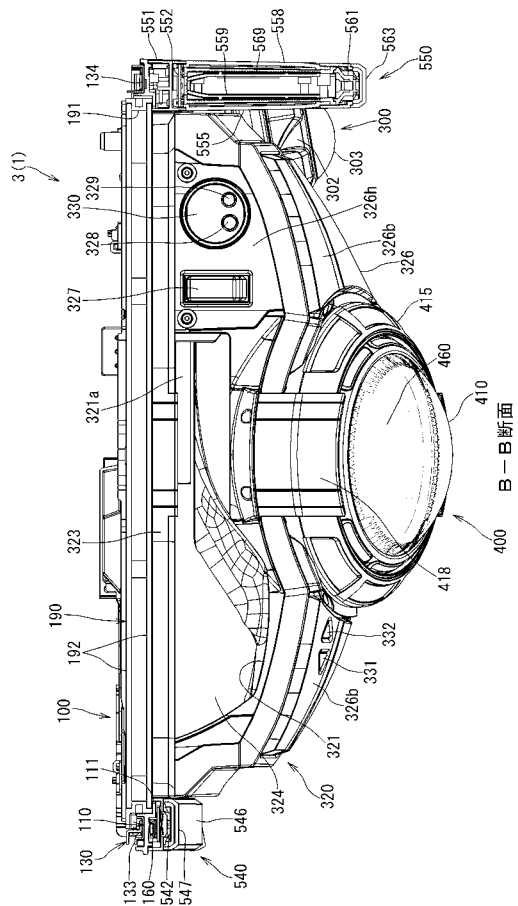
【図 25】



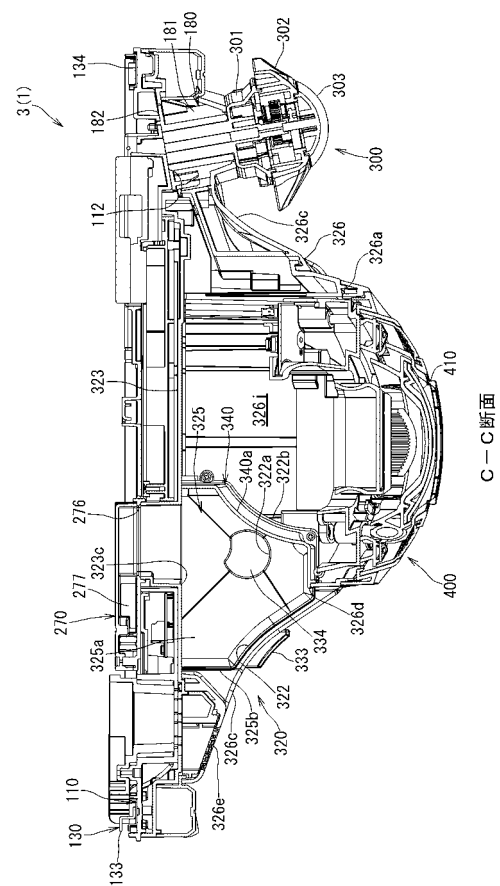
【図 26】



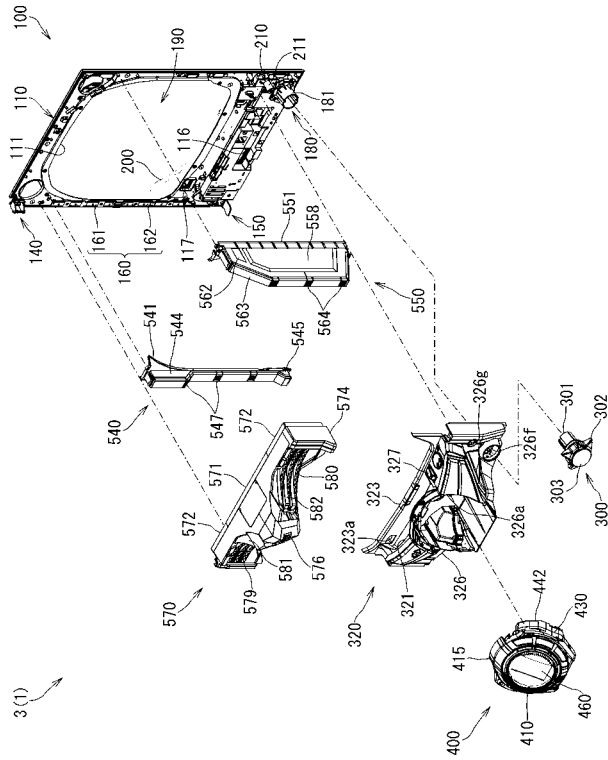
【図 27】



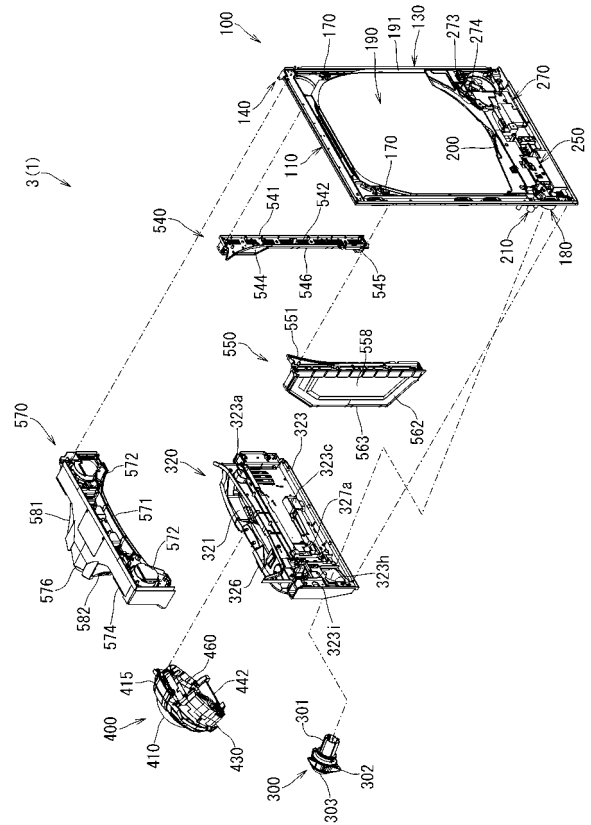
【図 28】



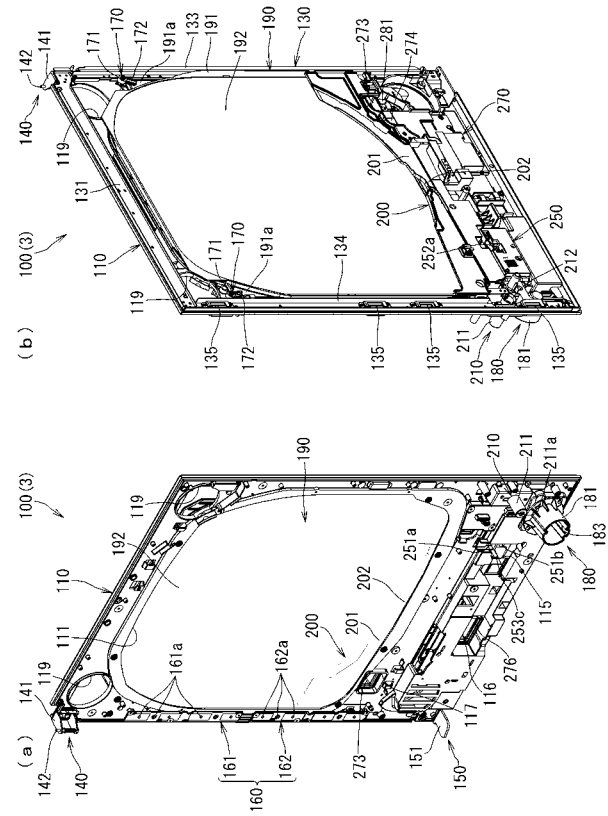
【図 29】



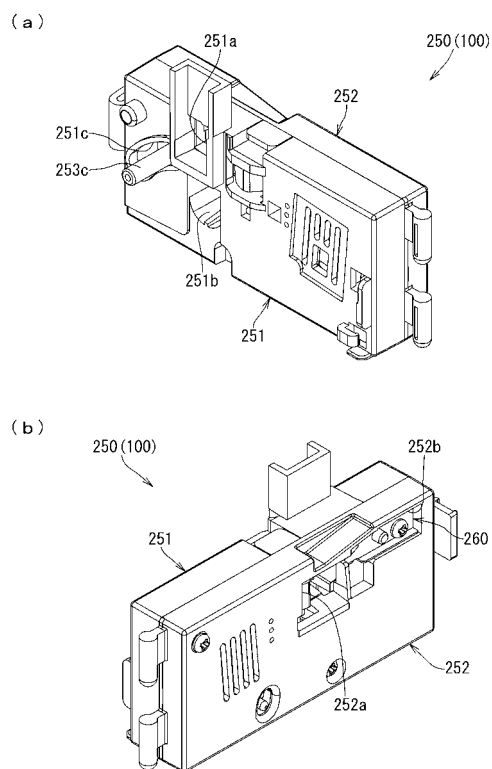
【図 30】



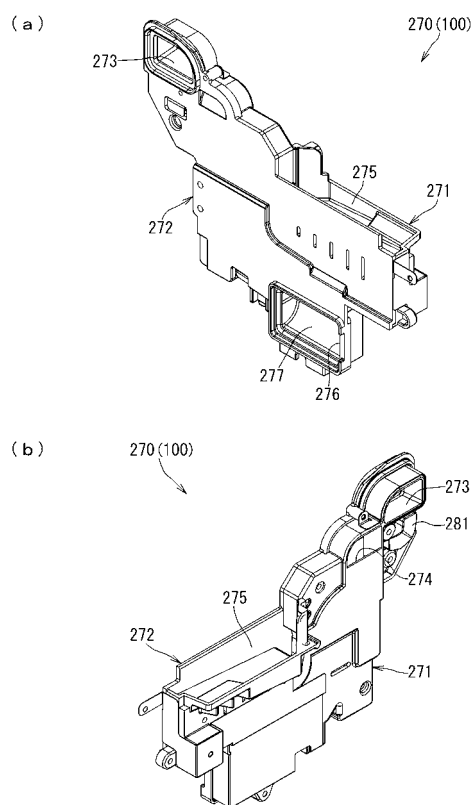
【図 31】



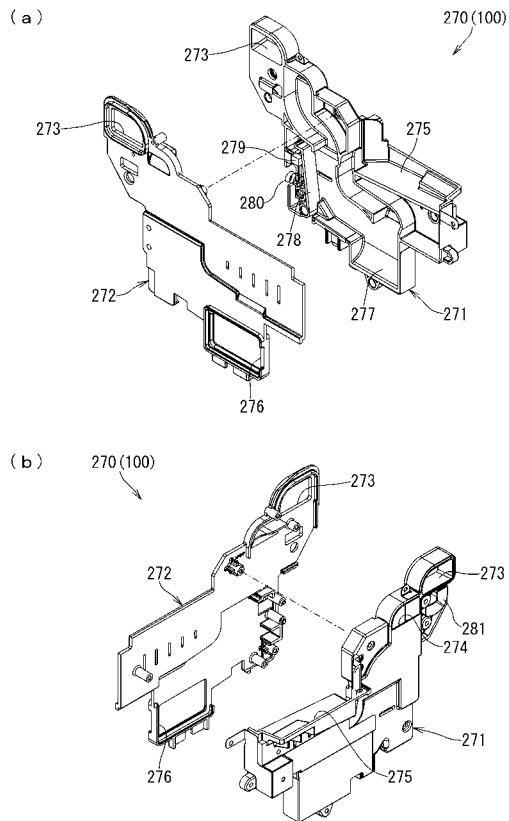
【図 3 4】



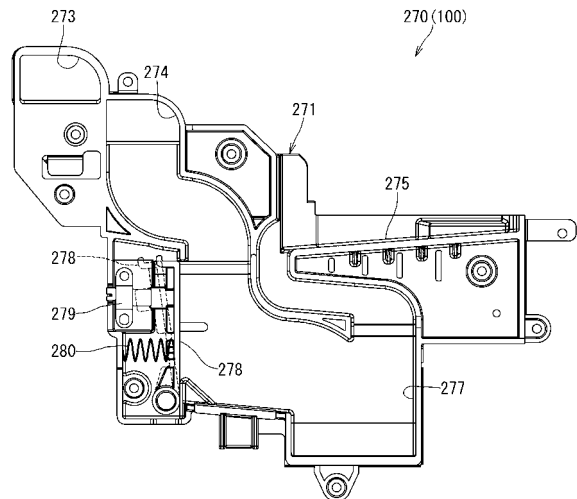
【图 3 6】



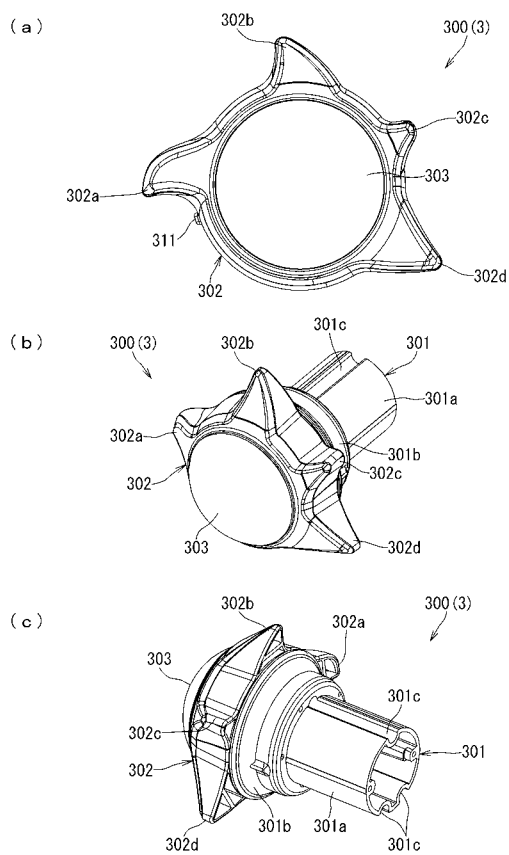
【図 37】



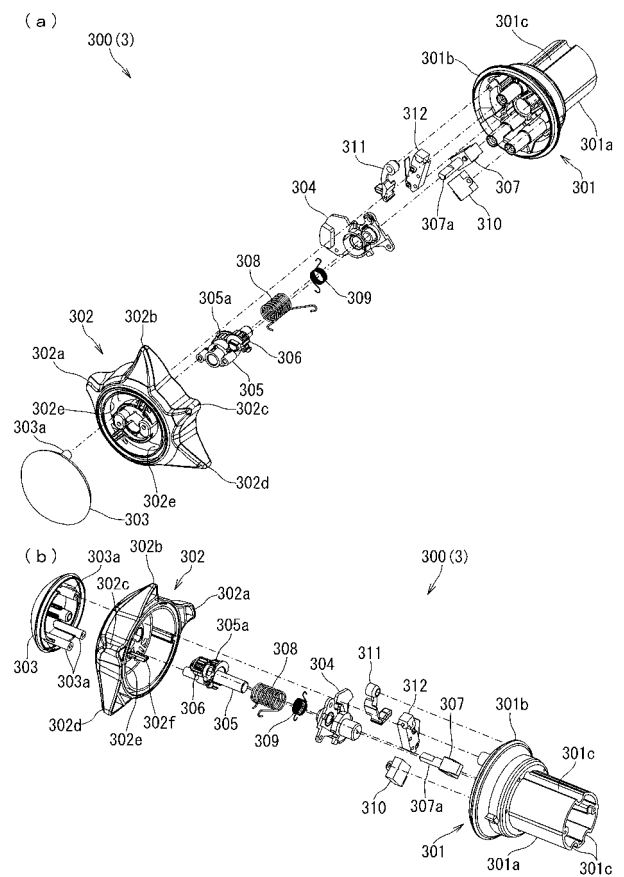
【図 38】



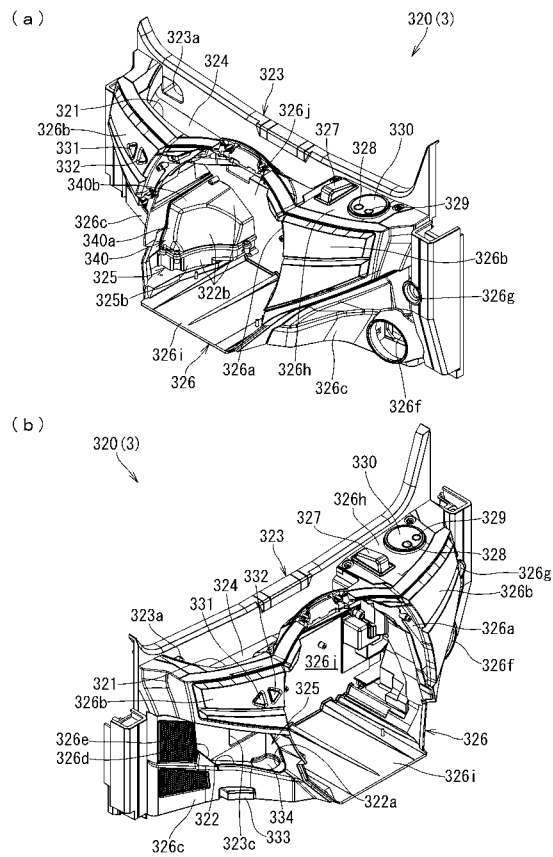
【図 39】



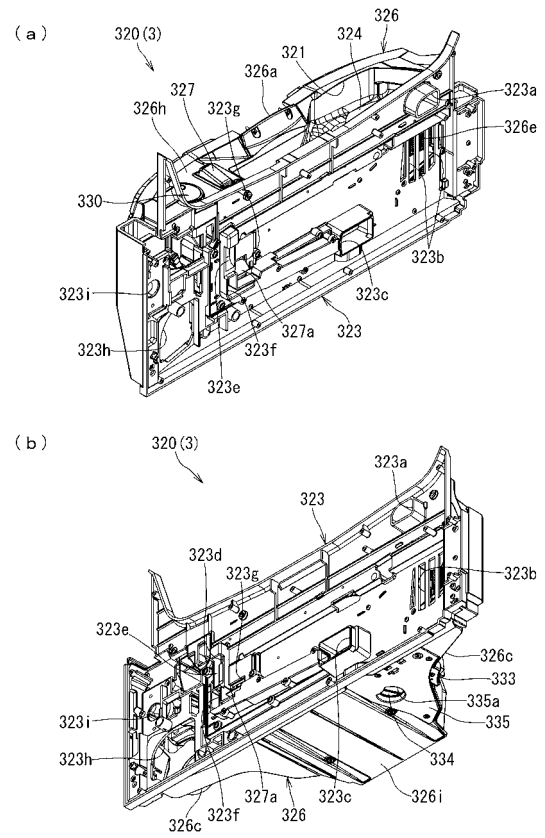
【図 40】



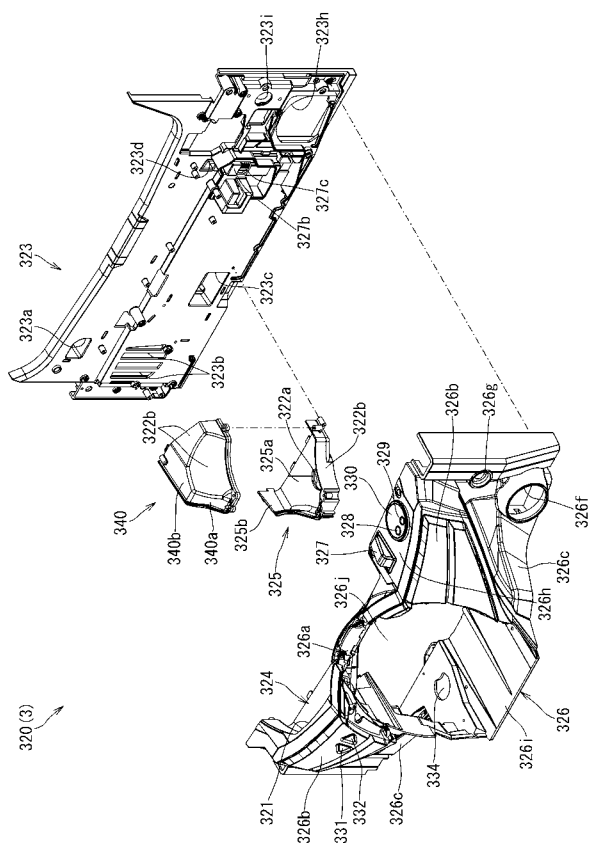
【図 4 1】



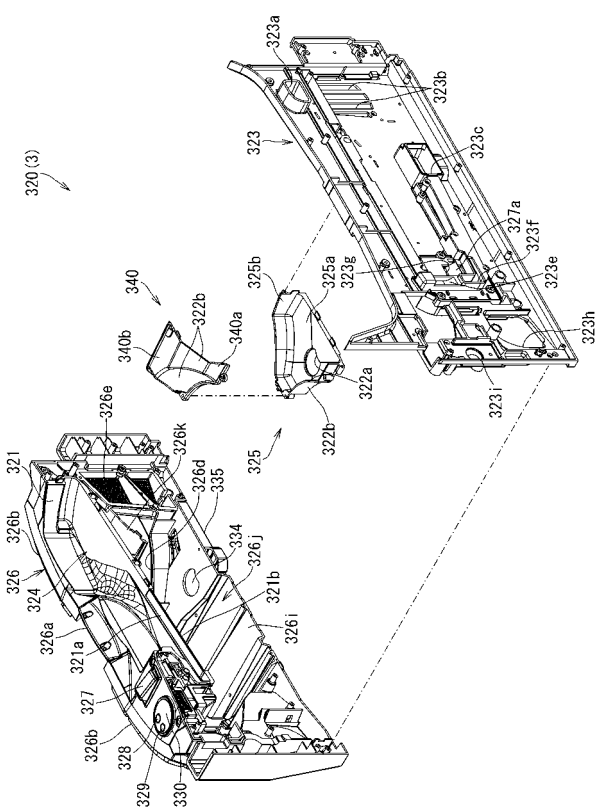
【図 4 2】



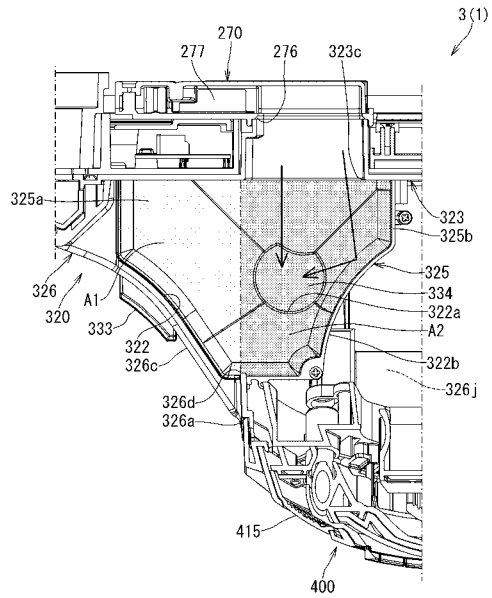
【図 4 3】



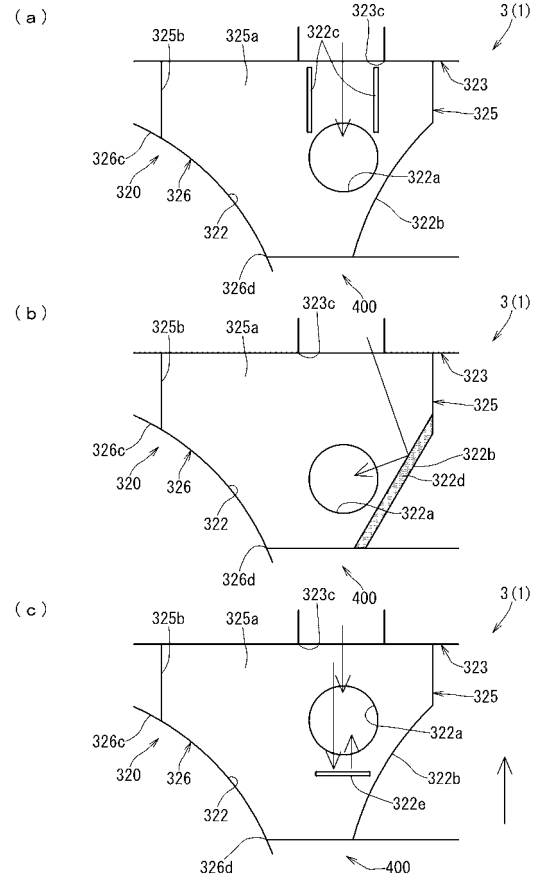
【図 4 4】



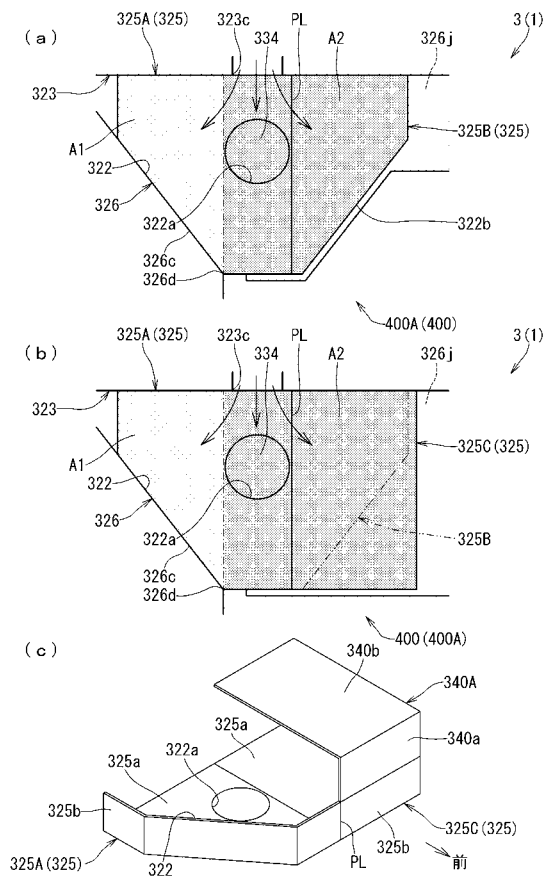
【図 4 5】



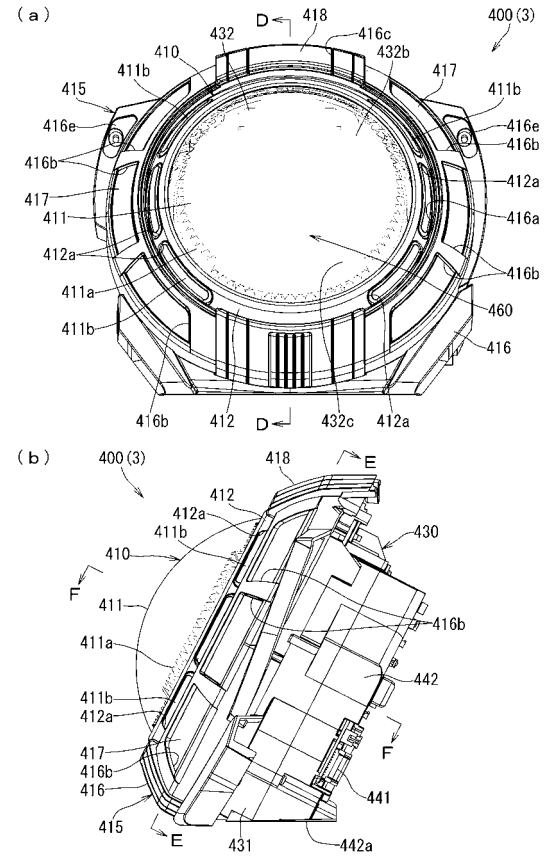
【図 4 6】



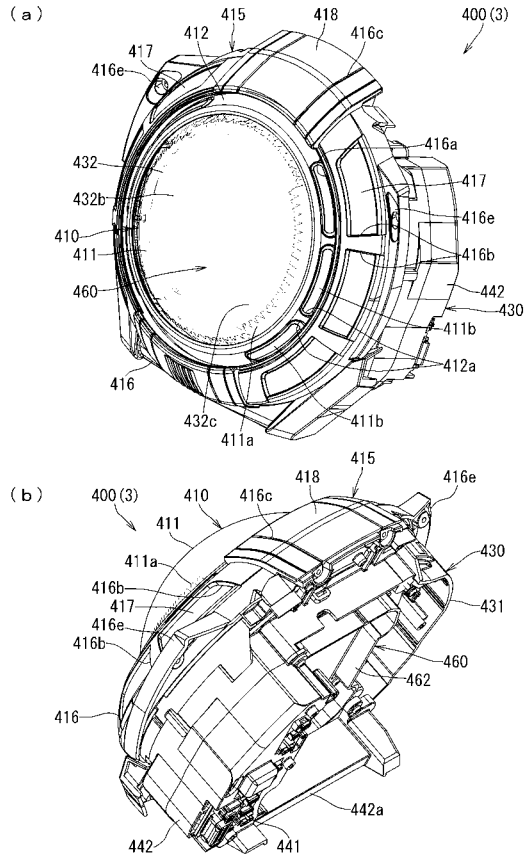
【図 4 7】



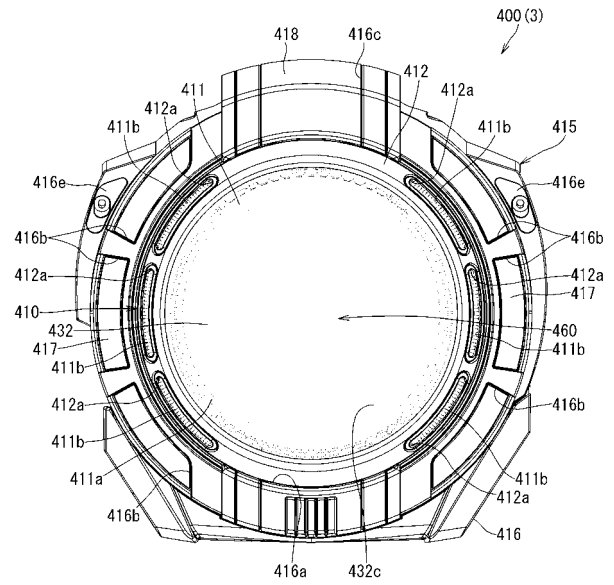
【図 4 8】



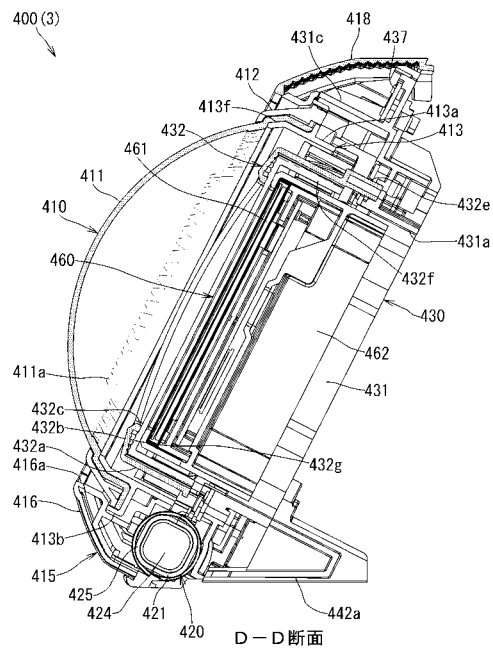
【図 49】



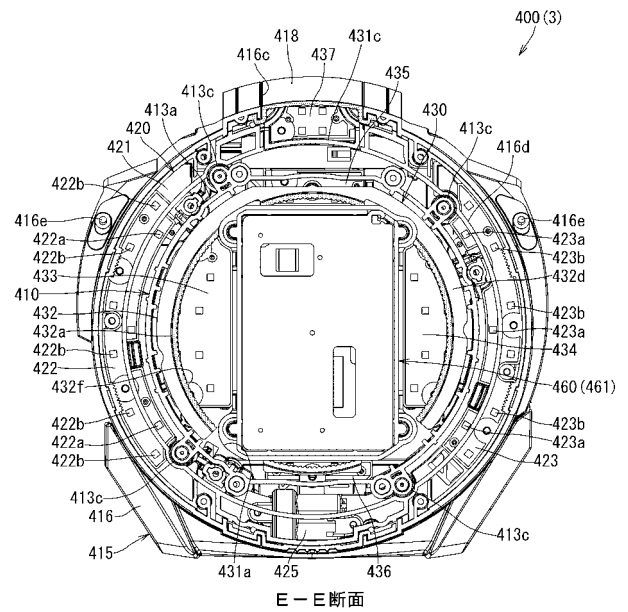
【図 50】



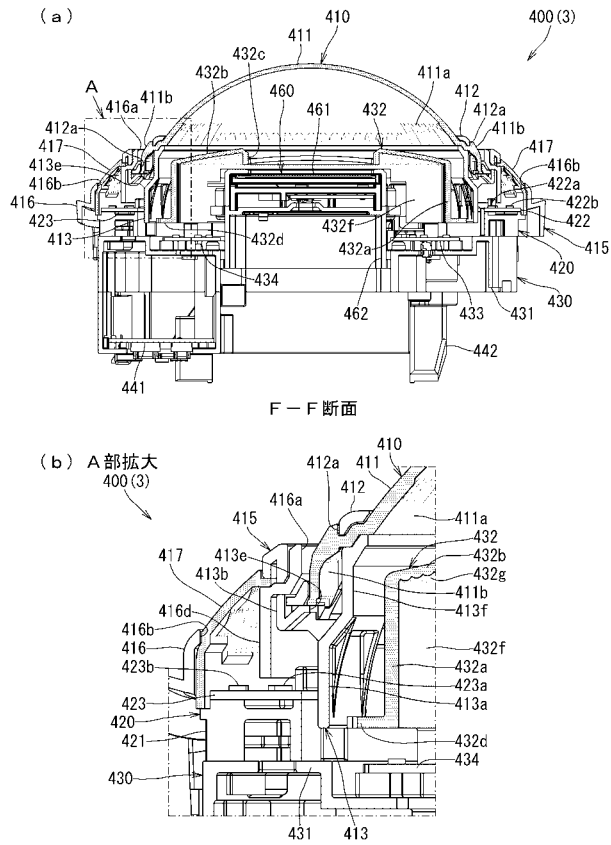
【図 51】



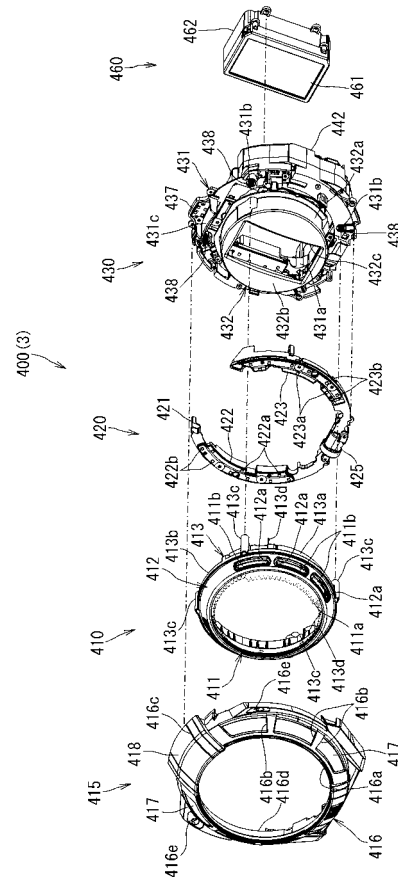
【図 52】



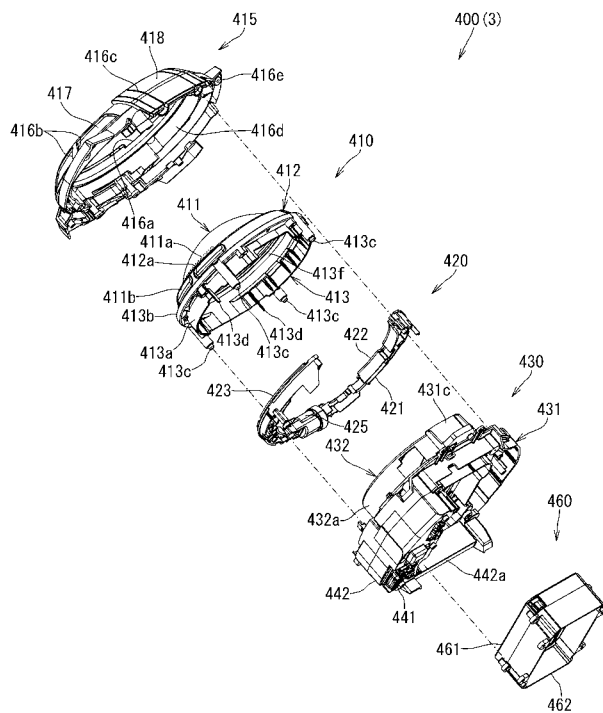
【図 5 3】



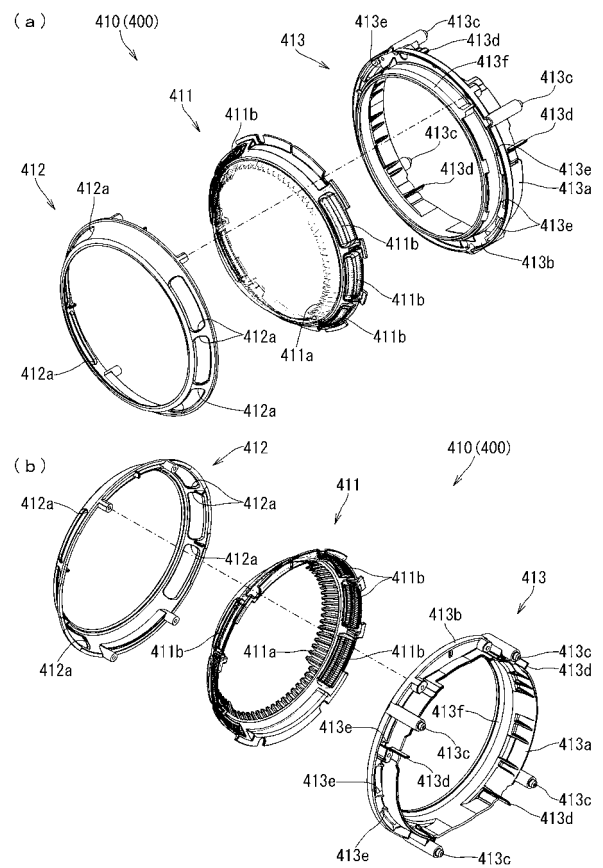
【図 5 4】



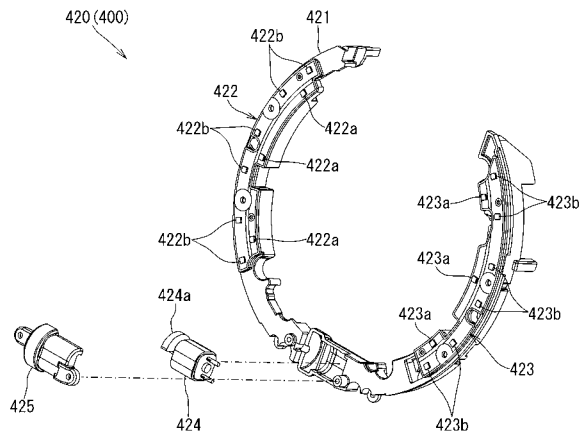
【図 5 5】



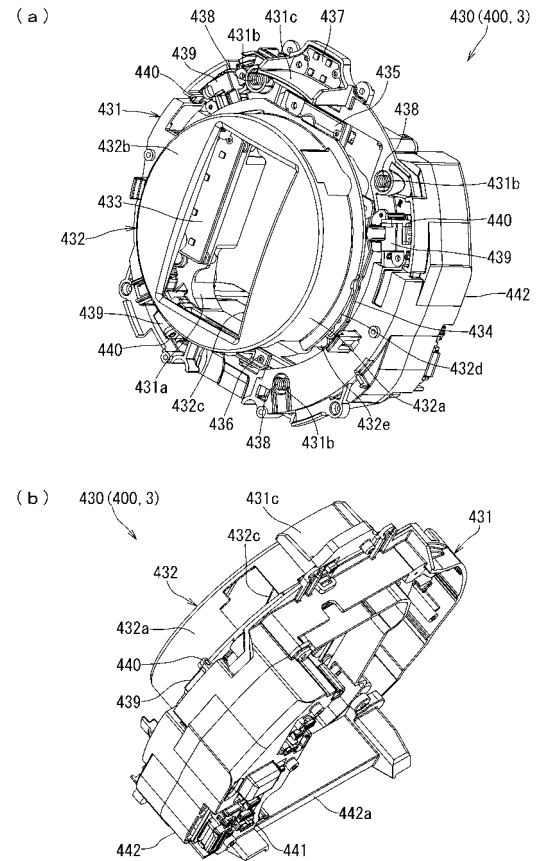
【図 5 6】



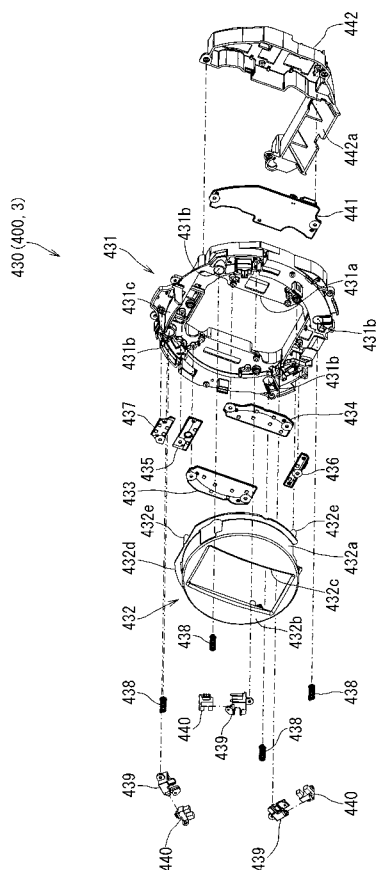
【図 57】



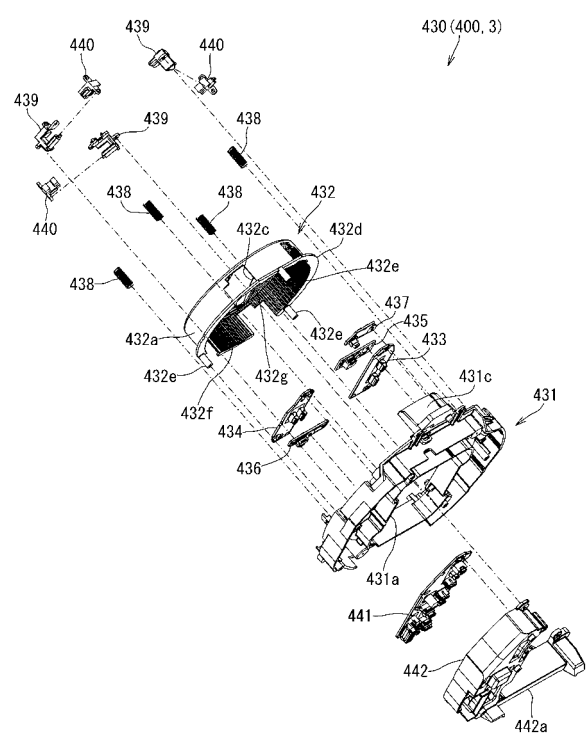
【図 58】



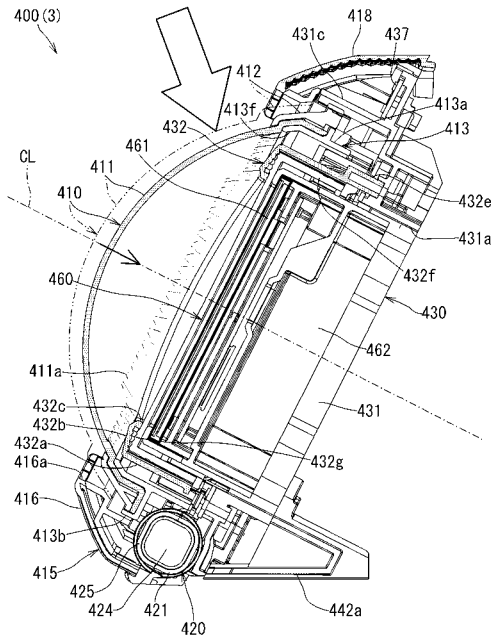
【図 59】



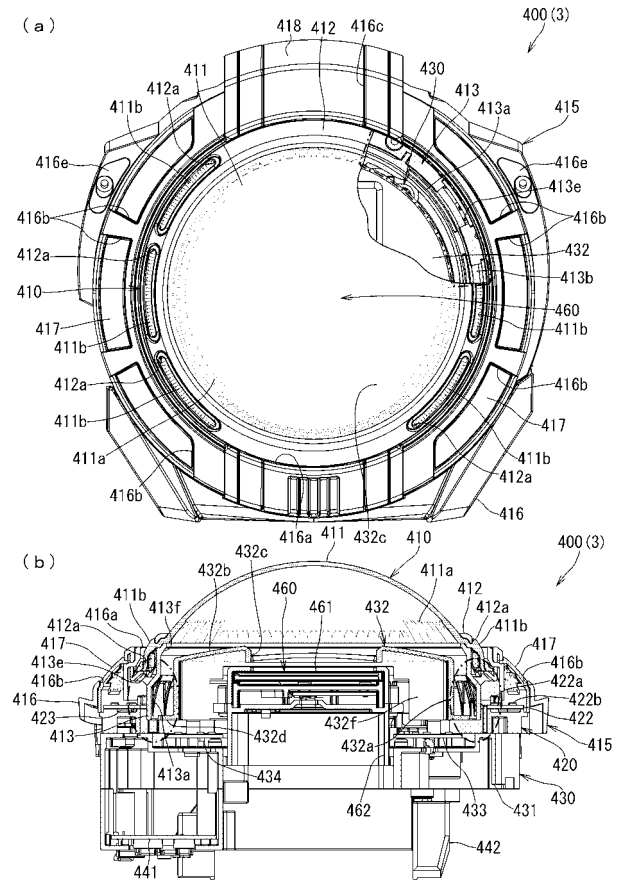
【図 60】



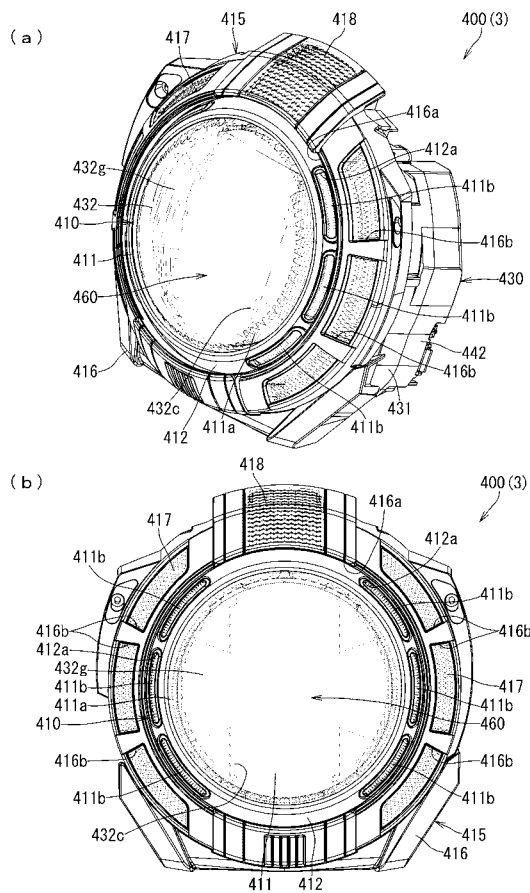
【図 6 1】



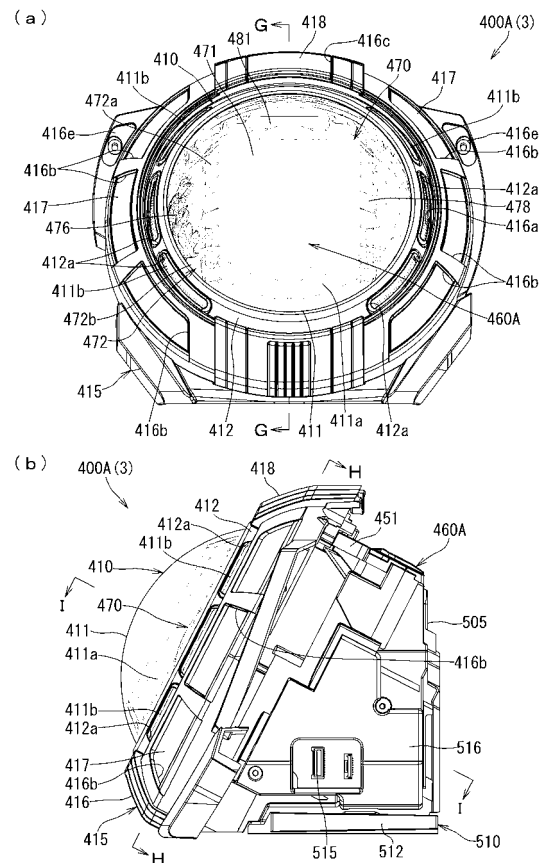
【図 6 2】



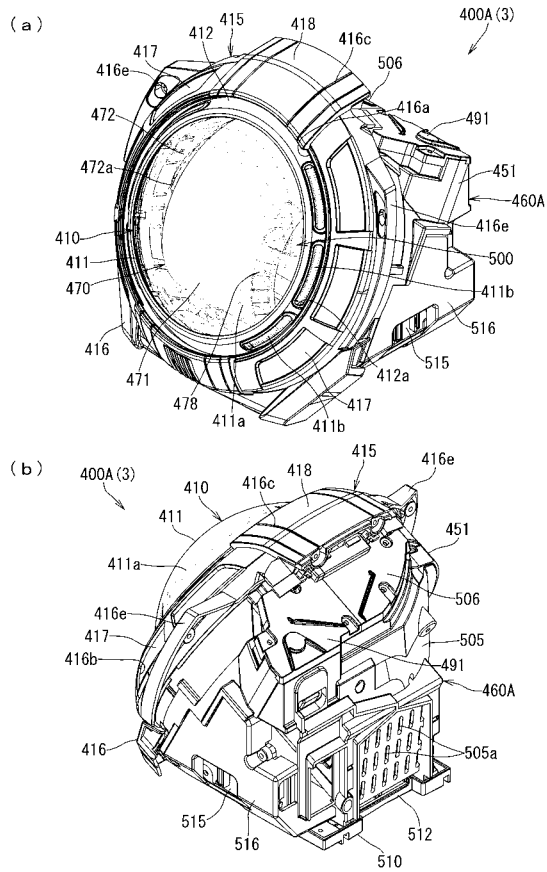
【図 6 3】



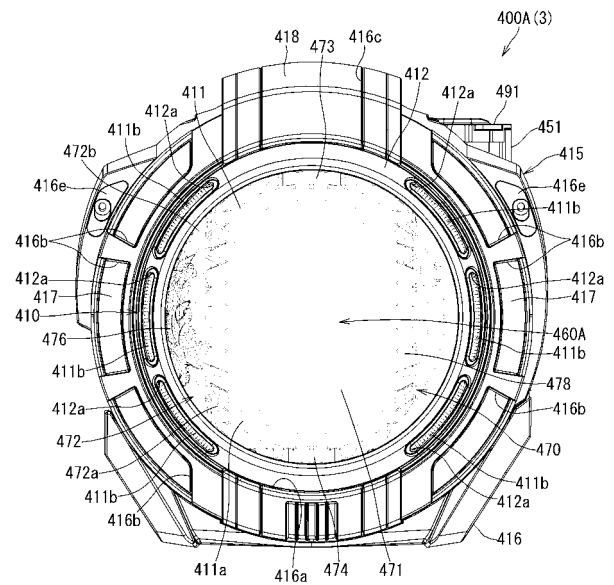
【図 6 4】



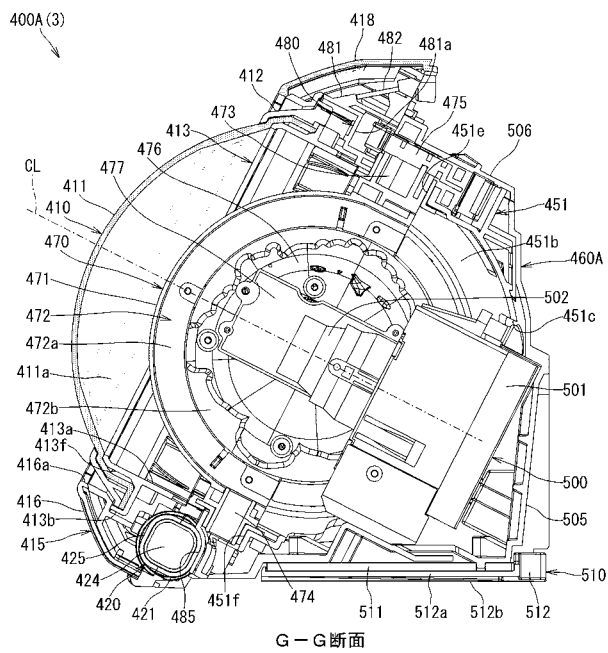
【図 65】



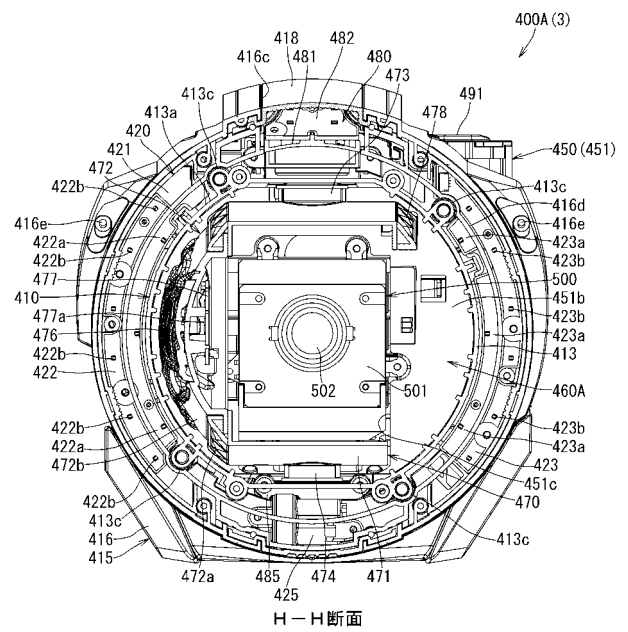
【図 66】



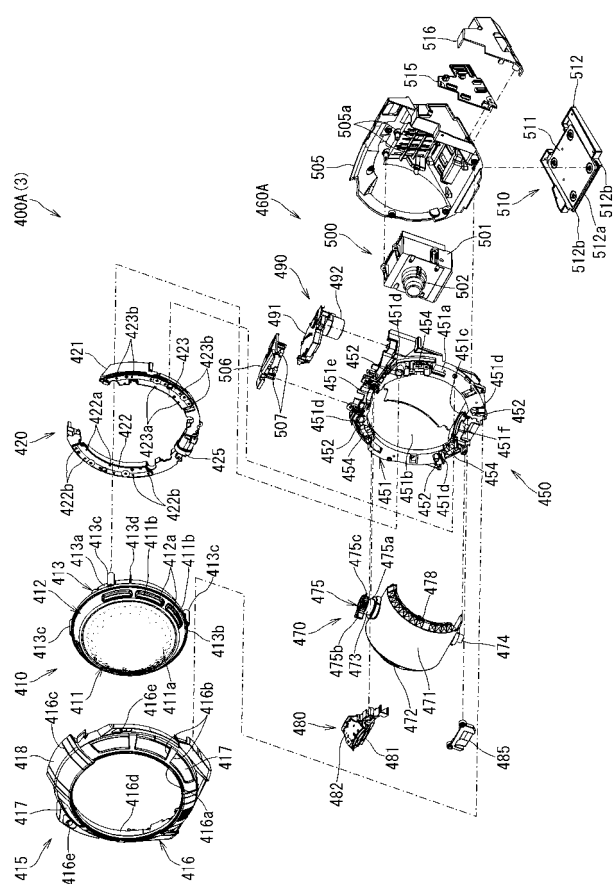
【図 67】



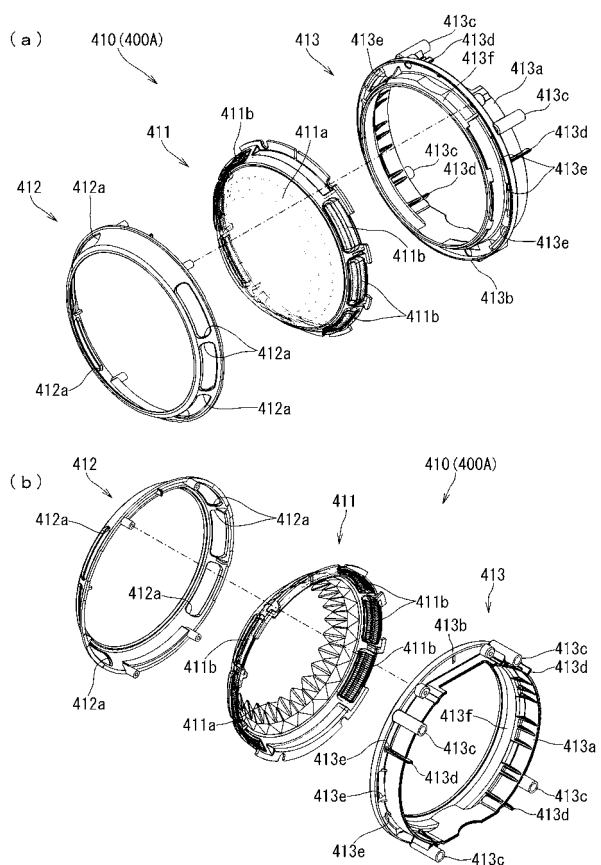
【図 68】



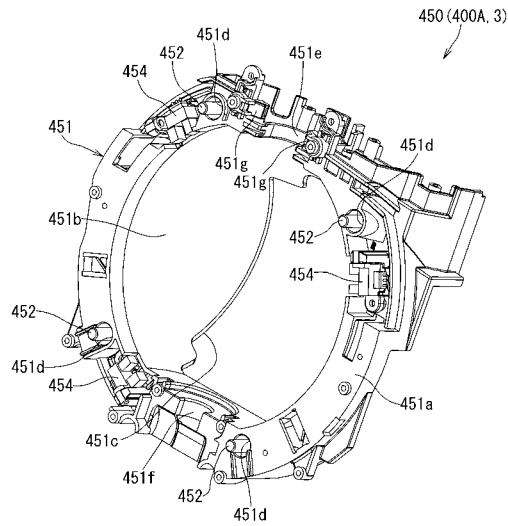
【図 7 0】



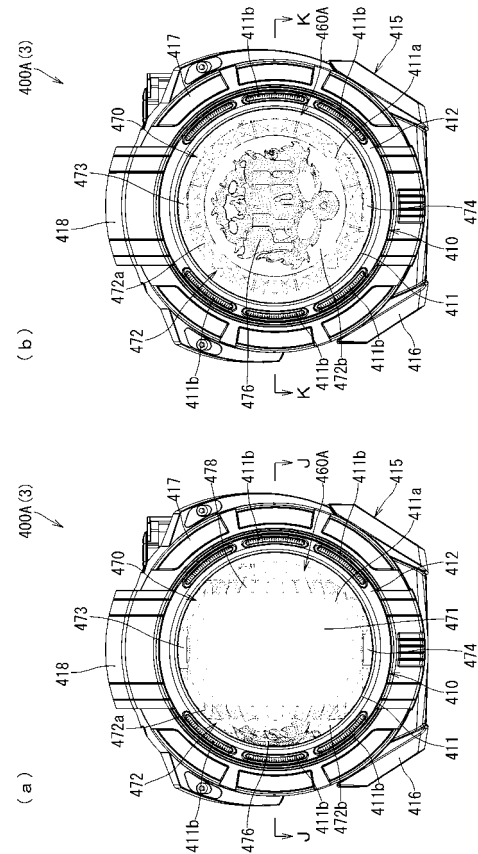
【図 7 2】



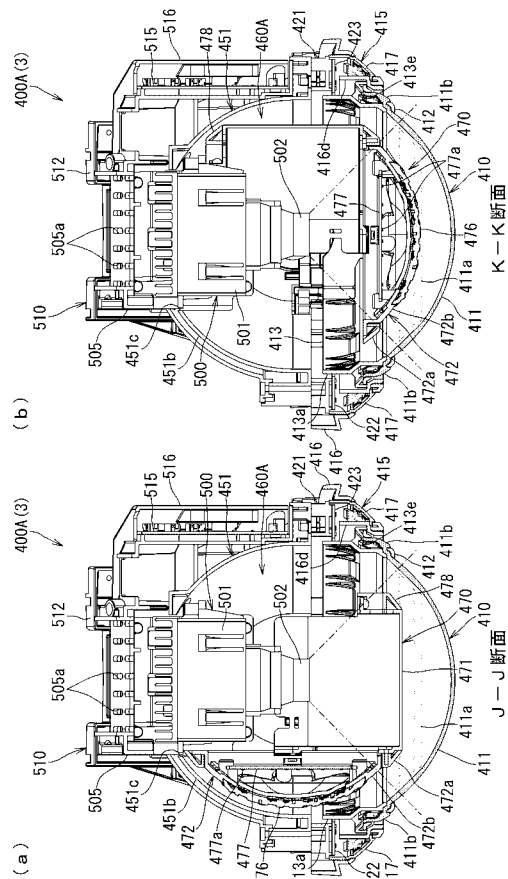
【図 7 3】



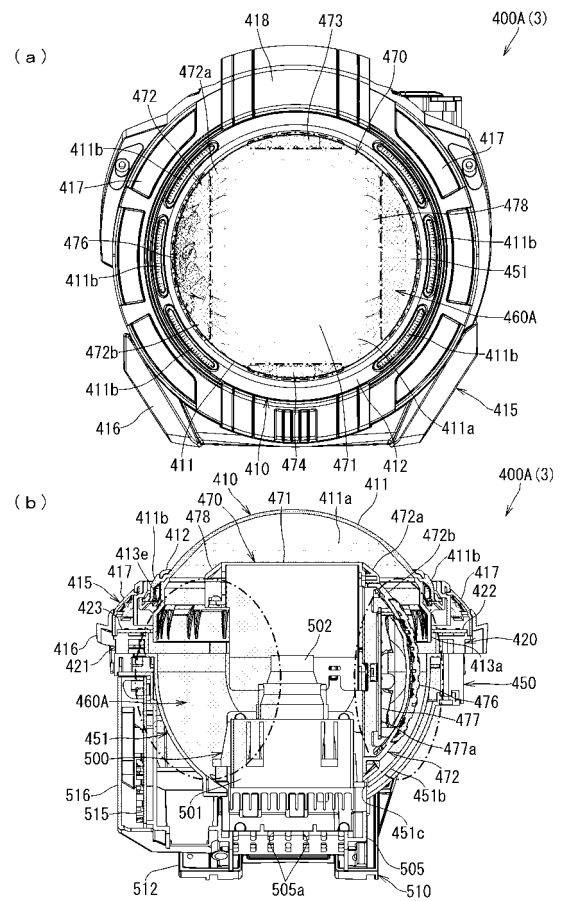
【図 7 4】



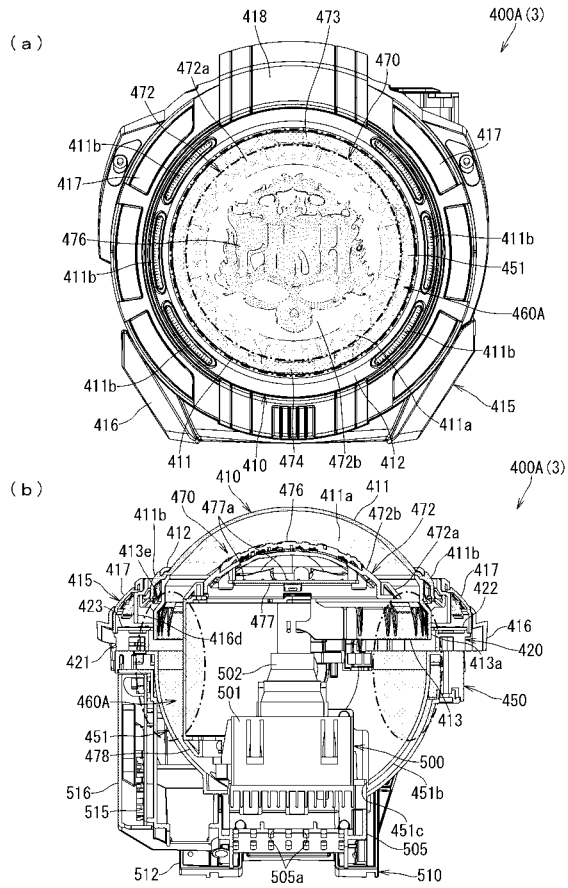
【図 7 5】



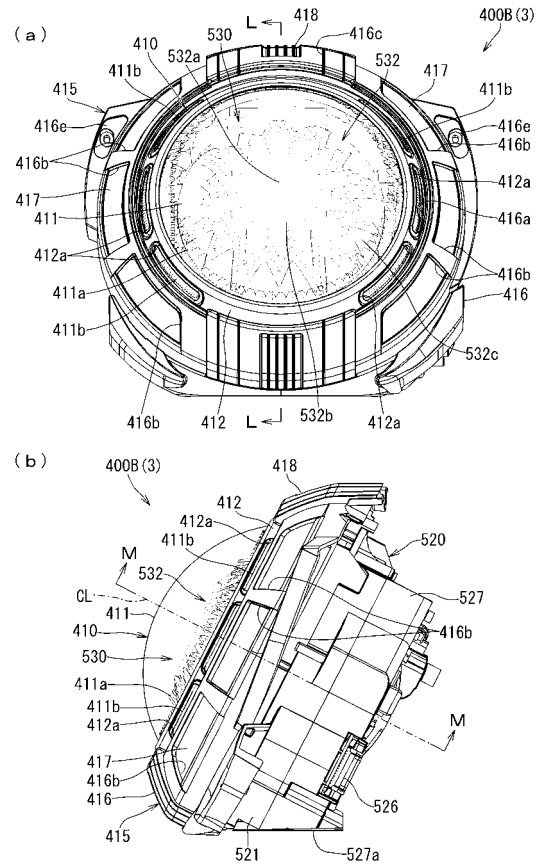
【図 7 6】



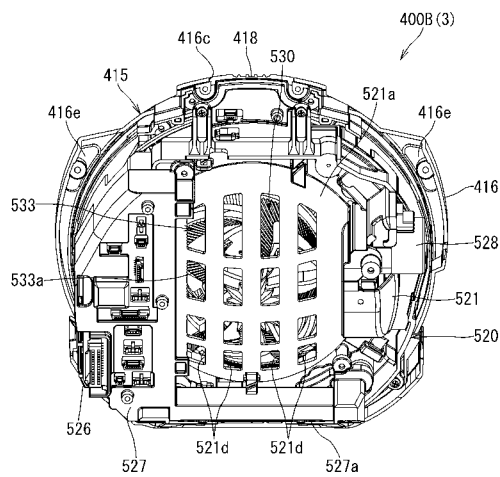
【図 77】



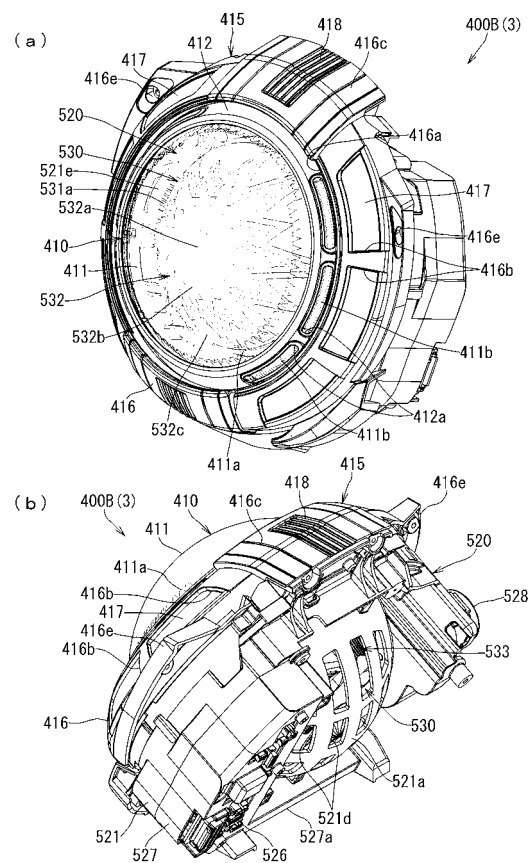
【図 78】



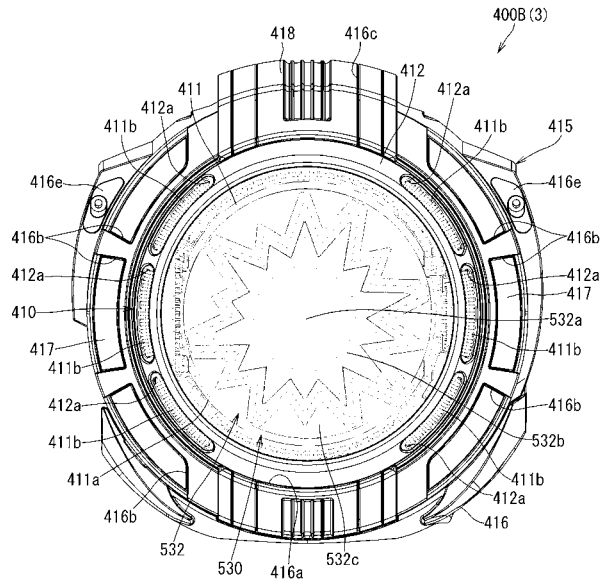
【図 79】



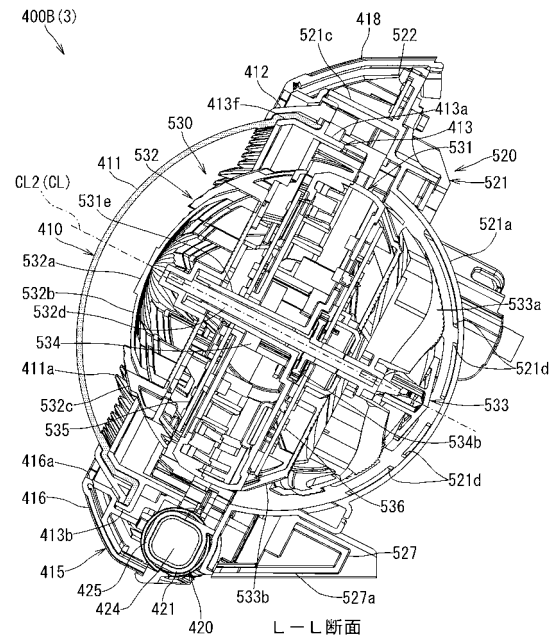
【図 80】



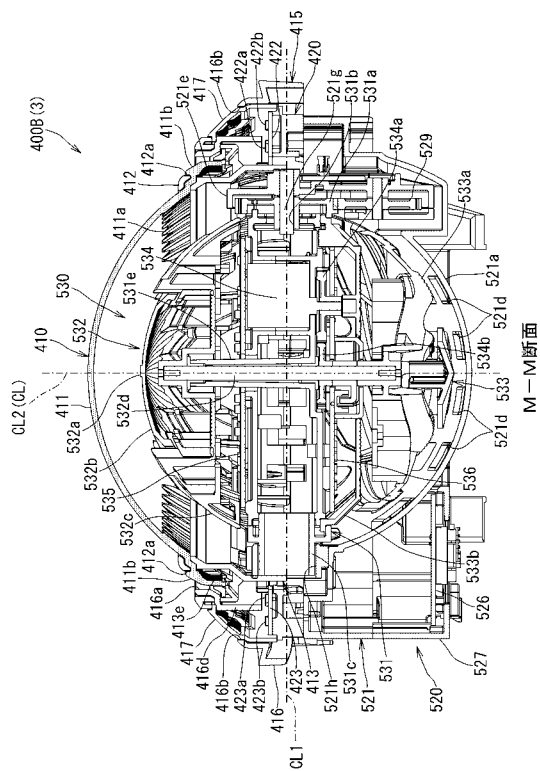
【図 8 1】



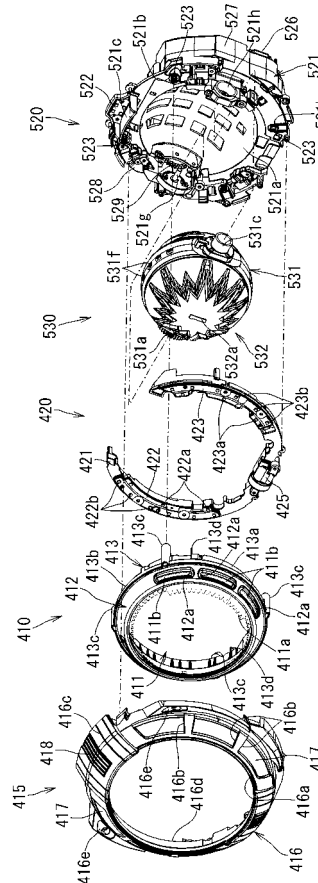
【図 8 2】



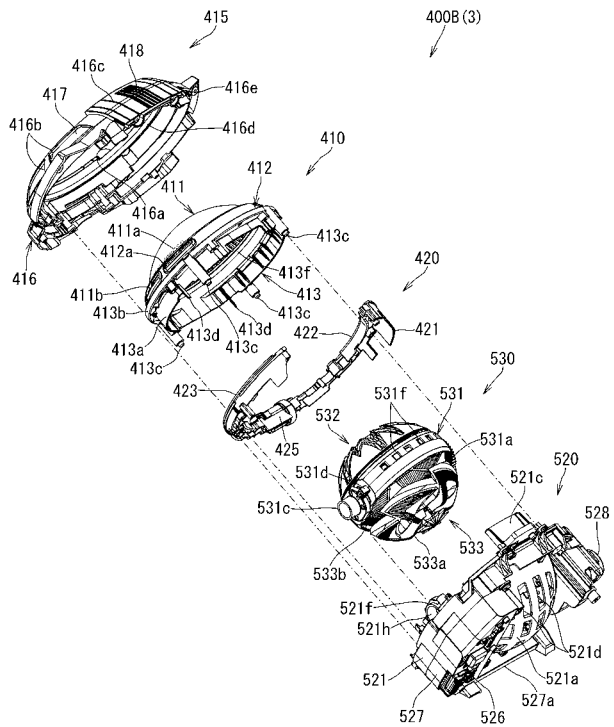
【図 8 3】



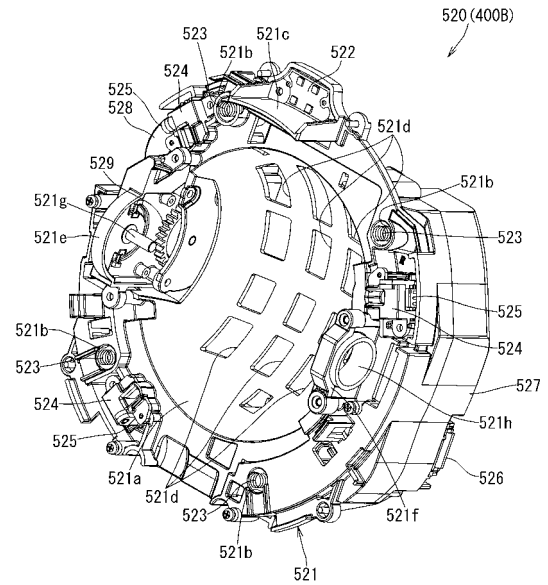
【図 8 4】



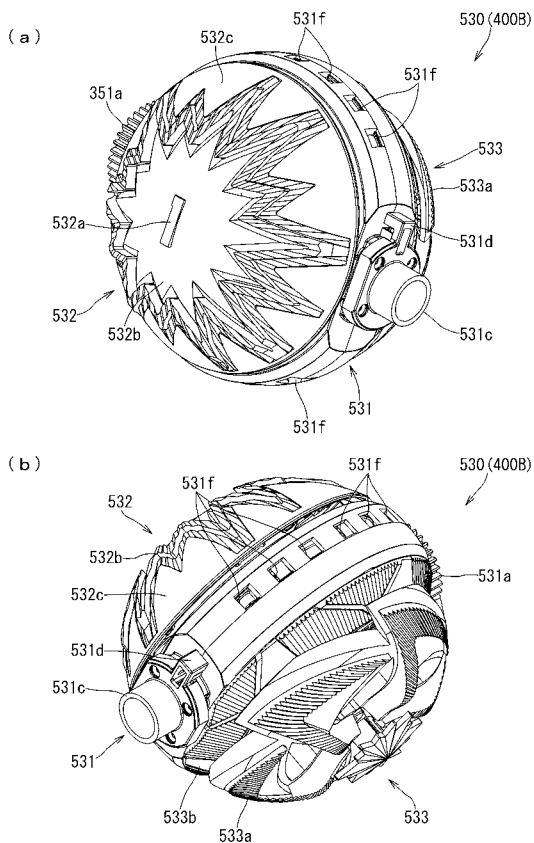
【図 8 5】



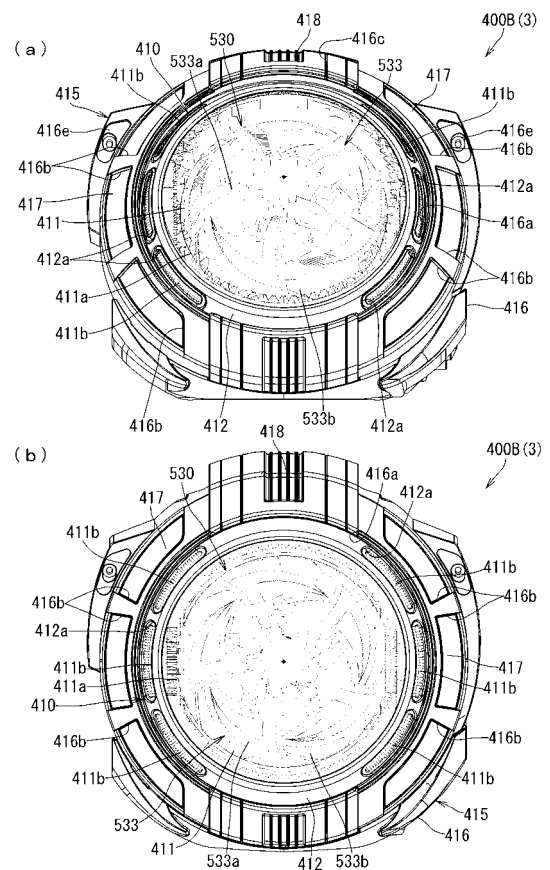
【 図 8 6 】



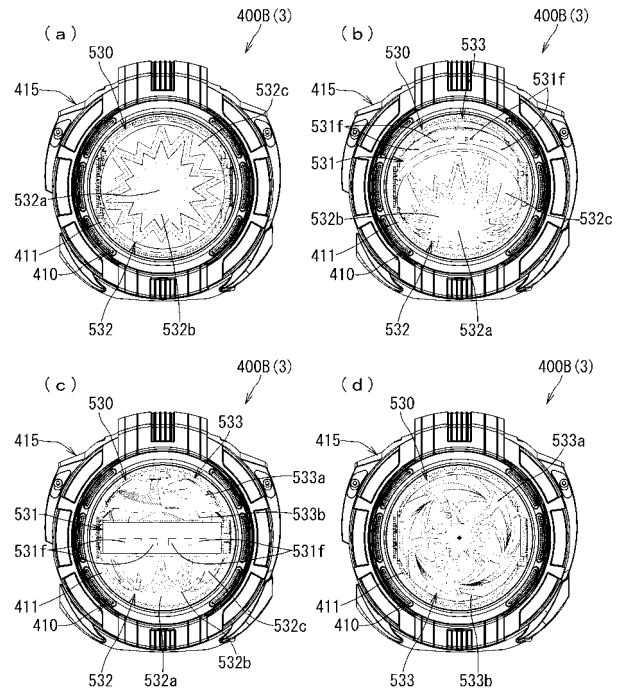
【图 8 7】



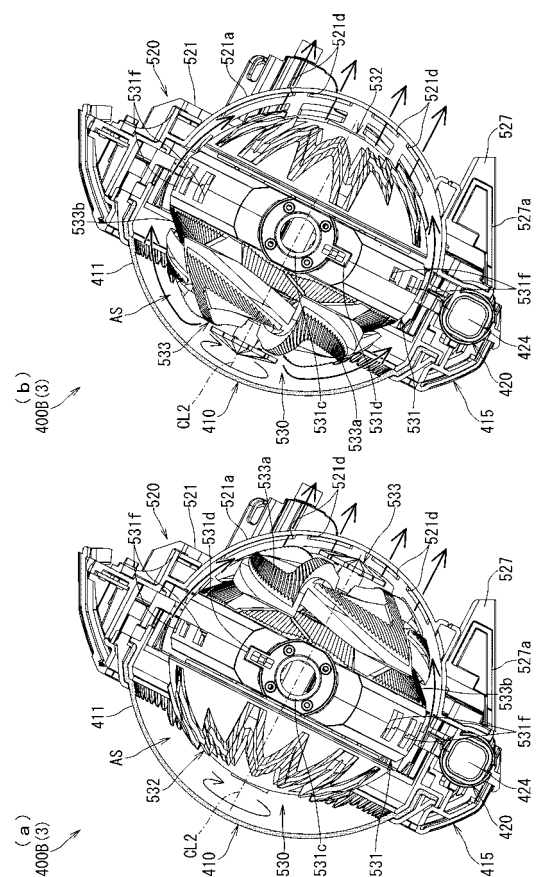
【 図 8 8 】



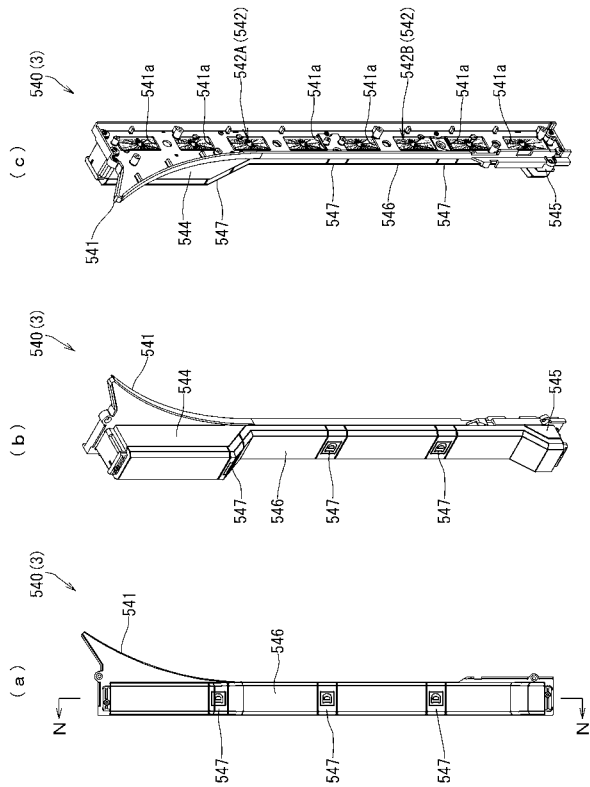
【 図 9 0 】



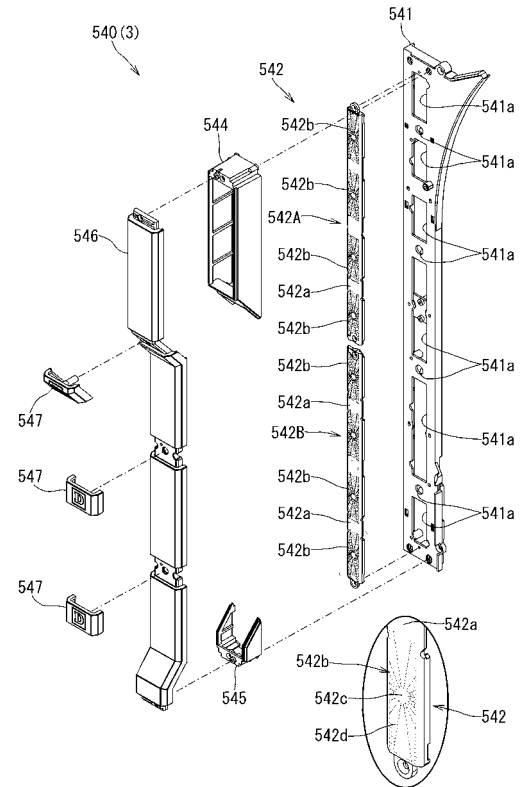
【図 9 2】



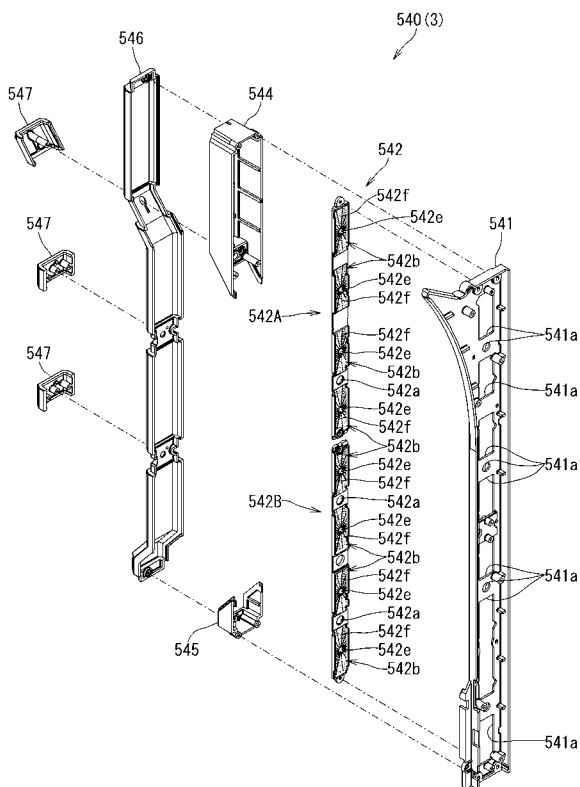
【図 9 3】



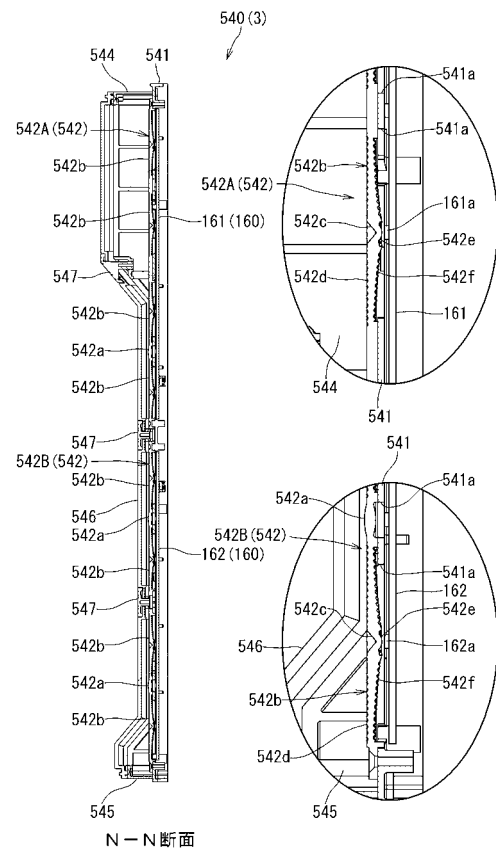
【図 9 4】



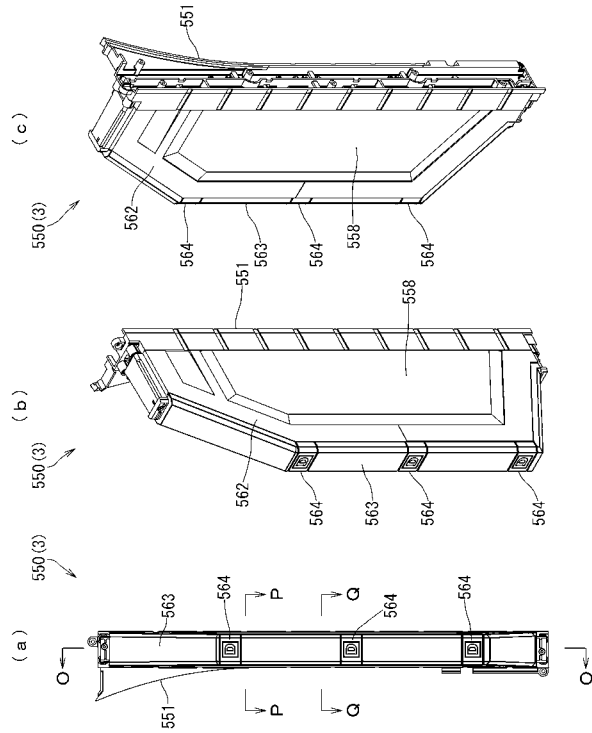
【図 9 5】



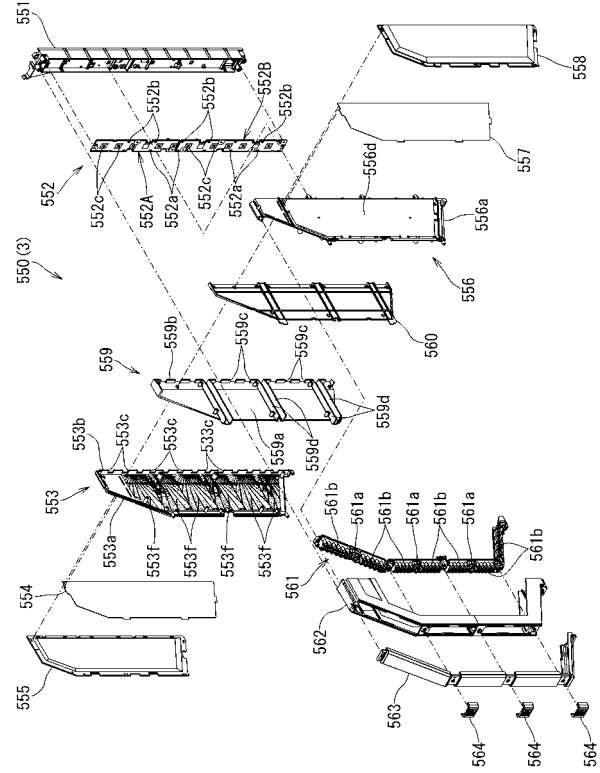
【図 9 6】



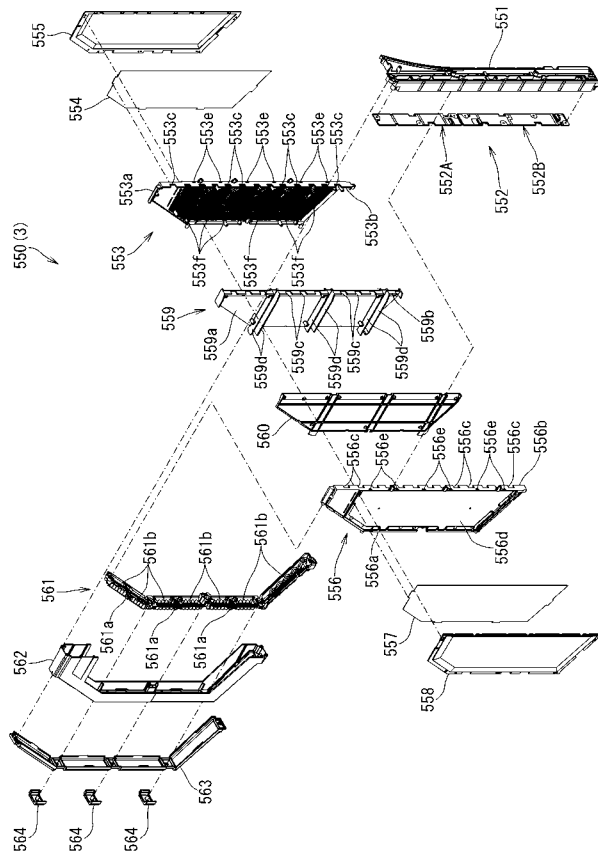
【図 97】



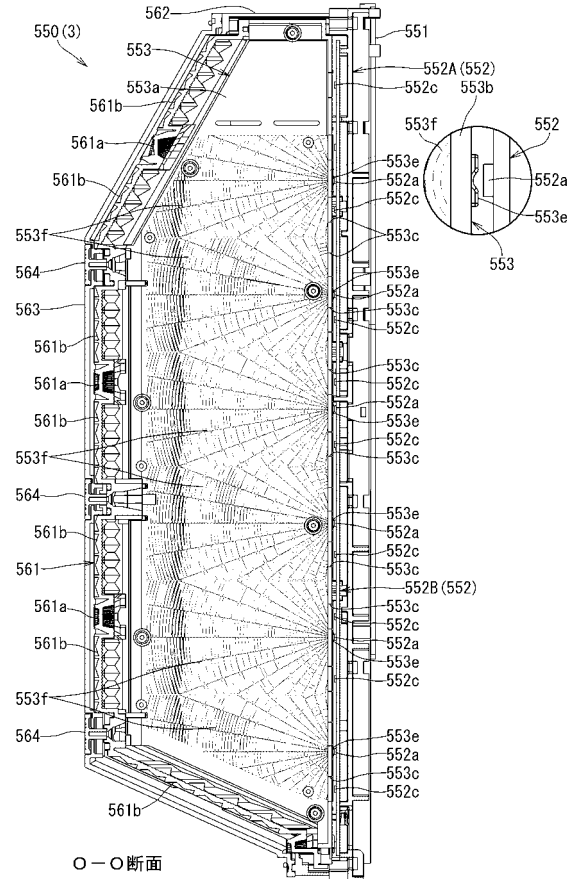
【図 98】



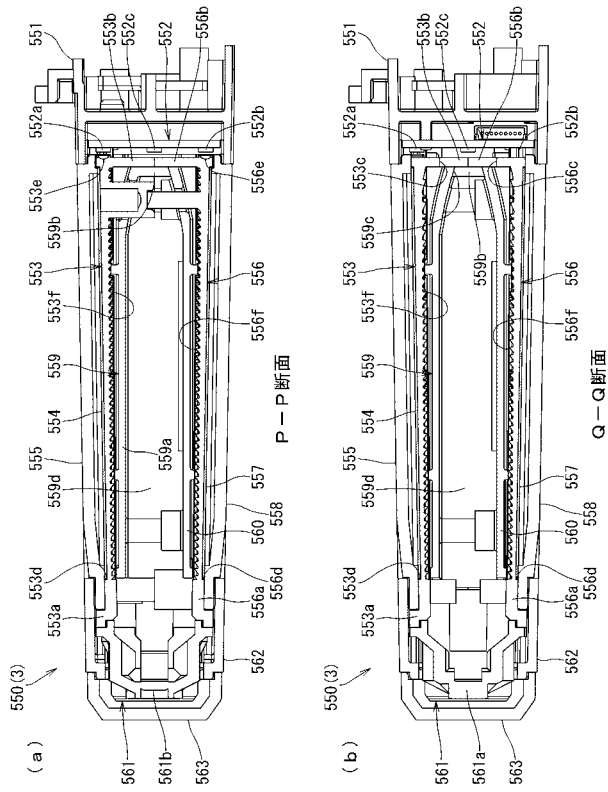
【図 99】



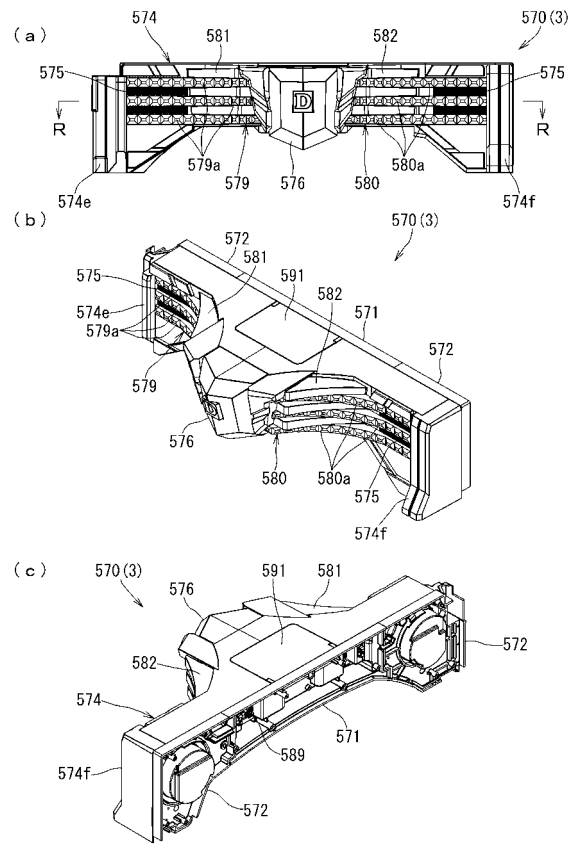
【図 100】



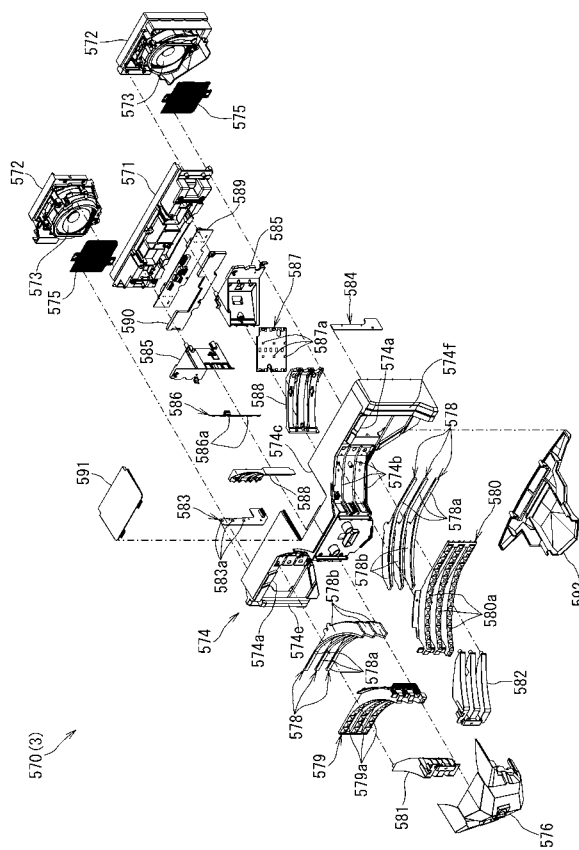
【図101】



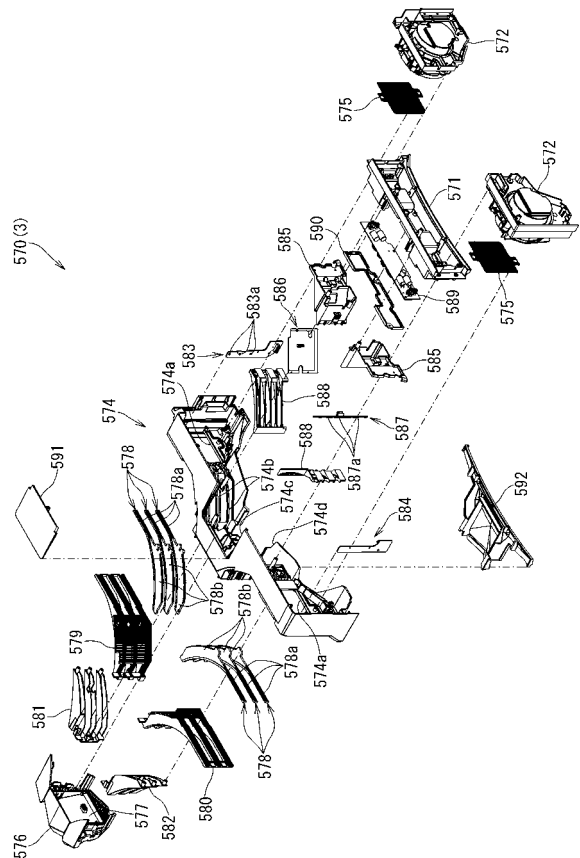
【図102】



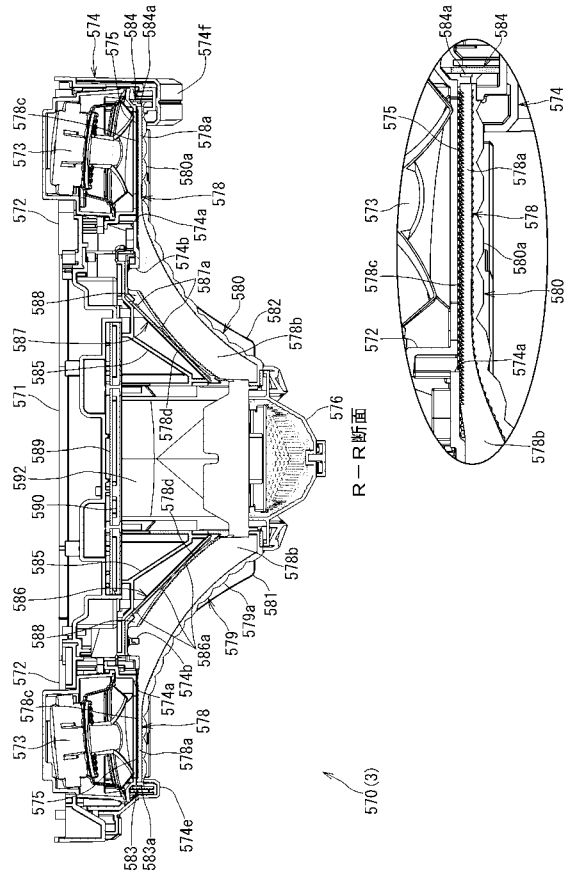
【図103】



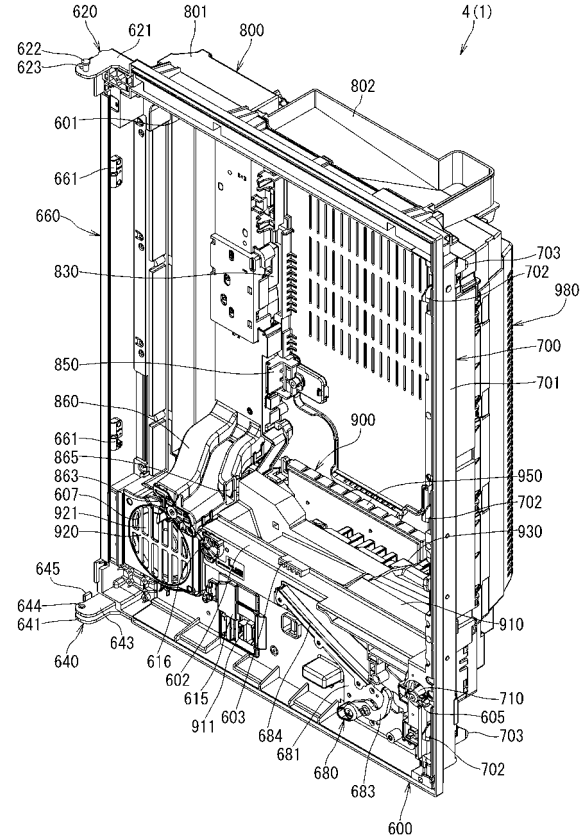
【図104】



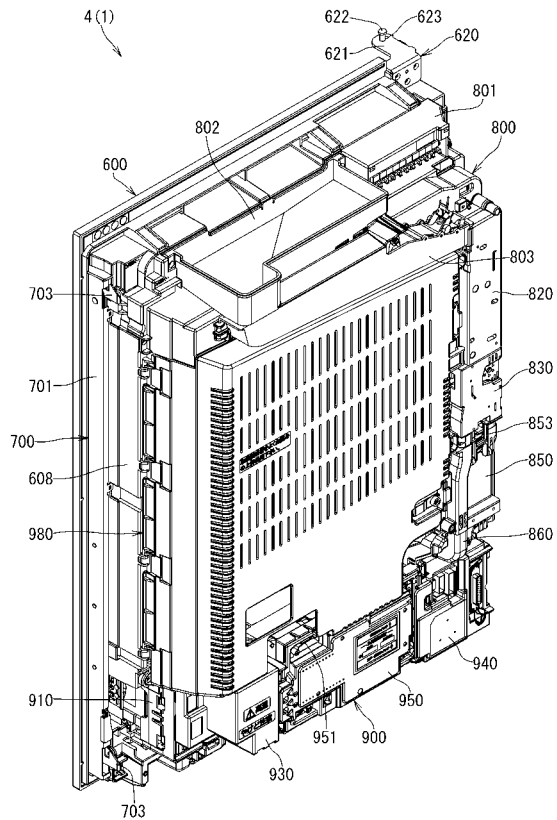
【図105】



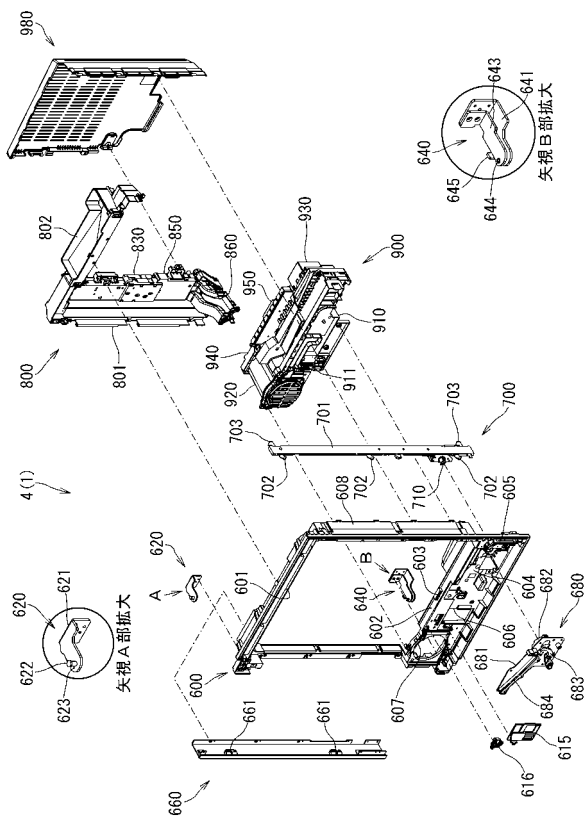
【図106】



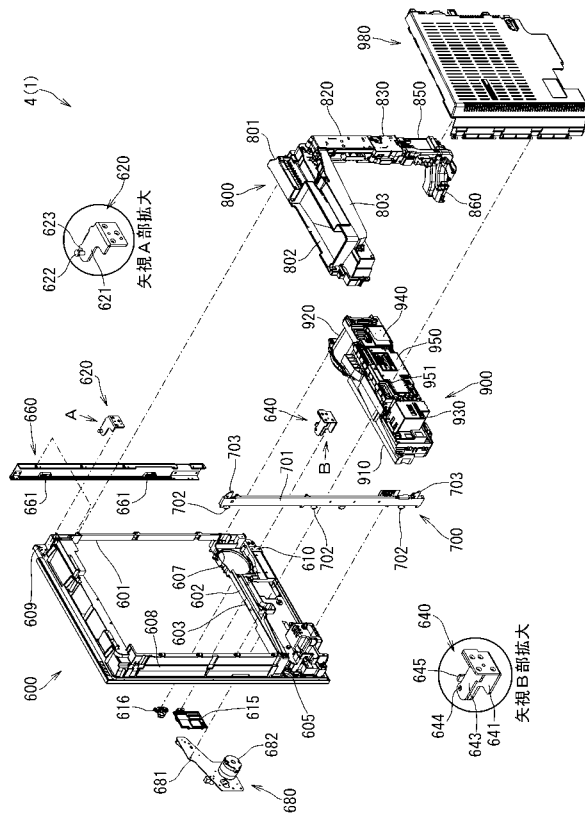
【図107】



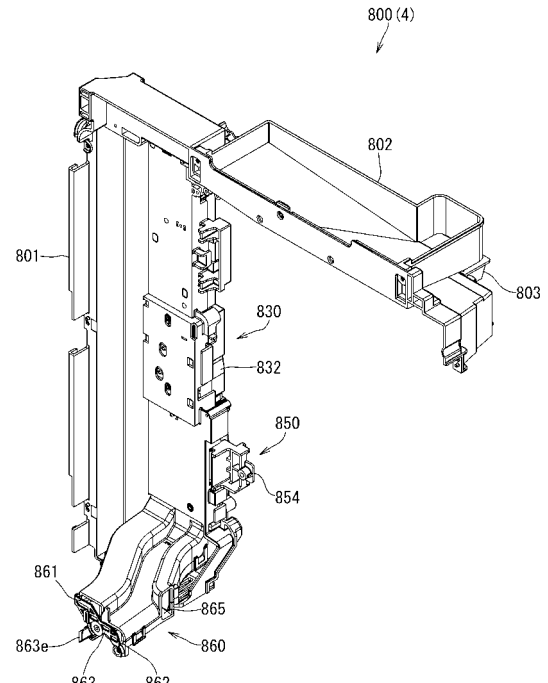
【図108】



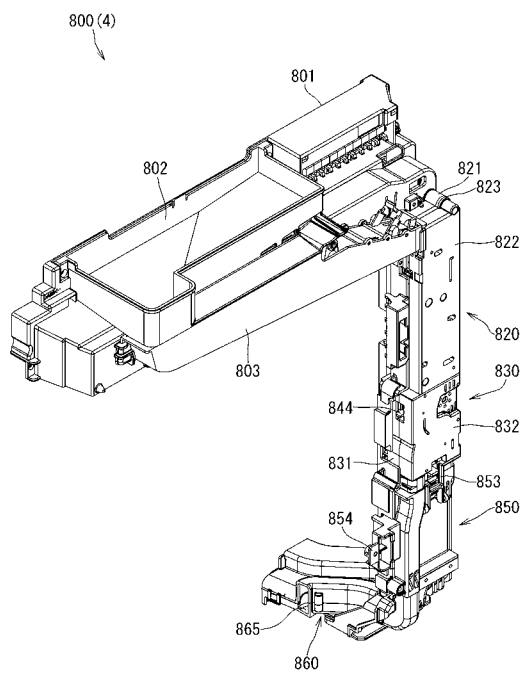
【図109】



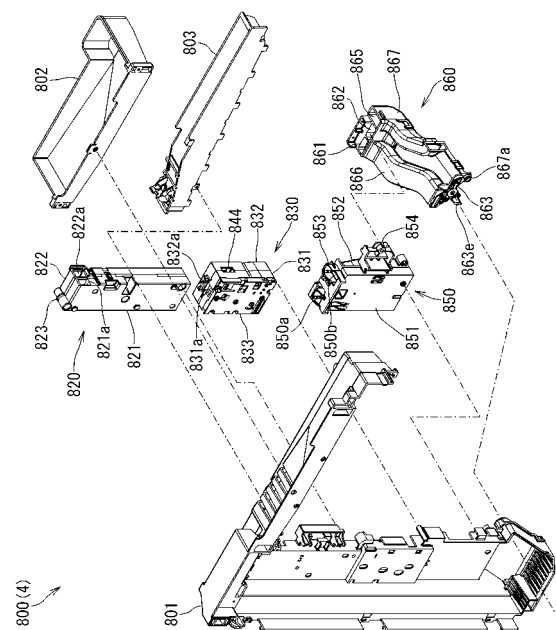
【図110】



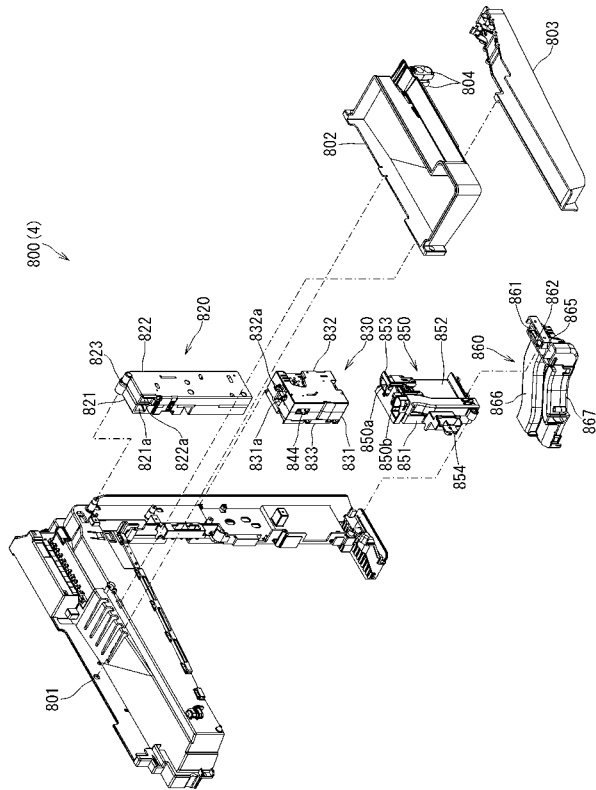
【図111】



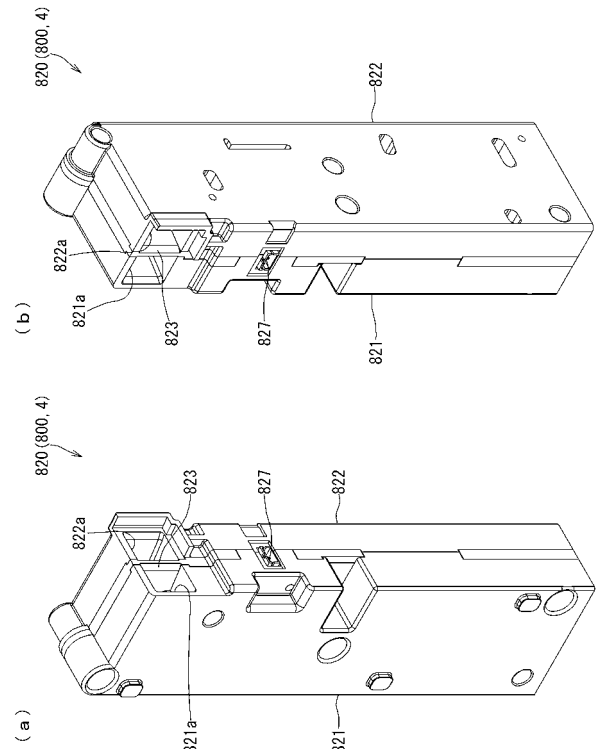
【図112】



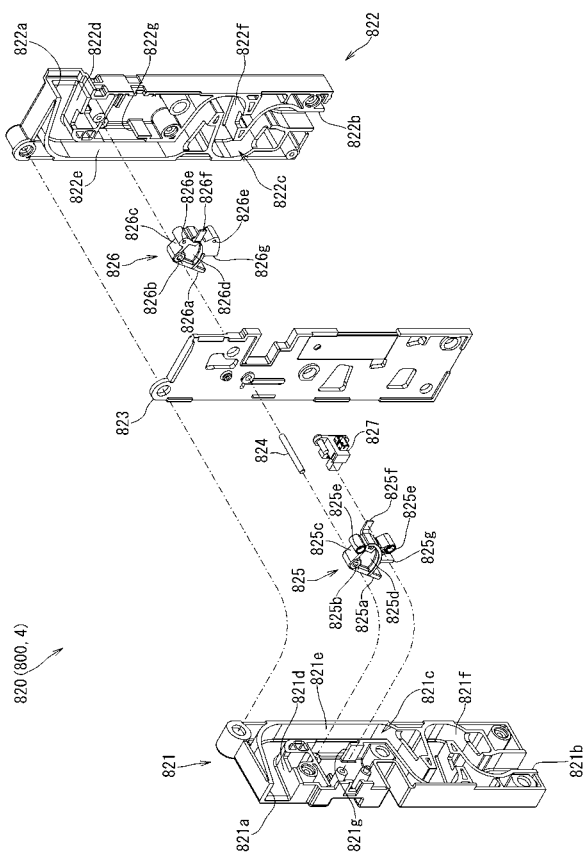
【図 113】



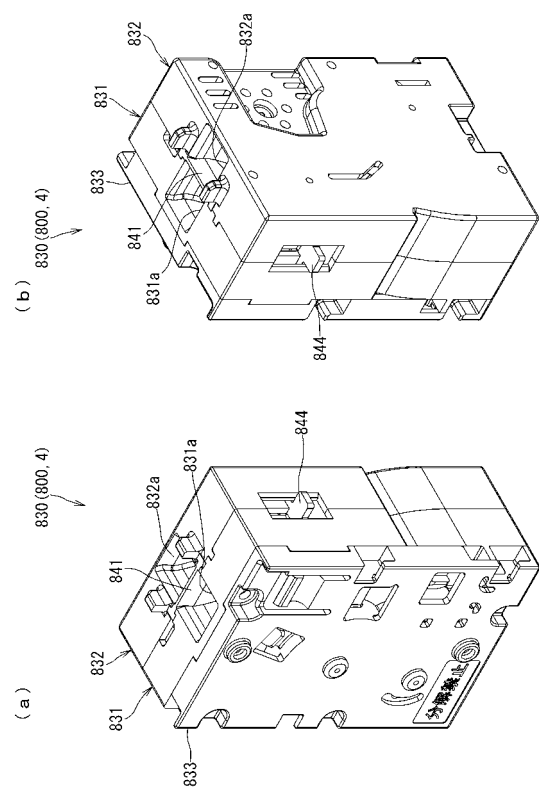
【図 114】



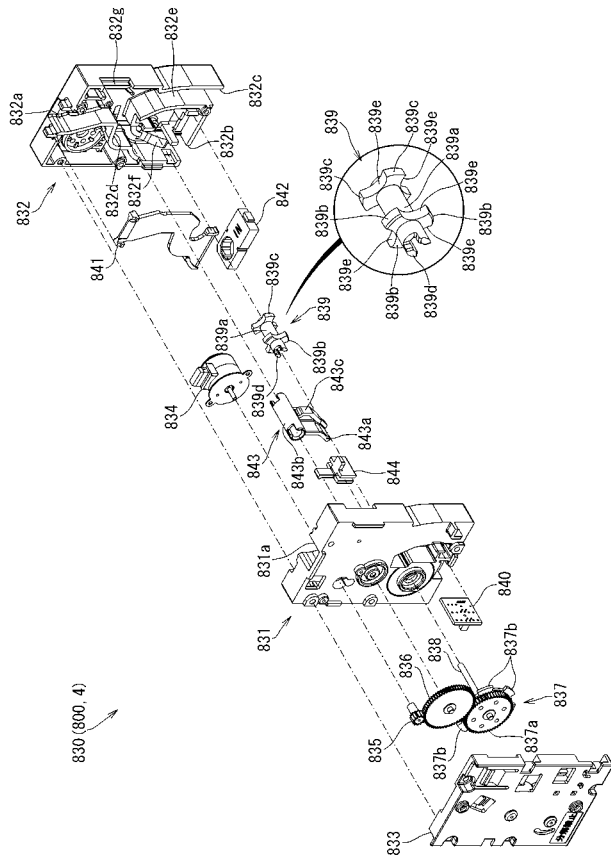
【図 115】



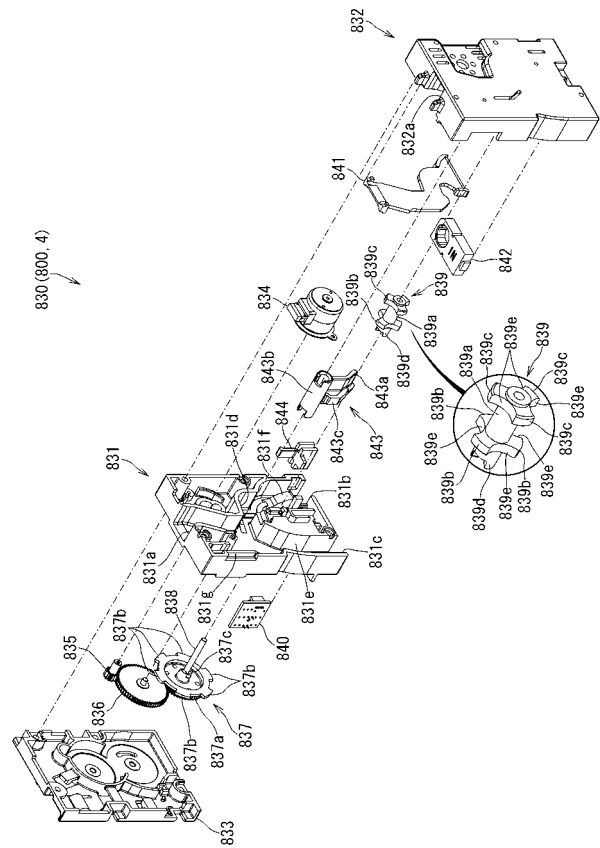
【図 116】



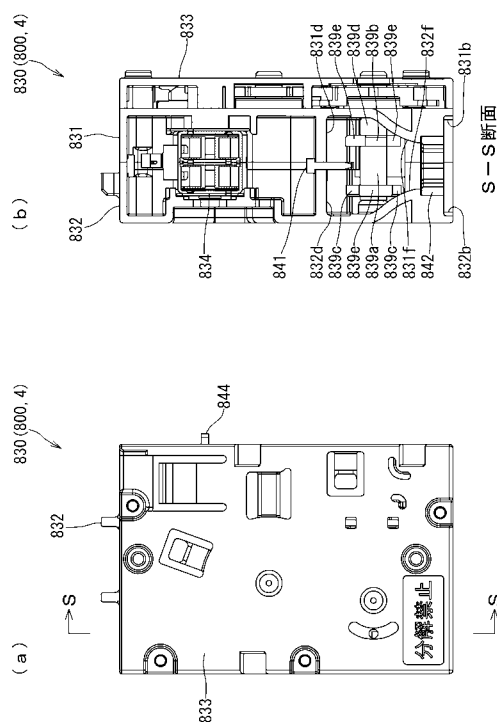
【図 117】



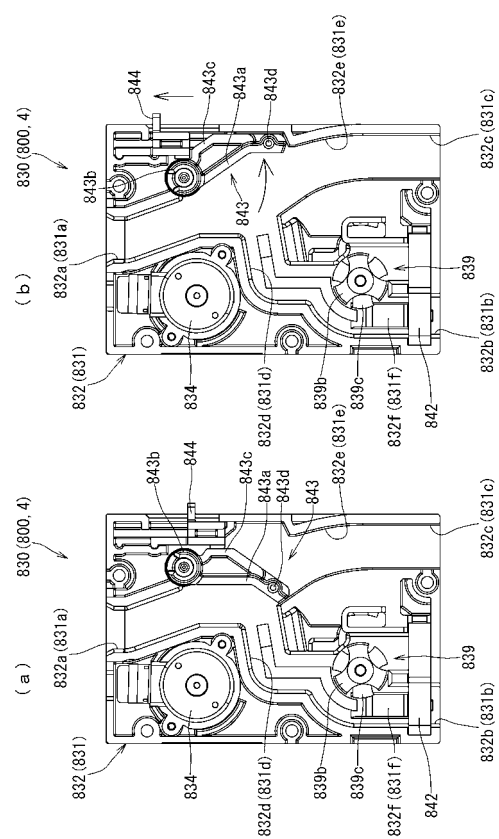
【図 118】



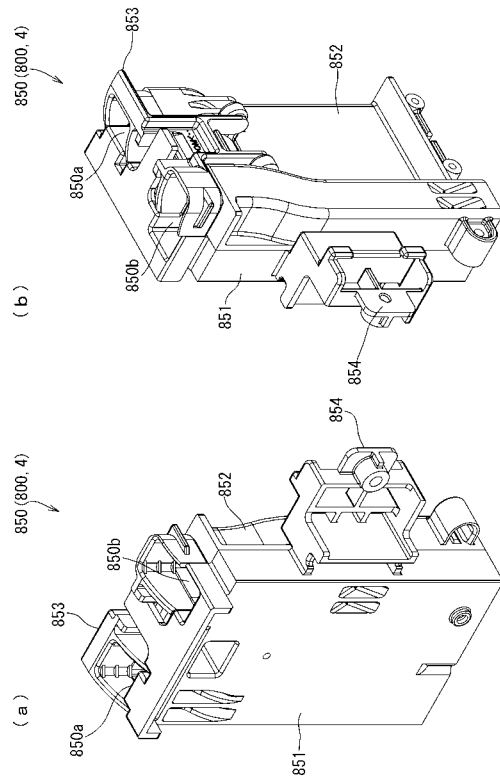
【図 119】



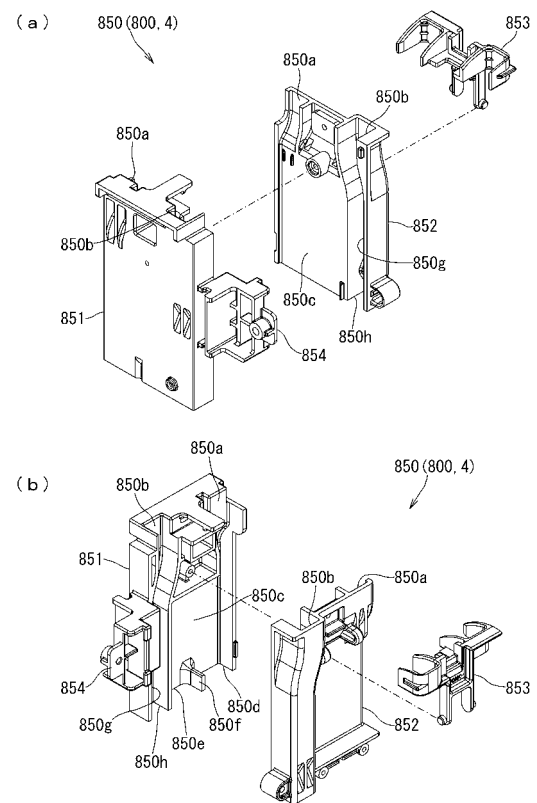
【図 120】



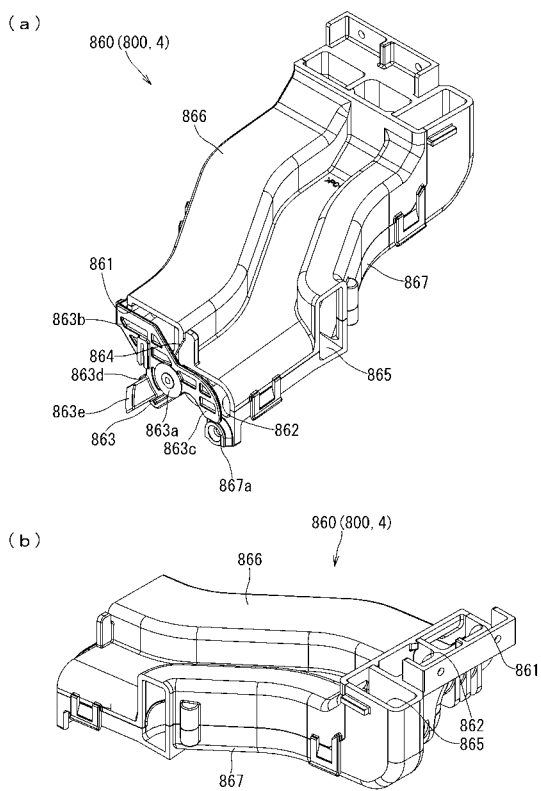
【図 1 2 1】



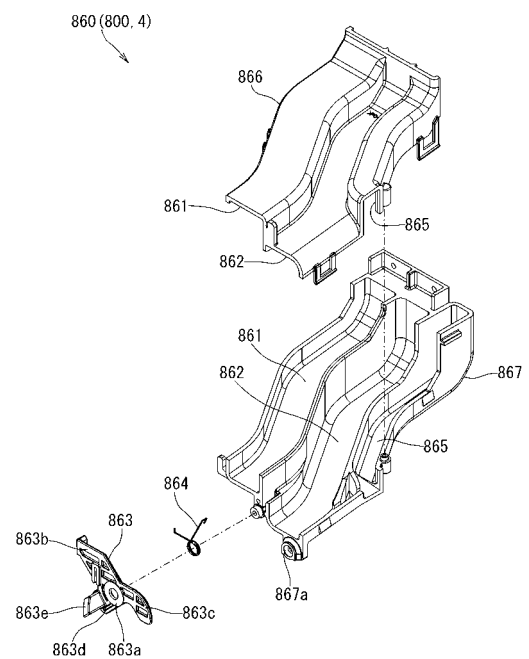
【図 1 2 2】



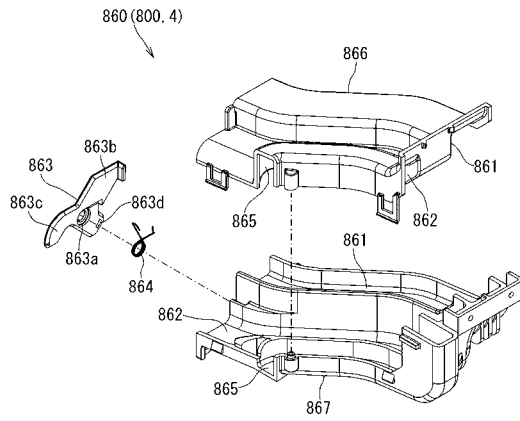
【図 1 2 3】



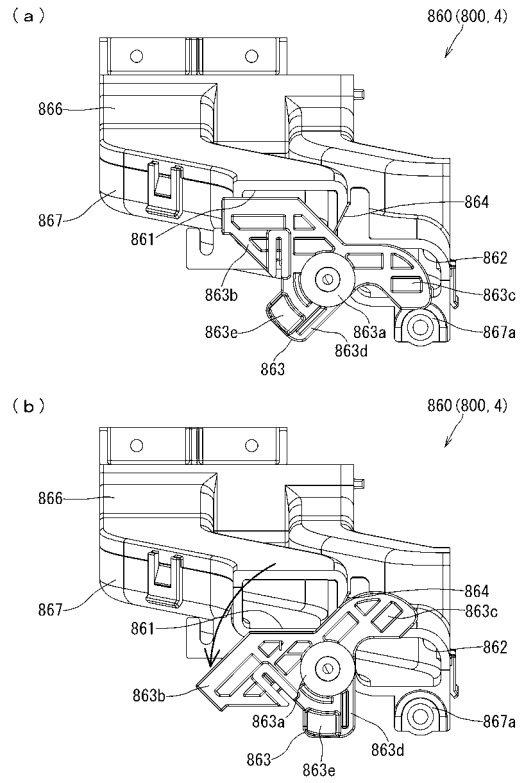
【図 1 2 4】



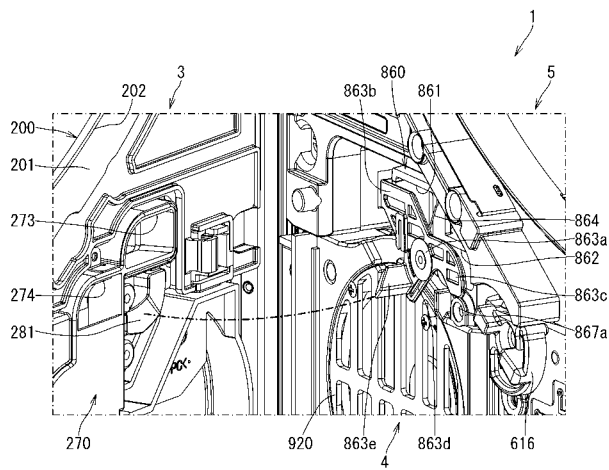
【図 125】



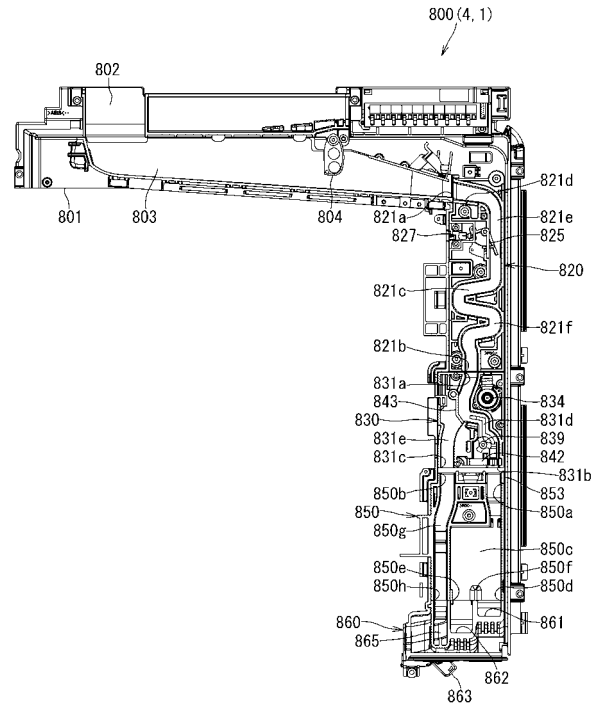
【図 126】



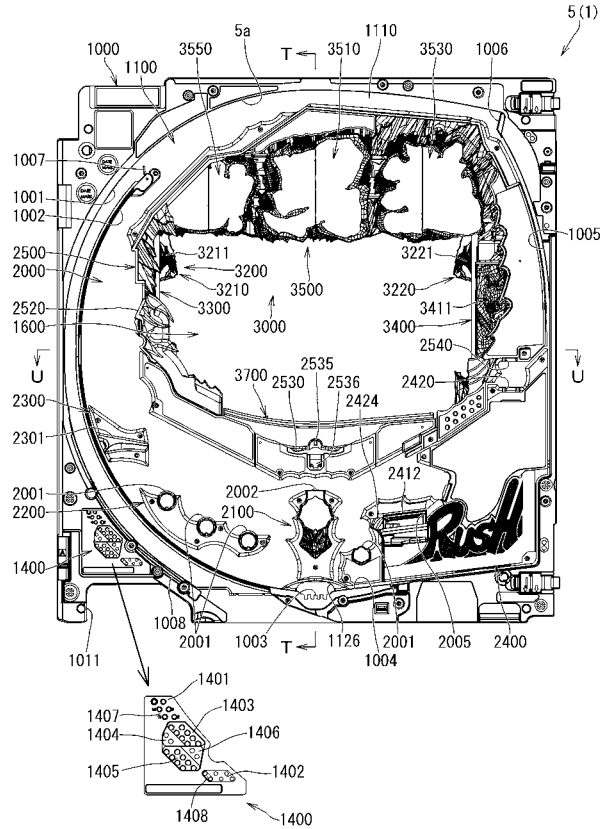
【図 127】



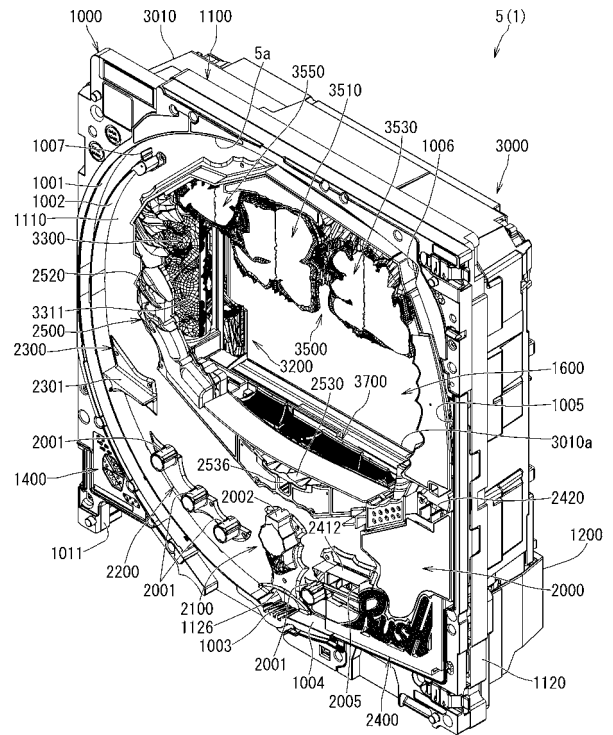
【図 128】



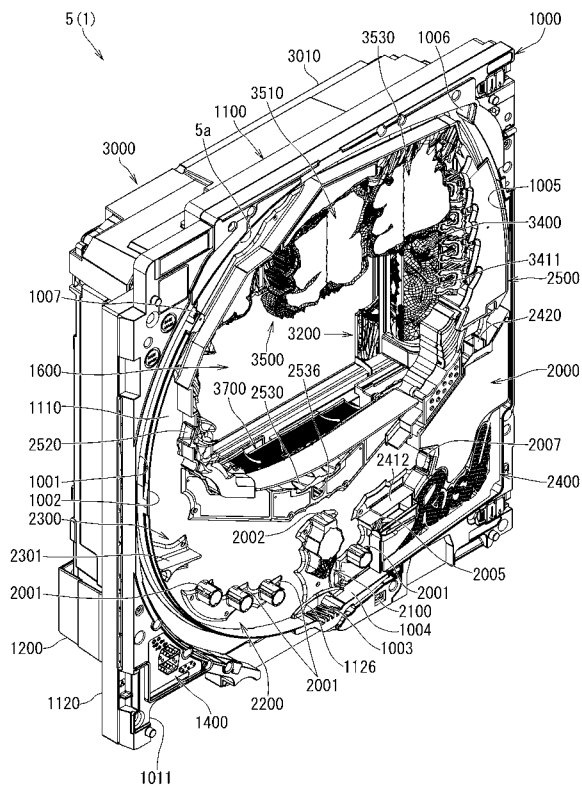
【図 129】



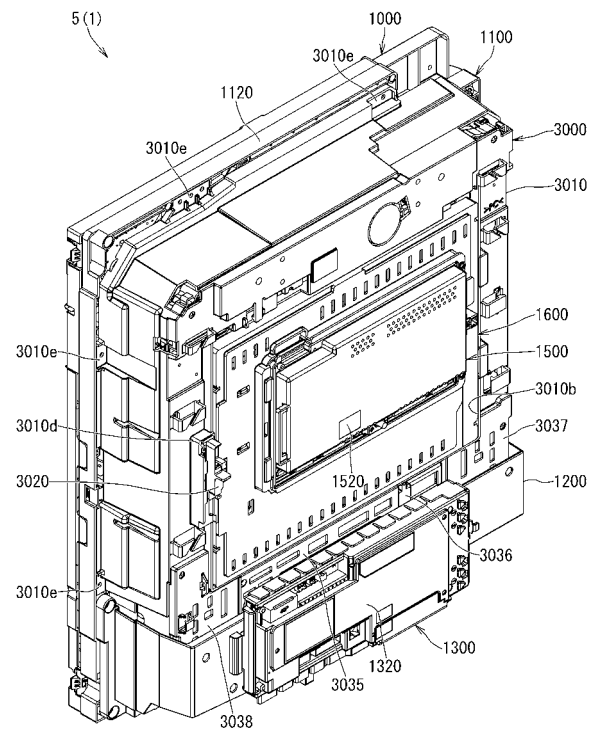
【図 130】



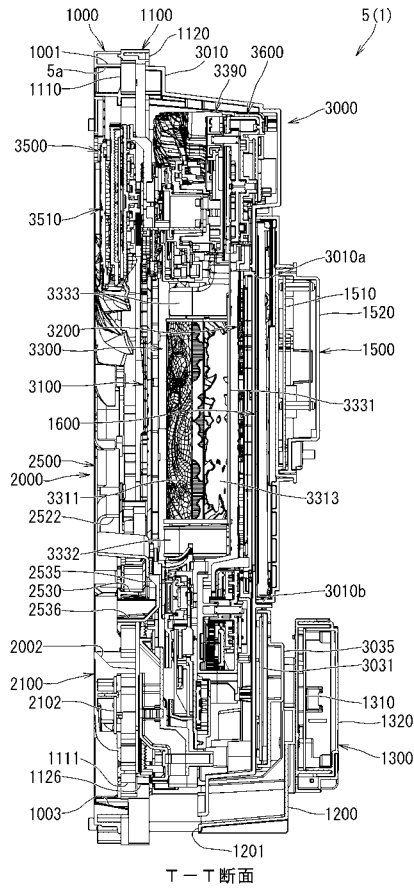
【図 131】



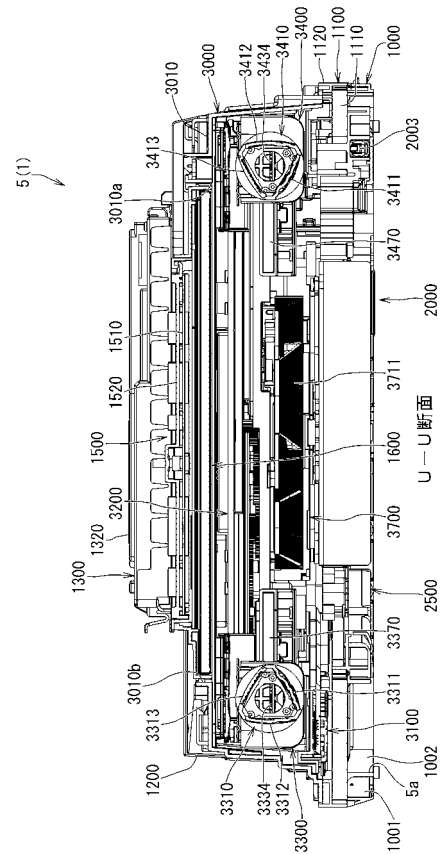
【図 132】



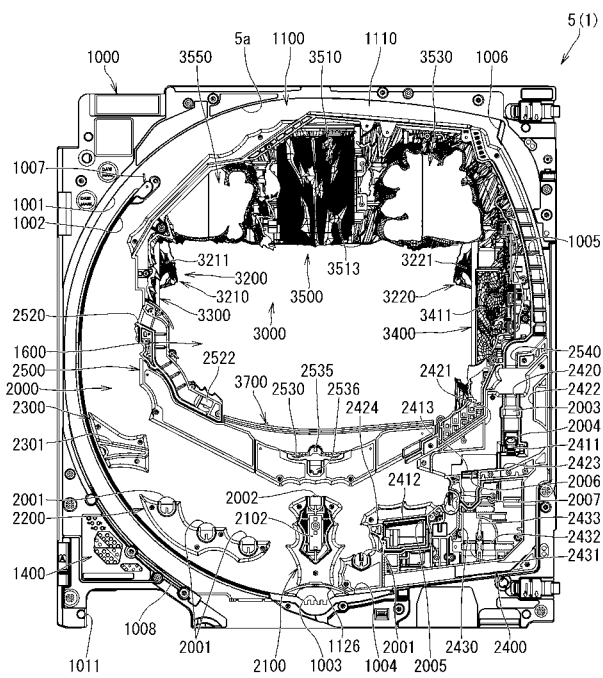
【図 1 3 3】



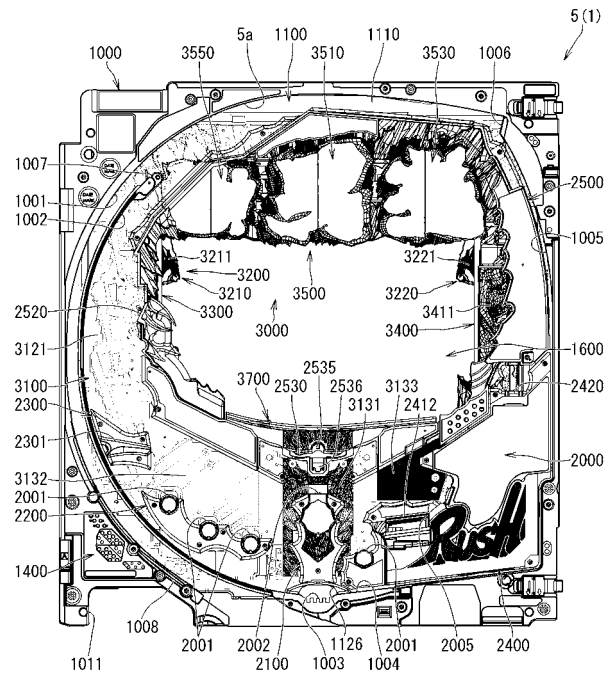
【図 1 3 4】



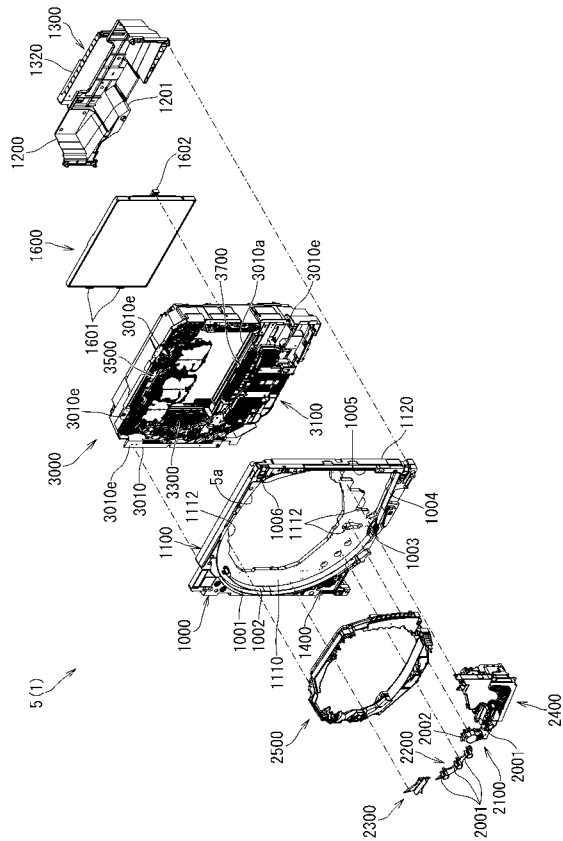
【図 1 3 5】



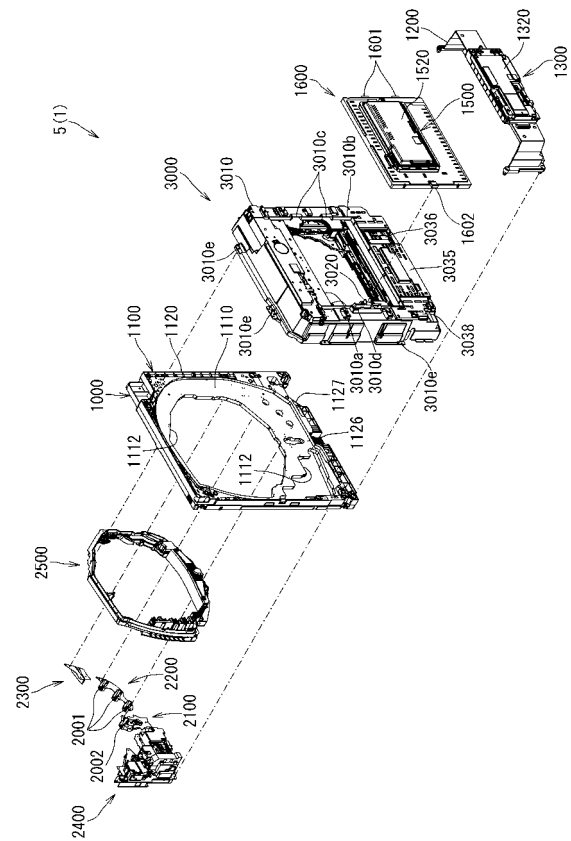
【図 1 3 6】



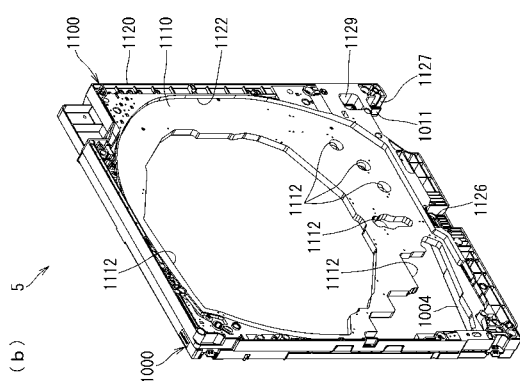
【図 137】



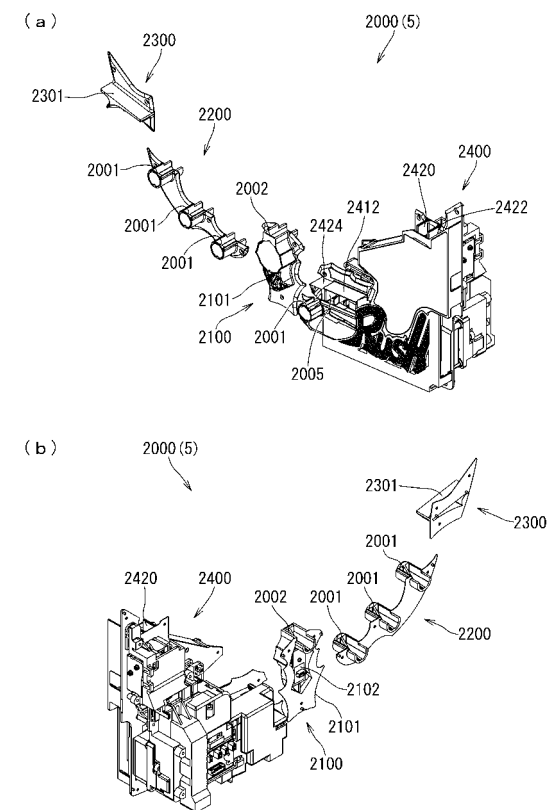
【図 138】



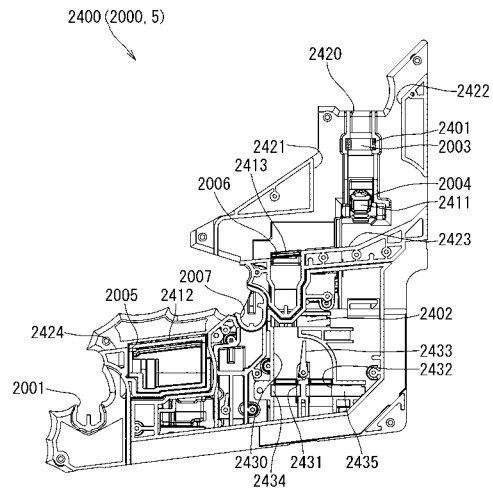
【図 139】



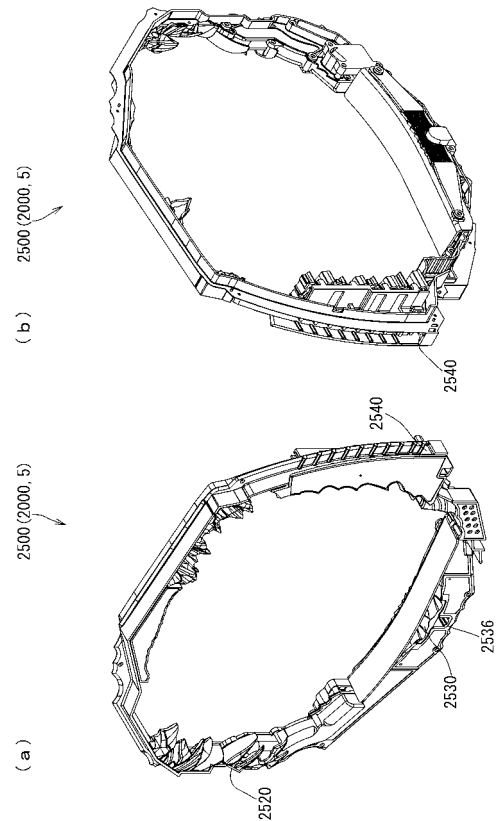
【図 140】



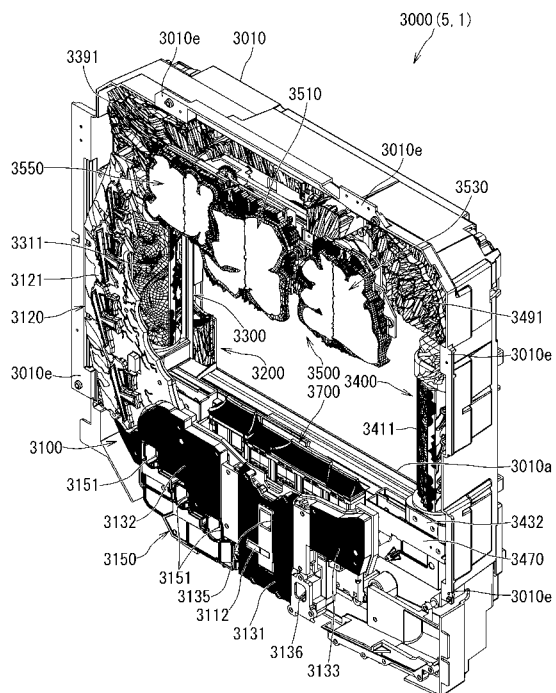
【図 1 4 1】



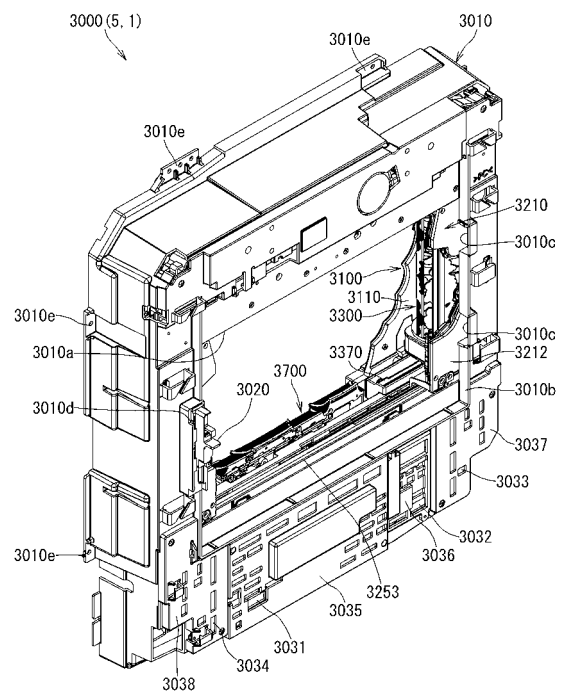
【図 1 4 2】



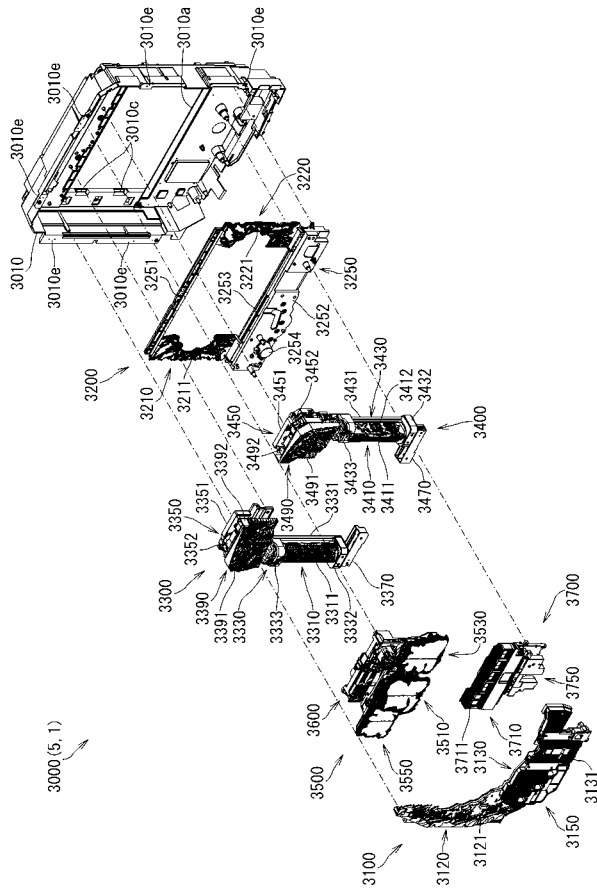
【図 1 4 3】



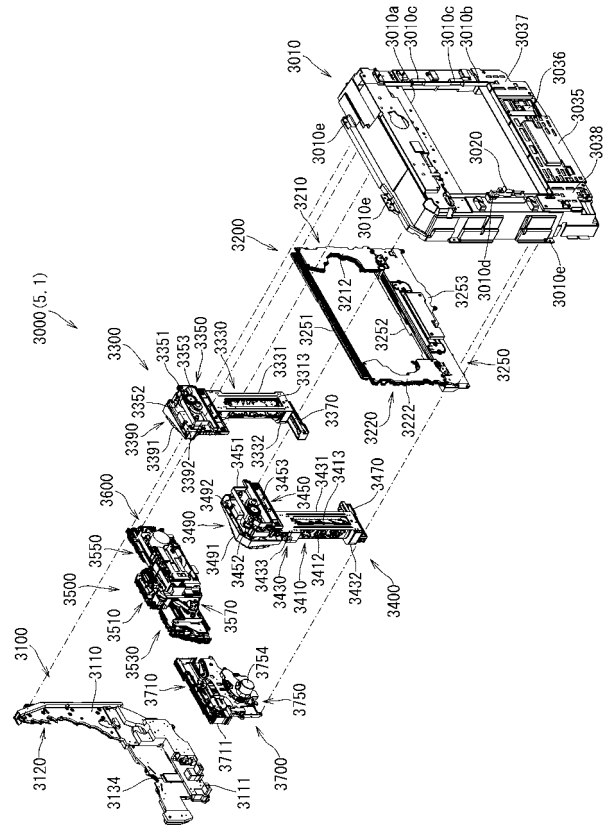
【図 1 4 4】



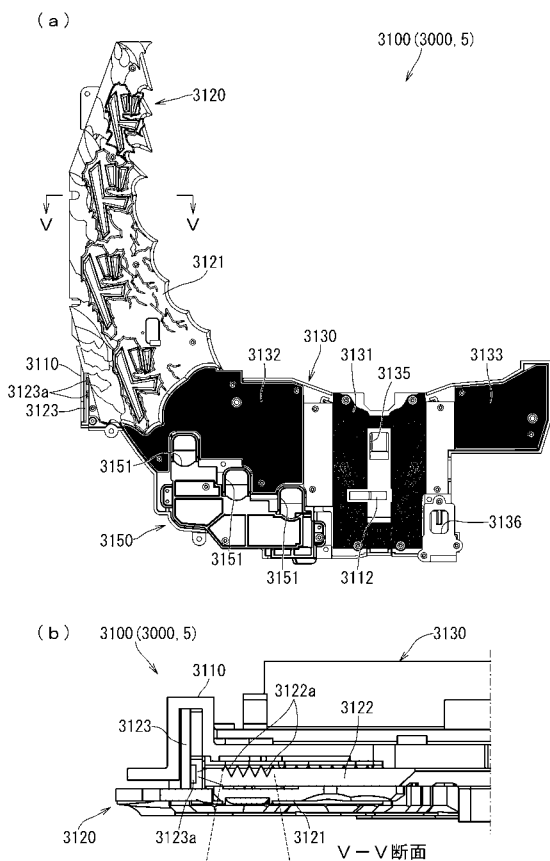
【図 1 4 5】



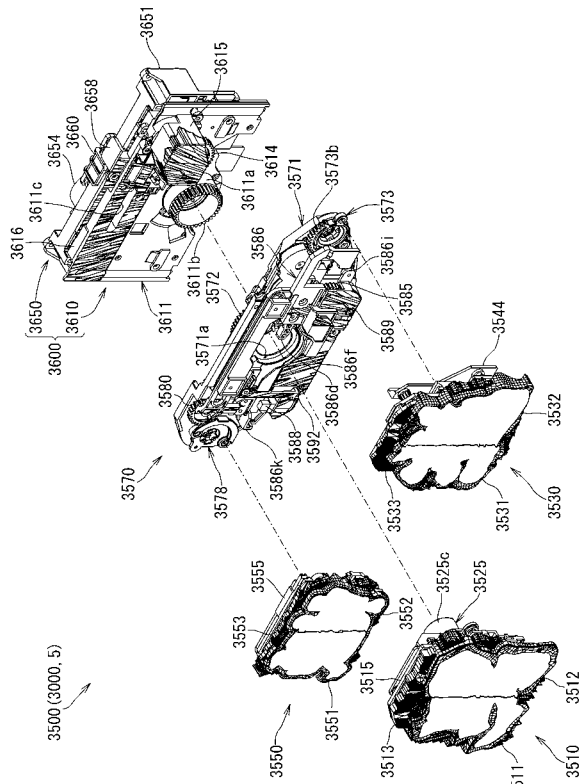
【図 1 4 6】



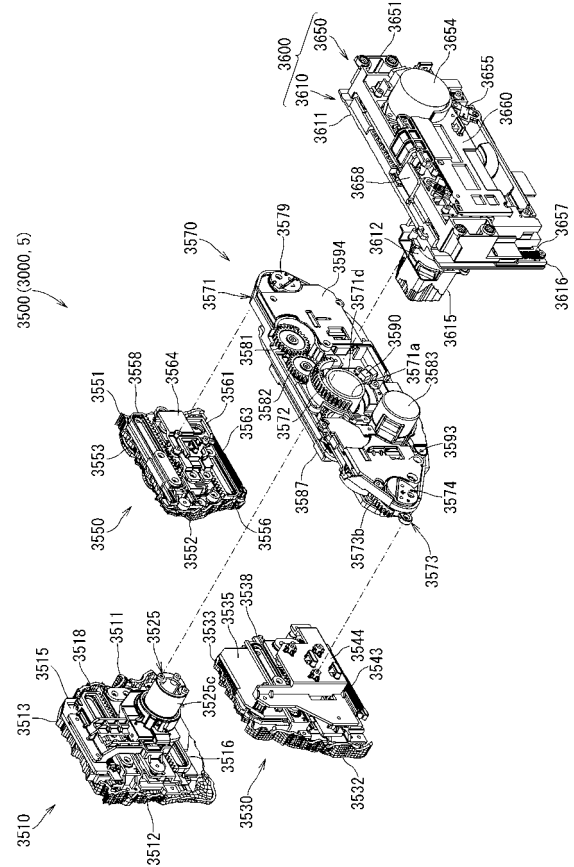
【図 1 4 7】



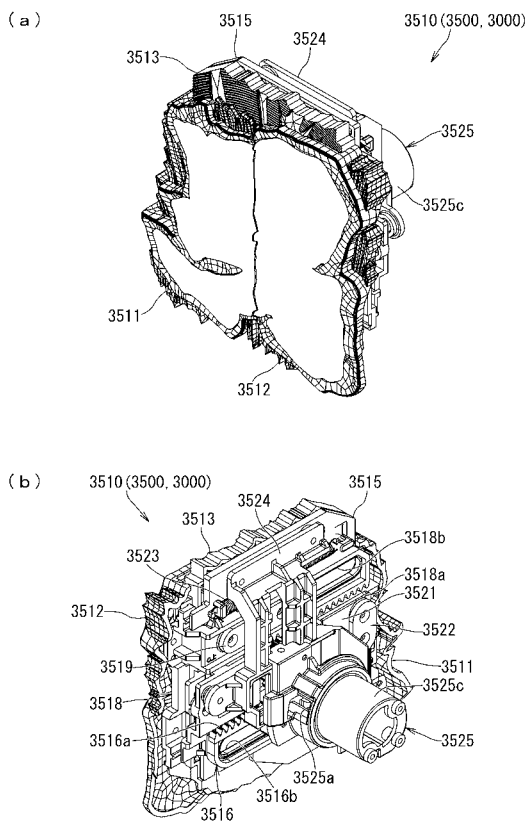
【図 149】



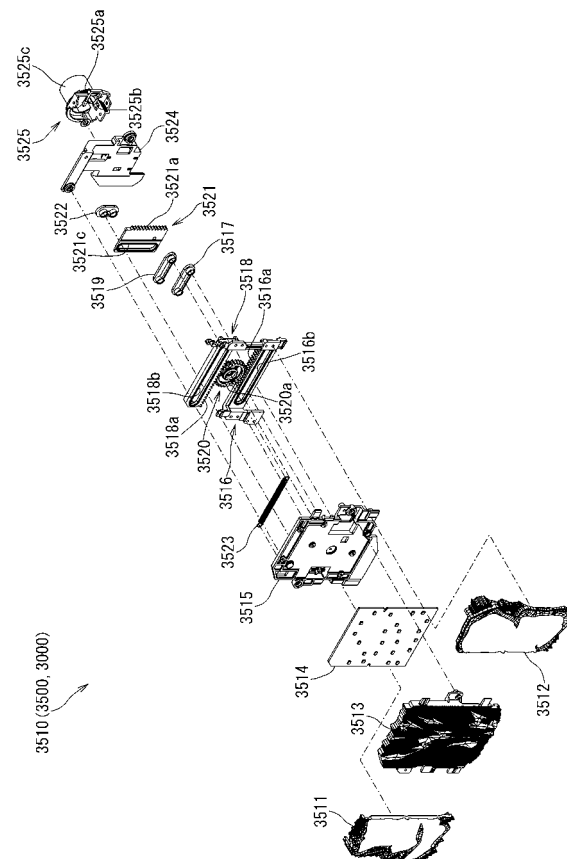
【図 150】



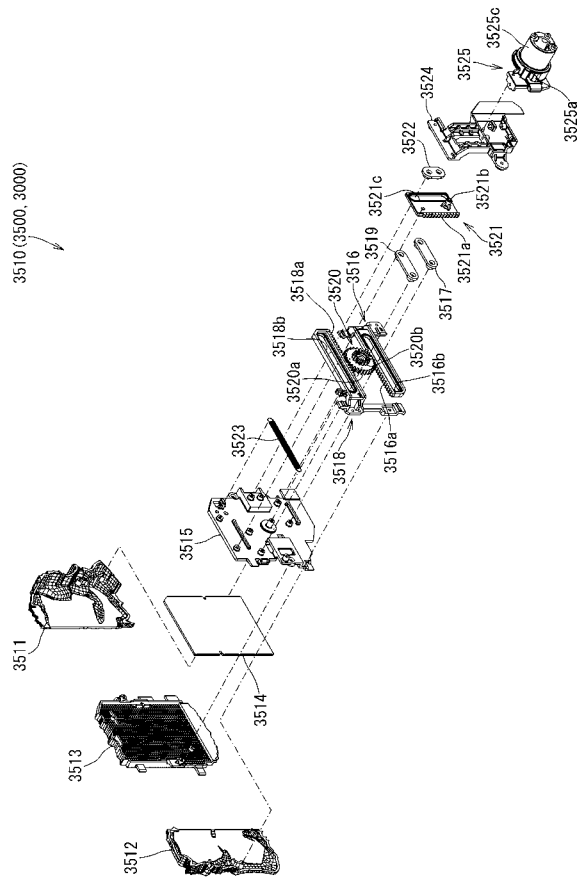
【図 151】



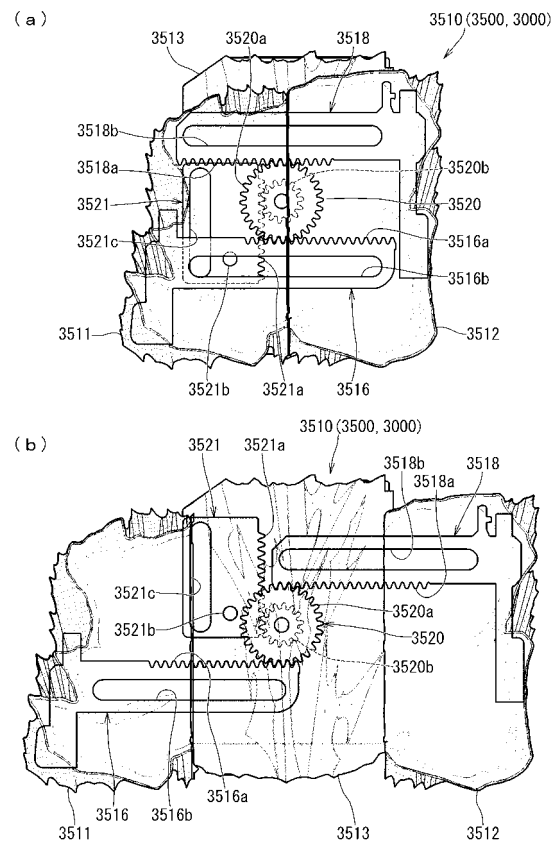
【図 152】



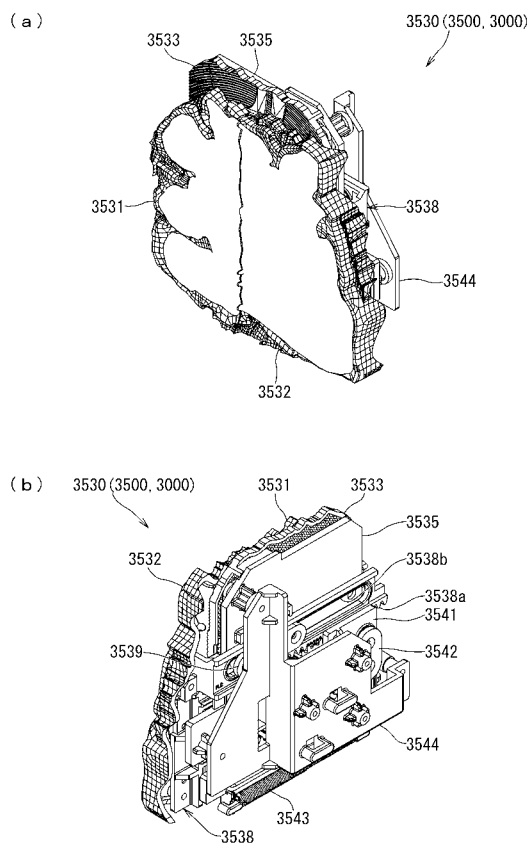
【 図 1 5 3 】



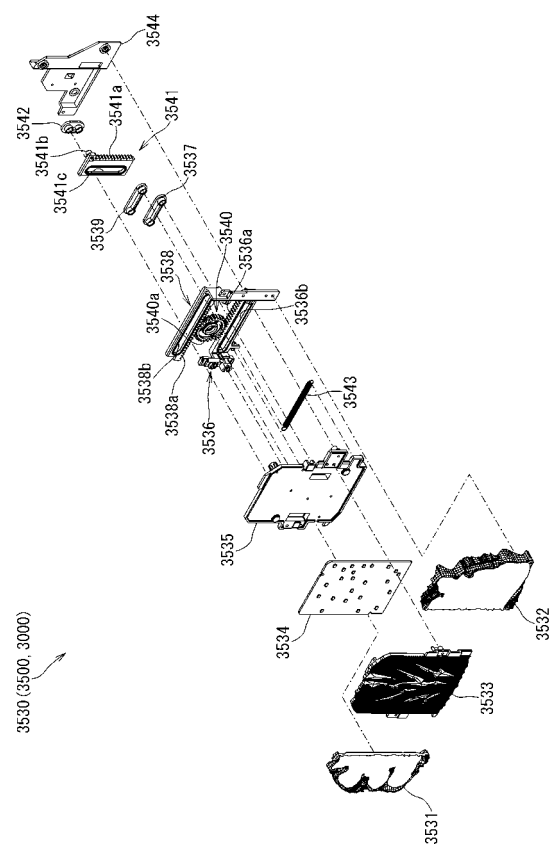
【図 1 5 4】



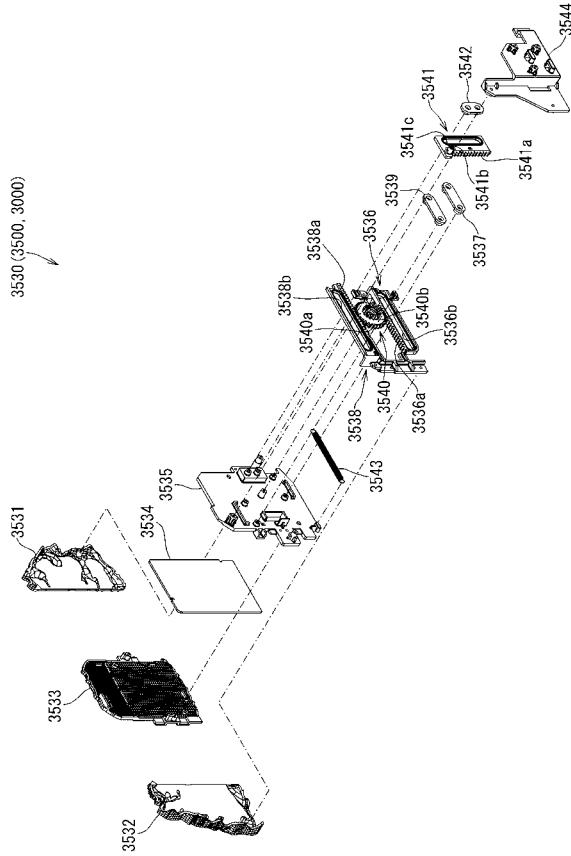
【 ☒ 1 5 5 】



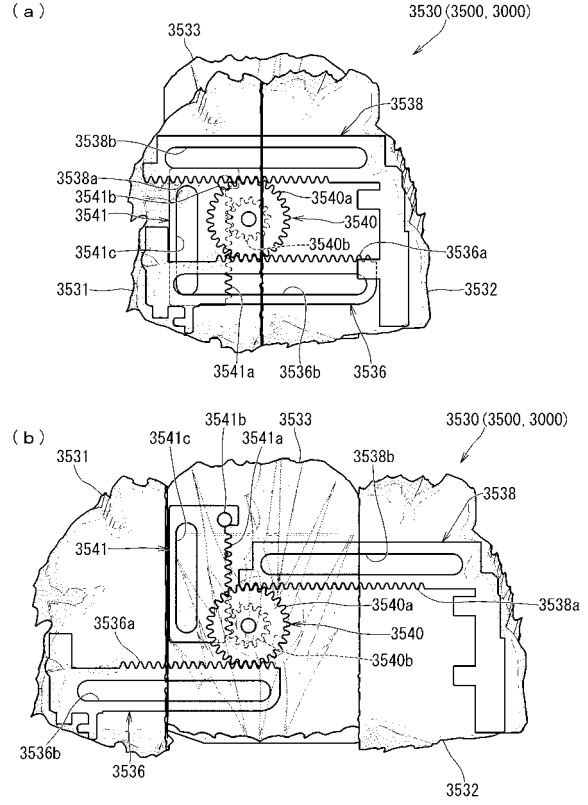
【図 1 5 6】



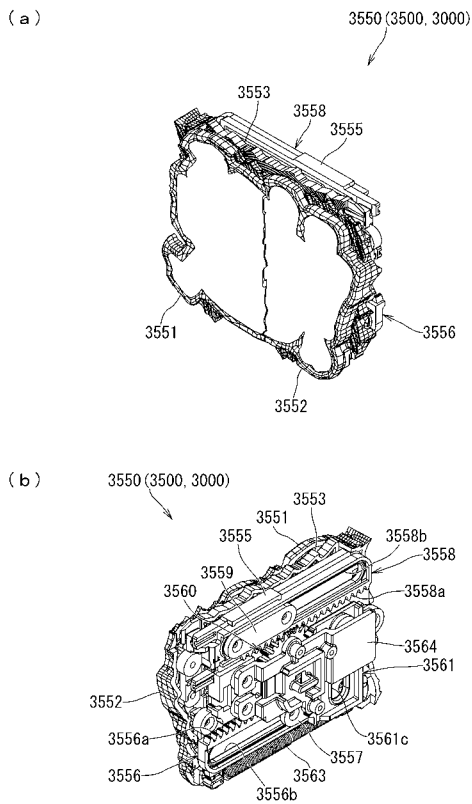
【図 157】



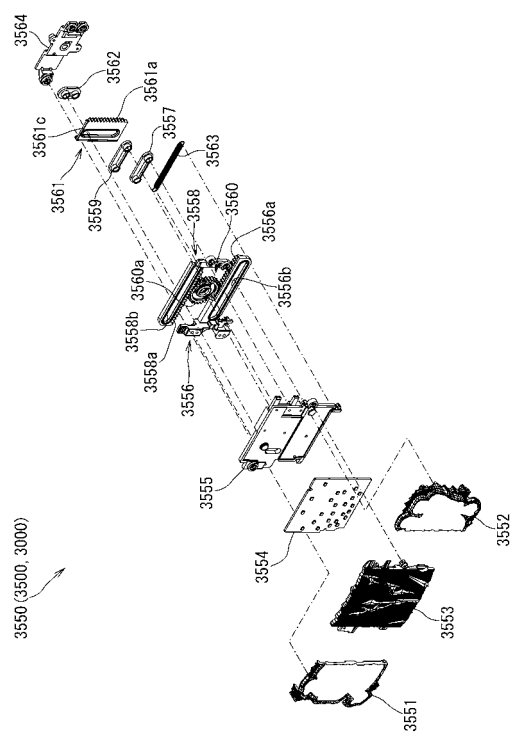
【図 158】



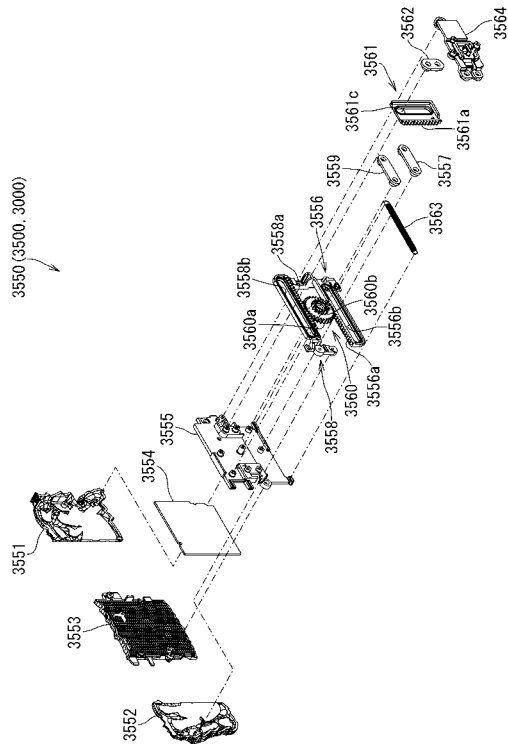
【図 159】



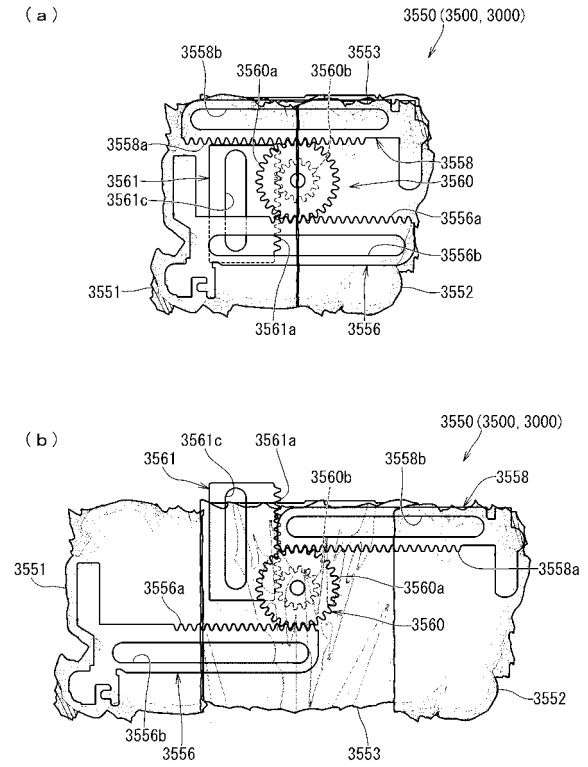
【図 160】



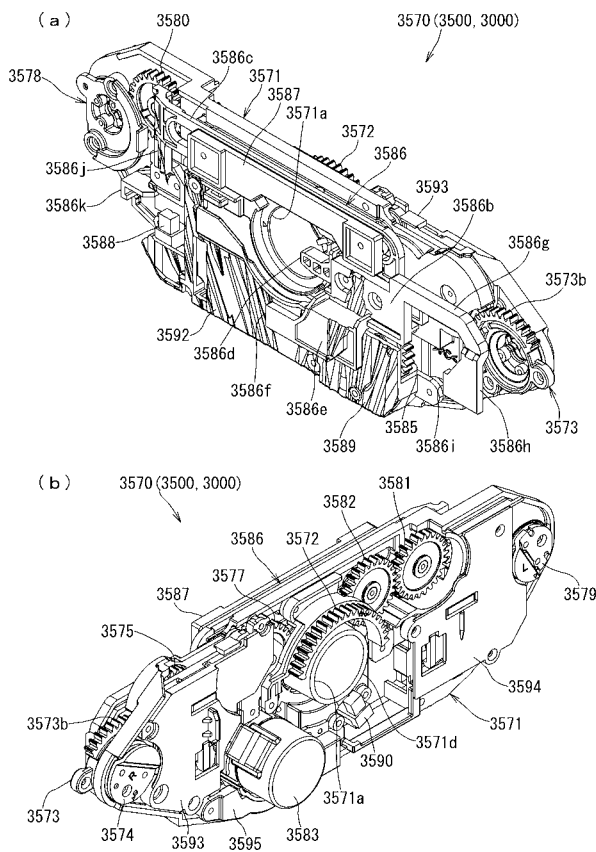
【図 161】



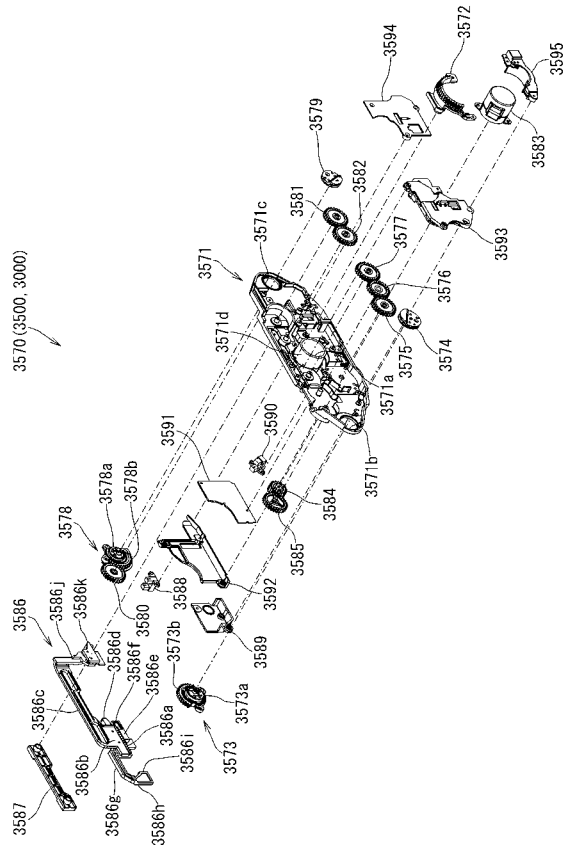
【図 162】



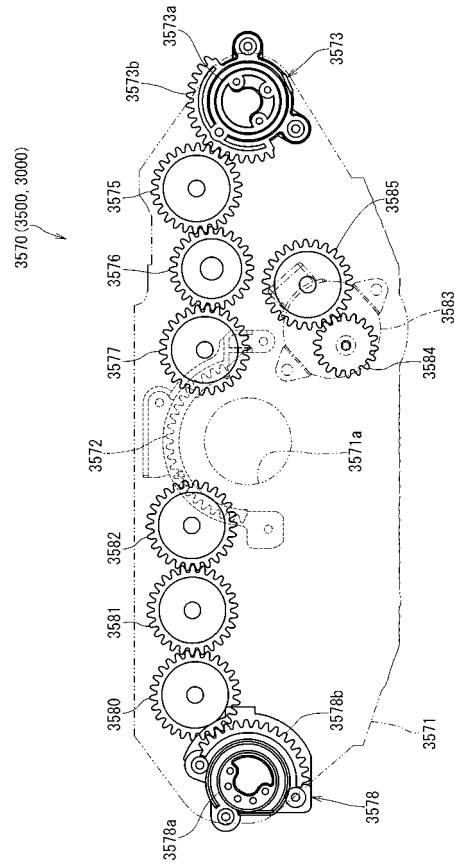
【図 163】



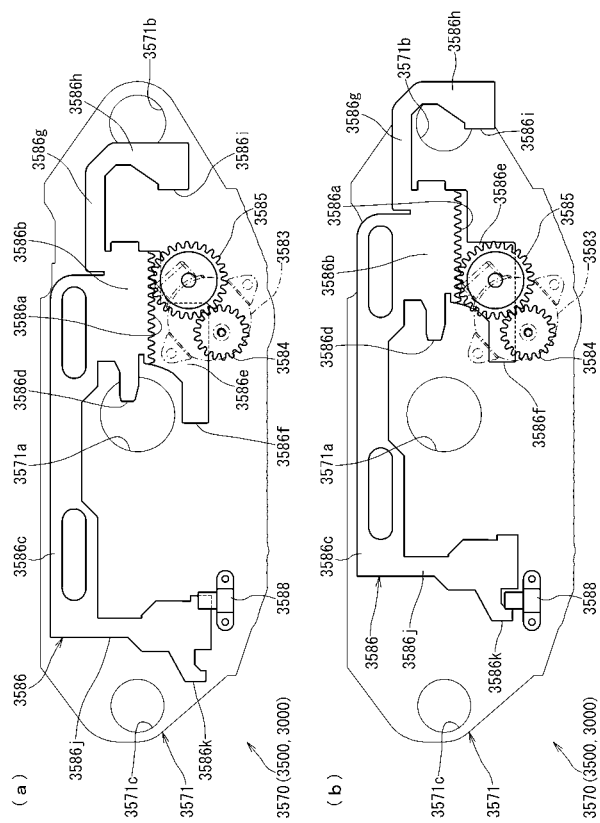
【図 165】



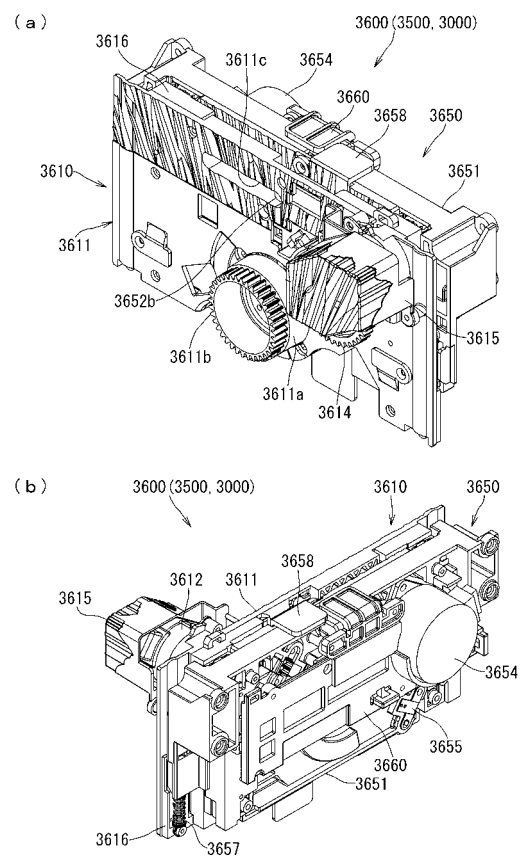
【図 166】



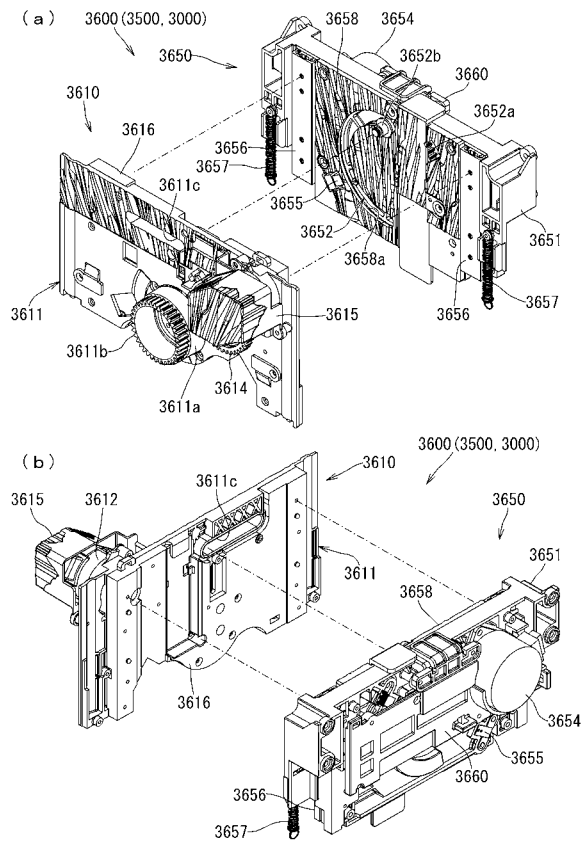
【図 167】



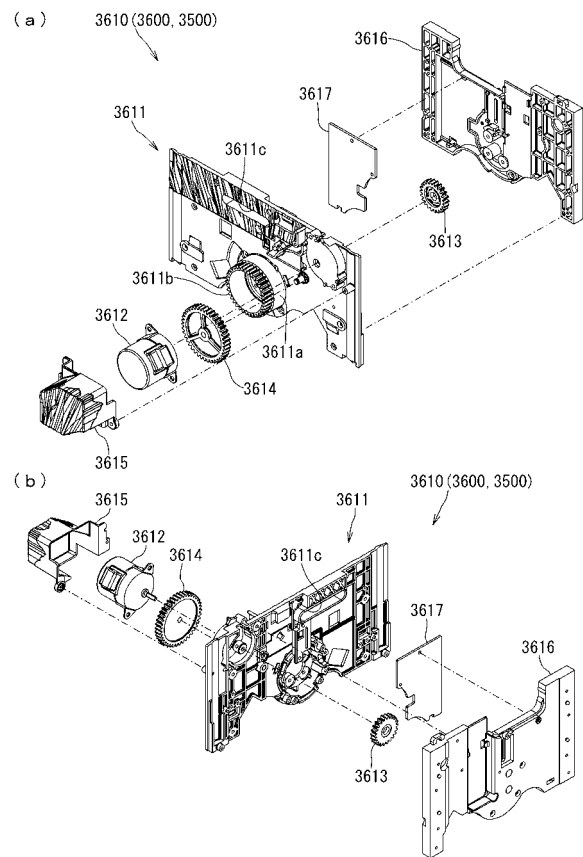
【図 168】



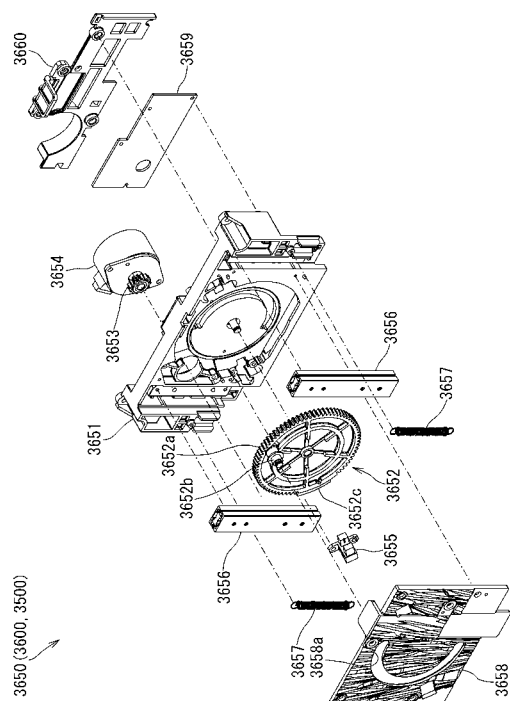
【図 169】



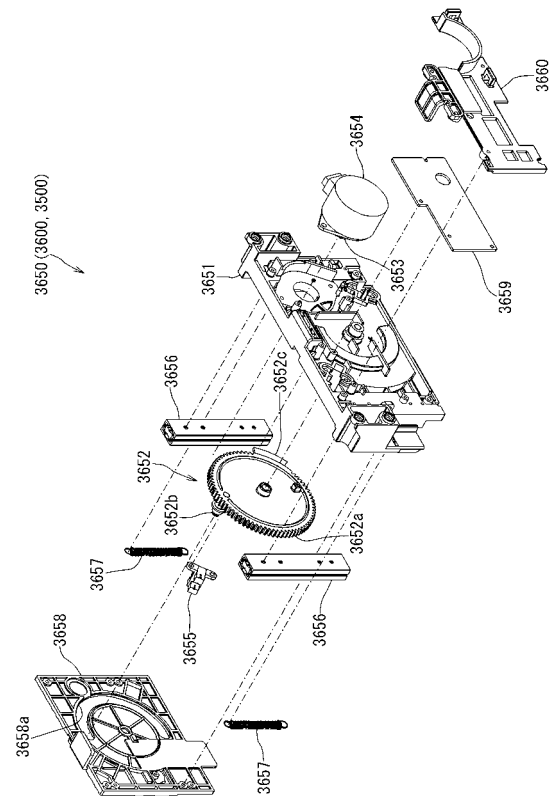
【図 170】



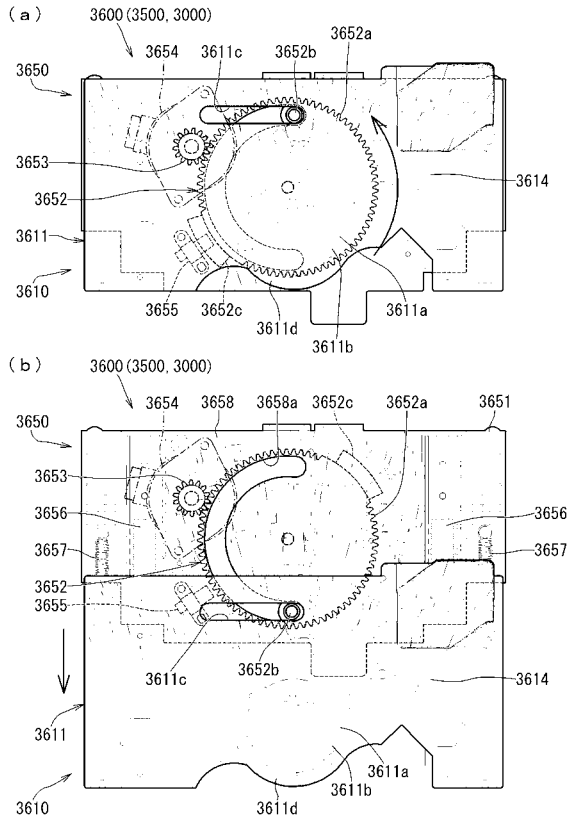
【図 171】



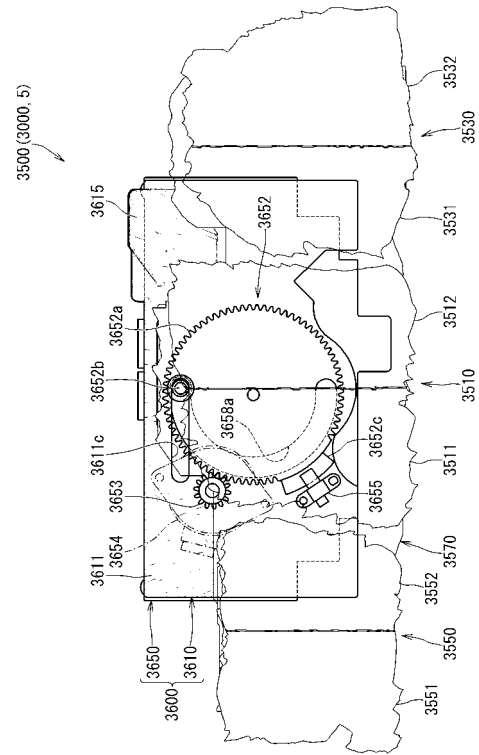
【図 172】



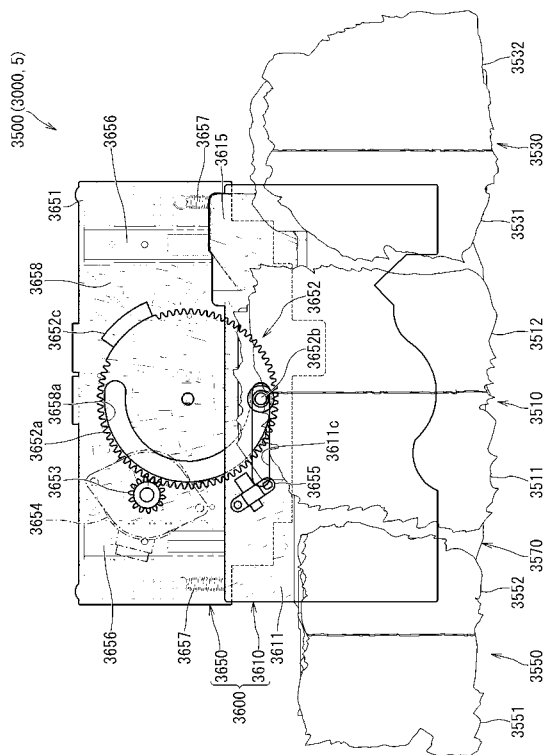
【図 173】



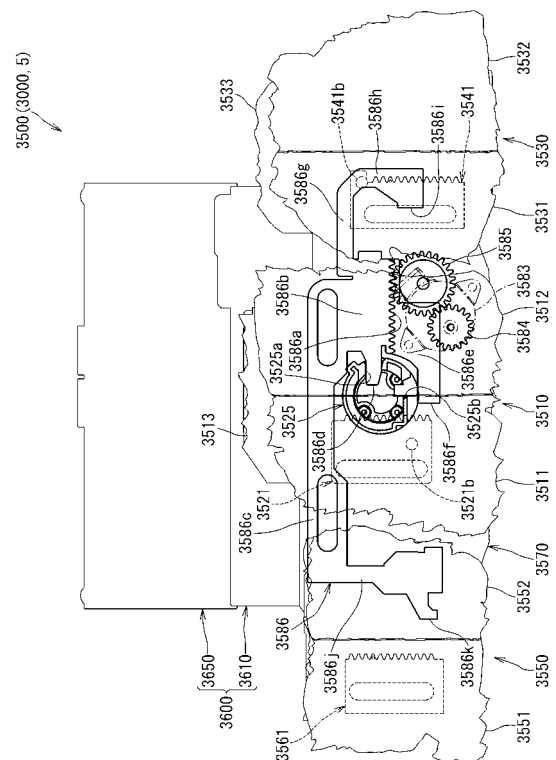
【図 174】



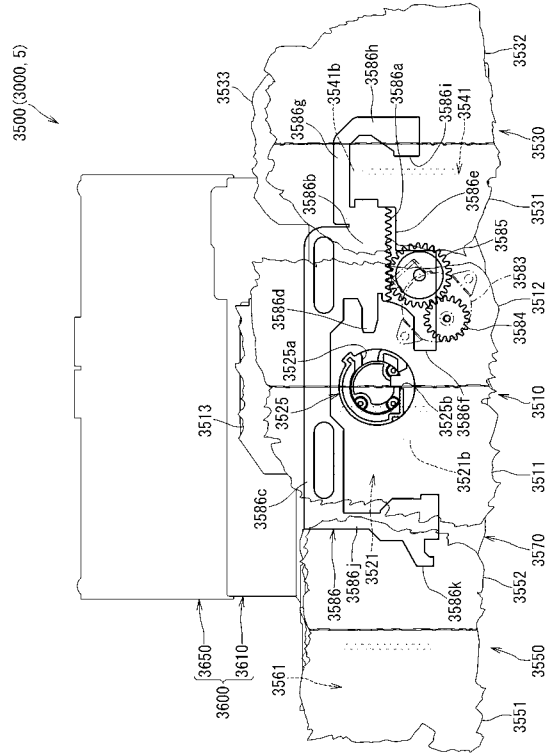
【図 175】



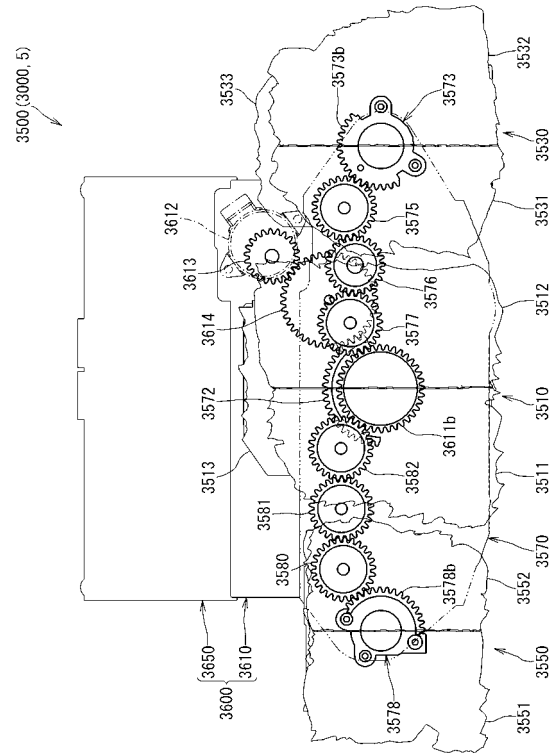
【図 176】



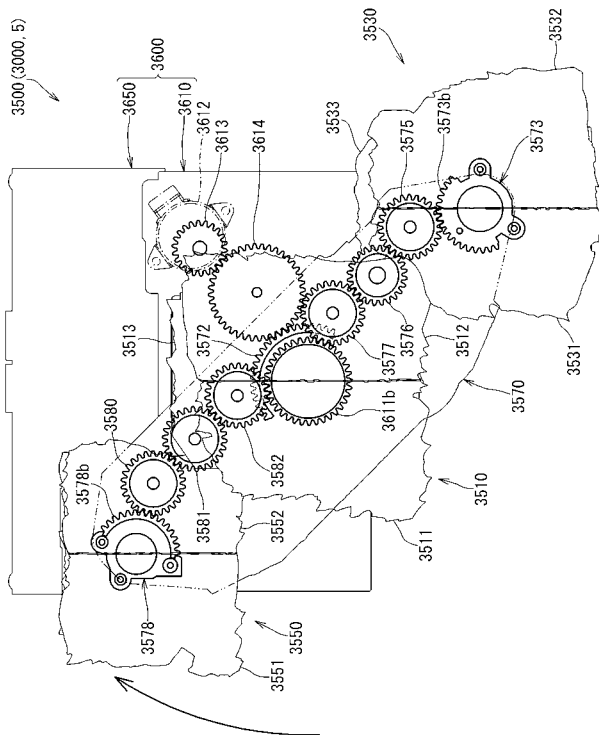
【図 177】



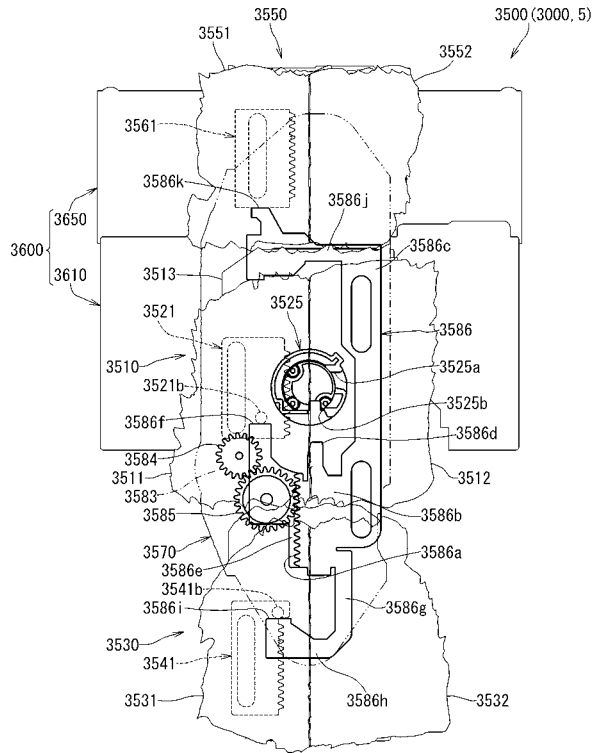
【図 178】



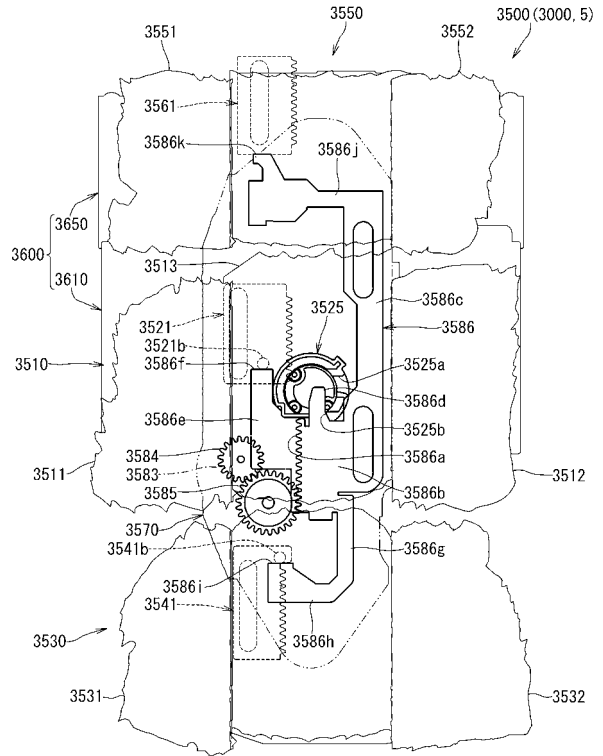
【図 179】



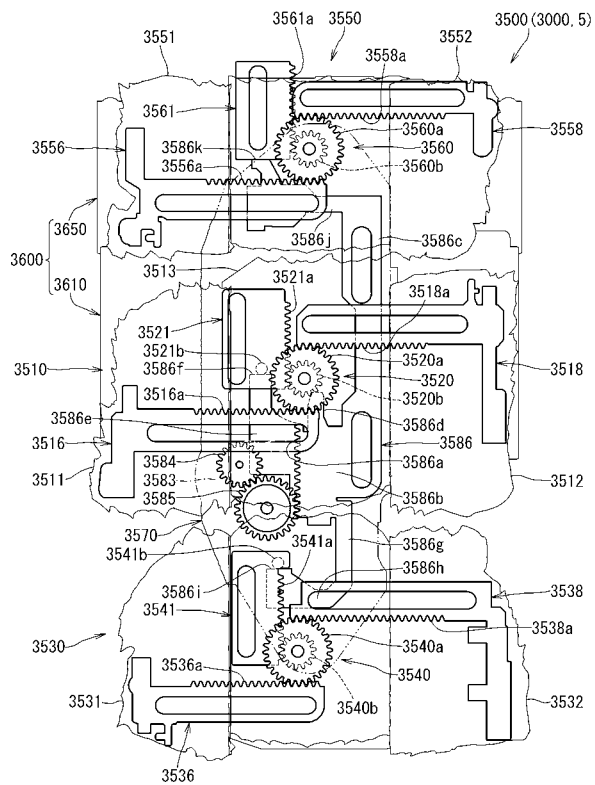
【図 181】



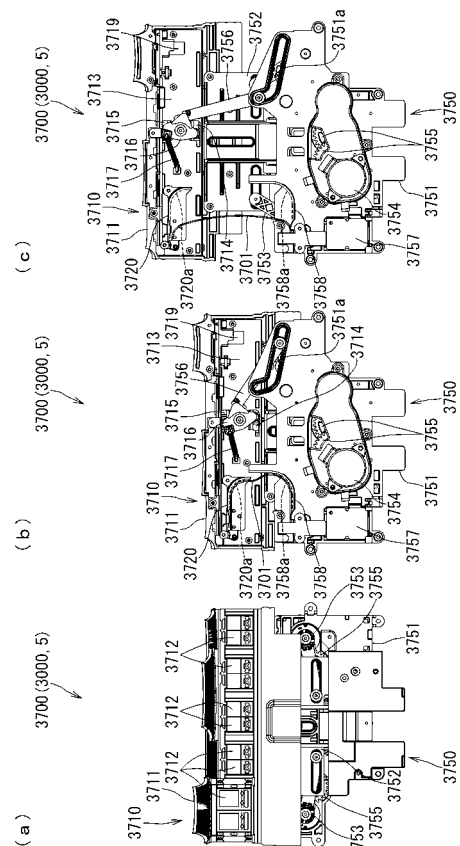
【図 182】



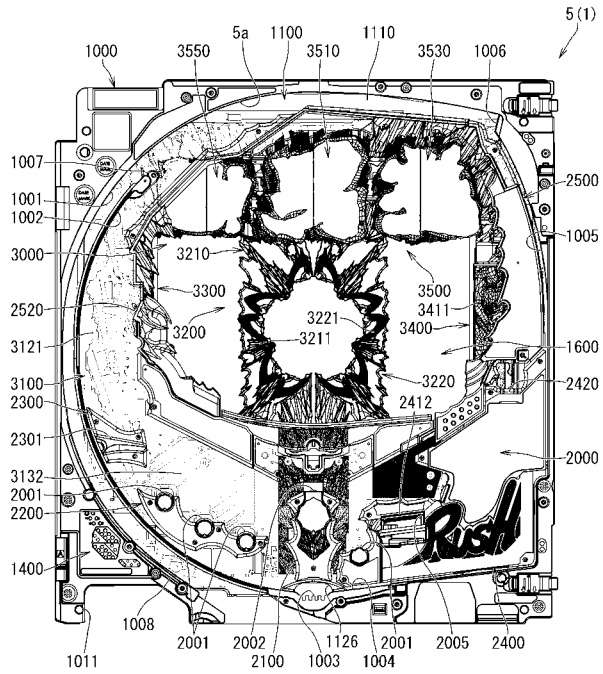
【図 183】



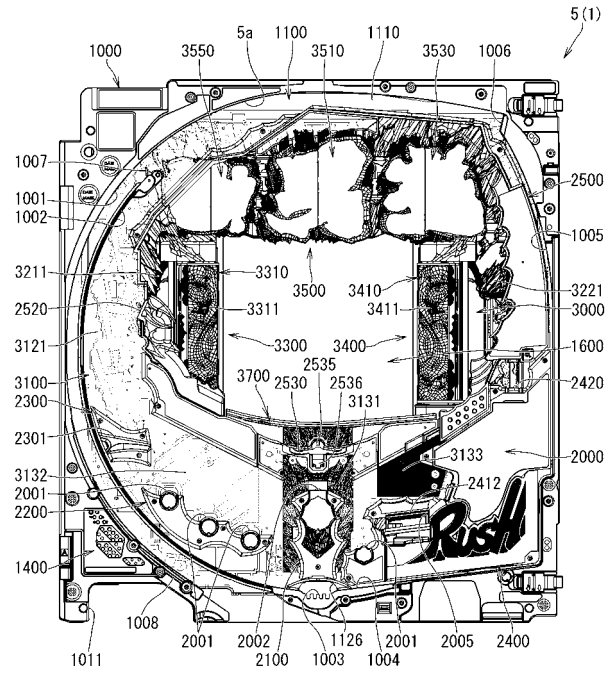
【図 184】



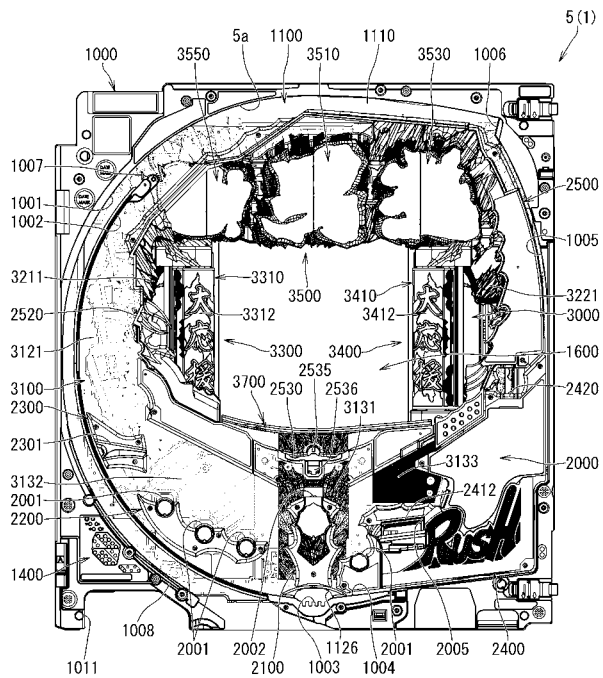
【図 185】



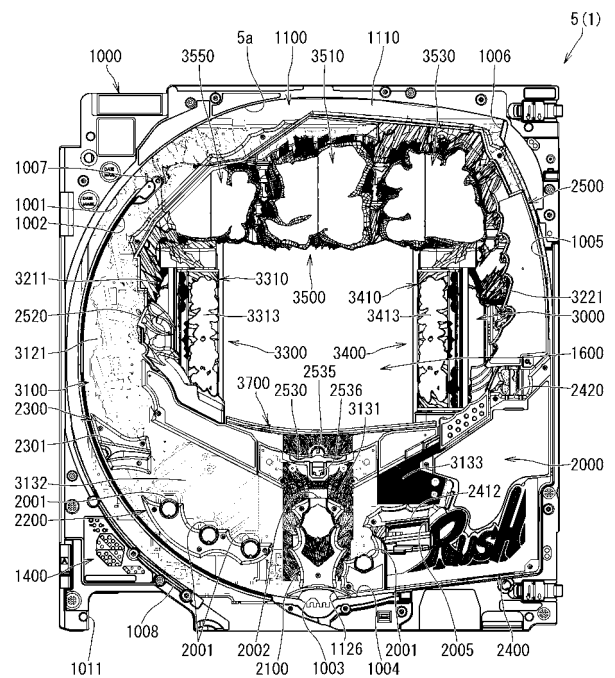
【図 186】



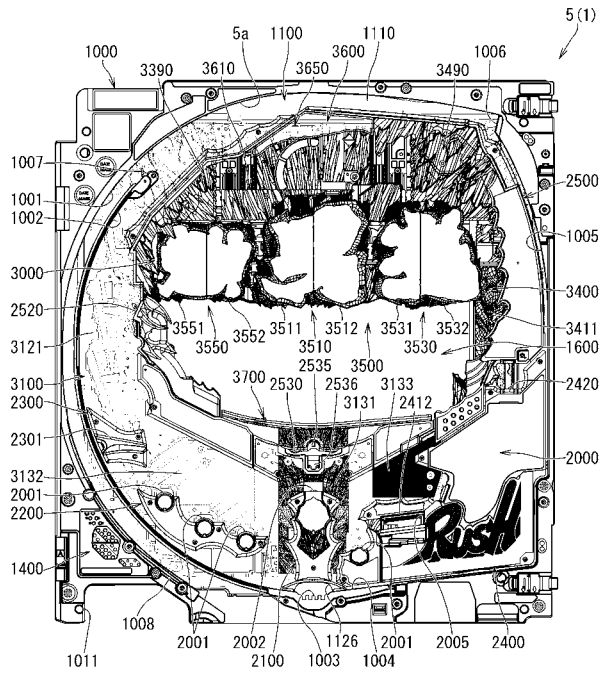
【図 187】



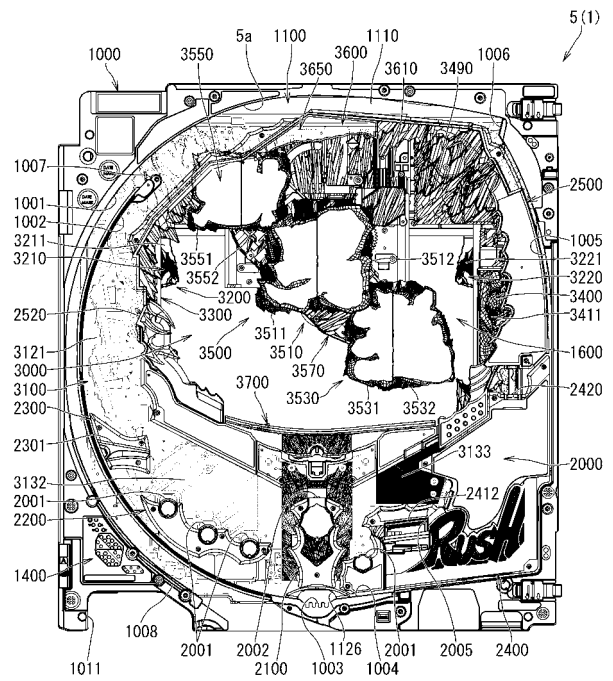
【図 188】



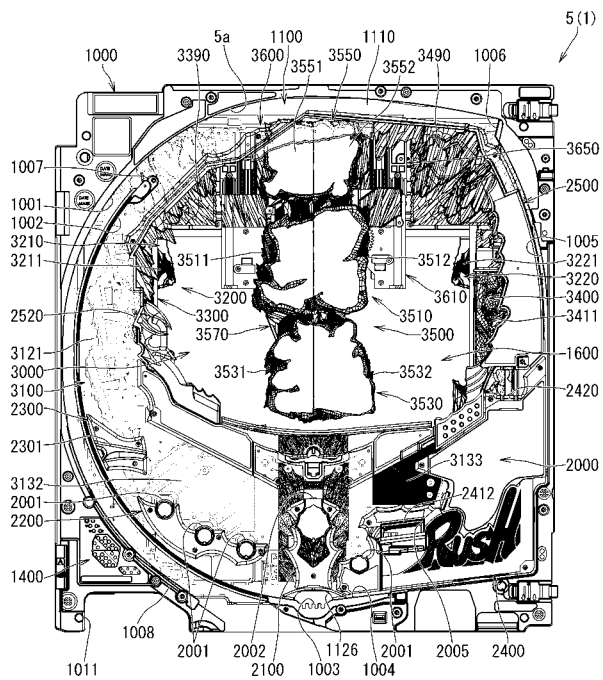
【図 189】



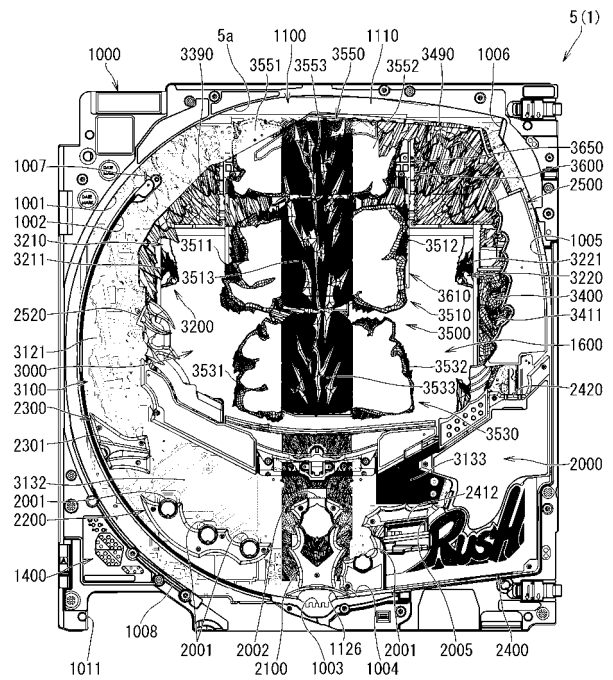
【図 190】



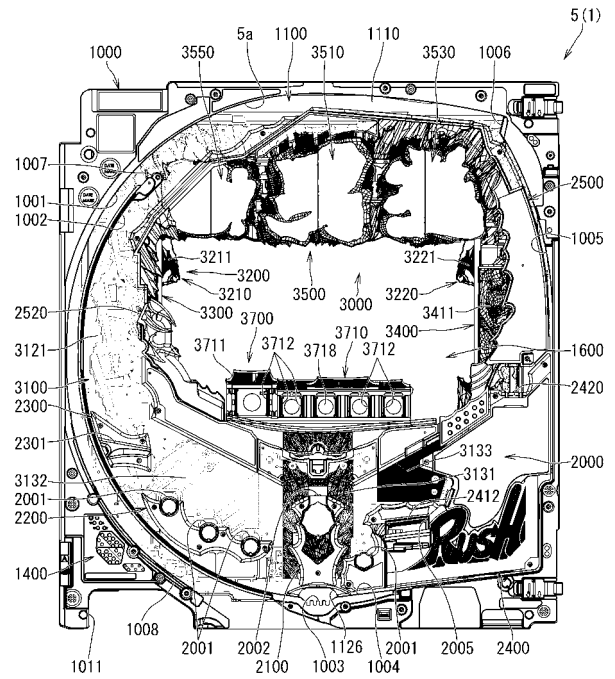
【図 191】



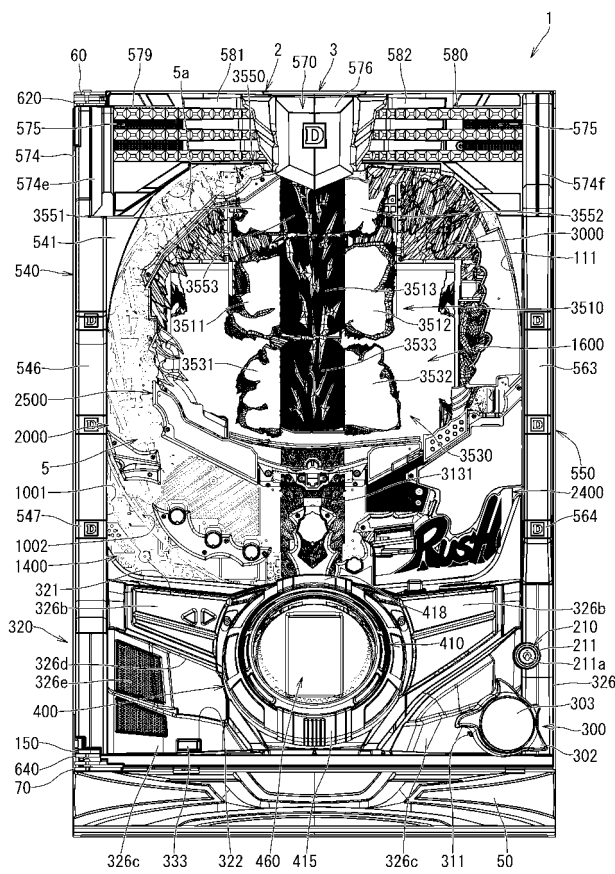
【図 192】



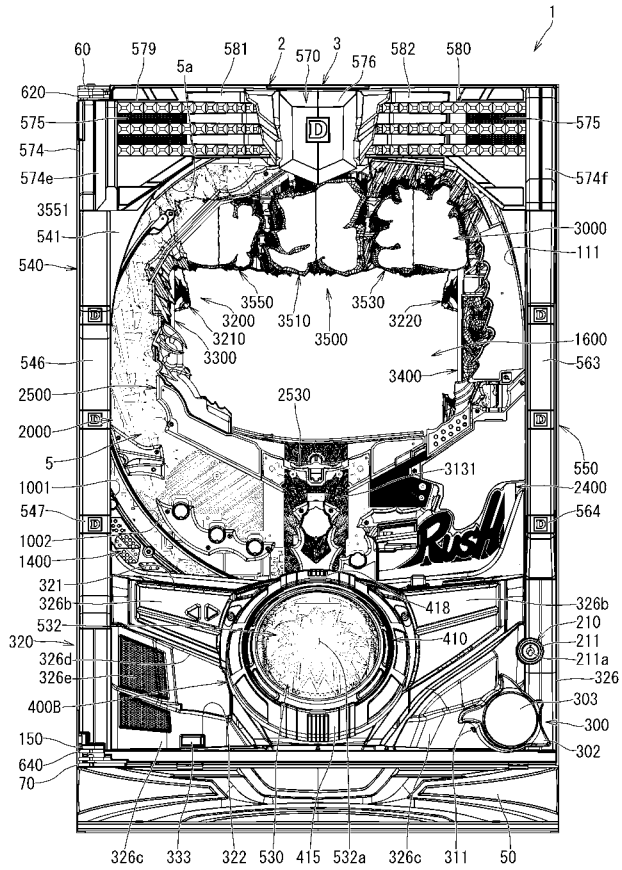
【図 194】



【図 196】



【図 197】



【図 198】

